

Oracle® Fusion Cloud EPM

Enterprise Profitability and Cost Management の管理および操作



F56640-12

ORACLE®

Oracle Fusion Cloud EPM Enterprise Profitability and Cost Management の管理および操作、

F56640-12

Copyright © 2022, 2024 年, Oracle and/or its affiliates.

著者: EPM Information Development Team

This software and related documentation are provided under a license agreement containing restrictions on use and disclosure and are protected by intellectual property laws. Except as expressly permitted in your license agreement or allowed by law, you may not use, copy, reproduce, translate, broadcast, modify, license, transmit, distribute, exhibit, perform, publish, or display any part, in any form, or by any means. Reverse engineering, disassembly, or decompilation of this software, unless required by law for interoperability, is prohibited.

The information contained herein is subject to change without notice and is not warranted to be error-free. If you find any errors, please report them to us in writing.

If this is software, software documentation, data (as defined in the Federal Acquisition Regulation), or related documentation that is delivered to the U.S. Government or anyone licensing it on behalf of the U.S. Government, then the following notice is applicable:

U.S. GOVERNMENT END USERS: Oracle programs (including any operating system, integrated software, any programs embedded, installed, or activated on delivered hardware, and modifications of such programs) and Oracle computer documentation or other Oracle data delivered to or accessed by U.S. Government end users are "commercial computer software," "commercial computer software documentation," or "limited rights data" pursuant to the applicable Federal Acquisition Regulation and agency-specific supplemental regulations. As such, the use, reproduction, duplication, release, display, disclosure, modification, preparation of derivative works, and/or adaptation of i) Oracle programs (including any operating system, integrated software, any programs embedded, installed, or activated on delivered hardware, and modifications of such programs), ii) Oracle computer documentation and/or iii) other Oracle data, is subject to the rights and limitations specified in the license contained in the applicable contract. The terms governing the U.S. Government's use of Oracle cloud services are defined by the applicable contract for such services. No other rights are granted to the U.S. Government.

This software or hardware is developed for general use in a variety of information management applications. It is not developed or intended for use in any inherently dangerous applications, including applications that may create a risk of personal injury. If you use this software or hardware in dangerous applications, then you shall be responsible to take all appropriate fail-safe, backup, redundancy, and other measures to ensure its safe use. Oracle Corporation and its affiliates disclaim any liability for any damages caused by use of this software or hardware in dangerous applications.

Oracle®, Java, MySQL, and NetSuite are registered trademarks of Oracle and/or its affiliates. Other names may be trademarks of their respective owners.

Intel and Intel Inside are trademarks or registered trademarks of Intel Corporation. All SPARC trademarks are used under license and are trademarks or registered trademarks of SPARC International, Inc. AMD, Epyc, and the AMD logo are trademarks or registered trademarks of Advanced Micro Devices. UNIX is a registered trademark of The Open Group.

This software or hardware and documentation may provide access to or information about content, products, and services from third parties. Oracle Corporation and its affiliates are not responsible for and expressly disclaim all warranties of any kind with respect to third-party content, products, and services unless otherwise set forth in an applicable agreement between you and Oracle. Oracle Corporation and its affiliates will not be responsible for any loss, costs, or damages incurred due to your access to or use of third-party content, products, or services, except as set forth in an applicable agreement between you and Oracle.

For information about Oracle's commitment to accessibility, visit the Oracle Accessibility Program website at <http://www.oracle.com/pls/topic/lookup?ctx=acc&id=docacc>.

目次

ドキュメントのアクセシビリティについて

ドキュメントのフィードバック

1 EPM センター・オブ・エクセレンスの作成および実行

Part I Enterprise Profitability and Cost Management での作業の開始

Part II アプリケーションの作成および管理

2 Enterprise Profitability and Cost Management アプリケーションの作成

アプリケーション設計のベスト・プラクティス	2-1
アプリケーションの作成について	2-1
環境の構成	2-2
作成するアプリケーションのタイプの選択	2-3
サンプル・アプリケーションの作成	2-4
新規アプリケーションの作成	2-4
名前および説明の入力	2-5
カレンダーの設定	2-6
通貨の設定	2-8
アプリケーション情報のレビュー	2-9

3 アプリケーションの管理

アプリケーションの概要	3-1
キューブの管理	3-2
Enterprise Profitability and Cost Management のキューブについて	3-2
キューブの作成	3-3

キューブのクリア	3-4
キューブのクリアについて	3-4
キューブのクリア・ジョブの作成	3-4
キューブのクリア・ジョブの送信	3-6
キューブのクリア・ジョブの削除	3-6
キューブのクリア・ジョブのスケジュール	3-6
キューブのパフォーマンスの向上	3-8
アウトラインの圧縮	3-8
データ・スライスのマージ	3-9
PCM_CLC 計算キューブの集約の最適化	3-9
PCM_REP レポート・キューブの集約の最適化	3-10
ディメンションの管理	3-11
ディメンションの概要	3-12
Enterprise Profitability and Cost Management のディメンションおよびメンバーについて	3-12
ディメンションの階層について	3-13
階層タイプ	3-13
ディメンションの最上位レベル	3-14
ディメンションの設計時のベスト・プラクティス	3-15
ディメンションの作成	3-15
ディメンションのレビュー	3-16
簡易ディメンション・エディタへのアクセス	3-18
ディメンション・プロパティの編集	3-19
メンバーの操作	3-20
ディメンションへのメンバーの追加	3-20
No<dimname>メンバーの追加	3-21
メンバー・プロパティの編集	3-21
メンバーの削除	3-22
共有メンバーの追加	3-22
ディメンション・メンバーへのアクセス権の割当て	3-23
「メンバー・プロパティの編集」グリッドでの作業	3-25
属性の操作	3-29
属性について	3-29
属性のデータ型の理解	3-29
属性ディメンションの作成	3-30
属性ディメンション・メンバーの追加または編集	3-31
ユーザー定義属性(UDA)の操作	3-31
ディメンション・メタデータのインポートおよびエクスポート	3-33
メタデータのインポート	3-33

メタデータのエクスポート	3-39
アクティビティ・レポートの表示	3-40
データのインポートとエクスポート	3-41
データのインポート	3-41
ドライバ・メンバーのキャスト・エラー	3-43
データのエクスポート	3-44
データ・インポートおよびエクスポートのステータスの表示	3-46
複数通貨アプリケーションの為替レートのインポート	3-46
受信ボックス/送信ボックス・エクスプローラを使用したファイルのアップロードおよびダウンロード	3-47
アプリケーション・データベースのリフレッシュ	3-48
メタデータの検証	3-49
アプリケーションの削除	3-50

4 アプリケーションおよびシステム設定の管理

アプリケーションおよびシステムの設定の管理について	4-1
アプリケーション設定	4-1
システム設定	4-4
計算オプションの設定	4-7
論理的クリアまたは物理的クリアの定義	4-7
空でないタプル配賦ルールの有効化	4-8

5 有効な交差の定義

有効な交差の理解	5-1
有効交差グループ	5-1
有効交差ルール	5-1
アンカーおよび非アンカー・ディメンション	5-2
有効な交差の例	5-2
有効交差ルールの冗長または重複	5-5
共有メンバーおよび有効交差ルール	5-6
代替変数および有効交差ルール	5-6
評価順序	5-6
有効な交差の作成	5-6
有効な交差の管理	5-7
有効交差の表示	5-8
有効な交差のフィルタ	5-9
交差のインポートとエクスポート	5-9
有効交差グループの評価順序の変更	5-12

有効交差グループの無効化および有効化	5-12
有効交差グループの詳細の編集	5-13
有効交差グループの複製	5-14
有効交差グループの削除	5-14
フォーム内の無効データの抑制	5-15
無効なデータのクリア	5-15
無効なデータについて	5-15
無効な交差レポートの操作	5-16
無効な交差のデータのクリア	5-17
有効交差の操作	5-17
アプリケーション・フォームでの有効交差の操作	5-17
Calculation Manager ルールの実行時プロンプトでの有効交差の操作	5-18

6 データ統合の管理

ファイルベース統合の作成	6-1
データ・マップの定義	6-1

7 ジョブの管理

ジョブについて	7-1
ジョブ・タイプ	7-1
「ジョブ」コンソールへのアクセス	7-8
保留中のジョブおよび最近のアクティビティの表示	7-8
ジョブのスケジュール	7-9
今すぐ実行するジョブのスケジュール	7-10
後で実行するジョブのスケジュール	7-10
時間ごとのジョブのスケジュール	7-12
ジョブの編集および削除	7-14
ジョブ・コンソール・ファイルのエクスポート	7-15
補足診断のエクスポート	7-16

Part III モデルの構築および計算

8 モデルの作成および管理

モデルについて	8-1
モデルの作成	8-2
モデルの管理	8-3

モデル・ドキュメンテーション・レポートの生成	8-4
モデル比較レポートの生成	8-6

9 ルールの作成および管理

ルールについて	9-1
ルールのタイプ	9-2
ルールおよびルール・メンバーに関する考慮事項	9-3
ルールの作成時のディメンションおよびメンバーの要件	9-3
モデル・コンテキストおよびルール・セット・コンテキストの理解	9-5
システム・ディメンションがルールでどのように使用されるかについての理解	9-11
PCM_Rule および PCM_Balance システム・ディメンションの概要	9-11
PCM_Rule ディメンション	9-12
PCM_Balance ディメンション	9-12
PCM_Balance ディメンション・メンバーの理解	9-13
PCM_NetBalance	9-13
PCM_Remainder	9-13
PCM_System	9-14
PCM_Balance の例	9-14
配賦ルールの作成	9-17
配賦ルールの作成について	9-17
配賦ルール定義の作成	9-20
配賦ルールのソースおよび宛先の定義	9-21
配賦ルールのソースおよび宛先のベスト・プラクティス	9-22
配賦のソースの定義	9-22
配賦の宛先の定義	9-24
ソース・メンバーと宛先メンバーのフィルタの管理	9-28
配賦のソース/宛先の例	9-29
配賦ルールのドライバの定義	9-29
配賦ルール・ドライバのベスト・プラクティス	9-30
配賦ドライバの例	9-31
配賦ルールのオフセットの定義	9-31
配賦ルール・オフセットのベスト・プラクティス	9-32
配賦オフセットの例	9-32
配賦ルールの検証	9-33
配賦ルールのルール・データ検証レポートの実行	9-33
配賦ルール・データを分析するためのアド・ホックの使用	9-36
カスタム計算ルールの作成	9-37
カスタム計算ルールの作成について	9-37

カスタム計算ルール定義の作成	9-38
カスタム計算ルール・ターゲットの定義	9-39
ターゲット・メンバーのフィルタの管理	9-41
カスタム計算ルールの式の構文	9-41
空のタプルをスキップしてカスタム計算を最適化	9-43
カスタム計算ルールの検証	9-45
カスタム計算ルール・データを分析するためのアド・ホックの使用	9-46
ルール・セットの作成	9-47
ルール・セットについて	9-47
ルール・セット設計のベスト・プラクティス	9-47
ルール・セットの作成	9-47
複数のルールの作成	9-49
複数のルール・セットの作成	9-50
ルール・デザイナの使用	9-52
ルール・デザイナについて	9-52
「ウォーターフォール設定」タブの使用	9-52
ルールまたはルール・セットの編集	9-53
ルールまたはルール・セットのコピー	9-53
ルールまたはルール・セットの削除	9-55
「一括編集」タブの使用	9-55
表示されるルールのフィルタ	9-56
ルールへのメンバーの追加	9-58
ルール内のメンバーの置換	9-58
ルール・セットへのルールのコピー	9-59
モデルへのルールのコピー	9-60
ルールの有効化および無効化	9-61
ルール・ジョブの表示	9-62
ルール定義の表示	9-63
ルールの名前変更	9-64

10 モデル検証の実行

モデル検証について	10-1
モデルの検証	10-1
検証エラーおよび警告	10-3

11 モデルの計算

モデルの計算について	11-1
------------	------

視点の理解	11-2
計算コントロール・ページの使用	11-2
表示する視点のフィルタ	11-3
視点の作成	11-6
視点の編集	11-8
視点の削除	11-8
視点のクリア	11-9
視点のコピー	11-10
視点ジョブの表示	11-12
モデルの計算	11-13
「計算の実行」ジョブの表示	11-15
計算ジョブの取消し	11-17

12 計算の分析

計算分析について	12-1
表示する計算レコードのフィルタリング	12-3
計算統計サマリー・レポートの生成	12-5
計算統計診断レポートの生成	12-7
モデル・スナップショット・ドキュメンテーション・レポートの生成	12-11
スナップショットと現在のモデルとの比較レポートの生成	12-12
モデル・スナップショットの比較レポートの生成	12-13
スナップショットからのモデルの作成	12-14
コメントの編集	12-15
計算の再実行	12-16
フィードバックの提供	12-17

13 ルール・バランシング・レポートの表示

ルール・バランシングについて	13-1
ルール・バランシングのデータ・フォームの設計	13-1
ルール・バランシング・データ・フォームの設計に関するベスト・プラクティス	13-4
ルール・バランシング・レポートの生成	13-7

Part IV データの分析

14 フォームでのデータの操作

フォームへのデータの入力	14-3
フォーム・バージョンについて	14-4
フォームを開く	14-6
フォーム 1.0 での操作	14-6
操作する様々なデータの選択	14-7
フォームの色の理解	14-7
フォームでのサーバー・ステータスの表示	14-7
フォームでの迅速なナビゲート	14-8
データ操作の基本	14-9
データの入力について	14-10
ユーザー変数の動的設定	14-12
フォームでのデータの使用	14-13
値を操作するその他の方法	14-15
抑制または除外されたメンバーに対するデータの入力	14-15
最新データの取得	14-18
データの計算について	14-18
合計の計算方法	14-18
データの確認	14-19
データの表示方法のカスタマイズ	14-19
データの印刷	14-20
データ操作についての詳細	14-21
メンバー式の表示	14-21
Excel でのビジネス・プロセス・データの操作	14-22
ソース・データへのドリルスルー	14-24
セル・アイコン	14-25
データ検証エラーの解決	14-25
レポート用のデータのプッシュ	14-26
セル・コメントについて	14-26
添付の操作	14-27
フォーム、ダッシュボードおよびインフォレットの検索	14-27
セルが読取り専用の理由	14-28
変更内容の確認	14-29
フォーム 2.0 での作業	14-30
フォーム 2.0 のグローバル・ツールバーの操作	14-30
フォーム 2.0 のクイック・ツールバーの操作	14-32
フォーム 2.0 での POV の操作	14-33
フォーム 2.0 でメンバー・セレクタを開く	14-35

変更の送信の必要のない計算の実行(オンザフライでの計算)	14-37
フォーム 2.0 のデータの印刷	14-39

15 レポートの操作

レポートについて	15-1
レポートへのアクセスとレポート・リポジトリの表示	15-1
フォルダおよびレポートの管理	15-2
レポートのブックとバースティング	15-4
フォントの管理	15-4

16 ダッシュボードの操作

ダッシュボードの設計	16-3
ダッシュボードのメリット	16-4
ダッシュボードの作成および管理	16-6
ダッシュボード・バージョンについて	16-6
ダッシュボードの表示	16-8
ダッシュボード 1.0 から 2.0 へのダッシュボードの変換	16-10
ダッシュボード 1.0 の作成および管理	16-12
1.0 ダッシュボード設計の概念	16-12
ダッシュボード 1.0 のダッシュボードの作成	16-14
マスター・フォームと詳細を含むダッシュボードの作成	16-16
ダッシュボードのレイアウトについて - バージョン 1.0	16-17
ゲージ・チャート・タイプについて	16-18
タイル・チャート・タイプについて	16-20
ダッシュボードの色のカスタマイズ	16-21
1.0 ダッシュボードのグローバル POV とローカル POV について	16-22
ダッシュボードの POV および有効交差	16-24
ダッシュボード 2.0 の作成および管理	16-25
ダッシュボード 2.0 のダッシュボード設計の概念	16-25
ダッシュボード 2.0 に関する考慮事項	16-36
ダッシュボード 2.0 のダッシュボードの作成	16-38
ダッシュボード 2.0 を設計するときのメンバー・セレクタの操作	16-38
ダッシュボード 2.0 でのフォーム 2.0 のグリッドについて	16-39
ジオマップ・チャート・タイプについて	16-40
ピラミッド・チャート・タイプについて	16-42
ウォーターフォール・チャート・タイプについて	16-43
ダッシュボードでの表の使用	16-45

ダッシュボード 2.0 のゲージ・チャート・タイプについて	16-47
ダッシュボード 2.0 のレーダー・チャート・タイプについて	16-50
ダッシュボード 2.0 の組合せチャート・タイプについて	16-52
ダッシュボード 2.0 のタイル・チャート・タイプについて	16-54
ダッシュボード 2.0 でのグローバルおよびローカルの POV について	16-56
クイック分析について	16-59
ダッシュボードを使用したデータの操作	16-61
ダッシュボードの理解	16-62
ダッシュボード・バージョンについて	16-63
ダッシュボードの表示	16-65
ダッシュボード 1.0 のダッシュボードの操作	16-68
ダッシュボード 2.0 のダッシュボードの操作	16-69
ダッシュボード 2.0 のグローバル・ツールバーの操作	16-70
ダッシュボード 2.0 のコンポーネントの操作	16-71
ダッシュボード 2.0 でのフォーム 2.0 のグリッドの操作	16-73
チャートおよび凡例でのドリル・スルー	16-75
ダッシュボード 2.0 での POV の操作	16-76
ダッシュボード 2.0 でメンバー・セレクトアを開く	16-78
ナビゲーション・フローでのダッシュボード 2.0 のダッシュボードの操作	16-79
ダッシュボード 2.0 のコンポーネントでのマスター・フォームおよび詳細の操作	16-79
ダッシュボード 2.0 のダッシュボードでの有効な交差のサポート	16-80
クイック分析について	16-80

17 インフォレットでの主な情報の表示

インフォレットについて	17-1
インフォレットの詳細分析	17-3
インフォレットの内容の決定	17-6
インフォレットのフォームの設計	17-7
インフォレットのチャートの設計	17-7
インフォレット・デザイナの使用	17-8
インフォレットの作成	17-11
インフォレットの操作	17-11
インフォレットにアクセスするインタフェースのカスタマイズ	17-13

18 データ入力および分析のためのアド・ホックの使用

アド・ホックの実行の開始	18-1
アド・ホック・グリッドの作成	18-2

アド・ホック・データの送信とグリッド定義の保存	18-4
変更の送信の必要のない計算の実行(オンザフライでの計算)	18-4
アド・ホック・グリッドへのアクセス	18-7
アド・ホック・グリッドの設計	18-8
アド・ホック・グリッドのメンバー・セレクトアを開く	18-8
期間累計メンバーの選択	18-9
列メンバーのフィルタ	18-11
ディメンションのピボット	18-12
共有メンバーについて	18-13
共有メンバーへのズーム・イン	18-14
アド・ホック・グリッドのプロパティの設定	18-15
アド・ホック・グリッドのキーボード・ショートカットとクイック・データ入力コマンド	18-18
アド・ホック・グリッドへのルールの適用	18-19
コメントおよび添付の追加	18-20
値の調整	18-20
ライン・アイテムの詳細の使用について	18-21
ライン・アイテムの詳細の追加	18-22
ライン・アイテムの詳細の構造の操作	18-23
ライン・アイテムの詳細の順序	18-23
ライン・アイテムの詳細の間違った入力	18-24
ライン・アイテムの詳細の正しい入力	18-24
ライン・アイテムの詳細のセルが空白の場合の合計	18-24
アド・ホック・グリッドの印刷	18-25
フリーフォーム・アド・ホックの使用	18-25

19 利益曲線の操作

利益曲線について	19-1
利益曲線のデータ・フォームの設計	19-2
利益曲線の作成	19-4
利益曲線の管理	19-5
利益曲線の生成	19-6

20 配賦のトレース

トレースについて	20-1
トレースのデータ・フォームの設計	20-2
配賦トレース結果の表示	20-4

21 Smart View を使用したアプリケーション・メタデータのインポートおよび編集

Smart View を使用したアプリケーション・メタデータの操作について	21-1
Smart View グリッドを使用したアプリケーション・メタデータのインポートおよび編集	21-2
Smart View グリッドについて	21-2
Smart View グリッドおよびリボンの表示	21-2
Smart View グリッドの使用のガイドライン	21-4
デフォルトのメタデータ・ディメンション・メンバー・プロパティ	21-5
Smart View のディメンションのインポート	21-7
Smart View for Office でのディメンションのインポート	21-8
Smart View (Mac and Browser)でのディメンションのインポート	21-9
Smart View でのメンバーの編集	21-11
Smart View でのアプリケーション・メンバーの追加	21-11
Smart View でのメンバーの追加	21-12
Smart View でのメンバーの追加のガイドライン	21-13
Smart View でのメンバーの移動	21-14
Smart View でのメンバーの移動のガイドライン	21-14
属性ディメンションの操作	21-14
Smart View での属性ディメンション・メンバーの追加	21-15
Smart View for Office での属性ディメンション・メンバーの追加	21-15
Smart View (Mac and Browser)での属性ディメンション・メンバーの追加	21-16
Smart View での共有メンバーの指定	21-18
データベースのリフレッシュ	21-19
Smart View for Office でのデータベースのリフレッシュ	21-19
Smart View (Mac and Browser)でのデータベースのリフレッシュ	21-20
プランニング管理拡張機能と Office のオートコレクト	21-22

Part V ツールの使用

Part VI ビジネス・ルールの作成および管理

22 ビジネス・ルールの使用

ビジネス・ルールの作成、検証およびデプロイ	22-1
ビジネス・ルール・セキュリティの管理	22-2
個々のビジネス・ルールへのアクセス権の割当て	22-2
複数のビジネス・ルールが格納されているフォルダへのアクセス権の割当て	22-3

ビジネス・ルール通知の有効化	22-4
ビジネス・ルールの起動	22-5
ビジネス・ルール・ページからのビジネス・ルールの起動	22-5
フォームからのビジネス・ルールの起動	22-6
フォームでのルールの追加および削除	22-6
ビジネス・ルールのプロパティの設定	22-7
ジョブ・スケジューラからのビジネス・ルールの起動	22-8
ダッシュボード 1.0 からのビジネス・ルールの起動	22-9
ルールの使用状況の表示	22-10

23 Groovy ビジネス・ルール作成のためのリソース

Groovy ビジネス・ルールについて	23-1
Groovy ルールの Java API リファレンス	23-3
Groovy ビジネス・ルールの例	23-3
Groovy ビジネス・ルール・チュートリアル・ビデオ	23-3
Groovy ビジネス・ルール・チュートリアル	23-4
Groovy ルールのビジネス・シナリオ	23-7
Groovy ルールとスマート・プッシュを使用した変更済データの移動	23-7
Groovy ルールを使用した変更済データの計算	23-13

Part VII 「ナビゲータ」からアクセスする管理タスク

Part VIII アクセス権限およびデータ・セキュリティの設定

24 アクセス権とデータ・セキュリティの管理について

事前定義済役割について	24-2
アプリケーション役割について	24-4
アプリケーション所有権の管理	24-4

25 アクセス権限の操作

アクセス権限タイプ	25-1
アクセス権限の割当てについて	25-3
アーティファクトおよびフォルダに対する権限の追加、変更および削除	25-4
ディメンションのセキュリティの有効化または無効化	25-4
ディメンション・メンバーへのセキュリティの割当て	25-5
共有メンバーへの有効なアクセス権限について	25-7

セル・レベル・セキュリティの定義	25-7
セル・レベル・セキュリティの理解	25-8
セル・レベル・セキュリティ定義の作成	25-9
セル・レベル・セキュリティ定義の表示	25-10
セル・レベル・セキュリティ定義のフィルタ	25-11
セル・レベル・セキュリティ定義のインポートとエクスポート	25-12
セル・レベル・セキュリティのテスト	25-14
セル・レベル・セキュリティ定義リストの並替え	25-14
アクセス権限のレポート	25-15

Part IX 付録

26 ベスト・プラクティス

27 EPM Cloud に関するよくある質問(FAQ)

28 メンバー・セレクタの使用

メンバーの選択について	28-1
ディメンションの選択	28-2
メンバー表示オプションの定義	28-2
メンバーの検索	28-5
表示されるメンバーのフィルタ	28-7
属性によるフィルタ	28-8
レベルによるフィルタ	28-9
世代によるフィルタ	28-10
メンバー関係によるフィルタ	28-11
メンバーの関係	28-13
メンバーの選択	28-14
フォーム 1.0 およびダッシュボード 1.0 のメンバーの選択	28-18
フォーム 1.0 およびダッシュボード 1.0 のメンバーの選択について	28-18
メンバーの関係	28-18
メンバーの選択	28-20
メンバーを選択する際の考慮事項	28-21
メンバーとしての属性値の選択	28-22
メンバーとしての代替変数の選択	28-25

29 命名規則

アプリケーションとデータベースの命名規則	29-1
ディメンション、メンバーおよび別名の名前付けの制限	29-2
計算スクリプト、レポート・スクリプト、式、フィルタおよび代替変数値でのディメンションとメンバー名	29-5
ユーザー名およびグループ名の命名規則	29-6

30 Profitability and Cost Management から Enterprise Profitability and Cost Management への移行

ドキュメントのアクセシビリティについて

オラクルのアクセシビリティについての詳細情報は、Oracle Accessibility Program の Web サイト(<http://www.oracle.com/pls/topic/lookup?ctx=acc&id=docacc>)を参照してください。

Oracle Support へのアクセス

サポートをご契約のお客様には、My Oracle Support を通して電子支援サービスを提供しています。詳細情報は <http://www.oracle.com/pls/topic/lookup?ctx=acc&id=info> か、聴覚に障害のあるお客様は <http://www.oracle.com/pls/topic/lookup?ctx=acc&id=trs> を参照してください。

ドキュメントのフィードバック

このドキュメントに対するフィードバックを送るには、Oracle Help Center トピックのページの下部にあるフィードバック・ボタンをクリックします。epmdoc_ww@oracle.com に電子メールを送信することもできます。

1

EPM センター・オブ・エクセレンスの作成および実行

EPM のベスト・プラクティスは、CoE (センター・オブ・エクセレンス)を作成することです。

EPM CoE は、導入およびベスト・プラクティスを確実にするための統合された取組みです。パフォーマンス管理およびテクノロジー対応ソリューションの使用に関連するビジネス・プロセスの変革を促進します。

クラウドの導入により、組織がビジネス・アジリティを改善し、革新的なソリューションを促進することが可能になります。**EPM CoE** はクラウド・イニシアチブを監督し、投資を保護および維持し、効果的な使用を促進するのに役立ちます。

EPM CoE チーム:

- クラウドの導入を確実にし、組織が **Cloud EPM** の投資を最大限に活用することを支援します
- ベスト・プラクティスの運営委員会として機能します
- **EPM** 関連の変更管理イニシアチブをリードし、変革を促進します

すでに **EPM** を実装済の顧客を含めて、すべての顧客が **EPM CoE** からメリットを得られます。

使用を開始する方法

クリックして、**EPM CoE** のベスト・プラクティス、ガイダンスおよび戦略を取得します: **EPM センター・オブ・エクセレンスの概要**。

さらに学習

- クラウド・カスタマ・コネクト Web セミナーを見る: [Cloud EPM のセンター・オブ・エクセレンス\(CoE\)の作成および実行](#)
- ビデオを見る: [概要: EPM センター・オブ・エクセレンスおよびセンター・オブ・エクセレンスの作成](#)。
- **EPM センター・オブ・エクセレンスの作成および実行**の **EPM CoE** のビジネス上のメリットおよび価値提案の確認。



Part I

Enterprise Profitability and Cost Management での作業の開始

関連トピック

- [Enterprise Profitability and Cost Management](#) について
- [Enterprise Profitability and Cost Management](#) アプリケーションについて
- アプリケーションの起動
- ホーム・ページについて
- 動的タブの使用
- アプリケーション・インタフェースを使用する際の考慮事項
- [Smart View](#) のダウンロードおよびインストール

ビデオ

目的	視聴するビデオ
Enterprise Profitability and Cost Management の主な機能の概要を把握します。	 Enterprise Profitability and Cost Management での作業の開始

Enterprise Profitability and Cost Management について

収益性を最大化するには、コストと収益を正確に測定して配賦し、管理する必要があります。


Enterprise Profitability and Cost Management は、製品、顧客、地域、支店などのビジネス・セグメントの収益性を計算するために必要な、コストおよび収益の配賦を管理する分析ソフトウェア・ツールです。Enterprise Profitability and Cost Management では、費用分解、消費ベースの費用計算およびシナリオ再生を使用して、有効な計画および意思決定支援の収益性を測定できます。

Enterprise Profitability and Cost Management では、データを格納および計算するために Oracle Essbase キューブが使用されます。アプリケーション・データおよび計算結果は、次の EPM 分析ツールで出力できます:

- ダッシュボード
- インフォレット
- フォーム
- 利益曲線
- 配賦トレース

- Oracle Smart View for Office
- レポート

ビデオ

目的	視聴するビデオ
一般会計の負担を軽減し、財務クローズを高速化しながら、業務レポートおよび管理レポートの透明性とトレーサビリティを確保するために Enterprise Profitability and Cost Management がどのように役立つかを学習します。	 Enterprise Profitability and Cost Management の概要

Enterprise Profitability and Cost Management アプリケーションについて

Enterprise Profitability and Cost Management アプリケーションは、管理レポートの計算およびレポートの分野には豊富な経験を持つが Oracle Essbase とスクリプト構文またはプログラミング言語には多くの経験を持たないアナリストが使用するために設計されています。

Enterprise Profitability and Cost Management を使用してコストおよび収益をモデル化するには、次の基本的な概念を理解する必要があります：

- **ディメンション:** 基礎となるデータベースのデータ・カテゴリで、値の取得や保存用にデータを編成する際に使用されます。通常、ディメンションには関連するメンバーをグループ化した階層が含まれます。たとえば、Period ディメンションは多くの場合四半期、月などの期間の各単位のメンバーが含まれます。
- **アプリケーション:** 分析要件またはレポート要件の特定のセットを満たすために使用されるディメンション、ディメンション・メンバーおよびモデリング要素の関連セットです。
- **モデリング要素:** ディメンションおよびメンバーによって識別されるデータに配賦ロジックを適用する、Enterprise Profitability and Cost Management アプリケーションで使用されるアプリケーション・パーツ。モデリング要素には、既存の、または提案されたビジネス事例を反映する、コスト配賦ルールや分析定義が含まれます。

これらの要素を組み合わせて、アプリケーション内の配賦ポイントを整理して論理的なフローに編成します。注意深くモデルを作成することで、実際のプロセスおよび活動を網羅し、現実的に費用と収益を配賦することができます。

Enterprise Profitability and Cost Management アプリケーションは企業の一部または全体を表し、企業の勘定科目および一般会計に相当するコストおよび収益カテゴリを含んでいます。Enterprise Profitability and Cost Management アプリケーションを使用することで、企業内のコストおよび収益に影響を与えるプロセスや活動を正確にトレースできます。

 **Note:**

Enterprise Profitability and Cost Management アプリケーションは、Profitability and Cost Management アプリケーションからは分離され、独立しています。Profitability and Cost Management アプリケーションまたは環境に対する影響はありません。

アプリケーションの起動

サービス管理者は、一意の URL をユーザーに提供する責任があります。

EPM Enterprise Cloud Service のインスタンスがプロビジョニングされているお客様は、次のような URL を使用して環境にアクセスします:

- **本番環境の URL:** <https://epm-idDomain.epm.dataCenter.oraclecloud.com/epmcloud>
- **テスト環境の URL:** <https://epm-test-idDomain.epm.dataCenter.oraclecloud.com/epmcloud>

たとえば、exampleDC データ・センターのアイデンティティ・ドメイン exampleDoM でプロビジョニングされた Oracle Enterprise Performance Management Cloud 環境では、URL は次のようになります:

- **本番環境:** <https://epm-exampleDoM.epm.exampleDC.oraclecloud.com/epmcloud>
- **テスト環境:** <https://epm-test-exampleDoM.epm.exampleDC.oraclecloud.com/epmcloud>

これは、各アプリケーションが個別のコンテキストを使用して環境にアクセスする EPM Cloud の以前のバージョンからの変更点です。Oracle Enterprise Performance Management Cloud 管理者スタート・ガイドのサンプルの EPM Cloud URL を参照してください。

ホーム・ページについて

ホーム・ページは、ビジネス・プロセス・タスクにアクセスする際の出発点です。

ホーム・ページには、ユーザーが最もよく使用するタスクおよびツールが表示され、これらはホーム・ページ・カードとして、または関連するカードをグループ化したクラスタで表されます。ページの 1 つを開くと、関連するカードが上端に沿って表示されるので、ホーム・ページに戻ることなくこれらのカードに容易に移動できます。

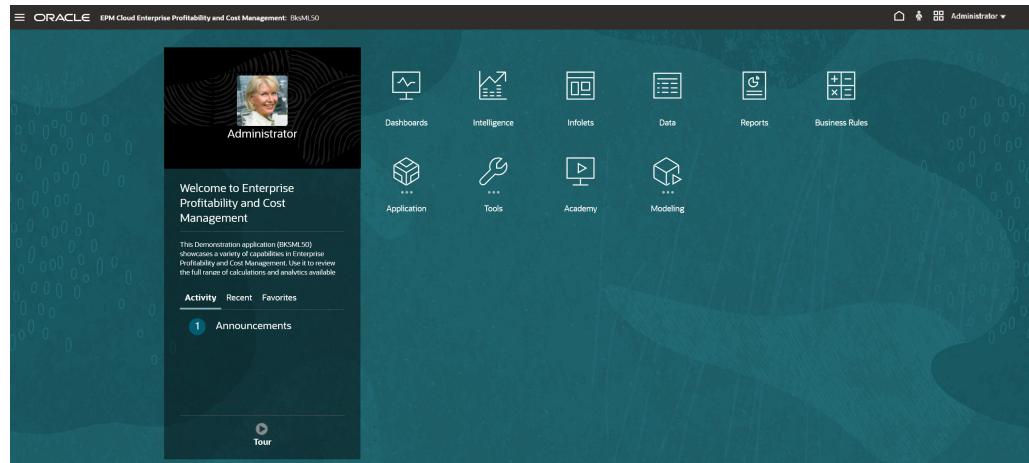
ホーム・ページから:

- サービス管理者は、アプリケーションの作成、ディメンションの作成、アプリケーションへのディメンションのロード、ローカライズとアクセシビリティの有効化、クライアントのインストールと構成、およびユーザー・アクセスの設定を行うことができます。
- パワー・ユーザーは、POV の作成、データのロード、ルールの作成、モデルの検証、計算の実行および結果の検証を行うことができます。
- ユーザーは、レポート、ダッシュボード、分析およびモデル・ビューを作成したり、配賦をトレースしたり、利益曲線を作成することができます。

- **確認者**は、レポート、ダッシュボード、分析およびモデルを表示したり、配賦をトレースしたり、利益曲線を表示することができます。

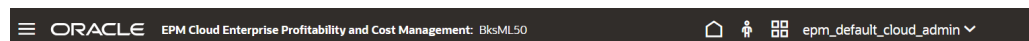
新しく作成された、または再作成されたすべての **Oracle Enterprise Performance Management Cloud** サービス、ビジネス・プロセスおよびアプリケーションで、レッドウッド・エクスペリエンスがデフォルト・テーマとして使用されます。ホーム・ページにブランド・ロゴまたはカスタムの背景イメージを追加するには、「**ツール**」、「**外観**」の順に選択します。ビジネス・プロセスの名前を表示するかどうかを選択することもできます。

ホーム・ページの例



グローバル・ヘッダー

グローバル・ヘッダーは、ユーザー・インタフェース上部の横幅にわたる領域です。ここには、ナビゲーション・アイコンの他、アクセシビリティ設定や「**設定およびアクション**」メニューへのアクセスが含まれます。また、グローバル・ヘッダーからナビゲーション・フローを切り替えることもできます。



グローバル・ヘッダーの部分



説明

「ナビゲータ」アイコンによって「**ナビゲータ**」メニューが開かれます。これは、ビジネス・プロセスのサイトマップであり、アクセスできるすべてのビジネス・プロセス・ページへのリンクが表示されます。



ビジネス・プロセスの他の場所で作業中に Oracle ロゴをクリックすると、ホーム・ページに戻ります。Oracle ロゴの代わりにカスタム・ロゴを表示するには、「**外観**」ページで「**ロゴ・イメージ**」を選択します。

グローバル・ヘッダーの部分

説明

EPM Cloud Enterprise Profitability and Cost Management: BksML50

現在のビジネス・プロセスの名前です。ビジネス・プロセス名を非表示にするには、「**外観**」ページの「**ビジネス・プロセス名の表示**」オプションについて「**いいえ**」を選択します。



ホーム・アイコンで、ホーム・ページを更新したり、ビジネス・プロセスの他の場所で作業しているときにホーム・ページに戻ります。



「アクセシビリティ設定」アイコンをクリックすると、アクセシビリティ機能が有効になります。



複数のグループに属している場合、またはナビゲーション・フローが役割に割り当てられている場合に、ナビゲーション・フロー・アイコンをクリックすると、実行時にナビゲーション・フローを切り替えられます。

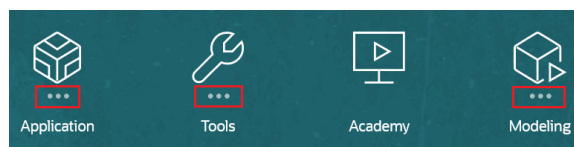
Administrator ▼

ユーザー名をクリックして「**設定およびアクション**」メニューにアクセスします。

作業領域

ホーム・ページの作業領域には、デフォルトのレッドウッド背景イメージまたはカスタムの背景イメージが表示されます。作業領域に表示されるカードは、ユーザーがアクセス権を持っているビジネス・プロセスの各機能領域にリンクしています。たとえば、「**ダッシュボード**」、「**インテリジェンス**」、「**インフォレット**」、「**データ**」、「**レポート**」、「**ビジネス・ルール**」、「**アプリケーション**」、「**ツール**」、「**アカデミ**」および「**モデリング**」です。

カード・ラベルの上の3つのドットは、そのカードからサブカードのグループ(クラスタと呼ばれる)が開くことを示します。Enterprise Profitability and Cost Managementでは、「**アプリケーション**」、「**ツール**」および「**モデリング**」のカードにサブカードが関連付けられています。

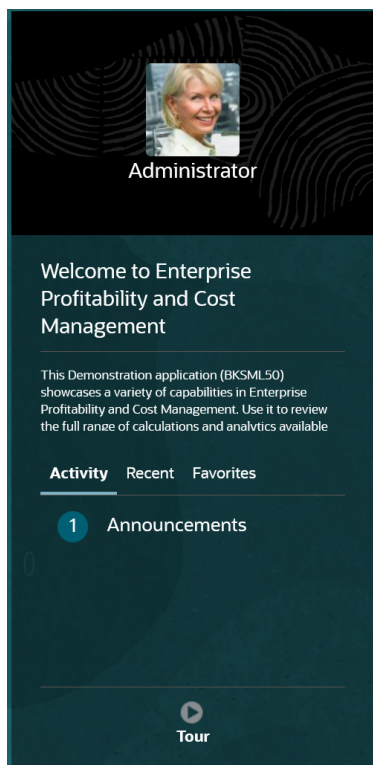



Note:

- 「**アカデミ**」カードは、ビジネス・プロセスの使用に関連する様々なリソースにリンクします。
- 作業領域のレッドウッド背景イメージをカスタムの背景イメージに置き換えるには、「**ツール**」、「**外観**」の順に選択し、**外観**ページで「**背景イメージ**」の1つを選択します。

「お知らせ」パネル

「お知らせ」パネルには、ユーザー名とプロフィール・ピクチャ(設定されている場合)が表示され、サービス管理者によって入力されたシステムに関するお知らせがある場合はそれらも表示されます。このパネルに表示される情報は、自分のアクティビティを追跡するのに役立ちます。



- プロフィール・ピクチャを設定して、ホーム・ページの「お知らせ」パネルの上部に表示できます。プロフィール・ピクチャを設定するには、「ツール」、「ユーザー・プリファレンス」の順にクリックします。
- **アクティビティ**: システムのお知らせが要約され(発効日でソートした最新のお知らせが一番上に表示されます)、オープン・タスクがリストされます。「お知らせ」をクリックしてパネルを反転させてお知らせを表示します。「本日期限のタスク」をクリックしてパネルを反転させて、自分のタスクを表示します。
- **最新**: 最近アクセスしたフォームとダッシュボード(最大 15 アイテム)へのリンクのリストが表示されます。リンクをクリックすると、アイテムがセカンダリ・ウィンドウで起動します。リンクの横の星をクリックすると、お気に入りとしてタグ付けされます。
- **お気に入り**: お気に入りとしてタグ付けされたフォームまたはダッシュボードへのリンクのリストが表示され、それらが上書きされないようにします。「お気に入り」のリンクをクリックして、アイテムをセカンダリ・ウィンドウで起動します。「お気に入り」にアイテムを追加するには、「最新」をクリックして最近のユーザー・アクティビティを表示し、アイテムの右側にある星をクリックします。
- : 「ツアー」アイコンをクリックして、ビジネス・プロセスの主要機能に関するビデオを起動します。

ビデオ

目的

デフォルトのレッドウッド・テーマについて調べます。

インタフェースをカスタマイズしてワークフローを合理化する方法を学習します。

視聴するビデオ



概要: EPM Cloud の新しい「レッドウッド」テーマのお知らせ



概要: Enterprise Performance Management Cloud のワークフローのカスタマイズ

動的タブの使用

親アーティファクトから移動せずに、タブ内の関連アーティファクトで作業します。

動的タブについて

動的タブを使用して、単一のページに複数のアーティファクトを表示できます。たとえば、フォームを開いている場合は、他の関連するフォームを開いたり、ダッシュボードを開くこともできます。これらの追加のアーティファクトは、ページの下部にある水平タブで示されます。これは、複数のアーティファクトを同時に表示する必要があるときに、複数のブラウザ・ウィンドウを開くことを望まないユーザーのための機能です。

The screenshot shows the Oracle EPM Cloud interface. At the top, there is a navigation bar with icons for Models, Designer, Model Validation, Calculation Control, Calculation Analysis, Rule Balancing, and Jobs. Below this is a grid titled 'Unnamed grid'. The grid has columns for Years, Scenario, Version, Driver, Activity, Entity, Product, PCM_Rule, PCM_Balance, and Period. The data rows include 'Qmart', 'Sporting World', 'Mountain Adventures', 'Big Bikes', 'Rose Town Bikes', and 'The Cyclery'. At the bottom of the grid, there are dynamic tabs: 'Rule Balancing', 'Analyze Channel', and 'Financials'. The 'Rule Balancing' tab is currently selected and highlighted with a red box.

動的タブの用語:

- **動的タブ**—関連するアーティファクトが起動されたときに、ページ下部のソース・タブの右側に追加されるタブ。閉じるアイコンが表示されるのは動的タブのみです。
- **ソース・タブ**—動的タブを起動したページ。

Oracle Enterprise Performance Management Cloud 環境に別の EPM Cloud 環境のタブが含まれている場合、それらの環境間のタブに対して動的タブがサポートされます。

動的タブを使用する場合の考慮事項

- 1 ページに最大 30 個のタブを開くことができます。30 個を超えるタブを開こうとすると、新しいタブを開く前にいくつかのタブを閉じるように求めるメッセージが表示されます。
- 長いアーティファクト名は、切り捨てられてタブに表示されます。

動的タブの操作

作業しているページの下部には、ソース・タブと動的タブが表示されます。

既存のタブまたはリスト・ページから新しい動的タブを起動すると、新しいタブは、既存のタブの右側に追加され、新しく起動されたタブにフォーカスが移動します。

動的タブは、現在のセッションでのみ保持されます。表示された最後のタブは、同じセッション内で次回ページにアクセスしたときに保持されています。ログアウトしてから再度ログインした場合、ナビゲーション・フローをリロードした場合、または別のナビゲーション・フローに切り替えた場合、動的タブは保持されません。保存されていないデータがある場合は、続行する前に保存するように求められます。

新しいアクションを実行するたびに、新しい動的タブが開きます。たとえば、フォーム 1 でドリルスルーを実行した後、フォーム 2 でドリルスルーを実行すると、2 つの動的タブが開きます。フォーム 1 で別のドリルスルーを実行すると、以前に開いたタブが再起動されます。

動的タブに起動されたアーティファクトは、「お知らせ」パネルの最近の履歴にもリストされます。また、「お知らせ」パネルの「**お気に入り**」にも動的タブを追加できます。

動的タブには閉じるアイコンが表示されます。保存されていないデータがタブにある場合は、タブを閉じる前に保存するように求められます。タブを閉じると、閉じたタブの左側のタブにフォーカスが移動します。フォーカスされていないタブを閉じると、フォーカスは、現在表示されているタブにとどまります。動的タブをすべて閉じるには、ページの下部に表示されている水平タブを右クリックし、「**すべてのタブを閉じる**」をクリックします。

ビデオ

目的

参照するビデオ

動的タブを使用して、様々なアーティファクトを含む複数タスクに移動する方法を学習します。動的タブを使用すると、元のアーティファクトを開いたまま、関連するアーティファクトを開くことができます。



[動的タブを使用した移動](#)

アプリケーション・インタフェースを使用する際の考慮事項

アプリケーション・インタフェースを使用する際には、次の考慮事項に注意してください。

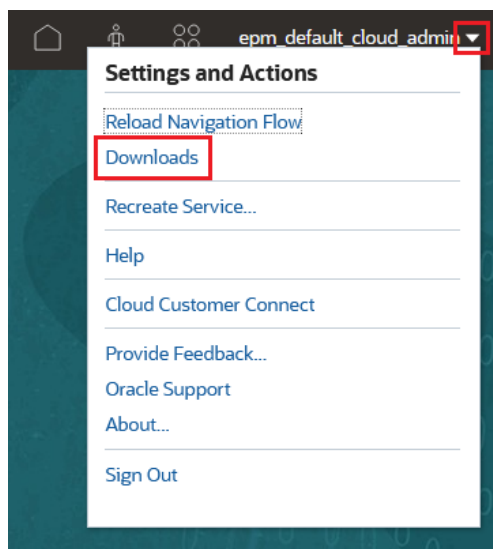
- インタフェースでは、iPad および Android タブレットのランドスケープ・モードのみがサポートされます。
- タブレットでのユーザーの操作性は、Android デバイスより iPad の方が優れています。
- iPad では Safari Web ブラウザを使用し、Android デバイスでは Google Chrome を使用することをお勧めします。
- Windows 10 を使用している場合は、スケーリングが 100% に設定されていないと、インタフェースが拡大(ズーム・イン)された状態で表示されることがあります。Windows 10 では、デフォルトでスケーリングが 125% または 150% になっている場合があります。
- タブレットでレポートを表示するには、PDF ビューアが必要です。Adobe PDF ビューアをお勧めしますが、Android デバイスでは Kindle または Polaris Office、iPad では同様のアプリケーションで開くことができます。

Smart View のダウンロードおよびインストール

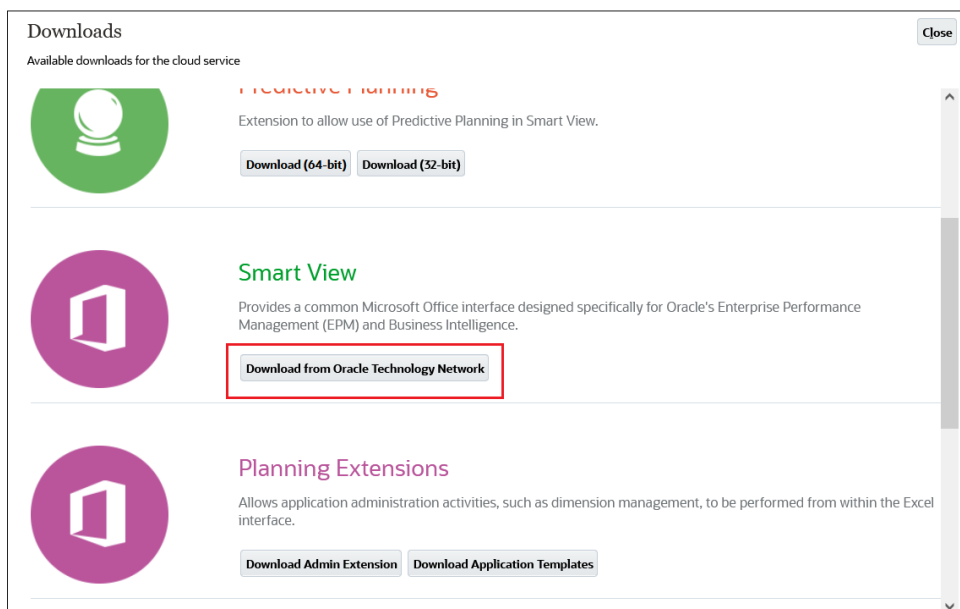
サービス管理者は、Oracle Smart View for Office を使用してディメンションとメンバーのメタデータをインポートおよび編集できます。(Smart View を使用したアプリケーション・メタデータのインポートおよび編集を参照してください)。さらに、Enterprise Profitability and Cost Management でルール・バランスング・ページのデータを操作しているときに、リンクされたデータ・ポイントをクリックしてコンテキスト依存のアド・ホック・レポートを Smart View で開き、結果にコンテキストを追加したり、詳細にドリルダウンしたり、データをピボットできます。ルール・バランスング・レポートの表示を参照してください。

Smart View をダウンロードおよびインストールするには:

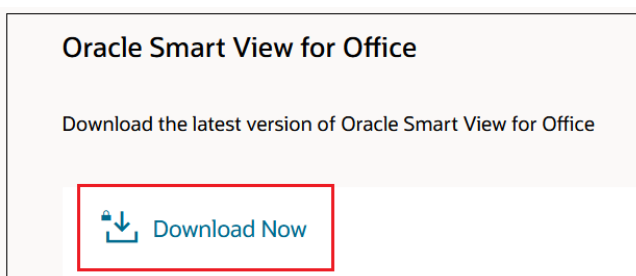
1. ホーム・ページで、ページの右上のユーザー名の横にあるドロップダウンをクリックし、「ダウンロード」を選択します。



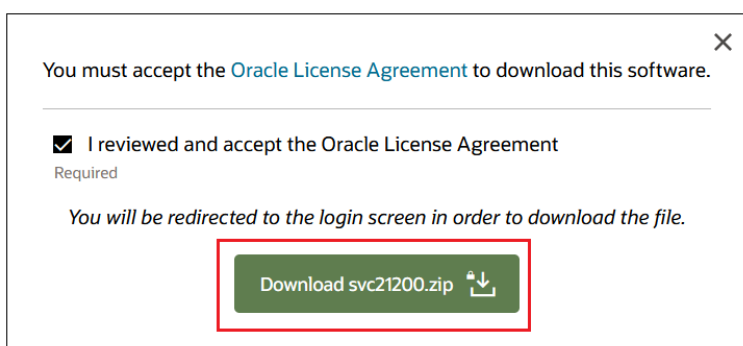
2. ダウンロード・ページの「Smart View」で、「Oracle Technology Network からダウンロード」をクリックします。



3. Oracle Smart View for Office ページで、**今すぐダウンロード**をクリックします。



4. ライセンス契約を受諾し、zip ファイルをダウンロードします。



5. ダウンロードに移動し、**SmartView.exe** を抽出します。
6. **SmartView.exe** をダブルクリックし、インストール・プロンプトに従います。

Enterprise Profitability and Cost Management 実装の管理



実装をどのように管理するかによってステップの順序は異なりますが、新しい **Enterprise Profitability and Cost Management** アプリケーションの一般的な実装プロセスには次のステップが含まれます:

- 1. 設計要件に基づいてアプリケーションを作成します:** 最初にビジネス・プロセスの構造を設計します。これには、アプリケーションのデフォルトおよびカスタム・キューブでどのようなカスタム・ディメンションおよび属性ディメンションが必要になるかの検討も含まれます。また、命名規則、カレンダー構造、通貨仕様といったアイテムに関する決定も行います。[Enterprise Profitability and Cost Management アプリケーションの作成](#)を参照してください。
- 2. ディメンションおよびキューブの管理:** ビジネス・プロセスの作成後、カスタム・ディメンションおよび属性ディメンションを設定し、メタデータをロードしてすべてのディメンションを構築します。メンバー式、属性、ユーザー定義属性およびスマート・リストをディメンション・メンバーに追加することもできます。ディメンションを作成した後にオプションで、必要なカスタム・キューブを追加できます。[ディメンションの管理およびキューブの管理](#)を参照してください。
- 3. セキュリティを設定します:** 役割ベース、メタデータ、データおよびアーティファクトのセキュリティを設定します。[アクセス権限およびデータ・セキュリティの設定](#)を参照してください。
- 4. アプリケーション・フォームを作成します:** データ入力、データ検証およびルール・balancingに必要なフォームを作成します。[フォームの管理およびルール・balancingのデータ・フォームの設計](#)を参照してください。
- 5. 入力データ、ドライバ・データ、為替レートをロードまたは入力します:** フォームにデータを入力し、ネイティブのインポートまたはデータ統合を使用してデータをロードします。[データの入力について、データのインポートおよびファイルベース統合の作成](#)を参照してください。
- 6. モデル POV を作成します:** モデル計算を実行するためのモデル POV を作成して管理します。[視点の理解、視点の作成および計算コントロール・ページの使用](#)を参照してください。

7. **モデル、ルール・セットおよびルールを作成します:** ビジネス要件に基づいてモデル、ルール・セットおよびルールを作成します。 [モデルの作成および管理](#)および[ルールの作成および管理](#)を参照してください。
8. **モデルを計算、検証およびトラブルシューティングします:** データをロードしモデルを作成した後に、ルールを検証し、モデルを計算して、計算を管理します。 [モデル検証の実行](#)、[モデルの計算](#)、[計算の分析](#)および[ルール・バランシング・レポートの表示](#)を参照してください。
9. **ダウストリーム・システムとのデータ統合:** 計算済データのファイナライズが済んだ後、これをファイルまたは外部システム(Oracle Financials Cloud、Oracle General Ledger、Planning など)にエクスポートできます。計算キューブからレポート・キューブにデータをエクスポートすることもできます。 [データ統合の管理](#)を参照してください。
10. **ダッシュボード、インフォレット、レポート、インテリジェンスを作成して表示します:** ダッシュボード、インフォレット、レポートおよびインテリジェンスを使用して、データを分析し、レポートを作成します。既存のダッシュボード、インフォレットおよびレポートとの対話方法の詳細は、[ダッシュボードの操作](#)、[インフォレットでの主な情報の表示](#)および[レポートの操作](#)を参照してください。利益曲線および配賦トレースの作成方法およびそれらに使用するフォームの設計方法(Enterprise Profitability and Cost Management 特有の方法)の詳細は、[利益曲線のデータ・フォームの設計](#)および[トレースのデータ・フォームの設計](#)を参照してください。
11. **ビジネス・プロセスのカスタマイズ:** ビジネス・プロセスをカスタマイズします。これには、カスタム・ナビゲーション・フローを設計し、特定の役割やグループ向けにユーザー・インタフェースのルック・アンド・フィールをカスタマイズし、有効な交差を定義し、フォーム用のカスタム・アクション・メニューを作成する作業が含まれます。 [カスタム・ナビゲーション・フローの設計](#)および[有効な交差の定義](#)を参照してください。
12. **ビジネス・プロセスを保持します:** バックアップのスケジュール設定、システム診断の分析および環境のクローニングを実行して、ビジネス・プロセスを保持します。

Part II

アプリケーションの作成および管理

Related Topics

- [Enterprise Profitability and Cost Management アプリケーションの作成](#)
- [アプリケーションの管理](#)
- [アプリケーションおよびシステム設定の管理](#)
- [有効な交差の定義](#)
- [データ統合の管理](#)
- [ジョブの管理](#)

2

Enterprise Profitability and Cost Management アプリケーションの作成

関連トピック

- [アプリケーション設計のベスト・プラクティス](#)
- [アプリケーションの作成について](#)
- [環境の構成](#)
- [作成するアプリケーションのタイプの選択](#)
- [サンプル・アプリケーションの作成](#)
- [新規アプリケーションの作成](#)

ビデオ

目的	視聴するビデオ
Enterprise Profitability and Cost Management でアプリケーションを作成する方法を学習します。	 Enterprise Profitability and Cost Management でのアプリケーションの作成

アプリケーション設計のベスト・プラクティス

Enterprise Profitability and Cost Management アプリケーションを作成する前に、要件の判断とアプリケーションの設計に役立つ *Oracle Enterprise Performance Management Cloud オペレーション・ガイド* の Enterprise Profitability and Cost Management の [アプリケーション設計のベスト・プラクティス](#) を確認して、ビジネス・ニーズが満たされるようにします。設計のベスト・プラクティスは、次の領域で利用可能です:

- [アプリケーション・スケーラビリティの管理](#)
- [ディメンション設計の管理](#)
- [アプリケーション・ロジック設計の管理](#)
- [最適化された計算システムの維持](#)

アプリケーションの作成について

ランディング・ページは、Enterprise Profitability and Cost Management アプリケーションを作成したり、開始に役立つ概要ビデオを表示するための開始点です。EPM Enterprise Cloud Service の各サブスクリプションに対して 1 つのアプリケーションを作成できます。

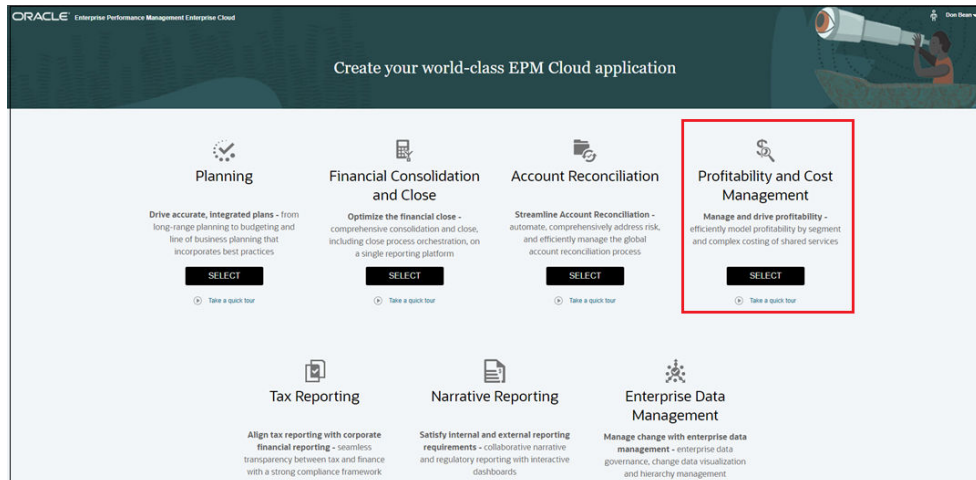
まず、Enterprise Profitability and Cost Management 用の環境を事前構成します。事前構成が完了したら、作成するアプリケーションのタイプを選択してから、アプリケーションを作成します。

- 環境の構成
- 作成するアプリケーションのタイプの選択
- サンプル・アプリケーションの作成
- 新規アプリケーションの作成

環境の構成

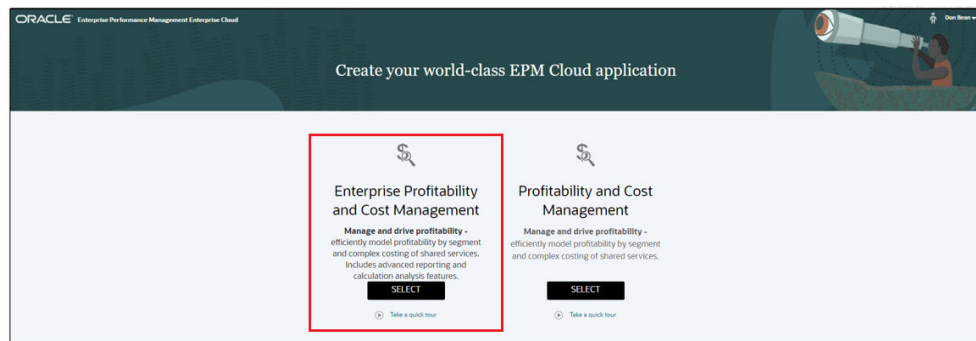
Enterprise Profitability and Cost Management の環境を構成するには:

1. ランディング・ページから、「**Profitability and Cost Management**」の下の「**選択**」をクリックします。



構成プロセスを開始するには、「**OK**」をクリックします。

2. 「**Enterprise Profitability and Cost Management**」の下の「**選択**」をクリックします。



 **Note:**

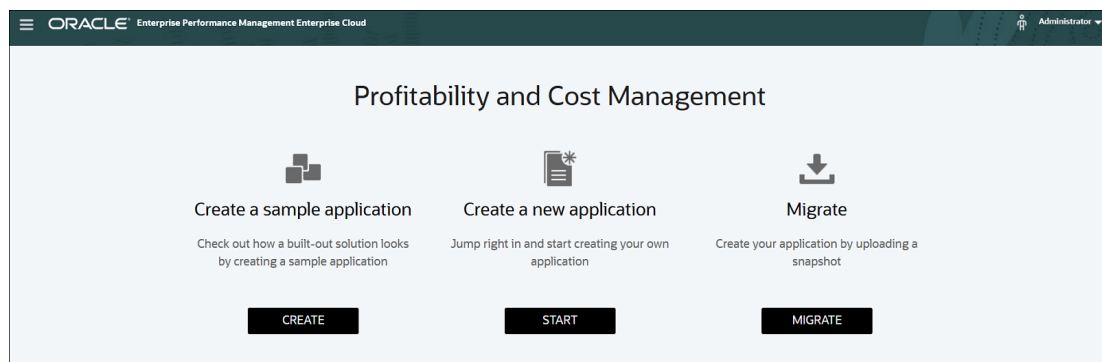
アプリケーションの作成を開始した後、ランディング・ページには戻れません。ランディング・ページに戻って異なるアプリケーションを作成する場合は、最初に環境を当初の状態にリセットする必要があります。[Oracle Enterprise Performance Management Cloud 管理者スタート・ガイドの異なるビジネス・プロセスへの切替え](#)を参照してください。

 **Note:**

レガシー Profitability and Cost Management アプリケーションを作成する場合は、「**Profitability and Cost Management**」を選択します。レガシー Profitability and Cost Management のドキュメントを参照するには、Help Center の [Oracle Profitability and Cost Management](#) に移動します。

作成するアプリケーションのタイプの選択

事前構成が完了した後、Enterprise Profitability and Cost Management アプリケーションを作成するための次の 3 つのオプションがあります：

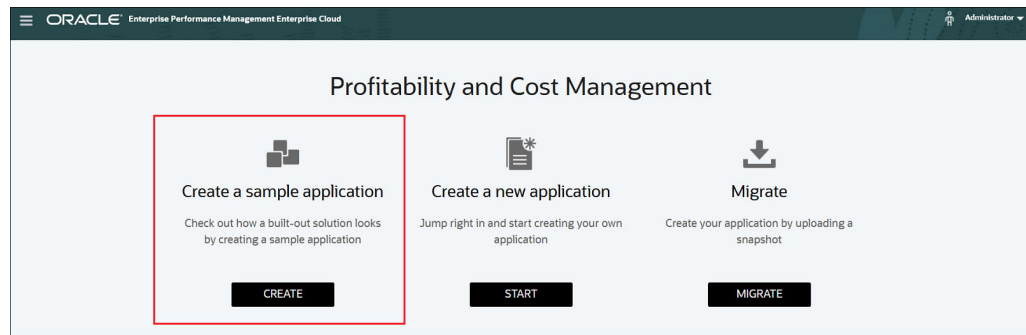


- **サンプル・アプリケーションの作成:** 「作成」をクリックして、データおよびアーティファクトを含むサンプル・ビジネス・プロセスを作成します。このすぐに使用できるビジネス・プロセスを使用して、機能領域をテストおよび調査できます。独自のビジネス・プロセスをモデル化するためのテンプレートとしても使用できます。サンプル・アプリケーションの作成は、ディメンション、ルール、ダッシュボードおよびレポートの完全なセットが含まれているシンプルな事前作成済の例を使用して Profitability and Cost Management について学習するための効果的な方法です。
- **新規アプリケーションを作成します:** 開始をクリックし、コンテナ・ビジネス・プロセスを作成します。
- **移行:** 移行をクリックし、以前に環境にアップロードしたスナップショットからビジネス・プロセスをインポートします。前提条件およびスナップショットの互換性については、[EPM Standard Cloud Service](#) および [EPM Enterprise Cloud Service](#) に移行可能なアプリケーションを参照してください。レガシー Profitability and Cost Management アプリケーションから移行することもできます。

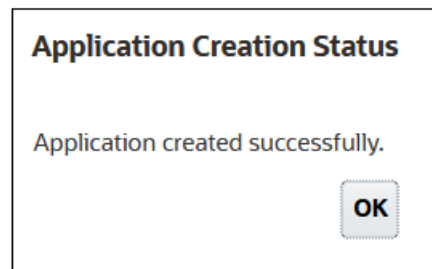
サンプル・アプリケーションの作成

Enterprise Profitability and Cost Management には、BksML50 というサンプル・アプリケーションが用意されており、それを使用することで、アーティファクトとデータを含むアプリケーションをすばやく作成できます。このアプリケーションを使用して、機能領域をテストおよび調査できます。また、独自のアプリケーションをモデル化するためのテンプレートとしても使用できます。

サンプル・アプリケーションを作成するには、「**サンプル・アプリケーションを作成**」の下の「**作成**」をクリックします。



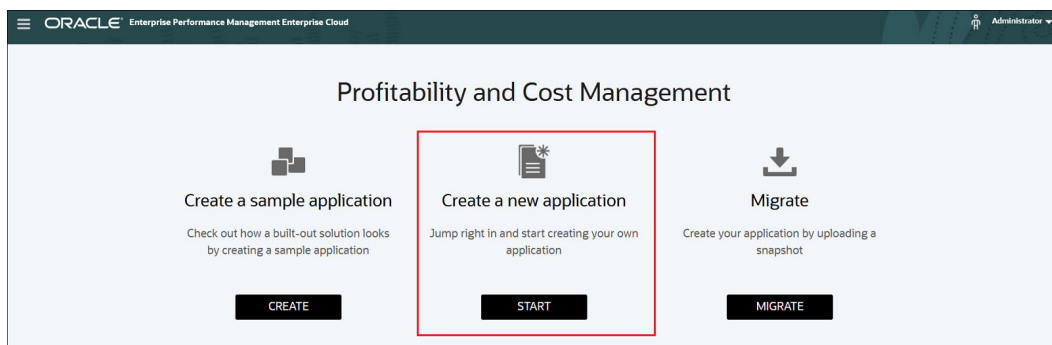
アプリケーションの作成が完了すると、「**アプリケーションは正常に作成されました**」というメッセージが表示されます。「**OK**」をクリックすると、Enterprise Profitability and Cost Management にサンプル・アプリケーションが表示されます。



新規アプリケーションの作成

新規アプリケーションを作成するには:

1. 「**新規アプリケーションを作成します**」の下の「**開始**」をクリックします。



2. 「アプリケーションの作成」ウィザードで、アプリケーションに関する次の情報を設定します:
- 名前および説明の入力
 - カレンダーの設定
 - 通貨の設定
 - アプリケーション情報のレビュー



Note:

「アプリケーションの作成」ウィザードの「ディメンション・マッピング」および「カスタマイズ」オプションは無効になっており、Enterprise Profitability and Cost Management には適用されません。

名前および説明の入力

アプリケーションの作成: 一般 ページで、アプリケーションの名前および説明を入力します。

カレンダーの設定

アプリケーションの作成: 詳細ページの「期間頻度」セクションで、アプリケーションのカレンダーを設定します。期間頻度は、「月次」、「四半期ごと」または「カスタム」に設定できます。

- **月次**—「月次」を選択した場合は、「開始年と終了年」と「会計年の最初の月」に入力します。

Create Application: Details

Back Cancel 1 2 **3** 4 5 Next

General Dimensions Mapping **Details** Customize Review

Period Frequency

Start and End year: 2021 to 2030

First Month of Fiscal Year: January

Monthly
 Quarterly
 Custom

「開始年と終了年」に入力した年により、「年」ディメンションに作成される年数が決定します。

たとえば、「開始年」が **2021** で「終了年」が **2030** の場合、「年」ディメンションは次のように構築されます:

Member Name	Parent Member	Default Data Storage	Data Type	Default Alias Table
Years		Never Share	Unspecified	
All Years	Years	Dynamic Calc	Unspecified	
FY21	All Years	Store	Unspecified	
FY22	All Years	Store	Unspecified	
FY23	All Years	Store	Unspecified	
FY24	All Years	Store	Unspecified	
FY25	All Years	Store	Unspecified	
FY26	All Years	Store	Unspecified	
FY27	All Years	Store	Unspecified	
FY28	All Years	Store	Unspecified	
FY29	All Years	Store	Unspecified	
FY30	All Years	Store	Unspecified	

「会計年の最初の月」に入力した月により、「期間」ディメンションがどのように構築されるかが決まります。「会計年の最初の月」を「1月」以外に設定する場合、会計年が「同じカレンダー年」に開始するか、「前のカレンダー年」に開始するかを指定します。

Create Application: Details

Back Cancel 1 2 **3** 4 5 Next

General Dimensions Mapping **Details** Customize Review

Period Frequency

Start and End year: 2021 to 2030

First Month of Fiscal Year: June

Fiscal Year Start Date: Same Calendar Year

Monthly
 Quarterly
 Custom

数式を使用するなどにより、カレンダー年に基づく計算を後で設定できます。アプリケーション用の式を設定する際、[TPDate]や[FirstDate]などの数式は、アプリケーションの開始が同じカレンダー年なのか前のカレンダー年なのかによって、結果が異なることに注意してください。

たとえば、「会計年の最初の月」が「6月」で「会計年の開始日」が「同じカレンダー年」の場合、「期間」ディメンションは次のように構築されます：

Member Name	Parent Member	Default Data Storage	Data Type	PCM_CLC Consol op.	PCM_REP Consol op.	Default Alias Table
Period		Never Share	Unspecified	Ignore	Ignore	
BegBalance	Period	Store	Unspecified	Ignore	Ignore	
Year Total	Period	Dynamic Calc	Unspecified	Addition	Addition	
Q1	Year Total	Dynamic Calc	Unspecified	Addition	Addition	
Jun	Q1	Store	Unspecified	Addition	Addition	
Jul	Q1	Store	Unspecified	Addition	Addition	
Aug	Q1	Store	Unspecified	Addition	Addition	
Q2	Year Total	Dynamic Calc	Unspecified	Addition	Addition	
Sep	Q2	Store	Unspecified	Addition	Addition	
Oct	Q2	Store	Unspecified	Addition	Addition	
Nov	Q2	Store	Unspecified	Addition	Addition	
Q3	Year Total	Dynamic Calc	Unspecified	Addition	Addition	
Dec	Q3	Store	Unspecified	Addition	Addition	
Jan	Q3	Store	Unspecified	Addition	Addition	
Feb	Q3	Store	Unspecified	Addition	Addition	
Q4	Year Total	Dynamic Calc	Unspecified	Addition	Addition	
Mar	Q4	Store	Unspecified	Addition	Addition	
Apr	Q4	Store	Unspecified	Addition	Addition	
May	Q4	Store	Unspecified	Addition	Addition	

- 四半期ごと—「四半期ごと」を選択した場合は、「開始年と終了年」と「最初の会計期間の開始日」に入力します。

Create Application: Details

Back Cancel Next

1 General 2 Dimensions Mapping 3 Details 4 Customize 5 Review

Period Frequency

Start and End year: 2021 to 2030

Monthly Quarterly Custom

First Fiscal Period Start Date: 6/1/2022

たとえば、「四半期ごと」を選択し、「開始年」を2021、「終了年」を2030に設定した場合、「期間」と「年」のディメンションは次のように構築されます：

Member Name	Parent Member	Default Data Storage	Data Type	PCM_CLC Consol op.	PCM_REP Consol op.	Default Alias Table
Period		Never Share	Unspecified	Ignore	Ignore	
BegBalance	Period	Store	Unspecified	Ignore	Ignore	
Year Total	Period	Dynamic Calc	Unspecified	Addition	Addition	
Q1	Year Total	Store	Unspecified	Addition	Addition	
Q2	Year Total	Store	Unspecified	Addition	Addition	
Q3	Year Total	Store	Unspecified	Addition	Addition	
Q4	Year Total	Store	Unspecified	Addition	Addition	

Member Name	Parent Member	Default Data Storage	Data Type	Default Alias Table
Years		Never Share	Unspecified	
All Years	Years	Dynamic Calc	Unspecified	
FY21	All Years	Store	Unspecified	
FY22	All Years	Store	Unspecified	
FY23	All Years	Store	Unspecified	
FY24	All Years	Store	Unspecified	
FY25	All Years	Store	Unspecified	
FY26	All Years	Store	Unspecified	
FY27	All Years	Store	Unspecified	
FY28	All Years	Store	Unspecified	
FY29	All Years	Store	Unspecified	
FY30	All Years	Store	Unspecified	

- カスタム—「カスタム」を選択した場合は、「開始年と終了年」、「年当たりの期間」および「接頭辞」に入力します。

Create Application: Details

Back Cancel

General Dimensions Mapping **Details** Customize Review Next

Period Frequency

Start and End year 2021 to 2030

Monthly

Quarterly

Custom

Periods per Year 13

Prefix TP

たとえば、「年当たりの期間」が13で「接頭辞」がTPの場合、「期間」ディメンションは次のように構築されます:

Member Name	Parent Member	Default Data Storage	Data Type	PCM_CLC Consol op.	PCM_REP Consol op.	Default Alias Table
Period		Never Share	Unspecified	Ignore	Ignore	
BegBalance	Period	Store	Unspecified	Ignore	Ignore	
YearTotal	Period	Dynamic Calc	Unspecified	Addition	Addition	
TP1	YearTotal	Store	Unspecified	Addition	Addition	
TP2	YearTotal	Store	Unspecified	Addition	Addition	
TP3	YearTotal	Store	Unspecified	Addition	Addition	
TP4	YearTotal	Store	Unspecified	Addition	Addition	
TP5	YearTotal	Store	Unspecified	Addition	Addition	
TP6	YearTotal	Store	Unspecified	Addition	Addition	
TP7	YearTotal	Store	Unspecified	Addition	Addition	
TP8	YearTotal	Store	Unspecified	Addition	Addition	
TP9	YearTotal	Store	Unspecified	Addition	Addition	
TP10	YearTotal	Store	Unspecified	Addition	Addition	
TP11	YearTotal	Store	Unspecified	Addition	Addition	
TP12	YearTotal	Store	Unspecified	Addition	Addition	
TP13	YearTotal	Store	Unspecified	Addition	Addition	

通貨の設定

「アプリケーションの作成: 詳細」画面の「その他の詳細」セクションで、アプリケーションの主要通貨を指定し、複数通貨をアプリケーションでサポートするかどうかを設定します。「複数通貨」で「はい」を選択すると、「通貨」ディメンションが作成されます。

Create Application: Details

Back Cancel 1 2 3 4 Review Next

General Dimensions Mapping **Details** Customize Review

Period Frequency

Start and End year 2021 to 2030

Monthly Quarterly Custom

First Month of Fiscal Year January

Other Details

Main Currency USD United States of America Dollar

Multicurrency Yes

主要通貨として選択した通貨は、「通貨」ディメンションの最初のメンバーになります。たとえば、「主要通貨」として **USD (米ドル)** を選択した場合、「通貨」ディメンションに次のように表示されます:

Member Name	Parent Member	Default Data Storage	Data Type	Symbol	Predefined Symbol	Scale
[-] Currency		Never Share	Unspecified			
[-] Input Currencies	Currency	Label only	Unspecified		<None>	1
USD	Input Currencies	Store	Unspecified		\$	1
[-] Reporting Currencies	Currency	Label only	Unspecified		<None>	1
USD_Reporting	Reporting Currencies	Store	Unspecified		\$	1
No Currency	Currency	Never Share	Unspecified		<None>	1

Note:

アプリケーションの作成後は、このオプションを変更できません。レベル 0 のメンバーは、基本通貨にかかわらず、複数通貨に対応できます。キューブ全体で同じ通貨と為替レートが使用されます。

アプリケーション情報のレビュー

アプリケーションの作成: レビュー・ページで、定義したアプリケーション情報をレビューした後、「作成」をクリックしてアプリケーションを作成します。

Create Application: Review

Back Cancel

1 2 3 4 5 Create

General Dimensions Mapping Details Customize Review

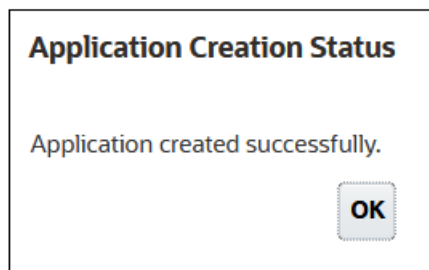
123 - Profitability
123

Start and End Period	2021-2030 (10 Years)
First Month of Fiscal Year	January
Weekly Distribution	Even Distribution

Other Details

Currency	USD
Multicurrency	Yes - Simplified
Sandboxes	Disabled
Hybrid	Enabled

アプリケーションの作成が完了すると、「**アプリケーションは正常に作成されました**」というメッセージが表示されます。「**OK**」をクリックすると、Enterprise Profitability and Cost Management にアプリケーションが表示されます。



3

アプリケーションの管理

Related Topics

- [アプリケーションの概要](#)
- [キューブの管理](#)
- [ディメンションの管理](#)
- [アクティビティ・レポートの表示](#)
- [データのインポートとエクスポート](#)
- [複数通貨アプリケーションの為替レートのインポート](#)
- [受信ボックス/送信ボックス・エクスプローラを使用したファイルのアップロードおよびダウンロード](#)
- [アプリケーション・データベースのリフレッシュ](#)
- [メタデータの検証](#)
- [アプリケーションの削除](#)

アプリケーションの概要

アプリケーションは、ビジネス・プロセスのニーズを満たすために使用される、関連する一連のディメンションとディメンション・メンバーです。各アプリケーションにはそれ自体のキューブ、ディメンション、勘定科目、エンティティ、シナリオおよび他のデータ要素があります。

アプリケーションは、一連のビジネス・プロセスのニーズを満たすために使用される、関連する一連のディメンションとディメンション・メンバーに基づきます。各アプリケーションにはそれ自体のキューブ、ディメンション、データ、モデル、計算ルールおよび分析アーティファクトがあります。

環境ごとに1つの **Enterprise Profitability and Cost Management** アプリケーションを持つことができます。アプリケーションは、単一の **ASO** 計算キューブと単一の **ASO** レポート・キューブで構成されます。最大で3つの追加キューブを使用できます。

アプリケーションを作成するには、[Enterprise Profitability and Cost Management アプリケーションの作成](#)を参照してください。


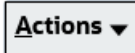
アプリケーションを作成した後、「**アプリケーション**」コンソールを使用して表示および管理できます。「**アプリケーション**」コンソールを表示するには、「**アプリケーション**」、「**概要**」の順に選択します。

「**アプリケーション**」コンソールは、次のタブで構成されます:

- **概要:** アプリケーションの名前、説明およびタイプ、アプリケーション内のデータ定義の数(ダッシュボード、フォームおよびレポート)、アプリケーション内のルールの数、アプリケーションによって使用されるキューブ。
- **キューブ:** [キューブの管理](#)を参照してください。

- [ディメンション](#): [ディメンションの管理](#)を参照してください。
- [アクティビティ・レポート](#): [アクティビティ・レポートの表示](#)を参照してください。

「アプリケーション」コンソールのいずれかのタブから、次のボタンをクリックできます:

-  最新の情報が表示されるように、「アプリケーション」コンソールをリフレッシュします。
-  ドロップダウンをクリックして、次のタスクを実行します:
 - [データのインポートとエクスポート](#)
 - [複数通貨アプリケーションの為替レートのインポート](#)(アプリケーションの作成時に通貨ディメンションを作成した場合に使用可能です。[通貨の設定](#)を参照してください。)
 - [アプリケーション・データベースのリフレッシュ](#)
 - [キューブのクリア・ジョブの作成](#)
 - [アプリケーションの削除](#)
 - [受信ボックス/送信ボックス・エクスプローラを使用したファイルのアップロードおよびダウンロード](#)

キューブの管理

Related Topics

- [Enterprise Profitability and Cost Management のキューブについて](#)
- [キューブの作成](#)
- [キューブのクリア](#)
- [キューブのパフォーマンスの向上](#)

Enterprise Profitability and Cost Management のキューブについて

Enterprise Profitability and Cost Management アプリケーションには、データとメタデータを格納するキューブが含まれます。アプリケーションのディメンション、メンバーおよびデータを管理するときは、それらをキューブに関連付けます。この関連付けにより、関連するアプリケーションのディメンション、メンバーおよびデータ値のみがキューブに含まれるようになり、そのアプリケーションの設計、サイズおよびパフォーマンスが最適化されます。

Enterprise Profitability and Cost Management には、次のキューブが事前ロードされています:

- **PCM_CLC**: このキューブを使用して、計算を実行します。
- **PCM_REP**: このキューブを使用して、データを表示し、レポートを実行します。

パフォーマンス上の理由から、**PCM_CLC** キューブのデータ量を常に少なくすることをお勧めします。データ量を少なくするために、完了した期間の計算結果を **PCM_CLC** キューブから **PCM_REP** キューブに移動してください(移動先のキューブでデータおよびレポートを表示できます)。

たとえば、1月のデータを計算して **PCL_CLC** キューブに残したままにした後、2月のデータを計算して **PCL_CLC** キューブに残すことを何か月も何年も続けるのではなく、定期的にデータを **PCM_CLC** キューブから **PCM_REP** キューブに移動して、**PCM_CLC** キューブにはアクティブに計算されたデータのみを保持することをお勧めします。

キューブを表示および管理するには:

1. Enterprise Profitability and Cost Management のホーム・ページで、「アプリケーション」、**「概要」** の順に選択します。
2. **「キューブ」** タブを選択して、タスクを実行します:
 - キューブの名前をクリックして、キューブの詳細を表示します。
 - 新しいキューブを作成します([キューブの作成](#)を参照)。
 - キューブをクリアします([キューブのクリア](#)を参照)。

**Note:**

Enterprise Profitability and Cost Management では、集約ストレージ(ASO)キューブのみを追加できます。

キューブの作成

事前にロードされた **PCM_CLC** 計算キューブおよび **PCM_REP** レポート・キューブに加えて、組織で使用する追加のキューブを作成することもできます。たとえば、カスタム・キューブを作成して、ドライバ・データを収集したり、データを計算キューブにロードする前に入力データをステージングして検証することができます。作成するキューブの数は、組織のニーズによって異なります。最大 3 つのカスタム・キューブを作成できます。

新しいキューブを作成するには:

1. ホーム・ページで、「アプリケーション」、**「概要」** の順に選択します。
2. **アプリケーション**・ページで、「**キューブ**」タブを選択します。
3. **「キューブ」** タブで、「**作成**」をクリックします。
4. **キューブの作成** ページで、キューブの「**名前**」、「**タイプ**」および「**説明**」を入力します。

Enterprise Profitability and Cost Management で追加できるのは集約ストレージ・キューブのみであるため、「**タイプ**」に「**集約ストレージ・オプション**」を選択します。新しいキューブの作成時に、集約ストレージの制限が適用されます。

5. **「完了」** をクリックします。

新しいキューブは、**PCM_CLC** キューブおよび **PCM_REP** キューブとともに「**キューブ**」タブに表示されます。

キューブを作成したら、キューブにディメンションを追加([ディメンションの管理](#)を参照)し、データベースをリフレッシュしてアプリケーションに対する変更をコミット([アプリケーション・データベースのリフレッシュ](#)を参照)します。

 **Note:**

キューブを作成した後は、名前変更や削除はできません。

キューブのクリア

Related Topics

- [キューブのクリアについて](#)
- [キューブのクリア・ジョブの作成](#)
- [キューブのクリア・ジョブの送信](#)
- [キューブのクリア・ジョブの削除](#)
- [キューブのクリア・ジョブのスケジュール](#)

キューブのクリアについて

キューブ内の特定の入力および計算データをクリアできます。キューブをクリアすると、キューブのデータをリロードまたは修正できます。たとえば、誤った交差にデータをロードした場合や、単に次のサイクルのためにキューブを準備する必要がある場合があります。

キューブのデータをクリアするためのキューブのクリア・ジョブを作成します。キューブのクリア・ジョブは、すぐに開始することも、後で実行するようスケジュールすることもできます。



 **Note:**

キューブ内の指定したデータはキューブのクリア・ジョブによってクリアされますが、アプリケーションのリレーショナル表内のキューブ定義は削除されません。

キューブのクリア・ジョブの作成

キューブのクリア・ジョブを作成するには:


1. ホーム・ページで、「[アプリケーション](#)」、「[概要](#)」の順に選択します。
2. [アプリケーション](#)・ページで、「[アクション](#)」、「[キューブのクリア](#)」の順に選択します。
3. [キューブのクリア](#)・ページで、「[作成](#)」をクリックします。
4. ジョブ名を入力し、クリアするキューブを選択します。
5. クリアするものを選択します:

- **すべてクリア:** 選択した「**クリア・オプション**」に関連付けられているキューブ内のすべてのデータをクリアします。次のものをクリアするように選択できます:
 - サポート詳細
 - コメント
 - 添付
 - Essbase データ
 - **すべての集約:** すべての集約ビューをクリアします。集約の詳細は、*Essbase データベース管理者ガイド*の**集約ストレージ・データベースの集約**を参照してください。
 - **部分データ(基本モード):** 選択した「**クリア・オプション**」に関連付けられているデータをクリアします。メンバー・セレクタ  を使用して、視点を選択します。次のものをクリアするように選択できます:
 - サポート詳細
 - コメント
 - 添付
 - Essbase データ
 - * **論理:** 指定した領域内の入力セルが負の相殺値とともに新しいデータ・スライスに書き込まれ、その結果、クリアするセルの値がゼロになります。データを論理的にクリアするプロセスは、クリアされるデータのサイズに比例した時間で完了します。相殺セルが作成されるため、このオプションではデータベースのサイズが大きくなります。
 - * **物理:** 指定した領域内の入力セルが集約ストレージ・データベースから物理的に削除されます。データを物理的にクリアするプロセスは、クリアされるデータのサイズではなく、入力データのサイズに比例した時間で完了します。したがって、この方法は通常、大きいデータ・スライスを削除する必要がある場合にのみ使用します。このオプションにより、データベースのサイズが減少します。
 - **部分データ(拡張モード):** 表示されるテキスト・ボックスで MDX 式を使用して、Oracle Essbase データのみをクリアします。「**論理**」または「**物理**」(前述の説明を参照)を選択して、データをクリアする方法を指定します。
6. 「**保存して閉じる**」をクリックします。
 7. 「**リフレッシュ**」をクリックして、「キューブのクリア」ジョブを表示します。
 8. 「キューブのクリア」ジョブを今すぐ実行するか、後で実行するかを選択します。
 - ジョブをすぐに実行するには、ジョブの横にある  をクリックし、「**送信**」を選択します。ジョブが正常に送信されたら、「**OK**」をクリックし、「**閉じる**」をクリックして「**アプリケーション**」画面に戻ります。
 - ジョブを後で実行するか、定期的に行うには、「**閉じる**」をクリックして**アプリケーション・ページ**に戻り、「**ジョブ**」コンソールでジョブをスケジュールします。実施方法の詳細は、**キューブのクリア・ジョブのスケジュール**を参照してください。

キューブのクリア・ジョブの送信


キューブのクリア・ジョブを作成したときに送信しなかった場合は、後でいつでも送信できます。

キューブのクリア・ジョブを送信するには:

1. ホーム・ページで、「**アプリケーション**」、「**概要**」の順に選択します。
2. **アプリケーション**・ページで、「**アクション**」、「**キューブのクリア**」の順に選択します。
3. **キューブのクリア**・リスト・ページで、キューブのクリア・ジョブの横にある  をクリックし、「**送信**」を選択します。

キューブのクリア・ジョブの削除

「キューブのクリア」ジョブを削除するには:

1. ホーム・ページで、「**アプリケーション**」、「**概要**」の順に選択します。
2. **アプリケーション**・ページで、「**アクション**」、「**キューブのクリア**」の順に選択します。
3. **キューブのクリア**・リスト・ページで、「**キューブのクリア**」ジョブの横にある  をクリックし、「**削除**」を選択します。

キューブのクリア・ジョブのスケジュール

キューブのクリア・ジョブを実行する時期およびジョブを実行する頻度をスケジュールできます。

キューブのクリア・ジョブをスケジュールするには:

1. 「**ジョブ**」コンソールに移動します。
キューブのクリア・ジョブを作成したばかりで、「**アプリケーション**」コンソールが表示されている場合は、画面の上部にある「**ジョブ**」アイコンを選択します。ホーム・ページが表示されている場合は、「**アプリケーション**」、「**ジョブ**」の順に選択します。
2. 「**アクション**」、「**スケジュール**」の順に選択します。
3. **ジョブのスケジュール**・ページの「**一般**」ステップで、「**キューブのクリア**」を選択してジョブの名前を入力し、ジョブを実行する時期および頻度に関する情報を入力した後に「**次**」をクリックします。

Schedule Job

Jobs are actions that you can start now or schedule to run at intervals. Follow the steps below to set up this new job.

1 General 2 Job Details 3 Review

What type of job is this?

- Import Data
- Import Metadata
- Import Cell-Level Security De
- Export Data
- Export Metadata
- Export Cell-Level Security De
- Refresh Database
- Data Map
- Invalid Intersection Reports
- Clear Cube**

When do you want to run this job?

Run Now

Schedule starting from

1/29/22 12:17 PM

(UTC-07:00) Phoenix - Mountain Time (

How often do you want to run this job?

Name Clear Cube Job

Recurrence pattern Daily

End Date 1/28/22 12:18 PM

4. 「ジョブの詳細」には、作成されているキューブのクリア・ジョブがすべてリストされます。スケジュールするキューブのクリア・ジョブを選択し、「次」をクリックします。

Schedule Job

Jobs are actions that you can start now or schedule to run at intervals. Follow the steps below to set up this new job.

1 General 2 Job Details 3 Review

Clear Cube

WARNING: The Clear Cube job deletes the data you specify within input and reporting cubes, but it does not delete the application definition in the application's relational tables.

Name

Clear Cube Job

Clear Cube Job 2

Clear Cube Job 3

5. ジョブの詳細を確認し、「終了」をクリックして、キューブのクリア・ジョブを実行します。

Schedule Job Cancel Previous Next Finish

Jobs are actions that you can start now or schedule to run at intervals. Follow the steps below to set up this new job.

General Job Details 3 Review

Review

Review your choices carefully before you finish.

Name	Clear Cube Job
Job Type	Clear Cube
Job Name	Clear Cube Job
Options	Supporting Details
Scheduled Run Time	3/24/22 9:54 AM
Repeats	Occurs Once
Scheduled End Time	"Not Applicable (N/A)"
Time Zone	Mountain Standard Time

キューブのパフォーマンスの向上

特定の期間の計算を **PCM_CLC** 計算キューブから **PCM_REP** レポート・キューブに移動して、**PCM_CLC** 計算キューブ内のデータの量を少なく保つことに加えて、キューブのパフォーマンスを向上させるために実行できるいくつかのアクションがあります。こうした最適化アクションには次のものが含まれます：

- [アウトラインの圧縮](#)
- [データ・スライスのマージ](#)
- [PCM_CLC 計算キューブの集約の最適化](#)
- [PCM_REP レポート・キューブの集約の最適化](#)



Note:

最適化の詳細は、*Oracle Enterprise Performance Management Cloud オペレーション・ガイド*の集約ストレージ・オプション・キューブの最適化を参照してください

アウトラインの圧縮

「**アウトラインの圧縮**」ジョブは、キューブのアウトライン・ファイルを圧縮します。圧縮は、アウトライン・ファイルを最適なサイズに保つのに役立ちます。アウトラインを圧縮しても、データはクリアされません。

キューブのアウトライン・ファイルを圧縮するジョブをスケジュールするには：

1. ホーム・ページで、「**アプリケーション**」、「**ジョブ**」の順に選択します。
2. **ジョブ**・ページで、「**アクション**」、「**スケジュール**」の順に選択します。
3. **ジョブのスケジュール**・ページの「**一般**」のステップで、「**アウトラインの圧縮**」を選択してジョブの名前を入力し、ジョブを実行するタイミングと頻度に関する情報を入力した後に「**次**」をクリックします。

4. 「**ジョブの詳細**」で、キューブを選択して、「**次**」をクリックします。
5. ジョブの詳細を確認してから、「**終了**」をクリックして、「**アウトラインの圧縮**」ジョブを実行します。

**Note:**

ジョブのスケジュールの詳細は、[ジョブのスケジュール](#)を参照してください。

データ・スライスのマージ

「**データ・スライスのマージ**」ジョブでは、キューブの増分データ・スライスがマージされます。スライスが少なくなると、キューブのパフォーマンスは向上します。メイン・キューブ・スライスにすべての増分データ・スライスをマージするか、メイン・キューブ・スライスを変更せずに1つのデータ・スライスにすべての増分データ・スライスをマージできます。オプションで、値がゼロのセルを削除することも可能です。

キューブの増分データ・スライスをマージするジョブをスケジュールするには:

1. ホーム・ページで、「**アプリケーション**」、「**ジョブ**」の順に選択します。
2. **ジョブ**・ページで、「**アクション**」、「**スケジュール**」の順に選択します。
3. **ジョブのスケジュール**・ページの「**一般**」ステップで、「**データ・スライスのマージ**」を選択してジョブの名前を入力し、ジョブを実行する時期および頻度に関する情報を入力した後に「**次**」をクリックします。
4. 「**ジョブの詳細**」で、キューブを選択し、すべての増分スライスをメイン・スライスにマージするか1つの増分スライスにマージするかを選択して、ゼロ値のセルを保持するか削除するかを選択します。
5. ジョブの詳細を確認し、「**終了**」をクリックして、「**データ・スライスのマージ**」ジョブを実行します。

**Note:**

増分データ・スライスをマージすると、このアクションを元に戻すことはできません。

**Note:**

ジョブのスケジュールの詳細は、[ジョブのスケジュール](#)を参照してください。

PCM_CLC 計算キューブの集約の最適化

Enterprise Profitability and Cost Management 計算キューブ(PCM_CLC)の集約を最適化するには:

1. ホーム・ページで、「**モデリング**」、「**計算コントロール**」の順に選択します。

2. 視点を選択し、「モデルの計算」をクリックします。
3. 「モデルの計算」ダイアログ・ボックスで、「レポート用の最適化」を選択します。

ほとんどの場合、集約ニーズには「レポート用の最適化」オプションで十分です。

PCM_REP レポート・キューブの集約の最適化

Enterprise Profitability and Cost Management レポート・キューブ(PCM_REP)で集約を最適化するには、「集約の最適化」ジョブが便利です。このジョブでは、キューブで収集された問合せトラッキング情報に基づいて、最適化されたビューが生成されます。このジョブには2つのアクションがあります。

Enterprise Profitability and Cost Management レポート・キューブ(PCM_REP)の集約を最適化するには:

1. ホーム・ページで、「アプリケーション」、「ジョブ」の順に選択します。
2. ジョブ・ページで、「アクション」、「スケジュール」の順に選択します。
3. ジョブのスケジュール・ページの「一般」ステップで、「集約の最適化」を選択してジョブの名前を入力し、ジョブを実行する時期および頻度に関する情報を入力した後に「次」をクリックします。
4. 「ジョブの詳細」で、キューブを選択し、問合せトラッキングを有効にするか、集約プロセスを実行するかを選択します。
 - **問合せトラッキングの有効化:** 有用な一連の問合せを記録したうえで、記録した問合せデータを使用して、キューブ用に生成するのに最も適した集約ビューのセットを選択します。問合せデータに基づいて集約プロセスを実行するには、問合せトラッキングを有効にし、データ収集に十分な時間を取る必要があります。

有効にすると、問合せトラッキングが無効になるか、キューブがリロードまたはリフレッシュされるか、アウトラインが圧縮されるか、アプリケーションが終了されるか、あるいはこのキューブに追加の集約ビューが生成されるまで、問合せトラッキングが続行されます。これらのアクションの実行後、問合せトラッキングは自動的に再開されません。

次のアクションを実行すると、保存されている問合せトラッキング情報が集約ストレージ・キューブからクリアされますが、問合せトラッキングは無効になりません。

- 増分データ・スライスのマージ
 - データのクリア
 - 既存の集約のクリア
 - 部分データのクリア
 - 集約ストレージ・キューブへのデータのロード
- **集約プロセスの実行:** データが含まれ、ユーザーに計算権限が付与されている集約ストレージ・キューブに対して集約を計算します。

集約を実行するには、システム推奨のビューを使用します。ビューの選択と集約のプロセスをまとめて、サーバーによって実行される 1 つの構成不可能な操作にします。オプションで、生成されるファイルの最大ディスク・スペースを指定し、ユーザー問合せパターンに基づいてビューの選択を行い、ビュー選択にロールアップ階層を含めることができます。

次の 1 つ以上のオプションを選択します。

- **問合せデータを基準にしますか?** 収集されたユーザー問合せパターンに基づいて、サーバーで選択されるビューを集約します。このオプションは、問合せトラッキングがオンになっている場合にのみ使用可能です。
 - **ロールアップ・オプションを含めますか?** セカンダリ階層(デフォルトのレベルの使用方法)をビュー選択プロセスに含めます。
 - **成長サイズ・オプションを含めますか?** 指定した集約キューブの成長限度を超えるまで、サーバーで選択されるビューを集約します。サーバーがそれを超えると集約を停止する必要があるサイズ(比率)を入力します。
5. ジョブの詳細を確認し、「終了」をクリックして、「**集約の最適化**」ジョブを実行します。

**Note:**

ジョブのスケジュールの詳細は、[ジョブのスケジュール](#)を参照してください。

ディメンションの管理

Related Topics

- [ディメンションの概要](#)
- [ディメンションの設計時のベスト・プラクティス](#)
- [ディメンションの作成](#)
- [ディメンションのレビュー](#)
- [簡易ディメンション・エディタへのアクセス](#)
- [ディメンション・プロパティの編集](#)
- [メンバーの操作](#)
- [属性の操作](#)

- [ディメンション・メタデータのインポートおよびエクスポート](#)

ディメンションの概要

Related Topics

- [Enterprise Profitability and Cost Management のディメンションおよびメンバーについて](#)
- [ディメンションの階層について](#)
- [階層タイプ](#)
- [ディメンションの最上位レベル](#)

Enterprise Profitability and Cost Management のディメンションおよびメンバーについて

Enterprise Profitability and Cost Management アプリケーションには、組織内のデータのカテゴリを表すディメンションが含まれます。たとえば、期間ディメンションの年合計、Q1、1月などの期間を識別します。勘定科目ディメンションの費用の販売管理費(SG&A)などの予算計上済アイテムを識別して、エンティティ・ディメンションの組織の部署を識別します。

メンバーはディメンションのコンポーネントです。組織の要件に基づいて、ディメンションおよびメンバーを追加します。

Enterprise Profitability and Cost Management は、次のディメンションで構成されます:

- 年、期間、シナリオおよびバージョンの POV ディメンション(必須)
- エンティティ・ディメンションおよび勘定科目ディメンション(必須)
- 残高およびルールのシステム・ディメンション(必須)
- 最大 10 個のカスタム・ディメンション
- 最大 40 個の属性ディメンション

Note:

アプリケーションの作成時に「**複数通貨**」オプションを選択すると、通貨ディメンションが作成されます。[通貨の設定](#)を参照してください。

Note:

エンティティ・ディメンションおよび勘定科目ディメンションは、カスタム・ディメンションとともに、**ビジネス・ディメンション**と呼ばれます。

ディメンションの階層について

ディメンション階層により、メンバー間の関係および連結が定義されます。関係は、グラフィカルな階層図式で表示されます。

Enterprise Profitability and Cost Management の階層では、ディメンションは階層の最上位であり、その下のレベルはディメンションのメンバーです。その下のレベルのメンバーは、親と呼ばれます。特定の親の下の同じレベルのメンバーは、親との関係では子と呼ばれ、相互の関係では兄弟と呼ばれます。親の下のすべてのレベルのメンバーは、子孫と呼ばれます。

次の例では、期間ディメンションに「年合計」子メンバーがあります。「年合計」メンバーには、四半期を表す Q1、Q2、Q3、および Q4 の子メンバーがあります。四半期には、対応する月の子メンバーがあります。月次のデータ値は四半期にロールアップし、四半期のデータ値は年合計にロールアップします。

Member Name	Parent Member
▣ Period	
BegBalance	Period
▣ YearTotal	Period
▣ Q1	YearTotal
Jan	Q1
Feb	Q1
Mar	Q1
▣ Q2	YearTotal
Apr	Q2
May	Q2
Jun	Q2
▣ Q3	YearTotal
Jul	Q3
Aug	Q3
Sep	Q3
▣ Q4	YearTotal
Oct	Q4
Nov	Q4
Dec	Q4

階層タイプ

Enterprise Profitability and Cost Management では、次に示す 2 つのタイプのディメンション階層を作成できます：

- 保管階層

- メンバーは、アウトライン構造に従って集約されます。
 - 集約ストレージ・データベースは集約のために最適化されているため、保管階層のデータ値の集約は非常に高速です。
 - 保管階層は式を持つことはできません。
 - 保管階層のすべてのメンバーは、"+"または"-集計を使用する必要があります。
 - 共有メンバーは 2 番目の階層以降でサポートされます。
- **動的階層**
 - メンバーおよび式は集約ではなく計算されます。
 - 動的階層が計算されるため、保管階層からデータを取得する場合よりも、データの取得時間が長くなる場合があります。
 - 動的階層は式を持つことができます。
 - 動的階層には、任意の集計演算子を含めることができます。
 - 動的階層は慎重に使用します。それらは主に、式または"-集計を必要とするメンバーの分離に使用されます。

ディメンションには、両方のタイプの階層を含めることができます。ディメンションで複数の階層を使用するには(すべて保管階層の場合も)、そのディメンションで複数の階層を有効にする必要があります。複数の階層を使用する場合、最初の階層は保管である必要があります。

階層タイプは、「[ディメンション・プロパティの編集](#)」タブで設定します。詳細は、[ディメンション・プロパティの編集](#)を参照してください。

ディメンションの最上位レベル

ディメンションの最上位レベルはユーザビリティに影響します:

- 最初の階層のすべてのデータ用に設計して、ディメンションの最上位にロールアップします
- プライマリ階層で「合計」、「すべて」およびなしメンバーを使用します
 - 実際のメンバーが関連付けられているかどうかに関係なく、「合計」メンバーはすべてのデータを含みます
 - 「すべて」メンバーはプライマリ階層を含みます
 - なしメンバーは、ディメンションのメンバーにまだ割り当てられていないか、今後割り当てられないデータに使用されます
- 代替階層は最上位にロールアップしないでください

これらの選択により、次のことが容易になります:

- ルールの定義
- 組込みレポート(ステージ・バランシング、トレース、利益曲線)の使用
- Smart View および他のレポート・ツールの使用

ディメンションの設計時のベスト・プラクティス

- 動的ディメンションは慎重に使用します。集約が遅く、レポートおよび計算の両方の速度に影響します。保管ディメンションは最善の選択です。[階層タイプ](#)を参照してください。
- 保管ディメンションを作成するとき、共有メンバーは2番目の階層以降でのみ許可されることに注意してください。
- ディメンションの最上位レベルがユーザビリティにどのように影響するかを理解します。[ディメンションの最上位レベル](#)を参照してください。
- 将来のディメンションの成長を可能にします。
- 中間ステップのディメンションまたはデータ分類ディメンションの必要性を見落とさないようにします。

ディメンションの作成

ディメンションを作成するには:

1. ホーム・ページで、「**アプリケーション**」, 「**概要**」の順に選択します。
2. **アプリケーション**・ページで、「**ディメンション**」タブを選択します。
3. 「**キューブ**」の横にあるドロップダウンをクリックし、ディメンションを追加するキューブを選択します。
4. 「**作成**」をクリックします。
5. **ディメンションの作成**ページで、次の情報を入力します:
 - **ディメンション**: すべてのディメンションで一意である名前を入力します。[ディメンション、メンバーおよび別名の名前付けの制限](#)を参照してください。
 - **説明: オプション**: 説明を入力します。
 - **別名表**: 別名表を選択します。
 - **別名: オプション**: ディメンションの代替名を入力します。
 - **2パス計算**: Enterprise Profitability and Cost Management では適用されません。
 - **セキュリティの適用**: ディメンション・メンバーにセキュリティの設定を行います。ディメンション・メンバーにアクセス権を割り当てる前に選択する必要があります。そうしない場合、ディメンションにセキュリティがかからないため、ユーザーは無制限にメンバーをアクセスさせることができます。
 - **データ・ストレージ**: データ・ストレージ・オプションを選択します。

ノート: 「データ・ストレージ」設定は、ディメンション自体にのみ適用され、ディメンション内のすべてのメンバーには適用されません。

 - **保管**: メンバーのデータ値を保管します。
 - **動的計算および保管**: Enterprise Profitability and Cost Management では適用されません。
 - **動的計算**: メンバーのデータ値を計算します。「動的計算」オプションは、属性メンバーにのみ適用されます。
 - **共有しない**: 1つの子のみが親に集約される場合、親と子のメンバー間での暗黙の共有を禁止します。

- **ラベルのみ:** メンバーに関連付けられたデータがありません。
 - **表示オプション:** 「メンバー選択」ダイアログ・ボックスのアプリケーションのデフォルト表示オプションを設定します。メンバー・セレクトタの使用を参照してください。
 - **階層タイプ:** ディメンションの初回作成時は、階層タイプを設定できません。ディメンションの作成後に設定できます。ディメンション・プロパティの編集を参照してください。
6. 目的のキューブの横にある「使用可能」を選択して、ディメンションを使用するキューブを選択します。
 7. 「完了」をクリックします。

ディメンションのレビュー

アプリケーションのディメンションを確認するには:

1. ホーム・ページで、「アプリケーション」, 「概要」の順に選択します。
2. アプリケーション・ページで、「ディメンション」タブを選択します。

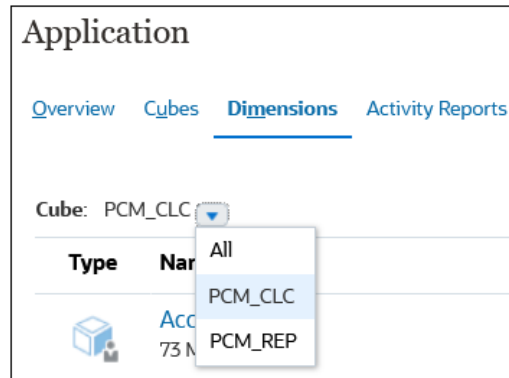
ディメンションと、それぞれのディメンションに割り当てられているメンバーの数がキューブごとに表示されます。

Type	Name	Order	Evaluation Order	Modified
Account	Account 73 Members	^ v	-	3/3/22 epm_default_cloud,
Period	Period 18 Members	^ v	-	3/3/22 epm_default_cloud,
Activity	Activity 32 Members	^ v	-	3/3/22 epm_default_cloud,
Customer	Customer 1687 Members	^ v	-	3/3/22 epm_default_cloud,
Driver	Driver 3 Members	^ v	-	3/3/22 epm_default_cloud,
Years	Years 11 Members	^ v	-	3/3/22 epm_default_cloud,
Entity	Entity 20 Members	^ v	-	3/3/22 epm_default_cloud,
Version	Version 4 Members	^ v	-	3/3/22 epm_default_cloud,

キューブによるディメンションのフィルタ

ディメンション・ビューをキューブでフィルタできます。キューブを選択すると、そのキューブで使用されているディメンションのみが表示されます。

ディメンション・ビューをキューブでフィルタするには、「キューブ」ドロップダウン・リストから「すべて」またはキューブ名を選択して、どのディメンションを表示するかを選択します。

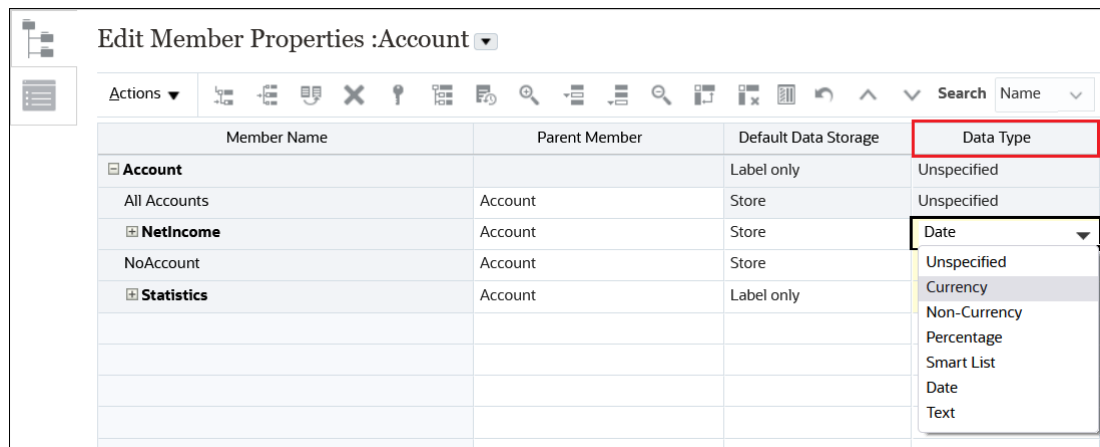


キューブでフィルタしたら、ディメンションの優先順序および評価順を指定できます。

優先順序およびデータ評価順の設定

ディメンションは、優先順にリストされます。ディメンションの順序は、ビジネス・プロセスの構造およびパフォーマンスにとって重要です。ディメンションの順序により、データ計算がどのように実行されるかが決定されます。ディメンションを戦略的に分類して順序付けることで、パフォーマンスを向上させることができます。

「評価順」により、データ交差にデータ型の競合がある場合に優先されるデータ型を指定できます。たとえば、勘定科目メンバーが通貨データ・タイプに設定され、製品メンバーがスマート・リスト・データ・タイプに設定されている場合、通貨またはスマート・リスト・データ・タイプのどちらが交差時に優先かを設定できます。データ型は、**メンバー・プロパティの編集** ページで指定します。「**データ型**」列のセルで下矢印をクリックして、データ型を選択します。[メンバー・プロパティの編集](#)を参照してください。



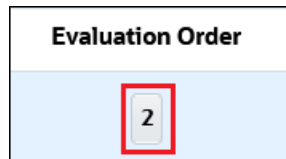
優先順序およびデータ評価順は、キューブごとに設定します。キューブを選択して、「**順序**」および「**評価順**」列を「**ディメンション**」タブに表示する必要があります。

優先順序を設定するには、「**順序**」列でディメンションの横にある上矢印および下矢印



を使用して、ディメンションを上下に移動します。

ディメンションの評価順を設定するには、「**評価順**」列でディメンションの横にある四角形をクリックします。



四角形が評価順におけるディメンションの位置で更新されます。

選択したディメンションを除外する場合は、四角形を再度クリックして元の状態に戻します。



簡易ディメンション・エディタへのアクセス

簡易ディメンション・エディタを使用して、ディメンションおよびメンバーのプロパティを編集します。

簡易ディメンション・エディタにアクセスするには:

1. ホーム・ページで、「アプリケーション」,、「概要」の順に選択します。
2. **アプリケーション**・ページで、「ディメンション」タブを選択します。
3. キューブを選択してから、ディメンションの名前をクリックします。

簡易ディメンション・エディタが開き、**メンバー・プロパティの編集**ページが表示されます。

4. 次のタブ間を移動します:



「**メンバー・プロパティの編集**」(ここではディメンション・メンバーを表示および編集できます)。 [メンバー・プロパティの編集](#)を参照してください。



「**ディメンション・プロパティの編集**」(ここではディメンションの詳細を表示および編集できます)。 [ディメンション・プロパティの編集](#)を参照してください。

Note:


簡易ディメンション・エディタでのディメンションの管理に加えて、「ナビゲータ」メニューからアクセスするクラシック・ディメンション・エディタでディメンションを管理することもできます。

ディメンション・プロパティの編集

Note:

ディメンション・プロパティは、[ディメンション](#)、[メンバー](#)および[別名](#)の名前付けの制限にあるガイドラインに適合させてください。

ディメンション・プロパティを編集するには:

1. ホーム・ページで、「[アプリケーション](#)」および「[概要](#)」の順に選択します。
2. [アプリケーション](#)・ページで、「[ディメンション](#)」タブを選択します。
3. キューブを選択し、編集するディメンションの名前をクリックします。
4.  (「[ディメンション・プロパティの編集](#)」タブ)をクリックします。
5. 選択したディメンションのプロパティ・ページで、次のプロパティを表示または変更します:
 - **ディメンション:** このフィールドには、ディメンションの名前が表示されます。勘定科目、シナリオ、バージョン、エンティティ、または残高とルール of システム・ディメンションのディメンション名は変更できません。また、年および期間のディメンションのディメンション名を変更することはお勧めしません。
 - **説明: オプション:** ディメンションの説明。
 - **「別名表」および「別名」: オプション:** 別名表を選択します。ディメンションの代替名を入力します。
 - **2 パス計算:** Enterprise Profitability and Cost Management では適用されません。
 - **セキュリティの適用:** ディメンション・メンバーにセキュリティの設定を行います。ディメンション・メンバーにアクセス権を割り当てる前に選択する必要があります。そうしない場合、ディメンションにセキュリティがかからないため、ユーザーは無制限にメンバーをアクセスさせることができます。
 - **データ・ストレージ:** ディメンションの作成時に選択したデータ・ストレージ・オプションが表示されます。データ・ストレージ・オプションを設定した後は変更できません。
 - **表示オプション: 「メンバー選択」** ダイアログ・ボックスのアプリケーションのデフォルト表示オプションを設定します。[メンバー・セレクタの使用](#)を参照してください。
 - **階層タイプ:** 階層タイプを選択します。有効なオプションは次のとおりです:
 - **設定しない**—階層タイプは設定されません。
 - **保管済**—メンバーのデータ値を保管します。保管階層のメンバーは、アウトライン構造に従って集約されます。集約ストレージ・データベースは集約のために最適化されているため、保管階層のデータ値の集約は非常に高速です。保管階層は式を持つことはできません。
 - **動的**—メンバーのデータ値を計算します。動的階層が計算されるため、保管階層からデータを取得する場合よりも、データの取得時間が長くなる場合があります。

ただし、動的階層には任意の集計演算子を含めることができ、式を含めることができます。

- **複数**—ディメンションに複数の階層が含まれます。ディメンションには、保管階層と動的階層の両方を含めることができます。
6. **「キューブ」** セクションで、ディメンションが有効になっているキューブを選択します。このオプションをクリアすると、ディメンションのすべてのメンバーが、選択を解除したキューブに対して無効になります。
 7. **オプション: 「カスタム属性」** の場合は、「作成」をクリックして、ディメンションのカスタム属性を作成します。「属性の作成」ダイアログ・ボックスで、属性名を入力し、データ型を選択します。[属性の操作](#)を参照してください。
 8. ディメンション・プロパティの編集が終了したら、「完了」をクリックします。

メンバーの操作

Related Topics

- [ディメンションへのメンバーの追加](#)
- [<dimname>なしメンバーの追加](#)
- [メンバー・プロパティの編集](#)
- [メンバーの削除](#)
- [共有メンバーの追加](#)
- [ディメンション・メンバーへのアクセス権の割当て](#)
- [「メンバー・プロパティの編集」グリッドでの作業](#)

ディメンションへのメンバーの追加

ディメンションにメンバーを追加するには:

1. ホーム・ページで、「アプリケーション」, 「概要」の順に選択します。
2. **アプリケーション**・ページで、「ディメンション」タブを選択します。
3. キューブを選択してから、メンバーを追加するディメンションの名前をクリックします。
4. **メンバー・プロパティの編集**ページで、次のいずれかのタスクを実行します:
 - 子メンバーを追加するには、親レベルのメンバーを選択し、「アクション」ドロップダウンを選択して、「子の追加」を選択します。
 - 兄弟メンバーを追加するには、メンバーを選択し、「アクション」ドロップダウンを選択して、「兄弟の追加」を選択します。

[ディメンション、メンバーおよび別名の名前付けの制限](#)を参照してください。

5. メンバー・プロパティを設定または変更するには、「**メンバー・プロパティの編集**」グリッドでセルをクリックし、更新します。
6. **オプション:** 異なるディメンションにメンバーを追加するには、**メンバー・プロパティの編集**ページ上部のディメンション名の横にある矢印をクリックして、別のディメンションを選択します。
7. 「保存」をクリックします。

No<dimname>メンバーの追加

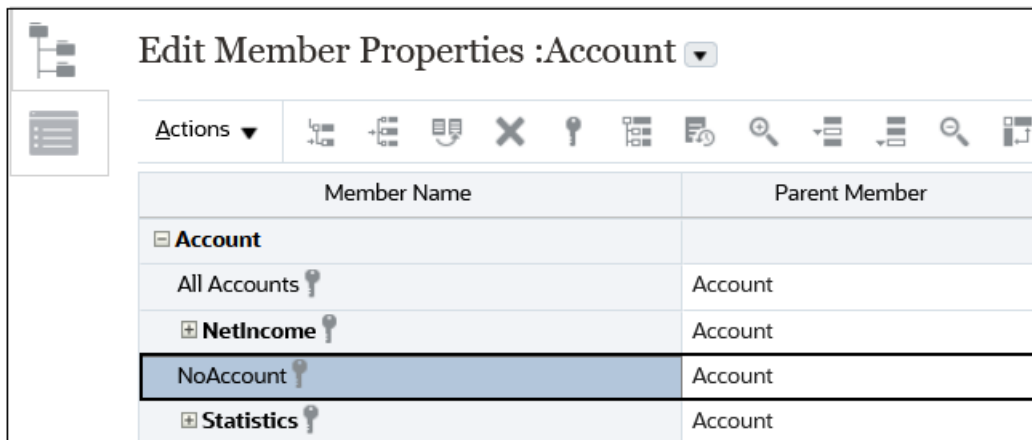
Enterprise Profitability and Cost Management でルールを作成するときは、ルールのすべてのディメンションにメンバーを割り当てる必要があります。[ルールの作成時のディメンションおよびメンバーの要件](#)を参照してください。

ルール内の関連しないディメンションについても、メンバーを割り当てる必要があります。この場合、No<dimname>メンバーを割り当てます(ここで、<dimname>は、メンバーを追加するディメンションの名前です)。

ベスト・プラクティスとして、ルールの作成中にメンバーが使用可能になるように、ルールの作成を開始する前に、次のディメンションに対して No<dimname>メンバーを設定する必要があります:

- エンティティ
- 勘定科目
- 通貨(複数通貨アプリケーションがある場合)
- 作成したすべてのカスタム・ディメンション

次の例では、**NoAccount** メンバーが勘定科目ディメンションに割り当てられています。



Member Name	Parent Member
Account	
All Accounts	Account
NetIncome	Account
NoAccount	Account
Statistics	Account

メンバー・プロパティの編集

メンバー・プロパティの編集ページには、グリッド形式でディメンションとメンバーが表示されます。グリッド形式では、ディメンションとメンバーを 1 つのページで編集できます。メンバーのプロパティはグリッド上で直接編集でき、ズームイン、ズームアウト、選択項目の保持、選択項目の削除、凍結などのアドホック操作を実行できます。

メンバー・プロパティを編集するには:

1. ホーム・ページで、「アプリケーション」, 「概要」の順に選択します。
2. アプリケーション・ページで、「ディメンション」タブを選択します。
3. キューブを選択してから、メンバー・プロパティを編集するディメンションの名前をクリックします。

4. **メンバー・プロパティの編集** ページで、グリッド・セル内をクリックしてテキストを編集するか、ドロップダウン・メニューを表示して、そこからメンバー・プロパティを選択します。

グリッドの各列は、メンバー・プロパティを表します。最初に表示される列は、編集しているディメンションによって異なります。列のレイアウトは、列を非表示、表示またはサイズ変更することでカスタマイズできます。列レイアウトのカスタマイズを参照してください。

メンバーの削除


各データ値は、一連のディメンション・メンバー値とキューブによって識別されます。メンバーのプロパティでディメンション・メンバーを削除したり、キューブを選択解除すると、アプリケーションをリフレッシュするときにデータが失われます。

メンバーを削除する前に、それらが使用されているアプリケーション内の場所(フォーム、承認ユニット、為替レートなど)を確認することが重要です。これを行うには、「**メンバー・プロパティの編集**」グリッドでメンバーを選択し、「**アクション**」をクリックして、「**用途の表示**」を選択します。

エンティティ・メンバーをディメンションから削除する前に、アプリケーション全体でそれを削除する必要があります。たとえば、エンティティ・メンバーがフォームで使用されている場合には、そのエンティティ・メンバーをディメンションから削除する前に、フォームから削除する必要があります。

既存のルールで参照されるディメンションからメンバーを削除すると、ルールを実行できません。

メンバーを削除するには:

1. ホーム・ページで、「**アプリケーション**」, 「**概要**」の順に選択します。
2. **アプリケーション**・ページで、「**ディメンション**」タブを選択します。
3. キューブを選択し、削除するメンバーを含むディメンションの名前をクリックします。
4. **メンバー・プロパティの編集** ページで、削除するメンバーを選択し、 「**メンバーの削除**」アイコンをクリックします。

Note:

基本メンバーを削除すると、その子孫および関連付けられている共有メンバーも削除されます。

5. 「**メンバーの削除**」確認ウィンドウで、「**OK**」をクリックします。

共有メンバーの追加

メンバーを共有すると、アプリケーション内でロールアップ構造の入れ替えが行えます。共有メンバーを追加した場合は、次の点に留意してください:

- 共有メンバーを作成する前に基本メンバーが存在している必要があります。基本メンバーに複数の共有メンバーを作成できます。上から下への表示位置では、基本メンバーはその共有メンバーより先に表示されている必要があります。

- 共有メンバーは、エンティティ、勘定科目、ユーザー定義のカスタム・ディメンションに使用できます。アウトラインをロールアップする際、共有メンバーの値を無視して二重計算を防ぐことができます。
- 共有メンバーは、メンバーに有効なメンバー名、別名、基本通貨、キューブなどのいくつかのプロパティ定義を基本メンバーと共有します。共有メンバーには、一意の親メンバーおよび異なるロールアップ集約を設定する必要があります。カスタム属性、カスタム属性値およびメンバー式を共有メンバーに使用することはできません。基本メンバーの名前を変更すると、すべての共有メンバーの名前も変更されます。
- 共有メンバーには、基本メンバーと同じ名前が必要です。基本メンバー名も共有メンバー名も大文字と小文字を区別します。
- 共有メンバーを別の親メンバーに移動させることはできません。共有メンバーを削除してから、別の親メンバーの下に再度作成する必要があります。基本メンバーはレベル 0 である必要はありません。共有メンバーにデータを入力し、値を基本メンバーとともに保管できます。

共有メンバーを追加するには:

- ホーム・ページで、「アプリケーション」、「概要」の順に選択します。
- アプリケーション・ページで、「ディメンション」タブを選択します。
- キューブを選択してから、メンバーを追加するディメンションの名前をクリックします。
- 「メンバー・プロパティの編集」で、共有メンバーを追加します:
 - 基本メンバーと同じ名前で、子メンバーを追加します。
 - 新規メンバーの「親の名前」に、新しい親の名前を入力します。
 - 新規メンバーの「デフォルトのデータ・ストレージ」で、「共有」を選択します。
- 「保存」をクリックします。

他のキューブすべてのデータ・ストレージ・プロパティが、自動的に「共有」に設定されます。



Note:

共有メンバーのアクセス権限の詳細は、[共有メンバーへの有効なアクセス権について](#)を参照してください。

ディメンション・メンバーへのアクセス権の割当て

Related Topics



- [メンバーに対するアクセス権の追加、編集および削除](#)
- [共有メンバーへの有効なアクセス権について](#)

メンバーに対するアクセス権の追加、編集および削除

選択したメンバーにアクセスできるユーザーおよびグループを指定できます。

メンバーのアクセス権限の割当て、編集および削除を行うには:

- ホーム・ページで、「アプリケーション」、「概要」の順に選択します。

2. **アプリケーション**・ページで、「**ディメンション**」タブを選択します。
3. キューブを選択してから、メンバー・プロパティを編集するディメンションの名前をクリックします。
4. **メンバー・プロパティの編集**ページで、メンバーを選択し、 («**権限の割当**」アイコン)をクリックします。
5. **「権限の割当」** ダイアログ・ボックスで、「**権限**」タブを選択します。
6. **「ユーザー/グループの追加」** をクリックして、権限を追加するユーザーまたはグループを選択します。
「ユーザー」 をクリックしてすべてのユーザー名を表示するか、「**グループ**」をクリックしてすべてのグループを表示します。あるいは、 をクリックして、特定のユーザーまたはグループを検索します。
ユーザーまたはグループを選択したら、「**OK**」をクリックして、「**権限**」タブにユーザーまたはグループを追加します。
権限を追加するすべてのユーザーおよびグループを選択したら、「**閉じる**」をクリックします。
7. **「権限」** タブで、選択したユーザーおよびグループに権限を割り当てます。
 - **権限:** **「読取り」**、**「書込み」** または **「なし」** を選択します
 - **関係:** 関係を選択します。たとえば、「**子**」を選択して、選択したメンバーの子にアクセス権を割り当てます。
8. **「保存」**、**「OK」** の順にクリックして、権限を保存します。
9. **「取消」** をクリックして、「**権限の割当**」ダイアログ・ボックスを閉じます。

共有メンバーへの有効なアクセス権について

共有メンバーに対して直接アクセス権を割り当てることはできません。共有メンバーは、その基本メンバー、親または祖先からアクセス権限を継承します。

アプリケーションでは、メンバーのアクセス権限継承関係に基づき、最初にユーザー、次にグループという順でアクセス権限が各レベルで確認されます。複数のアクセス権限が存在する場合、最も制限の少ないアクセス権限が適用されます(たとえば、書込みアクセスは読取りアクセスより優先されます)。

サンプルの親および子エンティティ・メンバー

- + **United States**
 - CA (base)
 - NY
- + **West**
 - CA (shared)
 - NV
- + **Sales Region 1**
 - CA (shared)

Table 3-1 共有メンバーへの継承されたアクセス権の例

ケース	アクセス権	基本および共有メンバー CA への有効なアクセス権	説明
ケース 1	CA (ベース) = なし iDescendants (西部) = 読取り	読取り	「読取り」は「なし」よりも制限が少ないため、CA は West の親から「読取り」アクセス権を継承します。
ケース 2	iDescendants (米国) = なし iDescendants (西部) = 読取り iDescendants (営業地域 1) = 書込み	書込み	「書込み」は「読取り」および「なし」よりも制限が少ないため、CA は営業地域 1 の親から「書込み」アクセス権を継承します。
ケース 3	iDescendants (米国) = 書込み iDescendants (西部) = なし iDescendants (営業地域 1) = 読取り	書込み	「書込み」は「読取り」および「なし」よりも制限が少ないため、CA は米国の親から「書込み」アクセス権を継承します。

「メンバー・プロパティの編集」グリッドでの作業

Related Topics

- [他のディメンションへの切替え](#)
- [列レイアウトのカスタマイズ](#)
- [祖先の表示](#)
- [アプリケーションでのメンバーの用途の表示](#)
- [編集のフォーカス](#)
- [メンバーの検索](#)
- [メンバーの移動](#)
- [メンバーのソート](#)
- [メンバー式の操作](#)
- [Microsoft Excel からのメンバー名のコピー](#)

他のディメンションへの切替え

グリッドでメンバーを操作しているときに別のディメンションに切り替えるには、ページの上部のディメンション名の横にある下矢印をクリックして、ディメンションを選択します。

列レイアウトのカスタマイズ

グリッドの各列は、メンバー・プロパティを表します。最初に表示される列は、編集しているディメンションによって異なります。グリッドの列のレイアウトは、列を非表示、表示、移動またはサイズ変更することでカスタマイズできます。

列のレイアウトをカスタマイズするには、列見出しを右クリックし、グリッドで非表示または表示する列のチェック・ボックスを選択またはクリアします。

メンバー・プロパティの完全なセットを表示するには、列見出しを右クリックし、「**デフォルト・モード**」の横にあるチェック・ボックスをクリアします。一般的に使用されるプロパティのサブセットのみを表示するには、「**デフォルト・モード**」を選択します。

スクロールせずにすべての列がグリッドに表示されるように列のサイズを変更するには、列見出しを右クリックし、「**列の自動調整**」を選択します。

祖先の表示

祖先はすべて、ディメンション階層で選択したメンバーより上位のメンバーです。

メンバーの祖先を表示するには:

1. グリッドでメンバーを選択します。
2. 「**アクション**」をクリックして、「**祖先の表示**」を選択します。

アプリケーションでのメンバーの用途の表示

メンバーの削除などの操作を実行する前に、メンバーが使用されるアプリケーション内の場所を理解することが重要です。

アプリケーション内でメンバーが使用される場所を表示するには:

1. グリッドでメンバーを選択します。
2. 「**アクション**」をクリックして、「**用途の表示**」を選択します。

編集のフォーカス

グリッドの特定のメンバーに編集のフォーカスを絞るには、メンバーを選択し、「**アクション**」をクリックして、次のいずれかのズーム操作を選択します:

- **次のレベルへズーム・イン:** 選択したメンバーの 1 レベル下にあるすべてのメンバーを表示します
- **すべてのレベルへズーム・イン:** 選択したメンバーの下にあるすべての子孫メンバーを表示します
- **最下位レベルへズーム・イン:** 選択したメンバーの下にあって、子を持たないすべての子孫メンバーを表示します
- **ズーム・アウト:** 選択したメンバーの 1 レベル上にあるメンバーを表示します



グリッドの特定の行または列に編集のフォーカスを絞るには、行または列を選択し、操作を選択します:

- **選択項目の保持:** 選択した行または列のみをグリッドに表示します



- **選択項目の削除:** 選択した行または列をグリッドから削除します
- **凍結(列のみ):** 選択した列と、選択した列の左にあるすべての列を固定し、それらの列をスクロールできないようにします。固定した列の右側のみがスクロールできるようになります。たとえば、メンバー名を含む最初の列のみに固定すると、メンバー名が表示されたまま、右にスクロールしてメンバーのプロパティを編集できます。列を凍結解除するには、「凍結」をもう一度クリックします。

メンバーの検索

グリッドでメンバーを検索するには:

1. グリッド上部の「検索」の横にあるドロップダウンをクリックし、「名前」、「別名」または「両方」を選択します。
2. 検索する検索テキスト(メンバーの名前、別名または文字列の一部)を入力します。
3.  («上方向に検索»)または  («下方向に検索»)をクリックします。



メンバーの移動

グリッド内でメンバーを移動するには、メンバーを選択し、 をクリックしてメンバーを 1 つ上の位置に移動したり、 をクリックしてメンバーを 1 つ下の位置に移動します。メンバーの移動はアウトラインに影響を及ぼします。


メンバーのソート

子または子孫による昇順または降順でメンバーをソートできます。メンバーのソートはアウトラインに影響を及ぼします。たとえば、ユーザーが簡易ディメンション・エディタで階層内のメンバーを迅速に見つけることができるように、子メンバーのリストを降順でソートして、アルファベット順に表示できます。

グリッドでメンバーをソートするには:

1. 子または子孫をソートするメンバーを選択します。
2. 「ソート」ドロップダウンで、「子」または「子孫」を選択します。
3. 昇順でソートする場合は  をクリックし、降順でソートする場合は  をクリックします。

Note:

- ページの上部に「ソート」オプションが表示されていない場合は、 をクリックします
- 子でソートする場合は、選択したメンバーの真下のレベルにあるメンバーのみにソートがかかります。子孫でソートする場合は、選択したメンバーのすべての子孫にソートがかかります。

メンバー式の操作

グリッドの式バーで直接、またはメンバー式を検証できる「**メンバー式**」ダイアログ・ボックスを使用して、メンバー式を定義または編集できます。

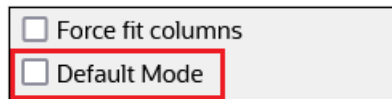
演算子、計算関数、ディメンション名、メンバー名および数値定数を組み合わせたメンバー式を定義して、メンバーの計算を実行できます。

メンバー式には次も含まれます。


- 演算子タイプ、関数、値、メンバー名および UDA
- 式に展開するスマート・リスト値またはデータベースのリフレッシュにおける値を含む事前定義済の数式

メンバー式を定義または編集するには:

1. 列見出しを右クリックし、ドロップダウン・メニューの「**デフォルト・モード**」オプションの選択を解除します。



「デフォルト・モード」設定の詳細は、[列レイアウトのカスタマイズ](#)を参照してください。

2. グリッドで、式を追加する対象のメンバーを選択します。
3. メンバーが選択された状態で、**デフォルト式列**が表示されるまでグリッドを右側にスクロールします。
4. **デフォルト式列**で、次のいずれかのタスクを実行します。
 - グリッドのセルをダブルクリックして、表示されたダイアログ・ボックスで式を入力または編集します。
 - ディメンション・エディタ・グリッドの上部にある式バー内をクリックして、式を入力または編集します。
 - 式バーの横にある  をクリックして、「**メンバー式**」ダイアログ・ボックスで式を入力または編集します。「メンバー式」ダイアログ・ボックスに式を入力すると、ダイアログ・ボックスの上部にある編集アイコンを利用したり、式を検証することができます。

Note:

式にメンバー名を含めるには、グリッドの式セルにフォーカスを置いたままにします。**[Ctrl]**を押しながら、式に含めるメンバーの名前をクリックします。メンバー名が式バーに表示されます。

5. 「**保存**」をクリックします。

Microsoft Excel からのメンバー名のコピー

Microsoft Excel から名前をコピーして貼り付けるには:

1. Excel で、1 つのセルまたはセル範囲のメンバー名をハイライトして、[Ctrl]を押しながら[C]を押してデータをクリップボードにコピーします。
2. 「簡易」ディメンション・エディタで 1 つまたは複数のターゲット・セルをハイライト表示して選択し、[Ctrl]を押しながら[V]を押します。
3. クリップボード・ヘルパーが表示されたら、再度[Ctrl]を押しながら[V]を押します。データがクリップボード・ヘルパーに貼り付けられます。
4. 「貼付け」をクリックして、データをグリッドに貼り付けます。

属性の操作

Related Topics

- [属性について](#)
- [属性のデータ型の理解](#)
- [属性ディメンションの作成](#)
- [属性ディメンション・メンバーの追加または編集](#)
- [ユーザー定義属性\(UDA\)の操作](#)

属性について

属性は、製品のサイズ、色など、データの特性を示します。属性を使用すると、その特性に基づいてディメンションのメンバーのグループ化および分析が可能になります。たとえば、製品の収益性をサイズやパッケージに基づいて分析でき、さらに各市場地域の人口サイズなどの市場属性を分析に組み込むことで、より効果的な結論を下すことができます。

属性を使用する場合は、次の点に注意してください：

- 属性名は、[命名規則](#)にあるガイドラインに適合させてください。
- 属性ディメンションは基本ディメンションに関連付けられています。
- 属性ディメンションは、親が動的に計算されるため、集約プロパティを持っていません。
- ラベルのみメンバーには、属性を割り当てることができません。

属性のデータ型の理解

属性ディメンションは、数値、ブール式または日付のデータ型を持つことができます。これにより、グルーピングに異なる関数テキストの使用、選択を可能にするかまたはデータの計算を可能にします。属性タイプは属性ディメンションのレベル 0 のメンバーにのみ適用します。

- **テキスト**の属性で、計算における基本の属性メンバー選択と属性の比較ができます。このような比較を実行すると、文字が比較されます。たとえば、パッケージ・タイプの「Bottle」はパッケージ・タイプの「Can」より小さいということになります。アルファベットでは B は C の前にくるからです。
- **数値**の属性ディメンションでレベル 0 のメンバーの名前に数の値が使用されます。計算には数値の属性ディメンションのメンバーの名前(値)を含めることができます。たとえば、オンスの属性に指定されたオンスの数を使用して、各プロジェクトのオンスごとの収益を計算することができます。さらに、市場人口のグループ化による製品売上げの分析など、数値の属性を基本ディメンションの値の範囲に関連付けることができます。

- データベース内の**ブール式**の属性ディメンションには、2 個のメンバーのみが含まれています。ビジネス・プロセスにブール式の属性ディメンションが追加されると、2 個の属性値、すなわち **TRUE** および **FALSE** が、この属性ディメンションにデフォルトで作成されます。勘定科目やエンティティなどの基本ディメンションを、1 つだけのブール式データ型属性ディメンションに関連付けることができます。
- **日付**の属性で、月-日-年または日-月-年という日付フォーマット、およびそれに応じたシーケンス情報を指定できます。計算にも日付の属性を使用できます。たとえば、12-22-1998 からの製品売上げを選択する計算で日付を比較できます。


 **Note:**

日付属性を操作するには、その前に**アプリケーション設定**ページにある**「属性ディメンション日付フォーマット」**設定を設定して、保存する必要があります。ホーム・ページで、「**アプリケーション**」、「**設定**」の順に選択します。「**属性ディメンション日付フォーマット**」で、日付フォーマット(MM-dd-yyyy または dd-MM-yyyy)を選択してから、「**保存**」をクリックします。日付フォーマットを選択して保存した後は、既存の属性の日付値すべてをサポートされているフォーマットに手動で変更する必要があります。サポートされていないフォーマットがアプリケーション内の日付属性で使用されている場合は、修正する必要があるディメンション属性値のリストが提供されます。

アプリケーション設定内で**「属性ディメンション日付フォーマット」**の設定が変更されている場合は、新しい属性を追加または保存する前に、元のフォーマットの日付属性をすべて新しいフォーマットに変更する必要があります。


属性ディメンションの作成

属性ディメンションを作成するには:

1. ホーム・ページで、「**アプリケーション**」、「**概要**」の順に選択します。
2. **アプリケーション**・ページで、「**ディメンション**」タブを選択します。
3. キューブを選択し、属性を割り当てるディメンションの名前をクリックします。
4.  (**「ディメンション・プロパティの編集」**タブ)をクリックします。
5. ディメンションのプロパティ・ページの**「カスタム属性」**セクションで、「**作成**」をクリックします。
6. **「属性の作成」**ダイアログ・ボックスで、次の情報を入力します:
 - **名前:** **ディメンション**、**メンバー**および**別名**の**名前付けの制限**を参照してください。
 - **データ型:** **属性のデータ型の理解**を参照してください。

ノート: **「インデックス付き属性?」**オプションは、Enterprise Profitability and Cost Management には適用されません。
7. **「保存」**をクリックします。

 **Note:**

属性ディメンションを編集または削除するには、属性の横にある  (「アクション」アイコン)をクリックし、「編集」または「削除」を選択します。

属性ディメンション・メンバーの追加または編集

属性ディメンションを基本ディメンションに関連付けると、基本ディメンションと同様にディメンションページに表示されます。属性ディメンションをリストに表示するには、メインのディメンション・ページの「キューブ」ドロップダウン・リストで「すべて」を選択します。その後、属性ディメンションを選択して、属性ディメンション・メンバーを追加または編集できます。次の詳細なステップを確認してください。

属性ディメンション・メンバーを追加または編集するには:

1. ホーム・ページで、「アプリケーション」、「概要」の順に選択します。
2. アプリケーション・ページで、「ディメンション」タブを選択します。
3. 「キューブ」で、「すべて」を選択します。
4. 属性ディメンションを選択します。
5. 「メンバー・プロパティの編集」で、次のいずれかのタスクを実行します:
 - 子メンバーを追加するには、親レベルのメンバーを選択し、「アクション」ドロップダウンを選択して、「子の追加」を選択します。
 - 兄弟メンバーを追加するには、メンバーを選択し、「アクション」ドロップダウンを選択して、「兄弟の追加」を選択します。
6. メンバー・プロパティを設定または変更するには、「メンバー・プロパティの編集」グリッドでセルをクリックし、更新します。
7. オプション: 異なる属性ディメンションにメンバーを割り当てるには、メンバー・プロパティの編集ページ上部のディメンション名の横にある矢印をクリックして、別の属性ディメンションを選択します。
8. 「保存」をクリックします。

 **Note:**

または、「ディメンション」タブで基本ディメンションを選択してから、メンバー・プロパティの編集ページで基本ディメンションの横にあるドロップダウンから属性ディメンションを選択できます。

ユーザー定義属性(UDA)の操作

ユーザー定義の属性(UDA)、記述的な語やフレーズは、計算スクリプト、メンバー式、レポートおよびフォームで使用できます。UDAはUDAに関連したメンバーのリストを戻します。


例:


- 数種類の製品メンバーのついた製品ディメンションでは、「新製品」と呼ばれる UDA を作成し、製品ディメンションの階層にある新製品へ割り当てることができます。その後、指定した新製品における特定の計算を基にすることができます。
- フォームの設計時に、UDA を使用して、共通属性に基づいてフォームのメンバーを選択できます。UDA を使用してフォームを作成すると、その UDA に割り当てられているメンバーが、フォームに動的に追加されます。たとえば、「新製品」と呼ばれる UDA を作成し、この UDA を製品ディメンションの階層にある新製品に割り当てた場合、フォームでは、実行時に新製品が自動的に表示されます。フォーム・デザイナーで選択する場合、UDA の先頭に UDA (新製品) のように UDA が付きます。

UDA はディメンションに固有です。たとえば、勘定科目メンバーの UDA を作成すると、共有していない勘定科目メンバーに使用できます。それを削除すると、すべての勘定科目メンバーでも削除されます。UDA を複数のディメンションに使用可能にするには、複数のディメンションに同じ UDA を作成します。たとえば、「新規」という UDA を勘定科目ディメンションとエンティティ・ディメンションに作成し、それを勘定科目メンバーとエンティティ・メンバーに使用できます。

UDA を作成または編集するには:


1. ホーム・ページで、「アプリケーション」, 「概要」の順に選択します。
2. アプリケーション・ページで、「ディメンション」タブを選択します。
3. キューブを選択してから、メンバーを UDA に関連付けるディメンションの名前をクリックします。
4. ディメンション・グリッドで、任意の列見出しを右クリックし、「デフォルト・モード」オプションの選択を解除して「UDA」列を表示します。
5. グリッドで、UDA に関連付けるメンバーを選択して、「UDA」列が表示されるまで右側にスクロールします。
6. 「UDA」列のセルをクリックして、「UDA」ダイアログ・ボックスを表示します。
7. タスクを選択します:

- UDA を作成するには、 をクリックし、名前を入力して、「保存」をクリックします。

- UDA を変更するには、UDA を選択し、 をクリックして、名前を変更した後、「保存」をクリックします。

- UDA を削除するには、UDA を選択し、 をクリックして、削除を確認します。

ノート: UDA を削除すると、すべてのディメンションから UDA が除去されます。UDA を削除した場合は、それを参照していたすべてのメンバー式、計算スクリプト、レポートを更新する必要があります。

- UDA の選択をクリアするには、 をクリックします。
8. メンバーの UDA を追加または削除するには、矢印を使用して UDA を「選択した UDA」パネルで移動します。
 9. 「OK」をクリックします。

ディメンション・メタデータのインポートおよびエクスポート

Related Topics

- [メタデータのインポート](#)
- [メタデータのエクスポート](#)

メタデータのインポート

カンマ区切り、タブ区切りまたは他の形式で、メタデータをフラット・ファイルからインポートできます。

インポートでは次のアーティファクトがサポートされています。

- ディメンション
- スマート・リスト
- 為替レート表([複数通貨アプリケーションの為替レートのインポート](#)を参照してください。)

メタデータをインポートするには:

1. インポートする各アーティファクトのインポート・ファイルを作成します。
[メタデータ・インポート・ファイル](#)についてを参照してください。
2. インポート・ファイルまたはファイルをロードします。
同時に複数のディメンション・ファイルをインポートできます。[メタデータ・インポート・ファイルのロード](#)を参照してください。

メタデータをインポートするときには、次の点に留意してください:

- メタデータのインポート中には、属性ディメンションのメンバーの名前は変更できません。メンバーの名前変更は無視されます。
- メタデータのインポート中には、属性ディメンションは削除できません。

メタデータ・インポート・ファイルについて

メタデータのロードを開始する前に、インポートする各アーティファクト(ディメンション、スマート・リストおよび為替レート表)のインポート・ファイルを作成する必要があります。

インポート・ファイルにはヘッダー・レコードが含まれている必要があります。ヘッダー・レコードは:

- ファイルの最初の行です
- ディメンションおよび後続のメタデータ・レコードによって使用されるメンバー・プロパティをリストします。ヘッダー・レコードおよび後続のレコードは、すべてのプロパティを含める必要はありません。含まれていないプロパティは、対応する親のデフォルトのプロパティ値から継承されます。ヘッダー・レコードにデータ・ストレージなどのプロパティ列が含まれない場合、メンバーのデータ・ストレージは、そのメンバーの親メンバーから継承されます。
- 大文字と小文字は区別されます

- 後続のメタデータ・レコードが同じ順序であるかぎり、任意の順序でプロパティをリストできます
- カンマまたはタブ区切り文字を使用できます。他の区切り文字は、その区切り文字がサポートされていて同じ区切り文字がファイル全体で使用されている場合に、使用できます。サポートされている区切り文字と例外のリストは、[他のサポートされている区切り文字](#)を参照してください。

ヘッダー・レコードの後には、インポートまたは更新するメタデータ・レコードのリストが続く必要があります。

- 各メタデータ・レコードには、ヘッダー・レコードで指定された順序に一致するプロパティ値の区切りリスト(カンマ、タブまたはその他)が含まれる必要があります。
- メタデータ・レコードは、ヘッダー・レコードで指定されているプロパティをスキップできます。この場合、デフォルトのプロパティが指定されているものとして処理されます。
- ファイルの形式は、.csv (カンマ区切り)または.txt (タブ区切りまたは他の区切り文字)にできます。

インポート・ファイルの例は、[エンティティ・ディメンションのインポート・ファイルの例](#)を参照してください。

Note:

ファイルのインポートまたはエクスポートでは、UTF-8 の文字セットに含まれる文字のみがサポートされます。UTF-8 の文字セットに含まれない文字は無効と考慮されます。ディメンション名の制限事項については、[命名規則](#)を参照してください。

エンティティ・ディメンションのインポート・ファイルの例

```
Entity,Parent,Data Storage,Plan Type (Plan1),Plan Type (Plan2),Plan Type (Plan3),Data Type,Base Currency,
Alias: Default NOEntity,,Never Share,TRUE,TRUE,TRUE,Unspecified,USD,Unspecified Entity
AllEntities,,Never Share,TRUE,TRUE,TRUE,Unspecified,USD,Total Entity
1000,AllEntities,Never Share,TRUE,TRUE,TRUE,Unspecified,USD,Agencies
1001,1000,Never Share,TRUE,TRUE,TRUE,Unspecified,USD,Administration and Finance
1011,1001,Never Share,TRUE,TRUE,TRUE,Unspecified,USD,Office of the Secretary of Administration and Finance
1012,1001,Never Share,TRUE,TRUE,TRUE,Unspecified,USD,Bureau of State Office Buildings
1101,1012,Never Share,TRUE,TRUE,TRUE,Unspecified,USD,Finance and Administration
1102,1012,Never Share,TRUE,TRUE,TRUE,Unspecified,USD,State Office Buildings
1103,1012,Never Share,TRUE,TRUE,TRUE,Unspecified,USD,Safety and Security
1104,1012,Never Share,TRUE,TRUE,TRUE,Unspecified,USD,State House ADA/Communications Access
1105,1012,Never Share,TRUE,TRUE,TRUE,Unspecified,USD,State House Events
1013,1001,Never Share,TRUE,TRUE,TRUE,Unspecified,USD,Civil Service Commission
1014,1001,Never Share,TRUE,TRUE,TRUE,Unspecified,USD,Department of Revenue
1106,1014,Never Share,TRUE,TRUE,TRUE,Unspecified,USD,Child Support Enforcement
1107,1014,Never Share,TRUE,TRUE,TRUE,Unspecified,USD,Division of Local Services
1108,1014,Never Share,TRUE,TRUE,TRUE,Unspecified,USD,Appellate Tax Board
1015,1001,Never Share,TRUE,TRUE,TRUE,Unspecified,USD,Developmental Disabilities Council
1016,1001,Never Share,TRUE,TRUE,TRUE,Unspecified,USD,Division of Administrative Law Appeals
1017,1001,Never Share,TRUE,TRUE,TRUE,Unspecified,USD,Dept. of Revenue
1018,1001,Never Share,TRUE,TRUE,TRUE,Unspecified,USD,Executive Office for Administration and Finance
1019,1001,Never Share,TRUE,TRUE,TRUE,Unspecified,USD,George Fingold Library
1020,1001,Never Share,TRUE,TRUE,TRUE,Unspecified,USD,Group Insurance Commission
```

次の例では、インポート・ファイルは、必要なヘッダー・レコードと3つのデータ・レコードを持つエンティティのディメンションをロードします。この例ではカンマ区切りです。ヘッダー・レコードは、インポートするメンバー(Entity)、メンバーのイン

ポート先となる親メンバー(Parent)、およびメンバーに割り当てる Data Storage プロパティを指定します。

```
Entity, Parent, Data Storage  
e1, Entity,  
e2, ,  
e1, e2, Shared
```

このインポート・ファイルを使用すると、他のメンバーが存在しないと仮定すればこのアウトラインになります。

```
Entity  
e1  
e2  
    e1 (Shared)
```

最初のデータ・レコード(e1, Entity)は Entity メンバー e1 をルート・メンバー Entity にある子としてインポートします。指定されない値はデフォルトとみなします。たとえば、データ・ストレージが指定されていない場合、デフォルト値の「共有しない」とみなします。次のデータ・レコード(e2, ,)は、親が指定されていないため、ディメンション・ルート・メンバーにある Entity メンバー e2 をインポートし、データ・ストレージを「共有しない」に設定します。最後のデータ・レコード(e1, e2, Shared)は、メンバー e2 にある e1 の共有メンバーをインポートし、データ・ストレージを「共有」に設定します。

他のサポートされている区切り文字

Enterprise Profitability and Cost Management では、カンマやタブに加え、インポートおよびエクスポート・ファイルで次の区切り文字もサポートされます:

- チルダ(~)
- 重アクセント(`)
- 感嘆符(!)
- シャープ記号(#)
- 疑問符(?)
- ドル記号(\$)
- パーセント記号(%)
- キャレット(^)
- アンパサンド(&)
- アスタリスク(*)
- 丸カッコ()
- ハイフンマイナス(-)
- プラス(+)
- コロン(:)
- セミコロン(;

- 山カッコ(<>)
- 円記号(バックスラッシュ) (\)
- スラッシュ(/)
- 垂直棒(|)
- アポストロフィ(')
- 中カッコ({})
- アンダースコア(_)
- 大カッコ([])
- アット・マーク(@)
- ピリオド(.)

区切り文字用にサポートされるのは 1 文字のみです。たとえば、1 つの縦棒(|)はサポートされていますが、2 つの縦棒(||)はサポートされていません。

▲ Caution:

リストされているすべての文字が、すべてのインポートおよびエクスポート・シナリオで使用できるわけではありません。次の例外に注意してください。

インポートおよびエクスポート・メタデータの区切り文字の例外

メタデータのインポートおよびエクスポート・ファイルで次の区切り文字は使用しないでください。

Table 3-2 インポートおよびエクスポート・メタデータの区切り文字の例外

区切り文字	例外の理由
二重引用符("")	空のファイルが作成されます
プラス(+)	メタデータ・インポート・ファイルにこれらの文字を使用する集計プロパティが含まれている場合、エラーが発生します
マイナス(-)	
スラッシュ(/)	
パーセント記号(%)	
山カッコ(<>)	プロパティで値<none>を使用している場合、エラーが発生します

✎ Note:

メンバー名の文字と競合する文字を使用すると、エラーが発生します。

インポートおよびエクスポート・データの区切り文字の例外

Table 3-3 インポートおよびエクスポート・データの区切り文字の例外

区切り文字	例外の理由
アポストロフィ(')	キューブ名で使用すると、エラーが発生します
丸カッコ()	データ・インポート・ファイルで使用すると、エラーが発生します
二重引用符("")	空のファイルが作成されます
ハイフンマイナス(-)	データ・インポート・ファイルで使用すると、エラーが発生します

メタデータ・インポート・ファイルのロード

Note:

環境のクローニングの一部としてメタデータ・ロードを実行するか、移行または EPM 自動化を使用してスナップショットをインポートする場合、Oracle Enterprise Performance Management Cloud ではマルチパス・ソリューションを使用します。このソリューションは、前回のメタデータ・ロードでレコードが拒否された場合、同じメタデータ入力ファイルの別のロードを自動的に開始します。Financial Consolidation and Close については、マルチパスによって、調整勘定の前方参照に関する問題も解決されます。

メタデータ・インポート・ファイルをロードするには:

1. インポートする各アーティファクト(ディメンション、スマート・リストおよび為替レート表)のメタデータ・インポート・ファイルを作成します。
[メタデータ・インポート・ファイルについて](#)を参照してください。
2. ホーム・ページで、「**アプリケーション**」、「**概要**」の順に選択します。
3. **アプリケーション**・ページで、「**ディメンション**」タブを選択し、「**インポート**」をクリックします。
4. 「**メタデータのインポート**」ページで、「**作成**」をクリックします。
5. メタデータ・インポート・ファイルの場所を選択します:
 - **ローカル**: 自分のコンピュータ上の場所からインポート・ファイルをロードします。「**ファイルのインポート**」で、「**参照**」をクリックして、インポートするアーティファクトのインポート・ファイルを自分のコンピュータ上で選択します。
 - **受信ボックス**: サーバーからインポート・ファイルをロードします。「**ファイルのインポート**」内にファイルの名前を入力します。[受信ボックス/送信ボックス・エクスポート](#)を使用したファイルのアップロードおよびダウンロードを参照してください。
6. 「**ファイル・タイプ**」で、「**カンマ区切り**」、「**タブ区切り**」または「**その他**」.を選択します

「**その他**」を選択した場合、インポート・ファイルで使用する区切り文字を入力します。サポートされている区切り文字と例外のリストは、[他のサポートされている区切り文字](#)を参照してください。

7. **オプション:** インポートを実行する前に、「**メンバーのクリア**」を選択して、ロード・ファイルで明示的に指定されていないメンバーを削除します。
- ディメンションをインポートした後、指定されていないメンバーはアプリケーション・アウトラインから削除されますが、これが、指定されたメンバーの祖先である場合または指定された共有メンバーの基本メンバーである場合は削除されません。
 - 「**メンバーのクリア**」が選択されていない場合、インポートでは新しいメンバーの追加または既存のメンバーの更新のみが行われます。ファイルを正常にロードするには、「**メンバーのクリア**」を選択せずにメタデータ・ファイルをロードすることをお勧めします。その後、「**メンバーのクリア**」を選択し、インポートを再度実行します
 - 「**メンバーのクリア**」は、特定のディメンション(メンバーが存在する必要があり、メンバーがアプリケーションに取手重要であるディメンション)では使用できません。年ディメンション、期間ディメンション、通貨ディメンション、残高システム・ディメンションと、ルール・システム・ディメンションの PCM_Calculation ルール階層および PCM_No ルール階層ではメンバーをクリアできません。また、POV グループで使用されているメンバーをクリアすることはできません。
 - なんらかの理由(フォームや検証ルールで使用されるなど)でディメンション・エディタで削除できないメンバーは、削除されません。
8. **オプション:** 選択した場所が「**受信ボックス**」の場合、「**ジョブとして保存**」をクリックし、インポート操作をジョブとして保存します。保存されたジョブは、即座に実行することも、後で実行するようにスケジュールすることもできます。[ジョブの管理](#)を参照してください。
- インポート操作をジョブとして保存すると、ロード・シーケンスをバッチ処理する場合に便利です。たとえば、メタデータをインポートし、次にデータをインポートして、データのロードが完了したらモデルを実行します。
 - 一度に最大5つのインポート・ジョブを実行できます。
 - メタデータ・インポート・ジョブ中に拒否されたデータを確認する場合は、「**ジョブとして保存**」ダイアログ・ボックスで「**エラー・ファイル**」を指定できます。このファイルにより、各ディメンションについてインポートされなかったメタデータ・レコードについての情報が提供されます。エラーの zip ファイルが指定されると、ディメンションごとに個別のエラー・ファイルが作成されて、エラー・ファイルがまとめてが zip されて、zip ファイルが、「**受信ボックス/送信ボックス・エクスプローラ**」を使用してファイルをダウンロードできる送信ボックスに格納されます。[受信ボックス/送信ボックス・エクスプローラを使用したファイルのアップロードおよびダウンロード](#)を参照してください。
9. **オプション:** 選択した場所が「**ローカル**」の場合、「**検証**」をクリックして、インポート・ファイルの形式が正しいかどうかをテストします。
10. 「**インポート**」をクリックして、インポート操作を実行します。
- インポートが失敗した場合は、「**最終検証/インポート**」列に「**失敗**」ステータスが表示されます。詳細なステータスを表示するには、「**失敗**」をクリックします。インポートが成功した場合は、「**最終検証/インポート**」列に「**完了**」ステータスが表示されます。成功したインポートの詳細を表示するには、「**完了**」をクリックし、「**表示**」ドロップダウンで「**すべて**」を選択します。

 **Note:**

インポート・ファイルにリストされているキューブがアプリケーション内のキューブ名と一致しない場合、アプリケーションでは未認識キューブ列が無視されます。

メタデータのエクスポート

.csv (カンマ区切り)または.txt (タブ区切りまたは他の区切り文字)形式でメタデータをフラット・ファイルにエクスポートできます。

エクスポートでは次のアーティファクトがサポートされています：

- ディメンション
- スマート・リスト
- 為替レート([複数通貨アプリケーションの為替レートのインポート](#)を参照してください。)

Enterprise Profitability and Cost Management では、アーティファクトごとにエクスポート・ファイル(ファイル・タイプに応じて.txt または.csv)が作成され、すべてのエクスポート・ファイルが 1 つの zip ファイルに統合されます。ファイルをインポート・ファイルとして使用する場合(たとえば、別のアプリケーションにインポートする場合は)、zip ファイルから.csv または.txt ファイルを抽出する必要があります。

 **Note:**

ファイルのエクスポートまたはインポートでは、UTF-8 の文字セットに含まれる文字のみがサポートされます。UTF-8 の文字セットに含まれない文字は無効と考慮されます。ディメンション名の制限事項については、[ディメンション、メンバーおよび別名の名前付けの制限](#)を参照してください。

メタデータをフラット・ファイルにエクスポートするには：

1. ホーム・ページで、「**アプリケーション**」、「**概要**」の順に選択します。
2. **アプリケーション**・ページで、「**ディメンション**」タブを選択し、「**エクスポート**」をクリックします。
3. 「**メタデータのエクスポート**」ページで、「**作成**」をクリックします。
4. エクスポート・ファイルのターゲット環境を選択します。
 - **ローカル**: エクスポート・ファイルをローカル・コンピュータ上の場所に保存します。
 - **送信ボックス**: エクスポート・ファイルをサーバーに保存し、エクスポート・ジョブのスケジュールに使用できるようにします。[受信ボックス/送信ボックス・エクスプローラを使用したファイルのアップロードおよびダウンロード](#)を参照してください。

 **Note:**

- 一度に最大 5 つのエクスポート・ジョブを実行できます。
 - エクスポート・ジョブをスケジュールするときは、各ジョブに対して一意の出力ファイル名を指定できます。
 - ジョブのスケジュールの詳細は、[ジョブの管理](#)を参照してください。
- エクスポートする 1 つまたは複数のアーティファクトを選択します。
 - 「**ファイル・タイプ**」で、オプションを選択します。
 - カンマ区切り**: 各アーティファクトのカンマ区切りの.csv ファイルを作成します。
 - タブ区切り**: 各アーティファクトのタブ区切りの.txt ファイルを作成します。
 - その他**: 各アーティファクトの.txt ファイルを作成します。エクスポート・ファイルで使用する区切り文字を入力します。サポートされている区切り文字と例外のリストは、[他のサポートされている区切り文字](#)を参照してください。
 - オプション**: 選択した場所が「**送信ボックス**」の場合、「**ジョブとして保存**」をクリックし、エクスポート操作をジョブとして保存します。保存されたジョブは、即座に実行することも、後で実行するようにスケジュールすることもできます。[ジョブの管理](#)を参照してください。
 - 「**エクスポート**」をクリックし、エクスポート・ファイルを保存する場所を指定します。

アクティビティ・レポートの表示

アクティビティ・レポートは毎日自動的に生成され、サービス管理者は 5 日、10 日、30 日または 60 日間のアプリケーション使用状況を理解できます。レポートは、アプリケーション・パフォーマンスに影響を与える計算スクリプトとユーザー要求を識別することでアプリケーション設計を合理化するのに役立ちます。これらのレポートで提供される情報は次のとおりです:

- 毎日、毎時間、過去 7 日間および過去 30 日間にアプリケーションにサインインしたユーザー数などのユーザー情報
- 完了までに 10 秒より長くかかった要求の割合
- 期間ごとの要求のランク付け
- 完了までに 10 秒より長くかかった要求のパフォーマンスのランク付け
- レポート期間中に発生したアプリケーション設計変更の数
- 1 時間ごとのユーザー・インタフェース要求の数と期間
- 1 時間ごとの CPU およびメモリーの使用状況

アクティビティ・レポートを表示するには:

- ホーム・ページで、「**アプリケーション**」, 「**概要**」の順に選択します。
- 「**アクティビティ・レポート**」タブを選択します。

3. レポート詳細を表示するには、表示するレポートの名前の横にある「表示」をクリックします。
4. **オプション:** レポートを別の場所に保存するには、表示中のレポートを右クリックして、**名前を付けてページを保存**を選択します。レポートのアクセス・ログをダウンロードするには、目的のレポートの横にある「ダウンロード」をクリックします。



Note:

アクティビティ・レポートの詳細は、*Oracle Enterprise Performance Management Cloud 管理者スタート・ガイド*の [EPM Cloud のモニタリング](#)を参照してください。

データのインポートとエクスポート

Related Topics

- [データのインポート](#)
- [ドライバ・メンバーのキャスト・エラー](#)
- [データのエクスポート](#)
- [データ・インポートおよびエクスポートのステータスの表示](#)

データのインポート

ディメンションをインポートしたら、データ・インポート・ファイルからアプリケーションにデータを移入できます。



Note:

データのインポート時には、有効な交差を確認するための検証が交差に対して実行されず、すべての交差にデータがロードされます。無効な交差にロードされているデータを確認するには、データをインポートする前に「無効な交差」レポートを実行し、無効な交差を表示してクリアします。[無効な交差レポートの操作](#)を参照してください。

データをインポートするには:

1. ホーム・ページで、「アプリケーション」、「概要」の順に選択します。
2. **アプリケーション**・ページで、「アクション」、「データのインポート」の順に選択します。
3. **データのインポート**・ページで、「作成」をクリックします。
4. 「場所」で、データ・インポート・ファイルの場所を選択します:
 - **ローカル:** 自分のコンピュータ上の場所からデータ・インポート・ファイルをインポートします。

- **受信ボックス:** サーバーからデータ・インポート・ファイルをインポートします。[受信ボックス/送信ボックス・エクスプローラを使用したファイルのアップロードおよびダウンロード](#)を参照してください。
- 有効なインポート・データのファイル形式は、.csv、.txt、.zip です。
5. データ・インポート・ファイルの「**ソース・タイプ**」を選択するには:
 - **デフォルト:** ビジネス・プロセス固有のデータ・ファイル・フォーマットでデータをロードします。このオプションを選択した場合、「**カンマ区切り**」、「**タブ区切り**」または「**その他**」を選択します。
 - ビジネス・プロセス固有のデータのロード中にインポート・エラーが発生した場合でも、有効なデータは引き続きロードされます(部分ロード)。エラーは、インポートおよびエクスポート・ステータスに示されます。[データ・インポートおよびエクスポートのステータスの表示](#)を参照してください。
 - サポートされている区切り文字と例外のリストは、[他のサポートされている区切り文字](#)を参照してください。
 - データをビジネス・プロセス固有のフォーマットでファイルにエクスポートした場合、メモ帳を使用してファイル内のキューブ名(PCM_REP など)を変更してから、データ・ファイルを集約ストレージ・アウトラインにインポートできます(すべてのディメンションが集約ストレージ・アウトラインに存在している場合)。
 - **Essbase:** Oracle Essbase データ・ファイル・フォーマットでデータをロードします。このオプションを選択した場合、キューブを選択する必要があります。
 6. ソース・ファイルを入力または選択します。
 - 場所として「**ローカル**」を選択した場合、「**参照**」をクリックしてソース・ファイルに移動します。
 - 場所として「**受信ボックス**」を選択した場合、「**ソース・ファイル**」にファイルの名前を入力します。
 7. ソース・タイプとして「**Essbase**」を選択した場合、Essbase データの「**デリミタ**」を指定します。オプションは、「**スペース**」または「**タブ**」です。
 8. デフォルトでは、「**エラーの場合に停止**」が選択されています。このオプションが選択されていて、Essbase データのロード中にインポート・エラーが発生した場合、インポートは停止し、データはロードされません。このオプションの選択が解除されている場合は、エラーが発生してもデータのロードが続行されます。
 9. **オプション:** インポート・データ・ファイルの場所として「**受信ボックス**」を選択した場合、「**ジョブとして保存**」をクリックし、インポート操作をジョブとして保存します。保存されたジョブは、後で実行するようにスケジュールできます。
 - インポート操作をジョブとして保存すると、ロード・シーケンスをバッチ処理する場合に便利です。たとえば、メタデータをインポートし、次にデータをインポートして、データのロードが完了したらルールを実行します。[ジョブの管理](#)を参照してください。
 - 一度に最大 5 つのインポート・ジョブを実行できます。
 - データ・インポート・ジョブ中に拒否されたデータを確認するには、「**ジョブとして保存**」ダイアログ・ボックスで「**エラー・ファイル**」を指定します。このファイルにより、インポートされなかったデータ・レコードに関する情報が提供されます。エラーの zip ファイルを指定すると、zip ファイルが送信ボッ

クスに格納され、受信ボックス/送信ボックス・エクスプローラを使用してファイルをダウンロードできます。[受信ボックス/送信ボックス・エクスプローラを使用したファイルのアップロードおよびダウンロード](#)を参照してください。

10. オプション: インポート・データ・ファイルの場所として「**ローカル**」を選択した場合、「**検証**」をクリックして、インポート・ファイルのフォーマットが正しいかどうかをテストします。

11. 「インポート」 をクリックして、インポート操作を実行します。

データをインポートする際の考慮事項

- インポート前にデータをクリアするオプションはないため、インポートによって既存のデータ値が#MISSING 値で上書きされることはありません。かわりに、次のいずれかのタスクを完了してください:
 - キューブのクリア・ジョブを実行して、入力キューブおよびレポート・キューブ内の特定のビジネス・プロセス・データをクリアします。[キューブのクリア](#)を参照してください。
 - Essbase の CLEARDATA コマンドを使用するビジネス・ルールを記述して、特定のデータ値をクリアします。[Oracle Analytics Cloud - Essbase のテクニカル・リファレンスの CLEARDATA](#) を参照してください。
 - データ・スライスのクリア REST API を使用して、指定した領域のビジネス・プロセスと Essbase のデータをクリアします。[Oracle Enterprise Performance Management Cloud の REST API のデータ・スライスのクリア](#)を参照してください。
- データをエクスポートした後にアプリケーションでの評価順序を変更した場合、インポートで予期しない結果が生じることがあります。
- データ・ロード入力ファイルの値が評価済ドライバ・メンバーのタイプと一致しない場合(ドライバ・メンバーの評価済タイプが日付で、対応する入力値が有効な日付形式でない場合など)、ドライバ・メンバーのキャスト・エラーが発生します。[ドライバ・メンバーのキャスト・エラー](#)を参照してください。

ドライバ・メンバーのキャスト・エラー

データ・ロード入力ファイルの値が評価済ドライバ・メンバーのタイプと一致しない場合、ドライバ・メンバーのキャスト・エラーが発生します。無効なデータ・ファイルがロードされているアプリケーションでは、ドライバ・メンバーのキャスト・エラーが発生します。ドライバ・メンバーとは、データ・ファイルの列のメンバーを指します。次に、ドライバ・メンバーのキャスト・エラーをいくつか示します:

- ドライバ・メンバーが"日付"タイプで、対応する入力値が有効な日付フォーマットでない場合
- "スマート・リスト"タイプのドライバ・メンバーに、存在しないスマート・リスト値が指定されている場合
- "通貨"、"データ"または"パーセント"タイプのメンバーに、数値以外の値が指定されている場合。

キャスト・エラーは、データ・レコードで発生するたびに入力ファイルで指定した各ドライバ・メンバーに対して発生します。したがって、指定された入力レコードのキャスト・エラー数の範囲は0からドライバ数までです。成功したドライバ・メンバーのバインディングがドライバ・メンバーのバインディング・エラーを伴って発生することがあるため、アプリケーションでは、入力レコード全体は拒否されず、インポートおよびエクスポート・ステータ

スにエラーが示されます。データ・インポートおよびエクスポートのステータスの表示を参照してください。

不正な日付値が指定されている、次のデータ・レコードの入力ファイルを検討してください:

```
Entity, aDate, aSl, aText, aCurr, aPercent, Point-of-View,Data Load
Cube Name
e1, exampleBadDateValue, s11, text11, 888, 0.99,
"FY15,Current,""BUVersion_1"",Local,u1,Jan",Plan1
```

表示されるエラー・メッセージ:

- データのロード後に、ステータス・ウィンドウに次が表示されます:

```
Outline data store load process finished (Invalid data values were not
loaded). 7 data records were read, 7 data records were processed, 7
were accepted for loading (verify actual load with Essbase log files),
0 were rejected.
```
- 次のエントリ詳細とともにインポートおよびエクスポート・ステータスのエラーとして、エラーが示されます:

```
Category: Data record
Record Index: 2
Message: Unable to load specified data value in Record 2: (aDate:
exampleBadDateValue)
```
- 複数のキャスト・エラーが発生した場合、各エラーは同じエラー・メッセージに記録されます:

```
Unable to load specified data values in Record 2: (aSl: aaaaaaas11),
(aPercent: cc), (aDate: exampleBadDateValue), (aCurr: bb)
```
- エラー・メッセージ数が最大制限値を超えた場合、次のメッセージが発行されません:

```
The warning [Unable to load specified data values] message count limit
(100) exceeded: no more warnings of this type will be issued.
```

データのエクスポート

ファイルにデータをエクスポートするには:

1. ホーム・ページで、「アプリケーション」、「概要」の順に選択します。
2. アプリケーション・ページで、「アクション」、「データのエクスポート」の順に選択します。
3. データのエクスポート・ページで、「作成」をクリックします。
4. 「場所」で、データ・エクスポート・ファイルのターゲット環境を選択します:
 - **ローカル:** データ・エクスポート・ファイルをローカル・コンピュータ上の場所に保存します。
 - **送信ボックス:** データ・エクスポート・ファイルをサーバーに保存します。[受信ボックス/送信ボックス・エクスプローラ](#)を使用したファイルのアップロードおよびダウンロードを参照してください。

5. キューブを選択します。
6. ファイル・タイプを選択します。
 - **カンマ区切り**: 各アーティファクトのカンマ区切りの.csv ファイルを作成します。
 - **タブ区切り**: 各アーティファクトのタブ区切りの.txt ファイルを作成します。
 - **その他**: 各アーティファクトの.txt ファイルを作成します。エクスポート・ファイルで使用する区切り文字を入力します。サポートされている区切り文字と例外のリストは、[他のサポートされている区切り文字](#)を参照してください。
7. 「スマート・リスト」で、「ラベルのエクスポート」または「名前のエクスポート」を指定します。
8. 「動的メンバー」に対して、エクスポート時に動的計算メンバーを「含む」か「除外」するかを選択します。

動的メンバーをエクスポート・データから除外すると、データ・エクスポート時のパフォーマンスが向上します。
9. 「小数」で、エクスポート後のデータをフォーマットするための小数部の桁数(0-16)を指定するか、または「なし」を選択してデフォルトの精度フォーマットを使用します。

たとえば、「小数」フィールドで小数位の値として「3」を指定すると、該当する場合はいつでも、エクスポートされたデータでは小数点の右側に 3 桁の数字が表示されます。

「なし」を選択すると、小数はデフォルトの精度設定に従ってフォーマットされ、「0」を選択すると、整数を表示するようにデータがフォーマットされます。たとえば、エクスポートするデータ値が 123.45678 である場合、「0」を選択すると、データは 123 としてエクスポートされ、「なし」を選択すると、データは 123.45678 としてエクスポートされます。
10. 「スライス定義」で、エクスポートするデータのスライスを選択します。

複数のメンバーのデータを同時にエクスポートする場合は、選択したメンバーの少なくとも 1 つが非共有メンバーであることを確認してください。共有メンバーの個別のエクスポートは、基本メンバーの選択と同じなので可能です。ただし、子孫がすべて共有メンバーである親メンバーのレベル 0 の子孫の選択はディメンションからのメンバーの選択と同じではないので、エクスポートは実行されません。したがって、選択したメンバーのいずれかが非共有メンバーであることを確認する必要があります。
11. **オプション**: エクスポート・データ・ファイルの場所として「送信ボックス」を選択した場合、「ジョブとして保存」をクリックし、エクスポート操作をジョブとして保存します。保存されたジョブは、即座に実行することも、後で実行するようにスケジュールすることもできます。
 - 一度に最大 5 つのエクスポート・ジョブを実行できます。
 - エクスポート・ジョブをスケジュールするときは、各ジョブに対して一意の出力ファイル名を指定できます。
 - ジョブのスケジュールの詳細は、[ジョブの管理](#)を参照してください。
12. 「エクスポート」をクリックして、データ・エクスポート・ファイルの保存先を指定します。

 **Note:**

データ・エクスポート・ファイルのサイズを削減するために、スライスに全体が#MISSING 値の行が含まれる場合、その行はデータ・エクスポート・ファイルから省略されます。

データ・インポートおよびエクスポートのステータスの表示

「**ジョブ**」コンソールで、データのインポートまたはエクスポートのステータスを表示できます。

1. 「**ジョブ**」コンソールに移動します。

インポート・ジョブまたはエクスポート・ジョブを作成したばかりで、**アプリケーション**・ページを表示している場合は、画面上部で「**ジョブ**」アイコンを選択します。ホーム・ページが表示されている場合は、「**アプリケーション**」、「**ジョブ**」の順に選択します。

2. 「**ジョブ**」コンソールから、表示するインポート・ジョブまたはエクスポート・ジョブを選択します。

ステータス・ページに、「**エラー**」、「**警告**」、「**情報**」および「**すべて**」のメッセージが表示されます。エラーがあり、ジョブの定義中にエラー・ファイル名を指定した場合、「**エラー・ファイル**」リンクを使用して、生成されたエラー・ファイルをダウンロードできます。

複数通貨アプリケーションの為替レートのインポート

 **Note:**

為替レート・オプションを表示するには、「**複数通貨**」オプションを有効にしてアプリケーションが作成されている必要があります。アプリケーションの作成中に「**複数通貨**」オプションを選択すると、通貨ディメンションが作成されます。デフォルトでは、複数通貨タイプは**簡易**です。アプリケーションに通貨ディメンションがない場合は、「**為替レートのインポート**」および「**為替レート・テンプレートのエクスポート**」オプションが「**アクション**」メニューに表示されません。[通貨の設定](#)を参照してください。

複数通貨アプリケーションで為替レートの管理を簡略化するために、提供されている ExchangeRateTemplate.csv テンプレートをエクスポートし、スプレッドシートで為替レートを入力して、アプリケーションにレートインポートできます。為替レートをすぐにインポートするか、「**為替レートのインポート**」ジョブをスケジュールして後で実行できます。

テンプレートを使用して為替レートをインポートするには:

1. ホーム・ページで、「アプリケーション」、「概要」の順に選択します。
2. 「アクション」メニューで「為替レート・テンプレートのエクスポート」を選択し、ExchangeRateTemplate.csv を開くか、ローカルに保存します。
3. ExchangeRateTemplate.csv テンプレート・ファイルで、期間および通貨ごとに平均為替レートと終了為替レートを入力し、POV のメンバーを指定して、ファイルを保存します。

 **Note:**

1 の場合、アプリケーションのデフォルト通貨に対する換算レートであることを示します。デフォルト通貨との相対的なレートを入力します。

4. 「アクション」メニューで「為替レートのインポート」を選択し、「作成」をクリックして、ファイルを参照した後、「インポート」をクリックします。


 **Note:**

インポートはすぐに実行するジョブまたは後で実行するジョブとしてスケジュールできます。「為替レートのインポート」ジョブをスケジュールするには、「受信ボックス」オプションを選択して、受信ボックスにあるインポート・ファイルをポイントし、次に「ジョブとして保存」をクリックします。[ジョブのスケジュール](#)を参照してください。

受信ボックス/送信ボックス・エクスプローラを使用したファイルのアップロードおよびダウンロード

受信ボックス/送信ボックス・エクスプローラを使用して、ファイルをサーバーにアップロードしたり、コンピュータにダウンロードします。

ファイルをアップロードまたはダウンロードするには:

1. ホーム・ページで、「アプリケーション」、「概要」の順に選択します。
2. アプリケーション・ページで、「アクション」、「受信ボックス/送信ボックス・エクスプローラ」の順に選択します。
3. オプション: 「受信ボックス/送信ボックス・エクスプローラ」に表示されるファイルをソートまたはフィルタします。
 - ファイルをソートするには、見出しをクリックします。「名前」、「最終変更」または「サイズ」別にファイルをソートできます。
 - 表示されるファイルをフィルタするには、 (「フィルタ」アイコン)をクリックし、「フィルタ」ダイアログ・ボックスに名前を入力して、「適用」をクリックします。
4. サーバーからファイルをアップロードするには、「アップロード」をクリックします。「ファイルのアップロード」ダイアログ・ボックスで、「参照」をクリックしてアップロードするファイルを選択し、「ファイルのアップロード」をクリックします。

5. サーバーからファイルをダウンロードするには、目的のファイルを選択して「アクション」アイコンをクリックし、「ファイルのダウンロード」をクリックします。
6. 「閉じる」をクリックして「受信ボックス/送信ボックス・エクスプローラ」を閉じ、アプリケーション・ページに戻ります。

Note:

アップロード・ファイルのサイズには、2GB の上限があります。アップロード・ファイルがサイズ制限を超える場合は、より小さいファイルを選択するか、EPM 自動化を使用してより大きいファイルをアップロードします。EPM 自動化の詳細は、*Oracle Enterprise Performance Management Cloud EPM 自動化の操作*を参照してください。

アプリケーション・データベースのリフレッシュ

アプリケーションを作成すると、アプリケーション内の各キューブのデータを保管するアプリケーション・データベースが作成されます。アプリケーション構造を変更し、ディメンションやメンバーなどのアーティファクトを変更したら、データベースをリフレッシュする必要があります。

アプリケーションをリフレッシュするまで、アプリケーションの変更がユーザーによるデータの入力および承認タスクに影響を与えることはありません。たとえば、ディメンション・メンバーのプロパティ修正、メンバーの追加またはアクセス権限の変更を行った場合、これらの変更はアプリケーションをリフレッシュした後ユーザーに反映されます。データベースをリフレッシュする前に、すべてのユーザーに通知し、作業を保存してアプリケーションを閉じるよう求めることをお勧めします。

データベースをリフレッシュする前に:

- アプリケーションをバックアップし、すべてのデータベースからデータをエクスポートします
- リフレッシュ中にすべてのユーザーが管理モードでアプリケーションを使用できるようにするか、現在のサービス管理者のみが使用できるようにするかを決定します
- すべてのユーザーをログオフさせるかどうかを決定します
- アクティブなアプリケーション要求を終了します

データベースをリフレッシュするには:

1. ホーム・ページで、「アプリケーション」、「概要」の順に選択します。
2. アプリケーション・ページで、「アクション」、「データベースのリフレッシュ」の順に選択します。
3. 「データベースのリフレッシュ」ページで、「作成」をクリックします。
4. 「データベースのリフレッシュ前」で、次のオプションから選択します:
 - **アプリケーションを使用可能にする対象:** リフレッシュ中に**すべてのユーザー**または**管理者**(現在ログインしているサービス管理者)が管理モードでアプリケーションにアクセスできるようにします

- **すべてのユーザーのログオフ:** リフレッシュを開始する前にすべてのアプリケーション・ユーザーをログオフします
 - **すべてのアクティブな要求の停止:** リフレッシュを開始する前にアプリケーションでアクティブな要求を終了します
5. 「データベースのリフレッシュ後」で、次のオプションから選択します:
- **アプリケーションを使用可能にする対象:** リフレッシュ後に、**すべてのユーザー** または**管理者**がアプリケーションを使用できるようにします
 - **メタデータの検証:** このオプションを選択すると、システムによってビジネス・プロセスと Oracle Essbase の間のメンバー・アイデンティティ (ID)の不一致がスキャンされ、リフレッシュ・プロセス後に自動的に解決されます。「メタデータの検証」を選択すると、リフレッシュ・プロセスにかかる時間が長くなることがあります。詳細は、[メタデータの検証](#)を参照してください。
- ノート:** 「メタデータの検証」オプションは、Essbase のレガシー・バージョンで実行されているキューブには使用できません。
6. 「データベースのリフレッシュ」をクリックして、今すぐデータベースをリフレッシュするか、「ジョブとして保存」をクリックして、リフレッシュを後でジョブとして実行します。[ジョブの管理](#)を参照してください。

 **Note:**

アプリケーション・データベースをリフレッシュすると、データベース内のすべてのキューブがリフレッシュされます。

メタデータの検証

「メタデータの検証」について

データベース・リフレッシュ・プロセスの一部として「**メタデータの検証**」設定(以前は「**エラーの自動修正**」と呼ばれていました)を使用し、ビジネス・プロセスと Oracle Essbase の間のメンバー・アイデンティティ (ID)の不一致をスキャンして自動的に解決します。

 **Caution:**

「**メタデータの検証**」を選択すると、リフレッシュ・プロセスにかかる時間が長くなることがあります。

特定のケースで、アプリケーションが使用するマルチディメンショナル・データベースで完全には認識されない方法で、メンバーのアイデンティティが変更される場合があります。システムのすべての部分でメンバーのアイデンティティが完全には正確に確立されていない場合、メンバー順序の不正などの階層の問題が発生することがあります。つまり、該当するメンバーの子の不足、兄弟の一部の不足、特定のプロパティの不足などが発生することがあります。「**メタデータの検証**」を選択すると、そのようなメンバーが検出されてアイデンティティが自動的に解決されます。これにより、これらのメンバーと、プロパティおよび兄弟を含む階層が完全に正確に認識されるようになり、システムのすべての部分で使用可能になります。

メンバーの移動および削除を詳しく記したレポートの表示

メンバー ID の修正後に、メンバーが削除または移動されることがあります。メンバーの移動(異なる親への移動)または削除を詳しく記したレポート・ファイルが生成され、csv (カンマ区切り)ファイル・フォーマットで送信ボックスに配置されます。レポートを確認して、子の階層が変更された可能性のある保管された親メンバーの一部を再集約します。

例:

Action	Member	Parent	Dimension	Cube	New Parent
Delete	Member1	Parent1	Scenario	Plan1	
Move	Member2	Parent2	Account	Plan2	Parent3

CSV ファイルが「送信ボックス」フォルダに生成され、アプリケーション名の後に `_autocorrect.csv` が付いたファイル名が自動的に生成されます(例: `vision_autocorrect.csv`)。このファイルは、実行のたびに上書きされます。

「**メタデータの検証**」設定を使用して「**データベースのリフレッシュ**」ジョブを実行した後、送信ボックスからエクスポート・ファイルをダウンロードできます。

ファイルをダウンロードするには:

1. 「**アプリケーション**」をクリックし、「**ジョブ**」をクリックします。
2. 「**最近のアクティビティ**」で、ジョブをクリックします。
3. 「**ジョブの詳細**」の上部で、エクスポート・ファイル・オプションをクリックしてダウンロード場所を選択します。

アプリケーションの削除

アプリケーションを削除する場合、慎重に作業を進めます。アプリケーションを削除するとそのコンテンツおよびスケジュール済のジョブがすべて削除されるため、アプリケーションのバックアップを作成してください。

アプリケーションを削除するには:

1. ホーム・ページで、「**アプリケーション**」、「**概要**」の順に選択します。
2. **アプリケーション**・ページで、「**アクション**」、「**アプリケーションの削除**」の順に選択します。

4

アプリケーションおよびシステム設定の管理

Related Topics

- [アプリケーションおよびシステムの設定の管理について](#)
- [アプリケーション設定](#)
- [システム設定](#)
- [計算オプションの設定](#)

アプリケーションおよびシステムの設定の管理について

サービス管理者は、現在のアプリケーションのデフォルトを指定できます。

アプリケーションおよびシステムの設定を表示および管理するには:

1. ホーム・ページで、「**アプリケーション**」、「**設定**」の順に選択します。
2. **アプリケーション設定** ページで、目的のアプリケーション設定を定義します。

次の2つの設定は、Enterprise Profitability and Cost Management に固有です:

- **計算スレッド**: 並列計算でルール・セットが有効になっている場合に並列で実行できるルールの数。[ルール・セットの作成](#)で、「**ルール・セットの計算オプション**」オプションの「**並列計算**」を参照してください。
- **配賦精度**: 計算された配賦結果の小数点以下の桁数。精度は、切捨てでなく丸め処理によって計算されます。デフォルトは、小数点以下2桁です。値は、7から-6までの範囲です。

Enterprise Profitability and Cost Management 固有の設定に加えて、次の領域で設定を定義できます:

- [アプリケーション設定](#)
- [システム設定](#)

アプリケーション設定

次の領域でアプリケーション設定を定義できます:

- [別名設定](#)
- [数値のフォーマット](#)
- [通知](#)
- [ページ設定](#)
- [その他オプション](#)

- Profitability and Cost Management

別名設定

Table 4-1 別名設定

設定	説明
別名表	アプリケーションのデフォルトの別名表
メンバーのラベルの表示形式	「メンバー選択」ダイアログ・ボックスのデフォルト表示オプション。 メンバー・セレクトタの使用 を参照してください。

数値のフォーマット

Table 4-2 「数値のフォーマット」の設定

設定	説明
3桁ごとの区切り文字	<ul style="list-style-type: none"> なし: 1000 カンマ: 1,000 ドット: 1.000 スペース: 1 000 アンダースコア: 1_000
小数点	<ul style="list-style-type: none"> ドット: 1000.00 スペース: 1000 00 アンダースコア: 1000_00
負数の符号	<ul style="list-style-type: none"> 先頭のマイナス: -1000 末尾のマイナス: 1000- 括弧: (1000)
負数の色	<ul style="list-style-type: none"> 赤 黒

通知

Table 4-3 「通知」の設定

設定	説明
タスク・リスト	Enterprise Profitability and Cost Management には適用されません
承認	Enterprise Profitability and Cost Management には適用されません
ジョブ・コンソール	選択すると、「 ジョブ 」コンソールのジョブの通知が有効になります。 ジョブの管理 を参照してください。

ページ設定

Table 4-4 ページ設定

設定	説明
メンバーのインデント	メンバーのページへのインデントのデフォルトを設定します。

Table 4-4 (Cont.) ページ設定

設定	説明
「ページ」ドロップダウンの項目数	「ページ」ドロップダウンのアイテム数のデフォルトを設定します。 メンバー・リストのアイテム数を減らすと、「検索」ボックスをより容易に表示できます。たとえば、リストを 10 メンバーに減らすと、スクロールしなくても「検索」ボックスが見つかります。

その他オプション

Table 4-5 その他オプション



設定	説明
日付フォーマット	Enterprise Profitability and Cost Management には適用されません。
属性ディメンション日付フォーマット	アプリケーションの属性ディメンションの日付フォーマットを選択します。
部分グリッド・フェッチ・サイズ(行,列)	行と列の数を nn,nn の形式で入力します
Smart View でアプリケーション管理オプションを抑制	Oracle Smart View for Office でアプリケーション管理オプションを抑制するかどうかを選択します。
アド・ホック読取り専用役割のデータ・ロードの有効化	
ルールがバックグラウンドで実行されるまでの秒数の設定	0 秒以上 600 秒(10 分)以下の値を入力します。 <div data-bbox="906 1144 1456 1375" style="border: 1px solid #0070C0; padding: 10px; background-color: #E6F2FF;"> <p> Note: フォームがロードまたは保存されたときに自動的に実行されるよう設定されたルールはバックグラウンドで実行されません。</p> </div> <div data-bbox="906 1411 1456 1642" style="border: 1px solid #0070C0; padding: 10px; background-color: #E6F2FF;"> <p> Note: ここで入力された値は、Calculation Manager で作成されたビジネス・ルールに適用されます。ビジネス・ルールの作成および管理を参照してください。</p> </div>
クライアント・ログ・レベル	「なし」、「情報」、「警告」、「エラー」または「一般」を選択します
Web アド・ホック・グリッド	Web アド・ホック・グリッドで欠落値のみを抑制するか、欠落値とゼロ値を抑制するかを選択します。
アド・ホックのユーザー式の有効化	「はい」を選択すると、アド・ホック・グリッドで、メンバー式が添付されたセルにカーソルを置くと、セルに関連付けられているメンバー式が表示され、計算をオンザフライで実行できます。

Table 4-5 (Cont.) その他オプション

設定	説明
「セグメント」ドロップダウンでの除外メンバーのフィルタ処理	デフォルトは「はい」です。「いいえ」を選択すると、フォームで行のドロップダウン POV に除外メンバーが表示されます。

Profitability and Cost Management

Table 4-6 「Profitability and Cost Management」の設定

設定	説明
計算スレッド	並列計算でルール・セットが有効になっている場合に並列で実行できるルールの数。ルール・セットの作成で、「ルール・セットの計算オプション」オプションの「並列計算」を参照してください。
配賦精度	計算された配賦結果の小数点以下の桁数。精度は、切捨てでなく丸め処理によって計算されます。デフォルトは、小数点以下 2 桁です。値は、7 から -6 までの範囲です。

システム設定

Table 4-7 システム設定

システム設定	説明
ユーザーのフル・ネームの表示	選択すると、ユーザーのフル・ネームが表示されます(Max Hennings など)。クリアすると、ユーザーの ID が表示されます(VHennings など)。
キューブのリフレッシュに共有メンバーを含める	選択すると、共有メンバーが基本メンバーに割り当てられたセキュリティ・アクセスを継承します。 選択を解除すると、基本メンバーと共有メンバーの親に割り当てられたアクセス権限の組合せに基づいた、最も高いセキュリティ・アクセスを共有メンバーが継承します。
電子メールの文字セット	「UTF-8 エンコード」または「地域設定」を選択します。

Table 4-7 (Cont.) システム設定

システム設定	説明
ビジネス・ルール通知	<p>「はい」に設定すると、Calculation Manager で作成され、通知が有効になっているビジネス・ルールが完了するか、エラーが発生したときにユーザーまたはグループに電子メール通知が送信されます。「ユーザーに通知」で、通知するユーザーまたはグループを選択します。</p> <p>ノート: Calculation Manager でビジネス・ルールを作成するときにルールのプロパティの「通知の有効化」オプションを使用して、ルールで通知を有効にするかどうかを指定します。</p> <p><i>Oracle Enterprise Performance Management Cloud Calculation Manager</i> での設計のビジネス・ルールの作成を参照してください。</p> <p>ノート: ビジネス・ルールの詳細は、ビジネス・ルールの作成および管理を参照してください。</p>
ユーザーに通知	<p>「ビジネス・ルール通知」設定を「はい」に設定した場合は、ビジネス・ルールが完了するか、エラーが発生したときに通知するユーザーまたはグループを選択します。</p> <p>ノート: 通知するユーザーまたはグループを 1 つのみ選択できます。</p>
アド・ホックでの共有メンバーに対するドリルダウンを許可	<ul style="list-style-type: none"> 「はい」では、アド・ホック・グリッドで共有メンバーに対するドリルダウンが許可されます。 「はい」に設定している場合、「ベースのすべてのレベルにドリル」チェック・ボックスが表示されます。 「いいえ」では、アド・ホック・グリッドで共有メンバーに対するドリルダウンが無効になります。
アプリケーションの使用可能	<p>バックアップ中などの管理モードのときに、ユーザーがアプリケーションにアクセスできるかどうかを判別します。</p> <ul style="list-style-type: none"> 管理者—「管理者」を選択すると、非管理者ユーザーがアプリケーションにログオンしている場合、ユーザーは強制的にシステムからログオフされ、ログオンできなくなります。 すべてのユーザー—すべてのユーザーがアプリケーションにアクセスできるように復元するには、「すべてのユーザー」を選択します。
アプリケーションの所有者の割当	<p>アプリケーションの所有権を別のサービス管理者に割り当てます。</p>

Table 4-7 (Cont.) システム設定

システム設定	説明
代替変数の表示を使用可能にする	<p>ユーザーが、ビジネス・ルールで実行時プロンプトへの応答時に「メンバー選択」ダイアログ・ボックスに代替変数をどう表示させるかを次のように設定します。</p> <ul style="list-style-type: none"> • すべて表示—すべての代替変数を表示します。 • 何も表示しない—代替変数を表示しません。 • フィルタの使用可能—実行時プロンプトに有効な代替変数のみを表示します。
抑制モード	<p>行と列にデータの欠落やゼロがある場合の Web および Smart View におけるアド・ホック・グリッドの抑制動作を選択します。</p> <ul style="list-style-type: none"> • 欠落した値のみを抑制(デフォルト)—データなし/欠落を含む行または列、あるいはその両方を抑制します。 • 欠落を抑制したらゼロも抑制 - データなし/欠落とゼロの両方を含む行または列、あるいはその両方を抑制します。
Smart View アド・ホック動作	<p>Enterprise Profitability and Cost Management で新規および再作成されたアプリケーションはすべて、自動的に「標準」に設定されます。この設定は変更できません。</p> <p>標準モードで使用可能なアド・ホック機能の詳細は、<i>Oracle Smart View for Office (Mac and Browser)の使用の EPM Cloud での Smart View の動作オプション</i>を参照してください。</p>
リフレッシュ時にすべての別名表を使用	<p>「はい」に設定した場合、すべての別名表に照らして別名が評価されます。「いいえ」に設定した場合(デフォルト設定)、現在選択されている別名表に照らして別名が評価されます。どちらの場合でも、有効なメンバー名または別名として識別できない入力コメントとして表示されます。</p>
デフォルトで勘定科目をリンク	<p>Enterprise Profitability and Cost Management には適用されません。</p>
属性ディメンション並替えしきい値	<p>0 から 500 までのしきい値を入力します(500 がデフォルト値です)。</p> <p>属性ディメンションについては、特定の親の下のメンバー数が、指定したしきい値を超えると、メタデータのロード中ではなく、ロードの終了時にメンバーが並べ替えられます。属性ディメンションの特定の形状によっては、この数値を調整すると、パフォーマンスに影響が生じることがあります。一般に、属性ディメンションのロード時間が許容可能なレベルを下回らないかぎり、この設定は無視できます。</p>

Table 4-7 (Cont.) システム設定

システム設定	説明
レポート・オプションの設定	<p>次世代のレポートのレポート・ソリューションを使用している場合は、この設定を使用して、レポートの作成に会社で使用している TrueType フォントをアップロードすることをお勧めします。フォントの管理を参照してください。</p> <p>TrueType フォントをアップロードするには、レポートの設定、フォントの管理、+の順にクリックして、アップロードするフォント・ファイルを選択します。</p>

計算オプションの設定

Enterprise Profitability and Cost Management 計算プロセスは、一貫性および信頼性がある計算結果を導き出すように設計されています。Enterprise Profitability and Cost Management では、パフォーマンスの向上に役立つ場合がある論理的クリアおよび空でないダブル配賦ルールという計算設定が提供されます。

関連リンク

[論理的クリアまたは物理的クリアの定義](#)

[空でないダブル配賦ルールの有効化](#)

論理的クリアまたは物理的クリアの定義

Enterprise Profitability and Cost Management の計算プロセスでは、デフォルトで、論理的クリアの計算設定を使用して結果が計算されます。データベース内のデータ増加がデータベースのクリア処理に影響を及ぼしているときに論理的クリアを使用すると、全体の計算時間全体が改善され、パフォーマンスを向上できる可能性があります。論理的クリアを使用しているときに計算問題が発生した場合は、計算設定を物理的クリアに変更できます。

EPCM_CALC_CLEAR_TYPE 代替変数を使用して、論理的クリアと物理的クリアのどちらを使用するかを指定します。デフォルトは論理クリアであるため、論理的クリアを使用する場合は EPCM_CALC_CLEAR_TYPE 代替変数を有効にする必要はありません。

物理的クリアに変更する場合は、次の手順を実行します:

1. ホーム・ページで「ツール」を選択し、「変数」を選択します。
2. 「変数」ページで「代替変数」を選択します。
3. **+**をクリックします。
新しい変数がリストの一番下に追加されます。
4. リスト下部までスクロールし、変数を追加するキューブを選択します。
5. 「名前」に EPCM_CALC_CLEAR_TYPE を入力します。
6. 「値」に「物理」を入力します。

7. 「保存」をクリックします。

空でないタプル配賦ルールの有効化

空でないタプル配賦ルール(NET)設定を使用して、単純な再分類(SR)ルールの計算時間を改善できます。非常に大規模で疎のソースまたは宛先範囲がある SR ルールで実行時間が長い場合は、この設定が解決策になる場合があります。影響を受けるルールの割当てロジックが改善につながる場合と、そうでない場合があります。この計算拡張機能を本番環境に移行する前に、リグレッション・テストを行うことが重要です。

EPCM_CALC_NET_ENABLE 代替変数を使用して、空でないタプル配賦ルール(NET)を有効にします。この代替変数の有効な値は「はい」または「いいえ」です。変数が存在しない場合のデフォルトは「いいえ」です。

空でないタプル配賦ルール(NET)を有効にするには:

1. ホーム・ページで「ツール」を選択し、「変数」を選択します。
2. 「変数」ページで「代替変数」を選択します。
3. **+** をクリックします。
新しい変数がリストの一番下に追加されます。
4. リスト下部までスクロールし、変数を追加するキューブを選択します。
5. 「名前」に EPCM_CALC_NET_ENABLE を入力します。
6. 「値」に「はい」を入力します。
7. 「保存」をクリックします。

Note:

カスタム計算ルールでの空のタプルのスキップについては、[空のタプルをスキップしてカスタム計算を最適化](#)を参照してください。

5

有効な交差の定義

Related Topics

- [有効な交差の理解](#)
- [有効な交差の作成](#)
- [有効な交差の管理](#)
- [フォーム内の無効データの抑制](#)
- [無効なデータのクリア](#)
- [有効交差の操作](#)

有効な交差の理解

有効交差は、定義したルールに基づいてフィルタされるセルの交差部分です。このルールは有効交差ルールと呼ばれ、ユーザーがデータを入力したり実行時プロンプトを選択する場合に、ユーザーに対して特定のセル交差をフィルタします。たとえば、ある期間や一部の部署にのみ特定のプログラムが有効であることを指定できます。有効交差を定義した後は、無効なデータを含むセルは読取り専用になります。この制限により、プランニング・プロセスのスピードが向上し、ユーザーに使用可能な情報が最適化されます。

逆に、ほとんどのセルの組合せでデータ入力を許可し、選択したいいくつかのセルの組合せに対するデータ入力のみを禁止する必要があるというユース・ケースも考えられます。このような場合は、無効な交差を定義することにより、定義プロセスを簡易化できます。無効な交差は、交差グループの作成中に無効な交差定義タイプを指定できる点を除き、有効な交差を定義する場合と同様に定義します。

有効交差がフォームおよび実行時プロンプトの動作にどのように影響するかをさらに理解するには、[有効交差の操作](#)を参照してください。

有効交差グループ

有効交差グループで次の内容を定義します：

- 含まれるディメンション
- ディメンションのいずれかをアンカー・ディメンションとする
- 非アンカー・ディメンションが必要かどうか
- 指定されないまたは参照されないアンカー・ディメンション・メンバーは有効か、無効か

有効交差ルール

有効交差ルール：

- 有効交差グループ内で定義されたディメンションと同じディメンションを使用する必要があります

- 同じ有効交差グループ内の有効交差ルールは明らかな競合や重複が生じると、いずれかの有効交差ルールの条件が満たされた場合に、有効とマークされます
- 明らかな冗長または重複を発生させる、異なる有効交差グループ内の有効交差ルールは、すべての有効交差グループの要件を満たしている場合、有効とマークされます

したがって、有効交差グループが交差を無効とマークしている場合、他の有効交差グループがその交差を有効とマークしているかどうかにかかわらず、その交差は無効とマークされます無効なグループは有効なグループの結果を上書きします。

ノート:

有効交差を削除する場合は、他の有効交差グループが許可しているかどうかにかかわらず、このルールは異なる有効交差グループに属する必要があります。

[有効な交差の例](#)を参照してください。

アンカーおよび非アンカー・ディメンション

アンカーおよび非アンカー・ディメンション:

- アンカー・ディメンションは常に、有効な交差の評価で使用されるキューブの必須ディメンションです。
- 非アンカー・ディメンションが必須である場合、または必須でない場合:
 - 非アンカー・ディメンションが必須である場合、そのディメンションを使用しないキューブでは、有効な交差の評価時に、そのディメンションが必須としてタグ付けされている有効な交差グループは無視されます。
 - 非アンカー・ディメンションが必須でない場合、そのディメンションを使用しないキューブでは、そのディメンションが必須でないとして含まれている有効な交差グループも評価され、キューブで使用されている有効な交差グループ内の他のディメンションの交差が評価されます。
- 選択していないアンカー・ディメンション・メンバーはデフォルトで有効ですが、「**選択されていないメンバーは有効です**」オプションをクリアすると、これらが無効としてマークできます。このオプションでは、このルールで選択されていないアンカー・ディメンション・メンバーを含むすべての交差を無効としてマークします。

[有効な交差の例](#)を参照してください。

有効な交差の例

ここでは、有効交差グループと有効交差ルールの例を示して、単純、複雑およびエッジケースのシナリオをいくつか説明します。

例: アンカーおよび非アンカー・ディメンション

アンカー・ディメンションの選択は重要です。アンカーのディメンション定義に基づいて、異なる結果が作成される次の例を検討してください:

- 有効交差グループ 1 では、アンカー・ディメンションとしてエンティティが定義され、非アンカー・ディメンションとして製品が定義されています。
- 有効交差グループ 2 では、アンカー・ディメンションとして製品が、非アンカー・ディメンションとしてのエンティティとして逆に定義されています。

表 5-1 例 - アンカー・ディメンションはエンティティです

有効交差グループ	アンカー・ディメンション - エンティティ	非アンカー・ディメンション - 製品
1	DESC(500 - 製造) - 選択されていないメンバーは有効です	DESC(P_TP1 - コンピュータ設備)

グループ 1 は、製造の子孫であるエンティティが、コンピュータ設備の子孫製品でのみ有効であることを意味します。製造の子孫で有効である製品は他にありません。製造の子孫以外のすべてのエンティティは、コンピュータ設備の子孫を含め、すべての製品で有効です。

表 5-2 例 - アンカー・ディメンションは製品です

有効交差グループ	アンカー・ディメンション - 製品	非アンカー・ディメンション - エンティティ
2	DESC(P_TP1 - コンピュータ設備) - 選択されていないメンバーは有効です	DESC(500 - 製造)

グループ 2 は、コンピュータ設備の子孫である製品が、製造の子孫エンティティでのみ有効であることを意味します。他のエンティティは、コンピュータ設備の子孫で有効ではありません。コンピュータ設備の子孫以外のすべての製品は、製造の子孫を含め、すべてのエンティティで有効です。

▲ 注意:

アンカー・ディメンションの選択は重要です。間違ったアンカー・ディメンションを選択した場合、非常に異なる結果になります。

例: 必須のディメンション

次の例では、非アンカー・ディメンションが必須ではない場合、アプリケーションは、必須ではないディメンションを含まないキューブの有効交差グループ内のすべての残りのディメンション交差を評価します。この動作では、1 つの有効なディメンションのみを含む有効交差グループの評価が発生する可能性があります。

表 5-3 例 - 必須と必須ではない非アンカー・ディメンションの比較

有効交差グループ	アンカー・ディメンション - エンティティ	非アンカー・ディメンション - 製品
1	DESC(500 - 製造) - 選択されていないメンバーは有効です	DESC(P_TP1 - コンピュータ設備) - 必須ではない

グループ 1 では、製品ディメンションは必須ではなく、選択されていないエンティティは有効です。したがって、実行時、フォームまたはビジネス・ルールのキューブに製品ディメンションが含まれない場合、アプリケーションではエンティティ・ディメンションの選択内容が評価され、製品ディメンションを含まないキューブに対してすべてのエンティティが有効とマークされます。

表 5-4 例 - 必須と必須ではない非アンカー・ディメンションの比較

有効交差グループ	アンカー・ディメンション - エンティティ	非アンカー・ディメンション - 製品
2	DESC(500 - 製造) - 選択されていないメンバーは無効です	DESC(P_TP1 - コンピュータ設備) - 必須ではない

グループ 2 では、製品ディメンションは必須ではなく、選択されていないエンティティは無効です。したがって、キューブに製品ディメンションが含まれない場合、アプリケーションではエンティティ・ディメンションの選択内容が評価され、製品の子孫を除くすべてのエンティティが無効とマークされます。したがって、製品ディメンションを使用しないキューブでは、製造エンティティの子孫でのデータ入力のみが許可されます。

▲ 注意:

非アンカー・ディメンションが必須であるかどうか、特に 1 つの有効なディメンションのみを含む有効交差グループが結果に残されているかどうかを注意深く検討してください。また、アンカー・ディメンション・メンバーに対する「**選択されていないメンバーは有効です**」オプションの選択も、有効交差のシステム動作で重要な役割を果たします。[有効な交差の例](#)を参照してください。

例: 選択されていないメンバーは有効です

次の例では、2 つの交差グループが有効です。1 つのグループで、アンカー・ディメンションの選択されていないメンバーは無効です(このオプションはクリアされています)。他のグループで、アンカー・ディメンションの選択されていないメンバーは有効です(このオプションは選択されています)。

表 5-5 例 - 選択されていないメンバーは有効です

有効交差グループ	アンカー・ディメンション - 勘定科目	非アンカー・ディメンション - エンティティ
1	IDESC(BS - 貸借対照表) - 選択されていないメンバーは無効です	000 - 部署なし
2	IDESC(GP - 総利益) - 選択されていないメンバーは有効です	IDESC(403 - 売上げ)

ビジネス・グループ 1 では、すべての選択されていないメンバーが無効と定義されており、アプリケーションによって、貸借対照表に含まれない子孫が無効とマークされます。総利益は、貸借対照表に含まれる子孫ではありません。したがって、グループ 2 は、総利益に含まれる子孫が、売上げエンティティに含まれる子孫で有効であること

を明示的に示していますが、グループ 1 の無効定義は、同じアンカー・ディメンション・メンバー・セットの有効交差を上書きします。

例: 同じ有効交差グループ内での冗長または重複有効交差ルール

有効交差ルールが同じ有効交差グループにあり、冗長または重複が生じる場合、有効交差グループのいずれかの要件が満たされたときにのみ、交差は有効とマークされます。

表 5-6 例: 同じ有効交差グループ内での冗長または重複有効交差ルール

有効交差ルール	アンカー・ディメンション - 勘定科目	非アンカー・ディメンション - エンティティ
1	IDESC(GP - 総利益) - 選択されていないメンバーは有効です	IDESC(403 - 売上げ)
2	IDESC(NI - 純利益) - 選択されていないメンバーは有効です	IDESC(TD - 部署合計)

総利益が純利益の子孫で、売上げが部署合計の子孫であるため、総利益に含まれる子孫は、部署合計に含まれる利益で有効です。ルール 1 はルール 2 のサブセットなので、実際は、ルール 1 は操作なしのルールであり、不要です。総利益勘定科目に含まれる子孫に制限はなく、売上げエンティティに含まれる子孫に対してのみ有効です。

例: 異なる有効交差グループでの冗長または重複有効交差ルール

有効交差ルールが異なる有効交差グループにあり、冗長または重複が生じる場合、すべての有効交差グループの要件が満たされたときにのみ、交差は有効とマークされます。

次の例では、異なるグループに冗長または重複するルールがあります:

表 5-7 例 - 異なる有効交差グループでの冗長または重複有効交差ルール

有効交差グループ	アンカー・ディメンション - 勘定科目	非アンカー・ディメンション - エンティティ
1	IDESC(GP - 総利益) - 選択されていないメンバーは有効です	IDESC(403 - 売上げ) - 必須
2	IDESC(NI - 純利益) - 選択されていないメンバーは有効です	IDESC(TD - 部署合計) - 必須ではない

グループ 1 は、売上げエンティティに含まれる子孫で有効である、総利益勘定科目に含まれる子孫を制限するため、アプリケーションでは、このグループがこれらの交差に使用されます。他の総利益以外の勘定科目は、部署合計エンティティに含まれるすべての子孫を使用できますが、総利益勘定科目に含まれる子孫は、売上げエンティティに含まれる子孫を使用する必要があります。

有効交差ルールの冗長または重複

同じ有効交差グループ内の有効交差ルールで、明らかな競合や重複が生じると、いずれかの有効交差ルールの条件が満たされた場合に、有効とマークされます。

異なる有効交差グループが、アンカー・ディメンション、必須または必須でない非アンカー・ディメンション、および「選択されていないメンバーは有効です」属性を含め、同じ属性を共有している場合、これらは、同じ有効交差グループのルールとして扱われます。

共有メンバーおよび有効交差ルール

共有メンバーは、有効交差ルールでサポートされています。基本メンバーが有効交差ルールに対して選択されている場合、共有メンバーもルールに含まれます。あるいは、共有メンバーが有効交差ルールに対して選択されている場合、基本メンバーもルールに含まれます。

代替変数および有効交差ルール

有効交差ルールで代替変数を使用できます。ユーザー変数はサポートされていません。代替変数は、Essbase サーバー、アプリケーションまたはデータベース・レベルで設定できます。同じ代替変数が複数のレベルで存在します。アプリケーションは、次の順序で検索するときに検出される最初の代替変数を使用します。

1. データベース(キューブ)
2. アプリケーション
3. サーバー

評価順序

有効交差グループの評価順序は、無効な結果セットをできる限り速く順序付けし、有効交差の評価全体の速度および効率性を向上させます。

たとえば、アプリケーションでは、リスト内の最初の有効交差グループ、次に 2 番目のグループというように順番に評価されます。無効として定義された交差は、他の有効交差ルールの結果より優先されるため、リスト内の 2 番目のグループで無効な交差が検出されると、リストの残りの評価は中止されます。




グループの評価順序を変更するには、[有効交差グループの評価順序の変更](#)を参照してください。

有効な交差の作成

データを入力したり、メンバーを選択したり、実行時プロンプトを選択する場合にユーザーに対して特定のセル交差をフィルタするルールを定義できます。

有効交差を作成するには:

1. 「**アプリケーション**」をクリックし、「**有効な交差**」をクリックします。
2. まだ選択されていない場合は、「**セットアップ**」タブをクリックします。
3. 有効交差グループを作成します:
 - a. 「**作成**」をクリックします。
 - b. 新しい交差の名前と説明を入力します。
 - c. 「**使用可能**」チェック・ボックスは、デフォルトで選択されています。有効交差グループを無効化するには、「**使用可能**」チェック・ボックスの選択を解除します。「**有効な交差**」ページで直接、有効交差グループを有効化または無効化することもできます。[有効交差グループの無効化および有効化](#)を参照してください。

- d. 「定義タイプ」で、次のいずれかを選択します:
 - 有効な交差
 - 有効な交差
 - e. 交差グループのアンカー・ディメンションを選択するには、「アンカー・ディメンションの選択」の横にある  をクリックします。
 - f. **オプション:** デフォルトでは、有効交差ルールで指定されていないアンカー・ディメンション・メンバーが有効とマークされます。このオプションをクリアするには、アンカー・ディメンションの横の  をクリックし、「選択されていないメンバーは有効です」をクリックします。
このオプションの詳細と使用方法の例は、[アンカーおよび非アンカー・ディメンション](#)を参照してください。
 - g. 追加のディメンション(非アンカー・ディメンションと呼ばれます)を選択するには、「ディメンションの追加」をクリックします。
 - h. **オプション:** デフォルトでは、非アンカー・ディメンションは必須ではありません。非アンカー・ディメンションを必須にするには、非アンカー・ディメンションの横の  をクリックし、「必須」をクリックします。
4. 有効交差ルールを定義します:
 - a. 「ルールの追加」をクリックします。
 - b. 有効な交差に対して含めるか、除外するか、または削除するメンバーの範囲を選択するには、新規ルールのディメンションの横にあるドロップダウン・アイコンをクリックします:
 - 「編集」をクリックして「メンバーの選択」ページを開き、有効な交差ルールに含めるメンバー、代替変数および属性を選択します。[メンバー・セレクタの使用](#)を参照してください
 - 「除外の追加」をクリックして、ルール内の除外を定義します。このディメンションに含める対象のサブセットを除外できます。
 - 「クリア」をクリックして、選択をクリアします。
ルールを削除するには、「削除」アイコンをクリックします。
 5. 「保存して閉じる」をクリックします。
 6. 新しい有効交差グループが、有効交差リストの最後に追加されます。リスト内のルールの順序を変更するには、[有効交差グループの評価順序の変更](#)を参照してください。

有効な交差の管理

次も参照:

- [有効交差の表示](#)
- [有効な交差のフィルタ](#)
- [交差のインポートとエクスポート](#)
- [有効交差グループの評価順序の変更](#)
- [有効交差グループの無効化および有効化](#)

- [有効交差グループの詳細の編集](#)
- [有効交差グループの複製](#)
- [有効交差グループの削除](#)




有効交差の表示

有効交差を表示するには:

1. 「**アプリケーション**」をクリックし、「**有効な交差**」をクリックします。
2. まだ選択されていない場合は、「**セットアップ**」タブをクリックします。

ノート:

レッドウッド・エクスペリエンスが有効化されている場合、「**設定**」タブはページの下部にあります。



3. 特定の交差についてリスト全体を検索するには、「**検索**」ボックスに検索条件を入力し、 をクリックして、検索条件を満たす交差のみを表示します。
4. フィルタ条件を満たす交差のみが表示されるようにリストをフィルタするには、次のフィルタ・オプションを指定します:
 - : クリックすると、「**フィルタ**」ページが表示され、フィルタ・オプションの堅牢なリストから選択できます。フィルタ・オプションとその説明の完全なリストは、[有効な交差のフィルタ](#)を参照してください。
 - : クリックすると、すべてのフィルタがクリアされます。
 - **使用可能**: 有効になっている(**「はい」**)または有効になっていない(**「いいえ」**)交差のみを表示するようにリストをフィルタするか、「**すべて**」を選択します。
 - **定義タイプ**: 「**有効な交差**」または「**無効な交差**」タイプの交差のみを表示するようにリストをフィルタするか、「**すべて**」を選択します。
5. **有効な交差**ページで次のタスクを実行することもできます:
 - 「**アクション**」メニュー: 有効な交差をインポートおよびエクスポートするには、[交差のインポートとエクスポート](#)を参照してください。
 - **作成**: [有効な交差の作成](#)を参照してください。
 - **リフレッシュ**: クリックすると、交差リストがリフレッシュされます。
6. 交差ページのそれぞれのリストについて、次のタスクを実行できます:
 - **使用可能列**: 交差が使用可能かどうかを示します。交差を無効または有効にするには、その横にあるチェック・マークをクリックします。緑色のチェック・マークは、定義が使用可能であることを示します。[有効交差グループの無効化および有効化](#)を参照してください。
 - 「**アクション**」列: **...**をクリックして、交差を編集、複製または削除したり、リスト順序内で上下に移動します。次のトピックを参照してください:
 - [有効交差グループの評価順序の変更](#)

- 有効交差グループの詳細の編集
- 有効交差グループの複製
- 有効交差グループの削除

有効な交差のフィルタ

交差が有効になっているかどうか、定義が有効であるか無効であるか、変更時期、変更者など、特定の条件によって交差のリストをフィルタできます。フィルタすると、フィルタ条件を満たす交差のみが「**有効な交差**」ページに表示されます。

交差をフィルタするには:

1. 「**アプリケーション**」をクリックし、「**有効な交差**」をクリックします。
2.  をクリックして、フィルタ条件を指定します:
 - **使用可能:** 有効になっている(「はい」)または有効になっていない(「いいえ」)交差のみを表示するか、「**すべて**」を選択します。
 - **定義タイプ:** 「**有効な交差**」または「**無効な交差**」タイプの交差のみを表示するか、「**すべて**」を選択します。
 - **変更:** 特定の日時より前または後に変更された交差、あるいは日付または時間の範囲内に変更された交差のみを表示します。「**後**」、「**前**」または「**次の値の間**」を選択し、 をクリックして日時の条件を指定します。
 - **変更者:** 選択したユーザーによって変更された交差のみを表示します。
3. 「**その他**」をクリックして、フィルタ条件をさらに絞り込みます:
 - **ディメンション**
 - **アンカー・ディメンション**
 - **選択されていないメンバーは有効です:** 「はい」、「いいえ」または「すべて」を選択します。
 - **その他のディメンションが必要:** 「はい」、「いいえ」または「すべて」を選択します。
4. 「**適用**」をクリックします。

交差のインポートとエクスポート

有効な交差のインポートとエクスポートについて

有効な交差のフィルタされたリストをリスト・ページからローカル・コンピュータ上の場所にエクスポートするか、それらをサーバーにエクスポートできます。リスト・ページでフィルタが定義されていない場合は、すべての交差がエクスポートされます。

交差をローカル・コンピュータ上の場所からアプリケーションにインポートするか、それらをサーバーからインポートするには、「インポート」アクションを使用します。インポートを実行する際に、インポート・ファイルに定義の破損の原因となる可能性があるなんらかの問題がないかどうかテストされます。たとえば、キューブが欠落している場合、アンカー・ディメンションが存在しない場合、サブルールが見つからない場合は、エラー・ファイルにエラーが記録されます。インポート・ジョブは、インポート・ファイルにエラーがない場合にのみ正常に完了します。

 **Note:**

サブルールでは、アンカーおよび非アンカー・ディメンションのメンバー選択または除外、各サブルールに適用される制限タイプなど、ルールの内容に関する情報が提供されます。

選択したエクスポート場所またはインポート場所に応じて、交差は Excel ファイル・フォーマット(XLSX)か zip ファイル・フォーマットでエクスポートまたはインポートされます。

 **Note:**

有効な交差をエクスポートするとき、ロックされた有効な交差ルールはエクスポートされません。有効な交差をインポートするとき、ロックされた有効な交差ルール(および FCCS_、OCX_、OEP_、OFS_、OPF_、OWP_、TRCS_ などの制限付きの接頭辞で開始するルール)はインポートされません。

有効な交差のインポート・ファイル

Excel インポート・ファイルには 2 つのシートが必要であり、最初のシートと 2 番目のシートの名前は次のとおりです:

1. Rules
2. Sub Rules

Rules シートには次の列見出しがあります:

- **名前**
- **位置**
- **説明**
- **使用可能**
- **定義タイプ**
- **アンカー・ディメンション名**
- **選択したメンバーへの アンカー・ディメンションの適用**
- **Dim1**
- **Dim1 必須**
- **Dim2**
- **Dim2 必須**
- **DimX**
- **DimX 必須**


Sub Rules シートには次の列見出しがあります:

- **名前** - この列には、最初のシートのルールの名前を含める必要があります

- アンカー・メンバー
- アンカーの除外
- アンカーをすべて除外
- Dim1 メンバー
- Dim1 の除外
- Dim1 をすべて除外
- Dim2 メンバー
- Dim2 の除外
- Dim2 をすべて除外
- DimX メンバー
- DimX の除外
- DimX をすべて除外

有効な交差のインポートとエクスポート

交差をエクスポートおよびインポートするには:

1. 「アプリケーション」をクリックし、「有効な交差」をクリックします。
2. 必要に応じて、リストにフィルタを適用します。有効な交差のフィルタを参照してください。
3. エクスポートするには、「アクション」、「エクスポート」の順にクリックし、エクスポート・ファイルのターゲットの場所を選択します:
 - **ローカル:** エクスポート・ファイルをローカル・コンピュータ上の場所に保存します。このオプションを選択する場合は、「エクスポート」をクリックした後、エクスポート・ファイルを保存する場所を指定します。
 - **送信ボックス:** エクスポート・ファイルを zip フォーマットでサーバーに保存するジョブを実行します。これを今すぐダウンロードすることも、後でエクスポート・ジョブをスケジュールするために使用することもできます。このオプションを選択した場合は、「保存してジョブを実行」をクリックします。送信ボックスからエクスポート・ファイルをダウンロードするには:
 - a. 「アプリケーション」をクリックし、「ジョブ」をクリックします。
 - b. 「最近のアクティビティ」で、エクスポート・ジョブをクリックします。
 - c. 「ジョブの詳細」ページで、 をクリックして、エクスポート・ファイルのダウンロード場所を選択します。ビジネス・プロセスの「受信ボックス/送信ボックス・エクスプローラ」からエクスポート・ファイルをダウンロードすることもできます。
4. エクスポート・ファイルを Excel で編集する場合、Excel ファイルには Rules と Sub Rules の 2 つのシートがあることに注意してください。
5. インポートするには、「アクション」、「インポート」の順にクリックし、インポート・ソース・ファイルの場所を選択します:

- **ローカル:** 自分のコンピュータの場所からインポート・ファイルを読みします。「ソース・ファイル」で、「参照」をクリックして自分のコンピュータ上のインポート・ファイルを選択し、「インポート」をクリックします。
- **受信ボックス:** サーバーからインポート・ファイルを読みするジョブを実行します。インポート・ファイルは zip ファイル・フォーマットである必要があります。「ソース・ファイル」にファイルの名前を入力し、「保存してジョブを実行」をクリックして、「ジョブとして保存」ダイアログで「名前」と「エラー・ファイル」を指定します。エラー・ファイルでは、インポートされなかった交差に関する情報が提供されます。ビジネス・プロセスの「受信ボックス/送信ボックス・エクスプローラ」からエラー・ファイルをダウンロードできます。

有効交差グループの評価順序の変更

交差グループの評価順序は、無効な結果セットをできるかぎり速く順序付けし、交差の評価全体の速度および効率性を向上させます。

評価順序についてさらに学習するには、[評価順序](#)を参照してください。

リスト内の有効交差グループの位置を変更するには:

1. 「アプリケーション」をクリックし、「有効な交差」をクリックします。
2. まだ選択されていない場合は、「セットアップ」タブをクリックします。

ノート:

レッドウッド・エクスペリエンスが有効化されている場合、「設定」タブはページの下部にあります。

3. リスト内で交差グループの右側にある **...** をクリックします。
4. 「上へ移動」または「下へ移動」を選択します。

ヒント:

また、交差グループをドラッグして、リスト内で上下に移動することもできます。

有効交差グループの無効化および有効化

交差グループは、デフォルトで作成時に有効になります。交差グループを評価または使用しない場合、「有効な交差」ページでこれを無効化できます。交差グループを無効にすると、アプリケーションのフォーム、ビジネス・ルールまたは実行時プロンプトを表示する際に、そのグループの交差ルールは適用されなくなります。無効になっている交差グループを再度有効にすることもできます。

交差グループを無効化および有効化するには:

1. 「アプリケーション」をクリックし、「有効な交差」をクリックします。
2. まだ選択されていない場合は、「セットアップ」タブをクリックします。

 **ノート:**

レッドウッド・エクスペリエンスが有効化されている場合、「**設定**」タブはページの下部にあります。

3. 交差リストの「使用可能」列で、無効または有効にする交差グループの横にあるチェック・マークをクリックします。

 **ノート:**

グループが有効化されている場合、チェック・マークは緑色です。

4. 有効になっている残りのグループが、交差リストに正しい評価順序でまだリストされていることを確認します。そうではない場合、順序内で上または下に移動します。

[有効交差グループの評価順序の変更](#)を参照してください。

有効交差グループの詳細の編集


交差グループの詳細を編集するには、メンバー・セレクタでディメンション・メンバーを操作します。また、交差ルールで除外を定義できます。

交差グループの詳細を編集するには:




1. 「**アプリケーション**」をクリックし、「**有効な交差**」をクリックします。
2. まだ選択されていない場合は、「**セットアップ**」タブをクリックします。
3. 編集する交差グループの名前をクリックします。

 **ノート:**

ページ区切りバーがルール・ページの下部に表示されます。ルールが多数ある場合、ページ区切りバーを使用してルール・ページ間を簡単に移動したり、特定のページにジャンプできます。ページ区切りバーで選択できるページ・サイズ・オプション(1 ページ当たりのルール数)は、「**25**」、「**50**」、「**100**」および「**すべて**」です。(300 を超えるルールがある場合、「**すべて**」オプションを使用することはできません。)

- ディメンションの詳細を編集するには、ディメンションの横の  をクリックして、交差ルールに対して含める、除外するまたは削除するメンバーを選択します。
 - 「**編集**」をクリックして「**メンバーの選択**」ページを開き、交差ルールに含めるメンバー、代替変数および属性を選択します。メンバーまたは関数に入力することもできます。

[メンバー・セレクタの使用](#)を参照してください。
 - 「**除外**」または「**すべて除外**」をクリックして、ルールから除外するディメンション・メンバーを定義します:

- * **除外:** このオプションを選択した場合、メンバーは ID を基準にして除外されます。指定したメンバー(基本または共有)のみが除外されます。
 - * **すべて除外:** このオプションを選択した場合、メンバーは名前を基準にして除外されます。基本メンバーが指定されている場合は、基本とそのすべての共有メンバーが除外されます。共有メンバーが指定されている場合は、このメンバー、その基本メンバー、およびこのメンバーの他のすべての共有メンバーが除外されます。
- 「**クリア**」をクリックして、選択をクリアします。
- 交差グループからディメンションを削除するには、ディメンションの横の  をクリックして、 をクリックします。
 - 交差グループからルールを削除するには、 をクリックします。
 - 交差グループにディメンションまたはルールを追加するには、「**ルールの追加**」または「**ディメンションの追加**」をクリックします。
4. 「**保存して閉じる**」をクリックします。

有効交差グループの複製

交差グループの作成を高速化するために、既存の交差グループを複製し、編集できます。

交差グループを複製するには:

1. 「**アプリケーション**」をクリックし、「**有効な交差**」をクリックします。
2. まだ選択されていない場合は、「**セットアップ**」タブをクリックします。
3. 複製する交差グループの右側にある **...** をクリックし、「**複製**」を選択します。
複製されたグループは、名前の末尾に"コピー"という語が付加されて、交差リストの最後に追加されます。
4. 交差グループを開いて編集します。
5. 必要に応じて、交差グループの順序を変更します。 [有効交差グループの評価順序の変更](#) を参照してください。

有効交差グループの削除

グループを削除した後、交差グループの順序が変更されます。3つの交差グループがあり、順序内の2番目の交差グループが削除された場合、3番目の交差グループが2番目となります。

交差グループを削除するには:

1. 「**アプリケーション**」をクリックし、「**有効な交差**」をクリックします。
2. まだ選択されていない場合は、「**セットアップ**」タブをクリックします。

ノート:

レッドウッド・エクスペリエンスが有効化されている場合、「設定」タブはページの下部にあります。



3. 削除する交差グループの右側にある・・・をクリックし、「削除」を選択します。
4. 必要に応じて、残りの交差の順序を変更します。[有効交差グループの評価順序の変更](#)を参照してください。

交差グループから交差ルールを削除するには、[有効交差グループの詳細の編集](#)を参照してください。

フォーム内の無効データの抑制

無効データの抑制により、無効データを含むアプリケーション・フォームの行または列が非表示になります。このオプションが選択されていない場合、アプリケーションでは無効データを含むセルを含んでいる行または列が表示されます。無効なデータを含むセルは読取り専用です。

フォーム内の無効データを抑制するには:

1. ホーム・ページで「ナビゲータ」をクリックし、「作成および管理」で、「フォーム」をクリックします。
2. フォームを選択し、、「レイアウト」の順にクリックします。
3. 「グリッドのプロパティ」の下の「無効なデータの抑制 - 行」または「無効なデータの抑制 - 列」、あるいはその両方を選択します。
4. 「保存」をクリックします。

無効なデータのクリア

Related Topics

- [無効なデータについて](#)
- [無効な交差レポートの操作](#)
- [無効な交差のデータのクリア](#)

無効なデータについて

データが交差にすでに存在する場合、有効な交差を追加または変更すると、既存のデータは無効になります。有効な交差ルールを作成するか、既存の有効な交差ルールを変更しても、無効な交差のデータはクリアされません。データが無効な交差に存在する状況を示す、有効な交差ルール・レポートを生成し、そのデータをクリアするかどうかを判断する必要があります。

 ノート:

履歴を残すため、または将来に向けたシナリオで使用するために、データが無効な交差に保持される場合があります。そのため、無効な交差のデータをクリアする必要はありません。

無効な交差レポートの操作

「有効な交差」ページの「レポート」タブで、無効な交差のデータを表示するレポートを表示できます。「無効な交差レポート」には、既存のレポート、そのステータスおよび前回の実行時刻が表示されます。

無効な交差レポートを操作するには:

1. 「アプリケーション」、「有効な交差」の順にクリックし、「レポート」タブをクリックします。





 ノート:

レッドウッド・エクスペリエンスが有効化されている場合、「レポート」タブはページの下部にあります。

2. 次のタスクを実行します:
 - リストをリフレッシュするには、「リフレッシュ」をクリックします。
 - レポートを作成するには、「作成」をクリックし、レポートに名前を付け、キューブを選択してレポートの範囲を選択し、レポートの実行時刻を選択します。レポートは、すぐに実行することも、ジョブとして保存して後で実行することもできます。レポートを実行せずに保存するには、「保存して閉じる」をクリックします。レポートを実行後に削除するには、「レポートの削除」をクリックします。

 ノート:

無効な交差レポートは、集約ストレージ・キューブではサポートされていません。集約ストレージ・キューブは、「キューブ」ドロップダウン・リストに表示されません。

- レポートを編集するには、、「編集」の順にクリックします。
- レポートをコピーするには、、「複製」の順にクリックします。
- レポートを実行するには、、「実行」の順にクリックします。
- レポートを削除するには、、「削除」の順にクリックします。

無効な交差のデータのクリア

データが不要な場合、適切な権限があるユーザーは無効なデータをクリアできます。無効なデータをクリアするには、レポートを実行し、「**無効な交差のクリア**」をクリックします。

有効交差の操作

次も参照:

- [アプリケーション・フォームでの有効交差の操作](#)
- [Calculation Manager ルールの実行時プロンプトでの有効交差の操作](#)

アプリケーション・フォームでの有効交差の操作

有効交差を使用すると、該当する有効交差グループの定義に従い無効な交差のデータ入力を防ぐことができます。フォーム内で影響を受けるセルは、読取り専用の標準、読取り専用の色コーディングで表示されます。無効な交差にカーソルを置くと、無効な交差として定義されているので、セルが読取り専用であることを示すツール・チップが表示されます。

有効交差グループは、フォームの視点およびページ軸に最初に適用されます。視点の交差がすべて無効の場合、警告メッセージが表示され、有効交差が選択されるまでフォームにはデータ・グリッドがレンダリングされません。

視点に有効交差がある場合、行と列は無効な交差でのデータ入力を制限するようにフィルタされます。フォームの「**無効なデータの抑制**」オプションが有効化されている場合、フォームでは無効な行または列(あるいはその両方)が必要に応じて抑制されます。

有効交差と無効交差で構成される行または列は、その交差がそれぞれ有効または無効として表示されます。無効な交差は、標準の読取り専用の網掛けで表示され、データ入力できません。

アプリケーション・ユーザーは、選択をクリアすることにより、フォームを閉じたり再度開いたりすることなく、視点をデフォルト(フィルタを解除したリスト)にリセットできます。アプリケーション・ユーザーは、選択をクリアして、他のディメンションに対するより多くの選択を開くこともできます。有効なメンバーを各ディメンションに選択する必要があるため、ディメンションがクリアされた状態ではフォームをレンダリングできません。

メンバー・セレクトアでは、無効なメンバーは無効交差ルールのために表示されません。アプリケーション・ユーザーは、「**無効なメンバーの表示**」オプションを使用すると、メンバー・セレクトアで無効なメンバーを表示できます。無効なメンバーは表示されますが、選択できません。

ノート:

有効交差グループは、ディメンション・メンバーに対してアクセス権を付与しません。有効交差グループは、アプリケーション・ユーザーにすでに付与されているディメンション・メンバーの有効交差をさらに制限します。

表 5-8 有効交差が適用されている場合のフォームの動作

アクション	動作
フォームを開きます	フォームは、フォーム定義での定義どおりにメンバーが選択されてレンダリングされ、ディメンションに対するユーザーのアクセス権が順守され、現在の選択として最近使用された有効交差グループが適用されます。
視点ディメンションからメンバーを選択します	このアプリケーションでは: <ul style="list-style-type: none"> • ユーザーによる視点でのメンバーの選択を有効化します • 視点ディメンション用のメンバー・セレクタで、ユーザーは、残っている有効交差のフィルタ済リストから選択できます。このリストは、他の視点ディメンションに選択されたメンバーに基づいています • ディメンションの選択時、有効交差グループに含まれているディメンションからメンバーを選択すると、有効交差グループに含まれているディメンションの残りのディメンション・メンバーが必要に応じて動的にフィルタされるため、視点ディメンション・メンバーが選択される順序を無視します • 無効なメンバーをディメンション・リストで非表示にする、または視点で選択できないようにするオプションを提供します • 選択をクリアすることにより、フォームを閉じたり再度開いたりすることなく、フィルタをすべて解除したリストに視点をリセットする機能を提供します <p>Web と Oracle Smart View for Office の両方のアド・ホック・フォームでは、有効交差グループに従って、ページまたは視点メンバーがフィルタされません。</p>
視点の選択内容に基づいてフォームをレンダリングするには、「実行」を選択します。フォームの視点の右矢印をクリックすることもできます。	フォームは、有効な視点交差に基づいて定義どおりにレンダリングされます。
データの入力および保存	フォーム・データが入力および保存されます。

Calculation Manager ルールの実行時プロンプトでの有効交差の操作

アプリケーションのコンテキスト内から起動された場合、有効交差グループは実行時プロンプトに適用されます。実行時プロンプトにより、有効交差グループの定義のとおり、ユーザーが無効な交差を選択できないようにします。

有効交差グループに応じたフィルタは、Oracle Smart View for Office フォームではサポートされていません。ただし、Web と Smart View の両方で実行時プロンプトの無効な交差を選択した場合、ルールは起動されません。

表 5-9 有効交差が適用されている場合の実行時プロンプトの動作

アクション	動作
Calculation Manager ルールの実行時プロンプトを起動します	このアプリケーションでは: <ul style="list-style-type: none">有効交差グループに基づいて、実行時プロンプト内で無効な交差をユーザーが選択できないようにします実行時プロンプトに無効な交差がある場合、Calculation Manager ルールを実行できないようにします
有効交差を入力します	有効交差へは入力が可能です。

6

データ統合の管理

Related Topics

- [ファイルベース統合の作成](#)
- [データ・マップの定義](#)

ファイルベース統合の作成

データ統合は、Oracle Enterprise Performance Management Cloud での統合プロセスの実行の基礎となるメカニズムです。ファイルベース統合と直接統合のソースの定義、ソース・データを必要なターゲット・フォーマットに変換するためのマッピング・ルールの作成、および定期的なデータ・ロード・プロセスの実行と管理が可能になります。

ファイルベース統合を作成するには:

1. ホーム・ページで、「**アプリケーション**」、「**データ交換**」の順に選択します。
2. ページの下部にある「**データ統合**」タブをクリックします。
3. Oracle Enterprise Performance Management Cloud データ統合の管理の [ファイルベース統合の作成](#)を確認します。

データ・マップの定義

データ、コメント、添付およびサポート詳細をソース・キューブとスマート・リストからターゲット・レポート・キューブに移動して、データを連結するためのデータ・マップを定義します。

データ・マップを作成するには:

1. ホーム・ページで、「**アプリケーション**」、「**データ交換**」の順に選択します。
2. ページの下部にある「**データ・マップ**」タブをクリックします。
3. Oracle Enterprise Performance Management Cloud データ統合の管理の [データ・マップの定義](#)を確認します。

Note:

Enterprise Profitability and Cost Management をソースとして使用する pod 間データ・マップがサポートされているのは、ターゲット・システムが Enterprise Profitability and Cost Management システムである場合のみです。

7

ジョブの管理

Related Topics

- [ジョブについて](#)
- [ジョブ・タイプ](#)
- [「ジョブ」コンソールへのアクセス](#)
- [保留中のジョブおよび最近のアクティビティの表示](#)
- [ジョブのスケジュール](#)
一般的な管理タスクを実行するジョブをスケジュールして、作業負荷を軽減します。ジョブをすぐに実行することも、後で定期的に行うようジョブをスケジュールすることもできます。
- [ジョブの編集および削除](#)
- [ジョブ・コンソール・ファイルのエクスポート](#)
- [補足診断のエクスポート](#)

ジョブについて

ジョブは、次のようなアクションです:

- メタデータとデータのインポートおよびエクスポート
- データベースのリフレッシュ
- キューブのクリア

ジョブ・コンソールでは、送信済のジョブと保留中のジョブの両方のレコードを表示できます。ジョブ・コンソールを使用して、特定のタイプのジョブを実行することも、一定間隔で実行するようにスケジュールすることもできます。

ジョブ・タイプ

表示するジョブをフィルタし、今すぐまたは後で実行するようにジョブをスケジュールするときには、ジョブ・タイプを選択する必要があります。次の表に、ジョブ・タイプを示します。

Table 7-1 ジョブ・タイプ

ジョブ・タイプ	説明
管理モード	<p>ビジネス・プロセスのログイン・レベルを変更します。「管理者」を選択すると、ジョブの実行後にすべての非管理者ユーザーがアプリケーションからログオフされます。すべてのユーザーがアプリケーションにアクセスできるように復元するには、「すべてのユーザー」を選択します。</p> <p>システム設定の「アプリケーションを使用可能にする対象」設定を参照してください。</p>
バッチ計算	<p>計算コントロール・ページにおける計算の実行の結果として作成されるジョブ。計算する複数の POV を選択した場合は、「バッチ計算」ジョブにより、計算対象として選択したすべての POV に関する情報が要約されます。個々の POV に対して個別の計算ジョブも作成されます。</p> <p>モデルの計算を参照してください。</p>
セル詳細のクリア	<p>セルのクリア操作を実行します。</p> <p>セル詳細のクリアを参照してください。</p>
キューブのクリア	<p>キューブのクリア操作を実行します。</p> <p>キューブのクリアと、キューブのクリア・ジョブを作成する方法の詳細は、キューブのクリアを参照してください。</p> <p>ノート: 日次メンテナンス・プロセスの実行中にジョブが開始するようにスケジュールされている場合、システムはこのジョブの開始を防止します。このジョブを日次メンテナンス・ウィンドウ外で開始するように再スケジュールすることをお勧めします。<i>Oracle Enterprise Performance Management Cloud 管理者のためのスタート・ガイド</i>の日次メンテナンスの管理を参照してください</p>
視点のクリア	<p>Enterprise Profitability and Cost Management アプリケーションまたは視点によるデータのクリア REST API を使用して視点をクリアした結果として作成されるジョブ。</p> <p>このガイドの視点のクリアおよび <i>Oracle Enterprise Performance Management Cloud</i> の REST API の視点によるデータのクリアを参照してください。</p>
アウトラインの圧縮	<p>キューブのアウトライン・ファイルを圧縮します。圧縮は、アウトライン・ファイルを最適なサイズに保つのに役立ちます。アウトラインを圧縮しても、データはクリアされません。このジョブを実行しても、変更内容はビジネス・プロセスから Oracle Essbase にプッシュされません。</p> <p>アウトラインの圧縮を参照してください。</p> <p>ノート: 日次メンテナンス・プロセスの実行中にジョブが開始するようにスケジュールされている場合、システムはこのジョブの開始を防止します。このジョブを日次メンテナンス・ウィンドウ外で開始するように再スケジュールすることをお勧めします。<i>Oracle Enterprise Performance Management Cloud 管理者のためのスタート・ガイド</i>の日次メンテナンスの管理を参照してください</p>

Table 7-1 (Cont.) ジョブ・タイプ

ジョブ・タイプ	説明
コンテンツ更新	<p>アプリケーションの更新中にアプリケーションが自動的にリフレッシュされます。リフレッシュに関する情報はコンテンツ更新ジョブで取得され、環境の日次メンテナンス中に行われた変更が伝播されます。</p> <p>コンテンツ更新開始時間の設定を参照してください。</p>
データのコピー	<p>あるディメンショナル交差から別のディメンショナル交差にデータ(リレーショナル・データとサポート詳細を含む)をコピーします。</p> <p>データのコピーを参照してください。</p>
視点のコピー	<p>Enterprise Profitability and Cost Management アプリケーションまたは視点によるデータのコピー REST API を使用して視点をコピーした結果として作成されるジョブ。</p> <p>このガイドの視点のコピーおよび <i>Oracle Enterprise Performance Management Cloud</i> の REST API の視点によるデータのコピーを参照してください。</p>
バージョンのコピー	<p>選択済シナリオの 1 つのボトムアップまたはターゲット・バージョンから同じシナリオ内の別のボトムアップまたはターゲット・バージョンにデータをコピーします。</p> <p>バージョンのコピーを参照してください。</p>
データ・マップ	<p>ソース・アプリケーションとターゲット・レポート・アプリケーションの間のデータ・マッピングを作成した結果として作成されるジョブ。</p> <p><i>Oracle Enterprise Performance Management Cloud</i> データ統合の管理のデータ・マップの定義を参照してください。</p>
視点の削除	<p>Enterprise Profitability and Cost Management アプリケーションまたは「視点の削除」REST API を使用して視点を削除した結果として作成されるジョブ。</p> <p>このガイドの視点の削除および <i>Oracle Enterprise Performance Management Cloud</i> の REST API の視点の削除を参照してください。</p>
バースト定義の実行	<p>レポートのバースティング・ジョブを実行します</p> <p>次世代のレポートのレポート・ソリューションを使用している場合、バースティング機能を使用すると、1 つのデータ・ソースに対して、単一ディメンションの複数メンバーの単一レポートまたはブックを実行し、メンバーごとに PDF 出力を発行できます。</p> <p><i>Oracle Enterprise Performance Management Cloud</i> レポートでの設計のバースティングの操作を参照してください。</p>
監査のエクスポート	<p>監査レコードをカンマ区切り値(CSV)ファイルにエクスポートします。</p> <p>監査のエクスポートを参照してください。</p>
セル・レベル・セキュリティ定義のエクスポート	<p>ジョブとして保存されたセル・レベル・セキュリティ定義をエクスポートします。</p> <p>セル・レベル・セキュリティ定義のインポートとエクスポートを参照してください。</p>

Table 7-1 (Cont.) ジョブ・タイプ

ジョブ・タイプ	説明
データのエキスポート	<p>ジョブとして保存されたデータ・エキスポートを実行します。</p> <p>データのエキスポートを参照してください</p> <p>ノート: 日次メンテナンス・プロセスの実行中にジョブが開始するようにスケジュールされている場合、システムはこのジョブの開始を防止します。このジョブを日次メンテナンス・ウィンドウ外で開始するように再スケジュールすることをお勧めします。 <i>Oracle Enterprise Performance Management Cloud 管理者のためのスタート・ガイド</i>の日次メンテナンスの管理を参照してください</p>
診断のエキスポート	<p>補足診断情報を Pcm_Supplemental_Diagnostics.zip という zip ファイルにエキスポートします。</p> <p>補足診断のエキスポートを参照してください。</p>
ジョブ・コンソールのエキスポート	<p>ジョブ・コンソールのジョブに関するレコードを allJobDetails<date>.zip という zip ファイルにエキスポートします。</p> <p>ジョブ・コンソール・ファイルのエキスポートを参照してください。</p>
メタデータのエキスポート	<p>export metadata ジョブで指定された設定を使用して、メタデータをファイルにエキスポートします。</p> <p>メタデータのエキスポートを参照してください。</p> <p>ノート: 日次メンテナンス・プロセスの実行中にジョブが開始するようにスケジュールされている場合、システムはこのジョブの開始を防止します。このジョブを日次メンテナンス・ウィンドウ外で開始するように再スケジュールすることをお勧めします。 <i>Oracle Enterprise Performance Management Cloud 管理者のためのスタート・ガイド</i>の日次メンテナンスの管理を参照してください</p>
セキュリティのエキスポート	<p>指定されたユーザーまたはグループのセキュリティ・レコードまたはアクセス制御リスト(ACL)レコードをカンマ区切り値(CSV)ファイルにエキスポートします。</p> <p>セキュリティのエキスポートを参照してください。</p>
監査のインポート	<p>環境から監査データをエキスポートすることで作成した ZIP ファイルからデータ監査レコードをインポートする EPM 自動化コマンド。</p> <p>importAppAudit を参照してください。</p>
セル・レベル・セキュリティ定義のインポート	<p>ジョブとして保存されたセル・レベル・セキュリティ定義をインポートします。</p> <p>セル・レベル・セキュリティ定義のインポートとエキスポートを参照してください。</p>

Table 7-1 (Cont.) ジョブ・タイプ

ジョブ・タイプ	説明
データのインポート	<p>Import Data ジョブ・タイプで指定されたデータのインポート設定を使用して、リポジトリ内のファイルからデータをアプリケーションにインポートします。</p> <p>データのインポートを参照してください。</p> <p>ノート: 日次メンテナンス・プロセスの実行中にジョブが開始するようにスケジュールされている場合、システムはこのジョブの開始を防止します。このジョブを日次メンテナンス・ウィンドウ外で開始するように再スケジュールすることをお勧めします。<i>Oracle Enterprise Performance Management Cloud 管理者のためのスタート・ガイド</i>の日次メンテナンスの管理を参照してください</p>
ジョブ・コンソールのインポート	<p>環境からエクスポートされたジョブ・コンソール・レコードが格納されている ZIP ファイルを使用して、ジョブ・コンソール・レコードをクローニングする EPM 自動化コマンド。</p> <p>importJobConsole を参照してください。</p>
メタデータのインポート	<p>import metadata ジョブで指定されたメタデータのインポート設定を使用して、リポジトリ内のファイルからメタデータをアプリケーションにインポートします。</p> <p>メタデータのインポートを参照してください。</p> <p>ノート: 日次メンテナンス・プロセスの実行中にジョブが開始するようにスケジュールされている場合、システムはこのジョブの開始を防止します。このジョブを日次メンテナンス・ウィンドウ外で開始するように再スケジュールすることをお勧めします。<i>Oracle Enterprise Performance Management Cloud 管理者のためのスタート・ガイド</i>の日次メンテナンスの管理を参照してください</p>
セキュリティのインポート	<p>セキュリティ・レコードまたはアクセス制御リスト (ACL)レコードをカンマ区切り値(CSV)ファイルからインポートします。</p> <p>セキュリティのインポートを参照してください。</p>
無効な交差レポート	<p>データが無効な交差に存在する場所を示すレポートを実行します。</p> <p>無効な交差レポートの操作を参照してください。</p>

Table 7-1 (Cont.) ジョブ・タイプ

ジョブ・タイプ	説明
データ・スライスのマージ	<p>集約ストレージ・キューブの増分データ・スライスをマージします。スライスが少なくなると、キューブのパフォーマンスは向上します。メイン・データベース・スライスにすべての増分データ・スライスをマージしたり、メイン・データベース・スライスを変更しないまま単一のデータ・スライスにすべての増分データ・スライスをマージしたりできます。オプションで、値がゼロのセルを削除することも可能です。</p> <p>データ・スライスのマージを参照してください。</p> <p>ノート: 日次メンテナンス・プロセスの実行中にジョブが開始するようにスケジュールされている場合、システムはこのジョブの開始を防止します。このジョブを日次メンテナンス・ウィンドウ外で開始するように再スケジュールすることをお勧めします。 <i>Oracle Enterprise Performance Management Cloud 管理者のためのスタート・ガイド</i>の日次メンテナンスの管理を参照してください</p>
集約の最適化	<p>Enterprise Profitability and Cost Management レポート・キューブ(PCM_REP)で収集された問合せトラッキング情報に基づいて、最適化されたビューを生成します。</p> <p>PCM_REP レポート・キューブの集約の最適化を参照してください。</p> <p>ノート: 日次メンテナンス・プロセスの実行中にジョブが開始するようにスケジュールされている場合、システムはこのジョブの開始を防止します。このジョブを日次メンテナンス・ウィンドウ外で開始するように再スケジュールすることをお勧めします。 <i>Oracle Enterprise Performance Management Cloud 管理者のためのスタート・ガイド</i>の日次メンテナンスの管理を参照してください</p>
データベースのリフレッシュ	<p>アプリケーション・データベースをリフレッシュします。</p> <p>アプリケーション・データベースのリフレッシュを参照してください。</p> <p>ノート: 日次メンテナンス・プロセスの実行中にジョブが開始するようにスケジュールされている場合、システムはこのジョブの開始を防止します。このジョブを日次メンテナンス・ウィンドウ外で開始するように再スケジュールすることをお勧めします。 <i>Oracle Enterprise Performance Management Cloud 管理者のためのスタート・ガイド</i>の日次メンテナンスの管理を参照してください</p>

Table 7-1 (Cont.) ジョブ・タイプ

ジョブ・タイプ	説明
キューブの再構築	<p>ブロック・ストレージ・キューブの再構築をすべて実行して、断片化を消去または削減します。また、空のブロックが削除されます。このジョブを実行しても、変更内容はビジネス・プロセスから Essbase にプッシュされません。</p> <p>キューブのパフォーマンスの向上を参照してください。</p> <p>ノート: 日次メンテナンス・プロセスの実行中にジョブが開始するようにスケジュールされている場合、システムはこのジョブの開始を防止します。このジョブを日次メンテナンス・ウィンドウ外で開始するように再スケジュールすることをお勧めします。 <i>Oracle Enterprise Performance Management Cloud 管理者のためのスタート・ガイド</i>の日次メンテナンスの管理を参照してください</p>
ルールのメンバー追加	<p>メンバーを 1 つ以上のルールに追加します。</p> <p>ルールへのメンバーの追加を参照してください。</p>
モデルへのルールのコピー	<p>1 つ以上のルールをモデルにコピーします。</p> <p>モデルへのルールのコピーを参照してください。</p>
ルールセットへのルールのコピー	<p>1 つ以上のルールをルール・セットにコピーします。</p> <p>ルール・セットへのルールのコピーを参照してください。</p>
ルールの無効化	<p>1 つまたは複数のルールを無効にします。</p> <p>ルールの有効化および無効化。</p>
ルールの有効化	<p>1 つまたは複数のルールを有効にします。</p> <p>ルールの有効化および無効化を参照してください。</p>
ルールのメンバー置換	<p>ルール内でメンバーを検索し、別のメンバーに置換します。</p> <p>ルール内のメンバーの置換を参照してください。</p>
計算の実行	<p>計算コントロール・ページにおける POV の計算の実行の結果として作成されるジョブ。</p> <p>モデルの計算を参照してください。</p>
スマート・プッシュ	<p>スマート・プッシュを使用して、あるキューブから別のキューブにデータを移動します。</p> <p>スマート・プッシュを使用したあるキューブから別のキューブへのデータの移動を参照してください</p>
モデルの検証	<p>モデルを検証して、計算が失敗する可能性がないことを確認します。</p> <p>モデルの検証 EPM 自動化コマンドまたはモデルの検証 Rest API を使用すると、モデルの検証ジョブが作成されます。Enterprise Profitability and Cost Management ユーザー・インターフェースからモデルの検証を実行した場合、ジョブは作成されません。</p> <p><i>Oracle Enterprise Performance Management Cloud の REST API</i> のモデルの検証を参照してください。</p>

「ジョブ」コンソールへのアクセス

「ジョブ」コンソールには、Enterprise Profitability and Cost Management の次の場所からアクセスできます：

- ホーム・ページで、「アプリケーション」、「ジョブ」の順に選択します。
- ホーム・ページで、「モデリング」、「ジョブ」の順に選択します。
- 「アプリケーション」または「モデリング」クラスタのいずれかのページで、ページの上部にある「ジョブ」カードを選択します。

保留中のジョブおよび最近のアクティビティの表示

デフォルトでは、「ジョブ」コンソールに始めてアクセスしたときは、「最新」ジョブ・リストに過去 3 日間のジョブが表示されます。これは、データ・フィルタを追加して拡張できます。

- ビューを「最新」から「保留中」に切り替えるには、「最新」の横にあるドロップダウン矢印をクリックし、「保留中」を選択します。
- ジョブ・リストを検索またはフィルタするには、アクションを実行します：
 - 名前でジョブを検索するには、「検索」フィールドにテキストを入力し、[Enter] を押すか、「検索」(Q)をクリックします。
 - ジョブをフィルタするには、「検索」フィールドの下のタブをクリックし、そのフィルタを「検索」に追加します。次に、「検索」フィールドのフィルタをクリックして、フィルタのパラメータを選択します。「検索」フィールドには、複数のフィルタを追加できます。「検索」フィールドからフィルタを削除するには、フィルタ・タブの「X」をクリックします。

Note:



デフォルトのパラメータが自動的に選択されます。別のパラメータ値でフィルタするには、そのパラメータの選択を解除します。

次のフィルタを使用できます。

- * **ジョブ・タイプ**: 実行されたジョブのタイプ(「キューブのクリア」など)。詳細は、[ジョブ・タイプ](#)を参照してください。デフォルトでは、「**セキュリティのインポート**」が表示されます。

Note:


複数のジョブ・タイプを選択できます。選択の数が、「検索」フィールドに表示されます。たとえば、2つのジョブ・タイプを選択した場合、「検索」フィールドに「ジョブ・タイプ(2)」と表示されます。

- * **ステータス:** ジョブのステータス(「保留中」など)。デフォルトでは、「完了」が表示されます。
- * **開始時間:** ジョブが開始された日付と時間の範囲。「**カレンダー**」()をクリックして、日付と時間の範囲を編集します。
- * **終了時間:** ジョブが完了した日付と時間の範囲。「**カレンダー**」()をクリックして、日付と時間の範囲を編集します。

 **Note:**

前述のフィルタ条件の 1 つ以上を選択した後で、「**検索**」フィールドに検索テキストまたはワイルドカード文字を入力して、**[Enter]**を押すこともできます。

検索結果が「**ジョブ**」コンソールにリストされます。

- 各列のデータを昇順または降順でソートするには、列ヘッダーで「**ソート**」()をクリックします。
- ジョブの詳細を表示するには、「**アクション**」(⋮)をクリックして、「**詳細**」を選択します。

 **Note:**

- アプリケーションのアップグレード時にアプリケーションが自動的にリフレッシュされます。アップグレード中に発生したエラーは、「**コンテンツ更新**」ジョブで取得されます。
- 自動化された日次メンテナンス(EPM 自動化 `resetService` コマンド)のため、あるいは予期しない停止のためにスケジュール済ジョブの実行が終了した場合、環境がオンラインに回復するとジョブが再開します。
- 90 日より古いジョブはパージされます。

ジョブのスケジュール

一般的な管理タスクを実行するジョブをスケジュールして、作業負荷を軽減します。ジョブをすぐに実行することも、後で定期的に行うようジョブをスケジュールすることもできます。

Related Topics

- [今すぐ実行するジョブのスケジュール](#)
- [後で実行するジョブのスケジュール](#)
- [時間ごとのジョブのスケジュール](#)

今すぐ実行するジョブのスケジュール

今すぐ実行するジョブをスケジュールするには:

1. 「ジョブ」コンソールで、「アクション」ドロップダウンをクリックし、「スケジュール」を選択します。
2. ジョブのスケジュール・ページの「一般」タブで、次のものを指定し、「次」をクリックします。
 - **このジョブのタイプ:** リストされているジョブ・タイプのいずれかを選択します。ジョブ・タイプの詳細は、[ジョブ・タイプ](#)を参照してください。
 - **このジョブをいつ実行しますか?:** 「今すぐ実行」を選択します。
3. 「ジョブの詳細」タブで、ジョブ・リストからジョブを選択し、「次」をクリックします。

Note:

- インポート・ジョブまたはエクスポート・ジョブを実行する場合、一度に最大5つのジョブを実行できます。
- エクスポート・ジョブの場合は、各ジョブに対して一意の出力ファイル名を指定できます。ジョブ・リストで、選択したジョブの横にある「編集」をクリックし、zip 拡張子を使用して出力ファイル名を指定します。指定する一意のファイル名によって、デフォルトのエクスポート・ファイル名がジョブの実行時に上書きされます。
- スケジュール済のジョブが原因で自動バックアップが失敗するのを防ぐために、Oracle Enterprise Performance Management Cloud では、日次メンテナンス・プロセスの実行中は特定のスケジュール済ジョブの開始が許可されません。システムによってジョブの開始が防止された場合は、その理由がジョブの詳細に表示されます。ジョブ・コンソールの電子メール通知を有効にしている場合は、ジョブが開始されないときに電子メール通知を受け取ります。日次メンテナンス・プロセス中に開始するようにスケジュールされているジョブがある場合は、日次メンテナンス・ウィンドウ外で開始するようにジョブを再スケジュールすることをお勧めします。Oracle Enterprise Performance Management Cloud 管理者スタート・ガイドの日次メンテナンスの管理を参照してください。

4. 選択内容を確認します。問題なければ、「終了」をクリックします。

後で実行するジョブのスケジュール

後で実行するジョブをスケジュールするには:

1. 「ジョブ」コンソールで、「アクション」ドロップダウンをクリックし、「スケジュール」を選択します。
2. ジョブのスケジュール・ページの「一般」タブで、次のものを指定します:

- **このジョブのタイプ:** リストされているジョブ・タイプのいずれかを選択します。ジョブ・タイプの詳細は、[ジョブ・タイプ](#)を参照してください。
- **このジョブをいつ実行しますか?:** ジョブを実行する日時を選択します。
スケジュール開始日: 開始日時とタイム・ゾーンを選択します。
- **このジョブをどの頻度で実行しますか?:** 次のものを指定し、「次」をクリックします。

オプション	説明
名前	このスケジュール済ジョブのインスタンスに名前を入力します。これは、ジョブの作成時に最初に割り当てたジョブ名である必要はありません。たとえば、スケジュール要件を反映する名前を入力できます。作成時に最初に Refresh Database という名前を付けたジョブのインスタンスをスケジュールするとします。スケジュールするジョブのこのインスタンスに MyWeeklyCubeRefresh という名前を付けることができます。このジョブをスケジュールすると、指定した名前が、 MyWeeklyCubeRefresh : Refresh Database のようなシステム生成名でジョブ・コンソールにリストされます。 MyWeeklyCubeRefresh は、スケジュールしたジョブについて入力した名前であり、 Refresh Database は、ジョブの作成中に最初に定義した名前です。
繰り返しパターン	ジョブの実行頻度を指定します: <ul style="list-style-type: none"> - 1時間ごと: 時間ごとのジョブのスケジュールを参照してください。 - 分単位: 「頻度」を 15 分または 30 分に設定します。ジョブは 15 分または 30 分後に開始され、終了の日時まで指定した間隔で実行され続けます。たとえば、15 分ごとに実行するようジョブを設定し、開始時刻が 3:15 の場合、ジョブは 3:30 に始まり、その次が 3:45 というように実行されます。ジョブの実行をスケジュールできる最小の単位は 15 分です。 - 1回実行: ジョブは開始日時に 1 回実行されます。 - 毎日: ジョブは開始日時に実行され、引き続き終了日まで毎日実行されます。 - 週次: ジョブは開始日時に実行され、引き続き終了日まで毎週実行されます。 - 月次: ジョブは開始日時に実行され、その後引き続き終了日まで毎月実行されます。 - 年次: ジョブは開始日時に実行され、その後引き続き終了日まで毎年実行されます。
終了日	ジョブが繰り返される場合は、終了する日時を選択します。

3. 「ジョブの詳細」タブで、ジョブ・リストからジョブを選択し、「次」をクリックします。

 Note:

- インポート・ジョブまたはエクスポート・ジョブを実行する場合、一度に最大 5 つのジョブを実行できます。
- エクスポート・ジョブの場合は、各ジョブに対して一意の出力ファイル名を指定できます。ジョブ・リストで、選択したジョブの横にある「編集」をクリックし、zip 拡張子を使用して出力ファイル名を指定します。指定する一意のファイル名によって、デフォルトのエクスポート・ファイル名がジョブの実行時に上書きされます。

4. 選択内容を確認します。問題なければ、「終了」をクリックします。

時間ごとのジョブのスケジュール

時間ごとのジョブは、「スケジュール開始日」フィールドと「時間」フィールドに設定した値に基づくタイムテーブルに従って実行されます。「時間ごと」ジョブのスケジュールは毎日午前 0 時に再スタートし、繰返しジョブは「時間」フィールドで選択した値に従い、午前 0 時の 1 時間後、2 時間後、3 時間後(というように最大 12 時間後)にスタートします。

たとえば、「時間」フィールドに値の「5」を指定すると、ジョブの実行時間は、毎日午前 12 時、午前 5 時、午前 10 時、午後 3 時、および午後 8 時となります。開始時間はスケジュールに基づいたシステムの開始時分を示し、終了時間はシステムの停止時分を示します。そうすると、開始時間が 11/18 の午後 12:48 の場合、その日(11/18)の午前 12:48、午前 5:48 および午前 10:48 時はすでに過ぎており、次に実行可能なタイムスロットは午後 3:48 となり、この時間にスケジュール済ジョブが最初に実行されます。その後は、11/18 の午後 8:48 に実行されます。ただし、11/19 には最初から再開され、午前 12:48、午前 5:48、午前 10:48 のように、指定されたシステムの終了時間(この場合は 11/19 の午後 12:48)まで実行されます。

 Note:

ジョブが 2 日にまたがる場合、そのジョブは次の日の午前 0 時に実行され、繰返しパターンが再セットされます。

Table 7-2 時間ごとのジョブのタイムテーブル

時間ごとの繰返し	タイムテーブル
1 (デフォルト)	午前: 12:00、1:00、2:00、3:00、4:00、5:00、6:00、7:00、8:00、9:00、10:00、11:00 午後: 12:00、1:00、2:00、3:00、4:00、5:00、6:00、7:00、8:00、9:00、10:00、11:00 たとえば、スケジュールされた開始時間が午後 12:48 で、時間ごとの繰返しが 1 時間に設定されている場合、ジョブはまず午後 12:48 に実行され、それから午後 1:48、午後 2:48、午後 3:48 というように続きます。

Table 7-2 (Cont.) 時間ごとのジョブのタイムテーブル

時間ごとの繰返し	タイムテーブル
2	<p>午前: 12:00、2:00、4:00、6:00、8:00、10:00 午後: 12:00、2:00、4:00、6:00、8:00、10:00</p> <p>たとえば、スケジュールされた開始時間が午後 12:48 で、時間ごとの繰返しが 2 時間に設定されている場合、ジョブはまず午後 12:48 に実行され、それから午後 2:48、午後 4:48、午後 6:48 というように続きます。</p>
3	<p>午前: 12:00、3:00、6:00、9:00 午後: 12:00、3:00、6:00、9:00</p> <p>たとえば、スケジュールされた開始時間が午後 12:48 で、時間ごとの繰返しが 3 時間に設定されている場合、ジョブはまず午後 12:48 に実行され、それから午後 3:48、午後 6:48、午後 9:48、午前 12:48、午前 3:48 というように続きます。</p>
4	<p>午前: 12:00、4:00、8:00 午後: 12:00、4:00、8:00</p> <p>たとえば、スケジュールされた開始時間が午後 12:48 で、時間ごとの繰返しが 4 時間に設定されている場合、ジョブはまず午後 12:48 に実行され、それから午後 4:48、午後 8:48、午前 12:48、午前 4:48 というように続きます。</p>
5	<p>午前: 12:00、5:00、10:00 午後: 3:00、8:00</p> <p>たとえば、スケジュールされた開始時間が午後 12:48 で、時間ごとの繰返しが 5 時間に設定されている場合、ジョブはまず午後 3:48 に実行され、それから午後 8:48、午前 12:48、午前 5:48、午前 10:48 というように続きます。</p>
6	<p>午前: 12:00、6:00 午後: 12:00、6:00</p> <p>たとえば、スケジュールされた開始時間が午後 12:48 で、時間ごとの繰返しが 6 時間に設定されている場合、ジョブはまず午後 12:48 に実行され、それから午後 6:48、午前 12:48、午前 6:48 というように続きます。</p>
7	<p>午前: 12:00、7:00 午後: 2:00、9:00</p> <p>たとえば、スケジュールされた開始時間が午後 12:48 で、時間ごとの繰返しが 7 時間に設定されている場合、ジョブはまず午後 2:48 に実行され、それから午後 9:48、午前 12:48、午前 7:48 というように続きます。</p>
8	<p>午前: 12:00、8:00 午後: 4:00</p> <p>たとえば、スケジュールされた開始時間が午後 12:48 で、時間ごとの繰返しが 8 時間に設定されている場合、ジョブはまず午後 4:48 に実行され、それから午前 12:48、午前 8:48 というように続きます。</p>

Table 7-2 (Cont.) 時間ごとのジョブのタイムテーブル

時間ごとの繰返し	タイムテーブル
9	午前: 12:00、9:00 午後: 6:00 たとえば、スケジュールされた開始時間が午後 12:48 で、時間ごとの繰返しが 9 時間に設定されている場合、ジョブはまず午後 6:48 に実行され、それから午前 12:48、午前 9:48、午後 6:48 というように続きます。
10	午前: 12:00、10:00 午後: 8:00 たとえば、スケジュールされた開始時間が午後 12:48 で、時間ごとの繰返しが 10 時間に設定されている場合、ジョブはまず午後 8:48 に実行され、それから午前 12:48、午前 10:48、午後 8:48 というように続きます。
11	午前: 12:00、11:00 午後: 10:00 たとえば、スケジュールされた開始時間が午後 12:48 で、時間ごとの繰返しが 11 時間に設定されている場合、ジョブはまず午後 10:48 に実行され、それから午前 12:48、午前 11:48、午後 10:48 というように続きます。
12	午前: 12:00 午後: 12:00 たとえば、スケジュールされた開始時間が午後 12:48 で、時間ごとの繰返しが 12 時間に設定されている場合、ジョブはまず午後 12:48 に実行され、それから午前 12:48 というように続きます。

ジョブの編集および削除

保留中のジョブのスケジュールを編集したり、保留中のジョブや完了したジョブを削除したりできます。処理中のジョブを変更したり、削除することはできません。

ジョブを編集するには:

1. 「**ジョブ**」コンソールで、編集するジョブを選択します。
2. 「**最新**」の横にあるドロップダウン矢印をクリックし、「**保留中**」を選択します。
3. 「**アクション**」(⋯)をクリックし、「**編集**」を選択します。
4. 「**スケジュール済ジョブの編集**」画面で、スケジュールを変更し、「**次**」をクリックします。

 **Note:**

ジョブの頻度を変更しても、新しい頻度で実行されるのは、それ以前の頻度設定で次に 1 回実行されてからです。たとえば、毎日繰返しに設定されていたジョブの頻度を 1 時間に変更した場合、スケジュールされていた毎日のジョブが翌日に実行されてから、新しい 1 時間ごとの頻度で実行されるようになります。それより早く新しい頻度でジョブを実行したい場合は、スケジュールされているジョブを削除して新しいジョブを作成することをお勧めします。

5. 選択内容を確認します。問題なければ、「終了」をクリックします。

ジョブを削除するには:

1. 「ジョブ」コンソールで、削除するジョブを選択します。
2. 「最新」の横にあるドロップダウン矢印をクリックし、「保留中」を選択します。
3. 「アクション」(⋯)をクリックし、「削除」を選択します。

 **Note:**

複数のジョブを削除するには、複数のジョブを選択し、「アクション」ドロップダウンをクリックして、「削除」を選択します。

4. 選択内容を確認します。問題なければ、「終了」をクリックします。


ジョブ・コンソール・ファイルのエクスポート

「ジョブ」コンソールのジョブに関する情報を CSV ファイルにエクスポートし、その CSV ファイルをローカル・マシンにダウンロードできます。

「ジョブ・コンソールのエクスポート」ファイルのエクスポートおよびダウンロードするには:

1. 「ジョブ」コンソールで、「アクション」ドロップダウンをクリックし、「エクスポート」を選択します。

「ジョブ・コンソールのエクスポート」ジョブが作成されます。

2. ジョブ・ステータスが「完了」になったら、「ジョブ・コンソールのエクスポート」ジョブのハイパーリンクをクリックするか、⋯をクリックして、「詳細」を選択します。
3. ジョブの詳細ページで、「ジョブ・コンソールのエクスポート」の横にある  をクリックします。

エクスポート・ファイルが、allJobDetails<date>.csv というファイルとしてローカル・マシンにダウンロードされます。

4. allJobDetails<date>.csv ファイルをクリックして Excel で開きます。

 **Note:**

「受信ボックス/送信ボックス・エクスプローラ」から allJobDetails<date>.csv をダウンロードすることもできます。受信ボックス/送信ボックス・エクスプローラを使用したファイルのアップロードおよびダウンロードを参照してください。

補足診断のエキスポート

補足診断情報を CSV ファイル、テキスト・ファイルおよびレポートの形式でエキスポートし、単一のファイルに圧縮して、その後、ローカル・マシンにダウンロードできます。

収集される情報の一般的なタイプは、アプリケーションの構造およびその実行特性に関連するメタデータ、集約データおよび統計データです。情報は、診断およびサポートのために収集されます。機密情報および実際のデータは収集されません。Oracle サポートと連携して問題を診断する際は、このファイルの提供を求められる場合があります。

「診断のエキスポート」ジョブを実行するには:

1. 「ジョブ」コンソールで、「アクション」ドロップダウンをクリックし、「スケジュール」を選択します。
2. ジョブのスケジュール・ページの「一般」タブで、次の情報を指定します:
 - このジョブのタイプ: 「診断のエキスポート」を選択します。
 - このジョブをいつ実行しますか?: 「今すぐ実行」を選択します。

ジョブを後で実行するようにスケジュールする場合は、[後で実行するジョブのスケジュール](#)を参照してください。

3. 「診断のエキスポート」ジョブが「ジョブの詳細」タブに表示されます。「次」をクリックします。
4. 「確認」タブで、「終了」をクリックします。

「診断のエキスポート」ジョブが作成され、「処理中」という初期ステータスで「ジョブ」コンソールに表示されます。ステータスが「完了」に変わったら、ファイルをダウンロードできます。

「診断のエキスポート」ファイルをダウンロードするには:

1. 「ジョブ」コンソールの上部にある「概要」カードをクリックします。
2. アプリケーション・ページの「概要」タブで、「アクション」ドロップダウンをクリックし、「受信ボックス/送信ボックス・エクスプローラ」を選択します。
3. 「受信ボックス/送信ボックス・エクスプローラ」で、Pcm_Supplemental_Diagnostics.zip を選択し、[...](#)をクリックして、「ファイルのダウンロード」を選択します。
4. ダウンロードで、Pcm_Supplemental_Diagnostics.zip をクリックします。

5. エクスプローラに、PCM_Supplemental_Diagnostics フォルダが作成されます。このフォルダを展開し、Model_Statistics.csv ファイルをクリックして **Excel** で開きます。

Part III

モデルの構築および計算

関連トピック

- [モデルの作成および管理](#)
- [ルールの作成および管理](#)
- [モデル検証の実行](#)
- [モデルの計算](#)
- [計算の分析](#)
- [ルール・バランスング・レポートの表示](#)

ビデオ

目的	視聴するビデオ
<p>Enterprise Profitability and Cost Management におけるモデリングの主要概念を理解します。</p>	 Enterprise Profitability and Cost Management におけるモデルおよびモデリング
<p>モデルを作成する方法、ルール・セット、配賦ルールおよびカスタム計算ルールをモデルに追加する方法を学習します。</p>	 Enterprise Profitability and Cost Management におけるモデルおよびルールの作成
<p>ルールを検証する方法、すべてのルールまたは選択したルールのみを実行してモデルを計算する方法、および計算済データをクリアする方法を学習します。</p>	 Enterprise Profitability and Cost Management におけるモデルの検証および計算
<p>「計算分析」画面でモデル計算をトラブルシューティングするレポートを実行する方法と、「ルール・バランスング」画面を使用してモデル計算を分析する方法を学習します。</p>	 Enterprise Profitability and Cost Management におけるモデル計算の分析およびトラブルシューティング

8

モデルの作成および管理

関連トピック

- [モデルについて](#)
- [モデルの作成](#)
- [モデルの管理](#)
- [モデル・ドキュメンテーション・レポートの生成](#)
- [モデル比較レポートの生成](#)

ビデオ

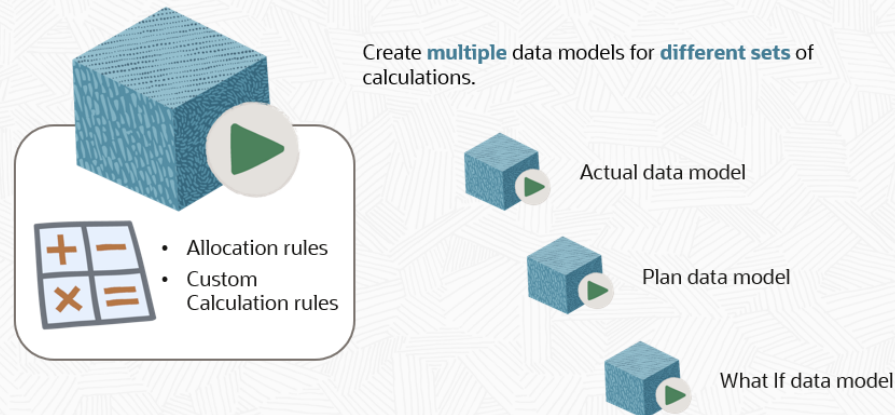
目的	視聴するビデオ
Enterprise Profitability and Cost Management におけるモデリングの主要概念を理解します。	 Enterprise Profitability and Cost Management におけるモデルおよびモデリング
モデルを作成する方法、ルール・セット、配賦ルールおよびカスタム計算ルールをモデルに追加する方法を学習します。	 Enterprise Profitability and Cost Management におけるモデルおよびルールの作成

モデルについて

モデルを作成して、Enterprise Profitability and Cost Management でモデリング・プロセスを開始します。モデルは、配賦ルールとカスタム・ルールのコンテナです。データに適用するルールの異なるセットがある場合は、複数のモデルを作成できます。

たとえば、実績データの計算用に 1 つ目のモデル、プラン・データの計算用に 2 つ目のモデル、そして What If シナリオの計算用に 3 つ目のモデルを作成できます。同じ基本財務データに対して異なるモデルを実行して、異なるドライバまたは配賦シナリオが最終結果に与える影響を分析できます。

Models



モデルが作成されたら、1つ以上のデータ POV に対して実行できます。

たとえば、データの 12 の期間に対して予測モデルを実行できます。データ POV に対してモデルを実行すると、ソース・データが変更されることなく、その上に結果が重ねられます。これにより、単一のルール、ルール・セットまたはすべてのルールを一度に元に戻したり、やり直すことが容易になります。[モデルの計算](#)を参照してください。

モデルの作成


モデル・ファイルを作成するには:

1. Enterprise Profitability and Cost Management のホーム・ページで、「**モデリング**」、**「モデル**」の順に選択します。
2. **モデル**・ページで、**+** (「モデルの作成」アイコン) をクリックします。
3. **「モデルの作成」** ダイアログ・ボックスで、モデルの **「名前」** および **「説明」** を入力します。

名前に特殊文字は使用できません。

4. **オプション:** モデルのすべてのルールに同じメンバーを使用するディメンションのデフォルトのメンバー選択を定義できます。デフォルトのメンバー選択を定義すると、ディメンションがルールで使用されるたびにそのディメンションのメンバーを選択する必要がなくなります。

デフォルトのメンバー選択を定義するには:

- a. **「モデル・コンテキスト」** セクションで、**「ディメンションの追加」** ドロップダウンをクリックし、ディメンションを選択します。
- b. **「メンバーの選択」** をクリックし、 (「メンバー・セレクタの起動」アイコン) をクリックします。
- c. **「メンバーの選択」** ダイアログ・ボックスで、ディメンションに割り当てるメンバーを選択し、**「OK」** をクリックします。

デフォルトのメンバーを選択する場合、レベル 0 のメンバーのみを選択できます。
「**メンバーの選択**」ダイアログ・ボックスの使用の詳細は、[メンバー・セレクタの使用](#)を参照してください。

[モデル・コンテキストおよびルール・セット・コンテキストの理解](#)を参照してください。

5. 「**保存して閉じる**」をクリックして、**モデル**・ページに戻ります。


モデルの管理

モデル・ページで、モデルを編集、削除、コピー、検査およびリフレッシュできます。

モデルの編集

既存のモデルの説明を編集したり、既存のディメンションおよびメンバー選択を削除するか、新しいディメンションおよびメンバーを追加することにより、モデル・コンテキストについて選択されているメンバーを変更できます。


モデルを編集するには:

1. 「**モデル**」画面で、モデルを選択し、 (「モデルの編集」アイコン)をクリックします。
2. 「**モデルの編集**」ダイアログ・ボックスで、必要な変更を加え、「**保存して閉じる**」をクリックします。

モデルの削除

作成したモデルが不要になった場合、モデルを 1 つずつ削除できます。モデルを削除すると、そのモデル内のルールも削除されます。


モデルを削除するには:

1. 「**モデル**」画面で、削除するモデルを選択します。
一度に選択できるモデルは 1 つのみです。
2.  (「モデルの削除」アイコン)をクリックします。
3. 削除を確認するには、「**OK**」をクリックします。

モデルのコピー

既存のルールを保持するモデルのコピーを作成し、コピーされたモデルを新しいルールで改訂できます。たとえば、コピーされたモデルで特定の年のモデルのルールを保持しますが、別の年については新しいルールで改訂できます。

モデルをコピーするには:

1. 「**モデル**」画面で、モデルを選択し、 (「モデルのコピー」アイコン)をクリックします。
2. 「**モデルのコピー**」ダイアログ・ボックスで、コピーされたモデルの名前を入力し、「**OK**」をクリックします。
コピーされたモデルがモデル・リストに表示されます。


 **Note:**

モデルをコピーすると、そのモデル内のルールもすべてコピーされます。

モデルの検査


モデルのプロパティを検査できます。

モデルを検査するには:

1. 「**モデル**」画面で、検査するモデルを選択します。
2.  (「モデルの検査」アイコン)をクリックします。

選択したモデルのプロパティが右側のペインに表示されます。

モデル・リストのリフレッシュ

「モデル」画面にリストされているモデルをリフレッシュするには、 (「リフレッシュ」アイコン)をクリックします。リフレッシュ・アクションによって、更新されたモデル・リストがフェッチされます。

モデル・ドキュメンテーション・レポートの生成

モデル・ドキュメンテーション・レポートでは、モデルに関連するすべての詳細の概要が提供されます。これには、配賦される値のソースとそれらを配賦するために使用されるロジックが表示されます。

このレポートには、モデルで使用されるルールの名前とシーケンスが表示され、各ルールの目的についての説明が示されます。ルールのハイパーリンクをクリックすると、そのルールの詳細と実際のルール定義が表示されます。ハイパーリンクを使用すると、レポート内の異なる領域間を簡単に移動できます。たとえば、ルールおよびそれが実行されるシーケンスの概要から実際のルール定義に移動できます。

配賦プロセスを内部または外部の確認者および監査者に説明するために、レポートをローカルに保存して他のユーザーに配布したり、他のレポートに添付できます。

「モデル」ページまたはルール・デザイナからモデル・ドキュメンテーションを生成できます。

「モデル」ページからモデル・ドキュメンテーション・レポートを生成するには:

1. ホーム・ページで、「**モデリング**」、「**モデル**」の順に選択します。
2. **モデル**・ページで、モデルを選択します。
3. 「**アクション**」ドロップダウンをクリックし、「**モデル・ドキュメンテーション・レポート**」を選択します。
4. 次のいずれかのフォーマットを選択します:
 - PDF
 - EXCEL
 - WORD
 - XML

- HTML

ルール・デザイナーからモデル・ドキュメンテーション・レポートを生成するには:

1. ホーム・ページで、「モデリング」、「デザイナー」の順に選択します。
2. 「アクション」ドロップダウンをクリックし、「モデル・ドキュメンテーション・レポート」を選択します。
3. 次のいずれかのフォーマットを選択します:
 - PDF
 - EXCEL
 - WORD
 - XML
 - HTML

モデル・ドキュメンテーション・レポートのサンプル

Model Snapshot Documentation Report							ORACLE
Application : BksML40 Model name : 10 Actuals Allocation Process Description : Allocation program for Actuals allocations approved for 2021. Created By : epm_default_cloud_admin Creation Date : 02/01/2022 09:40:44 Modified By : epm_default_cloud_admin Modified Date : 02/01/2022 09:40:44 Model Context : Driver.NoDriver							
Rule Set Name	Rule Name	Rule Type	Sequence	Enabled	Use Context	Modified By Modified Date	Description
Occupancy Expense Allocations			1	Y	Y	epm_default_cloud_admin 02/01/2022 09:40:45	Occupancy expenses are reassigned from cost centers where the expenses are paid to the cost centers that use the facilities. A rule Set Context is defined for Activity, Product, Customer, and Region dimensions to select the "No-dimname" members. These dimensions are not meaningful in managing these rules.
Occupancy Expense Allocations	Utilities Expense Adjustment	Custom Calculation	1	Y	Y	epm_default_cloud_admin 02/01/2022 09:40:45	Increases Utilities Expenses by 10%.
Occupancy Expense Allocations	Rent and Utilities Reassignment	Allocation	2	Y	Y	epm_default_cloud_admin 02/01/2022 09:40:45	Rent and Utility expenses are reassigned from the Corporate cost center to the business function cost centers. A driver based on the square feet of each building used by each cost center is used to apportion the expenses.
Manufacturing COGs Related Expense Assignment			2	Y	Y	epm_default_cloud_admin 02/01/2022 09:40:45	Materials expenses that are not included in Cost of Goods sold are applied to products in this rule set. A rule set context for Activity, Customer, and Region dimensions is set to the "No-dimname" members as these dimensions do not used in these rules.
2/10/2022 14:56 PM		http://den00bzk.us.oracle.com:9000 (22.02.63)				1 of 26	

モデルの Utilities Expense Adjustment ルールに関する詳細情報

Model Snapshot Documentation Report				
ORACLE®				
Rule Set Name : Occupancy Expense Allocations				
Rule Name : Utilities Expense Adjustment				
Use Rule Set Context : Y				
Rule Set Context :				
Activity.No Activity				
Customer.No Customer				
Product.No Product				
Calculation Mode : Serial Calculation				
Iterations :				
Destination	Context	Target	Result Dimension	Estimated Target Count
Account		Utilities		1
Activity	No Activity			
Customer	No Customer			
Driver	No Driver			
Entity		Corporate		1
Product	No Product			
PCM_Balance				0
Formula	[PCM_Adjustment In]= ([PCM_Input],[PCM_Rule]) * .10;			
2/10/2022 14:56 PM				
http://den00bzk.us.oracle.com:9000 (22.02.63)				
6 of 26				

Tip:

大規模なモデルのモデル・ドキュメンテーション・レポートを生成する場合は、[モデル・ドキュメンテーション・レポートの生成 REST API](#)を使用するほうが効率的な場合があります。

モデル比較レポートの生成

モデル比較レポートでは、2つのモデル間の違いを確認できます。このレポートを使用して、次のことができます:

- 2つの異なるモデル間におけるロジックの違いを比較します。
たとえば、多少異なるロジックを使用する2つの異なる事業部門がある場合、このレポートを使用して、ロジックの違いがどのようなものかを確認できます。
- モデルの古いバージョンとその同じモデルの新しいバージョンの間におけるロジックの違いを比較します。
たとえば、2021会計年度全体で実績を配賦するプロセスがあり、2022会計年度に、その配賦プロセスに変更を加えることを決定したとします。この例では、元の **Fiscal 2021 Actuals Allocation Process** モデルのルールを、**Fiscal 2022 Actuals Allocation Process** という新しいモデルにコピーできます。2022年度に新しいモデルでルールに変更を加えた後、モデル比較レポートを実行して、2021年度と2022年度に使用していた配賦プロセスの違いを確認できます。

モデル比較レポートを生成するには:

- ホーム・ページで、「モデリング」、「モデル」の順に選択します。
- モデル・ページで、比較する2つのモデルを選択します。
- 「アクション」ドロップダウンをクリックし、「モデル比較レポート」を選択します。
- 次のいずれかのフォーマットを選択します:
 - PDF

- EXCEL
- WORD
- XML
- HTML

モデル比較レポートのサンプル

Model Comparison Report		ORACLE							
Application	BksML40								
Model	10 Actuals Allocation Process	20 Forecast Allocation Process							
Global Context Members	Driver.NoDriver	Driver.NoDriver							
Rulesets not in other Model									
Rulesets with Differences	Occupancy Expense Allocations								
Rule Set Name		Rule Name	Rule Type	Enabled	Enabled	Sequence	Sequence	Use Context	Use Context
10 Actuals Allocation Process vs 20 Forecast Allocation Process									
Occupancy Expense Allocations				true	true	1	1	true	true
Occupancy Expense Allocations	Utilities Expense Adjustment	Custom Calculation		true	true		1	1	true
Rule Set Name : Occupancy Expense Allocations									
	10 Actuals Allocation Process	20 Forecast Allocation Process							
Enabled	true	true							
Sequence	1	1							
Use Context	true	true							
Ruleset Context Members	Activity:NoActivity, Customer:NoCustomer, Product:NoProduct			Activity:NoActivity, Customer:NoCustomer, Product:NoProduct					
Rules not in other Model									
Rules with Differences	Utilities Expense Adjustment								
Rule Set Name: Occupancy Expense Allocations									
Rule Name: Utilities Expense Adjustment									
Rule Type: Custom Calculation									
	10 Actuals Allocation Process	20 Forecast Allocation Process							
Enabled	true	true							
Sequence	1	1							
Target	Account:FAC8200,Entity:CC1001;			Account:FAC8200,Entity:CC1001;					
Formula	PCM_Balance PCM_Adjustment ln =			PCM_Balance PCM_Adjustment ln =					
2/10/2022 15:23 PM		http://den00bzk.us.oracle.com:9000 (22.02.63)				1 of 2			

9

ルールの作成および管理

関連トピック

- [ルールについて](#)
- [ルールのタイプ](#)
- [ルールおよびルール・メンバーに関する考慮事項](#)
- [ルールの作成時のディメンションおよびメンバーの要件](#)
- [モデル・コンテキストおよびルール・セット・コンテキストの理解](#)
- [システム・ディメンションがルールでどのように使用されるかについての理解](#)
- [配賦ルールの作成](#)
- [カスタム計算ルールの作成](#)
- [ルール・セットの作成](#)
- [複数のルールの作成](#)
- [複数のルール・セットの作成](#)
- [ルール・デザイナーの使用](#)

ビデオ

目的

モデルを作成する方法、ルール・セット、配賦ルールおよびカスタム計算ルールをモデルに追加する方法を学習します。

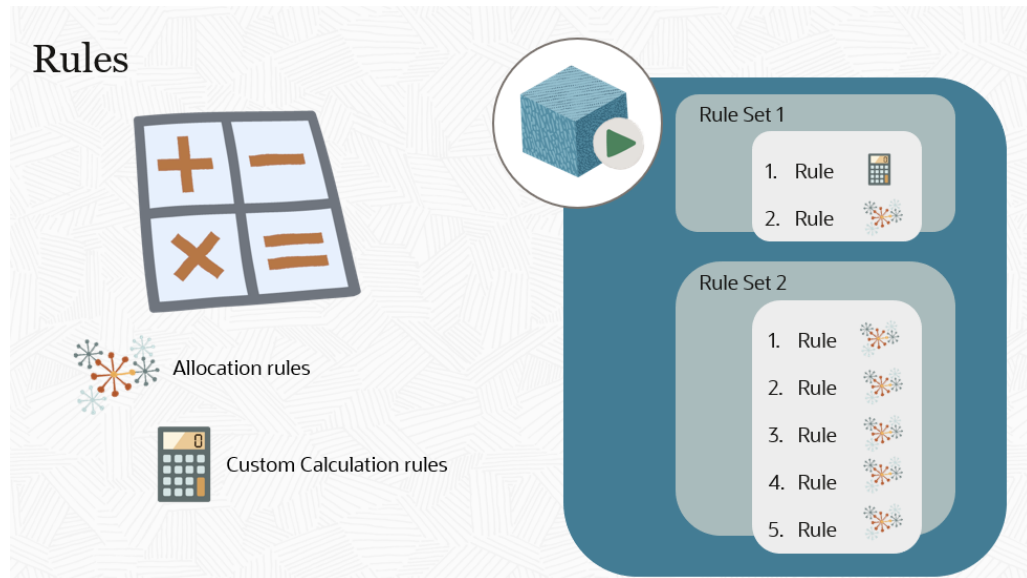
視聴するビデオ



[Enterprise Profitability and Cost Management](#) におけるモデルおよびルールの作成

ルールについて

モデルを作成したら、モデリング・プロセスの次のステップは、モデルにルールを追加することです。モデルのルールによって、**Enterprise Profitability and Cost Management** に対して、配賦とカスタム計算の実行方法が指示されます。ルールを順序付けし、そのルールをセットにグループ化して、計算ロジックの順序を詳細に制御できます。



ルールのタイプ

Enterprise Profitability and Cost Management アプリケーションには、2つのタイプのルールがあります:

- **配賦ルール**は、配賦されたデータのソースおよび宛先、データの配賦に使用されるドライバおよび勘定科目を貸借一致させるためにオフセットが配置される位置を定義します。

配賦ルールの例には次のものがあります:

- 賃貸および水道光熱費の再割当て。賃貸費用と水道光熱費が企業のコスト・センターからビジネス機能のコスト・センターに再度割り当てられます。各コスト・センターによって使用される各建物の平方フィートに基づいたドライバが、費用の配賦に使用されます。
- 製品の材料の配賦。材料のコストが、バイク・ファミリの製品に配賦されます。製品ごとの材料の消費の一意のレートを反映するドライバ・メンバー **BOMRate** が、ドライバ基準で使用されます。
- アクティビティのコスト計算の割当て。各コスト・センターで収集されたアクティビティ時間の分割の統計に基づいて、機能コスト・センターごとの営業費用が、ビジネス維持、顧客維持または製品維持のアクティビティに割り当てられます。
- **カスタム計算ルール**には、Oracle Essbase MDX フォーマットの式が含まれ、主にデータの調整または後続の配賦ルールで使用されるドライバ値の作成に使用されます。

カスタム計算ルールの例には、本社で水道光熱費が 10 パーセント増える水道光熱費の調整などがあります。

 **Note:**

前述の配賦ルールとカスタム計算ルールの例は、**Enterprise Profitability and Cost Management** に付属の **BksML50** サンプル・アプリケーションで使用されるルールの一部です。様々なタイプのルールを理解するために、サンプル・アプリケーションの例を参照できますが、これらの例は、作成するアプリケーションに必ずしも関連するとはかぎらないことに注意してください。

ルールおよびルール・メンバーに関する考慮事項

Enterprise Profitability and Cost Management でルールおよびルール・メンバーを操作するときには、次の考慮事項に留意してください:

- **Enterprise Profitability and Cost Management** の一意のルールそれぞれについて、ルール名と一致する対応するルール・メンバーが **Oracle Essbase** にあります。このルール・メンバーは、**Enterprise Profitability and Cost Management** のルール・デザイナーでルールが作成された後の最初の計算実行中に **Essbase** に作成されます。新しいルールを作成した後は、キューブをリフレッシュすることをお勧めします。(ルール・デザイナーの使用およびモデルの計算を参照してください)。
- すべてのルール名は、モデル内で一意である必要があります。
- 1つのルールが複数のモデルに存在できます。

これは、モデルごとに独自のルール定義があることで、ルール定義がモデルごとに異なる可能性があるためです。その意味で、これらは異なるルールです。ただし、これらは両方も同じルール名を共有し、**Essbase** で同じルール・メンバーを共有するため、その意味ではこれらは同じルールです。

- ルール・デザイナーでルールを削除しても、そのルールに関連付けられているルール・メンバーは削除されません。ルール・メンバーを削除すると、そのルール・メンバーに関連付けられているデータも削除されてしまうため、注意してください。(ルールまたはルール・セットの削除を参照してください)。
- ルール・メンバーは、「アプリケーション」の「ディメンション」タブからアクセスするメンバー・プロパティの編集ページでのみ削除できます。(メンバーの削除を参照してください)。
- ルール・メンバーに属性および **UDA** を含めることができます。
属性および **UDA** によって、ルールを分類できます。(属性の操作を参照してください)。
- 計算済のルールの名前が変更されると、新しいルール名を持つ新しいメンバーがキューブに追加されます。古いメンバー名は引き続き保持され、そのメンバー名に関連付けられたデータはキューブ内に残ります。

ルールの作成時のディメンションおよびメンバーの要件

Enterprise Profitability and Cost Management で作成するルールごとに、ルール・タイプに応じて、ソースおよび宛先交差、またはターゲット交差に完全なディメンション・コンテキストを指定する必要があります。

Enterprise Profitability and Cost Management では、年、期間、シナリオ、バージョンの POV ディメンション、エンティティと勘定科目のディメンションおよび残高とルールのシステム・ディメンションが必要です。複数通貨アプリケーションには通貨ディメンションが含まれています。また、アプリケーションにはいくつかのカスタム・ディメンションが含まれている場合があります。ルールを実行するには、作成するルールにディメンションが適用されるかどうかに関係なく、これらすべてのディメンションにメンバーが割り当てられている必要があります。

年、期間、シナリオ、バージョンの POV ディメンション、および残高とルールのシステム・ディメンションはルール定義に含まれておらず、ルールの作成時にこれらのディメンションにメンバーを明示的に割り当てる必要はありません。POV ディメンションのメンバーは、計算コントロール・ページでモデルを計算するときに割り当てられ(モデルの計算を参照)、システム・ディメンションのメンバーは、Enterprise Profitability and Cost Management アプリケーションによって自動的に割り当てられます。これにより、エンティティと勘定科目のディメンション、オプションの通貨ディメンション、およびルールの作成時にメンバーを割り当てる必要があるアプリケーションのカスタム・ディメンションが残ります。

ルールに関係のないディメンションの場合は、<dimname>なしメンバーを使用します。たとえば、特定の顧客、アクティビティまたは製品のディメンションに割り当てられていないデータを配賦するルールを作成する場合は、これらのディメンションに**顧客なし**、「**アクティビティなし**」および「**製品なし**」を割り当てます。

Create Allocation Rule				
Definition	Source/Destination	Driver	Offset	Validation
▶ Source (1)				
▶ Entity				
▶ Account				
▶ Customer No Customer				
▶ Activity No Activity				
▶ Driver				
▶ Product No Product				



Note:

ディメンションおよびメンバーの作成時に、ディメンションに<dimname>なしメンバーを設定します。[ディメンションへのメンバーの追加](#)および[<dimname>なしメンバーの追加](#)を参照してください。

 **Note:**

ルール・セットに多数のルールが含まれ、それらすべてが同じディメンション・メンバーの選択を使用する場合、ルールでディメンションが使用されるたびに各ディメンションに同じメンバーを選択するのではなく、ディメンションのメンバーを定義するルール・セット・コンテキストを作成する方が効率的です。[モデル・コンテキストおよびルール・セット・コンテキストの理解](#)を参照してください。

モデル・コンテキストおよびルール・セット・コンテキストの理解

多数のルールを作成する場合は、モデル・コンテキストとルール・セット・コンテキストを使用して、モデルまたはルール・セットのすべてのルールに同じメンバーを使用するディメンションに対して、デフォルト・メンバー選択を定義できます。これにより、ルールでディメンションが使用されるたびに、ディメンションの同じメンバーを選択する必要がなくなります。

Enterprise Profitability and Cost Management に付属の **BksML50** サンプル・アプリケーションを使用した例について考えてみましょう。サンプル・アプリケーションには、**Enterprise Profitability and Cost Management** で必要なエンティティ・ディメンションおよび勘定科目ディメンションに加えて、顧客、アクティビティ、ドライバおよび製品のカスタム・ディメンションが含まれます。そのため、サンプル・アプリケーションで作成するルールごとに、エンティティ、勘定科目、顧客、アクティビティ、ドライバおよび製品のメンバーを選択する必要があります。[ルールの作成時のディメンションおよびメンバーの要件](#)を参照してください。

この例では、次のようにモデルおよびルール・セットを設定します:

- モデル: 10 Actuals Allocation Process
- ルール・セット: Occupancy Expense Allocations

まず、**10 Actuals Allocation Process** モデルを設定します。この例では、モデル・コンテキストを設定して、エンティティ、勘定科目、顧客、アクティビティ、ドライバおよび製品の任意のディメンションのデフォルト・メンバーを選択できます。

実行する計算のタイプを検討する場合、これらのいずれかのディメンションの特定のメンバーに計算を絞り込むことが合理的かどうかについて考えます。

この例では、いくつかの時点で、配賦およびカスタム計算が、アクティビティ、顧客、製品、エンティティのすべてと、いくつかの勘定科目に影響します。ドライバ・ディメンションはその影響を受けません。ドライバには1つのメンバーのみがあり、そのメンバーを使用する1つのルールのみがあると仮定します。ドライバは1つのルールでのみ使用されるため、ドライバ・ディメンションのデフォルト選択を定義するモデル・コンテキストを作成すると、モデリング・プロセスで時間を節約できます。

ドライバ・ディメンションに実際のディメンション・メンバーを割り当てることはないため、デフォルト・メンバー選択には **NoDriver** を選択します。**NoDriver** は、ルールで使用されないディメンションであってもすべてのディメンションでメンバーが必要であるという要件を満たすメンバーです。(ドライバ・ディメンションの作成時に、**NoDriver** メンバーが設定されて、ドライバのカスタム・ディメンションに追加されています。)

この時点では、コンテキストの選択は次のとおりです:

Dimensions required for rule source & destination	Model Context Dimension Selection
Driver	NoDriver
Activity	
Customer	
Product	
Entity	
Account	

次のステップは、Occupancy Expense Allocations ルール・セットの作成です。このルール・セットでは、10 Actuals Allocation Process モデルの作成時にドライバ・ディメンションを *NoDriver* に設定して定義したモデル・コンテキストを使用します。これを行うには、**ルール・セットの作成** ページの「定義」タブで「モデル・コンテキストの使用」を選択します。

Create Rule Set : Occupany Expense Allocations

Definition Member Selections

* Rule Set

Description

* Sequence

Enabled

Use Model Context

Rule Set Calculation Options

Serial Calculation

Parallel Calculation

Iterative Calculation

Number of Iterations

モデル・コンテキストの使用に加えて、ルール・セット・コンテキストを作成して、エンティティ、勘定科目、顧客、アクティビティおよび製品の任意のディメンションのデフォルト・メンバーを定義できます。(このルール・セット・コンテキストでは、ドライバ・ディメンションを選択できないことに注意してください。これは、ドライバ・ディメンションに対して *NoDriver* が定義されたモデル・コンテキストを有効化したためです。モデル・コンテキストで定義されたディメンションは、ルール・セット・コンテキストでは選択できません。)

Create Rule Set : Occupany Expense Allocations

Definition **Member Selections**

Rule Set Context
Define selected members for dimensions that will apply to all rules of the Program.

Add Dimensions ▼

- Entity
- Account
- Customer
- Activity
- Product

Occupancy Expense Allocations ルール・セットのルールの作成中であるため、アクティビティ、製品または顧客のディメンションのデータは移動しませんが、エンティティ・ディメンションと勘定科目ディメンションのデータは移動します。アクティビティ、製品および顧客のディメンションは、ルール・セットに作成するルールには適用されないため、これらのディメンションに対して、ルール・セット・コンテキストを *No Activity*、*No Customer* および *No Product* に設定します。

Rule Set Context
Define selected members for dimensions that will apply to all rules of the Program.

Add Dimensions ▼

Activity	<i>No Activity</i>	...
Customer	<i>No Customer</i>	...
Product	<i>No Product</i>	...

モデル・コンテキストで定義した *NoDriver* の選択での対応と同様に、これらの "No<dimname>"メンバーを割り当て、ルールで適用されないディメンションであってもすべてのディメンションでメンバーが必要であるという要件を満たします。ルール・セット・コンテキストでこれらの選択を行うことは、ルール・セットに作成するすべての新規ルールでこれらのディメンションのメンバーを選択する必要がないことを意味します。

この時点では、コンテキストの選択は次のとおりです:

Dimensions required for rule source & destination	Model Context Dimension Selection	Rule Set Context Dimension Selection
Driver	NoDriver	No Driver
Activity		No Activity
Customer		No Customer
Product		No Product
Entity		
Account		

これで、Occupancy Expense Allocations ルール・セットにルールを作成する準備ができました。このルール・セットに作成するルールごとに、「**ルール・セット・コンテキストの使用**」を選択します。

Rule Set Name Occupancy Expense Allocations

* Rule Name

Description

* Sequence 1

Enabled

Use Rule Set Context

この例のルール・セット・コンテキストには、アクティビティ、顧客および製品のディメンションが含まれることに留意してください。さらに、このルール・セットでは、ドライバ・ディメンションにデフォルト値を設定したモデル・コンテキストも使用します。そのため、ルール・レベルの定義画面に移動すると、エンティティと勘定科目のメンバーを選択するためのオプションのみが表示されます。

Create Allocation Rule

Definition **Source/Destination** Driver Offset Validation

▶ Source (0)

▶ Entity

▶ Account

Create Custom Rule

Definition **Target** Validation

▶ Target Dimensions (0)

▶ Entity

▶ Account

この時点では、コンテキストの選択は次のとおりです:

Dimensions required for rule source & destination	Model Context Dimension Selection	Rule Set Context Dimension Selection	Rule Dimension Selection
Driver	NoDriver	No Driver	No Driver
Activity		No Activity	No Activity
Customer		No Customer	No Customer
Product		No Product	No Product
Entity			
Account			

モデル・コンテキストとルール・セット・コンテキストのいずれかが適用されないルールを作成する場合は、これらの選択を無効化できます。ルール・レベルでは、「**ルール・セット・コンテキストの使用**」の選択を解除して、例外を処理します。ルール・セット・レベルでは、「**モデル・コンテキストの使用**」の選択を解除して、例外を処理します。ルール・セット・コンテキストにはモデル・コンテキストも含まれるため、「**ルール・セット・コンテキストの使用**」の選択を解除する場合は、「**モデル・コンテキストの使用**」の選択も解除します。

例では、「**ルール・セット・コンテキストの使用**」の選択を解除すると、アプリケーションのすべてのディメンションが、配賦ルール用の「**ソース/宛先**」タブとカスタム・ルール用の「**ターゲット**」タブに表示されます。具体的には、エンティティ・ディメンションと勘定科目ディメンションに加えて、ルール・セット・コンテキストからのアクティビティ、顧客および製品のディメンションが表示されて、モデル・コンテキストからのドライバ・ディメンションが表示されるようになりました。

Create Allocation Rule

Definition **Source/Destination** Driver Offset Validation

▶ Source (0)

▶ Entity

▶ Account

▶ Customer

▶ Activity

▶ Driver

▶ Product

The screenshot shows a 'Create Custom Rule' window with three tabs: 'Definition', 'Target', and 'Validation'. The 'Target' tab is active. Below the tabs, there is a section titled 'Target Dimensions (0)'. Under this section, a list of dimensions is displayed: 'Entity', 'Account', 'Customer', 'Activity', 'Driver', and 'Product'. The 'Customer' dimension is highlighted with a red rectangular box.

ここで、BksML50 サンプル・アプリケーションにルールを設定して、モデル・コンテキストとルール・セット・コンテキストを定義しなかった場合にどうなるかについて考えてみましょう。引き続き各ルールには、配賦ルールのソースおよび宛先またはカスタム・ルールのターゲットに定義された 6 つすべてのディメンションが必要です。モデルとルール・セットのコンテキストを定義しなかった場合は、作成するすべてのルールで、すべてのディメンションのメンバーを手動で選択する必要があります。ルール・セットに 200 個のルールが含まれ、そのすべてで同じディメンションを使用する場合は、ルール・セット・コンテキストでディメンションのメンバーを定義する方が、その後の各ルールの定義時に選択するよりも効率的です。

システム・ディメンションがルールでどのように使用されるかについての理解

Related Topics

- [PCM_Rule および PCM_Balance システム・ディメンションの概要](#)
- [PCM_Balance ディメンション・メンバーの理解](#)
- [PCM_Balance の例](#)

PCM_Rule および PCM_Balance システム・ディメンションの概要

Enterprise Profitability and Cost Management のシステム・ディメンションは次のとおりです:

- [PCM_Rule ディメンション](#)

- **PCM_Balance** ディメンション

PCM_Rule ディメンション

PCM_Rule ディメンションには、すべての配賦ルールおよびカスタム計算ルールが含まれています。計算を実行すると、各ルールの結果が個別に追跡されます。これにより、各配賦およびカスタム計算の影響を個別に追跡でき、実行されたルールを元に戻すことができます。

PCM_Rule ディメンションのサンプル

Member Name	Parent Member	Default Data Storage	Hierarchy	Data Type	PCM_CLC Consol op.	PCM_REP Consol op.	Default Alias Table
PCM_Rule		Never Share	Not Set	Unspecified	Ignore	Ignore	
PCM_Calculation Rules	PCM_Rule	Store	Not Set	Unspecified	Addition	Addition	Calculation Rules
PCM_NoRule	PCM_Calculation Rules	Store	Not Set	Unspecified	Addition	Addition	NoRule
Utilities Expense Adjustment	PCM_Calculation Rules	Store	Not Set	Unspecified	Addition	Addition	
Rent and Utilities Reassignment	PCM_Calculation Rules	Store	Not Set	Unspecified	Addition	Addition	
Product Material Allocation	PCM_Calculation Rules	Store	Not Set	Unspecified	Addition	Addition	
Activity Costing Assignments	PCM_Calculation Rules	Store	Not Set	Unspecified	Addition	Addition	
Executive Office Support Activity Charge Out	PCM_Calculation Rules	Store	Not Set	Unspecified	Addition	Addition	
Facilities Support Activity Charge Out	PCM_Calculation Rules	Store	Not Set	Unspecified	Addition	Addition	
Finance Support Activity Charge Out	PCM_Calculation Rules	Store	Not Set	Unspecified	Addition	Addition	
HR Support Activity Charge Out	PCM_Calculation Rules	Store	Not Set	Unspecified	Addition	Addition	
IT Support Activity Charge Out	PCM_Calculation Rules	Store	Not Set	Unspecified	Addition	Addition	
Marketing Activity Assignment	PCM_Calculation Rules	Store	Not Set	Unspecified	Addition	Addition	
Shipping Activity Assignment	PCM_Calculation Rules	Store	Not Set	Unspecified	Addition	Addition	
Assembly Activity Assignment	PCM_Calculation Rules	Store	Not Set	Unspecified	Addition	Addition	
Machining Activity Assignment	PCM_Calculation Rules	Store	Not Set	Unspecified	Addition	Addition	
Finishing Activity Assignment	PCM_Calculation Rules	Store	Not Set	Unspecified	Addition	Addition	
Quality Assurance Activity Assignment	PCM_Calculation Rules	Store	Not Set	Unspecified	Addition	Addition	
Customer Service Activity Assignment	PCM_Calculation Rules	Store	Not Set	Unspecified	Addition	Addition	
Inside Sales Activity Assignment	PCM_Calculation Rules	Store	Not Set	Unspecified	Addition	Addition	
Outside Sales Activity Assignment	PCM_Calculation Rules	Store	Not Set	Unspecified	Addition	Addition	
Customer Support Costs Assignment to Market Int	PCM_Calculation Rules	Store	Not Set	Unspecified	Addition	Addition	
Product Support Costs Assignment to Market Int	PCM_Calculation Rules	Store	Not Set	Unspecified	Addition	Addition	
Product COGS Assignment to Market Intersector	PCM_Calculation Rules	Store	Not Set	Unspecified	Addition	Addition	

Note:

この例のルールは、Enterprise Profitability and Cost Management に付属の BksML50 サンプル・アプリケーションのもので、サンプル・アプリケーションへのアクセス方法の詳細は、[サンプル・アプリケーションの作成](#)を参照してください。

PCM_Balance ディメンション

PCM_Balance ディメンションは、元の入力データを保持しながら、調整(カスタム計算)および配賦(配賦ルール)を追跡します。**PCM_Balance** ディメンションには、次の 3 つの主な機能があります:

- 入力値と計算値を区別します
- 多数のルールが 1 つの場所に作用して資金の出し入れを配賦したり、値を上下に調整する場合は、純残高を維持します
- 剰余額を作成して、将来のルールで配賦可能な未配賦の剰余額を追跡します

PCM_Balance Dimension

Member Name	Parent Member	Default Data Storage	Hierarchy	Data Type	PCM_CLC Consol op.	PCM_REP Consol op.	Default Alias Table
PCM_Balance		Label only	Not Set	Unspecified	Ignore	Ignore	
PCM_Net Balance	PCM_Balance	Store	Not Set	Unspecified	Addition	Addition	Net Balance
PCM_Input	PCM_Net Balance	Store	Not Set	Unspecified	Addition	Addition	Input
PCM_Net Change	PCM_Net Balance	Store	Not Set	Unspecified	Addition	Addition	Net Change
PCM_Adjustment In	PCM_Net Change	Store	Not Set	Unspecified	Addition	Addition	Adjustment In
PCM_Adjustment Out	PCM_Net Change	Store	Not Set	Unspecified	Addition	Addition	Adjustment Out
PCM_Allocation In	PCM_Net Change	Store	Not Set	Unspecified	Addition	Addition	Allocation In
PCM_Allocation Out	PCM_Net Change	Store	Not Set	Unspecified	Addition	Addition	Allocation Out
PCM_Remainder	PCM_Balance	Store	Not Set	Unspecified	Addition	Addition	Remainder
PCM_Adjustment In.[PCM_Remainder]	PCM_Remainder	Shared	Not Set	Unspecified	Addition	Addition	Adjustment In
PCM_Adjustment Out.[PCM_Remainder]	PCM_Remainder	Shared	Not Set	Unspecified	Addition	Addition	Adjustment Out
PCM_Allocation In.[PCM_Remainder]	PCM_Remainder	Shared	Not Set	Unspecified	Addition	Addition	Allocation In
PCM_Input.[PCM_Remainder]	PCM_Remainder	Shared	Not Set	Unspecified	Addition	Addition	Input
PCM_OutFlow	PCM_Remainder	Store	Not Set	Unspecified	Addition	Addition	OutFlow
PCM_Allocation Offset Amount	PCM_OutFlow	Store	Not Set	Unspecified	Addition	Addition	Allocation Offset Amount
PCM_Allocation Out.[PCM_OutFlow]	PCM_OutFlow	Shared	Not Set	Unspecified	Addition	Addition	Allocation Out
PCM_System	PCM_Balance	Store	Not Set	Unspecified	Addition	Addition	System
PCM_CalculatedDriverValue	PCM_System	Store	Not Set	Unspecified	Addition	Addition	CalculatedDriverValue
PCM_ScratchAllocation Out	PCM_System	Store	Not Set	Unspecified	Addition	Addition	ScratchAllocation Out
PCM_ScratchAllocation In	PCM_System	Store	Not Set	Unspecified	Addition	Addition	ScratchAllocation In

PCM_Balance ディメンション・メンバーの理解

PCM_Balance ディメンション・メンバーは次のとおりです:

- [PCM_NetBalance](#)
- [PCM_Remainder](#)
- [PCM_System](#)

PCM_NetBalance

PCM_NetBalance は、PCM_Input メンバーと PCM_Net Change メンバーの合計です。

Member Name	Parent Member	Default Data Storage	Hierarchy	Data Type	PCM_CLC Consol op.	PCM_REP Consol op.	Default Alias Table
PCM_Balance		Label only	Not Set	Unspecified	Ignore	Ignore	
PCM_Net Balance	PCM_Balance	Store	Not Set	Unspecified	Addition	Addition	Net Balance
PCM_Input	PCM_Net Balance	Store	Not Set	Unspecified	Addition	Addition	Input
PCM_Net Change	PCM_Net Balance	Store	Not Set	Unspecified	Addition	Addition	Net Change
PCM_Adjustment In	PCM_Net Change	Store	Not Set	Unspecified	Addition	Addition	Adjustment In
PCM_Adjustment Out	PCM_Net Change	Store	Not Set	Unspecified	Addition	Addition	Adjustment Out
PCM_Allocation In	PCM_Net Change	Store	Not Set	Unspecified	Addition	Addition	Allocation In
PCM_Allocation Out	PCM_Net Change	Store	Not Set	Unspecified	Addition	Addition	Allocation Out
PCM_Remainder	PCM_Balance	Store	Not Set	Unspecified	Addition	Addition	Remainder
PCM_System	PCM_Balance	Store	Not Set	Unspecified	Addition	Addition	System

- **PCM_Input:** データがロードされる場所。PCM_Input の値が書き込まれることはありません。これは、計算が元に戻されたり、計算値がクリアされた場合に元の入力値に戻ることができるため、重要です。
- **PCM_Net Change:** PCM_Adjustment In、PCM_Adjustment Out、PCM_Allocation In および PCM_Allocation Out の合計。
 - **PCM_Adjustment In:** 通常、カスタム計算ルールで使用されます。
 - **PCM_Adjustment Out:** 通常、カスタム計算ルールで使用されます。
 - **PCM_Allocation In:** 配賦ルールで配賦済の値が宛先に書き込まれる場合。配賦(入)は通常、正の値です。
 - **PCM_Allocation Out:** 配賦ルールでオフセット・エントリがソースに書き込まれる場合。配賦(出)は通常、負の値です。

PCM_Remainder

PCM_Remainder は、ルールが PCM_Input に追加されたことに伴うコストの積上を追跡します。

Member Name	Parent Member	Default Data Storage	Hierarchy	Data Type	PCM_CLC Consol op.	PCM_REP Consol op.	Default Alias Table
PCM_Balance		Label only	Not Set	Unspecified	Ignore	Ignore	
PCM_Net Balance	PCM_Balance	Store	Not Set	Unspecified	Addition	Addition	Net Balance
PCM_Remainder	PCM_Balance	Store	Not Set	Unspecified	Addition	Addition	Remainder
PCM_Adjustment In [PCM_Remainder]	PCM_Remainder	Shared	Not Set	Unspecified	Addition	Addition	Adjustment In
PCM_Adjustment Out [PCM_Remainder]	PCM_Remainder	Shared	Not Set	Unspecified	Addition	Addition	Adjustment Out
PCM_Allocation In [PCM_Remainder]	PCM_Remainder	Shared	Not Set	Unspecified	Addition	Addition	Allocation In
PCM_Input [PCM_Remainder]	PCM_Remainder	Shared	Not Set	Unspecified	Addition	Addition	Input
PCM_OutFlow	PCM_Remainder	Store	Not Set	Unspecified	Addition	Addition	OutFlow
PCM_Allocation Offset Amount	PCM_OutFlow	Store	Not Set	Unspecified	Addition	Addition	Allocation Offset Amount
PCM_Allocation Out [PCM_OutFlow]	PCM_OutFlow	Shared	Not Set	Unspecified	Addition	Addition	Allocation Out
PCM_System	PCM_Balance	Store	Not Set	Unspecified	Addition	Addition	System

通常、剰余額は、ソースから受け取った配賦金額の分が増加(配賦(入))し、宛先に配賦された金額の分が減少(配賦(出))します。

まれなケースとして、ソースの一部のみが配賦されたり、調整エントリがソース以外の場所に転記されることがあります(配賦ルールのオフセットの定義を参照してください)。

たとえば、管理メンバーを含むコスト・センター階層があり、管理メンバーには財務、人事および役員オフィスが含まれているとします。この場合に、役員オフィスの給与を配賦するルールを実行した後、管理の給与を配賦する別のルールを実行するとします。管理の給与には役員オフィスの給与も含まれているため、システム・ディメンションでは、事務局の給与が2回配賦されないようにすると同時に、管理部門が受け取った役員の給与が配賦されるように剰余額を保持します。

デフォルトでは、オフセット・エントリはソースの **PCM_Allocation Out** メンバーに書き込まれます。代替のオフセットの場所を指定すると、**PCM_Allocation Out** が代替の場所書き込まれ、**PCM_Allocation Offset Amount** がソースに書き込まれます。これにより、オフセットを目的の場所に配置しながら、金額を配賦できないようにソースの剰余額を減らすことができます。

次の **PCM_Remainder** の子は共有メンバーです。共有メンバーを使用すると、同じメンバーを様々な方法でロールアップして様々な値を計算できるため、代替階層を構築できます。

- PCM_Input
- PCM_Adjustment In
- PCM_Adjustment Out
- PCM_Allocation In
- PCM_Allocation Out

PCM_System

PCM_System メンバーは、ルールの実行中に計算エンジンによって使用される一時的な値を保持します。ルールの実行後、値は消去されます。

Member Name	Parent Member	Default Data Storage	Hierarchy	Data Type	PCM_CLC Consol op.	PCM_REP Consol op.	Default Alias Table
PCM_Balance		Label only	Not Set	Unspecified	Ignore	Ignore	
PCM_Net Balance	PCM_Balance	Store	Not Set	Unspecified	Addition	Addition	Net Balance
PCM_Remainder	PCM_Balance	Store	Not Set	Unspecified	Addition	Addition	Remainder
PCM_System	PCM_Balance	Store	Not Set	Unspecified	Addition	Addition	System
PCM_CalculatedDriverValue	PCM_System	Store	Not Set	Unspecified	Addition	Addition	CalculatedDriverValue
PCM_ScratchAllocation Out	PCM_System	Store	Not Set	Unspecified	Addition	Addition	ScratchAllocation Out
PCM_ScratchAllocation In	PCM_System	Store	Not Set	Unspecified	Addition	Addition	ScratchAllocation In

PCM_Balance の例

PCM_Balance ディメンションは、元の入力データを保持しながら、調整(カスタム計算)および配賦(配賦ルール)を追跡します。例を使用してこれを示します。

次のメンバーおよび POV があるとします:

- **エンティティ:** Corp HQ、Marketing、Sales、Finance
- **勘定科目:** Utilites
- **POV:** Actual、FY22、Jan、Working

このグリッドでは、列に **PCM_Balance** メンバーが表示され、行にエンティティが表示されています。

	A	B	C	D	E	F	G
1	Actual	FY22	Jan	Working	Utilities		
2							
3		Input	Allocation In	Allocation Out	Adjustment In	Adjustment Out	Net Balance
4	Corp HQ						
5	Marketing						
6	Sales						
7	Finance						
8	Total						

この例では、次のことを行います:

- 入力データをロードします
- カスタム計算ルールを実行して、水道光熱費を 10%調整します
- 配賦ルールを実行して、調整されたデータを Corporate HQ から他の 3 つのエンティティ (Marketing、Sales、Finance) に配賦します

データをロードしてルールを実行すると、**Input** 合計は変更されず、調整エントリを追加してデータを変更した場合にのみ **Net Balance** が変更されることがわかります。

この例では、**PCM_Net Balance** が「Input」、「Allocation In」、「Allocation Out」、「Adjustment In」および「Adjustment Out」の合計であることに留意してください。

<input type="checkbox"/> PCM_Balance
<input type="checkbox"/> PCM_Net Balance
PCM_Input
<input type="checkbox"/> PCM_Net Change
PCM_Adjustment In
PCM_Adjustment Out
PCM_Allocation In
PCM_Allocation Out

ステップ 1: 入力データをロードします

まず、入力データをロードします。この例では、\$3,000 の Utilites の費用を Actual->FY22->Jan->Working->Utilities->Corp HQ->Input の交差にロードします。

	A	B	C	D	E	F	G
1	Actual	FY22	Jan	Working	Utilities		
2							
3		Input	Allocation In	Allocation Out	Adjustment In	Adjustment Out	Net Balance
4	Corp HQ	\$ 3,000					\$ 3,000
5	Marketing						\$ -
6	Sales						\$ -
7	Finance						\$ -
8	Total	\$ 3,000	\$ -	\$ -	\$ -	\$ -	\$ 3,000

ステップ 2: カスタム計算ルールを実行して、Corp HQ の水道光熱費を 10%調整します

次のステップでは、カスタム計算ルールを実行して、水道光熱費を 10%調整します。調整計算は $[PCM_Adjustment\ In] := ([PCM_Input], [PCM_Rule]) * .10$; で、ターゲットは **Corp HQ->Utilities** です。システムによって **Corp HQ->Utilities** の **Input** 値が検出され、**Adjustment In** メンバーに調整値が書き込まれます。この例では、式で宛先を指定しました。システムによって自動的に選択されたわけではありません。

	A	B	C	D	E	F	G
1	Actual	FY22	Jan	Working	Utilities		
2							
3		Input	Allocation In	Allocation Out	Adjustment In	Adjustment Out	Net Balance
4	Corp HQ	\$ 3,000			\$ 300		\$ 3,300
5	Marketing						\$ -
6	Sales						\$ -
7	Finance						\$ -
8	Total	\$ 3,000	\$ -	\$ -	\$ 300	\$ -	\$ 3,300

ステップ 3: 配賦ルールを実行して、調整されたデータを Corporate HQ から Marketing、Sales および Finance に配賦します

配賦ルールを実行すると、システムによって **Corp HQ->Utilities->Net Balance** が取得され、それが他の **Entities->Utilities->Allocation In** メンバーに配賦され、**Corp HQ->Utilities->Allocation Out** のオフセット・エントリも作成されます。

	A	B	C	D	E	F	G
1	Actual	FY22	Jan	Working	Utilities		
2							
3		Input	Allocation In	Allocation Out	Adjustment In	Adjustment Out	Net Balance
4	Corp HQ	\$ 3,000		\$ (3,300)	\$ 300		\$ -
5	Marketing		\$ 1,100				\$ 1,100
6	Sales		\$ 1,100				\$ 1,100
7	Finance		\$ 1,100				\$ 1,100
8	Total	\$ 3,000	\$ 3,300	\$ (3,300)	\$ 300	\$ -	\$ 3,300

これらのルールを実行した後、**\$3,000** の **Input** 合計は変更されておらず、調整エントリを追加してデータを変更したときのみ **Net Balance** が変更されていることに注意してください。配賦によってデータが別の場所に移動されますが、ルールによる計算で入力データが変更されることはありません。ルールの実行後、Corporate HQ の **Net Balance** が \$0 だった場合でも、戻って最初にロードされた **\$3,000** を確認できます。

この例に **PCM_Rule** ディメンションを追加すると、グリッドの情報は次のように表示されます。(All Rules セクションに 3 つのステップがすべて集約されています。)

	A	B	C	D	E	F	G	H
1	Actual	FY22	Jan	Working	Utilities			
2								
3			Input	Allocation In	Allocation Out	Adjustment In	Adjustment Out	Net Balance
4	No Rule	Corp HQ	\$ 3,000					\$ 3,000
5		Marketing						\$ -
6		Sales						\$ -
7		Finance						\$ -
8		Total	\$ 3,000	\$ -	\$ -	\$ -	\$ -	\$ 3,000
9								
10			Input	Allocation In	Allocation Out	Adjustment In	Adjustment Out	Net Balance
11	Rule 1	Corp HQ				\$ 300		\$ 300
12		Marketing						\$ -
13		Sales						\$ -
14		Finance						\$ -
15		Total	\$ -	\$ -	\$ -	\$ 300	\$ -	\$ 300
16								
17			Input	Allocation In	Allocation Out	Adjustment In	Adjustment Out	Net Balance
18	Rule 2	Corp HQ			\$ (3,300)			\$ (3,300)
19		Marketing		\$ 1,100				\$ 1,100
20		Sales		\$ 1,100				\$ 1,100
21		Finance		\$ 1,100				\$ 1,100
22		Total	\$ -	\$ 3,300	\$ (3,300)	\$ -	\$ -	\$ -
23								
24	All Rules		Input	Allocation In	Allocation Out	Adjustment In	Adjustment Out	Net Balance
25		Corp HQ	\$ 3,000		\$ (3,300)	\$ 300		\$ -
26		Marketing		\$ 1,100				\$ 1,100
27		Sales		\$ 1,100				\$ 1,100
28		Finance		\$ 1,100				\$ 1,100
29		Total	\$ 3,000	\$ 3,300	\$ (3,300)	\$ 300	\$ -	\$ 3,300

配賦ルールの作成

Related Topics

- [配賦ルールの作成について](#)
- [配賦ルール定義の作成](#)
- [配賦ルールのソースおよび宛先の定義](#)
- [配賦ルールのドライバの定義](#)
- [配賦ルールのオフセットの定義](#)
- [配賦ルールの検証](#)
- [配賦ルールのルール・データ検証レポートの実行](#)
- [配賦ルール・データを分析するためのアド・ホックの使用](#)

配賦ルールの作成について

配賦ルールの作成時に、次の情報を定義します:

- **ソース:** データの配賦元
- **宛先:** 配賦されるデータを移動する必要がある場所
- **ドライバ:** 宛先間のソース・データの分割方法

- **オフセット**: 配賦されるデータの相殺方法

デフォルトでは、配賦ルールにより、ソース交差の金額の **100%**が配賦されます。配賦ドライバにより、ドライバ値/ドライバ値の合計の割合を使用して、各宛先交差が受け取る比率が決定されます。宛先にドライバ値がない場合、配賦を受け取ることはありません。ソース金額には、自動的に、以前に実行されたルールによってソース交差に配賦された金額が含まれます。

**Tip:**

配賦ルールの作成を開始する前に、[ルールの作成時のディメンションおよびメンバーの要件](#)を確認してください。

配賦ルールの例

この例では、**企業**コスト・センターの施設費用が、複数のコスト・センターにわたる「**施設**」勘定科目に配賦されます。

Definition	Source/Destination	Driver	Offset	Validation
▶ Source (2)	...			Destination (28) ...
▲ Entity
Corporate Add Source				Facilities Sales Manufacturing Marketing Shipping Customer Service Administration Add Destination
▲ Account
Facilities Expenses Add Source				Same As Source(Account)

「**施設**」の配賦では、**Occupancy Square Feet** のドライバが使用されます。

Definition Source/Destination **Driver** Offset Validation

Allocate Evenly
 Specify Driver Location

Specify Driver Location
 Defines the member used to calculate the allocation ...

PCM_Balance	Same As Destination
PCM_Rule	Same As Destination
Entity	Same As Destination
Account	Occupancy Square Feet
Customer	Same As Destination
Activity	Same As Destination
Driver	Same As Destination
Product	Same As Destination
Period	Same As Destination
Years	Same As Destination

オフセットは、配賦されたデータを代替の場所に転記するようシステムに指示します。

Definition Source/Destination Driver **Offset** Validation

Post Offset to the Source Location
 Post Offset to Alternate Location

Offset Dimensions
 Add dimensions for Offset


Entity	Same As Source
Account	Allocations Sent
Customer	Same As Source
Activity	Same As Source
Driver	Same As Source
Product	Same As Source

 **Note:**

この例の配賦ルールは、Enterprise Profitability and Cost Management に付属の BksML50 サンプル・アプリケーションで使用されます。サンプル・アプリケーションへのアクセス方法の詳細は、[サンプル・アプリケーションの作成](#)を参照してください。

配賦ルール定義の作成

配賦ルール定義を作成するには:

1. ホーム・ページで、「モデリング」、「デザイナ」の順に選択します。
2. 「ウォーターフォール設定」タブで、「モデル」ドロップダウンをクリックし、モデルを選択します。
3. 配賦ルールを追加するルール・セットを選択します。
4.  をクリックし、「配賦ルール」を選択します。
5. **配賦ルールの作成** ページの「定義」タブで、次の情報を入力します:

- **ルール名:** ルールの名前を入力します。

たとえば、Enterprise Profitability and Cost Management で提供される BksML50 サンプル・アプリケーションの Occupancy Expense Allocations ルール・セットには、Rent and Utilities Reassignment という配賦ルールが含まれています。

ルール名には、Oracle Essbase のメンバー名と同じ制限があります。[ディメンション、メンバーおよび別名の名前付けの制限](#)を参照してください。

- **説明:** ルールの説明を入力します。

ここに入力した説明は、モデル・ドキュメンテーション・レポートに表示されます。配賦ルールに関する情報が、後でモデル・ロジックをレビューする人に有益となる説明を入力します。[モデル・ドキュメンテーション・レポートの生成](#)を参照してください。

たとえば、次のように入力します: 賃貸および水道光熱費は企業のコスト・センターからビジネス機能のコスト・センターに再割当されます。これらの費用の配賦には、各コスト・センターで使用される各建物の平方フィートに基づくドライバが使用されます。

- **シーケンス:** ルール・セット内のルールが実行される順序を決定する番号を入力します。

「シーケンス」には、1 から 9999 までの任意の整数を指定できます。

同じシーケンス番号を持つルールは、親ルール・セットに対して並列計算が有効になっており、アプリケーション設定の「**計算スレッド**」に数値が指定されている場合に同時に実行されます。[\(ルール・セットの作成のステップ 5: ルール・セットの計算オプションの選択、およびアプリケーションおよびシステムの設定の管理についての計算スレッドを参照してください。\)](#)

- **使用可能:** 選択した場合、計算の実行時にルールがアクティブになります。

- **ルール・セット・コンテキストの使用:** 選択した場合、ルール・セットの作成時に行われたメンバー選択がこのルールに適用されます。「モデル・コンテキスト」がルール・セットに対して有効になっている場合は、それも適用されます。[モデル・コンテキストおよびルール・セット・コンテキストの理解](#)を参照してください。
- **配賦金額タイプ:** ソースの配賦金額を制限します。次のいずれかのオプションを選択します:
 - **なし:** これはデフォルトのオプションです。選択した場合、ソースのすべての金額が配賦されます。
 - **通貨:** 選択した場合、「金額」フィールドに入力された通貨の値によって、各ソース交差から配賦される金額が制限されます。たとえば、金額が **1000** の場合は、使用されている通貨に関係なく、各セルからの配賦は **1000** に制限されます。
 - **パーセンテージ:** 選択した場合、「金額」フィールドに入力されたパーセンテージによって、各ソース交差から配賦される金額が制限されます。たとえば、**50** の場合は、各セルからの配賦は **50%** に制限されます。
- **金額:** 「配賦金額タイプ」に「通貨」または「パーセンテージ」を選択した場合は、ルールで配賦する通貨の値またはパーセンテージ値を入力します。

6. 「保存」をクリックします。

配賦ルール定義の例

この例では、Rent and Utilities Reassignment ルールは、Occupancy Expense Allocations ルール・セットで実行される 2 番目のルールになります。以前に定義されたルール・セット・コンテキストが使用され、特定の配賦金額タイプはありません。

Definition	Source/Destination	Driver	Offset	Validation
Rule Set Name: Occupancy Expense Allocations				
* Rule Name: Rent and Utilities Reassignment				
Description: Rent and Utility expenses are reassigned from the Corporate cost center to the business function cost centers. A driver based on the square feet of each building used by each cost center is used to apportion the expenses.				
* Sequence: 2				
Enabled: <input checked="" type="checkbox"/>				
Use Rule Set Context: <input checked="" type="checkbox"/>				
Allocated Amount Type: None				
Amount: <input type="text"/>				

配賦ルールのソースおよび宛先の定義

配賦ルールの作成 ページの「ソース/宛先」タブを使用して、ソースから宛先にデータを配賦する方法を定義します。

「ソース/宛先」タブに最初にアクセスすると、必須のエンティティ・ディメンションと勘定科目ディメンション、オプションの通貨ディメンション(複数通貨アプリケーションを使用している場合)、およびアプリケーションのカスタム・ディメンションが、「ソース」列に表示されます。ルール・セット・コンテキストまたはモデル・コンテキストを定義して有効にした場合、ルール・セット・コンテキストまたはモデル・コンテキストで定義されたディメンションは表示されません。[モデル・コンテキストおよびルール・セット・コンテキストの理解](#)を参照してください。

詳細は、次のトピックを確認してください:

- [配賦のソースの定義](#)
- [配賦の宛先の定義](#)
- [ソース・メンバーと宛先メンバーのフィルタの管理](#)
- [配賦のソース/宛先の例](#)

配賦ルールのソースおよび宛先のベスト・プラクティス


- 可能な場合は、ソース、宛先またはターゲット・ルールで階層の最上位の使用は避けてください。
データベースは効率的ですが、コンパクトなルール定義があるとさらに効率的になります。
たとえば、"AllAccounts"、"AllEntities"、"AllCompanies"および"AllProducts"として定義されているソースでは、勘定科目、エンティティ、会社および製品のそれぞれに 1000 個のレベル 0 メンバーがあり、データベースでソース・データに対して 1000⁴ (1兆)個の可能性のある場所をスキャンする必要があります。
- 配賦の宛先で「ソースと同じ」オプションを使用します。宛先をソースと同じに設定を参照してください。
 - 単一のルールを使用して多くのソースの組合せを処理し、一部のディメンションでは配賦を"待機"させて他のディメンション間では分散させることができます。
 - 多くの場合、1つの Enterprise Profitability and Cost Management ルールで、レガシー・システムの多くのルールを置き換えることができます
- ソース・メンバー選択は、親メンバーを優先する必要があります
 - 親を選択できる場合、個別の子の選択を避けてください。またはルール処理用に設計された代替階層を使用して、共通の親のメンバーをグループ化します。
 - Oracle Essbase は、多くの場合、それぞれの子に複数のパスを作成するのではなく、ある親のすべての子孫を処理できるほうが高速になります。
- 問題のあるソースと宛先の組合せは、疑う必要があります。
たとえば、ソースと宛先の両方が「エンティティ 合計」の場合、エンティティ 組合せのクロス積が大きくなります。
- レガシー・システムの配賦ルール設計を採用する場合、それらを Enterprise Profitability and Cost Management のルールに適用する前に、本当のビジネス要件を理解していることを確認してください。


配賦のソースの定義

まず、配賦するデータをルールが取得するメンバーを定義します。

「ソース」列の各ディメンションについて、配賦するデータを保持する 1 つ以上のメンバーを選択します。すべてのディメンションに対してメンバーを選択する必要があります。ルールでデータにディメンションを適用しない場合は、<dimname>なしメンバーを選択します。ルールの作成時のディメンションおよびメンバーの要件を参照してください。


ソースのメンバーを選択するには:

1. 「ソース」列のディメンションを展開します。
2. 「ソースの追加」をクリックし、 をクリックします。
3. 「メンバーの選択」ダイアログ・ボックスで、目的のメンバーを選択し、「OK」をクリックします。[メンバー・セレクタの使用](#)を参照してください。

ソース・ディメンションに追加するメンバーが複数あり、メンバー名がわかっている場合は、「メンバーの選択」ダイアログ・ボックスから各メンバーを1つずつ追加するかわりに、「ソース」見出しの右側にある  をクリックし、「ディメンション・メンバー・エディタ」にメンバーを入力できます。


たとえば、Excel スプレッドシートにメンバーのリストがある場合、Excel からこれらのメンバーをコピーして、「ディメンション・メンバー・エディタ」に貼り付けることができます。メンバーは、ディメンションの作成時に割り当てられたソースのディメンションに追加されます。[ディメンションへのメンバーの追加](#)を参照してください。

 **Note:**

「ディメンション・メンバー・エディタ」に入力したメンバーは、ソースの該当するディメンションに割り当てることができます。特定のディメンションに複数のメンバーを追加するには、ディメンションの横にある  をクリックします。

 **Tip:**

上位レベルのメンバーを選択すると、そのメンバーのすべての子孫が選択されます。たとえば、「すべての勘定科目」を選択すると、実際には「すべての勘定科目」のレベル 0 のすべての子孫が選択されます。ルールでは、レベル 0 のメンバーごとに配賦が実行されます。上位レベルのメンバーを選択すると、特定の各メンバーを個別に選択する必要がなくなります。

「ソース」列のディメンションの横にある  をクリックして、次のいずれかのオプションを選択することもできます：

- **複数メンバーのソースを追加:** 各メンバーを個別に選択せずに、一度に複数のメンバーをディメンションに割り当てることができるダイアログ・ボックスにアクセスします。
- **計算セグメンテーション:** 選択した場合、ルールは個別に実行するためにより小さいルールにセグメント化されます。この最適化オプションで生成される結果は同じですが、より高速に実行されます。

 **Note:**

「計算セグメンテーション」を使用するのは、ソース範囲が非常に大きく、点在している場合のみにしてください。ベスト・プラクティスとして、このオプションを続行する前にサポートに連絡してください。

- **<Dimname>の選択のクリア:** ディメンションに選択したすべてのメンバーをクリアします。

個々のメンバーを削除するには、メンバーをクリックし、**<MemberName>の削除**を選択します。<MemberName>は、削除するメンバーの名前です。

 **Note:**



ルールで使用されるソース・メンバーと宛先メンバーをフィルタする方法の詳細は、[ソース・メンバーと宛先メンバーのフィルタの管理](#)を参照してください。

配賦の宛先の定義


配賦のソースを定義したら、次のステップでは、データの配賦先を示すメンバーを定義します。

「宛先」列の各ディメンションについて、配賦されたデータを受け取るメンバーを選択します。親メンバーを選択すると、配賦はそのレベル 0 のすべての子孫に移動します。

宛先のメンバーを選択するには:

1. 「ソース」列のディメンションの横にある  をクリックして展開します。
2. 「宛先」列で、「宛先の追加」をクリックし、 をクリックします。
3. 「メンバーの選択」ダイアログ・ボックスで、目的のメンバーを選択し、「OK」をクリックします。[メンバー・セレクタの使用](#)を参照してください

宛先ディメンションに追加するメンバーが多数あり、メンバー名がわかっている場合は、「メンバーの選択」ダイアログ・ボックスから各メンバーを 1 つずつ追加する

かわりに、「宛先」見出しの右側にある  をクリックし、「ディメンション・メンバー・エディタ」にメンバーを入力できます。

たとえば、Excel スプレッドシートにメンバーのリストがある場合、Excel からこれらのメンバーをコピーして、「ディメンション・メンバー・エディタ」に貼り付けることができます。メンバーは、ディメンションの作成時に割り当てられた宛先のディメンションに追加されます。[ディメンションへのメンバーの追加](#)を参照してください。

 **Note:**

「**ディメンション・メンバー・エディタ**」に入力したメンバーは、宛先の該当するディメンションに割り当てることができます。特定のディメンションに複数のメンバーを追加するには、ディメンションの横にある **...** をクリックします。

「**宛先**」列のディメンションの横にある **...** をクリックして、次のいずれかのオプションを選択することもできます：

- **複数メンバーの宛先を追加:** 各メンバーを個別に選択せずに、一度に複数のメンバーをディメンションに入力できるダイアログ・ボックスにアクセスします。
- **宛先をソースと同じに設定:** 宛先ディメンションに設定されるメンバーを、ソース・ディメンションに設定されたメンバーと同じになるように定義します。[宛先をソースと同じに設定](#)を参照してください。
- **<Dimname>の選択のクリア:** ディメンションに選択したすべてのメンバーをクリアします。

個々のメンバーを削除するには、メンバーをクリックし、**<MemberName>の削除**を選択します。**<MemberName>**は、削除するメンバーの名前です。

 **Note:**

ルールで使用されるソース・メンバーとディメンション・メンバーをフィルタする方法の詳細は、[ソース・メンバーと宛先メンバーのフィルタの管理](#)を参照してください。

宛先をソースと同じに設定

宛先のディメンションのメンバーを、ソースのディメンションに対して選択したメンバーと同じになるように定義できます。この場合、ルールの実行時、ソースのメンバー選択に一致させることで、配賦する宛先のメンバーが選択されます。レベル 0 ではないソース選択のメンバーはレベル 0 メンバーに解決され、次に、宛先内のレベル 0 メンバーと一致されます。これは、ソース・メンバーに関連付けられた値は、ディメンションの他のメンバーには配賦されませんが、ソースと同じメンバーには関連付けられたままになることを意味します。

宛先メンバーをソース・メンバーと同じになるように設定するには：

1. 「**宛先**」列のディメンションの横にある **...** をクリックします。
2. 「**宛先をソースと同じに設定**」を選択します。

「**宛先をソースと同じに設定**」を選択すると、ソースで使用されているものと同じディメンションを選択することも(ソースと同じ、同じディメンション)、異なるディメンションを選択することもできます(ソースと同じ、異なるディメンション)。

ソースと同じ、同じディメンション

宛先ディメンションで、ソース・ディメンションで使用したのと同じメンバーに配賦する場合は、ソースで使用したのと同じディメンションを選択します。これはデフォルトです。

この例では、ソースの勘定科目ディメンションと同じ、勘定科目ディメンションが選択されています。



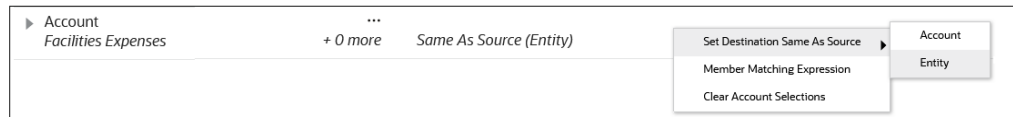
宛先範囲を定義する場合は、必要な数のディメンションに対してソースと同じ、同じディメンションオプションを使用できます。

ソースと同じ、異なるディメンション

まれなケースとして、異なるディメンションのディメンション・メンバーがほぼ同一である場合は、ソースと同じ、異なるディメンション・オプションを使用できます。この場合、宛先メンバーが、異なるディメンションに対して選択したソース・メンバーと一致することを要求することになります。

ソース・ディメンションとは異なるディメンションを選択すると、複数のディメンションに存在するメンバー名を使用するディメンションを含むソース参照および宛先参照を作成できます。たとえば、配賦結果で送信エンティティと受信エンティティを追跡するために、元エンティティ・ディメンションとターゲット・エンティティ・ディメンションの両方を使用できます。

この例では、ソースの勘定科目ディメンションと異なる、エンティティ・ディメンションが選択されています。



宛先範囲を定義する場合は、1つのディメンションに対してのみソースと同じ、異なるディメンション・オプションを使用できます。

Note:

ソースと同じ、異なるディメンションオプションを使用する場合は、異なるディメンションのメンバーである場合でも、重複するメンバー名を使用できないことに注意してください。たとえば、**Sales** というエンティティと **Sales** という勘定科目を持つ場合は、接頭辞を使用してメンバーを区別します。たとえば、**ENT_Sales** と **ACC_Sales** のようにします。

メンバー名を照合する式を定義する方法の詳細は、[メンバー照合式の定義](#)を参照してください。

メンバー照合式の定義

ソース・ディメンションとは異なる宛先ディメンションを選択する場合、ワイルドカード文字を使用してメンバー名を照合する式を定義できます。これを行うには:

1. 宛先ディメンションの横にある **...** をクリックし、「**メンバー照合式**」を選択します。
2. 「**メンバー照合式**」ダイアログ・ボックスでメンバー名の式を入力します。

メンバー照合式を作成するときには使用できる文字は、次のとおりです:

- #は、メンバー名の 1 文字を無視する(切り取る)ことを意味します
- *は、#によって表される文字が切り取られた後に残される文字を表します。

#文字と*文字を使用して、照合を試行する前にメンバー名から接頭辞、接尾辞、または接頭辞と接尾辞の両方を切り取ることができます。

それぞれの式で#を複数使用できますが、*は 1 つのみです。例:

###*は 3 文字の接頭辞を切り取ります

*#####は 4 文字の接尾辞を切り取ります

##*#####は接頭辞と接尾辞の両方を切り取ります

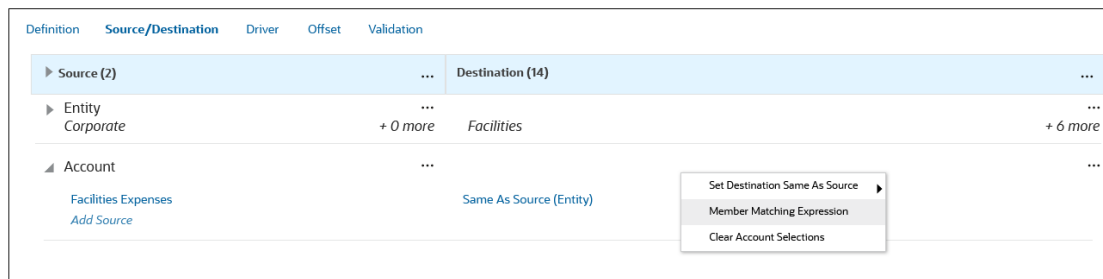
##*#####は許可されません

メンバー照合式の例

アプリケーションにエンティティと勘定科目の 2 つのディメンションがあり、次のようなメンバーが含まれている例を考えてみましょう:

- エンティティ: mem1_ENT、mem2_ENT、mem3_ENT
- 勘定科目: ACCT_mem1、ACCT_mem2、ACCT_mem3

この例では、ソース・ディメンションに勘定科目を選択し、宛先ディメンションのメンバーをソース勘定科目ディメンションのメンバーと同じに設定しますが、宛先ディメンションにはエンティティを選択します。その後、エンティティ・ディメンションと勘定科目ディメンションのメンバーを照合する式を追加します。



この例では、エンティティ・ディメンションと勘定科目ディメンションのメンバーを照合する式は次のようになります:

Member Matching Expression OK Cancel

* Entity Member Expression

* Account Member Expression

エンティティについては、式*#####によって、メンバー名の末尾の 4 文字_ENTが無視され、その前の文字が残されます。

勘定科目については、式#####*によって、ACCT_という 5 文字が無視され、メンバー名の残りの文字が照合のために残されます。

これらの両方の式を適用すると、エンティティの mem1_ENT が勘定科目の ACCT_mem1 と一致します。

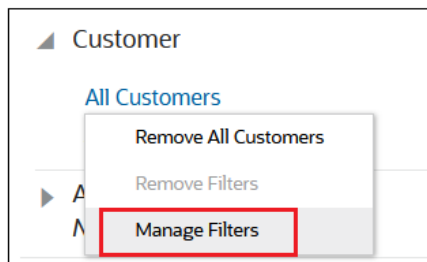
ソース・メンバーと宛先メンバーのフィルタの管理


配賦ルールでソースまたは宛先ディメンションについて上位レベル・メンバーを選択すると、そのメンバーのすべてのレベル 0 子孫がルールに含まれます。レベル 0 子孫の一部をルールに含めない場合は、含めるメンバーを制限するフィルタを適用できます。

たとえば、メンバー選択が「すべての顧客」であり、「すべての顧客」に 1,000 個のレベル 0 子孫があるとします。さらに、Delivery Zone B の顧客のみをルールに含めるとします。この場合、ルールに含めるレベル 0 子孫を Delivery Zone B の顧客のみに制限するフィルタを適用できます。

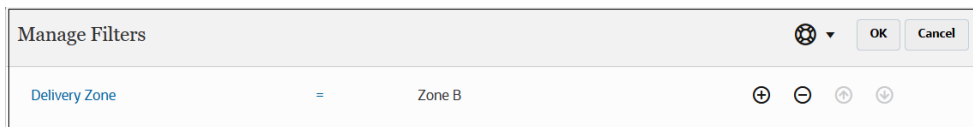
フィルタをメンバーに追加するには:

1. 「ソース/宛先」タブで、目的のメンバーをクリックし、「フィルタの管理」を選択します。

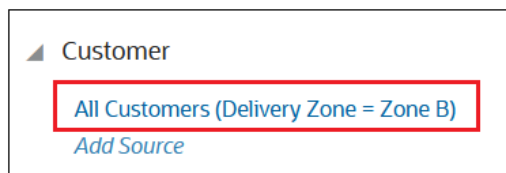


2. 「フィルタの管理」ダイアログ・ボックスで、 をクリックします。
3. メンバー名とフィルタ値を入力します。

この例では、顧客を Delivery Zone B でフィルタしました。



複数のフィルタを追加できます。フィルタを追加すると、メンバーの横に表示されます。



Note:

フィルタを除去するには、メンバーをクリックし、「フィルタの除去」を選択します。複数のフィルタがある場合は、削除するフィルタをクリックします。

配賦のソース/宛先の例

この例では、**企業**コスト・センターの施設費用が、複数のコスト・センターにわたる「**施設費用**」勘定科目に配賦されます。

Definition	Source/Destination	Driver	Offset	Validation
	▶ Source (2)	...		Destination (28)
	▲ Entity
	Corporate Add Source			Facilities Sales Manufacturing Marketing Shipping Customer Service Administration Add Destination
	▲ Account
	Facilities Expenses Add Source			Same As Source(Account)

配賦規則のドライバの定義

ドライバ定義は、ソース・データを宛先間で分割する方法をシステムに指示します。

データの配賦方法を指定するオプションを選択します:

- **均等に配賦:** すべての宛先にデータを均等に配賦します。
- **ドライバの場所の指定:** ドライバを使用して、各宛先に配賦するパーセンテージを決定します。宛先にドライバ値がない場合、配賦を受け取ることはありません。

ドライバを使用して配賦比率を決定する場合は、次の点に注意してください:


- ルール・セット・コンテキストまたはモデル・コンテキストがルールに対して有効になっているかどうかに関係なく、データベース内のすべてのディメンションをドライバとして使用できます。(モデル・コンテキストおよびルール・セット・コンテキストの理解を参照してください。)
- エンティティ・ディメンションおよび勘定科目ディメンション、オプションの通貨ディメンション、およびルール作成に必要なカスタム・ディメンションに加えて、年、期間、シナリオ、バージョンの **POV** ディメンションおよび **PCM_Balance** と **PCM_Rule** のシステム・ディメンションをドライバの選択に使用できます。
 - **POV** ディメンションを使用すると、ドライバに別の **POV** のデータ値を使用できます。
 - **PCM_Rule** ディメンションを使用すると、ドライバに前のルールによって生成されたデータ値を使用できます。


- PCM_Balance ディメンションは、通常、PCM_Rule ディメンションと組み合わせて使用されます。ルールが実行されると、ルール・メンバーと「配賦(入)」残高メンバーまたは「配賦(出)」残高メンバーの交差に結果が書き込まれます。


システム・ディメンションを除くすべてのディメンションは、最初は「宛先と同じ」に設定されます。PCM_Rule は「NoRule」に設定され、PCM_Balance は「入力」に設定されます。これらはデフォルト設定です。ドライバ値を「ソース/宛先」タブで定義された宛先の場所によって参照する場合は、ディメンションをデフォルト値のままにします。

ドライバ値を宛先の場所とは異なる固定メンバーによって参照する場合は、ディメンションごとに1つのドライバ・メンバーのみ選択でき、単一メンバーである必要があります。これは上位レベルのメンバーまたはレベル0のメンバーですが、ディメンションごとに1つのみ選択できます。

ドライバの場所の参照を固定メンバーに変更するには:


1. ディメンションの横にあるデフォルトの「宛先と同じ」の値をクリックし、 をクリックします。

PCM_Balance ディメンションの固定メンバーを指定する場合は、デフォルトの「入力」値をクリックし、「**入力**の削除」を選択します。ドライバ値が「宛先と同じ」に変更されます。「宛先と同じ」をクリックし、 をクリックします。

PCM_Rule ディメンションの固定メンバーを指定する場合は、デフォルトの「NoRule」値をクリックし、「**NoRule**の削除」を選択します。ドライバ値が「宛先と同じ」に変更されます。「宛先と同じ」をクリックし、 をクリックします。

2. 「**メンバーの選択**」ダイアログ・ボックスで、配賦の計算に使用するディメンション・メンバーを選択します。[メンバー・セレクタの使用](#)を参照してください。

ドライバのディメンションごとに選択できるメンバーは1つのみです。選択するメンバーは、上位レベルのメンバーまたはレベル0のメンバーです。

オプションで、「**ドライバの場所の指定**」見出しの右側にある をクリックし、「**ディメンション・メンバー・エディタ**」にドライバとして使用するメンバーを入力できます。メンバーは、ディメンションの作成時に割り当てられたディメンションに追加されます。[ディメンションへのメンバーの追加](#)を参照してください。

配賦ルール・ドライバのベスト・プラクティス

- ドライバ定義で動的メンバー(上位レベルのメンバーまたは式のあるメンバー)の使用を避けます。
 - Oracle Essbase では、ドライバ・データのない宛先は無視されます。
 - 動的メンバーの場合、ドライバ・データが存在するかどうかを Essbase で決定するには、計算または集約が必要です。
 - 宛先範囲が大きい場合、ドライバ・データが存在しないかどうかを決定するために、不要な計算ステップが多くなる可能性があります。
 - 上位レベルのメンバーは集約値を返します。これは配賦先を定義しません。
- データ準備ルールを使用して、配賦ルールが必要とする範囲内のドライバ・データを計算します。一度計算し、何度も使用します。

- EBS、PSFT または他の元帳ベースの配賦から移行している場合、ドライバは宛先定義に影響を与えないことに注意してください。

配賦ドライバの例

この例では、**Occupancy Square Feet** のドライバを定義します。

Definition	Source/Destination	Driver	Offset	Validation
<input type="radio"/> Allocate Evenly <input checked="" type="radio"/> Specify Driver Location				
Specify Driver Location				
Defines the member used to calculate the allocation				
PCM_Balance		Same As Destination		
PCM_Rule		Same As Destination		
Entity		Same As Destination		
Account		Occupancy Square Feet		
Customer		Same As Destination		
Activity		Same As Destination		
Driver		Same As Destination		
Product		Same As Destination		
Period		Same As Destination		
Years		Same As Destination		


配賦ルールのオフセットの定義

オフセットは、配賦されたデータを相殺する方法をシステムに指示します。オフセットの転記先を指定するオプションを選択します:

- **オフセットをソースの場所に転記:** このオプションを選択した場合、選択されたソース・ディメンション・メンバーがオフセットとして使用されます。
- **オフセットを代替の場所に転記:** このオプションを選択した場合、オフセット値を計算するディメンション・ターゲットを指定します。

デフォルトでは、オフセットはソースの場所と同じです。

オフセットを代替の場所に転記するには:

1. 「オフセットを代替の場所に転記」を選択します。
2. ディメンションの横にあるデフォルトの「ソースと同じ」の値をクリックし、 をクリックします。
3. 「メンバーの選択」ダイアログ・ボックスで、オフセットに使用するディメンション・メンバーを選択します。単一のレベル 0 のメンバーを選択する必要があります。[メンバー・セレクタの使用](#)を参照してください。

オプションで、「オフセット・ディメンション」見出しの右側にある  をクリックし、「ディメンション・メンバー・エディタ」にメンバーを入力できます。

メンバーは、ディメンションの作成時に割り当てられたディメンションに追加されます。 [ディメンションへのメンバーの追加](#)を参照してください。

 **Note:**

ディメンションごとに代替メンバーを選択する必要はありません。かわりに、メンバーがソースの場所のメンバーと異なるディメンションにのみ代替メンバーを選択します。

配賦ルール・オフセットのベスト・プラクティス

- GL への統合が必要ではなく、レポート要件が管理レポートのみの場合、オフセット・ソースを使用します。
- オフセットでデータが書き込まれるため、オフセット定義で上位レベルのメンバーを使用しないでください。上位レベルのオフセットを必要とする設計は、オフセット金額の別の配賦を意味するため、疑問に思う必要があります。
- 配賦勘定科目またはデータ・ステップ(あるいはその両方)のディメンションを使用して、オフセットを分類し、統合目的でそれらを分離しやすくします。

配賦オフセットの例

この例では、オフセットは、勘定科目ディメンションに配賦されたデータを送信された配賦勘定科目に転記するようにシステムに指示します。他のすべてのディメンションについては、配賦されたデータは、ソースで定義されているのと同じメンバーに転記されます。

Definition	Source/Destination	Driver	Offset	Validation
<input type="radio"/> Post Offset to the Source Location				
<input checked="" type="radio"/> Post Offset to Alternate Location				
Offset Dimensions				
Add dimensions for Offset				
Entity				Same As Source
Account				Allocations Sent
Customer				Same As Source
Activity				Same As Source
Driver				Same As Source
Product				Same As Source

配賦ルールの検証

「**検証**」タブにアクセスすると、配賦ルールのエラーまたは警告が表示されます。検証では次の条件について各ルールがチェックされます：

- ルールが完全に定義されています
これは、各ルールのソースおよび宛先の定義に、すべてのディメンションのメンバーが含まれる必要があることを意味します。
- ルール定義で参照されるディメンション・メンバーがデータベースに存在します
既存のルールで参照されるディメンションからメンバーを削除すると、ルールを実行できません。

検証エラーまたは警告がいくつかある場合は、「**Excel にエクスポート**」をクリックして、「**ソース/宛先**」タブに戻ってエラーおよび警告を修正するときにチェックリストとして Excel スプレッドシートを使用できます。

「**検証**」タブにエラーが表示されなくなるまで、ルールのエラーの修正を続けます。



Note:

配賦ルールの検証時に発生する可能性のあるエラーおよび警告の詳細は、[検証エラーおよび警告](#)を参照してください。

配賦ルールのルール・データ検証レポートの実行

ルール・データ検証レポートは、配賦ルールについて必要なすべてのソース・データとドライバ・データが含まれていることを確認するのに役立ちます。このレポートには、選択したルールのソースおよびドライバの交差と、任意のルールおよびドライバ・データの合計およびレコード数合計のサマリーが表示されます。サマリー値のみを表示するか、ソース・データまたはドライバ・データ(あるいはその両方)とともにサマリー値を表示するかを選択できます。交差数が **1000** を超える場合、最初の **100** の交差のみが表示されます。ソース・データまたはドライバ・データが選択されていない場合、レポートのその部分は空白になります。

このレポートを使用して、ソースおよびドライバの配賦が正しく設定されていることを検証します。

たとえば、ルール・バランシング・レポートを実行し、特定のルールによって配賦されていないものがあるか、そのルールによって、予期したように配賦が行われていない可能性があることがわかったとします。このシナリオでは、ルール・データ検証レポートで、ソースとドライバの両方を問い合せて、配賦されているデータおよび使用されているドライバ・データを正確に確認することにより、問題を特定できます。

この例を使用して続行するには、**8** 百万ドルの賃借料を配賦するが、ルール・ソースで提示されるのが **6** 百万ドルのみであるとします。このようになる場合、ルール・ソースが正しく設定されていないか、正しいデータがソースにインポートされていません。ルール・データ検証レポートでは、定義したソース範囲に含まれる金額を正確に確認できます。

ルール・データ検証レポートを実行するには：

1. ホーム・ページで、「**モデリング**」、「**デザイナ**」の順に選択します。
2. 「**ウォーターフォール設定**」タブで、配賦ルールを選択します。

3. 「アクション」をクリックし、「ルール・データ検証レポート」を選択します。
4. 「ルール・データ検証レポート」ダイアログ・ボックスで:
 - 「年」、「期間」、「シナリオ」および「バージョン」POV ディメンションの値を選択します。
 - 「サマリー値のみ」を含めるか、「サマリー値とデータ・サンプル」を含めるかを選択します。

「サマリー値とデータ・サンプル」を含めることを選択した場合は、「ソース・データ」を含めるか、「ドライバ・データ」を含めるか、ソース・データとドライバ・データの両方を含めるかを選択します。

 **Tip:**

ルール・データ評価レポートにすべての詳細を含めると、長い時間をかけて大きなレポートが生成される可能性があります。最初のステップとして、サマリー情報のみを表示してみてください。

- 結果を適用する「精度の丸め処理」を指定します。デフォルトは、小数点以下2桁です。小数点以下10桁まで丸め処理できます。指定した精度の丸め処理がソースとドライバ・データ値の両方に適用されます。
5. 「実行」をクリックし、レポートを表示するフォーマットを選択します:
 - PDF
 - EXCEL
 - WORD
 - XML
 - HTML

 **Note:**

ルール・データ検証レポートを確認するときに:

- 「ソース・データ合計」の横に「データなし」と表示されている場合、データがロードされていないか、ルール・ソースがデータを検出するように正しく定義されていないことを意味します。
- 「ドライバ・データ合計」の横に「データなし」と表示されている場合、データがロードされていないか、ドライバ定義が正しく定義されていないことを意味します。
- ソース・データまたはドライバ・データが見つからない場合、ルールで結果は生成されません。

次に示すレポートのサンプルでは、Occupancy Square Feet というドライバを使用して、配賦する Rent and Utilites の料金が決定されます。ソース・データ合計(結合されたすべてのソース 交差の合計金額)は\$8,420,000 になっており、ドライバ・データ合計(配賦ルールによって定義されたすべての宛先の合計平方フィート)は 18,500 平方フィートになっています。

サマリー値のみが表示されたルール・データ検証レポートのサンプル

Rule Data Validation Report	
Application	: BksML40
Point of View	: Years:Period:Scenario:Version FY21:Jan:Actual:Working
Rule Set Name	: Occupancy Expense Allocations
Rule Name	: Rent and Utilities Reassignment
Rule Type	: Allocation
Data Option	: Summary Values Only
Source Data Total	: 8420000
Driver Data Total	: 18500

サマリー値とともにソース・データとドライバ・データの両方のデータ・サンプルが表示されたルール・データ検証レポートのサンプル

Rule Data Validation Report	
Application	: BksML40
Point of View	: Years:Period:Scenario:Version FY21:Jan:Actual:Working
Rule Set Name	: Occupancy Expense Allocations
Rule Name	: Rent and Utilities Reassignment
Rule Type	: Allocation
Data Option	: Summary Values and Data Sample
Source Data	: Yes
Driver Data	: Yes
Source Data Total	: 8420000
Driver Data Total	: 18500
Source Data	
Source Data Count : 2	
Context : NoActivity : NoCustomer : NoProduct : NoDriver : FY21 : Jan : Actual : Working : PCM_Remainder : PCM_Rule	
Cell Name	Value
Account : Entity	
FAC8100 : CC1001	6000000
FAC8200 : CC1001	2420000

Driver Data	
Driver Data Count : 13	
Context : NoActivity : NoCustomer : NoProduct : NoDriver : FY21 : Jan : Actual : Working : PCM_Input : PCM_NoRule	
Cell Name	Value
Account : Entity	
STAT1101 : CC8200	300
STAT1101 : CC8300	600
STAT1101 : CC8400	1000
STAT1101 : CC7001	750
STAT1101 : CC6001	2000
STAT1101 : CC5001	500
STAT1101 : CC4100	2500
STAT1101 : CC4200	7500
STAT1101 : CC4300	1000
STAT1101 : CC4400	1000
STAT1101 : CC3100	150
STAT1101 : CC3200	750
STAT1101 : CC2001	450

配賦ルール・データを分析するためのアド・HOOKの使用

特定のルールのデータ要素を対象とする事前構成済のデータ・スライス进行分析するアド・HOOK・グリッドを作成できます。

特定の配賦ルールに対してアド・HOOK分析を実行するには:

1. ホーム・ページで、「モデリング」、「デザイナー」の順に選択します。
2. 「ウォーターフォール設定」タブで、配賦ルールを選択します。
3. 「アクション」メニューから、「ルール・データの表示」を選択し、含めるデータ要素を定義するオプションを選択します。配賦ルールについては、次の要素に対してアド・HOOK分析を実行できます:
 - ソース
 - 宛先
 - ドライバ基準(ルールを定義したときにドライバの場所を指定した場合にのみ使用可能)
 - オフセット(ルールを定義したときにオフセットの代替の場所を指定した場合にのみ使用可能)
4. アド・HOOK・グリッドが新しいタブで開きます。グリッドで作業する方法の詳細は、データ入力および分析のためのアド・HOOKの使用を参照してください。

Enterprise Profitability and Cost Management に付属の BKSML50 サンプル・アプリケーションの Rent and Utilities Reassignment 配賦ルールの宛先データ要素を表示するアド・HOOK・グリッドを次に示します。(サンプル・アプリケーションへのアクセス方法の詳細は、[サンプル・アプリケーションの作成](#)を参照してください。)

サンプルの Rent and Utilities Reassignment 配賦ルールの宛先データが表示されているアド・HOOK・グリッド

Year	Period	Scenario	Version	Driver	Future1	Future2	View	Activity	Customer	Product	Currency	Account
FY22	Jun	Actual	Working	NoDriver	NoFuture1	NoFuture2	Periodic	No Activity	No Customer	No Product	USD_Reporting	Facilities Expenses
				Allocation In								
				Facilities	190459							
				Sales	908919							
				Manufacturing	5398919							
				Marketing	229222							
				Shipping	886486							
				Customer Service	32452							
				Administration	842162							

Note:

アド・HOOK分析を実行する前に、ルールが計算され、POV が定義されている必要があります。ルール・balancing・ページで選択されている現在の POV が、配賦ルール・データを表示するために使用される POV です。[モデルの計算](#)および[ルール・balancing・レポートの表示](#)を参照してください。

カスタム計算ルールの作成

Related Topics

- [カスタム計算ルールの作成について](#)
- [カスタム計算ルール定義の作成](#)
- [カスタム計算ルール・ターゲットの定義](#)
- [カスタム計算ルールの検証](#)
- [カスタム計算ルール・データを分析するためのアド・ホックの使用](#)

カスタム計算ルールの作成について

カスタム計算ルールにより、適切な場所でデータを変更または作成できます。カスタム計算ルールで、次を定義します:

- 計算のターゲット範囲
- ターゲット範囲のすべてのセルを対象として実行する式

カスタム計算ルールを使用して、次のことができます:

- ドライバ・データの計算
- What-If 変更の作成
- 費用および収益の調整

設計に関する考慮事項

カスタム計算ルールを作成するときは、次の点に留意してください:

- ルール・ターゲットのメンバー選択は、これらの交差の走査を実際に意味します
- ターゲット範囲は、ルールがアクセスし、式を実行し、結果を結果メンバーに書き込むレベル 0 の交差を定義します。
- ルール式は基本的な数学関数をサポートしています
- CASE 文は機能し、他の MDX 関数はサポートされていません

ベスト・プラクティス

カスタム計算ルールは、疎の範囲に対してはセンシティブです。パフォーマンスの課題を回避するには:

- 実用的な限り、ターゲット範囲を最小化します。
- 式の前式のオペランド・タプルの 1 つで NONEMPTYTUPLE を使用します。[空のタプルをスキップしてカスタム計算を最適化](#)を参照してください。

例:

```
[PCM_Adjustment_In] := NONEMPTYTUPLE ([PCM_Input],[PCM_Rule]) ([PCM_Input],  
[PCM_Rule]) * .10;
```


カスタム計算ルールの例

この例では、計算のターゲット範囲にエンティティ・ディメンションと勘定科目ディメンションが指定されて、その範囲のすべてのセルを対象として式が実行されます。

Definition Target Validation

Result Dimension PCM_Balance

Formula [PCM_Adjustment In]= ([PCM_Input],[PCM_Rule]) * .10;

Expand Validate

Target Dimensions (2)

- Account
 - Utilities
 - Add Target
- Entity
 - Corporate
 - Add Target

Note:

この例のカスタム計算ルールは、Enterprise Profitability and Cost Management に付属の BksML50 サンプル・アプリケーションで使用されます。サンプル・アプリケーションへのアクセス方法の詳細は、[サンプル・アプリケーションの作成](#)を参照してください。

カスタム計算ルール定義の作成

カスタム計算ルール定義を作成するには:

1. ホーム・ページで、「モデリング」、「デザイナ」の順に選択します。
2. 「ウォーターフォール設定」タブで、「モデル」ドロップダウンをクリックし、モデルを選択します。
3. カスタム・ルールを追加するルール・セットを選択します。
4. **+**をクリックし、「カスタム計算ルール」を選択します。
5. **カスタム計算ルールの作成**ページの「定義」タブで、次の情報を入力します:

- **ルール名:** ルールの名前を入力します。

たとえば、Enterprise Profitability and Cost Management で提供される BksML50 サンプル・アプリケーションの Occupancy Expense Allocations ルール・セットには、Utilities Expense Adjustment というカスタム・ルールが含まれています。

ルール名には、Oracle Essbase のメンバー名と同じ制限があります。[ディメンション、メンバーおよび別名の名前付けの制限](#)を参照してください。

- **説明:** ルールの説明を入力します。

たとえば、「水道光熱費を 10%増やします」などと入力します

ここに入力した説明は、モデル・ドキュメンテーション・レポートに表示されます。カスタム・ルールに関する情報が、後でモデル・ロジックをレビューする人に有益となる説明を入力します。[モデル・ドキュメンテーション・レポートの生成](#)を参照してください。

- **シーケンス:** ルール・セット内のルールが実行される順序を決定する番号を入力します。

「シーケンス」には、1 から 9999 までの任意の整数を指定できます。

同じシーケンス番号を持つルールは、親ルール・セットに対して並列計算が有効になっている場合に、アプリケーション設定の「**計算スレッド**」に指定されている数値に応じて同時に実行されます。(ルール・セットの作成のステップ 5: ルール・セットの計算オプションの選択、および[アプリケーションおよびシステムの設定の管理](#)についての計算スレッドを参照してください。)

- **使用可能:** 選択した場合、計算の実行時にルールがアクティブになります。
- **ルール・セット・コンテキストの使用:** 選択した場合、ルール・セットの作成時に行われたメンバー選択がこのルールに適用されます。「モデル・コンテキスト」がルール・セットに対して有効になっている場合は、それも適用されます。[モデル・コンテキストおよびルール・セット・コンテキストの理解](#)を参照してください。

カスタム計算ルール・ターゲットの定義

計算のターゲット範囲およびターゲット範囲内のすべてのセルに対して実行する式を定義します。

「**ターゲット**」タブに最初にアクセスすると、必須のエンティティ・ディメンションと勘定科目ディメンション、オプションの通貨ディメンション(複数通貨アプリケーションを使用している場合)、およびアプリケーションのカスタム・ディメンションが、「**ターゲット・ディメンション**」の下に表示されます。(ルール・セット・コンテキストまたはモデル・コンテキストを定義して有効にした場合、ルール・セット・コンテキストまたはモデル・コンテキストで定義されたディメンションは表示されません。[モデル・コンテキストおよびルール・セット・コンテキストの理解](#)を参照してください。)

カスタム計算ルール・ターゲットを定義するには:

1. 「**ターゲット**」タブのドロップダウンをクリックし、「**結果ディメンション**」を選択します。
2. カスタム計算ルールの MDX 式を入力します。

式が大きい場合は、「**展開**」をクリックして、式のテキスト・ボックスをより大きいポップアップ・ウィンドウに展開します。式を入力したら、「**検証**」をクリックして式が有効であることを確認します。


式を作成する方法の詳細は、[カスタム計算ルールの式の構文](#)および[空のダブルをスキップしてカスタム計算を最適化](#)を参照してください。


3. ターゲット・ディメンションごとに 1 つ以上のメンバーを選択します。

すべてのディメンションに対してメンバーを選択する必要があります。ルールでデータにディメンションを適用しない場合は、<dimname>なしメンバーを選択します。[ルールの作成時のディメンションおよびメンバーの要件](#)を参照してください。

 **Note:**


結果ディメンションのメンバーは式の左側(結果側)に表示される必要があるため、「**結果ディメンション**」に選択したディメンションはターゲット・ディメンションとして含まれません。


メンバーを選択するには、ターゲット・ディメンションを展開し、「**ターゲットの追加**」をクリックしてから、 をクリックして「**メンバーの選択**」ダイアログ・ボックスを起動します。[メンバー・セレクタの使用](#)を参照してください。

ターゲット・ディメンションに追加するメンバーが多数あり、メンバー名がわかっている場合は、「**メンバーの選択**」ダイアログ・ボックスから各メンバーを1つずつ追加するかわりに、「**ターゲット・ディメンション**」見出しの右側にある  をクリックして「**ディメンション・メンバー・エディタ**」にメンバーを入力できます。

たとえば、Excel スプレッドシートにメンバーのリストがある場合、Excel からこれらのメンバーをコピーして、「**ディメンション・メンバー・エディタ**」に貼り付けることができます。メンバーは、ディメンションの作成時に割り当てられたターゲットのディメンションに追加されます。[ディメンションへのメンバーの追加](#)を参照してください。

 **Note:**

「**ディメンション・メンバー・エディタ**」に入力したメンバーは、ターゲットの該当するディメンションに割り当てることができます。特定のディメンションに複数のメンバーを追加するには、ディメンションの横にある  をクリックします。

ディメンションの横にある  をクリックして、次のいずれかのオプションを選択することもできます:

- **複数のターゲット・メンバーを追加:** 各メンバーを個別に選択せずに、一度に複数のメンバーをディメンションに割り当てることができるダイアログ・ボックスにアクセスします。
- **<Dimname>の選択のクリア:** ターゲット・ディメンションに選択したすべてのメンバーをクリアします。

個々のメンバーを削除するには、メンバーをクリックし、**<MemberName>の削除**を選択します。<MemberName>は、削除するメンバーの名前です。

 **Note:**

ルールで使用されるターゲット・メンバーをフィルタする方法の詳細は、[ターゲット・メンバーのフィルタの管理](#)を参照してください。

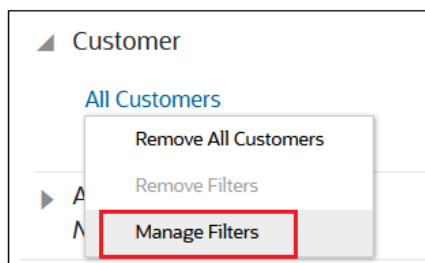
ターゲット・メンバーのフィルタの管理


カスタム計算ルールでターゲット・ディメンションについて上位レベル・メンバーを選択すると、そのメンバーのすべてのレベル 0 子孫がルールに含まれます。レベル 0 子孫の一部をルールに含めない場合は、含めるメンバーを制限するフィルタを適用できます。

たとえば、メンバー選択が「すべての顧客」であり、「すべての顧客」に 1,000 個のレベル 0 子孫があるとします。さらに、Delivery Zone B の顧客のみをルールに含めるとします。この場合、ルールに含めるレベル 0 子孫を Delivery Zone B の顧客のみに制限するフィルタを適用できます。

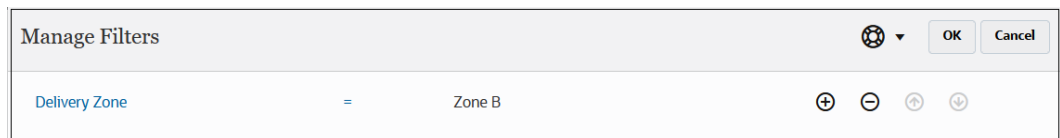
フィルタをメンバーに追加するには:

1. 「ターゲット」タブで、目的のメンバーをクリックし、「フィルタの管理」を選択します。

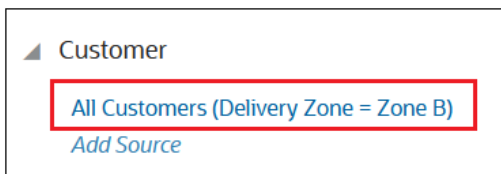


2. 「フィルタの管理」ダイアログ・ボックスで、 をクリックします。
3. メンバー名とフィルタ値を入力します。

この例では、顧客を Delivery Zone B でフィルタしました。



複数のフィルタを追加できます。フィルタを追加すると、メンバーの横に表示されます。



Note:

フィルタを除去するには、メンバーをクリックし、「フィルタの除去」を選択します。複数のフィルタがある場合は、削除するフィルタをクリックします。

カスタム計算ルールの式の構文

このトピックでは、カスタム計算ルールを作成するときに使用する構文について説明します。

構文は次のようにまとめられています。

- 式の基本的なフォーマットは結果イコール式で、結果 := 式のように、結果と式が:= で分けられます。
- 等式の左側が結果で、カスタムの計算結果をどこに記述するかを決定するタプルです。

 **Note:**

タプルは、丸カッコの中でメンバーをカンマで区切ったリストです。

タプルは、1つ以上のメンバーに関する MDX 仕様で、2つのメンバーが同じディメンションに属することはできません。タプル式の中に記述できるのはメンバー名のみです。カスタム計算では、メンバー関数を使用できません。結果には、動的メンバーと属性メンバーは使用できません。結果には、結果ディメンションのメンバーが1つ含まれる必要があります。([STA1120],[Feb])のように、レベル0またはレベル0タプルの一部であることが必要です。結果ディメンションは、**カスタム・ルール**・ページの「**ターゲット**」タブで定義します。

 **Note:**

MDX は、XML for Analysis 創設メンバーの共同仕様です。使用できる MDX 構文の詳細は、*Oracle Essbase テクニカル・リファレンス*の第7章「MDX」を参照してください。

- 等式の右側が式で、MDX のシンプルな数値式です。これには、他のメンバー、タプルまたは定数(任意のレベル)と、実行する数式が含まれます。結果ディメンションのメンバーが1つ以上含まれ、レベル0、上位レベルまたはタプルであることが必要です。

 **Note:**

等式のどちら側のメンバーも、大カッコ[]で囲む必要があります。

タプルは丸カッコ()で囲みます。

この等式は、セミコロン;で終了する必要があります。

式では、次のものを使用できます。

- **定数:** [STAT1120]:=1;

 **Note:**

7 などの数値定数を定数にすることができます。結果ディメンションの別のメンバーの値を参照する式にすることも、メンバー・タプルとして表現された値を参照することも可能です。

- **算術演算:** `[STAT1114]:=([STAT1305],[Rule])*([STAT1307],[Rule]);`

 **Note:**

算術演算には、必ずルール・ディメンション・メンバーを含める必要があります。

- カスタム計算ルールでは、メンバー名について次の構文フォーマットがサポートされません。
 - **修飾なし:** メンバー名のみを指定します。
例: `[MemberName]`
 - **完全修飾:** メンバーの完全修飾名(FQN)。
例: `[Dimension].[Gen2].[Gen3].[Gen4]...[MemberName]`
- カスタム計算ルールでは、代替変数について次の構文がサポートされます:
 - 代替変数名は、式の中では大カッコ(())内に記述し、&(アンパサンド)で始まる必要があります。
式の例: `([Rule1],[PCM_Adjustment In]) := ([PCM_Input],[PCM_Rule],[&Prior_Year]) *.10;`
 - 大カッコを使用して代替変数を囲まないと、間違った変数値が返ります。
正しい変数値: 2022
間違った変数値: `[2022]`

 **Note:**

カスタム計算ルールを定義する場合のパフォーマンス最適化の詳細は、[空のタプルをスキップしてカスタム計算を最適化](#)を参照してください。

空のタプルをスキップしてカスタム計算を最適化

データ・セットは、きわめて疎になることがあり、空の結果セットが計算されると、パフォーマンスが著しく低下する可能性があります。空の結果セットが計算されるのを避けるために、カスタム計算式で `NONEMPTYTUPLE` プロパティ句を使用できます。

`NONEMPTYTUPLE` を使用すると、システムで計算する対象が制限されます。これを設定するには、空でない場合にのみ計算されるタプルを定義します。次に、このタプルに適用される単純な数値演算を定義します。

構文

`NONEMPTYTUPLE` を使用する構文は次のとおりです。

```
tuple := [NONEMPTYTUPLE (nonempty_member_list)] numeric_value_expression;
```

ここで:

- `tuple`: 1 つ以上のメンバーに関する MDX 仕様で、2 つのメンバーが同じディメンションに属することはできません
- `NONEMPTYTUPLE`: 計算のパフォーマンスを最適化する際に使用できるオプションのプロパティ。これを使用する場合は、`nonempty_member_list` を使用してこのリテラル・プロパティに従う必要があります。
- `nonempty_member_list`: カンマで区切った、異なるディメンションの 1 つ以上のメンバー名。`numeric_value_expression` には、タプルが存在する必要があります。
- `numeric_value_expression`: 数値や算術演算など、MDX のシンプルな数値式
式は、等式の右辺である必要があります。算術演算子のみを使用してください。`AND`、`OR`、`IF` など算術演算子以外を使用すると、エラーが返されます。

例:

```
[UnitCost] := NONEMPTYTUPLE ([TotalExpense], [NetBalance])  
([TotalExpense], [NetBalance]) / ([Units], [CostPool]);
```

この例は、次のようになります。

1. タプル([TotalExpense], [NetBalance])を確認します。
2. このタプルまたは交差が空でない(つまり、実際の値が含まれている)場合、次の演算を実行します。
タプル([TotalExpense], [NetBalance])を取得し、それをタプル([Units], [CostPool])で除算し、UnitCost を算出します。
3. タプルが空の場合はスキップし、次のインスタンスを評価します。

使用のルール

タプルは、次のように異なるディメンションのセットからのメンバーの組合せです。

```
([product2], [account5], customer3)  
  
([myactivity], [yourdepartment])
```

`Profitability and Cost Management` のカスタム計算ルールの式に `NONEMPTYTUPLE` を追加する要件は次のとおりで、**A**、**B**、**C** はタプルを表します。

- `NONEMPTYTUPLE` を使用できるのは、タプルに値があるときのみです。それ以外の場合、予期しない結果が生じる可能性があります。次の場合を考えてみましょう:
 - `A=B+C` -- `B` または `C` では、`NONEMPTYTUPLE` を使用できません。`B` または `C` がいない場合、結果は「なし」になり、これは正しくありません。

 **Note:**

NONEMPTYTUPLE を使用して $A=B+C$ を計算するには、次の 2 つのルールを使用します。

- * ルール 1: $A=A+B$ 、 B で NONEMPTYTUPLE を使用
- * ルール 2: $A=A+C$ (または $A=A-C$)、 C で NONEMPTYTUPLE を使用

この場合、 B の値があるときは常にその値が A に加算され、 C の値があるときは常にその値が A に加算されます。

- $A=B-C$ -- B または C では、NONEMPTYTUPLE を使用できません。 B または C がない場合、結果は「なし」になり、これは正しくありません(前に説明した 2 つのルールを使用しない場合)。
- タブルの有無にかかわらず結果が同じ場合は、NONEMPTYTUPLE を使用できます。次の場合を考えてみましょう:
 - $A=B$ -- B で NONEMPTYTUPLE を使用できます。
 - $A=B*C$ -- B または C で NONEMPTYTUPLE を使用できます。
 - $A=B/C$ -- B または C で NONEMPTYTUPLE を使用できます。

まとめると、乗算と除算では NONEMPTYTUPLE を使用しても問題ないということです。加算または減算の場合、予期しない結果を避けるためには、個々のケースごとにその使用を評価する必要があります。

 **Note:**

カスタム計算ルールの記述の詳細は、[カスタム計算ルールの式の構文](#)を参照してください。

カスタム計算ルールの検証

「**検証**」タブにアクセスすると、カスタム計算ルールのエラーまたは警告が表示されます。検証では次の条件について各ルールがチェックされます:

- ルールが完全に定義されています
これは、各ルールのターゲットの定義に、すべてのディメンションのメンバーが含まれる必要があることを意味します。
- ルール定義で参照されるディメンション・メンバーがデータベースに存在します
既存のルールで参照されるディメンションからメンバーを削除すると、ルールを実行できません。

検証エラーまたは警告がいくつかある場合は、「**Excel にエクスポート**」をクリックします。「**ターゲット**」タブに戻ってエラーおよび警告を修正するときにチェックリストとして Excel スプレッドシートを使用できます。

「**検証**」タブにエラーが表示されなくなるまで、ルールのエラーの修正を続けます。

Note:

カスタム計算ルールの検証時に発生する可能性のあるエラーおよび警告の詳細は、[検証エラーおよび警告](#)を参照してください。

カスタム計算ルール・データを分析するためのアド・ホックの使用

特定のルールのデータ要素を対象とする事前構成済のデータ・スライス进行分析するアド・ホック・グリッドを作成できます。

特定のカスタム計算ルールに対してアド・ホック分析を実行するには:

1. ホーム・ページで、「モデリング」、「デザイナ」の順に選択します。
2. 「ウォーターフォール設定」タブから、カスタム計算ルールを選択します。
3. 「アクション」メニューから、「ルール・データの表示」を選択し、「ターゲット」を選択します。

ノート: カスタム計算ルールのデータ要素として選択できるのは、「ターゲット」のみです。ドロップダウン・メニューのその他のオプションは、配賦ルールに関するものです。

4. アド・ホック・グリッドが新しいタブで開きます。グリッドで作業する方法の詳細は、データ入力および分析のためのアド・ホックの使用を参照してください。

Enterprise Profitability and Cost Management に付属の BKSML50 サンプル・アプリケーションの Utilities Expense Adjustment カスタム計算ルールのターゲット・データを表示するアド・ホック・グリッドを次に示します。(サンプル・アプリケーションへのアクセス方法の詳細は、[サンプル・アプリケーションの作成](#)を参照してください。)

サンプルの Utilities Expense Adjustment カスタム計算ルールのターゲット・データが表示されているアド・ホック・グリッド

Year	Period	Scenario	Version	Driver	Future1	Future2	View	Activity	Customer	Product	Currency	Account	Entity
FY22	Feb	Actual	Working	NoDriver	NoFuture1	NoFuture2	Periodic	No Activity	No Customer	No Product	USD_Reporting	Utilities	Corporate
				Adjustment In	200000								

Note:

アド・ホック分析を実行する前に、ルールが計算され、POV が定義されている必要があります。ルール・バランシング・ページで選択されている現在の POV が、カスタム計算ルール・データを表示するために使用される POV です。[モデルの計算およびルール・バランシング・レポートの表示](#)を参照してください。

ルール・セットの作成

Related Topics

- [ルール・セットについて](#)
- [ルール・セット設計のベスト・プラクティス](#)
- [ルール・セットの作成](#)

ルール・セットについて

ルール・セットを使用すると、関連するルールをグループ化して、計算ロジックの定義の編成、同様のルールの一括計算および共通ディメンション・メンバーを共有するルールの定義の簡略化をより適切に行うことができます。

ルール・セットにはルール・セットのシーケンス番号によって決定される設定済の順序があります。また、そのルール・セット内のルールの実行に固有のオプションを含む場合もあります。

ルールを作成する前に、ルール・セットを作成する必要があります。

次に、Enterprise Profitability and Cost Management に付属の BksML50 サンプル・アプリケーションのルール・セットの例をいくつか示します：

- Occupancy Expense Allocations
- Manufacturing COGs Related Expense Assignment
- Activity Costing
- Customer Product Region Profitability Calculation

ルール・セット設計のベスト・プラクティス

ルール・セット・レベルの計算オプションは、シリアル、並列および反復です。

並列ルール・セットのベスト・プラクティス：

- 互いのソースおよび宛先ターゲットに依存しないルールを設計すると、並列計算を使用できます。
- 並列計算は収獲逓減があるため、5 個を超える同時スレッドは、通常、パフォーマンスを改善しません。

反復ルール・セットのベスト・プラクティス：

- 反復ルール・セットは、相互配賦システムの解決に対してのみ便利です。
- 各ルールに、相互システムを終了する宛先範囲の一部があることを確認してください。
- 反復数を試行します。
- 相互システムの各ルールに非相互スweep・ルールを作成し、余りをスweepします。

ルール・セットの作成

ルール・セットを作成するには：

1. ホーム・ページで、「モデリング」、「デザイナ」の順に選択します。
2. 「ウォーターフォール設定」タブで、「モデル」ドロップダウンをクリックし、モデルを選択します。
3. **+**をクリックし、「ルール・セット」を選択します。
4. 「定義」タブで、ルール・セットに関する情報を入力します:
 - **ルール・セット:** ルール・セットの名前を入力します。


たとえば、Enterprise Profitability and Cost Management で提供される BksML50 サンプル・アプリケーションには、Occupancy Expense Allocations というルール・セットがあります。
 - **説明:** ルール・セットの説明を入力します。

ここに入力した説明は、モデル・ドキュメンテーション・レポートに表示されます。後でモデル・ロジックをレビューする人に有益となる、ルール・セットに関する情報の説明を入力します。[モデル・ドキュメンテーション・レポートの生成](#)を参照してください。

たとえば、Occupancy Expense Allocations ルール・セットの説明は次のようになります: 賃借料は、費用が支払われるコスト・センターから施設を使用するコスト・センターに再割当されます。ルール・セット・コンテキストは、アクティビティ、製品、顧客および地域ディメンションに対して定義され、これらのディメンションはこれらのルールでは使用されないため、<dimname>なしメンバーを選択します。
 - **シーケンス:** ルール・セットが実行される順序を決定する番号を入力します。シーケンスにより、ルール・セットが「ウォーターフォール設定」タブに表示される順序も決定されます。シーケンスには、1 から 9999 までの任意の整数を指定できます。
 - **使用可能:** 選択した場合、計算の実行時にルール・セットがアクティブになります。
 - **モデル・コンテキストの使用:** 選択した場合、モデルの作成中に行われたメンバー選択が、ルール・セット内のすべてのルールに適用されます。モデル・コンテキストを使用すると、ルールごとに同じメンバーを選択する必要がなくなるため、時間を節約して一貫性を確保できます。[モデル・コンテキストおよびルール・セット・コンテキストの理解](#)を参照してください。
5. 「ルール・セットの計算オプション」を選択します:
 - **シリアル計算:** シーケンス番号に応じて、ルール・セット内のすべてのルールを順番に実行します。
 - **並列計算:** 同じシーケンス番号を持つルールを同時に実行します。並列で実行できるルールの数は、「アプリケーション設定」の「計算スレッド」設定で定義されます。[アプリケーションおよびシステムの設定の管理について](#)を参照してください。
 - **反復計算:** ルール・セットを順番に複数回実行します。このオプションを選択する場合は、実行する反復回数を入力します。「反復計算」を使用して、モデル内の相互配賦関係の影響を解決します。
6. **オプション:** 「メンバー選択」タブで、「ルール・セット・コンテキスト」を作成して、ルール・セット内のすべてのルールに適用されるディメンションのメンバーを定義します。デフォルトのメンバー選択を定義すると、ディメンションがルールで使用されるたびにそのディメンションのメンバーを選択する必要がなくなります。

配賦ルールのソースと宛先またはカスタム・ルールのターゲットを定義する際に使用されるディメンションのデフォルトのメンバーを選択できます。[モデル・コンテキストおよびルール・セット・コンテキストの理解](#)を参照してください。

ルール・セットのディメンションのデフォルトのメンバー選択を定義するには:

- a. 「**ディメンションの追加**」ドロップダウンをクリックし、ディメンションを選択します。
- b. 「**メンバーの選択**」をクリックし、 をクリックします。
- c. 「**メンバーの選択**」ダイアログ・ボックスで、ディメンションに割り当てるメンバーを選択し、「OK」をクリックします。



ルール・セット・コンテキストのデフォルトのメンバーを選択する場合、レベル 0 のメンバーのみを選択できます。「**メンバーの選択**」ダイアログ・ボックスの使用方法の詳細は、[メンバー・セレクタの使用](#)を参照してください。

7. 「**保存して閉じる**」をクリックします。

複数のルールの作成

「**ルール**」ページを使用して、複数のルールを一度に作成します。これは、ルール・セットに多数のルールを作成する必要がある場合に便利です。ルールの初期アウトラインを作成し、後で戻って各ルールの詳細を入力できます。これは時間を節約でき、モデルをさらに効率的に管理するのに役立ちます。

複数のルールを作成するには:

1. ホーム・ページで、「**モデリング**」、「**デザイナ**」の順に選択します。
2. 「**ウォーターフォール設定**」タブで、「**モデル**」ドロップダウンをクリックし、モデルを選択します。
3. ルールを追加するルール・セットを選択します。
4.  をクリックし、**複数のルール**を選択します。
5. 「**ルール**」ページで、 をクリックして新規ルールを追加し、次の情報を入力します:

- **名前:** ルールの名前を入力します。

たとえば、Enterprise Profitability and Cost Management で提供される BksML50 サンプル・アプリケーションの Occupancy Expense Allocations ルール・セットには、Rent and Utilities Reassignment という配賦ルールが含まれています。

ルール名には、Oracle Essbase のメンバー名と同じ制限があります。[ディメンション、メンバーおよび別名の名前付けの制限](#)を参照してください。

- **ルール・タイプ:** 「**配賦**」または「**カスタム計算**」を選択します。

「**配賦**」ルールは、配賦されたデータのソースおよび宛先、データの配賦に使用されるドライバおよび勘定科目を貸借一致させるためにオフセットが配置される位置を定義します。[配賦ルールの作成について](#)を参照してください。

「**カスタム計算**」ルールには、Essbase MDX フォーマットの式が含まれ、主にデータの調整または後続の配賦ルールで使用されるドライバ値の作成に使用されます。[カスタム計算ルールの作成について](#)を参照してください。

- **シーケンス:** ルール・セット内のルールが実行される順序を決定する番号を入力します。シーケンスにより、ルールが「ウォーターフォール設定」タブのルール・セットに表示される順序も決定されます。

「シーケンス」には、1 から 9999 までの任意の整数を指定できます。

同じシーケンス番号を持つルールは、親ルール・セットに対して並列計算が有効になっており、アプリケーション設定の「計算スレッド」に数値が指定されている場合に同時に実行されます。(ルール・セットの作成のステップ 5: ルール・セットの計算オプションの選択、およびアプリケーションおよびシステムの設定の管理についての計算スレッドを参照してください。)

- **使用可能:** 選択した場合、計算の実行時にルールがアクティブになります。
- **ルール・セット・コンテキストの使用:** 選択した場合、ルール・セットの作成時に行われたメンバー選択がこのルールに適用されます。「モデル・コンテキスト」がルール・セットに対して有効になっている場合は、それも適用されます。モデル・コンテキストおよびルール・セット・コンテキストの理解を参照してください。
- **説明:** ルールの説明を入力します。


配賦ルールに関する情報が、後でモデル・ロジックをレビューする人に有益となる説明を入力します。

たとえば、次のように入力します: 賃貸および水道光熱費は企業のコスト・センターからビジネス機能のコスト・センターに再割当されます。これらの費用の配賦には、各コスト・センターで使用される各建物の平方フィートに基づくドライバが使用されます。

ここに入力した説明は、モデル・ドキュメンテーション・レポートに表示されます。モデル・ドキュメンテーション・レポートの生成を参照してください。

6. 必要な数のルールを追加し、「保存」をクリックします。
7. 「ルールのエクスプレス編集ステータス」ダイアログ・ボックスで「OK」をクリックし、ルール・デザイナーに戻ります。

ルールを追加すると、それらはルール・デザイナーのルール・セットに表示されます。

その後、個別のルールを選択し、 (「編集」)をクリックしてルールに関する詳細情報を追加できます。

Note:


「ルール」ページを再度開いて、さらにルールを追加するかルール情報を変更する場合、以前に作成したルールの「ルール・タイプ」または「ルール・セット・コンテキスト」の選択は編集できません。

複数のルール・セットの作成

「ルール・セット」ページを使用して、複数のルール・セットを一度に作成します。これは、モデルに多数のルール・セットを作成する必要がある場合に便利です。ルール・セットの初期アウトラインを作成し、後で戻って各ルール・セットに固有の詳細を定義できます。これは時間を節約でき、モデルをさらに効率的に管理するのに役立ちます。

複数のルール・セットを作成するには:

1. ホーム・ページで、「モデリング」、「デザイナ」の順に選択します。
2. 「ウォーターフォール設定」タブで、「モデル」ドロップダウンをクリックし、モデルを選択します。
3. **+**をクリックし、**複数のルール・セット**を選択します。
4. 「ルール・セット」ページで、**+**をクリックして新規ルール・セットを追加し、次の情報を入力します:
 - **名前:** ルール・セットの名前を入力します。
たとえば、Enterprise Profitability and Cost Management で提供される BksML50 サンプル・アプリケーションには、Occupancy Expense Allocations というルール・セットがあります。
 - **シーケンス:** ルール・セットが実行される順序を決定する番号を入力します。シーケンスにより、ルール・セットが「ウォーターフォール設定」タブに表示される順序も決定されます。シーケンスには、1 から 9999 までの任意の整数を指定できます。
 - **使用可能:** 選択した場合、計算の実行時にルール・セットがアクティブになります。
 - **モデル・コンテキストの使用:** 選択した場合、モデルの作成中に行われたメンバー選択が、ルール・セット内のすべてのルールに適用されます。モデル・コンテキストを使用すると、ルールごとに同じメンバーを選択する必要がなくなるため、時間を節約して一貫性を確保できます。[モデル・コンテキストおよびルール・セット・コンテキストの理解](#)を参照してください。
 - **説明:** ルール・セットの説明を入力します。
後でモデル・ロジックをレビューする人に有益となる、ルール・セットに関する情報の説明を入力します。
たとえば、Occupancy Expense Allocations ルール・セットの説明は次のようになります: 賃借料は、費用が支払われるコスト・センターから施設を使用するコスト・センターに再割当されます。ルール・セット・コンテキストは、アクティビティ、製品、顧客および地域ディメンションに対して定義され、これらのディメンションはこれらのルールでは使用されないため、<dimname>なしメンバーを選択します。
ここに入力した説明は、モデル・ドキュメンテーション・レポートに表示されます。[モデル・ドキュメンテーション・レポートの生成](#)を参照してください。
5. 必要な数のルール・セットを追加し、「保存」をクリックします。
6. 「ルール・セットのエクスプレス編集ステータス」ダイアログ・ボックスで「OK」をクリックし、ルール・デザイナに戻ります。

新規ルール・セットを追加すると、「ウォーターフォール設定」ページに既存のルール・セットとともに表示されます。その後、ルール・セットを選択し、 (「編集」)をクリックしてルール・セットに関する詳細情報を追加できます。

 **Note:**

「ルール・セット」ページを再度開いて、さらにルール・セットを追加するかルール・セット情報を変更する場合、以前に作成したルール・セットの「モデル・コンテキストの使用」の選択は編集できません。

ルール・デザイナの使用

Related Topics

- [ルール・デザイナについて](#)
- [「ウォーターフォール設定」タブの使用](#)
- [「一括編集」タブの使用](#)

ルール・デザイナについて

ルール・デザイナを使用して、ルールおよびルール・セットを作成および管理します。

ルール・デザイナにアクセスするには:

1. ホーム・ページで、「モデリング」、「デザイナ」の順に選択します。
2. ルール・デザイナ内で、次のことを実行できます:
 - 「ウォーターフォール設定」タブを使用して、ルール・セットおよびルールを作成、編集、削除およびコピーします。「ウォーターフォール設定」タブには、モデルのルール・セットおよびルールの完全なシーケンスが表示されます。「[ウォーターフォール設定](#)」タブの使用を参照してください。
 - 「一括編集」タブを使用して、メンバーを追加または置換したり、ルール・セットおよびモデルにルールをコピーしたり、ルールを有効化および無効化します。「[一括編集](#)」タブの使用を参照してください。

「ウォーターフォール設定」タブの使用


ルール・デザイナの「ウォーターフォール設定」タブには、選択されたモデルのルール・セットおよびルールの完全なシーケンスが表示されます。シーケンスによって、ルール・セットとルールの実行順序が管理されます。ルール・セットまたはルールを選択すると、それに関する情報がページの右側に表示されます。

The screenshot displays the Oracle Rules Designer interface. On the left, a tree view shows a list of rules under the '10 Actuals Allocation Process' model. The 'Rent and Utilities Reassignment' rule is selected and highlighted. On the right, the configuration details for this rule are shown. The rule is enabled, has a rule sequence of 2, and is associated with the 'Allocation' rule type. The creation date is May 5, 2023, and the last updated date is June 15, 2023.

Property	Value
Rule Sequence	2
Enabled	Yes
Use Rule Set Context	Yes
Rule Type	Allocation
Created By	epm_default_cloud_admin
Creation Date	May 5, 2023 6:21 PM
Updated By	epm_default_cloud_admin
Last Updated Date	June 15, 2023 4:31 PM


「ウォーターフォール設定」タブで完了できるタスクは次のとおりです:

- 配賦ルールの作成
- カスタム計算ルールの作成
- ルール・セットの作成
- 複数のルールの作成
- 複数のルール・セットの作成
- ルールまたはルール・セットの編集
- ルール定義の表示
- ルールまたはルール・セットの削除
- ルールまたはルール・セットのコピー
- 配賦ルールのルール・データ検証レポートの実行

「ウォーターフォール設定」タブで表示されるルール・セットおよびルールをリフレッシュするには、をクリックします。

ルールまたはルール・セットの編集

ルールまたはルール・セットを編集するには:

1. ホーム・ページで、「モデリング」、「デザイナ」の順に選択します。
2. 「ウォーターフォール設定」タブで、ルールまたはルール・セットを選択します。
3.  (「編集」アイコン)をクリックします。
4. 目的のルールまたはルール・セットの詳細を変更し、「保存して閉じる」をクリックします。


Tip:

ルール名を変更する場合は、[ルールの名前変更](#)でルールの名前変更に関する考慮事項を確認してください。

ルールまたはルール・セットのコピー

ルールまたはルール・セットをコピーすると、ソースのルールまたはルール・セットのすべての情報が、新しいルールまたはルール・セットにコピーされます。ルール・セットの場合、ソースのルール・セットのすべてのルールを新しいルール・セットにコピーするかどうかを選択できます。


ルールをコピーするには:

1. ホーム・ページで、「モデリング」、「デザイナ」の順に選択します。
2. 「ウォーターフォール設定」タブで、ルールを選択します。
3.  (「コピー」アイコン)をクリックします。
4. 「ルールのコピー」ダイアログ・ボックスで、新しいルールの名前を入力します。


 **Note:**

コピーされたルールの名前は一意である必要があります。1つのモデルに、同じ名前の2つのルールを含めることはできません。

5. 「OK」 をクリックします。

コピーされたルールが、その関連するルール・セットに表示されます。新しいルールは、最初は、ソースのルールと同じシーケンス番号で作成されます。シーケンス(ルールが実行される順序)を変更するには、コピーされたルールを選択して (「編集」アイコン) をクリックします。

ルール・セットをコピーするには:

1. ホーム・ページで、「モデリング」、「デザイナー」の順に選択します。
2. 「ウォーターフォール設定」タブで、ルール・セットを選択します。
3.  (「コピー」アイコン) をクリックします。
4. 「ルール・セットのコピー」ダイアログ・ボックスで、次の情報を指定します:
 - **新規ルール・セット名:** 新しいルール・セットの名前を入力します。

 **Note:**


コピーされたルール・セットの名前は一意である必要があります。1つのモデルに、同じ名前の2つのルール・セットを含めることはできません。

- **ルールのコピー:** 選択すると、ソースのルール・セットのすべてのルールが新しいルール・セットにコピーされます。
- **ルール名の接頭辞:** ルールをコピーすることを選択した場合は、コピー操作の一部として作成される新しいルール名に対して使用する接頭辞を入力します。

 **Note:**

1つのモデルに、同じ名前の複数のルールを含めることはできないため、接頭辞によって、コピーされた各ルールが一意の名前を持つようになります。

5. 「OK」 をクリックします。


コピーされたルール・セットが、既存のルール・セットに表示されます。新しいルール・セットは、最初は、ソースのルール・セットと同じシーケンス番号で作成されます。シーケンス(ルール・セットが実行される順序)を変更するには、新しいルール・セットを選択して (「編集」アイコン) をクリックします。

ルールまたはルール・セットの削除

Note:

- ルール・デザイナーの「ウォーターフォール設定」タブからルールを削除しても、そのルールに割り当てられているルール・メンバーは削除されません。ルール・メンバーは、「アプリケーション」の「ディメンション」タブからアクセスする**メンバー・プロパティの編集**ページで削除します。[メンバーの削除](#)を参照してください。
- ルールを削除しても、Oracle Essbase の関連するルール・メンバーは削除されません。

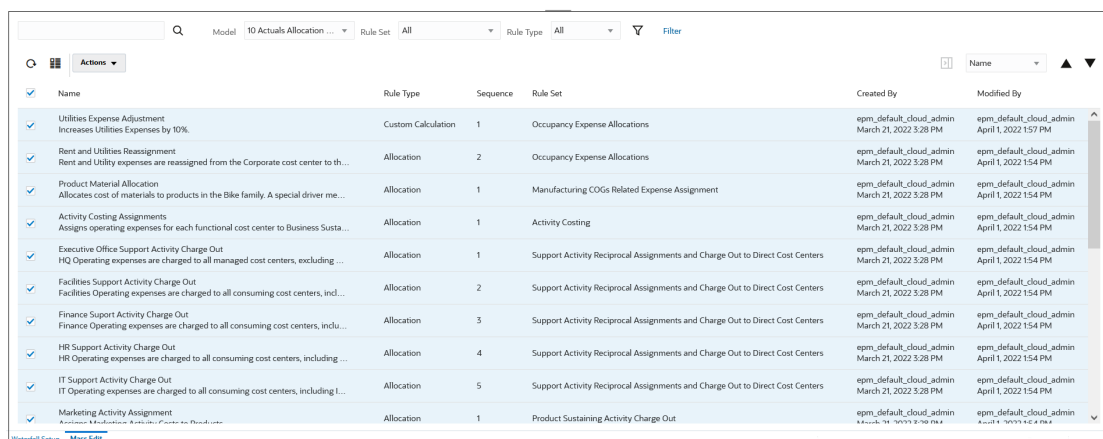
ルールまたはルール・セットを削除するには:

- ホーム・ページで、「モデリング」、「デザイナー」の順に選択します。
- 「ウォーターフォール設定」タブで、削除するルールまたはルール・セットを選択します。
-  (「削除」アイコン)をクリックします。
- 「OK」をクリックして、ルールまたはルール・セットを削除することを確認します。

「一括編集」タブの使用

「一括編集」タブを使用して、複数のルールを一度に編集します。これは、多数のルールがあり、実行する変更によって多くのルールに影響が及ぼされることがわかっている場合に便利です。

たとえば、多数のルールが含まれるモデルがあり、モデル内のすべてのルール・セットのすべてのルールにメンバーを追加する必要があります。「ウォーターフォール設定」タブで各ルールを個別に編集するのではなく、「一括編集」タブでルールをフィルタして選択し、すべての選択されたルールに一度にメンバーを追加します。



Name	Rule Type	Sequence	Rule Set	Created By	Modified By
Utilities Expense Adjustment Increases Utilities Expenses by 10%	Custom Calculation	1	Occupancy Expense Allocations	epm_default_cloud_admin March 21, 2022 3:28 PM	epm_default_cloud_admin April 1, 2022 1:57 PM
Rent and Utilities Reassignment Rent and Utility expenses are reassigned from the Corporate cost center to th...	Allocation	2	Occupancy Expense Allocations	epm_default_cloud_admin March 21, 2022 3:28 PM	epm_default_cloud_admin April 1, 2022 1:54 PM
Product Material Allocation Allocates cost of materials to products in the Bike family. A special driver me...	Allocation	1	Manufacturing COGs Related Expense Assignment	epm_default_cloud_admin March 21, 2022 3:28 PM	epm_default_cloud_admin April 1, 2022 1:54 PM
Activity Costing Assignments Assigns operating expenses for each functional cost center to Business Susta...	Allocation	1	Activity Costing	epm_default_cloud_admin March 21, 2022 3:28 PM	epm_default_cloud_admin April 1, 2022 1:54 PM
Executive Office Support Activity Charge Out HQ Operating expenses are charged to all managed cost centers, excluding ...	Allocation	1	Support Activity Reciprocal Assignments and Charge Out to Direct Cost Centers	epm_default_cloud_admin March 21, 2022 3:28 PM	epm_default_cloud_admin April 1, 2022 1:54 PM
Facilities Support Activity Charge Out Facilities Operating expenses are charged to all consuming cost centers, inclu...	Allocation	2	Support Activity Reciprocal Assignments and Charge Out to Direct Cost Centers	epm_default_cloud_admin March 21, 2022 3:28 PM	epm_default_cloud_admin April 1, 2022 1:54 PM
Finance Support Activity Charge Out Finance Operating expenses are charged to all consuming cost centers, inclu...	Allocation	3	Support Activity Reciprocal Assignments and Charge Out to Direct Cost Centers	epm_default_cloud_admin March 21, 2022 3:28 PM	epm_default_cloud_admin April 1, 2022 1:54 PM
HR Support Activity Charge Out HR Operating expenses are charged to all consuming cost centers, including ...	Allocation	4	Support Activity Reciprocal Assignments and Charge Out to Direct Cost Centers	epm_default_cloud_admin March 21, 2022 3:28 PM	epm_default_cloud_admin April 1, 2022 1:54 PM
IT Support Activity Charge Out IT Operating expenses are charged to all consuming cost centers, including L...	Allocation	5	Support Activity Reciprocal Assignments and Charge Out to Direct Cost Centers	epm_default_cloud_admin March 21, 2022 3:28 PM	epm_default_cloud_admin April 1, 2022 1:54 PM
Marketing Activity Assignment Allocates Marketing Activities to Products...	Allocation	1	Product Sustaining Activity Charge Out	epm_default_cloud_admin March 21, 2022 3:28 PM	epm_default_cloud_admin April 1, 2022 1:54 PM

実行可能な編集には次のものがあります:

- ルールへのメンバーの追加

- ルール内のメンバーの置換
- ルール・セットへのルールのコピー
- モデルへのルールのコピー
- ルールの有効化および無効化

「一括編集」タブでルールに加える編集は、「ジョブ」コンソールにジョブとして表示されます。ルール・ジョブの表示を参照してください。

Note:

「一括編集」タブで実行された編集は元に戻せません。必要に応じて、移行ツールを使用し、バックアップを取ってください。移行ツールにアクセスするには、ホーム・ページで「ツール」、「移行」の順に選択します。移行の使用を参照してください。

Tip:

「一括編集」タブでは、ルールの完全なルール定義も確認できます。ルール定義の表示を参照してください。


表示されるルールのフィルタ

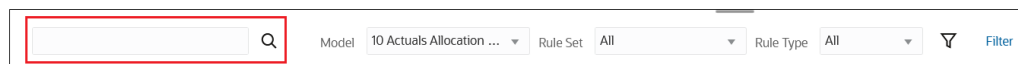
次のフィルタリング・オプションを使用して、「一括編集」タブに表示されるルールをフィルタできます:

- ルールの名前または説明に含まれる検索語句
- モデル
- ルール・セット
- ルール・タイプ
- カスタム・フィルタ

必要な数のフィルタを使用できます。

検索語句を使用したルールの検索

ルールを検索するには、ルールの名前または説明のすべてあるいは一部を「検索」フィールドに入力し、をクリックします。



たとえば、「検索」フィールドに「costs」と入力すると、ルールの名前または説明のどこかに「costs」が含まれるルールがすべて表示されます。

Name	Rule Type	Sequence	Rule Set	Created By	Modified By
Marketing Activity Assignment Assigns Marketing Activity Costs to Products	Allocation	1	Product Sustaining Activity Charge Out	epm_default_cloud_admin March 21, 2022 3:28 PM	epm_default_cloud_admin April 1, 2022 1:54 PM
Customer Support Costs Assignment to Market Intersections Applies fully burdened costs of Customers to Market intersections based on ...	Allocation	1	Customer Product Region Profitability Calculation	epm_default_cloud_admin March 21, 2022 3:28 PM	epm_default_cloud_admin April 1, 2022 1:55 PM
Product Support Costs Assignment to Market Intersections Applies fully burdened costs of Products to Market intersections based on sol...	Allocation	1	Customer Product Region Profitability Calculation	epm_default_cloud_admin March 21, 2022 3:28 PM	epm_default_cloud_admin April 1, 2022 1:55 PM
Product COGS Assignment to Market Intersections Assignment of Product COGS Accounts from all Manufacturing Cost Centers ...	Allocation	2	Customer Product Region Profitability Calculation	epm_default_cloud_admin March 21, 2022 3:28 PM	epm_default_cloud_admin April 1, 2022 1:55 PM

検索フィルタを除去するには、**X** をクリックします。

モデル、ルール・セットまたはルール・タイプによるフィルタ

「モデル」、「ルール・セット」または「ルール・タイプ」でフィルタするには、これらのそれぞれの横にあるドロップダウンをクリックしてフィルタ・オプションを選択します。

カスタム・フィルタの設定

カスタム・フィルタは、特定のルール・コンポーネント内で特定のディメンション・メンバーを参照するすべてのルールを識別するために役立ちます。

カスタム・フィルタを設定するには:


1. 「フィルタ」をクリックします。

2. 「カスタム・フィルタ」ダイアログ・ボックスでフィルタ条件を入力します:

- **ディメンション:** フィルタするディメンションを選択します。
- **ルール・コンポーネント:** 「ソース」、「宛先」、「ターゲット」、「ドライバ基準」、「オフセット」のいずれによってフィルタするかを選択します。配賦ルールのドライバの定義および配賦ルールのオフセットの定義を参照してください。

Note:


年、期間、シナリオまたはバージョン POV ディメンションを選択した場合は、「ドライバ基準」と「オフセット」のみを「ルール・コンポーネント」で選択できます。

- **演算子:** 「次を含む」または「次を含まない」を選択した後、「メンバーの検索」フィールドでメンバーを選択します。
 - **メンバーの検索:** 検索するメンバーを定義します。メンバーを入力するか、 をクリックし、「メンバーの選択」ダイアログ・ボックスからメンバーを選択します。[メンバー・セレクタの使用](#)を参照してください。
3. 「OK」をクリックします。

カスタム・フィルタを削除するには、フィルタをクリックした後、「削除」をクリックします。

ルールへのメンバーの追加


1 つ以上のルールにメンバーを追加するには:

1. ホーム・ページで、「モデリング」、「デザイナ」の順に選択します。
2. 「一括編集」タブを選択します。
3. 「モデル」、「ルール・セット」および「ルール・タイプ」で選択を行います。
4. **オプション:** ルールを検索およびフィルタして、表示されるルールをさらに絞り込みます。表示されるルールのフィルタを参照してください。
5. メンバーを追加するルールを選択するか、フィルタが適用された後で、「名前」の横のチェック・ボックスを選択して、「一括編集」タブに表示されるすべてのルールを選択します。
6. 「アクション」、「メンバーの追加」の順に選択します。
7. 「メンバーの追加」ダイアログ・ボックスで、次の情報を入力します:
 - **ディメンション:** メンバーを追加するディメンションを選択します。
 - **メンバー:** 追加するメンバーを入力します。メンバー名を入力するか、 をクリックし、「メンバーの選択」ダイアログ・ボックスからメンバーを選択します。メンバー・セレクタの使用を参照してください。
複数のメンバーを追加できます。追加するメンバーは、「メンバー」フィールドの下に表示されます。
 - **ルール・コンポーネント:** メンバーを追加するルール・コンポーネントを選択します。
「ソース」、「宛先」、「ドライバ基準」および「オフセット」は配賦ルールに、「ターゲット」はカスタム・ルールに適用されます。
 - **ジョブ・コメント:** 「ジョブ」コンソールからアクセスする「ジョブの詳細」に表示されるジョブについて、ノートまたはコメントを入力します。
8. メンバーを追加するジョブが正常に送信されたことを示すために表示される「情報」ウィンドウで「OK」をクリックします。
9. **オプション:** 「ジョブ」コンソールに移動して、メンバーが正常に追加されたことを確認します。
ジョブは、「ジョブ」コンソールで「完了」または「エラーで完了」のステータスで表示されます。ジョブを選択して、ジョブについての詳細を表示したり、発生したエラーをトラブルシューティングすることができます。ルール・ジョブの表示を参照してください。

ルール内のメンバーの置換


1 つ以上のルール内でメンバーを検索して置換するには:

1. ホーム・ページで、「モデリング」、「デザイナ」の順に選択します。
2. 「一括編集」タブを選択します。

3. 「モデル」、「ルール・セット」および「ルール・タイプ」で選択を行います。
4. **オプション:** ルールを検索およびフィルタして、表示されるルールをさらに絞り込みます。[表示されるルールのフィルタ](#)を参照してください。
5. メンバーを置換するルールを選択するか、「名前」の近くにあるチェック・ボックスを選択して、フィルタが適用された後に「一括編集」タブに表示されているすべてのルールを選択します。
6. 「アクション」、「メンバーの置換」の順に選択します。
7. 「検索/置換」ダイアログ・ボックスで、次の情報を入力します:
 - **ディメンション:** メンバーを置換するディメンションを選択します。
 - **メンバーの検索:** 検索するメンバーを入力します。メンバー名を入力するか、をクリックし、「メンバーの選択」ダイアログ・ボックスからメンバーを選択します。[メンバー・セレクタの使用](#)を参照してください。

 **Tip:**

複数のルールで使用されたメンバーを削除する場合は、削除したメンバーを「メンバーの検索」フィールドに入力し、「メンバーの置換」フィールドを使用して、そのメンバー参照をディメンション階層から選択した別のメンバーに置換できます。

- **メンバーの置換:** 置換メンバーを入力します。メンバー名を入力するか、をクリックし、「メンバーの選択」ダイアログ・ボックスからメンバーを選択します。[メンバー・セレクタの使用](#)を参照してください。
 - **ルール・コンポーネント:** メンバーを追加するルール・コンポーネントを選択します。「ソース」、「宛先」、「ドライバ基準」および「オフセット」は配賦ルールに、「ターゲット」はカスタム・ルールに適用されます。
 - **フィルタの保持:** 選択すると、「一括編集」タブで定義されたすべてのフィルタが置き換えられたメンバーに適用されます。(表示されるルールのフィルタを参照してください。)
 - **ジョブ・コメント:** 「ジョブ」コンソールからアクセスする「ジョブの詳細」に表示されるジョブについて、ノートまたはコメントを入力します。
8. メンバーを置換するジョブが正常に送信されたことを知らせる「情報」ウィンドウが表示され、「OK」をクリックします。
 9. **オプション:** 「ジョブ」コンソールに移動し、メンバーが正常に置換されていることを確認します。

ジョブは、「ジョブ」コンソールで「完了」または「エラーで完了」のステータスで表示されます。ジョブを選択して、ジョブについての詳細を表示したり、発生したエラーをトラブルシューティングすることができます。[ルール・ジョブの表示](#)を参照してください。

ルール・セットへのルールのコピー

この機能は、同一のルールまたは類似するルールを複数のルール・セットに含める必要がある場合に便利です。名前を少し変えてルールをコピーし、その名前はそのままにすることも変更することもできます。複数のルールを選択して、ルール・セットにコピーできます。

 **Note:**

ルールにルール・セット・コンテキストが使用されていて、そのルールに、ターゲット・ルール・セットのメンバーと競合するディメンション・メンバーが含まれている場合、そのルールはコピーされずに、「ジョブの詳細」のログにエラーが表示されます。

ルール・セットにルールをコピーするには:

1. ホーム・ページで、「モデリング」、「デザイナ」の順に選択します。
2. 「一括編集」タブを選択します。
3. 「モデル」、「ルール・セット」および「ルール・タイプ」で選択を行います。
4. **オプション:** ルールを検索およびフィルタして、表示されるルールをさらに絞り込みます。表示されるルールのフィルタを参照してください。
5. 目的のルールを選択するか、フィルタが適用された後で、「名前」の横のチェック・ボックスを選択して、「一括編集」タブに表示されるすべてのルールを選択します。
6. 「アクション」、「ルールセットへのルールのコピー」の順に選択します。
7. 「ルールセットへのルールのコピー」ダイアログ・ボックスで、次の情報を入力します:
 - **ルール・セット:** ルールのコピー先のルール・セットを選択します。
 - **ジョブ・コメント:** 「ジョブ」コンソールからアクセスする「ジョブの詳細」に表示されるジョブについて、ノートまたはコメントを入力します。

 **Note:**

モデル内でルール名を一意に保つために、コピーされるときにルール名の末尾に番号が追加されます。

8. ルール・セットにルールをコピーするジョブが正常に送信されたことを示すために表示される「情報」ウィンドウで「OK」をクリックします。
9. **オプション:** 「ジョブ」コンソールに移動して、ルールが正常にコピーされたことを確認します。

ジョブは、「ジョブ」コンソールで「完了」または「エラーで完了」のステータスで表示されます。ジョブを選択して、ジョブについての詳細を表示したり、発生したエラーをトラブルシューティングすることができます。ルール・ジョブの表示を参照してください。

モデルへのルールのコピー

この機能は、新しいモデルを作成し、既存のモデルの同一または同様のルールを新しいモデルに含める場合に役立ちます。複数のルールを選択して、モデルにコピーできます。

 **Note:**

ルールにモデル・コンテキストが使用されていて、そのルールに、ターゲット・モデルのメンバーと競合するディメンション・メンバーが含まれている場合、そのルールはコピーされずに、「ジョブの詳細」のログにエラーが表示されます。

モデルにルールをコピーするには:

1. ホーム・ページで、「モデリング」、「デザイナ」の順に選択します。
2. 「一括編集」タブを選択します。
3. 「モデル」、「ルール・セット」および「ルール・タイプ」で選択を行います。
4. **オプション:** ルールを検索およびフィルタして、表示されるルールをさらに絞り込みます。表示されるルールのフィルタを参照してください。
5. 目的のルールを選択するか、フィルタが適用された後で、「名前」の横のチェック・ボックスを選択して、「一括編集」タブに表示されるすべてのルールを選択します。
6. 「アクション」、「モデルへのルールのコピー」の順に選択します。
7. 「モデルへのルールのコピー」ダイアログ・ボックスで、次の情報を入力します:
 - **モデル:** ルールのコピー先のモデルを選択します。
 - **上書き:** 選択すると、ターゲット・モデルに同じ名前のルールがすでに存在する場合、その定義を使用してコピーされたルールによって上書きされることが指定されます。
 - **ジョブ・コメント:** 「ジョブ」コンソールからアクセスする「ジョブの詳細」に表示されるジョブについて、ノートまたはコメントを入力します。
8. モデルにルールをコピーするジョブが正常に送信されたことを示すために表示される「情報」ウィンドウで「OK」をクリックします。
9. **オプション:** 「ジョブ」コンソールに移動して、ルールが正常にコピーされたことを確認します。

ジョブは、「ジョブ」コンソールで「完了」または「エラーで完了」のステータスで表示されます。ジョブを選択して、ジョブについての詳細を表示したり、発生したエラーをトラブルシューティングすることができます。ルール・ジョブの表示を参照してください。

ルールの有効化および無効化

複数のルールを一度に有効または無効にできます。この機能は、複数のルールを一度に有効にする必要がある場合や、有効化されたルールの妥当性に影響するその他の変更を行う場合に便利です。

ルールを有効または無効にするには:

1. ホーム・ページで、「モデリング」、「デザイナ」の順に選択します。
2. 「一括編集」タブを選択します。
3. 「モデル」、「ルール・セット」および「ルール・タイプ」で選択を行います。
4. **オプション:** ルールを検索およびフィルタして、表示されるルールをさらに絞り込みます。表示されるルールのフィルタを参照してください。

- 有効または無効にするルールを選択するか、「名前」の横のチェック・ボックスを選択して、フィルタが適用された後に「一括編集」タブに表示されるすべてのルールを選択します。
- 「アクション」、「ルールの有効化」または「ルールの無効化」の順に選択します。
- 表示される「情報」ウィンドウで「OK」をクリックすると、ルールを有効または無効にするジョブが正常に送信されたことが通知されます。
- オプション:** 「ジョブ」コンソールに移動し、ルールが正常に有効化または無効化されたことを確認します。

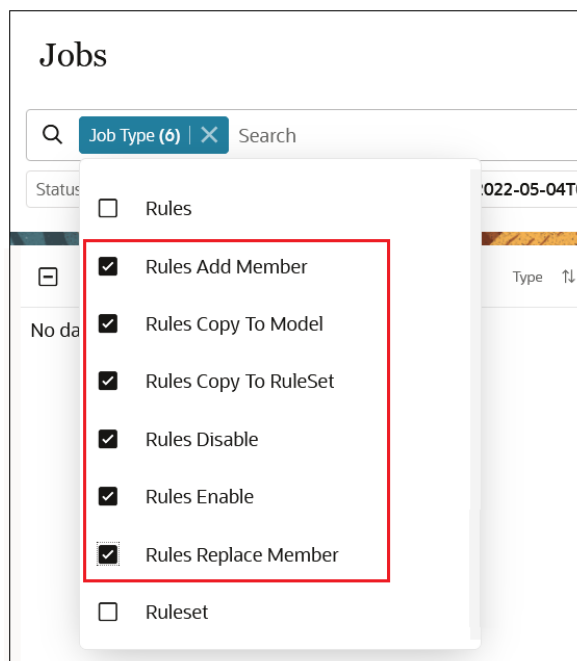
ジョブは、「ジョブ」コンソールに「完了」または「エラーで完了」ステータスとともに表示されます。ジョブを選択して、ジョブについての詳細を表示したり、発生したエラーをトラブルシューティングすることができます。[ルール・ジョブの表示](#)を参照してください。

ルール・ジョブの表示

「一括編集」タブで作成したジョブは、「ジョブ」コンソールで表示できます。

「ジョブ」コンソールにアクセスしてルール・ジョブを表示するには:

- 次のステップを実行します:
 - 現在ルールを編集している場合は、**一括編集**ページの上の「ジョブ」カードを選択します。
 - ホーム・ページで、「モデリング」、「ジョブ」の順に選択します。
- 「ジョブ」コンソールに初めてアクセスしたときは、送信されたルール・ジョブが、送信された他のすべてのジョブとともに表示されます。
- 表示されるジョブをルール・ジョブのみに制限するには、「ジョブ・タイプ」タイルをクリックして「検索」フィールドに移動します。「検索」フィールドに表示されたら、タイルを再度クリックし、下にスクロールして目的のルール・ジョブを選択します。



ノート: デフォルトでは、過去 3 日間のジョブが表示されます。異なる日付範囲を選択するには、「開始時間」 タイルと 「終了時間」 タイルをクリックします。

ジョブは、「完了」または「エラーで完了」のステータスで表示されます。次の例では、1 つの「**ルールのメンバー追加**」ジョブが送信され、エラーなしで正常に実行されました。




Jobs									
<input type="text" value="Job Type Rules Add Member"/> Search									
Status: Completed Start Time: 2022-04-06T17:11:22Z - 2022-03-30T17:11:22Z End Time: 2022-04-06T17:11:22Z - 2022-03-30T17:11:22Z									
1 Result									
<input type="checkbox"/>	Job ID	Name	Type	Status	User	Start	End	Duration	Actions
<input type="checkbox"/>	50	10 Actuals Allocation Pro...	Rules Add Member	Completed	epm_default...	4/6/22 10:04:35 AM	4/6/22 10:04:38 AM	00:00:03	...

ジョブをクリックして、ジョブの詳細を表示します。

Job Details			
Job Id	50	Job Status	Completed
Job Type	Rules Add Member	Start Time	4/6/22 10:04:35 AM
Name		End Time	4/6/22 10:04:38 AM
Created By	epm_default_cloud_admin		
Rule Names	Customer Service Activity Assignment, Inside Sales Activity Assignment, Outside Sales Activity Assignment	Target Rule Tab	DESTINATION
Job Comment	Added Specialty Retailers to the Customer dimension.		
Model name	10 Actuals Allocation Process		
Member	Specialty Retailers		
Message Type	Message		
Info	3 rules selected; 3 rules updated		
Info	Customer Service Activity Assignment		
Info	Inside Sales Activity Assignment		
Info	Outside Sales Activity Assignment		

ルール定義の表示

作成した各ルールの完全な定義を、Enterprise Profitability and Cost Management の次の場所で確認できます:

- 「ウォーターフォール設定」 タブで、ルールを選択して  (「ルール定義の表示」) をクリックします。
- 「一括編集」 タブで、ルールを選択して  (「ルール定義の表示」) をクリックします。
- 「ルール・バランシング」 ページで、ルール・バランシング・レポートを生成し、ルールを選択して  (「ルール定義の表示」) をクリックします。

ルール定義情報には次のものが含まれます:

- ルールの詳細
- ルール・セット詳細

- メンバー選択
- 式(カスタム計算ルールで定義されている場合)

Enterprise Profitability and Cost Management に付属の BksML50 サンプル・アプリケーションに含まれている Rent and Utilities Reassignment ルールのサンプルのルール定義を次に示します。(サンプル・アプリケーションへのアクセス方法の詳細は、[サンプル・アプリケーションの作成](#)を参照してください。)

Rent and Utilities Reassignment
Occupancy Expense Allocation

Created By: sap@oracle_out_admin | Created Date: May 9, 2013 8:25 PM | Modified By: sap@oracle_out_admin | Modified Date: June 16, 2013 4:31 PM

Rule Details

Description: Rent and Utility expenses are reassigned from the Corporate cost center to the business function cost centers. A driver based on the square feet of each building used by each cost center is used to apportion the expenses.

Model name: TO Actuals Allocation Process | Rule Type: Allocation | Sequence: 2 | Enabled: Yes

Use Rule Set Context: Yes | Driver Selection Type: Specify Driver Location | Offset Selection Type: Post Offset to the Source Location | Calculation Segmentation Dimension: -

Allocated Amount Type: None | Amount: -

Rule Set Details

Sequence: 10 | Enabled: Yes | Use Model Context: Yes | Rule Set Calculation Options: Serial Calculation

Member Selections

Dimension	Source	Destination	Driver Basis	Offset
Account	Facilities Expenses (2)	Same As Source	Occupancy Square Feet	Same As Source
Entity	Corporate (1)	Facilities (1)	Same as Destination	Same As Source
		Sales (2)		
		Manufacturing (4)		
		Marketing (1)		
		Shipping (1)		
Customer Service (1)				
Administration (4)				
Test		Same as Destination		Same As Source

ルールの名前変更

ルールの名前を変更する場合は、次の点に留意してください:

- デフォルトの動作では、元のルール名に基づく既存データが維持されます。新しい計算は新しいルール名に書き込まれます。

ルールは複数のモデル内に配置でき、ルールによって計算されたデータを複数の POV 内に配置できます。古いルール名に基づいて計算されたルール・データの維持が必要になることがあるため、Enterprise Profitability and Cost Management では古いルール名からのデータが自動的に削除されたり、データが新しいルール名に移行されることはありません。

- 既存のデータを新しいルール名に移行するには:

1. ルール・メンバーの名前を変更します。

「**メンバー・プロパティの編集**」ページでメンバー名をダブルクリックし、新しいメンバー名を入力して、「**保存**」をクリックします。[メンバー・プロパティの編集](#)を参照してください。

2. データベースをリフレッシュします。

アプリケーション・ページで、「**アクション**」、「**データベースのリフレッシュ**」の順に選択します。[アプリケーション・データベースのリフレッシュ](#)を参照してください。

3. ルールが使用されているすべてのモデルでルールの名前を変更します。

[ルールまたはルール・セットの編集](#)を参照してください。

 **Tip:**

ルール名が変更された場合にデータがどのように計算されるかの詳細は、[モデルの計算](#)の「計算済データのクリア」処理オプションの下のノートを参照してください。

10

モデル検証の実行

関連トピック

- [モデル検証について](#)
- [モデルの検証](#)
- [検証エラーおよび警告](#)

ビデオ

目的

ルールを検証する方法、すべてのルールまたは選択したルールのみを実行してモデルを計算する方法、および計算済データをクリアする方法を学習します。

視聴するビデオ



[Enterprise Profitability and Cost Management](#) におけるモデルの検証および計算

モデル検証について

データ POV に対してルールを計算する前に、ルールを検証することをお勧めします。モデル検証は、ディメンション定義の変更や不完全なルールなどによって影響を受けた可能性のあるルールの整合性を維持するのに役立ちます。

ディメンションの変更中に、ルールで直接参照されているメンバーが名前変更または削除されると、エラーが発生する可能性があります。既存のルールで参照されるディメンションからメンバーを削除すると、ルールを実行できません。

また、ルールは完全に定義されている必要があります。これは、各ルールのソース、宛先およびターゲットの定義に、すべてのディメンションのメンバーが含まれる必要があることを意味します。

モデルの検証

モデルを検証するには:

1. ホーム・ページで、「モデリング」、「モデル検証」の順に選択します。
2. 「モデル」、「ルール・セット」および「ルール・ステータス」で選択を行います。

モデル内のすべてのルール・セットを検証することも、1つのルール・セットのみに注目することもできます。ルールのステータスで検証をフィルタして、有効または無効のルールのみをチェックすることもできます。

 **Tip:**

まだ完了していないルールがある場合は、ルール定義でそれらを無効のままにします。「**ルール・ステータス**」として「**使用可能**」を選択して、使用可能なルールのみをモデル検証に含めることができます。(ルールの有効化および無効化の詳細は、[配賦ルール定義の作成](#)および[カスタム計算ルール定義の作成](#)を参照してください。)

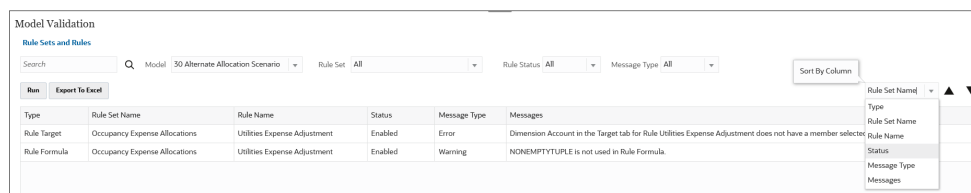
- オプション:** ルールまたはルール・セットを検索するには、「**検索**」フィールドにルールまたはルール・セットの名前のすべてまたは一部を入力して、**Q**をクリックします。

- 「実行」** をクリックします。

検証を実行すると、選択したルール・セット内のすべてのルールがチェックされます。ルールまたはルール・セットのエラーおよび警告が表示されます。エラーおよび警告がいくつかある場合は、エラーおよび警告の表示順序をソートできます。これを行うには、「**列を基準にソート**」ドロップダウンをクリックして、オプション

を選択します。その後、▲または▼をクリックして、昇順または降順でエラーをソートできます。任意の列見出しを使用してソートできます。

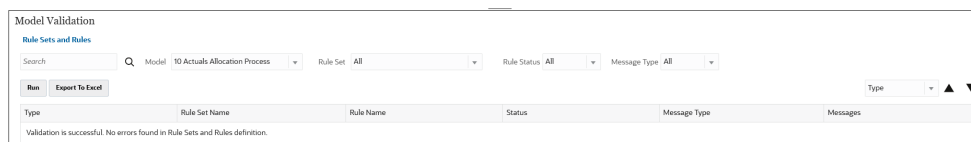
たとえば、ルール・セット名のアルファベットの昇順でエラーおよび警告をソートできます。表示される可能性があるエラーおよび警告については、[検証エラーおよび警告](#)を参照してください。



Type	Rule Set Name	Rule Name	Status	Message Type	Messages
Rule Target	Occupancy Expense Allocations	Utilities Expense Adjustment	Enabled	Error	Dimension Account in the Target tab for Rule Utilities Expense Adjustment does not have a member selected
Rule Formula	Occupancy Expense Allocations	Utilities Expense Adjustment	Enabled	Warning	NONEMPTYUPLE is not used in Rule Formula.

- オプション:** エラーおよび警告がいくつかある場合は、「**Excel にエクスポート**」をクリックします。ルール・デザイナーに戻ってエラーを修正するときにチェックリストとして Excel スプレッドシートを使用できます。[ルール・デザイナーの使用](#)を参照してください。

- 引き続き、ルールおよびルール・セットのエラーおよび警告を修正し、検証に成功したというメッセージが表示されるまで「**実行**」をクリックします。



Type	Rule Set Name	Rule Name	Status	Message Type	Messages
					Validation is successful. No errors found in Rule Sets and Rules definition.

 **Note:**

「モデルの検証」 REST API または "validateModel" EPM 自動化コマンドを使用して、モデルを検証することもできます。Oracle Enterprise Performance Management Cloud の REST API の [モデルの検証](#) および Oracle Enterprise Performance Management Cloud EPM 自動化の操作の [validateModel](#) を参照してください。

検証エラーおよび警告

次の表のエラーおよび警告は、ベスト・プラクティスの使用の検証に関連しています。ベスト・プラクティスの詳細は、[ベスト・プラクティス](#) を参照してください。

Table 10-1 検証エラーおよび警告

メッセージ	メッセージ・タイプ	説明
ルール<Rule Name>の「<Rule Element>」タブのディメンション<Dimension Name>にメンバーが選択されていません。	エラー	ルールが完全に定義されていないため、実行できません。ルールは実行時に無効になるため、不足している情報を入力してルールを再度有効にする必要があります。
NONEMPTYTUPLE はルール式で使用されていません	警告	カスタム計算ルールの式に NONEMPTYTUPLE 文が含まれていません。NONEMPTYTUPLE 文は、カスタム計算ルールの計算を大幅に高速化するのに役立ちます。
上位レベルのメンバー 'Product.AllProducts' がドライバで使用されています	警告	ドライバで上位レベルのメンバーを使用すると、配賦ルールの計算時間が大幅に増加する可能性があります。
計算済メンバー 'Product.<Account.AverageShippingWeight>' がドライバで使用されています (ここで、<Account.AverageShippingWeight> は式のあるレベル 0 のメンバーです)	警告	ドライバで計算済メンバーを使用すると、配賦ルールの計算時間が大幅に増加する可能性があります。
「均等に配賦」ドライバの宛先数が多いです	警告	「均等に配賦」ドライバを使用すると、すべての潜在的な宛先への配賦が強制され、非常に多数の非常に小さな配賦量になる可能性があります。これが設計目標を満たしていることを確認する必要があります。
ソースおよび宛先の両方で同じ親メンバー 'Product.AllProducts' が選択されています	警告	ソースと宛先の両方で同じ上位レベルのメンバーを使用すると、すべてのレベル 0 ソースから親メンバーの下のすべてのレベル 0 宛先へのインデックス付き配賦が行われます。これが意図したロジックであることを確認する必要があります。


11

モデルの計算

関連トピック

- [モデルの計算について](#)
- [視点の理解](#)
- [計算コントロール・ページの使用](#)
- [モデルの計算](#)
- [「計算の実行」ジョブの表示](#)
- [計算ジョブの取消し](#)

ビデオ

目的	視聴するビデオ
ルールを検証する方法、すべてのルールまたは選択したルールのみを実行してモデルを計算する方法、および計算済データをクリアする方法を学習します。	 Enterprise Profitability and Cost Management におけるモデルの検証および計算

モデルの計算について

1 つ以上の視点でモデルを計算できます。たとえば、データの 12 の期間に対して予測モデルを実行できます。

視点に対してモデルを実行すると、Enterprise Profitability and Cost Management によって、ソース・データが変更されることなく、その上に結果が重ねられます。これにより、回数制限なしで、単一のルール、ルール・セットまたはすべてのルールの実行を一度に元に戻したり、やり直すことが容易になります。計算レイヤーをルールごとに容易に調べることができ、配賦に透過性、信頼性およびトレーサビリティが提供されます。

配賦と調整の戻しの際に計算の実行前の時点への調整の戻しまたはデータの復元が必要になる一般会計とは異なり、Enterprise Profitability and Cost Management では、単に計算されたデータをクリアできます。

モデルを計算するには:

1. ホーム・ページで、「モデリング」、「計算コントロール」の順に選択します。
2. **計算コントロール**・ページを使用して視点を作成し、計算を実行します。



Note:

`calculateModel` EPM 自動化コマンドまたは [モデルの計算 REST API](#) を使用して、モデルを計算することもできます。

視点の理解

視点(POV)は、アプリケーションの特定のバージョンまたは視点を表すために使用します。Enterprise Profitability and Cost Management には、次の POV ディメンションが付属していますこれらのディメンションを使用して、モデルの計算に使用される POV を作成します。

- **年:** データが収集されたカレンダー年を特定します
- **期間:** 時系列で戦略と変化を分析できます。
- **シナリオ:** 特定の期間と一連の条件に対する、アプリケーションの新しいバージョンを表示します実績、プランおよび予測のシナリオの計算を実行できます。
- **バージョン:** 同一の POV の異なるバージョンを保持し、アプリケーションの変更点をもたらす影響をモニターしたり、同一アプリケーションの異なるバージョンを追跡します。バージョン・ディメンションを使用して、仮定に基づいた予測結果や、ベスト・ケース・シナリオかワースト・ケース・シナリオかを判断するための What If シナリオをモデル化します。最終バージョン、作業中バージョンおよび最大 2 つの What If シナリオの計算を実行できます。

POV をモデルの計算または計算の分析に使用する前に、POV を作成する必要があります。たとえば、「2022」、「1月」、「予測」および「作業中」のディメンション・メンバーがアプリケーションに存在する可能性があります、これらのディメンション・メンバーを含む POV を作成するまで、モデルを計算したり、その POV 組合せに属するデータに対して計算詳細を分析することはできません。


Note:

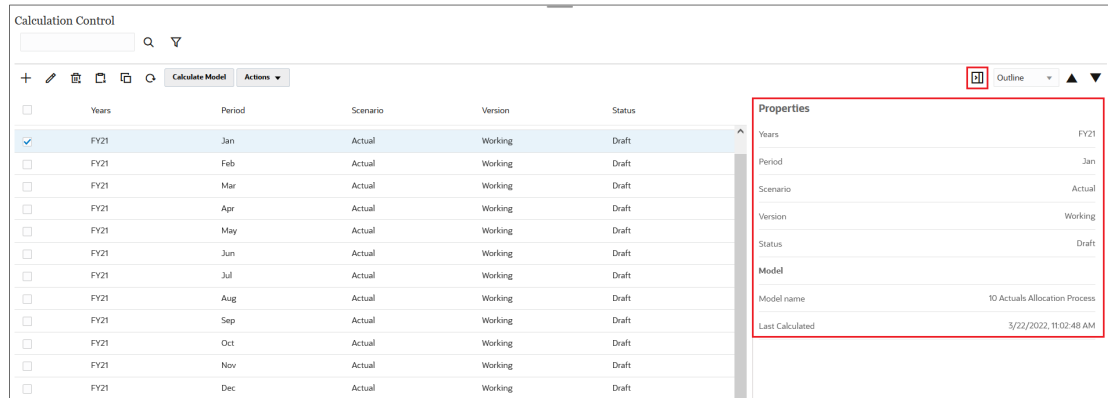
計算コントロールのアクションを実行できるのは、「ドラフト」ステータスの POV のみです。POV のステータスを変更する方法の詳細は、[視点の編集](#)を参照してください。

計算コントロール・ページの使用

計算コントロール・ページには、作成したすべての視点が表示されます。「年」、「期間」、「シナリオ」および「バージョン」の POV ディメンションの選択項目が表示されます。

Calculation Control					
Years	Period	Scenario	Version	Status	
<input checked="" type="checkbox"/>	FY21	Jan	Actual	Working	Draft
<input type="checkbox"/>	FY21	Feb	Actual	Working	Draft
<input type="checkbox"/>	FY21	Mar	Actual	Working	Draft
<input type="checkbox"/>	FY21	Apr	Actual	Working	Draft
<input type="checkbox"/>	FY21	May	Actual	Working	Draft
<input type="checkbox"/>	FY21	Jun	Actual	Working	Draft
<input type="checkbox"/>	FY21	Jul	Actual	Working	Draft
<input type="checkbox"/>	FY21	Aug	Actual	Working	Draft
<input type="checkbox"/>	FY21	Sep	Actual	Working	Draft
<input type="checkbox"/>	FY21	Oct	Actual	Working	Draft
<input type="checkbox"/>	FY21	Nov	Actual	Working	Draft
<input type="checkbox"/>	FY21	Dec	Actual	Working	Draft

特定の視点のプロパティを表示するには、視点を選択して  をクリックします。プロパティには、POV ディメンションの選択項目に加えて、計算に使用されたモデルの名前およびモデルの最終計算日時が表示されます。



The screenshot shows the 'Calculation Control' interface. It features a table with columns for Years, Period, Scenario, Version, and Status. The first row is selected. To the right, a 'Properties' panel is open, displaying details for the selected view, including its Model name and Last Calculated date.

Years	Period	Scenario	Version	Status	
<input checked="" type="checkbox"/>	FY21	Jan	Actual	Working	Draft
<input type="checkbox"/>	FY21	Feb	Actual	Working	Draft
<input type="checkbox"/>	FY21	Mar	Actual	Working	Draft
<input type="checkbox"/>	FY21	Apr	Actual	Working	Draft
<input type="checkbox"/>	FY21	May	Actual	Working	Draft
<input type="checkbox"/>	FY21	Jun	Actual	Working	Draft
<input type="checkbox"/>	FY21	Jul	Actual	Working	Draft
<input type="checkbox"/>	FY21	Aug	Actual	Working	Draft
<input type="checkbox"/>	FY21	Sep	Actual	Working	Draft
<input type="checkbox"/>	FY21	Oct	Actual	Working	Draft
<input type="checkbox"/>	FY21	Nov	Actual	Working	Draft
<input type="checkbox"/>	FY21	Dec	Actual	Working	Draft

Properties

Years	FY21
Period	Jan
Scenario	Actual
Version	Working
Status	Draft
Model	
Model name	10 Actuals Allocation Process
Last Calculated	3/22/2022, 11:02:48 AM

計算コントロール・ページで完了できるタスクは次のとおりです：

- 表示する視点のフィルタ
- 視点の作成
- 視点の編集
- 視点の削除
- 視点のクリア
- 視点のコピー
- モデルの計算


表示する視点のフィルタ

次のフィルタおよびソート・オプションを使用して、表示する視点およびそれらの表示順序を指定できます：

- 特定の視点の検索
- カスタム・フィルタを定義します
- 視点が表示される順序のソート
- 表示される視点のリフレッシュ

これらのフィルタ・オプションを使用すると、表示を操作して、注目する視点を分離できます。


特定の視点の検索

特定の視点を検索するには、POV 名のすべてまたは一部を「検索」フィールドに入力し、 をクリックします。

たとえば、「検索」フィールドに「FY22」と入力すると、「年」ディメンションの「FY22」を含むすべての POV が表示されます。

Years	Period	Scenario	Version	Status
FY22	Jan	Actual	Working	Draft
FY22	Feb	Actual	Working	Draft
FY22	Feb	Actual	What If 1	Draft

カスタム・フィルタの定義

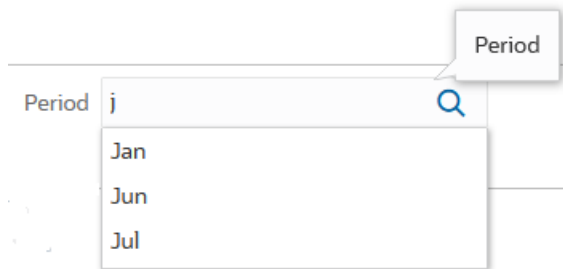
表示された POV をさらに絞り込むには、 をクリックして、「年」、「期間」、「シナリオ」、「バージョン」または「ステータス」(あるいはそのすべて)のフィルタを定義します。

Years	Period	Scenario	Version	Status


次のいずれかを実行して、目的のフィルタを定義します:

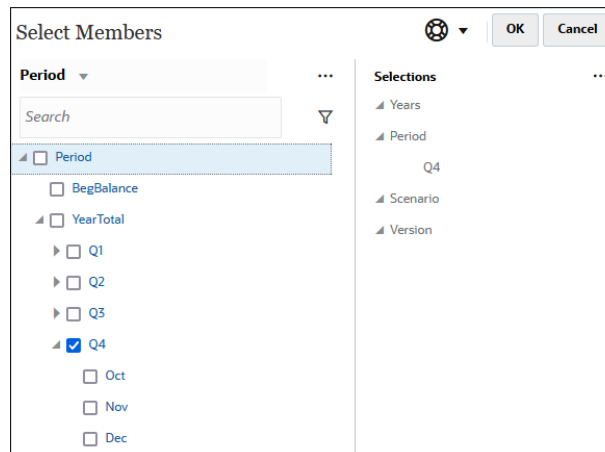
- POV ディメンションの横に入力を開始します。フィールドに、使用可能なオプションが自動移入されます。

たとえば、「期間」の横に"j"と入力した場合、ドロップダウンに"Jan"、"Jun"および"Jul"が表示されます。



オプションを選択して結果をフィルタします。

- POV ディメンションの横にある  をクリックし、「メンバーの選択」ダイアログ・ボックスからメンバーを選択します。(メンバー・セレクタの使用を参照してください。)



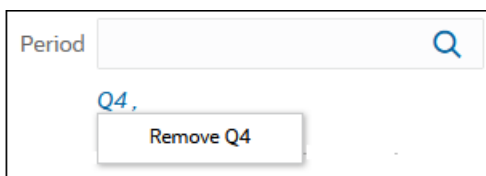
上位レベル・メンバーを選択すると、そのメンバーのすべてのレベル 0 子孫がフィルタに含まれることに注意してください。

フィルタとして使用するメンバーを選択すると、「計算コントロール」ページの POV ディメンションの下に表示されます。たとえば、「Q4」を選択して、表示される結果を 10 月、11 月および 12 月にフィルタした場合、「Q4」が「計算コントロール」ページの「期間」ディメンションの下に表示されます。

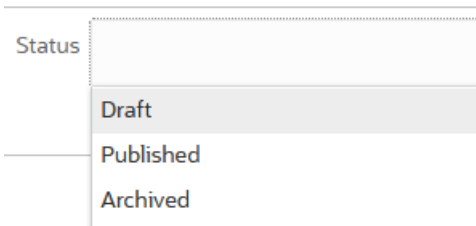


フィルタを削除するには、フィルタをクリックし「削除」をクリックします。

たとえば、「Q4」フィルタを削除するには、「Q4」をクリックして **Q4 の削除** をクリックします。



- 表示されている POV のステータスをフィルタするには、「ステータス」フィールドをクリックしてオプションを選択します:

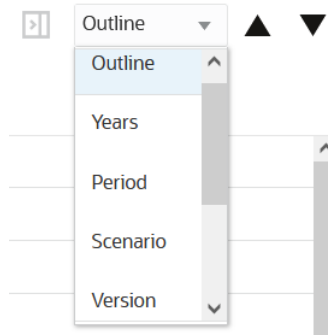


フィルタ・オプションを非表示にするには、▼ を再度クリックします。

ソート順の定義

POV が表示される順序をソートするには、ページの右上にあるドロップダウンをクリックしてオプションを選択します。すべての POV ディメンションをソートできます。ソート・オプションとして「**アウトライン**」を選択した場合は、Oracle Essbase アウトラインですべてのディメンションが表示される順序で POV がソートされます。「**アウトライン**」がデフォルト

のソート順です。ドロップダウンでオプションを選択した後、▲または▼をクリックして、表示された POV を昇順または降順でソートできます。




表示された視点のリフレッシュ

ページに表示されている視点をリフレッシュするには、をクリックします。

視点の作成

視点を作成するには:

1. 計算コントロール・ページで、をクリックするか、「アクション」、「作成」の順に選択します。
2. 「視点の作成」ダイアログ・ボックスで、「年」、「期間」、「シナリオ」および「バージョン」ディメンションのメンバーを選択します。
3. 「OK」をクリックします。


作成した視点が計算コントロール・ページに表示されます。

Note:

視点を作成した当初は、「ステータス」は「ドラフト」に設定されています。後で、視点を編集し、ステータスを「公開済」または「アーカイブ済」に変更できます。公開済またはアーカイブ済の視点に対しては計算を実行できません。

複数の視点の作成

複数の視点を一度に作成できます。これを行うには、1つ以上の POV ディメンションで複数のメンバーを選択します。これにより、それぞれの交差に対する POV が作成されます。

たとえば、2021年と2022年の実績データおよび予測データをモデル化するために必要なすべての視点を作成できます。これを行うには、それぞれの POV ディメンションの横にある  をクリックし、「メンバーの選択」ダイアログ・ボックスで次のように選択します:

The 'Select Members' dialog box shows the 'Period' dimension selected. Under 'Period', 'YearTotal' is checked. The 'Selections' list on the right shows the following hierarchy:

- Years
 - FY21
 - FY22
- Period
 - YearTotal
- Scenario
 - Actual
 - Forecast
- Version
 - Working

Note:

上位レベル・メンバーを選択すると、そのメンバーのすべてのレベル 0 子孫について POV が作成されます。この例では、「期間」ディメンションで「年合計」を選択すると、12 か月すべてについて POV が作成されます。

それぞれのディメンションについて行った選択が「視点の作成」ダイアログ・ボックスに表示されます。

The 'Create Point of View' dialog box displays the selected members for each dimension:

- Years: *FY21, FY22,*
- Period: *YearTotal,*
- Scenario: *Actual, Forecast,*
- Version: *Working,*

Status: Draft

この例では、2021 年と 2022 年の実績データおよび予測データをモデル化するために 48 個の視点が作成されます。

 **Note:**

いずれかの POV が既存の POV と重複する場合、既存の POV はスキップされ、残りの新しい POV が作成されます。「POV の作成」ダイアログ・ボックスで「OK」をクリックすると、作成される POV の数、および既存の POV と重複する POV の数が表示されます。


 **Note:**

メンバーの選択の詳細は、[メンバー・セレクタの使用](#)を参照してください。

視点の編集

視点を編集するとき、変更できるのは POV のステータスのみです。

視点を編集するには:

1. **計算コントロール**・ページで、編集する視点を選択します。
2.  をクリックするか、「アクション」、「編集」の順に選択します。
3. 「視点の編集」ダイアログ・ボックスに、「年」、「期間」、「シナリオ」および「バージョン」ディメンションについて選択されているメンバーが表示されます。これらの選択を編集することはできません。ただし、視点の「ステータス」の選択を変更できます。
 - **ドラフト**: これがデフォルトの選択です。
 - **公開済**: POV がすでに公開されている場合、このオプションを選択します。(公開済の POV に対して計算を実行することはできません。)
 - **アーカイブ済**: POV がアーカイブされている場合、このオプションを選択します。(アーカイブ済の POV に対して計算を実行することはできません。)
4. 「OK」をクリックします。

視点の削除


 **Caution:**

視点を削除できます。ただし、視点に関連付けられているすべてのデータが削除され、削除された視点の計算履歴を**計算分析**ページで参照できなくなることに注意してください。

視点を削除するには:

1. **計算コントロール**・ページで、削除する視点を選択します。

必要に応じて、削除する複数の視点を選択できます。たとえば、会計年度末に前年の 12 期間の実績および予測をクリアする場合があります。

2.  をクリックするか、「アクション」、「削除」の順に選択します。
3. 「確認」ダイアログ・ボックスで「OK」をクリックして、削除を続行することを確認します。
4. オプション: 「ジョブ」コンソールに移動し、視点が正常に削除されたことを確認します。

「視点の削除」 ジョブは、「ジョブ」コンソールに「完了」または「エラーで完了」ステータスとともに表示されます。ジョブを選択して、ジョブについての詳細を表示したり、発生したエラーをトラブルシューティングすることができます。[視点ジョブの表示](#)を参照してください。複数の POV を削除した場合、削除された POV ごとに個別のジョブが作成されます。

Note:

「視点の削除」 REST API または "deletePointOfView" EPM 自動化コマンドを使用して、視点を削除することもできます。*Oracle Enterprise Performance Management Cloud* の REST API の [視点の削除](#) および *Oracle Enterprise Performance Management Cloud EPM 自動化の操作* の [deletePointOfView](#) を参照してください。

視点のクリア

視点をクリアすると、視点を削除することなくデータを削除できます。データの一部またはすべてをクリアし、新しいルールまたは異なるルールでやりなおすことができます。

視点をクリアするには:


1. 計算コントロール・ページで、クリアする視点を選択します。
2.  をクリックするか、「アクション」、「クリア」の順に選択します。
3. 「視点のクリア」ダイアログ・ボックスで、キューブを選択し、PCM_Balance および PCM_Rule 領域のレベル 0 メンバーに関連するオプションを選択します。

Table 11-1 選択した視点についてクリアされるデータ

「POV のクリア」オプション	クリアされる PCM_Balance 領域	クリアされる PCM_Rule 領域	意味
入力データ	PCM_Balance.Input	PCM_Rule のレベル 0 子孫	すべてのビジネス・ディメンションのすべてのメンバーについて、PCM_Rule ディメンションのすべてのレベル 0 子孫と交差する、PCM_Balance ディメンションの「入力」メンバーをクリアします。

Table 11-1 (Cont.) 選択した視点についてクリアされるデータ

「POVのクリア」オプション	クリアされる PCM_Balance 領域	クリアされる PCM_Rule 領域	意味
調整値	PCM_Balance.AdjustmentIn PCM_Balance.AdjustmentOut	PCM_Rule のレベル 0 子孫	すべてのビジネス・ディメンションのすべてのメンバーについて、PCM_Rule ディメンションのすべてのレベル 0 子孫と交差する、PCM_Balance ディメンションの「調整(入)」および「調整(出)」メンバーをクリアします。
配賦済の値	PCM_Balance.AllocationIn PCM_Balance.AllocationOut PCM_Balance.AllocationOffsetAmount	PCM_Rule のレベル 0 子孫	すべてのビジネス・ディメンションのすべてのメンバーについて、PCM_Rule ディメンションのすべてのレベル 0 子孫と交差する、PCM_Balance ディメンションの「配賦(入)」、「配賦(出)」および「配賦オフセット金額」メンバーをクリアします。

4. 「OK」をクリックします。
5. オプション: 「ジョブ」 コンソールに移動し、データが視点から正常にクリアされたことを確認します。

「視点のクリア」ジョブは、「ジョブ」コンソールに「完了」または「エラーで完了」ステータスとともに表示されます。ジョブを選択して、ジョブについての詳細を表示したり、発生したエラーをトラブルシューティングすることができます。 [視点ジョブの表示](#)を参照してください。

Note:

視点によるデータのクリア REST API または "clearDataByPointOfView" EPM 自動化コマンドを使用して、データをクリアすることもできます。 [Oracle Enterprise Performance Management Cloud の REST API の視点によるデータのクリア](#) および [Oracle Enterprise Performance Management Cloud EPM 自動化の操作の clearDataByPointOfView](#) を参照してください。

視点のコピー

ある視点から別の視点にデータをコピーできます。たとえば、視点の what if バージョンを作成する場合、既存の視点にすでに含まれているデータから始めて、それを新しい視点にコピーした後、追加の編集や計算を行うことができます。

視点をコピーするには:

1. 計算コントロール・ページで、コピーする視点を選択します。


2.  をクリックするか、「アクション」、「コピー」の順に選択します。
3. 「視点のコピー」ダイアログ・ボックスで、「ソース」キューブと「宛先」キューブを選択します。
4. コピーした視点で使用する、「年」、「期間」、「シナリオ」および「バージョン」ディメンションのメンバーを選択します。
5. 「データ」で、PCM_Balance および PCM_Rule 領域のレベル 0 メンバーに関連するオプションを選択します。

Table 11-2 選択した視点についてコピーされるデータ

「POVのコピー」オプション	コピーされる PCM_Balance 領域	コピーされる PCM_Rule 領域	意味
すべての入力データ	PCM_Balance のレベル 0 子孫	PCM_Rule.NoRule	すべてのビジネス・ディメンションのすべてのメンバーについて、PCM_Rule ディメンションの NoRule メンバーと交差する、PCM_Balance ディメンションのすべてのレベル 0 子孫をコピーします。
すべてのデータ	PCM_Balance のレベル 0 子孫	PCM_Rule のレベル 0 子孫	すべてのビジネス・ディメンションのすべてのメンバーについて、PCM_Rule ディメンションのすべてのレベル 0 子孫と交差する、PCM_Balance ディメンションのすべてのレベル 0 子孫をコピーします。この結果、POV のすべてのデータがコピーされます。

6. 「OK」をクリックします。

 **Note:**

「年」、「期間」、「シナリオ」および「バージョン」のオプションを選択して、計算コントロール・リストにまだ存在しない視点を定義した場合、宛先視点が存在しないことを知らせるダイアログ・ボックスが表示されます。「OK」をクリックして、宛先視点を作成することを確認します。

7. **オプション:** 「ジョブ」コンソールに移動し、視点が正常にコピーされたことを確認します。

「視点のコピー」ジョブは、「ジョブ」コンソールに「完了」または「エラーで完了」ステータスとともに表示されます。ジョブを選択して、ジョブについての詳細を表示したり、発生したエラーをトラブルシューティングすることができます。[視点ジョブの表示](#)を参照してください。

Note:

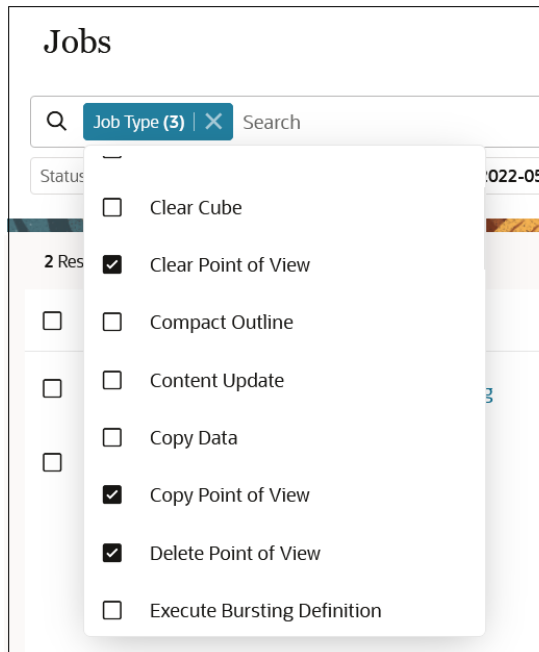
視点によるデータのコピー REST API または"copyDataByPointOfView" EPM 自動化コマンドを使用して、データをコピーすることもできます。Oracle Enterprise Performance Management Cloud の REST API の [視点によるデータのコピー](#) および Oracle Enterprise Performance Management Cloud EPM 自動化の操作の [copyDataByPointOfView](#) を参照してください。

視点ジョブの表示

計算コントロール・ページで作成した視点ジョブは、「ジョブ」コンソールで表示できます。

「ジョブ」コンソールにアクセスして視点ジョブを表示するには:


- 次のステップを実行します:
 - 現在モデルを計算している場合は、計算コントロール・ページの上の「ジョブ」カードを選択します。
 - ホーム・ページで、「モデリング」、「ジョブ」の順に選択します。
 - 「ジョブ」コンソールに初めてアクセスしたときは、送信された視点ジョブが、送信された他のすべてのジョブとともに表示されます。
- 表示されるジョブを視点ジョブのみに制限するには、「ジョブ・タイプ」タイルをクリックして「検索」フィールドに移動します。「検索」フィールドに表示されたら、タイルを再度クリックし、下にスクロールして目的の視点ジョブを選択します。



ノート: デフォルトでは、過去 3 日間のジョブが表示されます。異なる日付範囲を選択するには、「開始時間」タイルと「終了時間」タイルをクリックします。

ジョブは、「完了」または「エラーで完了」のステータスで表示されます。次の例では、「視点の削除」ジョブ、「視点のクリア」ジョブおよび「視点のコピー」ジョブが1つずつ送信され、すべてのジョブがエラーなしで正常に実行されています。


Job ID	Name	Type	Status	User	Start	End	Duration	Actions
243	FY21:Dec:Actual:What I...	Delete Point of View	Completed	epm_default...	5/10/22 9:28:19 PM	5/10/22 9:28:26 PM	00:00:07	...
242	FY21:Oct:Actual:Working	Clear Point of View	Completed	epm_default...	5/10/22 9:13:33 PM	5/10/22 9:13:44 PM	00:00:11	...
241	FY17:Mar:Plan:Final	Copy Point of View	Completed	epm_default...	5/10/22 8:46:29 PM	5/10/22 8:46:29 PM	00:00:00	...

ジョブの詳細を表示するには、ジョブ名をクリックするか、ジョブの横にある  をクリックし、「詳細」を選択します。

Job Id	241	Job Status	Completed
Job Type	Copy Point of View	Start Time	5/10/22 8:46:29 PM
Name	FY17:Mar:Plan:Final	End Time	5/10/22 8:46:29 PM
Created By	epm_default_cloud_admin	Details	The job 'FY17:Mar:Plan:Final' of type 'FY17:Mar:Plan:Final' completed successfully.
POV Delimiter	::	Source Cube	PCM_CLC
Destination Cube	PCM_CLC	Create Destination POV	true
Source POV	FY21:Jan:Actual:Working	Copy Type	INPUT
Destination POV	FY17:Mar:Plan:Final		

モデルの計算

モデルを計算するには:

- ホーム・ページで、「モデリング」、「計算コントロール」の順に選択します。
- オプション:** 「フィルタ」フィールドに POV の名前または説明のすべてあるいは一部を入力し、 をクリックして、表示される POV をフィルタします。
- 目的の POV を選択するか、「年」の横にあるチェック・ボックスを選択してすべての POV を選択します。
- 「モデルの計算」をクリックします。
- 「モデルの計算」ダイアログ・ボックスで、計算するモデルに関する情報を入力します:
 - モデル:** ドロップダウンをクリックし、計算するモデルを選択します。
 - ジョブ・コメント:** 「ジョブ」コンソールからアクセスする「ジョブの詳細」に表示される、「計算の実行」ジョブに関するノートまたはコメントを入力します。
 - 処理のオプション:** 1 つ以上の処理のオプションを選択します。選択した処理のオプションは、モデルについて定義した処理範囲のすべてのルールに適用されます。
 - **計算済データのクリア:** 過去の結果をクリアし、それらをこの計算からの結果に置き換えます。これはデフォルトです。モデルを計算するのが初めてでないかぎり、ほとんどの場合、過去の計算からの計算済データをクリアします。

 **Note:**

このオプションを選択した場合、実行されるルールの計算済データのみがクリアされます。ルール名が変更された場合、古いルール名からデータはクリアされません。すべてのルールを計算に含めることを選択した場合、このオプションにより、"NoRule"を除くすべてのルール・メンバーのデータがクリアされます。これには名前が変更されたルールのルール・メンバーも含まれます。[ルールの名前変更](#)を参照してください。

- **計算の実行: 「処理範囲」** で選択したルールを計算します。
- **診断データの取得:** 配賦ルールが正常に実行されたけれども、ソースまたはドライバ・データが見つからずセルが更新されなかった場合に、診断データを取得し計算統計レポートおよび計算統計比較レポートの「ジョブ・ログ」セクションに表示します。(計算統計サマリー・レポートの生成および計算統計診断レポートの生成を参照してください。)この情報は割当結果の欠落原因を調査する際に役立ちます。

次の例は、ソースまたはドライバ・データが見つからないときの計算統計レポートの診断データを示しています。

Job Log
1 Number of updated cells count is Zero for Rule "R_IC_Ambass_Default"
2 Number of updated cells count is Zero for Rule "R_CorpExp_P6022_P5016"
3 Number of updated cells count is Zero for Rule "R_OP_Adj_54339"
4 Number of updated cells count is Zero for Rule "R_OP_Adj_54659"
5 Number of updated cells count is Zero for Rule "R_AFR_MgrRollup_All_RoomCount". Source Count: 0, Source Data Total: 0 and Driver Count: 241, Driver Data Total: 44,648
6 Number of updated cells count is Zero for Rule "R_AMER_CMH-OP_All-Excl-KI_HotelCount". Source Count: 0, Source Data Total: 0 and Driver Count: 1,264, Driver Data Total: 2,044
7 Number of updated cells count is Zero for Rule "R_AMER_CMH-OP_All-Excl-KI_HotelSignings". Source Count: 0, Source Data Total: 0 and Driver Count: 10, Driver Data Total: 12
8 Number of updated cells count is Zero for Rule "R_AMER_CMH-OP_All-Excl-KI_TotalsRev". Source Count: 0, Source Data Total: 0 and Driver Count: 1,209, Driver Data Total: 990,760,869.68
9 Number of updated cells count is Zero for Rule "R_AMER_CMH-OP_All_ClosingHotelsPL". Source Count: 0, Source Data Total: 0 and Driver Count: 421, Driver Data Total: 506
10 Number of updated cells count is Zero for Rule "R_AMER_CMH-OP_All_HotelSignings". Source Count: 0, Source Data Total: 0 and Driver Count: 10, Driver Data Total: 12
11 Number of updated cells count is Zero for Rule "R_AMER_CMH-OP_HH-EX-SB-CW_RoomCount". Source Count: 0, Source Data Total: 0 and Driver Count: 144, Driver Data Total: 49,692
12 Number of updated cells count is Zero for Rule "R_AMER_CMH-OP_KI_Hotel Count". Source Count: 0, Source Data Total: 0 and Driver Count: 273, Driver Data Total: 597
13 Number of updated cells count is Zero for Rule "R_AMER_CMH-OP_KI_HotelSigningsClosingHotelsPL". Source Count: 0, Source Data Total: 0 and Driver Count: 148, Driver Data Total: 137
14 Number of updated cells count is Zero for Rule "R_AMER_CMH-OP_KI_TGR". Source Count: 0, Source Data Total: 0 and Driver Count: 641, Driver Data Total: 1,066,841,034.16
15 Number of updated cells count is Zero for Rule "R_AMER_CMH-OP_KI_TotalsRev". Source Count: 0, Source Data Total: 0 and Driver Count: 607, Driver Data Total: 336,093,193.53
16 Number of updated cells count is Zero for Rule "R_AMER_FFH_All-Excl-KI_HotelSignings". Source Count: 0, Source Data Total: 0 and Driver Count: 52, Driver Data Total: 129

- **Essbase デバッグ・スクリプトの取得:** このジョブを実行するために Enterprise Profitability and Cost Management が Oracle Essbase に与えた具体的な指示のログを取得します。
このオプションを選択すると、実行された各ルールのテキスト・ファイルを含む zip ファイルが作成されます。それぞれのテキスト・ファイルには、そのルールについて Essbase に送信された指示が含まれています。この zip ファイルは、受信ボックス/送信ボックス・エクスプローラからダウンロードできます。(受信ボックス/送信ボックス・エクスプローラを使用したファイルのアップロードおよびダウンロードを参照してください。)通常、Essbase デバッグ・スクリプトを取得するのは、Oracle サポートから求められた場合のみです。
- **レポート用の最適化:** 問合せの速度を上げるために、PCM_CLC キューブで集約ビューを作成します。
- **処理範囲:** ドロップダウンをクリックし、計算に含めるルールの範囲を選択します。
 - **すべてのルール:** 選択したモデルのすべてのルールを計算します。
 - **すべてのルール - 選択したルールから開始:** 選択したルール・セットで指定したルールから開始してルールを実行します。ルールは、後続のルール・セットを含め、モデルの最後まで実行されます。このオプションを選択する場合は、ドロップダウンをクリックしてルール・セット名とルール名を選択します。

- **すべてのルール - 選択したルールの後に終了:** 最初からすべてのルールを実行し、選択したルール・セットで指定したルールの後に終了します。このオプションを選択する場合は、ドロップダウンをクリックしてルール・セット名とルール名を選択します。
- **ルール・セットの範囲:** 指定したシーケンス番号の間のルールを実行します。このオプションを選択する場合は、最初と最後のルール・セット・シーケンス番号を入力します。シーケンス番号は、ルール・セットの作成時に指定されています。[ルール・セットの作成](#)を参照してください。
- **単一ルール:** 単一ルールを実行します。このオプションを選択する場合は、ドロップダウンをクリックしてルール・セット名とルール名を選択します。

 **Note:**

有効なルールのみが計算に含まれます。(配賦ルールまたはカスタム・ルールの定義ページで、ルールを有効にするか、無効にするかを選択します。)

6. 「実行」をクリックします。
7. 「計算の実行」ジョブが正常に送信されたことを知らせる「情報」ウィンドウが表示され、「OK」をクリックします。
8. オプション: 「ジョブ」コンソールに移動して、ジョブが正常に完了したことを確認します。

「計算の実行」ジョブは、「ジョブ」コンソールに「完了」または「エラーで完了」ステータスとともに表示されます。ジョブを選択して、ジョブについての詳細を表示したり、発生したエラーをトラブルシューティングすることができます。

 **Note:**

表示される「計算の実行」ジョブの数は、選択した POV の数に対応します。たとえば、モデル計算で 5 つの POV を選択した場合、「ジョブ」コンソールには 5 つの「計算の実行」ジョブが表示されます。計算する POV を複数選択した場合は、「バッチ計算」ジョブによって、計算するために選択したすべての POV に関する情報が要約されます。「[計算の実行](#)」ジョブの表示を参照してください。

 **Note:**

モデルの計算 REST API または `calculateModelEPM` 自動化コマンドを使用して、モデルを計算することもできます。

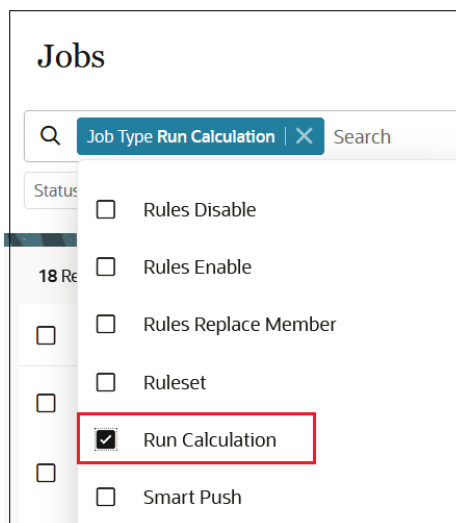
「計算の実行」ジョブの表示

計算コントロール・ページで作成したジョブは、「ジョブ」コンソールで表示できます。

「ジョブ」コンソールにアクセスして「計算の実行」ジョブを表示するには:

1. 次のステップを実行します:
 - 現在計算を実行している場合は、**計算コントロール**・ページの上の「**ジョブ**」カードを選択します。
 - ホーム・ページで、「**モデリング**」、「**ジョブ**」の順に選択します。

「**ジョブ**」コンソールに初めてアクセスしたときは、送信された「**計算の実行**」ジョブが、送信された他のすべてのジョブとともに表示されます。
2. 表示されるジョブを「**計算の実行**」ジョブのみに制限するには、「**ジョブ・タイプ**」タイルをクリックして「**検索**」フィールドに移動します。「**検索**」フィールドに表示されたら、タイルを再度クリックし、下にスクロールして「**計算の実行**」を選択します。




複数の POV の計算を実行した場合、計算するために選択したすべての POV に関する情報を要約する「**バッチ計算**」ジョブも作成されます。

ジョブは、「完了」または「エラーで完了」のステータスで表示されます。次の例では、3つの「**計算の実行**」ジョブが送信され、エラーなしで正常に完了しました。サマリーの「**バッチ計算**」ジョブも完了していることに注意してください。

 **Tip:**

同じバッチで実行されたジョブを識別しやすくするために、「**バッチ計算**」ジョブの「**ジョブ ID**」が、そのバッチの各ジョブの**計算分析**ページに「**バッチ ID**」として表示されます。[計算分析について](#)を参照してください。

Jobs									
Recent									
Actions Refresh									
Search									
Job Type Import Security Status Completed Start Time 2022-04-30T04:19:19Z - 2022-05-07T04:19:19Z End Time 2022-04-30T04:19:19Z - 2022-05-07T04:19:19Z									
4 Results									
Job ID	Name	Type	Status	User	Start	End	Duration	Actions	
224	FY21:May:Actual:Working	Run Calculation	Completed	epm_default...	5/6/22 9:12:33 PM	5/6/22 9:14:47 PM	00:02:14	...	
223	FY21:Apr:Actual:Working	Run Calculation	Completed	epm_default...	5/6/22 9:12:33 PM	5/6/22 9:14:52 PM	00:02:19	...	
222	FY21:Mar:Actual:Working	Run Calculation	Completed	epm_default...	5/6/22 9:12:33 PM	5/6/22 9:14:52 PM	00:02:19	...	
220	Batch Calculation	Batch Calculation	Completed	epm_default...	5/6/22 9:12:32 PM	5/6/22 9:15:03 PM	00:02:31	...	

ジョブの詳細を表示するには、ジョブ名をクリックするか、ジョブの横にある  をクリックし、「詳細」を選択します。

Job Details	
Job Id	157
Job Type	Run Calculation
Name	FY21:Jan:Actual:Working
Created By	epm_default_cloud_admin
Job Status	Completed
Start Time	5/2/22 3:55:56 PM
End Time	5/2/22 3:57:49 PM
Details	The job 'FY21:Jan:Actual:Working' of type 'FY21:Jan:Actual:Working' completed successfully.
Subset Start	0
Comment	
Optimize for Reporting	true
POV Delimiter	::
Source POV	FY21:Jan:Actual:Working
Rule Name	0
Clear Calculated Data	true
Subset End	0
Capture Debug Scripts	false
Model name	10 Actuals Allocation Process
Run Calculation	true
Calculation Type	ALL_RULES

計算ジョブの取消し

送信された計算ジョブを取り消すことができます。たとえば、反復プロセスでロックされているジョブや計算が非常に長いジョブを取り消して、変更を加えた後、そのジョブを再送信できます。

送信した計算ジョブを取り消すには:

1. 「ジョブ」 コンソールで、ステータスが「処理中」のジョブを選択します。
2. ...をクリックし、「取消」を選択します。

Job ID	Name	Type	Status	User	Start	End	Duration	Actions
46	FY21:Dec:Actual:What If 2	Run Calculation	Processing	epm_default_clo...	2/13/23 4:59:19 PM			...
45	FY21:Dec:Actual:What If 1	Run Calculation	Processing	epm_default_clo...	2/13/23 4:59:19 PM			Details
44	FY21:Dec:Actual:Working	Run Calculation	Processing	epm_default_clo...	2/13/23 4:59:19 PM			Cancel

ジョブ・ステータスが「取消保留中」に変更されます。

Job ID	Name	Type	Status	User	Start	End	Duration	Actions
46	FY21:Dec:Actual:What If 2	Run Calculation	Pending Cancel	epm_default_clo...	2/13/23 4:59:19 PM	2/13/23 5:03:18 PM	00:03:59	...
45	FY21:Dec:Actual:What If 1	Run Calculation	Processing	epm_default_clo...	2/13/23 4:59:19 PM			...
44	FY21:Dec:Actual:Working	Run Calculation	Processing	epm_default_clo...	2/13/23 4:59:19 PM			...

取消が完了すると、ステータスが「取消済」に変更されます。

Job ID	Name	Type	Status	User	Start	End	Duration	Actions
46	FY21:Dec:Actual:What If 2	Run Calculation	Cancelled	epm_default_clo...	2/13/23 4:59:19 PM	2/13/23 5:04:14 PM	00:04:55	...
45	FY21:Dec:Actual:What If 1	Run Calculation	Completed	epm_default_clo...	2/13/23 4:59:19 PM	2/13/23 5:05:31 PM	00:06:12	...
44	FY21:Dec:Actual:Working	Run Calculation	Completed	epm_default_clo...	2/13/23 4:59:19 PM	2/13/23 5:05:02 PM	00:05:43	...

 **Tip:**

- ステータスが「取消保留中」のままになっているように見える場合は、「リフレッシュ」をクリックしてジョブのステータスをリフレッシュします。
- 取り消そうとしているジョブのステータスが「処理中」であるにもかかわらず、「選択されたビジネス・ルールは処理状態にないため、取り消せません。」というメッセージが表示される場合は、ジョブに式の構文エラーがある可能性があります。この場合は、「計算コントロール」ページに戻ってエラーをトラブルシューティングし、ジョブを再実行します。


12

計算の分析

関連トピック

- [計算分析について](#)
- [表示する計算レコードのフィルタリング](#)
- [計算統計サマリー・レポートの生成](#)
- [計算統計診断レポートの生成](#)
- [モデル・スナップショット・ドキュメンテーション・レポートの生成](#)
- [モデル・スナップショットの比較レポートの生成](#)
- [スナップショットと現在のモデルとの比較レポートの生成](#)
- [スナップショットからのモデルの作成](#)
- [コメントの編集](#)
- [計算の再実行](#)
- [フィードバックの提供](#)

ビデオ

目的	視聴するビデオ
「計算分析」画面でモデル計算をトラブルシューティングするレポートを実行する方法と、「ルール・balancing」画面を使用してモデル計算を分析する方法を学習します。	 Enterprise Profitability and Cost Management におけるモデル計算の分析およびトラブルシューティング

計算分析について

モデルを計算した後、計算したモデルに基づいてレポートを生成することによって、計算の詳細を分析できます。

計算の詳細を分析するには:

1. ホーム・ページで、「**モデリング**」、「**計算分析**」の順に選択します。
2. **計算分析**ページで、ステータス情報を確認し、レポートを実行します。

計算分析ページには、EPM 自動化、または REST API 自動化ツールを使用して、**計算コントロール**・ページで計算された各モデル視点の詳細が表示されます。(モデルの計算を参照してください。)1つの視点について複数の計算がある場合があります。


Calculation Analysis

Search 🔍

🏠 🔄 🗑️ Actions ▼

Sort Start Time

<input type="checkbox"/>	Years	Period	Scenario	Version	Model Name	Batch Id	Start Time	Elapsed Time	All Rules	Status	Comment
<input type="checkbox"/>	FY17	Mar	Plan	Final	10 Actuals Allocation Process		05/11/2022 03:10 PM	00:00:48	✓	Completed With Warnings	
<input type="checkbox"/>	FY21	May	Actual	Working	10 Actuals Allocation Process	220	05/06/2022 09:12 PM	00:02:15	✓	Completed	
<input type="checkbox"/>	FY21	Apr	Actual	Working	10 Actuals Allocation Process	220	05/06/2022 09:12 PM	00:02:19	✓	Completed	
<input type="checkbox"/>	FY21	Mar	Actual	Working	10 Actuals Allocation Process	220	05/06/2022 09:12 PM	00:02:19	✓	Completed	
<input type="checkbox"/>	FY21	Feb	Actual	Working	10 Actuals Allocation Process	220	05/06/2022 09:12 PM	00:02:16	✓	Completed	
<input type="checkbox"/>	FY21	Dec	Actual	Working	10 Actuals Allocation Process	220	03/22/2022 11:02 AM	00:03:06	✓	Completed	
<input type="checkbox"/>	FY21	Nov	Actual	Working	10 Actuals Allocation Process	220	03/22/2022 11:02 AM	00:03:02	✓	Completed	
<input type="checkbox"/>	FY21	Oct	Actual	Working	10 Actuals Allocation Process	220	03/22/2022 11:02 AM	00:03:17	✓	Completed	
<input type="checkbox"/>	FY21	Sep	Actual	Working	10 Actuals Allocation Process	220	03/22/2022 11:02 AM	00:03:20	✓	Completed	
<input type="checkbox"/>	FY21	Aug	Actual	Working	10 Actuals Allocation Process	220	03/22/2022 11:02 AM	00:03:46	✓	Completed	
<input type="checkbox"/>	FY21	Jul	Actual	Working	10 Actuals Allocation Process	220	03/22/2022 11:02 AM	00:03:20	✓	Completed	

特定の計算レコードに関する追加詳細を表示するには、計算レコードを選択し、 をクリックします。その計算レコードに関する詳細がページの右側に表示されます。

Calculation Analysis

Search 🔍

🏠 🔄 🗑️ Actions ▼

Sort Start Time

<input type="checkbox"/>	Years	Period	Scenario	Version	Model Name	Batch Id	Start Time	Elapsed Time	All Rules	Stc
<input type="checkbox"/>	FY17	Mar	Plan	Final	10 Actuals Allocation Process		05/11/2022 03:10 PM	00:00:48	✓	Co
<input checked="" type="checkbox"/>	FY21	May	Actual	Working	10 Actuals Allocation Process	220	05/06/2022 09:12 PM	00:02:15	✓	Co
<input type="checkbox"/>	FY21	Apr	Actual	Working	10 Actuals Allocation Process	220	05/06/2022 09:12 PM	00:02:19	✓	Co
<input type="checkbox"/>	FY21	Mar	Actual	Working	10 Actuals Allocation Process	220	05/06/2022 09:12 PM	00:02:19	✓	Co
<input type="checkbox"/>	FY21	Feb	Actual	Working	10 Actuals Allocation Process	220	05/06/2022 09:12 PM	00:02:16	✓	Co
<input type="checkbox"/>	FY21	Dec	Actual	Working	10 Actuals Allocation Process	220	03/22/2022 11:02 AM	00:03:06	✓	Co
<input type="checkbox"/>	FY21	Nov	Actual	Working	10 Actuals Allocation Process	220	03/22/2022 11:02 AM	00:03:02	✓	Co
<input type="checkbox"/>	FY21	Oct	Actual	Working	10 Actuals Allocation Process	220	03/22/2022 11:02 AM	00:03:17	✓	Co
<input type="checkbox"/>	FY21	Sep	Actual	Working	10 Actuals Allocation Process	220	03/22/2022 11:02 AM	00:03:20	✓	Co
<input type="checkbox"/>	FY21	Aug	Actual	Working	10 Actuals Allocation Process	220	03/22/2022 11:02 AM	00:03:46	✓	Co
<input type="checkbox"/>	FY21	Jul	Actual	Working	10 Actuals Allocation Process	220	03/22/2022 11:02 AM	00:03:20	✓	Co

10 Actuals Allocation Process

Job Id: 224

Start Time: 05/06/2022 09:12 PM

End Time: 05/06/2022 09:14 PM

Elapsed Time: 00:02:15



Status: Completed

Model Snapshot Time: 03/22/2022 11:02 AM

Processed Rules / Total Rules: 21 / 21

Comment:

All Rules: Yes

計算レコードを削除するには、計算レコードを選択し、 をクリックします。計算レコードを Excel にエクスポートするには、計算レコードを選択し、 をクリックします。

それぞれの計算レコードには、使用されたモデル・ルールのスナップショット、モデル・ドキュメンテーション・レポートおよび計算統計レポートが含まれます。計算分析ページでこれらのレポートを生成する方法および他のタスクを完了する方法の詳細は、次のトピックを参照してください:

- [計算統計サマリー・レポートの生成](#)
- [計算統計診断レポートの生成](#)
- [モデル・スナップショット・ドキュメンテーション・レポートの生成](#)
- [スナップショットと現在のモデルとの比較レポートの生成](#)
- [モデル・スナップショットの比較レポートの生成](#)
- [スナップショットからのモデルの作成](#)
- [コメントの編集](#)
- [計算の再実行](#)


表示する計算レコードのフィルタリング

次のフィルタおよびソート・オプションを使用して、表示する計算レコードおよびそれらの表示順序を指定できます:

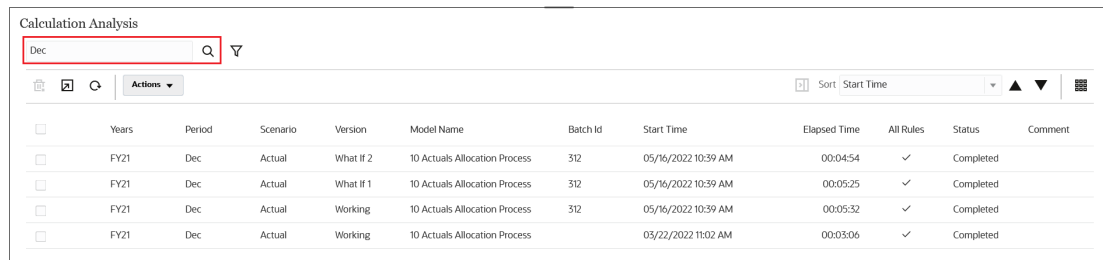
- 特定の計算レコードを検索します
- カスタム・フィルタを定義します
- 計算レコードの表示順序をソートします
- 表示されている計算レコードをリフレッシュします

これらのフィルタ・オプションを使用すると、表示を操作して、注目する計算レコードを分離できます。


特定の計算レコードの検索

特定の計算レコードを検索するには、「検索」フィールドにテキストを入力し、をクリックします。


たとえば、「検索」フィールドに「12月」と入力すると、12月に計算されたすべてのモデル視点に関する詳細が表示されます。



<input type="checkbox"/>	Years	Period	Scenario	Version	Model Name	Batch Id	Start Time	Elapsed Time	All Rules	Status	Comment
<input type="checkbox"/>	FY21	Dec	Actual	What If 2	10 Actuals Allocation Process	312	05/16/2022 10:39 AM	00:04:54	✓	Completed	
<input type="checkbox"/>	FY21	Dec	Actual	What If 1	10 Actuals Allocation Process	312	05/16/2022 10:39 AM	00:05:25	✓	Completed	
<input type="checkbox"/>	FY21	Dec	Actual	Working	10 Actuals Allocation Process	312	05/16/2022 10:39 AM	00:05:32	✓	Completed	
<input type="checkbox"/>	FY21	Dec	Actual	Working	10 Actuals Allocation Process		03/22/2022 11:02 AM	00:03:06	✓	Completed	

検索フィルタを除去するには、「検索」フィールドからテキストを削除し、をクリックして、表示されている計算レコードをリフレッシュします。

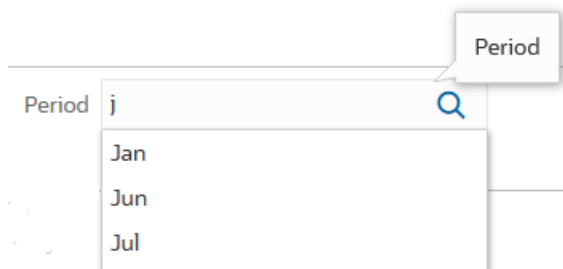
カスタム・フィルタの定義

使用可能なすべてのフィルタ・オプションを表示し、結果をさらに絞り込むには、をクリックした後、目的のフィルタを選択します。

次のいずれかを実行して、目的のフィルタを定義します:

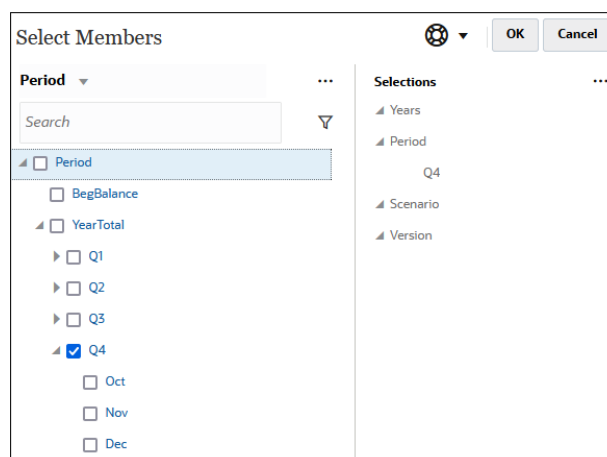
- ディメンションの横に入力を開始します。フィールドに、使用可能なオプションが自動移入されます。

たとえば、「期間」の横に"J"と入力した場合、ドロップダウンに"Jan"、"Jun"および"Jul"が表示されます。



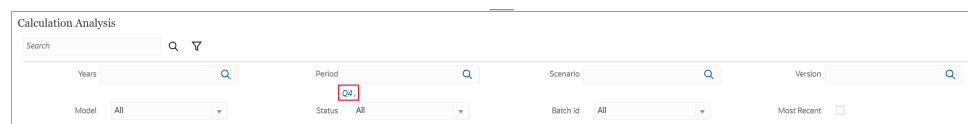
オプションを選択して結果をフィルタします。

- 「年」、「期間」、「シナリオ」または「バージョン」POV ディメンションの横にある **Q** をクリックして、「メンバーの選択」ダイアログ・ボックスからメンバーを選択します。(メンバー・セレクタの使用を参照してください。)



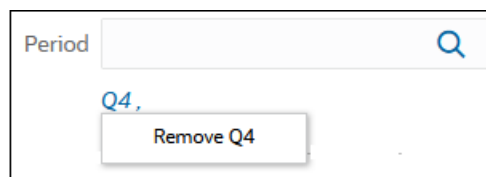
上位レベル・メンバーを選択すると、そのメンバーのすべてのレベル 0 子孫がフィルタに含まれることに注意してください。

フィルタとして使用するメンバーを選択すると、「計算分析」ページの POV ディメンションの下に表示されます。たとえば、「Q4」を選択して、表示される結果を 10 月、11 月および 12 月にフィルタした場合、「Q4」が「計算分析」ページの「期間」ディメンションの下に表示されます。

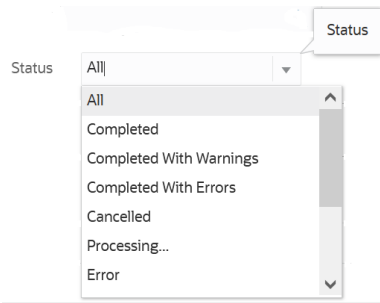


フィルタを削除するには、フィルタをクリックし「削除」をクリックします。

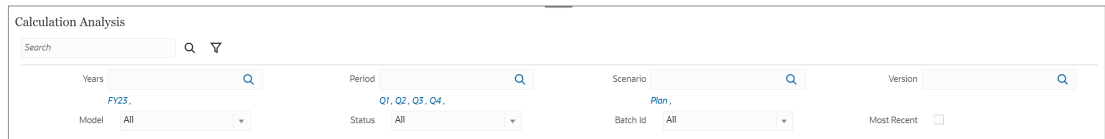
たとえば、「Q4」フィルタを削除するには、「Q4」をクリックして **Q4 の削除** をクリックします。



- 表示されている計算レコードのステータスをフィルタするには、「ステータス」フィールドをクリックしてオプションを選択します:



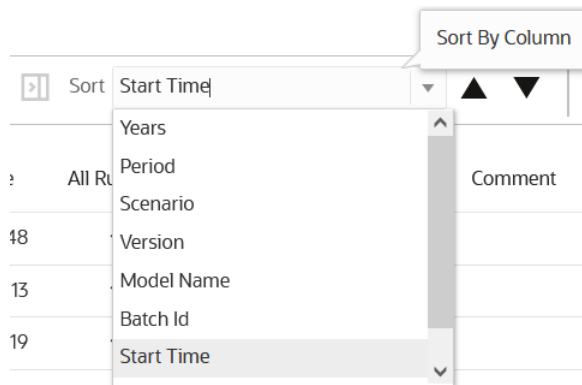
例として、23 会計年度の予測を作成している場合、その年度の 12 か月すべてのステータスを表示することがほとんどだと思います。この場合、「年」の「FY23」を選択し、「期間」の「Q1」、「Q2」、「Q3」および「Q4」を選択し、「シナリオ」の「プラン」を選択します。



フィルタ・オプションを非表示にするには、▼を再度クリックします。

ソート順の定義

計算レコードの表示順序を定義するには、ページの右上にあるドロップダウンをクリックし、ソート基準にする列を選択します。列を選択したら、▲または▼をクリックして、計算レコードを昇順または降順でソートできます。



表示されている計算レコードのリフレッシュ

ページに表示されている計算レコードをリフレッシュするには、🔄をクリックします。

計算統計サマリー・レポートの生成

計算統計サマリー・レポートでは、特定の計算レコードに関するすべての詳細が提供されます。

レポートの上部には、計算に関するサマリー情報が表示されます。サマリー情報に続いて、「ジョブ・ログ」に、モデルの計算時に発生したエラーや警告が表示されます。(エラーや警告がなかった場合、「ジョブ・ログ」セクションはレポートに表示されません。)この後に、実行されたルール・セットおよびルールに関する詳細情報が続きます。このレポートには、実行

されたすべてのルールおよびそれらが実行された順序とともに、各ルールに関する統計データが表示されます。

計算統計サマリー・レポートは、診断ツールとして使用できます。たとえば、このレポートを使用して、実行に最も長い時間を要しているルール、ルールの実行順序、ルールのサイズ、ルールが生成しているスクリプトの数、およびルールがデータを書き込んでいるセルの数に関する情報を確認することにより、パフォーマンスの問題をトラブルシューティングできます。

計算統計サマリー・レポートを生成するには:

1. ホーム・ページで、「モデリング」、「計算分析」の順に選択します。
2. 計算分析ページで、計算実行を選択します。
3. 「アクション」ドロップダウンをクリックし、「計算統計レポート」を選択します。
4. 「サマリー」を選択した後、フォーマットを選択します:
 - PDF
 - Excel
 - Word
 - HTML
 - XML

計算統計サマリー・レポートのサンプル

Calculation Statistics Report													ORACLE			
Application BksML40 POV Name FY21 Dec: Actual: What If 2 Model name 10 Actuals Allocation Process Clear Calculated Data true Run Calculation true Capture Debug Scripts false Optimize for Reporting true Calculation Type ALL_RULES Ruleset Range 0:0 Rule Name User Id epm_default_cloud_admin Job Id 326 Job Status COMPLETED Calculation Threads 1 Start Time 2022-05-16 10:39:32.167 End Time 2022-05-16 10:44:27.108 Elapsed Time 00:04:53																
Rule Set Name or Rule Name	RT	Iteration Number	Start Time	End Time	Elapsed Time (hh:mm:ss)	Generation Time (hh:mm:ss)	Calculation Time (hh:mm:ss)	Thread Number	Number of Rules	Number of Scripts	Potential Sources	Potential Destinations	Potential Allocations	Cells Updated		
Occupancy Expense Allocations		0	2022-05-16 10:41:52	2022-05-16 10:41:54	00:00:01			4822								
Utilities Expense Adjustment	CC	1	2022-05-16 10:41:52	2022-05-16 10:41:53	00:00:00	0:0:0	0:0:0	4822		1 of 1	1		0	1		
Rent and Utilities Reassignment	SDE	1	2022-05-16 10:41:53	2022-05-16 10:41:54	00:00:00	0:0:0	0:0:0	4822		1 of 1	2	28	56	30		
Manufacturing COGs Related Expense Assignment		0	2022-05-16 10:41:54	2022-05-16 10:41:54	00:00:00			4822								
Product Material Allocation	SDE	1	2022-05-16 10:41:54	2022-05-16 10:41:54	00:00:00	0:0:0	0:0:0	4822		1 of 1	6	42	252	32		
Activity Costing		0	2022-05-16 10:41:54	2022-05-16 10:41:55	00:00:00			4822								
Activity Costing Assignments	SDE	1	2022-05-16 10:41:54	2022-05-16 10:41:55	00:00:00	0:0:0	0:0:0	4822		1 of 1	135	3645	492075	270		
Support Activity Reciprocal Assignments and Charge Out to		0	2022-05-16 10:41:55	2022-05-16 10:43:08	00:01:13			4822								
5/16/2022 13:13 PM													http://den00bzk.us.oracle.com:9000 (22.06.32)		1 of 6	

 **Note:**

計算ルールを実行するたびに、計算統計サマリー・レポートの生成に使用される、実行に関する様々な統計がログに記録されます。多数のルールがあるモデルについては、これらの統計の量が急速に累積される可能性があります。計算実行が表示される計算分析ページの応答性を維持するために、**Enterprise Profitability and Cost Management** では、実行または統計の量が増えて特定のしきい値を超えると、古い計算実行レコードとそれらに関連する統計が自動的にパージされます。計算実行のより長い履歴を保持する場合、ベスト・プラクティスは、計算分析ページの「Excel にエクスポート」オプションを頻繁に使用して計算実行をアーカイブすることです。[計算分析について](#)を参照してください。

計算統計診断レポートの生成

計算統計診断レポートには、最大 5 つの計算レコードに関する診断情報が表示されます。このレポートには、ルールのパフォーマンスに関する問題の診断に役立つ可能性があるルールの実行の追加詳細が表示されます。

レポートは Excel 形式で印刷され、次の 2 つのワークシートがあります：

- ジョブ統計
- ルール統計

計算統計診断レポートを生成するには：

1. ホーム・ページで、「モデリング」、「計算分析」の順に選択します。
2. 計算分析ページで、最大 5 つの計算レコードを選択します。
3. 「アクション」ドロップダウンをクリックし、「計算統計レポート」を選択した後、「診断」を選択します。
4. ダウンロードした EngineStatisticsComparisonReport.xlsx ファイルを開きます。

ジョブ統計

ジョブ統計には、計算レコード・レベルの統計が表示され、それらの統計の一部が比較されます。ジョブ統計には、次のような情報が含まれます：

- ジョブ順序
- ジョブ ID
- ジョブ開始時間
- ジョブ終了時間
- ジョブ合計時間(分)
- ジョブ合計時間パーセント
- POV 名
- モデル名
- モデル・スナップショット時間

- ジョブ・ステータス
- EPM ビルド番号
- Essbase ビルド番号
- 計算スレッド
- Essbase クリア・タイプ
- 空でないタブ
- 計算データのクリア時間(分)
- 集約のクリア時間(分)
- ルール合計時間(分)
- スクラッチ・セルのクリア時間(分)
- スライスのマージ時間(分)
- 集計の作成時間(分)
- 生成時間(分)
- 実行時間(分)
- 配賦時間(分)
- カスタム計算時間(分)
- ドライバ問合せ時間(分)
- 部分的にクリアの時間(分)
- 更新されたセル
- 更新されたセルのパーセント
- ルールの数
- 完了ルール
- サブ・ルール
- 完了サブ・ルール
- SDE ルール
- CDE ルール
- SR ルール
- CR ルール
- CC ルール
- SASDD ルール
- スクリプト数
- 完了スクリプト
- 配賦スクリプト
- カスタム計算スクリプト
- ドライバ問合せ

- 部分的にクリアのスキ립ト
- 属性ディメンション
- 属性ディメンション・メンバー
- 属性アソシエーション
- ディメンション
- ディメンション・メンバー
- ディメンション・メンバー・クロス積
- ディメンション・メンバー・クロス積パーセント
- Essbase セッション前
- Essbase セッション後
- 入力セル開始
- 入力セル開始パーセント
- 増分入力セル開始
- 集約セル開始
- 入力セル終了
- 入力セル終了パーセント
- 増分入力セル終了
- 集約セル終了

サンプル・ジョブ統計

	A	B	C	D	E	F	G	H	I
1	Job Order	Job Id	Job Start Time	Job End Time	Job Total Time (min)	Job Total Time Percent	POV Name	Model name	Model Snapshot Time
2	1	19	2023-03-23 23:15:35.06	2023-03-23 23:18:25.774	2.83	18.91	FY21:May:Actual:Working	10 Actuals Allocation Process	2023-02-23 15:37:50.129
3	2	18	2023-03-23 23:15:35.052	2023-03-23 23:17:58.85	2.38	-20.13	FY21:Apr:Actual:Working	10 Actuals Allocation Process	2023-02-23 15:37:50.129
4	3	17	2023-03-23 23:15:35.043	2023-03-23 23:18:34.439	2.98	0	FY21:Mar:Actual:Working	10 Actuals Allocation Process	2023-02-23 15:37:50.129
5	4	16	2023-03-23 23:15:35.035	2023-03-23 23:18:34.502	2.98	0	FY21:Feb:Actual:Working	10 Actuals Allocation Process	2023-02-23 15:37:50.129
6	5	15	2023-03-23 23:15:35.025	2023-03-23 23:18:34.597	2.98	0	FY21:Jan:Actual:Working	10 Actuals Allocation Process	2023-02-23 15:37:50.129
7									
8									
9									
10									
11									
12									
13									
14									
15									
16									
17									
18									
19									
20									



Tip:

Excel スプレッドシートの下部にあるスクロール・バーを使用して、追加のジョブ統計を表示します。

ルール統計

ルール統計には、実行されたすべてのルールとそれらが実行された順序とともに、各ルールに関する統計データが表示されます。ルール統計には、次のような情報が含まれます:

- ルール順序
- ジョブ ID
- POV 名
- モデル名
- 開始時間
- 終了時間
- ルール・セット名
- ルール名
- 合計時間(分)
- 合計時間パーセント
- 生成時間(分)
- 生成時間パーセント
- 実行時間(分)
- 実行時間パーセント
- 実行時間 - 配賦計算(分)
- 実行時間 - カスタム計算(分)
- 実行時間 - ドライバ問合せ(分)
- 実行時間 - 部分的にクリア(分)
- 更新されたセル
- 更新されたセルのパーセント
- 潜在的なソース
- 潜在的なソースのパーセント
- 潜在的な宛先
- 潜在的な宛先のパーセント
- 潜在的な配賦
- 潜在的な配賦のパーセント
- スクリプト数
- 完了スクリプト
- 配賦スクリプト
- カスタム計算スクリプト
- ドライバ問合せ
- 部分的にクリアのスクリプト
- サブ・ルール
- 完了サブ・ルール

サンプル・ルール統計

	A	B	C	D	E	F	G
1	Rule Order	Job Id	POV Name	Model name	Start Time	End Time	Rule Set Name
2	1	19	FY21:May:Actual:Working	10 Actuals Allocation Process	2023-03-23 23:17:39.662	2023-03-23 23:17:50.771	Customer Product Region Profitability Calculation
3	2	18	FY21:Apr:Actual:Working	10 Actuals Allocation Process	2023-03-23 23:17:38.799	2023-03-23 23:17:39.215	Customer Product Region Profitability Calculation
4	3	17	FY21:Mar:Actual:Working	10 Actuals Allocation Process	2023-03-23 23:17:52.237	2023-03-23 23:18:07.499	Customer Product Region Profitability Calculation
5	4	16	FY21:Feb:Actual:Working	10 Actuals Allocation Process	2023-03-23 23:17:51.967	2023-03-23 23:18:07.512	Customer Product Region Profitability Calculation
6	5	15	FY21:Jan:Actual:Working	10 Actuals Allocation Process	2023-03-23 23:17:52.603	2023-03-23 23:18:07.526	Customer Product Region Profitability Calculation
7	6	19	FY21:May:Actual:Working	10 Actuals Allocation Process	2023-03-23 23:17:38.237	2023-03-23 23:17:38.638	Customer Product Region Profitability Calculation
8	7	18	FY21:Apr:Actual:Working	10 Actuals Allocation Process	2023-03-23 23:17:37.078	2023-03-23 23:17:38.772	Customer Product Region Profitability Calculation
9	8	17	FY21:Mar:Actual:Working	10 Actuals Allocation Process	2023-03-23 23:17:41.933	2023-03-23 23:17:52.218	Customer Product Region Profitability Calculation
10	9	16	FY21:Feb:Actual:Working	10 Actuals Allocation Process	2023-03-23 23:17:39.919	2023-03-23 23:17:51.943	Customer Product Region Profitability Calculation
11	10	15	FY21:Jan:Actual:Working	10 Actuals Allocation Process	2023-03-23 23:17:41.397	2023-03-23 23:17:52.582	Customer Product Region Profitability Calculation
12	11	19	FY21:May:Actual:Working	10 Actuals Allocation Process	2023-03-23 23:16:42.879	2023-03-23 23:17:38.205	Customer Product Region Profitability Calculation
13	12	18	FY21:Apr:Actual:Working	10 Actuals Allocation Process	2023-03-23 23:16:42.833	2023-03-23 23:17:37.046	Customer Product Region Profitability Calculation
14	13	17	FY21:Mar:Actual:Working	10 Actuals Allocation Process	2023-03-23 23:16:43.094	2023-03-23 23:17:41.912	Customer Product Region Profitability Calculation

Tip:

Excel スプレッドシートの下部にあるスクロール・バーを使用して、追加のルール統計を表示します。

モデル・スナップショット・ドキュメンテーション・レポートの生成

Enterprise Profitability and Cost Management では、モデルを計算した時点のスナップショットが保持されます。後でモデルを変更しても、各計算を生成したルールの完全なレコードは存在します。

モデル・スナップショット・ドキュメンテーション・レポートでは、モデルが計算された時点におけるモデル内のルールの履歴が出力されます。このレポートには、モデルで使用されるルールの名前とシーケンスが表示され、各ルールの目的についての説明が示されます。ルールのハイパーリンクをクリックすると、そのルールの詳細情報と実際のルール定義が表示されます。ハイパーリンクを使用すると、レポート内の異なる領域間を簡単に移動できます。たとえば、ルールおよびそれが実行されるシーケンスの概要から実際のルール定義に移動できます。

配賦プロセスを内部または外部の確認者および監査者に説明するために、レポートをローカルに保存して他のユーザーに配布したり、他のレポートに添付できます。

モデル・スナップショット・ドキュメンテーション・レポートを生成するには:

1. ホーム・ページで、「モデリング」、「計算分析」の順に選択します。
2. 計算分析ページで、目的の計算レコードを選択します。
3. 「アクション」ドロップダウンをクリックし、「モデル・ドキュメンテーション・レポート」を選択します。
4. モデル・スナップショット・ドキュメンテーションを選択した後、フォーマットを選択します:
 - PDF
 - Excel
 - Word
 - HTML

- XML

モデル・スナップショット・ドキュメンテーション・レポートのサンプル

Model Snapshot Documentation Report							ORACLE
Application : BksML40 Model name : 10 Actuals Allocation Process Description : Allocation program for Actuals allocations approved for 2021. Created By : epm_default_cloud_admin Creation Date : 02/01/2022 09:40:44 Modified By : epm_default_cloud_admin Modified Date : 02/01/2022 09:40:44 Model Context : Driver.NoDriver							
Rule Set Name	Rule Name	Rule Type	Sequence	Enabled	Use Context	Modified By Modified Date	Description
Occupancy Expense Allocations			1	Y	Y	epm_default_cloud_admin 02/01/2022 09:40:45	Occupancy expenses are reassigned from cost centers where the expenses are paid to the cost centers that use the facilities. A rule Set Context is defined for Activity, Product, Customer, and Region dimensions to select the 'No-dimname-' members. These dimensions are not meaningful in managing these rules.
Occupancy Expense Allocations	Utilities Expense Adjustment	Custom Calculation	1	Y	Y	epm_default_cloud_admin 02/01/2022 09:40:45	Increases Utilities Expenses by 10%.
Occupancy Expense Allocations	Rent and Utilities Reassignment	Allocation	2	Y	Y	epm_default_cloud_admin 02/01/2022 09:40:45	Rent and Utility expenses are reassigned from the Corporate cost center to the business function cost centers. A driver based on the square feet of each building used by each cost center is used to apportion the expenses.
Manufacturing COGS Related Expense Assignment			2	Y	Y	epm_default_cloud_admin 02/01/2022 09:40:45	Materials expenses that are not included in Cost of Goods sold are applied to products in this rule set. A rule set context for Activity, Customer, and Region dimensions is set to the 'No-dimname-' members as these dimensions do not used in these rules.
2/10/2022 14:56 PM http://den00bzk.us.oracle.com:9000 (22.02.63)							1 of 26

モデルの Utilities Expense Adjustment ルールに関する詳細情報

Model Snapshot Documentation Report					ORACLE
Rule Set Name : Occupancy Expense Allocations Rule Name : Utilities Expense Adjustment Use Rule Set Context : Y Rule Set Context : Activity.No Activity Customer.No Customer Product.No Product Calculation Mode : Serial Calculation Iterations :					
Destination	Context	Target	Result Dimension	Estimated Target Count	
Account		Utilities		1	
Activity	No Activity				
Customer	No Customer				
Driver	NoDriver				
Entity		Corporate		1	
Product	No Product				
PCM_Balance				0	
Formula : [PCM_Adjustment In] = ((PCM_Input],[PCM_Rule]) * .10;					
2/10/2022 14:56 PM http://den00bzk.us.oracle.com:9000 (22.02.63)					
6 of 26					

スナップショットと現在のモデルとの比較レポートの生成

スナップショットと現在のモデルとの比較レポートでは、計算された時点のモデルの定義が今日のモデルの定義と比較されます。

ルール・セットまたはルールのハイパーリンクをクリックして、そのルール・セットまたはルールに関する詳細情報を表示します。ハイパーリンクを使用すると、レポート内の異なる領域間を簡単に移動できます。

スナップショットと現在のモデルとの比較レポートを生成するには:

1. ホーム・ページで、「モデリング」、「計算分析」の順に選択します。

2. 計算分析ページで、目的の計算レコードを選択します。
3. 「アクション」ドロップダウンをクリックし、「モデル・ドキュメンテーション・レポート」を選択します。
4. 「現在のモデルとの比較」を選択した後、フォーマットを選択します:
 - PDF
 - Excel
 - Word
 - HTML
 - XML

スナップショットと現在のモデルとの比較レポートのサンプル

Compare Snapshot with Current Model Report		ORACLE							
Application	BksML40								
Model	10 Actuals Allocation Process - 03/22/2022 18:02:48				10 Actuals Allocation Process				
Global Context Members	Driver.NoDriver				Driver.NoDriver				
Rulesets not in other Model									
Rulesets with Differences	Customer Product Region Profitability Calculation								
Rule Set Name	Rule Name	Rule Type	Enabled	Enabled	Sequence	Sequence	Use Context	Use Context	
Customer Product Region Profitability Calculation			true	true	7	7	true	true	
Customer Product Region Profitability Calculation	Product COGS Assignment to Market Intersections	Allocation	true	true	2	2	true	true	
Rule Set Name : Customer Product Region Profitability Calculation									
Enabled	10 Actuals Allocation Process - 03/22/2022 18:02:48				10 Actuals Allocation Process				
Sequence	7				7				
Use Context	true				true				
Ruleset Context Members									
Rules not in other Model									
Rules with Differences	Product COGS Assignment to Market Intersections								
Rule Set Name: Customer Product Region Profitability Calculation									
Rule Name: Product COGS Assignment to Market Intersections									
Rule Type: Allocation									
Enabled	10 Actuals Allocation Process - 03/22/2022 18:02:48				10 Actuals Allocation Process				
	true				true				
5/16/2022 15:28 PM									
http://den00bzk.us.oracle.com:9000 (22.06.32)									
1 of 2									

モデル・スナップショットの比較レポートの生成

モデル・スナップショットの比較レポートでは、2つの異なる計算レコードについて計算されたモデルが比較されます。

このレポートでは、差異があるルール・セットおよびルールのサマリーが提供されます。ルール・セットまたはルールのハイパーリンクをクリックして、そのルール・セットまたはルールに関する詳細情報を表示します。ハイパーリンクを使用すると、レポート内の異なる領域間を簡単に移動できます。

モデル・スナップショットの比較レポートを生成するには:

1. ホーム・ページで、「モデリング」、「計算分析」の順に選択します。
2. 計算分析ページで、比較する計算レコードを選択します。
3. 「アクション」ドロップダウンをクリックし、「モデル・ドキュメンテーション・レポート」を選択します。
4. 「モデル・スナップショットの比較レポート」を選択した後、フォーマットを選択します:

- PDF
- Excel
- Word
- HTML
- XML

モデル・スナップショットの比較レポートのサンプル

Compare Model Snapshots Report		ORACLE						
Application	BksML40							
Model	10 Actuals Allocation Process - 05/17/2022 18:41:55	10 Actuals Allocation Process - 03/22/2022 18:02:48						
Global Context Members	Driver.NoDriver							
Rulesets not in other Model								
Rulesets with Differences	Product Sustaining Activity Charge Out,Manufacturing COGs Related Expense Assignment Occupancy Expense Allocations,Support Activity Reciprocal Assignments and Charge Out to Direct Cost Centers,Customer Product Region Profitability Calculation,Customer Sustaining Activity Charge Out,Activity Costing							
10 Actuals Allocation Process - 05/17/2022 18:41:55 vs 10 Actuals Allocation Process - 03/22/2022 18:02:48								
Rule Set Name	Rule Name	Rule Type	Enabled	Enabled	Sequence	Sequence	Use Context	Use Context
Occupancy Expense Allocations			true	true	1	1	true	true
Manufacturing COGs Related Expense Assignment			true	true	2	2	true	true
Activity Costing			true	true	3	3	true	true
Support Activity Reciprocal Assignments and Charge Out to Direct Cost Centers			true	true	4	4	true	true
Product Sustaining Activity Charge Out			true	true	5	5	true	true
Customer Sustaining Activity Charge Out			true	true	6	6	true	true
Customer Product Region Profitability Calculation			true	true	7	7	true	true
Customer Product Region Profitability Calculation	Product COGS Assignment to Market Intersections	Allocation	true	true	2	2	true	true

Occupancy Expense Allocations ルール・セットに関する詳細情報

Compare Model Snapshots Report		ORACLE	
Rule Set Name : Occupancy Expense Allocations			
Enabled	10 Actuals Allocation Process - 05/17/2022 18:41:55	10 Actuals Allocation Process - 03/22/2022 18:02:48	
Sequence	1	1	
Use Context	true	true	
Ruleset Context Members	Activity.NoActivity,Customer.NoCustomer,Product.NoProduct	Activity.NoActivity,Customer.NoCustomer,Product.NoProduct	
Rules not in other Model			
Rules with Differences	Rent and Utilities Reassignment		

スナップショットからのモデルの作成

このオプションを使用して、既存のスナップショットから新しいモデルを作成します。たとえば、数か月前からのモデルがあり、時間が経過していくつかのルールが変更された場合、新しいモデルを作成し、最初にモデルを計算したときの状態にルールを復元できます。

スナップショットからモデルを作成すると便利な他のシナリオは、昨年のルールを計算した場合に結果が今日ではどのようになるかを比較する必要がある場合や、昨年のデータおよびルールを復元し、変更を加える必要がある場合です。

スナップショットから新しいモデルを作成するには:

1. ホーム・ページで、「モデリング」、「計算分析」の順に選択します。
2. 計算分析ページで、目的の計算レコードを選択します。

3. 「アクション」ドロップダウンをクリックし、「スナップショットからモデルを作成」を選択します。
4. 「スナップショットからモデルを作成」ダイアログ・ボックスで、新しいモデルの名前を入力し、「OK」をクリックします。

コメントの編集

モデルを計算するときに、「計算の実行」ジョブに関するノートまたはコメントを入力するオプションがあります。必要に応じて、このコメントを後で編集できます。

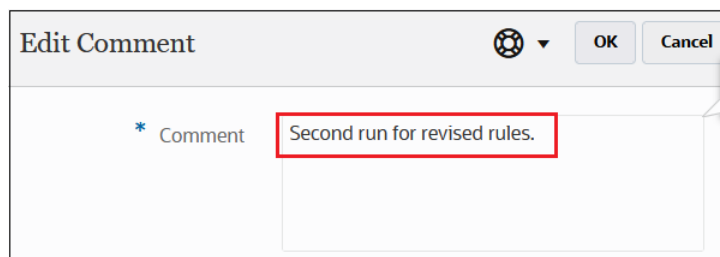
たとえば、初期のコメントが「残高チェックの改訂済ルールを使用した初回実行」のようなものだったとします。モデルを再度計算するときに、そのコメントを編集して情報を追加できます。これにより、計算を操作するときに進捗を追跡できます。


Note:


単一の計算実行のコメントを編集することも、複数の計算実行のコメントを一度に編集することもできます。

コメントを編集するには:

1. ホーム・ページで、「モデリング」、「計算分析」の順に選択します。
2. 計算分析ページで、目的の計算レコードを選択します。
3. 「アクション」ドロップダウンをクリックし、「コメントの編集」を選択します。
4. 「コメントの編集」ダイアログ・ボックスで、コメントのテキストを入力し、「OK」をクリックします。



5.  をクリックして、表示をリフレッシュします。

計算レコードを再度選択し、 をクリックして、編集されたコメントを表示します。

Sort Start Time	
10 Actuals Allocation Process	
Job Id	326
Start Time	05/16/2022 10:39 AM
End Time	05/16/2022 10:44 AM
Elapsed Time	00:04:54
Status	Completed
Model Snapshot Time	03/22/2022 11:02 AM
Processed Rules / Total Rules	21 / 21
Comment	Second run for revised rules.
All Rules	Yes

計算の再実行

計算を再実行するには:

1. ホーム・ページで、「モデリング」、「計算分析」の順に選択します。
2. 計算分析ページで、目的の計算レコードを選択します。
3. 「アクション」ドロップダウンをクリックし、「計算の再実行」を選択します。
4. 「計算の再実行」ダイアログ・ボックスで、計算を再実行する理由を説明するコメントを入力し、「OK」をクリックします。

このコメントは、「ジョブ」コンソールからアクセスする「ジョブの詳細」に表示されます。

5. オプション: 「ジョブ」コンソールに移動して、ジョブが正常に完了したことを確認します。

「計算の実行」ジョブは、「ジョブ」コンソールに「完了」または「エラーで完了」ステータスとともに表示されます。ジョブを選択して、ジョブについての詳細を表示したり、発生したエラーをトラブルシューティングすることができます。(「計算の実行」ジョブの表示を参照してください)。

Note:

計算の再実行では、計算レコードに格納されているスナップショットではなく、現在のモデル定義を使用します。

フィードバックの提供

計算を分析するとき、「**診断のエクスポート**」ジョブで最大 2 つの計算レコードのフィードバックを送信するオプションがあります。フィードバックには、選択したジョブの計算統計レポート([計算統計サマリー・レポートの生成](#)を参照)およびモデル・スナップショット・ドキュメンテーション・レポート([モデル・スナップショット・ドキュメンテーション・レポートの生成](#)を参照)が含まれます。これは、計算実行の問題を Oracle サポートとトラブルシューティングしている場合に役立ちます。

「**フィードバックの提供**」オプションを選択するには:

1. ホーム・ページで、「**モデリング**」、「**計算分析**」の順に選択します。
2. **計算分析** ページで、最大 2 つの計算レコードを選択します。
3. 「**アクション**」ドロップダウンをクリックし、「**フィードバックの提供**」を選択します。
4. 「**確認**」ダイアログ・ボックスで「**OK**」をクリックします。
5. 「**情報**」ダイアログ・ボックスで「**OK**」をクリックします。
6. 「**診断のエクスポート**」ジョブが「**ジョブ**」コンソールに作成されます。「**診断のエクスポート**」ジョブをクリックします。

フィードバック情報が「**診断のエクスポート**」ジョブの「**ジョブの詳細**」画面に表示されます。

The screenshot displays the 'Job Details' page for a job with ID 7. The job is of type 'Export Diagnostics' and was created by 'epm_default_cloud_admin'. It is currently in a 'Completed' status, having started on 1/23/23 at 6:23:13 PM and ending at 6:23:17 PM. A message box indicates that the job completed successfully. Below this, a table shows the 'Model Run U I Ds' for the job, with a 'Provide Feed Back' option set to 'true'. At the bottom, a message log shows an 'Info' message with the text: 'Feedback reference is UDR_default_epm_default_cloud_admin_2023_01_24_01_23_17'.

Job Id	7	Job Status	Completed
Job Type	Export Diagnostics	Start Time	1/23/23 6:23:13 PM
Name	EXPORT_DIAGNOSTICS	End Time	1/23/23 6:23:17 PM
Created By	epm_default_cloud_admin	Details	The job 'EXPORT_DIAGNOSTICS' of type 'Export Diagnostics' completed successfully.

Model Run U I Ds	165ce6f0-5dcc-4cb5-8577-a66ea9c58428,a6e59f85-e852-4c02-af5f-bccd4fd2060a
Provide Feed Back	true

Message Type	Message
Info	Feedback reference is UDR_default_epm_default_cloud_admin_2023_01_24_01_23_17

13

ルール・バランシング・レポートの表示

関連トピック

- [ルール・バランシングについて](#)
- [ルール・バランシングのデータ・フォームの設計](#)
- [ルール・バランシング・データ・フォームの設計に関するベスト・プラクティス](#)
- [ルール・バランシング・レポートの生成](#)

ビデオ

目的

「計算分析」画面でモデル計算をトラブルシューティングするレポートを実行する方法と、「ルール・バランシング」画面を使用してモデル計算を分析する方法を学習します。

視聴するビデオ



[Enterprise Profitability and Cost Management](#) におけるモデル計算の分析およびトラブルシューティング

ルール・バランシングについて

各ルールとその影響が表示される**ルール・バランシング** ページで結果を検証します。このページを使用して、計算結果を上位レベルでルールごとに確認します。このようにルールの進行をトップダウンで確認することにより、データが正しく配賦されていない可能性がある場所を識別できるため、それに応じてルール定義を調整できます。ルール・バランシングを使用すると、ビジネス上の意思決定に関する有用なインサイトを得ることができます。

ルール・バランシングのデータ・フォームの設計



ルール・バランシング・レポートを生成する前に、「**ルール・バランシング**」ページに表示される結果を生成するために使用されるデータ・フォームを最初に設計する必要があります。(ルール・バランシング・データ・フォームの設計に関するベスト・プラクティスを参照してください。)

 **Tip:**

Enterprise Profitability and Cost Management には、ルール・バランシングのデフォルトのデータ・フォーム「ルール・バランシング - デフォルト」が含まれています。デフォルトのフォームをそのまま使用することも、テンプレート・レイアウトとして使用して必要に応じてカスタマイズすることもできます。

アプリケーションを最初に作成するときに、「フォーム」ページで「ルール・バランシング - デフォルト」フォームを開いて再保存する必要があります。再保存しなかった場合、フォームの使用時にエラーが表示されます。新しいディメンションが追加されるたびに、フォームを開いて再保存し、新しいディメンションへの移入を行う必要があります。

ルール・バランシングのデータ・フォームを設計するには:

1. 「ナビゲータ」アイコン  をクリックし、「作成および管理」で、「フォーム」をクリックします。
2.  (「作成」) をクリックします。
3. 「プロパティ」タブで、80 文字までの名前、および 255 文字までのオプションの説明を入力します。
4. フォームに関連付ける「キューブ」を選択します。
5. フォームのレイアウトを定義します。

ルール・バランシングのデータ・フォームを作成するときには、視点ディメンション、ビジネス・ディメンション、属性ディメンションおよびシステム・ディメンションについて特定の値を定義します。(Enterprise Profitability and Cost Management のディメンションおよびメンバーについてを参照してください。)

 **Note:**

ルール・バランシングは、フォーム定義でのページ・レベルのディメンションをサポートしていません。その結果、フォームの「レイアウト」タブの「ページ」セクションで選択されたディメンションは POV ディメンションとして扱われ、ページ・ディメンションのメンバー選択は無視されます。

Balancing - All Steps

Properties Layout Other Options Business Rules

Point of View

Jan	
Actual	
NoDriver	
NetIncome	
All_Entities	

FY21	
Working	
Customer	
Activity	
Product	

Page

Attribute Dimensions

Delivery Zone	Location
Sales Rep	Store Setting

Columns

A

ILvIODescendants(PCM_Net Balance)

Rows

1 ILvIODescendants(PCM_Rule)

ただし、「ルール・バランスング」グリッドでは、異なる視点の値を選択して、フォームの設計で指定した値を動的に上書きできます。

Rule Balancing

Years: FY21 | Period: Feb | Scenario: Actual | Version: Working | Status: Draft

Refresh

Cube: PCM_CLC | Data Form: Balancing - All Steps

Rule	Input	Adjustment In	Adjustment Out	Allocation In	Allocation Out	Balance	Running Balance	Remainder	Running Remainder	Net Change	Allocation
BegBalance											
Jan											
Feb											
PCM_NoRule	807,762.3	0.01		0.01	0.01	807,762.3	807,762.3	807,762.3	807,762.3	0.01	
Occupancy Exp	0.01	-220,000		-8,420,000	8,420,000	-220,000	587,762.3	-220,000	587,762.3	-220,000	
Utilities Exp	0.01	-220,000		0.01	0.01	-220,000	587,762.3	-220,000	587,762.3	-220,000	
Jun											
Rent and Ut	0.01	0.01		-8,420,000	8,420,000	0.01	587,762.3	0.01	587,762.3	0.01	
Manufacturing	0.01	0.01		-14,226,679.5	14,226,679.5	0.01	587,762.3	0.01	587,762.3	0.01	
Product Mgt	0.01	0.01		-14,226,679.5	14,226,679.5	0.01	587,762.3	0.01	587,762.3	0.01	
Activity Costing	0.01	0.01		-16,696,185	16,696,185	0.01	587,762.3	0.01	587,762.3	0.01	
Activity Costing Assignments	0.01	0.01		-16,696,185	16,696,185	0.01	587,762.3	0.01	587,762.3	0.01	
Support Activity Reciprocal Assignments and Charge Out to Direct Cost Centers	0.01	0.01		-6,155,834.6	6,155,834.6	0.01	587,762.3	0.01	587,762.3	0.01	
Total	807,762	-220,000		-93,177,748	93,177,748	587,762		587,762		-220,000	

Rule Balancing | Analyze Balancing - All Steps | Edit: Balancing - All Steps

また、分析ページでは、すべての視点およびビジネス・ディメンションについて異なる値を選択できます。

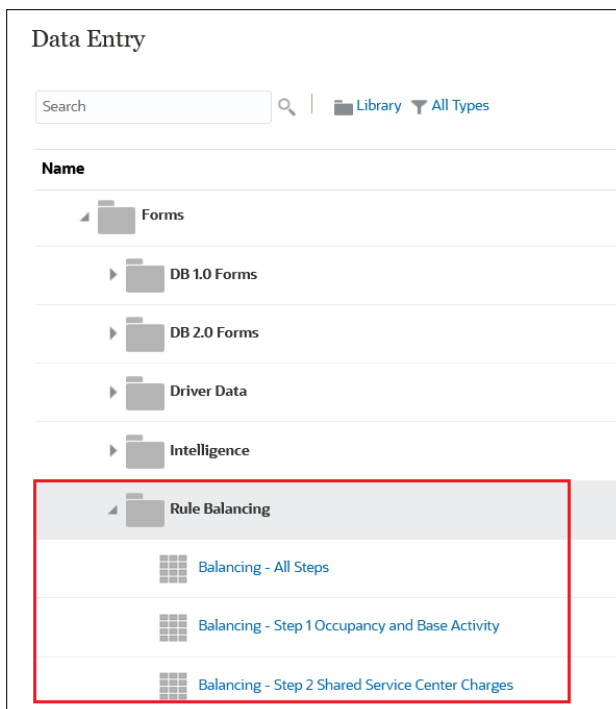
Period	Years	Scenario	Version	Driver	Customer	Account	Activity	Entity	Product
Jan	FY21	Actual	Working	NoDriver	Customer	Net Income	Activity	All Entities	Product
					Customer				
					Member Selector ...				
NoRule		Input	Adjustment In	Adj	BB100-018		Allocation Out		
		409,197.65	#missing				#missing		
Utilities Expense Adjustment		#missing	-440,000		BB100-058		#missing		
Rent and Utilities Reassignment		#missing	#missing		BB100-085		8,640,000.00		
Product Material Allocation		#missing	#missing		BB100-106		14,300,142		
Activity Costing Assignments		#missing	#missing		BB100-115		16,916,500		
Executive Office Support Activity Cl		#missing	#missing		BB100-119		1,685,000		
Facilities Support Activity Charge C		#missing	#missing		BB100-125		918,952.18		
Finance Support Activity Charge Ou		#missing	#missing		BB100-125		1,340,588.74		
HR Support Activity Charge Out		#missing	#missing		BB100-261		900,001.99		
IT Support Activity Charge Out		#missing	#missing		#missing	-1,344,692.1	1,344,692.1		
Marketing Activity Assignment		#missing	#missing		#missing	-1,543,175.39	1,543,175.39		
Shipping Activity Assignment		#missing	#missing		#missing	-2,013,285.96	2,013,285.96		
Assembly Activity Assignment		#missing	#missing		#missing	-5,432,691.22	5,432,691.22		
Machining Activity Assignment		#missing	#missing		#missing	-2,337,366.64	2,337,366.64		
Finishing Activity Assignment		#missing	#missing		#missing	-988,448.87	988,448.87		
Quality Assurance Activity Assignm		#missing	#missing		#missing	-1,111,111.11	1,111,111.11		

Note:

データ・フォームの作成の詳細は、*Planning* の管理の [フォームの作成](#) を参照してください。

ルール・バランシング・データ・フォームの設計に関するベスト・プラクティス

- データの入力ページで、すべてのルール・バランシング・フォームを格納できる「ルール・バランシング」フォルダを「フォーム」フォルダの下に作成します。(データの入力ページにアクセスするには、ホーム・ページで「データ」カードをクリックします。)
- 見つけやすいように、すべてのルール・バランシング・データ・フォームの名前の先頭を *Balancing* という単語にします。

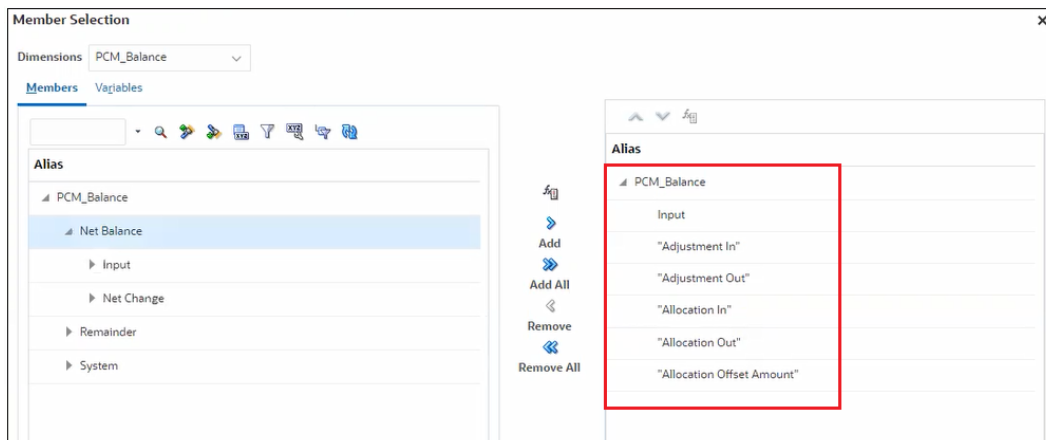


- すべてのルールを含み、「入力」、「調整(入)」、「調整(出)」、「配賦(入)」、「配賦(出)」および「配賦オフセット金額」メンバーを列として含むデータ・フォームを作成します。この初期フォームでは、できるかぎり多くのデータがルール・バランシング・ビューに表示されるようにします。

「ルール・バランシング」グリッドでは、行は常にルールです。PCM_Rule システム・ディメンションのレベル 0 子孫を選択して、データ・フォームの行を定義します。



「ルール・バランシング」グリッドでは、列は常に残高メンバーです。PCM_Balance ディメンションで純残高に次のメンバーを追加して、データ・フォームの列を定義します:



次に、指定した PCM_Net Balance メンバーのレベル 0 子孫を選択します。

Enterprise Profitability and Cost Management に同梱されている BksML50 サンプル・アプリケーションでは、**Balancing - All Steps** と呼ばれるデータ・フォームが次のように設定されています。このデータ・フォームでは、最上位の「顧客」、「アクティビティ」および「製品」ディメンションを選択して、これらのディメンションの最上位までロールアップされたデータがルール・バランスング・レポートに表示されるようにしました。

このデータ・フォームの結果として作成されたルール・バランスング・レポートは、次のように表示されます：

Rule	Input	Adjustment In	Adjustment Out	Allocation In	Allocation Out	Balance	Running Balance	Remainder	Running Remainder	Net Change	Allocation Offset Amount
Occupancy Expense Allocations	0.01	-200,000		-8,400,000	8,400,000	-200,000	587,962.5	-200,000	587,962.5	-200,000	
Utilities Expense Adjustment	0.01	-200,000		0.01	0.01	-200,000	587,962.5	-200,000	587,962.5	-200,000	
Rent and Utilities Reassignment	0.01	0.01		-8,400,000	8,400,000	0.01	587,962.5	0.01	587,962.5	0.01	
Manufacturing COGs Related Expense Assignment	0.01	0.01		14,226,679.5	14,226,679.5	0.01	587,962.5	0.01	587,962.5	0.01	
Product Material Allocation	0.01	0.01		14,226,679.5	14,226,679.5	0.01	587,962.5	0.01	587,962.5	0.01	
Activity Costing	0.01	0.01		-9,696,985	9,696,985	0.01	587,962.5	0.01	587,962.5	0.01	
Activity Costing Assignments	0.01	0.01		-9,696,985	9,696,985	0.01	587,962.5	0.01	587,962.5	0.01	
Support Activity Reciprocal Assignments and Charge Out to Direct Cost Centers	0.01	0.01		-6,955,854.6	6,955,854.6	0.01	587,962.5	0.01	587,962.5	0.01	
Executive Office Support Activity Charge Out	0.01	0.01		-1,685,000	1,685,000	0.01	587,962.5	0.01	587,962.5	0.01	
Facilities Support Activity Charge Out	0.01	0.01		-92,778.1	92,778.1	0.01	587,962.5	0.01	587,962.5	0.01	
Finance Support Activity Charge Out	0.01	0.01		-1,531,254.5	1,531,254.5	0.01	587,962.5	0.01	587,962.5	0.01	
HR Support Activity Charge Out	0.01	0.01		-895,584.9	895,584.9	0.01	587,962.5	0.01	587,962.5	0.01	
IT Support Activity Charge Out	0.01	0.01		-1,531,460.7	1,531,460.7	0.01	587,962.5	0.01	587,962.5	0.01	
Product Sustaining Activity Charge Out	0.01	0.01		-15,174,792.4	15,174,792.4	0.01	587,962.5	0.01	587,962.5	0.01	
Total		807,962	-200,000	-98,97348	98,97348	587,962	587,962		587,962		-200,000

- 追加のデータ・フォームを作成して、モデルの特定の部分に影響するルールに焦点を絞ることができるように、ルール・バランスング・レポートに表示されるルールを制限します。

BksML50 サンプル・アプリケーションでは、**Balancing - Step 1 Occupancy and Base Activity** データ・フォームは、賃借料に関連するルールと基本アクティビティ・ルールのみを表示するように設定されています。このデータ・フォームでは、

NoCustomer、**NoActivity** および **NoProduct** メンバーでビューをそれらのルールのみ
に制限しました。メンバー選択を変更して、さらに限定することにより、ルール・バラン
シング・ビューを制限できます。

Balancing - Step 1 Occupancy and Base Activity

Properties Layout Other Options Business Rules

Jan FY21
Actual Working
NoDriver NoCustomer
Operating Expenses NoActivity
All_Entities NoProduct

Page

Attribute Dimensions
Delivery Zone Location
Sales Rep Store Setting

Columns
A
ILvl0Descendants(PCM_Net Balance)

Rows
1 ILvl0Descendants(PCM_Rule)

このデータ・フォームの結果として作成されたルール・バランシング・レポートは、次の
ように表示されます:

Rule Balancing

Years: FY21 Period: Feb Scenario: Actual Version: Working Status: Draft

Cube: PCM_CLC Data Form: Balancing - Step 1 Occu ...

Rule	Input	Adjustment In	Adjustment Out	Allocation In	Allocation Out	Balance	Running Balance	Remainder	Running Remainder	Net Change	Allocation Offset Amount
PCM_NetRule	16,476,385	0.01		0.01	0.01	16,476,385	16,476,385	16,476,385	16,476,385	0.01	
Occupancy Expense Allocations		220,000		8,420,000	-8,420,000	220,000	16,696,385	220,000	16,696,385	220,000	
Utilities Expense Adjustment		220,000		0.01	0.01	220,000	16,696,385	220,000	16,696,385	220,000	
Rent and Utilities Reassignment		0.01	0.01	8,420,000	-8,420,000	0.01	16,696,385	0.01	16,696,385	0.01	
Activity Costing		0.01	0.01	0.01	-16,696,385	-16,696,385	0.01	-16,696,385	0.01	-16,696,385	
Activity Costing Assignments		0.01	0.01	0.01	-16,696,385	-16,696,385	0.01	-16,696,385	0.01	-16,696,385	
Total	16,476,385	220,000		8,420,000	-25,916,385	0.01		0.01		-16,476,385	

ルール・バランシング・レポートの生成

ルール・バランシング・レポートを生成するには:

1. ホーム・ページで、「モデリング」、「ルール・バランシング」の順に選択します。
2. **ルール・バランシング**・ページで、ドロップダウンをクリックし、「キューブ」を選択します。
3. **ルール・バランシング**・ページに表示される結果を生成するために使用されるデータ・フォームを選択します。

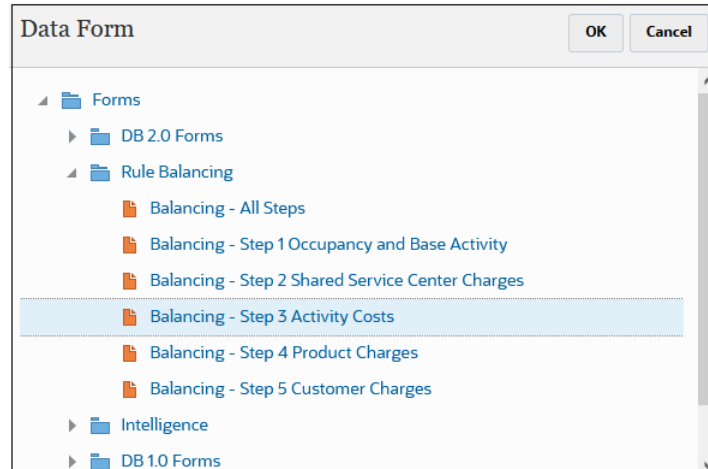
直近に選択したデータ・フォームが表示されます。別のデータ・フォームを選択するには、既存のデータ・フォームをクリックして「データ・フォーム」ダイアログ・ボックスを開き、目的のフォームに移動します。

たとえば、データ・フォームを「Balancing - All Steps」から「Balancing - Step 3 Activity Costs」に変更するとします。これを行うには:

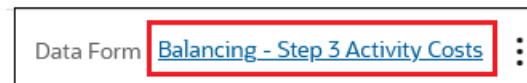
- **ルール・バランシング**・ページで、既存の「Balancing - All Steps」フォームのリンクをクリックします。




- 「データ・フォーム」ダイアログ・ボックスで、目的のフォームに移動し、フォームを選択して、「OK」をクリックします。



選択したフォームがルール・バランシング・ページに表示されます。



データ・フォームの横にある  をクリックして、そのフォームを分析または編集できます。(ルール・バランシングのデータ・フォームの設計を参照してください。)

Tip:

Enterprise Profitability and Cost Management には、ルール・バランシングのデフォルトのデータ・フォーム「ルール・バランシング - デフォルト」が含まれています。デフォルトのフォームをそのまま使用することも、テンプレート・レイアウトとして使用して必要に応じてカスタマイズすることもできます。

4. 「年」、「期間」、「シナリオ」および「バージョン」POV ディメンションのオプションを選択して、分析する視点を指定します。
5. 「リフレッシュ」をクリックして、ルール・バランシング情報を生成します。

Enterprise Profitability and Cost Management に付属の BksML50 サンプル・アプリケーションのデータを使用して生成されたルール・バランシング・レポートのサンプルを次に示します。(サンプル・アプリケーションへのアクセス方法の詳細は、[サンプル・アプリケーションの作成](#)を参照してください。)

Rule Balancing												
Years	Period	Scenario	Version	Status	Cube				Data Form			
FY22	Feb	Actual	Working	Draft	PCM_CLC				Balancing - All Steps			
Rule	Input	Adjustment In	Adjustment Out	Allocation In	Allocation Out	Balance	Running Balance	Remainder	Running Remainder	Net Change	Allocation Offset Amount	
Preprocessing Currency Translation	798416	0.00		0.00	0.00	798416	798416	798416	798416	0.00	0.00	
Occupancy Expense Allocations	0.00	-220000		-8420000	8420000	-220000	578416	8200000	578416	-220000	8420000	
Utilities Expense Adjustment	0.00	-220000		0.00	0.00	-220000	578416	-220000	578416	-220000	0.00	
Rent and Utilities Reassignment	0.00	0.00		-8420000	8420000	<0.01	578416	8420000	578416	<0.01	8420000	
Manufacturing COGs Related Expense Assignment	0.00	0.00		-14246479.5	14246479.5	0.00	578416	0.00	578416	0.00	0.00	
Product Material Allocation	0.00	0.00		-14226479.5	14226479.5	0.00	578416	0.00	578416	0.00	0.00	
Equipment Depreciation Allocation to Products	0.00	0.00		-20000	20000	0.00	578416	0.00	578416	0.00	0.00	
Activity Costing	0.00	0.00		-16705531.2	16705531.2	0.00	578416	0.00	578416	0.00	0.00	
Activity Costing Assignments	0.00	0.00		-16705531.2	16705531.2	0.00	578416	0.00	578416	0.00	0.00	
Support Activity Reciprocal Assignments and Charge Out to Direct Cost Centers	0.00	0.00		-6155834.6	6155834.6	0.00	578416	0.00	578416	0.00	0.00	
Executive Office Support Activity Charge Out	0.00	0.00		-1685000	1685000	0.00	578416	0.00	578416	0.00	0.00	
Facilities Support Activity Charge Out	0.00	0.00		-9127781	9127781	0.00	578416	0.00	578416	0.00	0.00	
Finance Support Activity Charge Out	0.00	0.00		-1331254.6	1331254.6	0.00	578416	0.00	578416	0.00	0.00	
HR Support Activity Charge Out	0.00	0.00		-895534.9	895534.9	0.00	578416	0.00	578416	0.00	0.00	
Total	798416	-220000		-93185787	93185787	578416		8998416		-220000	8420000	

ルール・バランシング・レポートを生成したら、次のことができます:

-  (「Excel にエクスポート」)をクリックして、ルール・バランシング・レポートを Excel スプレッドシートにエクスポートします。
-  (「ルール定義の表示」)をクリックして、ルールの完全なルール定義を表示します。[ルール定義の表示](#)を参照してください。
-  (「ルール・データの表示(アドホック・グリッド)」)をクリックして、特定のルールの結果を対象とする事前構成済のデータ・スライスを分析できるアド・ホック・グリッドを作成します。データ入力および分析のためのアド・ホックの使用を参照してください。
-  (「ルール・データの表示(Smart View)」)をクリックして、コンテキスト依存のアド・ホック・レポートを Oracle Smart View for Office で開きます。たとえば、配賦の影響を受けたエンティティを確認する必要がある場合に、**Smart View** を開き、結果にコンテキストを追加したり、詳細にドリルダウンしたり、データをピボットすることができます。**Smart View** のダウンロード方法と使用方法の詳細は、[Smart View のダウンロードおよびインストール](#)および [Smart View を使用したアプリケーション・メタデータのインポートおよび編集](#)を参照してください。

Part IV

データの分析

関連トピック

- レポートの操作
- ダッシュボードの操作
- インフォレットでの主な情報の表示
- データ入力および分析のためのアド・ホックの使用
- 利益曲線の操作
- 配賦のトレース
- [Smart View](#) を使用したアプリケーション・メタデータのインポートおよび編集

ビデオ

目的	視聴するビデオ
Enterprise Profitability and Cost Management でデータを分析するためのあらゆる方法の概要を把握します。	 Enterprise Profitability and Cost Management でのデータの分析

フォームでのデータの操作

Related Topics

- [フォームへのデータの入力](#)
- [フォーム・バージョンについて](#)
- [フォームを開く](#)
- [フォーム 1.0 での操作](#)
- [操作する様々なデータの選択](#)
- [フォームの色の理解](#)
- [フォームでのサーバー・ステータスの表示](#)
- [フォームでの迅速なナビゲート](#)
- [データ操作の基本](#)
- [データの入力について](#)
このトピックでは、データの入力と保存に関するいくつかのヒントを示します。
- [様々な種類のデータの入力](#)
- [コマンドを使用したデータの迅速な入力](#)
- [フォームでの検索](#)
- [セル範囲の選択](#)
- [データのコピーおよび貼付け](#)
フォーム内でのデータのコピー、あるフォームから別のフォームへのコピー、Microsoft Excel のような他の製品からのコピーもできます。
- [ユーザー変数の動的設定](#)
管理者により、少なくとも 1 つのユーザー変数を含むフォームが設定されており、動的なユーザー変数を使用可能になっている場合、フォームで直接ユーザー変数値を選択および変更できます。
- [フォームでのデータの使用](#)
フォームでの作業時に、様々な方法でデータの有用性を向上できます。
- [値を操作するその他の方法](#)
データを操作する簡単な方法です。
- [抑制または除外されたメンバーに対するデータの入力](#)
フォームでは、ユーザーはフォーム内の行ディメンションのドロップダウン・リストから直接メンバーを選択して、そのメンバーのデータを入力および保存できます。
- [最新データの取得](#)
- [データの計算について](#)
データを入力すると、値は自動的に合計されます。データを計算する他の方法は、次のとおりです。

- **合計の計算方法**
値の小計および合計を出す方法は次のとおりです:
- **データの確認**
様々な方法でデータを確認および分析できます。
- **データの表示方法のカスタマイズ**
たとえば、フォーマットやデータのない行および列の非表示などを指定して、フォームでのデータの表示方法をカスタマイズできます。
- **フォーマットによるデータの強調**
フォームとアド・ホック・グリッドでは、様々なフォーマット・オプションによって特定のデータを強調できます。
- **データなしまたはゼロの行または列の非表示**
フォーム内のデータを簡潔にするため、データがないかまたはゼロの行を非表示にできます。
- **データのないセルについて**
セル内の#MISSING は、セルにデータが含まれないことを示しますが、セル内のゼロはデータ値です。
- **データの印刷**
Adobe Acrobat Reader 5.0 がコンピュータにインストールされている場合、フォーム内のデータを PDF ファイルとして出力し、そのフォーマットをカスタマイズできます。
- **データ操作についての詳細**
- **メンバー式の表示**
管理者は、メンバー式を設定して、メンバーの計算を実行できます。
- **Excel でのビジネス・プロセス・データの操作**
Microsoft Excel の操作に精通している場合は、Oracle Smart View for Office でビジネス・プロセス・データを操作できます。
- **ビジネス・プロセスでの独自の Excel 式の使用**
Oracle Smart View for Office のアド・ホック分析では、他のデータに影響を与えず即座に計算する独自の Excel 式およびメンバーを作成できます。このスマート・フォームをビジネス・プロセスで開き、Smart View で作成した計算を実行できます。
- **Web フォームでの Smart View のフォーマットについて**
管理者がフォームを設定した方法に応じて、Oracle Smart View for Office に保存したセルのフォーマットがフォームに表示されることがあります。
- **Microsoft Excel とビジネス・プロセス・フォームの間でのデータのコピーおよび貼付け**
ビジネス・プロセスにデスクトップからアクセスしている場合は、Microsoft Excel とフォームの間でデータをコピーして貼り付けることができます。
- **Microsoft Excel へのデータのエクスポート**
フォームから Microsoft Excel にデータをエクスポートすることにより、値をコピーしてビジネス・プロセスに貼り付ける前に、Excel で "what-if" シナリオを確認できます。
- **ソース・データへのドリルスルー**
管理者は、データ統合またはビジネス・プロセスのインポートおよびエクスポート機能を使用して、ソースからデータをロードできます。ドリルスルーしてデータ・ソースの詳細を表示できます。

- **セル・アイコン**
フォームのセル内のアイコンによって情報が示されます。その意味は次のとおりです。
- **データ検証エラーの解決**
管理者は、データ検証ルールを設定して、データが会社のガイドラインに準拠していることを保証できます。
- **レポート用のデータのプッシュ**
レポートを有用性の高い完全なものにするために、管理者は、ユーザーが様々なキューブからもたらされるデータを「**スマート・プッシュの詳細**」を使用して分析できるように、フォームを設定できます。
- **セル・コメントについて**
データを説明したり背景を提供するために、1つのセルに、または複数のディメンションにわたるセルの範囲にコメントを追加できます。
- **添付の操作**
セルにファイルを添付して、データに関する背景情報を提供できます。
- **フォーム、ダッシュボードおよびインフォレットの検索**
特定のフォーム、ダッシュボードおよびインフォレットをリスト・ページで簡単に検索できます。
- **セルが読取り専用の理由**
一部のセルでデータを変更できない理由を学習します。
- **変更内容の確認**
管理者が特定のアイテムの監査証跡を有効にした場合は、変更の履歴を参照できます。
- **フォーム 2.0 での作業**
- **フォーム 2.0 のグローバル・ツールバーの操作**
- **フォーム 2.0 のクイック・ツールバーの操作**
- **フォーム 2.0 での POV の操作**
- **フォーム 2.0 でメンバー・セレクタを開く**
フォーム 2.0 でメンバーを選択するには、メンバー・セレクタを使用します。
- **変更の送信の必要のない計算の実行(オンザフライでの計算)**
オンザフライの計算を使用すると、データの値を変更して計算後の変化を即座に知ることができ、更新後の値を送信する必要はありません。
- **フォーム 2.0 のデータの印刷**

フォームへのデータの入力

管理者は、データの入力、更新、分析、出力およびレポートを行うコンテナとしてフォームを設計します。

データを構造化されたフォームのセルに入力します。各フォームには特定の用途があります。たとえば、管理者は製品ラインの収益の計画の作成または今年度の費用予測に対する前年の費用実績の比較専用のフォームを設計します。

管理者は、フォームの目的を念頭に、特定のディメンションおよびメンバーでフォームを設定し、これが行および列の見出しに反映されます。ディメンションの一例は年で、そのメンバーには FY21、FY22、FY23 などがあります。セルには選択したメンバーのデータが表示されます。

フォーム 2.0 の Enterprise Profitability and Cost Management の例

次の例は、2.0 バージョンの Enterprise Profitability and Cost Management フォームを示しています:

Year	Scenario	Version	Entity	POI/Blank	POI/Rule	Cost Pool	Custom1	Custom2	Custom3	Data Source	Intercompany	Jurisdiction	Lot	Account	Quantity	
FY23	Actual	Working	US 1 LE 1 BU 1	Input	NoRule	NoCostPool	NoCustom1	NoCustom2	NoCustom3	NoDataSource	None	NoJurisdiction	Lot 1			
			Jan	Feb	Mar	Apr	May	Jun								
Financials	Regional Sales															
	Sales															
	Sales US															
	Marketing															
	Key Accounts															
	Indirect Sales															
	Inside Sales															
	Sales South															
	Sales East															
	Sales North															
	Sales West															
	Northwest Sales															
	Sales Central															
Direct Sales																
Projects	Regional Sales															
	Sales															
	Sales US															
	Marketing															
	Key Accounts															
	Indirect Sales															
	Inside Sales															
	Sales South															
	Sales East															
	Sales West															
	Sales North															
	Sales Central															

フォーム・バージョンについて

フォームは現在、次の 2 つのバージョンがあります:


- **フォーム 1.0:** Slick Grid と Oracle ADF Fuse のコンポーネントが使用されます
- **フォーム 2.0:** Slick Grid と Oracle JET のコンポーネントが使用されます

現在、両方のフォーム・バージョンが同時に同じビジネス・プロセスに共存します。フォーム 1.0 が既存のアプリケーションのデフォルトのバージョンです。フォーム 1.0 の動作の変更はありません。引き続き、これらのフォームを以前と同様にビジネス・プロセス内で作成および更新できます。新しく作成されるアプリケーションはすべて、デフォルトがフォーム 2.0 となります。

フォーム 2.0 の機能

フォーム 2.0 では既存のフォーム 1.0 ランタイム機能が使用されていますが、Slick Grid が Oracle JET のコンポーネントとともに使用されているため、レンダリングがさらに速くなり、洗練され、使いやすくなり、一貫性も向上しています。

フォーム 2.0 には次のような特徴があります:

- 有用性と使いやすさの大幅な向上
- よりよい拡張性とパフォーマンス
- ランタイムの更新のみ; ランタイム・フォームのみに新しいテクノロジーとユーザー・インタフェースが導入されています
- フォーム・アクションのための標準化された「アクション」メニュー
- 新しい POV 設定  メニュー
- 特定の共通フォーム・グリッド・アクションを実行するための新しいクイック・ツールバー

- グリッドのパフォーマンス向上
- 複数セル選択とコメント入力などの、コメント更新の向上
- コメントと添付を単一オプションを使用して追加できる
- シームレスな垂直方向または水平方向のスクロール
- 画面スペースをより有効に使用
- セルからセルへの移動の高速化
- データ・グリッド間のすばやいスクロール
- フォームおよび POV のドロップ・ダウンで新しい洗練された、階層型メンバー・セレクトタが使用され、検索も可能
- ポップアップの減少
- すっきりとした新しいアイコンとダイアログ
- 組込みの洗練されたライン・アイテムの詳細(サポート詳細を置き換える)
- ウィザードベースのビジネス・ルール実行時プロンプト; 実行時プロンプトは右側からのドロワーとして表示される
- グリッド上でのオンザフライ計算
- データ取得のためのステートレス・プロトコル
- 大きいグリッドのリフレッシュ時間を短縮
- Web フォームと Oracle Smart View for Office の間の一貫性の向上
- Web アド・ホックの向上
- 「名前を付けて保存」を使用して新しいフォーム名で保存できる
- 編集時にフォーム・デザイナーが新しい動的タブで開く

フォーム・バージョンの設定

これまでフォーム 1.0 を使用していた場合も、フォーム 2.0 を使用するための移行が必要になることはありません。アプリケーションの設定を使用して簡単に、この 2 つのバージョンの間で切り替えることができます。フォームは、指定されたバージョンに合わせてランタイム環境でレンダリングされます。フォームの再設計は必要ありません。

フォーム・バージョンを指定するには:

1. 「アプリケーション」、「設定」の順にクリックします。
2. 「その他オプション」の下にある「フォーム・バージョン」設定を見つけます。
3. フォーム・バージョンを選択します。既存のアプリケーションのデフォルトの「フォーム・バージョン」は「フォーム 1.0」です。

フォーム 2.0 に関する考慮事項

- 自動保存オプションは、フォーム 2.0 ではサポートされません。かわりに、オンザフライ計算を実行して変化を見ることができるので、変更をデータベースに送信してリフレッシュする必要はありません。
- Excel へのエクスポートは、フォーム 2.0 ではサポートされません。「アクション」メニューを使用してフォームを Smart View で開いてから、Excel ワークシートをネイティブで保存してください。

- フォーム 2.0 の実行時フィルタリングでは列フィルタリングがサポートされます。行に対する実行時フィルタリングは、フォーム 2.0 の将来の更新でサポートされる予定です。
- Web フォーム実行時フォーマットは、フォーム 2.0 ではサポートされません。将来の更新で、設計時フォーマットで置き換えられる予定です。
- Planning モジュール構成ウィザードは、フォーム 2.0 ではサポートされません。
- 将来の Web フォームの改善はすべてフォーム 2.0 で行われる予定です。

フォームを開く

各フォームは、ビジネス・プロセスのデータのサブセットを表します。

フォームを開くには:

1. ホーム・ページで、「データ」をクリックします。
2. フォルダまたはタイプでフォームをフィルタできます。
3. 「すべてのタイプ」で、使用するフォームのタイプに応じて適切なアイコンをクリックします。

- **標準** 

- **アド・ホック** : アド・ホック・グリッドはフォームの設計に縛られません。

4. フォームが含まれているフォルダを展開するには、▶をクリックします。
5. フォームの名前をクリックして開きます。

たとえば、アクセサリ・チャート・フォームを更新するには、「Accessories Chart」をクリックします。

Data Entry Refresh Create

Search Library All Types

Name	Description	Created	Last Modified	Instructions	Actions
▶ Plan		8/6/23	8/6/23		...
▶ 1 Revenue Plan by Market Size		8/6/23	8/6/23	🔍	...
▶ Accessories Chart		8/6/23	8/6/23	🔍	...
▶ Activity Ratios - Plan vs Target		8/6/23	8/6/23	🔍	...
▶ Actual vs Plan		8/6/23	8/6/23	🔍	...
▶ Ad Hoc Revenue Analysis		8/6/23	8/6/23	🔍	...

Oracle Smart View for Office でフォームを開くには、『Smart View for Office ユーザーズ・ガイド』の Web アプリケーションからフォームおよびアド・ホック・グリッドを開く方法を参照してください。

フォーム 1.0 での操作

管理者は、どのユーザーがどのデータを表示したり、変更できるかを設定します。書き込み権限のあるセル(白の背景のセル)でのみデータを入力したり、変更できます。

操作する様々なデータの選択

フォーム名の下のバーに、作業しているメンバー・データを示すボックスが表示されます。このトップ・バーは、次の部分から構成されます。

- **POV 軸**は黒いテキストとして表示されます。管理者がフォーム用にこれらのメンバーを選択します。ユーザーがこのディメンション用に別のメンバーを選択することはできません。
- **ページ軸**は青色のハイパーリンクとして表示されます。ハイパーリンクをクリックして、作業する別のメンバーを選択します。
- **動的な POV** は青色のハイパーリンクとして表示されます。ハイパーリンクをクリックして、作業する別のメンバーを選択します。
- **グローバル POV** バーはダッシュボードの上部にバーとして表示されます(有効になっている場合)。グローバル POV バーでページを変更して「**実行**」をクリックすると、フォームに基づくすべてのオブジェクトでページが変更されます。

POV を変更する場合、Web インタフェースからログアウトしなくても、並行するセッションのいずれかで数秒内に変更が反映されます。たとえば、Web インタフェースのフォームで POV を変更する場合、変更は Oracle Smart View for Office、REST API 呼び出し、または Reports のセッションに対して反映されます。このようにすることで、POV に対して加えるすべての変更が、すべてのオープン・セッションで反映されます。

- Web インタフェース以外の任意のセッションで POV に変更を加える場合は、Web インタフェースでフォームを再オープンして、POV の更新されたメンバーを確認します。
- Web インタフェースで水平タブを使用している場合に、あるタブのフォームで POV に変更を加えると、変更は、他の水平タブのフォームにすぐに反映されます。


フォームの色の理解

セルの背景色は次の状態を示します。

- 白色は、これらのセルにデータを入力できることを意味します。
- 黄色のセルは、値を変更したがまだ保存していないことを示します。
- 灰青色のセルは、値を表示できるが、変更はできないことを示します。これらは読取り専用です。
- 黄褐色のセルはロックされています。
- 青緑色のセルにはサポート詳細があります。

フォームでのサーバー・ステータスの表示

フォームのステータス・インジケータでは、ビジーとアイドルのサーバー・アクティビティを示すアイコンが表示されます。フォーム・グリッドで実行されるクライアント・サーバー・アクション(データをフェッチまたは保存するボタンのクリック、ルールの実行、ポップアップの起動など)によって、ステータスが変更されます。



 ノート:

ダッシュボードに埋め込まれたフォームには、ステータス・インジケータは表示されません。



Scenario	Version	Entity	FY22				FY23		FY23	
			Q3	Q4	Q1	Q2				
Current Assets			530,336,084,658	566,055,929	484,591,229	496,165,173				
Fixed Assets			61,173,491	69,330,147	63,978,601	60,823,450				
Other Assets Total			223,088,151	223,088,151	223,088,151	223,088,151				
Total Assets			815,197,727	848,474,228	781,657,981	769,776,774				
Current Liabilities			331,497,734	336,851,976	330,893,873	334,091,217				
Long Term Liabilities			43,770	43,770	43,770	43,770				
Total Owners Equity			483,656,224	511,578,483	430,720,638	435,641,787				
Total Liabilities and Owners Equity			815,197,727	848,474,228	781,657,981	769,776,774				

フォームのステータスがアクティブの場合はビジー・アイコンが表示され、そうでない場合はアイドル・アイコンが表示されます。

- : アイドル・ステータス
- : ビジー・ステータス

フォームでの迅速なナビゲート

どのようにナビゲートするかは、単にセルをクリックしたか、あるいはセル・データを編集集中であるのかによって決まります。たとえば、セルのデータを編集集中の場合、次のセルに移動するには、[Tab]を押す必要があります。

次のショートカット・キーを使用してフォーム内をすばやく移動できます:

表 14-1 キーボード・ショートカット

キーまたはキーの組合せ	結果
[Tab]	その行の次のセルに移動します。フォーカスが行の最後のセルにある場合、[Tab]で次の行に移動します。
[Enter]	その列の次のセルに移動します。
[Shift]+[Enter]	その列の前のセルに移動します。
[Shift]+[Tab]	その行の前のセルに移動します。
[↑]、[↓]	前または次の行に移動します。
[→]、[←]	セル内の編集集中は、セル・データ内を左右に移動します。編集集中でないときにグリッド・セルをナビゲートすると、行の次のセルまたは前のセルに移動します。
[Ctrl]+[Home]	フォームの最初のセルに移動します。
[Ctrl]+[End]	フォームの最後のセルに移動します。
[Ctrl]+[←]	現在の行の最初のセルに移動します。
[Ctrl]+[→]	現在の行の最後のセルに移動します。
[Shift]+[End]	最初の行の最後のセルに移動します。
[Ctrl]+[A]	すべてのセルを選択します。
[Shift]+[Space]	行を選択します。

表 14-1 (続き) キーボード・ショートカット

キーまたはキーの組合せ	結果
[Ctrl]+[Space]	列を選択します。
[Esc]	セルの現在の変更を破棄し、前の状態に戻します。

 ノート:

これらのショートカットは、デスクトップからフォームにアクセスする場合にのみ使用できます。

データ操作の基本

次も参照:

- [データの入力について](#)
このトピックでは、データの入力と保存に関するいくつかのヒントを示します。
- [ユーザー変数の動的設定](#)
管理者により、少なくとも 1 つのユーザー変数を含むフォームが設定されており、動的なユーザー変数が使用可能になっている場合、フォームで直接ユーザー変数値を選択および変更できます。
- [フォームでのデータの使用](#)
フォームでの作業時に、様々な方法でデータの有用性を向上できます。
- [値を操作するその他の方法](#)
データを操作する簡単な方法です。
- [抑制または除外されたメンバーに対するデータの入力](#)
フォームでは、ユーザーはフォーム内の行ディメンションのドロップダウン・リストから直接メンバーを選択して、そのメンバーのデータを入力および保存できます。
- [最新データの取得](#)
- [データの計算について](#)
データを入力すると、値は自動的に合計されます。データを計算する他の方法は、次のとおりです。
- [合計の計算方法](#)
値の小計および合計を出す方法は次のとおりです:
- [データの確認](#)
様々な方法でデータを確認および分析できます。
- [データの表示方法のカスタマイズ](#)
たとえば、フォーマットやデータのない行および列の非表示などを指定して、フォームでのデータの表示方法をカスタマイズできます。
- [データの印刷](#)
Adobe Acrobat Reader 5.0 がコンピュータにインストールされている場合、フォーム内のデータを PDF ファイルとして出力し、そのフォーマットをカスタマイズできます。

データの入力について

このトピックでは、データの入力と保存に関するいくつかのヒントを示します。

- 管理者は、セルから移動するとプロンプトまたはメッセージが表示されることなく変更が自動的に保存されるようにフォームを設定できます。セルの値は合計され、影響を受けたセルは緑の背景で表示されます。
- 行ディメンションでドロップダウン・メンバー・セレクトが有効になっているフォームでは、ドロップダウン・リストからメンバーを直接選択して、そのメンバーのデータを入力できます。ドロップダウン・メンバー・セレクトがどのように構成されたかによっては、メンバー行(セレクトが有効になっていないと抑制されます)にデータを追加できる場合があります。
- フォームの構造が操作を始めてから変更されていない場合、「保存」をクリックすると、変更したデータまたは新規のデータは即座に保存されます。
- 変更する前のフォームのデータに戻すには、「リフレッシュ」をクリックします。

ノート:

ナビゲートするには、ブラウザのインターフェイスではなく、ビジネス・プロセス・インターフェイスを使用してください。ブラウザのリフレッシュ、進む、戻るを使用すると、動作が不安定になる可能性があります。そのような場合は、ログオフして再度ログインします。

ビデオ

目的

データの入力および保存の方法について学習します。

視聴するビデオ



[Cloud EPM でのデータの入力および保存](#)

様々な種類のデータの入力

管理者がフォームを設定した方法に応じて、様々な方法でデータを入力できます。

- セルに直接データを入力します。
- データ・セルに下矢印が表示されている場合は、スマート・リストと呼ばれるリストから値を選択します。値の最初の 1 文字または 2 文字を入力し、値にスキップできます。たとえば、月のリストでは「s」を入力することで、「September」にスキップできます。
- パーセントとして設定されているメンバーは、セルにパーセント記号(%)とともに表示されます。パーセント値は小数で入力するかまたは「60%」のようにパーセンテージで入力できます。
- テキスト・データ用に設定されているセルをクリックすると、ボックスが表示されます。ボックスにテキストを入力します。セルにテキストを入力する場合、山カッコ(< >)は使用しないでください。入力できるテキスト・データの最大長は 4000 文字です。

- データを保存すると、フォームの保存時に起動するように管理者が設定したビジネス・ルールが実行されます。

コマンドを使用したデータの迅速な入力

次のショートカットをフォームで使用できます。キーまたは記号を入力し、[Enter]を押します。


表 14-2 データを迅速に入力するためのコマンド

キーまたは記号	結果	例
K	千単位で値を入力します。	5,000 の場合、5K と入力します。
M	百万単位で値を入力します。	5,000,000 の場合、5M と入力します。
Add または +	セルの値に数値を加算します。	セルの値が 100 の場合、100 の後に Add10 と入力すると、110 になります。
Sub または ~	セルの値から数値を減算します。	セルの値が 100 の場合、100 の後に Sub10 と入力すると、90 になります。
Percent または per	入力したパーセンテージをセルの値に掛けます。	セルの値が 100 の場合、100 の後に per10 と入力すると、現在のセルの値の 10%、つまり 10 になります。
Increase または inc	入力したパーセンテージ分セルの値が増加します。	セルの値が 200 の場合、200 の後に inc10 と入力すると、セルの値が 200 の 10%(20)増加され、220 になります。
Decrease または dec	入力したパーセンテージ分セルの値が減少します。	セルの値が 200 の場合、200 の後に dec10 と入力すると、セルの値が 200 の 10%(20)減少され、180 になります。
Power または pow	セルの値を指数として追加された値に変更します。	セルの値が 100 の場合、100 の後に pow2 と入力すると、セルの値に指数 2 が掛けられ、10,000 になります。
gr	パーセンテージ分セルを増加させます。	セルの値が 200 の場合、200 の後に gr50 と入力すると、セルの値が 100 増加され、300 になります。

ノート:

これらのショートカットは、デスクトップからフォームにアクセスする場合にのみ使用できます。

フォームでの検索

フォームでは、「検索」アイコン  を使用して、フォームでメンバー名やデータ値を簡単に探すことができます。テキスト・ボックスに特定の名前や値を入力し、「検索」を使用すると、最初の行、列、またはデータ値を検索できます。検索結果を移動するには、前後の矢印をクリックします。

セル範囲の選択

選択範囲が長方形で連続している場合、複数のセルを選択して処理できます。アド・ホック・グリッドでセル範囲を選択するには、範囲内の左上のセルをクリックし、[Shift]を押しながら

ら、範囲内の右下のセルをクリックします。フォームでセル範囲を選択するには、アイコンが変わるまでセルの上にカーソルを置きます。これで範囲を拡張できます。

行または列を選択するには、その見出しをクリックします。セルのグループを選択したら、選択したセルのコピー/貼付けまたはデータ値の調整を行うことができます。

データのコピーおよび貼付け

フォーム内でのデータのコピー、あるフォームから別のフォームへのコピー、Microsoft Excel のような他の製品からのコピーもできます。

フォームを操作している場合、データを選択してから「**データ**」、続いて「**編集**」の下のアイコンをクリックすることで、データをコピーして貼り付けます。

コピーと貼付けデータについて

- フォーム内またはフォーム間でコピーするときに、ビジネス・プロセスによってコピーおよび貼付けされるのはセルに格納されたデータであり、精度設定に基づいて表示される値ではありません。
- データを期間に貼り付けるときは、ビジネス・プロセスによって分散ルールが各セルに、左から右へおよび上から下への順に適用されます。貼付け操作の結果としてできたデータは最初にコピーしたデータに一致しない場合があります。値を期間に貼り付ける前に、値がどのように分散されるかを理解しておきます。
- テキスト・パッド、メモ帳またはワードパッドなどのテキスト・エディタからデータをコピーして貼り付ける場合、データの区切り文字に空白文字が使用されているとコピーして貼付けできません。かわりにタブ区切り文字を使用してください。

ユーザー変数の動的設定

管理者により、少なくとも 1 つのユーザー変数を含むフォームが設定されており、動的なユーザー変数が使用可能になっている場合、フォームで直接ユーザー変数値を選択および変更できます。

たとえば、**Department** という変数では、営業メンバーを選択して販売費用をプランし、その後マーケティング・メンバーを選択してマーケティング費用をプランできます。また、ユーザー・プリファレンスでユーザー変数の値を設定することも可能です。

フォームが「**コンテキストの使用**」オプションを使用して定義されている場合、ユーザー変数を **POV** で使用できます。この設定では、ユーザー変数の値はフォームのコンテキストにより動的に変更されます。

ノート:

フォームで作業する前に、ユーザー変数の値を選択する必要があります。

ユーザー変数の値を動的に変更するには:

1. ユーザー変数が表示されるテキストをクリックします。
変数と現在選択されている値が **POV** の下に表示されます。
2. 目的のメンバーを選択し、「**OK**」をクリックします。
フォームにより選択したメンバーが表示されます。

フォームでのデータの使用

フォームでの作業時に、様々な方法でデータの有用性を向上できます。

- フォームの機能の確認
- フォームのプロパティの表示
- データの絞込み
- 抑制または除外されたメンバーのデータの入力
- フォーマットによるデータの強調
- データの調整と分散
- コメントおよび添付の追加と履歴の表示
- データのソートとフィルタ
- サポート詳細の表示

フォームの機能の確認

データのアクセス、計算、操作、作成、分析またはコメント作成の方法を検索します。「**アクション**」をクリックし、次のオプションから選択します:



- **分析:** フォームでアド・ホック分析を実行します。
- **新規アド・ホック・グリッド:** アド・ホック・グリッドを作成します。
- **読取り専用セルの理由の表示:** 一部のセルでデータを変更できない理由を学習します。
- **ビジネス・ルール:** フォームで使用されているビジネス・ルールを表示し、それらを起動します。
- **スマート・プッシュの詳細:** 別のキューブからのデータを分析します。
- **グリッド検証メッセージ:** 管理者が設定したルールにデータがどのように準拠しているかを確認します。
- **フォーマットのクリア:** 設定したフォーマットをクリアします。
- **スプレッドシートのエクスポート:** 値をコピーし、ビジネス・プロセスに貼り付けて戻す前に Excel で "what-if" シナリオを確認するには、「**アクション**」をクリックし、「**スプレッドシートのエクスポート**」を選択します。
- **Smart View で開く:** Oracle Smart View for Office でフォームを操作します。Smart View for Office ユーザーズ・ガイド 23.100 の Web アプリケーションからフォームおよびアド・ホック・グリッドを開く方法を参照してください。

フォームのプロパティの表示



をクリックして、フォームのプロパティを表示します。



データの絞込み

アド・ホック・グリッドで実行できる内容を確認します。フォームで、、 の順にクリックします。



抑制または除外されたメンバーのデータの入力

フォームに含まれないか、すぐに表示されないメンバーのデータを入力します。

フォーマットによるデータの強調



データの表示の質を向上させます。 をクリックした後、 をクリックして、フォント、フォント・サイズ、フォントの色、アンダースコアおよび背景色を設定するためのオプションを確認します。




データの調整と分散

特定の金額ごとに値を変更します。セル(複数も可)を選択します。、 の順にクリックし、次のいずれかをクリックします:



- 「調整」。値またはパーセンテージでセル・データを増減する場合。
- 「分散」。対象セル内の既存値に基づいて、複数ディメンションにわたり値を増減する金額またはパーセンテージを指定する場合。「比例」、「均等分割」または「入力」の分散パターンを選択できます。
「分散」を使用するには、管理者がフォーム・プロパティとして「グリッド分散」を有効にする必要があります。
- 「配賦」。「配賦」役割を割り当てられた管理者のみ、この便利な機能を使用できます。また、フォーム・プロパティとして「配賦」を有効にしておく必要があります。
- 「ロック」。計算中および他の値の入力中にセルを一時的にロックする場合。セルのロックを解除するには、「ロック」を再度クリックします。

コメントおよび添付の追加と履歴の表示

データの背後にある仮定を説明するか、有効な場合は変更履歴を表示します。セルをクリックし、、 の順にクリックします。「詳細」で、次のいずれかをクリックします:

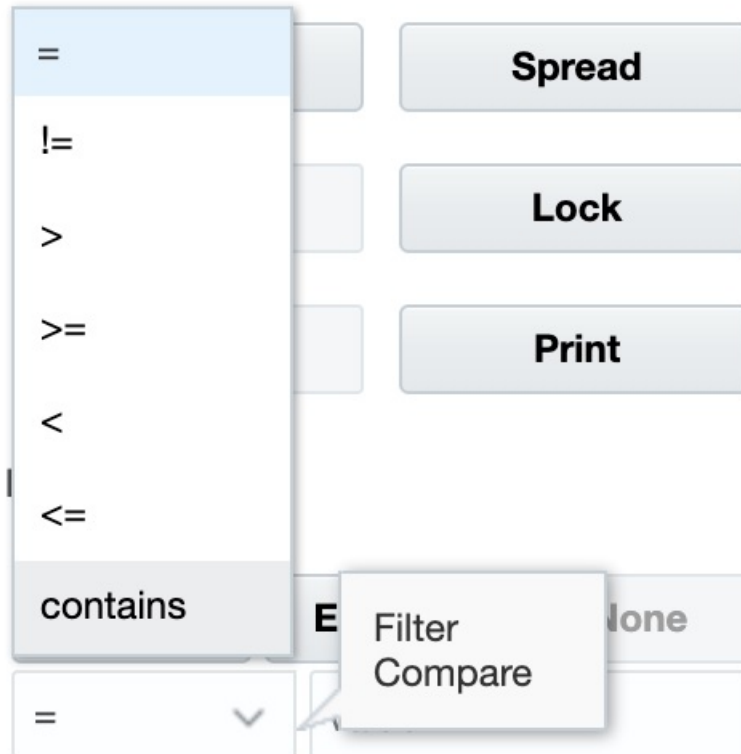
-  - 外部ファイルを添付します。
-  - コメントを追加します。
- 
管理者がデータの監査を有効にした場合は、誰がいつセルの値を変更したかを参照します。

データのソートとフィルタ

データの表示を簡潔にします。、 の順にクリックし、「フィルタ」の下の「保持」または「除外」をクリックすることで、表示(または非表示に)する行または列を制御します。



特定の比較結果に表示を制限するには、「フィルタ比較」メニューをクリックして演算子を選択し、次に「値」フィールドに比較する値を指定します。

Action



行または列を選択してから「ソート」の下の矢印をクリックすることで、行または列の値を昇順または降順でソートすることもできます。

サポート詳細の表示

データ値にロジックを構築します。セルをクリックし、、の順にクリックして、「サポート詳細」をクリックします。

値を操作するその他の方法

データを操作する簡単な方法です。

- 値を親セルから子に分散させます。たとえば、Q1(親)に"300"と入力すると、300 がその子(Jan、Feb および March)に分散され、各月に自動的に"100"と入力されます。
- 演算子(+、-、*、/、%)および数値を入力します。たとえば、セルの初期値が 100 の場合、*5 と入力すると、値が 500 に変更されます。

抑制または除外されたメンバーに対するデータの入力



フォームでは、ユーザーはフォーム内の行ディメンションのドロップダウン・リストから直接メンバーを選択して、そのメンバーのデータを入力および保存できます。

サービス管理者またはフォーム・デザイナーによってドロップダウン・メンバー・セレクトタがどのように構成されたかによっては、メンバー行(セレクトタが有効になっていないと抑制または除外されます)にデータを追加できます。

フォームのドロップダウン・メンバー・セレクトタにアクセスして、メンバーとデータを追加するには:

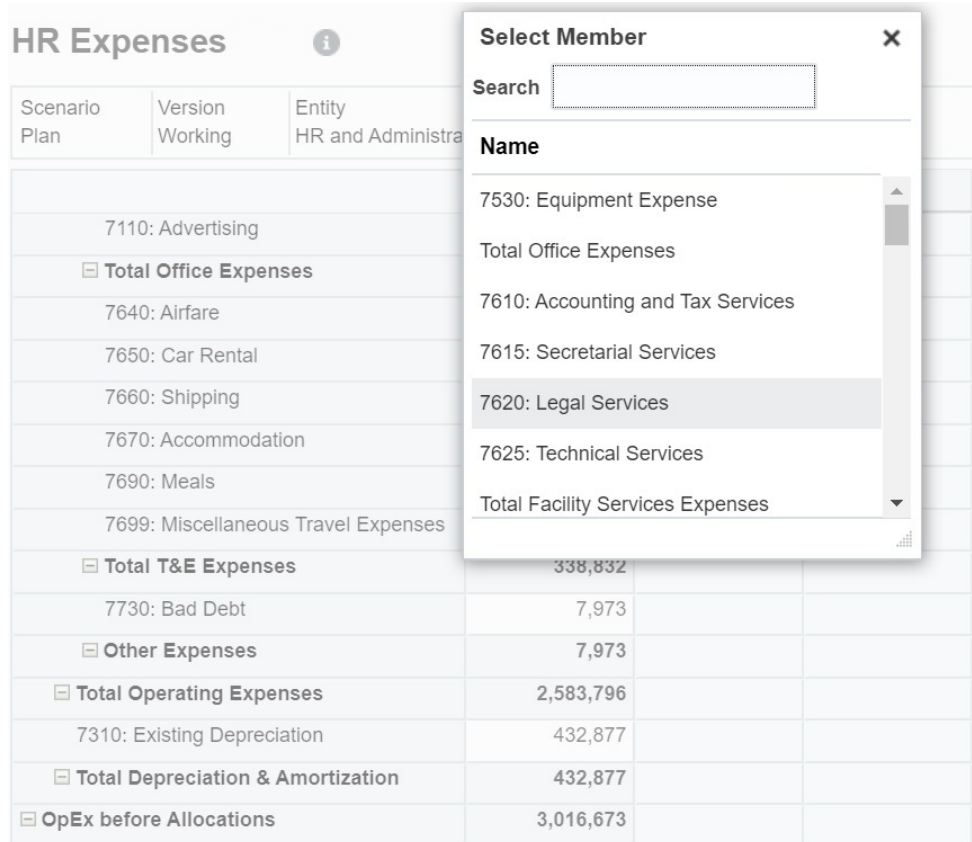
1. フォームを開き、行ディメンションにカーソルを置いて、ドロップダウン・メンバー・セレクトタを見つけます。

ディメンション・メンバーにドロップダウン・メンバー・セレクトタが含まれる場合、次のようにセルに矢印が表示されます:







 Total Office Expenses	2,236,991
7640: Airfare 	7,972

2. セルの下矢印をクリックしてメンバー・セレクトタを起動して、スクロールするか、追加するメンバーを検索します。

次に、7645: Airfare セルで下矢印をクリックした後のメンバー・セレクトタの例を示します。「検索」ボックスにメンバー名を入力するか、リストをスクロールして、追加するメンバーを見つけることができます。この例では、7620: Legal Services を選択します。



The screenshot shows the 'HR Expenses' table with a 'Select Member' dialog box overlaid. The dialog has a search box and a list of members. The member '7620: Legal Services' is highlighted in the list.

Scenario Plan	Version Working	Entity HR and Administra		
			7110: Advertising	
			 Total Office Expenses	
			7640: Airfare	
			7650: Car Rental	
			7660: Shipping	
			7670: Accommodation	
			7690: Meals	
			7699: Miscellaneous Travel Expenses	
			 Total T&E Expenses	338,832
			7730: Bad Debt	7,973
			 Other Expenses	7,973
			 Total Operating Expenses	2,583,796
			7310: Existing Depreciation	432,877
			 Total Depreciation & Amortization	432,877
			 OpEx before Allocations	3,016,673

編集可能なセルをクリックして、データを追加または変更します。たとえば、次に示す 7620: Legal Services データ・セルを編集できます:

<input type="checkbox"/> Total Office Expenses	2,236,991
7620: Legal Services	7,972.08
7650: Car Rental	879

3. 追加した行の編集可能なセルで必要に応じてデータを変更または追加して、「保存」をクリックします。

選択した行メンバーおよび入力したデータがフォームに追加されます。

この例では、7620: Legal Services メンバーおよび入力したデータ(5,000)がフォームに追加されます。

Scenario Plan	Version Working	Entity HR and Administration Management	Year FY17
			<input type="checkbox"/> Year Total
			2,236,991
		<input type="checkbox"/> Total Office Expenses	2,236,991
		7620: Legal Services	5,000
		<input type="checkbox"/> Total Facility Services Expenses	5,000
		7640: Airfare	7,972
		7650: Car Rental	879
		7660: Shipping	326,660
		7670: Accommodation	2,335
		7690: Meals	521
		7699: Miscellaneous Travel Expenses	466
		<input type="checkbox"/> Total T&E Expenses	338,832
		<input type="checkbox"/> Total Operating Expenses	2,580,823
		7310: Existing Depreciation	432,877
		<input type="checkbox"/> Total Depreciation & Amortization	432,877
		<input type="checkbox"/> OpEx before Allocations	3,013,700

4. この手順を繰り返して、他のメンバーおよびデータをフォームに追加します。

抑制または除外されたメンバーに対するデータの入力のガイドライン

ドロップダウン・メンバー・セレクトタの使用時には、次の点に留意してください:

- ドロップダウンの内容(メンバーのリスト)は、対応するセグメントのフォーム定義によって制御されます。

- 選択は保持されません。ドロップダウンからメンバーを選択してから保存する前に、リフレッシュを実行すると、選択は失われ、フォームは元の状態に戻ります。
- ドロップダウンでの選択は、データの保存時に失われます。データ・セルを変更してデータを保存すると、ドロップダウンでの選択の変更は保持されません。

行ディメンションのドロップダウン・メンバー・セレクトタには、Web インタフェースのフォーム・デザイナーでの構成が必要です。サービス管理者またはフォーム設計者は、ドロップダウン・セレクトタを特定のディメンションのセグメント・プロパティとして指定します。たとえば、行軸、エンティティおよびライン・アイテムに配置された 2 つのディメンションがある場合、エンティティ・ディメンション・メンバーまたはライン・アイテム・メンバーあるいはその両方に対してメンバー・セレクトタ・ドロップダウンを有効にできます。構成については、ビジネス・プロセスの管理ガイドに記載されています。

最新データの取得

確実に最新データを使用して作業するには、「リフレッシュ」をクリックしてデータをリフレッシュします。

データの計算について

データを入力すると、値は自動的に合計されます。データを計算する他の方法は、次のとおりです。

- ビジネス・ルールを起動します。
- ビジネス・プロセス内で作成された式を使用します。
- Oracle Smart View for Office で作成した式を使用します。
- **調整**または**分散**機能を使用します。
- サポート詳細を使用します。

合計の計算方法

値の小計および合計を出す方法は次のとおりです:

- 小計は、メンバーの階層、メンバー・プロパティ、階層のロジックなどの管理者が設定した要素に基づいて計算されます。
- 小計を再計算するには、「保存」をクリックします。「フォームの計算」ルールが「保存」時に起動するように選択されている場合、すべての小計が、そのメンバーの集約プロパティおよびフォームの設計に基づいて再計算されます。
- データを保存すると、動的に計算されるように設定された、一番下(レベル 0)のメンバーを除くメンバーが計算されます。
- 計算は保管された値(非表示)に基づいています。表示される値はスケールまたは精度設定に基づいている場合があります。
- 表示されたメンバーのみが計算されます。一部のメンバーに対して読取り権限はあるが書込み権限はない場合、それらの値が読取り専用の場合でも小計に正しく含まれます。

データの確認

様々な方法でデータを確認および分析できます。

例:

- アド・ホック・グリッド。
- ダッシュボード。
- レポート。

データの表示方法のカスタマイズ

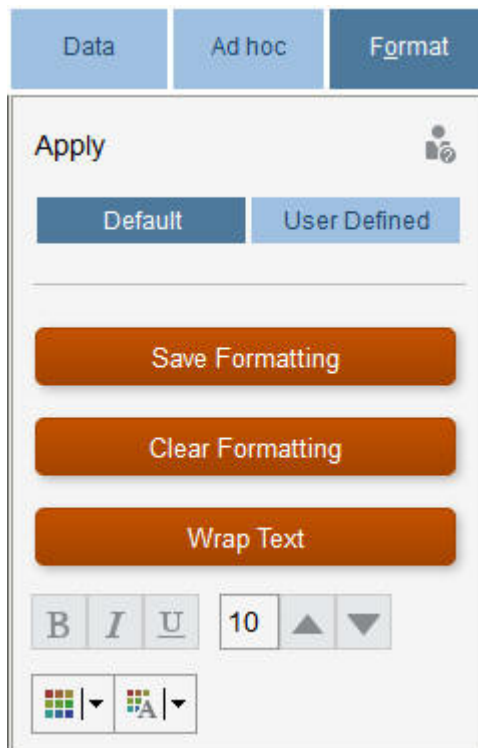
たとえば、フォーマットやデータのない行および列の非表示などを指定して、フォームでのデータの表示方法をカスタマイズできます。

次のトピックを参照してください。

フォーマットによるデータの強調

フォームとアド・ホック・グリッドでは、様々なフォーマット・オプションによって特定のデータを強調できます。

たとえば、フォント・サイズを増減したり、フォントの色および背景を設定できます。カスタムの色を選択することもできます。設定したフォーマットを保存またはクリアできます。また、テキスト・セルでテキストをラップできます。



フォーマットについて:

- **デフォルト:** ビジネス・プロセスで適用されるフォーマットで、状態が示されます (たとえば、セルに「サポート詳細」があるなど)。
- **ユーザー定義:** ユーザーが適用したフォーマット。

ノート:

フォーマット・スタイルが競合する場合、デフォルト・フォーマットが優先されます。たとえば、セルをフォーマットした後、その値を変更するとします。変更したが、まだ保存していない値のデフォルト・フォーマットが、そのセルに適用したフォーマットより優先されます。

データなしまたはゼロの行または列の非表示

フォーム内のデータを簡潔にするため、データがないかまたはゼロの行を非表示にできます。

データがないかまたはゼロの行を非表示にするには:

1. 「アクション」、「フィルタ」の順にクリックします。
2. 次のオプションをクリックします。
 - **データのない行の非表示:** データのない行の表示および非表示を切り替えます (管理者がこのプロパティをどのように設定したかにより、#MISSING または空白で表示されます)。管理者によりフォームのプロパティで「欠落データの抑制」が設定されていると、このオプションは表示されません。
 - **ゼロ行を非表示:** 値がゼロの行の表示と非表示を切り替えます。
 - **データなしの行とゼロ行を非表示:** データがないかまたはゼロ、あるいはその両方の行の表示と非表示を切り替えます。

データがないかまたはゼロを含む列を非表示にするには、行のかわりに列を選択して、このステップに従います。

データのないセルについて

セル内の#MISSING は、セルにデータが含まれないことを示しますが、セル内のゼロはデータ値です。

#MISSING によってデータベース・サイズが減少し、パフォーマンスが向上します。パフォーマンスを向上させるために、管理者はデータのないセルを#MISSING として設定できます。

データの印刷

Adobe Acrobat Reader 5.0 がコンピュータにインストールされている場合、フォーム内のデータを PDF ファイルとして出力し、そのフォーマットをカスタマイズできます。

フォーマットされたレポートを Oracle Smart View for Office にエクスポートすることもできます。

フォームのデータを PDF ファイルに出力するには:

1. フォームを開いた状態で、「**データ**」タブ、「**印刷**」の順にクリックします。
2. 目的の印刷オプションを選択します。
3. 「**印刷プレビュー**」をクリックします。
4. 「**オープン**」をクリックして、Adobe Acrobat Reader でファイルを開くか、「**保存**」をクリックして、ファイルに名前を付けます。

プリファレンスで設定した印刷オプションに戻すには、「**フォーム設定の復元**」をクリックします。


データ操作についての詳細

次も参照:

- [メンバー式の表示](#)
管理者は、メンバー式を設定して、メンバーの計算を実行できます。
- [Excel でのビジネス・プロセス・データの操作](#)
Microsoft Excel の操作に精通している場合は、Oracle Smart View for Office でビジネス・プロセス・データを操作できます。
- [ソース・データへのドリルスルー](#)
管理者は、データ統合またはビジネス・プロセスのインポートおよびエクスポート機能を使用して、ソースからデータをロードできます。ドリルスルーしてデータ・ソースの詳細を表示できます。
- [セル・アイコン](#)
フォームのセル内のアイコンによって情報が示されます。その意味は次のとおりです。
- [データ検証エラーの解決](#)
管理者は、データ検証ルールを設定して、データが会社のガイドラインに準拠していることを保証できます。
- [レポート用のデータのプッシュ](#)
レポートを有用性の高い完全なものにするために、管理者は、ユーザーが様々なキューブからもたらされるデータを「**スマート・プッシュの詳細**」を使用して分析できるように、フォームを設定できます。
- [セル・コメントについて](#)
データを説明したり背景を提供するために、1つのセルに、または複数のディメンションにわたるセルの範囲にコメントを追加できます。
- [添付の操作](#)
セルにファイルを添付して、データに関する背景情報を提供できます。
- [フォーム、ダッシュボードおよびインフォレットの検索](#)
特定のフォーム、ダッシュボードおよびインフォレットをリスト・ページで簡単に検索できます。
- [セルが読取り専用の理由](#)
一部のセルでデータを変更できない理由を学習します。
- [変更内容の確認](#)
管理者が特定のアイテムの監査証跡を有効にした場合は、変更の履歴を参照できます。

メンバー式の表示

管理者は、メンバー式を設定して、メンバーの計算を実行できます。

メンバーの式を表示するには、式アイコン  をクリックします。

Excel でのビジネス・プロセス・データの操作

Microsoft Excel の操作に精通している場合は、Oracle Smart View for Office でビジネス・プロセス・データを操作できます。

Smart View によって、ビジネス・プロセスで共通の Microsoft Office インタフェースを使用できます。Smart View を使用して、Microsoft Word および PowerPoint のデータを表示、インポート、操作、配分および共有できます。

さらに学習するには、Oracle Smart View for Office ユーザーズ・ガイドを参照してください。

Smart View をインストールするには:

1. ホーム・ページの右上で、 をクリックします。
2. 「設定およびアクション」で「ダウンロード」をクリックします。
3. 「Smart View」で「Oracle Technology Network からダウンロード」をクリックし、プロンプトに従います。

ビジネス・プロセスでの独自の Excel 式の使用

Oracle Smart View for Office のアド・ホック分析では、他のデータに影響を与えず即座に計算する独自の Excel 式およびメンバーを作成できます。このスマート・フォームをビジネス・プロセスで開き、Smart View で作成した計算を実行できます。

たとえば、ビジネス・プロセスへの Microsoft Office インタフェースである Smart View でビジネス・プロセス・データを分析しているとします。4 製品の平均利益マージンを計算します。「平均利益マージン」という名前の行をグリッドに追加し、製品の利益マージンをリストした 4 つの行に対する式を作成します。4 つの行を選択します。次に、新しい「平均利益マージン」行に Excel 式=AVERAGE(D5:D8)を追加します。平均利益マージンは新しい行に即座に表示されますが、この新しい行はこのスマート・フォームにのみ保存され、ビジネス・プロセスの残りの部分には保存されません。

このカスタマイズしたアド・ホック・グリッドをビジネス・プロセスで使用できるようにするには、保存時にオプション「スマート・フォームとして保存」を選択します。これで、このカスタマイズしたスマート・フォーム(追加した行、列および計算を含む)をビジネス・プロセスで開いて使用できます。

さらに学習するには、Oracle Smart View for Office ユーザーズ・ガイドを参照してください。

ビデオ

目的	視聴するビデオ
スマート・フォームを使用したデータの計算について学習します。	 Cloud EPM での Excel 式の追加



Web フォームでの Smart View のフォーマットについて

管理者がフォームを設定した方法に応じて、Oracle Smart View for Office に保存したセルのフォーマットがフォームに表示されることがあります。

Microsoft Excel のフォーマットは Smart View およびビジネス・プロセスでサポートされますが、次の例外があります：

- ビジネス・プロセスでは、下線および配置を除く Excel のフォント・スタイルがサポートされます。
- ビジネス・プロセスでは、実線の枠線を除く Excel の枠線がサポートされます。
- Smart View では、多数の Excel の数値と日付のフォーマットを含む Excel のセルのフォーマットがサポートされます。ビジネス・プロセスでは、Excel の数値と日付のフォーマットはサポートされません。
- ビジネス・プロセスでは、Excel の読取り専用、列の幅または行の高さのフォーマットを除く Excel の行のフォーマットがサポートされます。

Oracle Smart View for Office ユーザーズ・ガイドを参照してください。

Microsoft Excel とビジネス・プロセス・フォームの間でのデータのコピーおよび貼付け

ビジネス・プロセスにデスクトップからアクセスしている場合は、Microsoft Excel とフォームの間でデータをコピーして貼り付けることができます。

ノート:

この機能は、デスクトップでのみ使用でき、モバイル・デバイスでは使用できません。

データを Microsoft Excel からビジネス・プロセス・フォームにコピーして貼り付けるには：

1. Microsoft Excel で、1 つまたはある範囲のセルのデータをハイライト表示し、**[Ctrl]**を押し**ながら[C]**を押して、データをクリップボードにコピーします。
2. ビジネス・プロセス・フォーム内の 1 つまたは複数のターゲット・セルを選択してから、**[Ctrl]**を押し**ながら[V]**を押します。
3. クリップボード・ヘルパーが表示されたら、再度**[Ctrl]**を押し**ながら[V]**を押します。データがクリップボード・ヘルパーに貼り付けられます。
4. 「**貼付け**」をクリックしてデータをビジネス・プロセス・フォームに貼り付けます。

ノート:

Microsoft Excel からビジネス・プロセスにコピーして貼り付けたデータには、Microsoft Excel で設定されたフォーマットが反映されます。たとえば、Microsoft Excel で小数点以下の桁数をゼロに設定している場合、Microsoft Excel で値 459.123 を入力すると、その値は 459 と表示されます。この値をビジネス・プロセス・フォームに貼り付ける場合は、459 という値が貼り付けられます。

Microsoft Excel へのデータのエクスポート

フォームから Microsoft Excel にデータをエクスポートすることにより、値をコピーしてビジネス・プロセスに貼り付ける前に、Excel で "what-if" シナリオを確認できます。

データのエクスポートについて:

- ビジネス・プロセスは、サポート詳細、セル・コメント、数値のフォーマット、アプリケーション名、ユーザー、フォーム・フォルダ、属性、通貨タグまたはパーセンテージの詳細を Excel にエクスポートしません。
- 小数点以下の完全な桁数は数値としてエクスポートされますが、精度を維持するためにスケールリングは適用されません。エクスポートされたデータを Oracle Smart View for Office で表示すると、データはビジネス・プロセス・フォームの場合と同様に表示されます。
- メンバーの別名は、管理者がこれを表示するようにフォームを設定している場合に表示されます。
- Excel からビジネス・プロセスに貼付けで戻される値は、フォーマットされていないデータである必要があります。

フォームから Microsoft Excel にデータをエクスポートするには:


1. フォームを開きます。
2. 「アクション」、「スプレッドシートのエクスポート」、「エクスポート」の順にクリックします。
3. ファイルを開くか保存します。
標準的な Excel の手順を使い、変更を行い保存します。 .

ソース・データへのドリルスルー

管理者は、データ統合またはビジネス・プロセスのインポートおよびエクスポート機能を使用して、ソースからデータをロードできます。ドリルスルーしてデータ・ソースの詳細を表示できます。

ソース・データにドリルスルーするには:





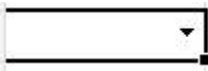

1. ロードされたソース・データを含むフォームを開きます。

セルの右上隅のアイコン  は、ドリルスルー・データがあることを示します。

2. ドリルダウン・データを含んでいるセルで、「アクション」、「ドリル・スルー」の順にクリックします。
3. 左上隅にあるリンク「ソースにドリル・スルー」をクリックします。
4. **ドリルスルーのサマリー**から、ソースにドリルスルーできます。

セル・アイコン

フォームのセル内のアイコンによって情報が示されます。その意味は次のとおりです。

- : セルに添付があります。
- : セルにメンバー式があります。
- : セルにコメントがあります。
- : このセルにドリル・ダウンできます。
- : スマート・リストから値を選択します。
- : メンバー名の横の下向き矢印をクリックして、現在表示が抑制されている(データがなく、管理者がフォーム・レイアウトで「**欠落データの抑制 - 行**」オプションを設定したか、管理者がフォームの定義中に他のメンバーを明確に除外したため)他のメンバーのデータを選択して入力します。

データ検証エラーの解決

管理者は、データ検証ルールを設定して、データが会社のガイドラインに準拠していることを保証できます。

たとえば、管理者は、次の設定を行うことができます。

- データ検証ルールと呼ばれる、入力するデータの基準
- データ検証エラーをユーザーに知らせるための背景色
- 基準の内容を知らせるメッセージ

フォーム内のデータがデータ検証ルールの基準に合致していない場合は、次のステップに従ってエラーを修正します。

データ検証エラーを解決するには:

1. エラーのあるフォームで、デフォルト以外の背景色が表示されているセルにカーソルを置きます(モバイル・デバイスの場合はタップします)。通常、管理者は、セルの背景を色付けして表示することで、セルにデータ検証ルールが含まれていることを知らせます。ポップアップ・テキストに、セル交差とテキスト「このセルにはデータ検証メッセージが含まれています」が表示されます。
2. 「アクション」、「**データ検証メッセージ**」の順にクリックします。
3. 複数のメッセージがある場合、リストを展開し、各ハイパーリンクをクリックして修正するセルに移動します。
4. データ検証メッセージの指示に基づいて各エラーを解決します。

- エラーをすべて解決したら、フォームを保存します。
セルの背景色とデータ検証メッセージは表示されなくなります。

ヒント:

ページ/POV に有効なメンバーが含まれていない場合は、メンバー・セレクタで、



をクリックしてから「**ページ選択のクリア**」をクリックして、現在のメンバーをクリアできます。その後、有効な交差の定義に含まれている他のディメンションからメンバーを選択できます。

レポート用のデータのプッシュ

レポートを有用性の高い完全なものにするために、管理者は、ユーザーが様々なキューブからもたらされるデータを「**スマート・プッシュの詳細**」を使用して分析できるように、フォームを設定できます。

たとえば、1つのキューブに費用データがあり、別のキューブに収益プランニングがあるとした場合、「**スマート・プッシュの詳細**」を使用して、両方のキューブからレポート・キューブに迅速にデータをプッシュできます。これで、レポート・キューブにまとめられたデータを分析できます。スマート・プッシュには、データ、コメント、添付およびサポート詳細が含まれます。


管理者は、フォームにデータを保存したときに自動的にデータがプッシュされるようにフォームを設定できます。または、管理者は、ユーザーがスマート・プッシュを開始できるようにフォームを設定できます。このような場合は、「**アクション**」、「**スマート・プッシュの詳細**」の順にクリックし、「スマート・プッシュ」ダイアログ・ボックス内のリンクをクリックします。スマート・プッシュが保存時に実行するように設定されている場合、これは「**スマート・プッシュの詳細**」に表示されません。

ノート:

- スマート・プッシュは、データをプッシュする前に、常にレポート・キューブのデータをクリアします。
- フォーム 1.0 では、スマート・プッシュが保存時に実行されたことを示すメッセージが表示されます。フォーム 2.0 ではそのようなメッセージは表示されません。

セル・コメントについて

データを説明したり背景を提供するために、1つのセルに、または複数のディメンションにわたるセルの範囲にコメントを追加できます。

コメントを追加および表示するには、セルをクリック(またはセル範囲を選択)し、「**データ**」タブ、「**コメント**」の順にクリックします。セルの右上の小さな三角形は、コメントがあることを示します。



PDF ファイルまたは印刷されたレポートでコメントを表示することもできます。

ノート:

フォーム 2.0 では、式セルへのコメントまたは添付の追加はサポートされていません。


添付の操作

セルにファイルを添付して、データに関する背景情報を提供できます。

管理者によってフォームの「**セル・レベルのドキュメントの使用可能**」プロパティが選択されている場合、セルに添付を追加できます。

有効な添付ファイル・タイプは次のとおりです:


- 許可されているイメージ・タイプ: .jpg、.gif、.png、.7z
- 許可されているイメージ以外のファイル・タイプ:
プ: .csv、.xls、.xlsx、.txt、.zip、.jlf、.doc、.docx、.ppt、.pptx、.rtf、.pdf、.gdoc、.gsheet、.gslides、.msg

それぞれがセルの売上げデータを裏付ける最新の仮定を含む複数のドキュメントをセルに添付できます。複数のセルに同じ添付ファイルを添付できません。添付アイコン  は、セルに添付があることを示します。

ノート:

フォーム 2.0 では、式セルへのコメントまたは添付の追加はサポートされていません。

添付を追加するには:

1. フォームで、セルを選択します。
2. 「アクション」、「添付」  の順にクリックします。
3. ファイルを参照し、「アップロード」をクリックします。
添付を表示するには、そのハイパーリンクをクリックします。


フォーム、ダッシュボードおよびインフォレットの検索

特定のフォーム、ダッシュボードおよびインフォレットをリスト・ページで簡単に検索できます。

アーティファクトのリスト・ページでは、アーティファクト表示のフラット・ビューと階層ビューを切り替えることができます。




その後、次の検索オプションを使用して、フォーム、ダッシュボードまたはインフォレットを検索できます:

- を使用して、キーワード検索を行います。

ノート:

フラット・ビューには、検索条件と一致するインフォレットのみが表示され、それらを含むフォルダは表示されません。ツリー(階層)ビューには、インフォレットとそれらが含まれるフォルダが一緒に表示されます。

- を使用して、フォルダで検索を絞り込みます。

別のキーワードで検索するには、「検索」ボックスの「X」をクリックして検索条件をクリアし、



をクリックします。

セルが読取り専用の理由

一部のセルでデータを変更できない理由を学習します。

データ・フォーム内の灰青色のセルは、値は表示できるが、変更できないことを示します。これらは読取り専用です。

セルが読取り専用である理由を確認するには:

1. 「アクション」、「読取り専用セルの理由の表示」の順にクリックして、セルが読取り専用である理由をロードするグリッドをリフレッシュします。
2. 読取り専用セルにカーソルを置いて右クリックし、「読取り専用セルの理由の表示」を選択します。
セルが読取り専用の理由:

表 14-3 セルが読取り専用の理由

指定理由	説明
未検出またはアクセス権なし	次のいずれか: <ul style="list-style-type: none"> 管理者が「セキュリティの適用」プロパティを設定したが、データ交差の各ディメンション・メンバーへの書込みアクセス権を付与しなかったため、データへのアクセス権がありません。 <i>Oracle Enterprise Performance Management Cloud 管理者スタート・ガイド</i>では、管理者によるグローバル役割の付与方法が説明され、ビジネス・プロセスの管理ガイドでは、管理者によるビジネス・プロセス・アーティファクトへの権限の割当て方法が説明されています。 メンバーが見つからないため、セルが読取り専用です。たとえば、メンバーがフォームのキューブに対して無効か、メンバー名に誤字がある可能性があります。
無効な交差	セルが、有効な交差の定義に従って無効です。
セル・レベル・セキュリティ	セルがセル・レベル・セキュリティ定義に従って保護されています。
読取り専用フォーム	フォームは読取り専用です。
式セル	セルにメンバー式があります。
サポート詳細セル	セルにサポート詳細があります。
勘定科目ソース・キューブ	勘定科目のソース・キューブとフォームのキューブが同じではありません。
「アドホック - 読取り専用ユーザー」役割	「アドホック - 読取り専用ユーザー」役割が割り当てられているため、フォーム内のデータは変更できません。
アーカイブ・モード	アプリケーションのデータベースがアーカイブされ、ユーザーによるデータの入力または変更が一時的に禁止されています。
属性、動的計算またはラベルのみ	セルが、次のような様々な理由で読取り専用です: <ul style="list-style-type: none"> 計算された属性値です。 動的に計算されています。 ストレージ・タイプが「ラベルのみ」です。 集約ストレージ・キューブ内の上位レベル・セルです。
スプレッドに不適格なサマリー期間	サマリー期間内のデータが読取り専用であるいくつかの理由: この期間には、たとえば、分散またはロック可能なメンバーがありません。
読取り専用セグメント	「 セグメント 」フォーム・プロパティが読取り専用を設定されています。

変更内容の確認

管理者が特定のアイテムの監査証跡を有効にした場合は、変更の履歴を参照できます。

たとえば、管理者が**データ**の監査を有効にした場合は、誰がいつセルの値を変更したかを参照できます。

追跡された変更の履歴を参照するには:

- 

をクリックします。
- 

をクリックします。

3. 「詳細」で、



をクリックします。

フォーム 2.0 での作業

Note:

フォーム 2.0 で作業するには、アプリケーション設定の「**フォーム・バージョン**」設定が「**フォーム 2.0**」に設定されている必要があります。

データの入力ページからフォームを開くと、フォームがランタイム環境で開きます。

管理者は、どのユーザーがどのデータを表示でき、どのユーザーがそれを変更できるかを設定します。書込み権限のあるセル(白の背景のセル)でのみデータを入力したり、変更できます。

次の各トピックには、ランタイム環境で 2.0 フォームを操作するときに役立つ情報が含まれています:

- [フォーム 2.0 のグローバル・ツールバーの操作](#)
- [フォーム 2.0 のクイック・ツールバーの操作](#)
- [フォーム 2.0 での POV の操作](#)
- [フォーム 2.0 でメンバー・セレクタを開く](#)
- [変更の送信の必要のない計算の実行\(オンザフライでの計算\)](#)
- [フォーム 2.0 のデータの印刷](#)

ビデオ

目的	視聴するビデオ
フォーム 2.0 でのデータの操作について学習します。	 概要: Cloud EPM のフォーム 2.0 入門

フォーム 2.0 のグローバル・ツールバーの操作

それぞれのフォームの上部にあるアイコンとメニューを使用すると、指示を表示したり、フォームに対して次のアクションを実行することができます:

Table 14-4 フォームのグローバル・ツールバー






オブジェクト	説明
	指示: フォームに関する指示が追加されている場合、それらを表示します。

Table 14-4 (Cont.) フォームのグローバル・ツールバー

オブジェクト	説明
	リフレッシュ: フォーム上のデータを更新します。
	検索: 「検索」ボックスにキーワードを入力し、「前」または「次」矢印をクリックして、フォーム内のデータを検索します。
	プロパティ・パネル: データ検証メッセージなど、フォームに関する固有の情報を表示します。 アド・ホック・フォームについては、「プロパティ・パネル」には、「全般」、「アドホック・ユーザー・オプション」および「レイアウト」のプロパティが表示されます。

 **Note:**

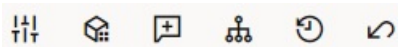
将来、「プロパティ・パネル」を使用して、セルのフォーマットなどのその他の詳細が表示されるようになる予定です。

Table 14-4 (Cont.) フォームのグローバル・ツールバー

オブジェクト	説明
<p>「アクション」メニュー</p> <p>保存</p>	<p>次のフォーム・アクションを表示します:</p> <ul style="list-style-type: none"> 編集: フォーム・デザイナーでフォームを開きます。フォーム・デザイナーは、現在のタブの横にある動的タブで開きます。フォームを編集するには、適切な権限が必要です。レイアウトに加えた更新は、フォーム・デザイナーで保存した後にビジュアル化できます。フォームを編集するときには、新しいフォーム名でフォームを保存する「名前を付けて保存」オプションがあります。 ルールおよびスマート・プッシュ: フォームで使用されているルールを表示し、それらを起動します。 様々なキューブから取得されたデータを分析します。 フォーム 2.0 については、ルールのユーザビリティが向上しています: <ul style="list-style-type: none"> 検索機能が用意されています。 ルールの実行時に、右側のドロワーでプロンプトを入力できます。 複数のルールのプロンプトをステーションに入力し、一度に起動できます。 分析: フォームでアド・ホック分析を実行します。 読取り専用セルの理由の表示: 一部のセルでデータを変更できない理由を学習します。 Smart View で開く: Oracle Smart View for Office でフォームを操作します。 <i>Smart View for Office ユーザーズ・ガイド 23.100</i> の Web アプリケーションからフォームおよびアド・ホック・グリッドを開く方法を参照してください。 新規アド・ホック・グリッド: アド・ホック・グリッドを作成します。 ツールバーの表示/非表示: フォーム・タイトルの下に表示されるクイック・ツールバーを表示または非表示にします。 <p>フォームのデータを保存します。</p>







フォーム 2.0 のクイック・ツールバーの操作

フォーム 2.0 では、コンテキスト(右クリック)メニューを使用するかわりに、より簡単にアクセスできるように、特定の共通アクションがクイック・ツールバーに配置されています。



クイック・ツールバーを使用して、次のアクションを実行できます:

Table 14-5 クイック・ツールバー

アイコン	説明
	調整: 選択したセルのデータを正または負の値、あるいはパーセンテージ値で増減します。
	グリッド分散: ターゲット・セルの既存の値に基づいて、複数のディメンションにわたって値を増減する量またはパーセンテージを指定します。「比例」、「均等」または「入力」の分散パターンを選択できます。グリッド分散を使用するには、管理者がフォーム・プロパティとして「グリッド分散」を有効にする必要があります。
	コメント: データについて説明したり、背景を提供して、外部ファイルを添付します。1つのセルまたは複数のディメンションをまたぐセルの範囲にコメントおよび添付を追加できます。同じセルについて複数のコメントを投稿できます。コメントのポップアップを使用して、添付をアップロードできます。投稿したコメントおよび添付を削除することもできます。
	ライン・アイテムの詳細: セル値の計算方法にロジックを組み込みます。ライン・アイテムの詳細は、サポート詳細をアップグレードした(代替)機能です: <ul style="list-style-type: none"> ライン・アイテムの詳細は、コンテキスト(右クリック)メニューからも、クイック・ツールバーからも起動できます 算術計算(加算、減算、乗算など)を行うようにプロビジョニングして、子または兄弟を追加します 行についてのみサポートされています(列についてはサポートされていません)
	変更履歴: セル・データに加えられた変更の履歴を表示します。
	元に戻す: 最後に加えられた変更を取り消します。

フォーム 2.0 での POV の操作


POV について

クイック・ツールバーのすぐ下の情報を使用して、操作する様々なデータを選択できます。これは、フォームの視点(POV)と呼ばれます。

フォームに POV が含まれている場合、POV に対する変更は自動的に適用されます。変更が自動的に適用されないようにする場合は、フォームの「POV 設定」メニューで POV バーの自動適用の選択を解除できます。POV バーでディメンション・ラベルを非表示にしたり、POV の選択をクリアすることもできます。

POV 設定の変更

POV 設定にアクセスするには:

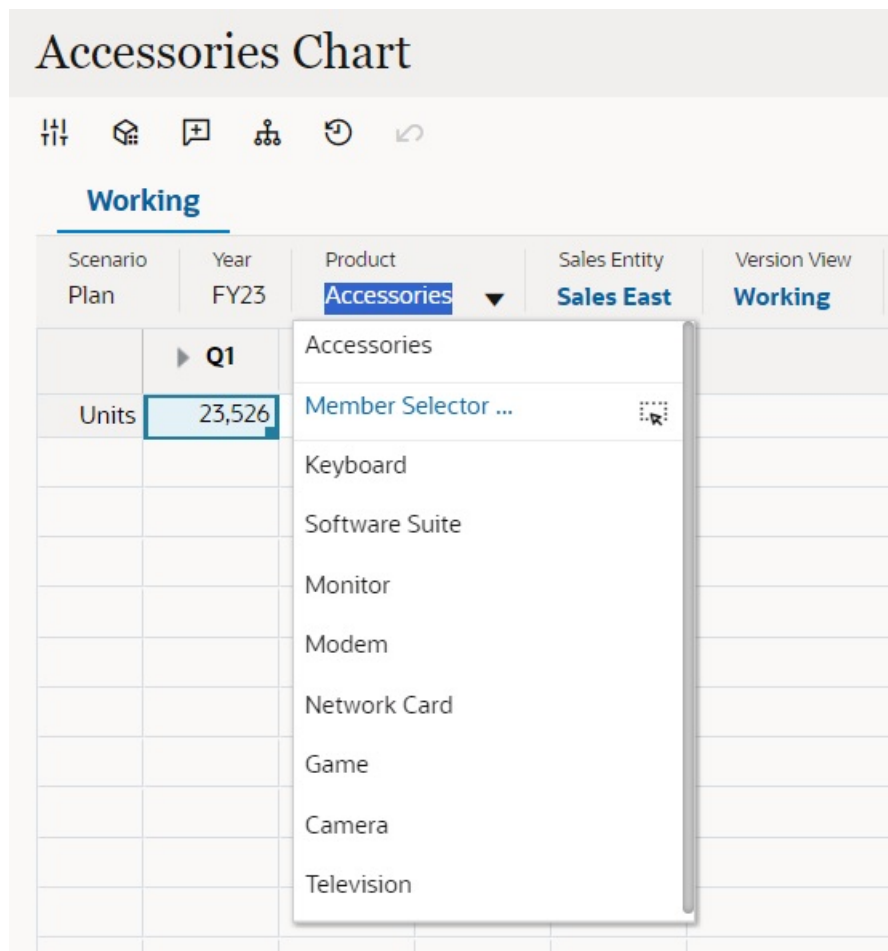
-  をクリックします。
- 次のオプションから選択します。
 - ディメンション・ラベルの非表示:** フォームの外観をよりコンパクトにします

- **自動適用:** POV 値が変更されるたびに、データ・グリッドを自動的にリフレッシュします
- **選択項目のクリア**

フォーム 2.0 での POV メンバーの検索

フォーム 2.0 で作業しているときには、新しい POV メンバーを簡単に検索できます。検索するには、POV リンクの 1 つをクリックします。検索インターフェイスに、最近使用されたメンバーのリストが表示され、ここから選択できます。

Figure 14-1 フォーム 2.0 における POV の最近使用されたメンバー・リスト




メンバー・セクタを使用して検索することもできます。POV のリンクをクリックし、メンバー・セクタ・アイコン  をクリックしてメンバー・セクタを起動します。メンバー・セクタ内のメンバーは階層として表示されますが、メンバー名を「検索」ボックスに入力することもできます。「検索」ボックスを使用してメンバーを見つけた場合は、結果が「検索」ボックスの下に表示されます。

Figure 14-2 フォーム 2.0 における「メンバーの選択」の検索結果

The screenshot shows the 'Select Members' dialog box. At the top right, there are 'OK' and 'Cancel' buttons. Below the title, there is a search bar containing 'keyboard x' and a filter icon. To the right, the 'Selections' pane shows a tree view with 'Product' expanded to show 'Accessories'. Below the search bar, there are two columns: 'Result' and 'Info'. The 'Result' column shows a checkbox next to 'Keyboard'. The 'Info' column shows a location pin icon next to 'Product > Total Prod...'. There are also three dots to the right of the search bar and the 'Info' column.

結果の「情報」列にカーソルを置き、📍をクリックすることにより、メンバーが階層内のどこにあるかを確認できます。

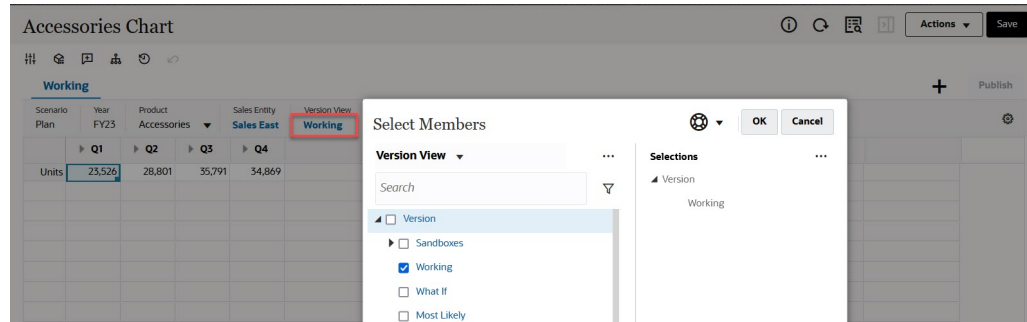
Figure 14-3 フォーム 2.0 における「メンバーの選択」の階層内の検索結果

The screenshot shows the 'Select Members' dialog box. At the top right, there are 'OK' and 'Cancel' buttons. Below the title, there is a search bar containing 'Search' and a filter icon. To the right, the 'Selections' pane shows a tree view with 'Product' expanded to show 'Accessories'. Below the search bar, there is a list of members with checkboxes. The list is as follows: Product (expanded), Total Product (expanded), Computer Accessories (expanded, checkbox), Accessories (checkbox, checked), Keyboard (checkbox, highlighted), Software Suite (checkbox), Monitor (checkbox), Modem (checkbox), Network Card (checkbox), Game (checkbox), and Camera (checkbox). There are also three dots to the right of the search bar and the list.

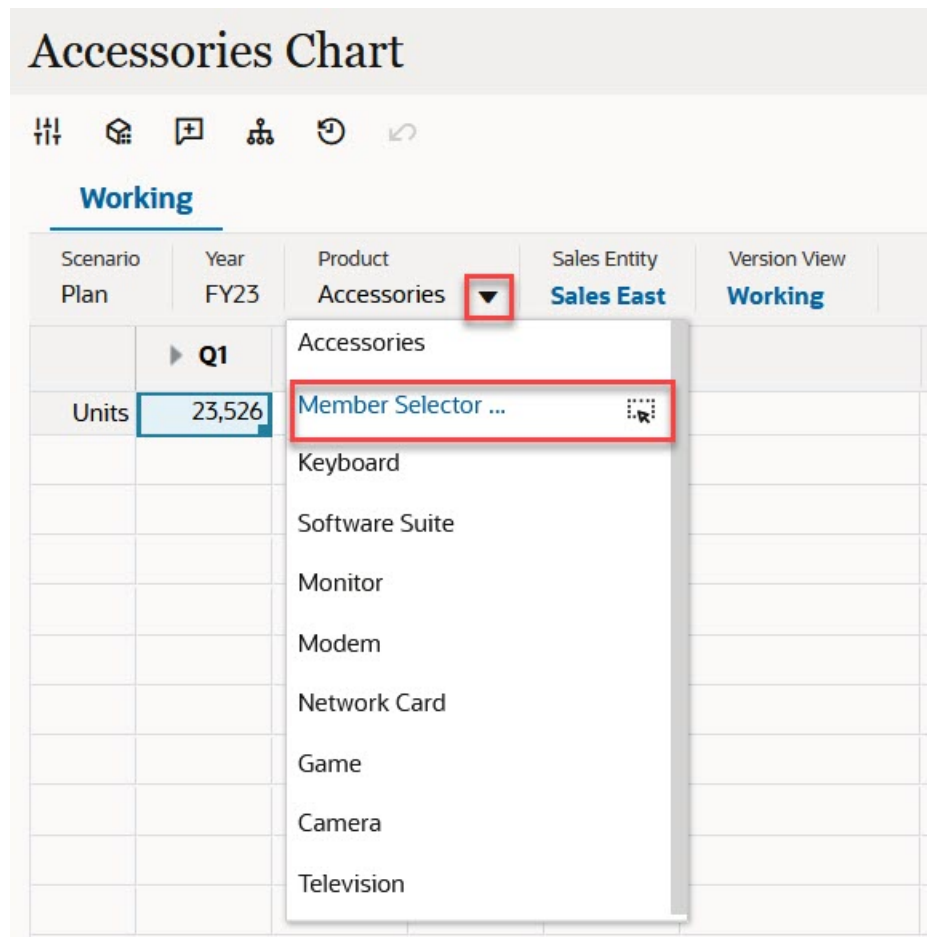
フォーム 2.0 でメンバー・セレクタを開く

フォーム 2.0 でメンバーを選択するには、メンバー・セレクタを使用します。

フォーム 2.0 のフォームからメンバー・セレクタを開くには:
POV バーでメンバーをクリックします:



「ページ」ドロップダウン・リストをクリックし、「メンバー・セレクタ」を選択することもできます:



ビジネス・ルールの実行時プロンプトで、プロンプトがメンバーに関するものである場合、「メンバー・セレクタ」アイコンをクリックします:



メンバー・セレクタの使用の詳細は、[メンバー・セレクタの使用](#)を参照してください。

変更の送信の必要のない計算の実行(オンザフライでの計算)

オンザフライの計算を使用すると、データの値を変更して計算後の変化を即座に知ることができ、更新後の値を送信する必要はありません。

フォーム 2.0 で作業するとき、またはアド・ホック分析中は、変更をデータベースに送信してリフレッシュする必要なく、オンザフライの計算を実行できます。この機能により、時間が節約されて、グリッドに対する複数の変更を一度に実行できます。

フォーム 2.0 の場合は、このオプションは管理者がこの機能をフォームに対して有効化している場合に使用できます。この機能が有効化されているときは、2.0 バージョンのフォームで、メンバー式が添付されたセルにカーソルを置くと、セルに関連付けられているメンバー式が表示され、オンザフライの計算を実行できます。

アド・ホック分析用に、管理者がこの機能を有効化している可能性があります。または、「ユーザー・プリファレンス」の「表示」タブの「アド・ホックのユーザー式の有効化」で「はい」を選択して、オンザフライでの計算の表示プリファレンスを設定できます。この設定が有効化されている場合、アド・ホック・グリッドで、メンバー式が添付されたセルにカーソルを置くと、セルに関連付けられているメンバー式が表示され、計算をオンザフライで実行できます。

計算をオンザフライで実行するには:

- 2.0 バージョンのフォームまたはアド・ホック・グリッドを開き、セルにカーソルを置いて、式が添付されたメンバーについて、メンバー式と集計演算子の両方を表示します。この例では、**Jan** の **Sales** の式を表示できます。

	Trips	Trips	Trips	Trips
	Jan	Feb	Mar	Q1
International Sales	20	20	20	60
Sales East	30	30	30	90
Sales NorthEast	25	25	25	75
Sales Mid-Atlantic	20	20	20	60
Sales SouthEast	15	15	15	45
Sales South	12	12	12	36
Sales Central	10	10	10	30
Sales West	12	12	12	36
Sales	144	144	144	432

Row Sales Column BaseData Trips Jan member(403):
 410 +420 +421 +422 +423 +430 +440 +450 +66
 grid math:
 = EssSum(essMissing(1/0) , B4, B5, B6, B7, B8, B9, B10, B11)

式が表示されるようにするには、フォームまたはアド・ホック・グリッドの中に入力可能なセル(レベル・ゼロ・メンバー)があることが必要です。

- 必要に応じて計算を実行し、セルからカーソルを移動します:

- 計算されたセルに影響を与える値を変更します。計算されたセルの値が更新されません。
- 計算値を変更します。そのフォームまたはアド・ホック・グリッド上のセルのうち、計算されたセルに寄与するものが更新されます。

式スプレッドを正しく機能させるには、計算値のすべてのソース・セルがフォームまたはアド・ホック・グリッドに表示されている必要があります。

色の変化は、セルの値が変更されたことを示します。データベースに変更を送信することなく、セルがすぐにリフレッシュされて、新しく計算された値が表示されます。

計算されたセルに影響を与える値を変更するこの例で、**Jan** の **Sales West** の値を変更します：

	Trips	Trips	Trips	Trips
	Jan	Feb	Mar	Q1
International Sales	20	20	20	60
Sales East	30	30	30	90
Sales NorthEast	25	25	25	75
Sales Mid-Atlantic	20	20	20	60
Sales SouthEast	15	15	15	45
Sales South	12	12	12	36
Sales Central	10	10	10	30
Sales West	15	12	12	36
Sales	144	144	144	432

[Tab]を押すと、オンザフライでの計算により、**Jan** の **Sales**、**Sales West** の **Q1** および **Sales** の **Q1** の更新値が計算されます。新しく計算された値の色の変化に注目してください。

	Trips	Trips	Trips	Trips
	Jan	Feb	Mar	Q1
International Sales	20	20	20	60
Sales East	30	30	30	90
Sales NorthEast	25	25	25	75
Sales Mid-Atlantic	20	20	20	60
Sales SouthEast	15	15	15	45
Sales South	12	12	12	36
Sales Central	10	10	10	30
Sales West	15	12	12	39
Sales	147	144	144	435

計算値を変更するこの例で、**Feb** の **Sales** の計算値を変更します：

	Trips	Trips	Trips	Trips
	Jan	Feb	Mar	Q1
International Sales	20	20	20	60
Sales East	30	30	30	90
Sales NorthEast	25	25	25	75
Sales Mid-Atlantic	20	20	20	60
Sales SouthEast	15	15	15	45
Sales South	12	12	12	36
Sales Central	10	10	10	30
Sales West	12	12	12	36
Sales	144	288	144	432

[Tab]を押すと、計算されたセルに影響を与える値が更新されます。新しく計算された値の色の変化に注目してください。

	Trips		Trips	
	Jan	Feb	Mar	Q1
International Sales	20	40	20	80
Sales East	30	60	30	120
Sales NorthEast	25	50	25	100
Sales Mid-Atlantic	20	40	20	80
Sales SouthEast	15	30	15	60
Sales South	12	24	12	48
Sales Central	10	20	10	40
Sales West	12	24	12	48
Sales	144	288	144	576

3. すべての変更が完了し、計算に満足している場合は、変更された値をサーバーに送信することも、送信せずに変更を破棄することもできます。

オンザフライの計算は **Oracle Smart View for Office** で 2.0 バージョンのフォームまたはアド・ホック・グリッドで実行することもできます。**Oracle Smart View for Office** の操作の変更の送信の必要のない計算の実行を参照してください。


サポートされる式関数および演算子を確認してください。**Oracle Smart View for Office** の操作のオンザフライ計算でサポートされる関数と演算子を参照してください。

式関数の一部はオンザフライでの計算をサポートしていません。**Oracle Smart View for Office** の操作のオンザフライでの計算でサポートされていない関数および式を参照してください。

オンザフライの計算を実行するときの追加の考慮事項は、**Oracle Smart View for Office** の操作のガイドラインおよび考慮事項を参照してください。

チュートリアル

チュートリアルには、トピックの学習に役立つ一連のビデオやドキュメントを使用した手順が用意されています。

目的	方法の学習
このチュートリアルでは、メンバー式を使用したアド・ホック分析中にオンザフライで計算を実行する方法を学習します。オンザフライの計算の作業は、 Web でも Smart View でも行うことができます。	 Cloud EPM でのオンザフライでの計算の実行

フォーム 2.0 のデータの印刷

印刷が必要な場合は、ブラウザの印刷機能を使用するか、**Oracle Smart View for Office** で Excel の印刷機能を使用して、フォーム 2.0 のデータを印刷できます。

Smart View でフォームを操作するには、フォームを開き、「**アクション**」をクリックして、「**Smart View で開く**」を選択します。

『**Smart View for Office ユーザーズ・ガイド**』の **Web** アプリケーションからフォームおよびアド・ホック・グリッドを開く方法を参照してください。

15

レポートの操作

Related Topics

- [レポートについて](#)
- [レポートへのアクセスとレポート・リポジトリの表示](#)
- [フォルダおよびレポートの管理](#)
- [レポートのブックとバースティング](#)
- [フォントの管理](#)

レポートについて

Enterprise Profitability and Cost Management のレポートは、使いやすく堅牢なレポート開発フレームワークを、レポート・ビューアのエンリッチされたユーザー・エクスペリエンスとともに提供します。以前は Narrative Reporting ビジネス・プロセスの管理レポートとして使用可能だったレポートは、Oracle Enterprise Performance Management Cloud プラットフォームのビジネス・プロセスに埋め込まれるようになりました。

レポートの設計および操作について学習するには、*Oracle Enterprise Performance Management Cloud レポートでの設計のレポートについて学ぶ*を参照してください。



Note:

バックスラッシュ文字(\)は、レポートでは制限されています。


レポートへのアクセスとレポート・リポジトリの表示

レポートにアクセスするには:

1. ホーム・ページで、「**レポート**」を選択します。
2. ページの左側のタブをクリックして、レポート・リポジトリを表示するか、他のドキュメントにアクセスします:



レポート・リスト・ページでは、ダッシュボード、インフォレットおよびデータ入力フォームと同じフォルダ階層を使用します。すべてのアーティファクトおよびフォルダは、「**ライブラリ**」呼ばれるルート・フォルダ内に存在します。レポート、ブックおよびバースティング定義はレポート・リポジトリに格納されます。

レポートまたはフォルダを検索するには、ペイン上部の「検索」ボックスに検索テキストを入力して、をクリックします。

「レポート」のリスト・ページで、レポート・フォルダの表示をフラット・ビュー

またはツリー・ビューに切り替えられます:



 **Note:**

管理者のみがファイル(たとえば、ダッシュボード、インフォレット、フォーム、レポート)を「ライブラリ」ルート・フォルダに追加できます。



ドキュメント・ページを使用して、ブックおよびバーストで使用されて生成されたサード・パーティのドキュメントにアクセスします。たとえば、ブックに挿入された MS Word および PDF ドキュメントや、バースティング定義で使用された CSV ファイルの他、バースティング定義で生成された PDF ファイルがあります。

フォルダおよびレポートの管理

レポートは、様々なビュー・オプションが使用可能な「レポート」リスト・ページで管理します。「ドキュメント」の下で、ブックおよびバースティングで使用および生成されたサード・パーティのドキュメントのアクセスおよびメンテナンスができます。たとえば、ブックに挿入された MS Word および PDF ドキュメントや、バースティング定義で使用された .csv ファイルの他、バースティング定義で生成された PDF ファイルがあります。


レポートおよびドキュメントは、フォルダにグループ分けされます。レポート・リストを表示すると、次のことができます:

- レポート・アーティファクトまたはドキュメントでの検索
- フォルダによるフィルタ

レポート・アーティファクトの場合、タイプ(「レポート」、「スナップショット」、ブック、バースティング定義)でフィルタできます

- フォルダ・ツリー・ビューまたはフラット・リスト・ビューの切替え:



レポート・デザイナは、フォルダまたは個別のレポートの  をクリックして、次のフォルダおよびレポート管理タスクを実行できます:


- フォルダ用:
 - ファイルのアップロード(ドキュメントのみ)
 - フォルダの作成
 - 削除

- 名前変更
- 移動先
- 権限の割当
- レポート、ブックおよびバースティング定義用:
 - 開く(レポートおよびブックのみ)
 - 編集
 - 名前変更
 - 別名コピー
 - 削除
 - 移動先
 - 権限の割当
- ドキュメント用:
 - プロパティ
 - 別名コピー
 - 削除
 - 移動先
 - 権限の割当

ドキュメント・リスト・ページは、次のファイル・タイプおよび拡張子をサポートしていません(デフォルトのファイル・サイズ制限は 5MB であり、100MB がサポートされる .PDF を除きます):

- Word (.DOC、.DOCX)
- Excel (.XLS、.XLSX)
- カンマ区切りの値(.CSV)
- PDF (.PDF)
- テキスト(.TXT)
- PowerPoint (.PPT、.PPTX)

「ドキュメント」のサード・パーティのファイルをアップロードするには:

1. 「ドキュメント」リストで、宛先フォルダを選択し、次のいずれかを実行します:
 - 「ドキュメント」パネルの右上にある「アップロード」をクリックします。
 -  をクリックし、「ファイルのアップロード」を選択します。
2. 「ファイルのアップロード」で、ローカル・ファイル・システムからアップロードするファイルを選択し、「OK」をクリックします。選択したフォルダにファイルがアップロードされます。

「ドキュメント」のサード・パーティ・ファイルをダウンロードするには、「ドキュメント」リストで目的のファイルの場所を参照し、ファイル名をクリックしてダウンロードします。

レポートのブックとバースティング

レポートには、ブックとバースティングの機能が含まれます。ブックは、1つ以上のレポート、ブックおよびその他のドキュメントをまとめて、単一の PDF 出力を生成する機能を提供します。バースティングを使用すると、1つのデータ・ソースの単一ディメンションの複数メンバーに対して、単一のレポートまたはブックを実行して、メンバーごとに PDF 出力を発行できます。バースティング定義をスケジュール済ジョブとしてスケジュールできます。レポートのブックおよびバースティング機能の操作方法について学習するには、*Oracle Enterprise Performance Management Cloud レポートでの設計*の次のトピックを参照してください:


- [ブックの操作](#)
- [バースティングの操作](#)

フォントの管理

会社でレポートの作成に使用している TrueType フォントをアップロードすることをお勧めします。個々のフォント・ファイル、または複数の TrueType フォントを含む zip ファイルをアップロードできます。

フォント・ファイルは TrueType フォントである必要があり、フォント・フォルダ構造に既存のもの以外である必要があります。重複するフォントをアップロードすると、重複(または無効な)フォント・ファイルを示すエラー・メッセージが表示されます。複数のフォントを zip ファイルにまとめてアップロードした場合、その他の有効なファイルはロードされません。

フォントをアップロードするには:

1. ホーム・ページで、「**アプリケーション**」、「**設定**」の順に選択します。
2. **アプリケーション設定**ページの「**システム設定**」で、「**レポート・オプションの設定**」まで下にスクロールし、「**レポート設定**」をクリックします。
3. **設定**ページで、「**フォントの管理**」をクリックします。
4. **フォント**・ページで、 をクリックし、「**ファイルのアップロード**」を選択します。
5. 「**ファイルのアップロード**」ダイアログ・ボックスで「**参照**」をクリックして、アップロードする TrueType フォントに移動し、「**OK**」をクリックします。

Note:

複数のフォントをアップロードする必要がある場合は、zip ファイルを作成します。フォント・ファイルのサイズによっては、アップロードの実行に時間がかかる場合があることに注意します。

ダッシュボードの操作

Related Topics

- [ダッシュボードの設計](#)
ユーザーにサマリー・データを表示するダッシュボードを設計します。ダッシュボードを使用すると、ユーザーは主要ビジネス・データのチャート作成、評価、強調表示、コメント作成および変更を行ったり、ルールの追加や編集を行うことができます。
- [ダッシュボードのメリット](#)
- [ダッシュボードの作成および管理](#)
- [ダッシュボード・バージョンについて](#)
- [ダッシュボードの表示](#)
- [ダッシュボード 1.0 から 2.0 へのダッシュボードの変換](#)
ダッシュボード 1.0 のダッシュボードをダッシュボード 2.0 のダッシュボードに変換する方法を学習します。
- [ダッシュボードの作成および管理 1.0](#)
- [1.0 ダッシュボード設計の概念](#)
- [ダッシュボード 1.0 のダッシュボードの作成](#)
- [マスター・フォームと詳細を含むダッシュボードの作成](#)
- [ダッシュボードのレイアウトについて - バージョン 1.0](#)
- [ゲージ・チャート・タイプについて](#)
- [タイル・チャート・タイプについて](#)
- [ダッシュボードの色のカスタマイズ](#)
- [1.0 ダッシュボードのグローバル POV とローカル POV について](#)
- [ダッシュボード POV と有効な交差](#)
- [ダッシュボードの作成および管理 2.0](#)
- [ダッシュボード 2.0 のダッシュボード設計の概念](#)
- [オブジェクト・パレット](#)
- [ダッシュボード・ツールバー](#)
- [ダッシュボード・ワークスペース](#)
- [プロパティ・パネル](#)
- [ダッシュボード・コンポーネント](#)
- [ダッシュボード 2.0 に関する考慮事項](#)
- [ダッシュボード 2.0 のダッシュボードの作成](#)

- **ダッシュボード 2.0 を設計するときのメンバー・セレクトタの操作**
ダッシュボード 2.0 のダッシュボードを設計するときは、新しいディメンション・メンバーの検索と選択をメンバー・セレクトタを使用して簡単に行うことができます。
- **ダッシュボード 2.0 でのフォーム 2.0 のグリッドについて**
- **ジオマップ・チャート・タイプについて**
- **ピラミッド・チャート・タイプについて**
- **ウォーターフォール・チャート・タイプについて**
- **ダッシュボードでの表の使用**
- **ダッシュボード 2.0 のゲージ・チャート・タイプについて**
- **ダッシュボード 2.0 のレーダー・チャート・タイプについて**
- **ダッシュボード 2.0 の組合せチャート・タイプについて**
- **ダッシュボード 2.0 のタイル・チャート・タイプについて**
- **ダッシュボード 2.0 でのグローバルおよびローカルの POV について**
- **クイック分析について**
- **ダッシュボードを使用したデータの操作**
- **ダッシュボードの理解**
ダッシュボードでは、重要な情報の概要を参照するとともにデータを入力、変更および保存できます。
- **ダッシュボード・バージョンについて**
- **ダッシュボードの表示**
- **ダッシュボード 1.0 のダッシュボードの操作**
- **ダッシュボード 2.0 のダッシュボードの操作**
ランタイム環境でダッシュボード 2.0 のダッシュボードでの作業を行うことについての有益な情報です。
- **ダッシュボード 2.0 のグローバル・ツールバーの操作**
- **ダッシュボード 2.0 のコンポーネントの操作**
- **ダッシュボード 2.0 でのフォーム 2.0 のグリッドの操作**
ダッシュボード 2.0 では、基になるフォームがフォーム 2.0 のフォームの場合にフォーム・グリッド内のデータを直接操作できます。
- **チャートおよび凡例でのドリル・スルー**
- **ダッシュボード 2.0 での POV の操作**
- **ダッシュボード 2.0 でメンバー・セレクトタを開く**
ダッシュボード 2.0 でメンバーを選択するには、メンバー・セレクトタを使用します。
- **ナビゲーション・フローでのダッシュボード 2.0 のダッシュボードの操作**
- **ダッシュボード 2.0 のコンポーネントでのマスター・フォームおよび詳細の操作**
- **ダッシュボード 2.0 のダッシュボードでの有効な交差のサポート**
- **クイック分析について**

ダッシュボードの設計

ユーザーにサマリー・データを表示するダッシュボードを設計します。ダッシュボードを使用すると、ユーザーは主要ビジネス・データのチャート作成、評価、強調表示、コメント作成および変更を行ったり、ルールの追加や編集を行うことができます。

次も参照:

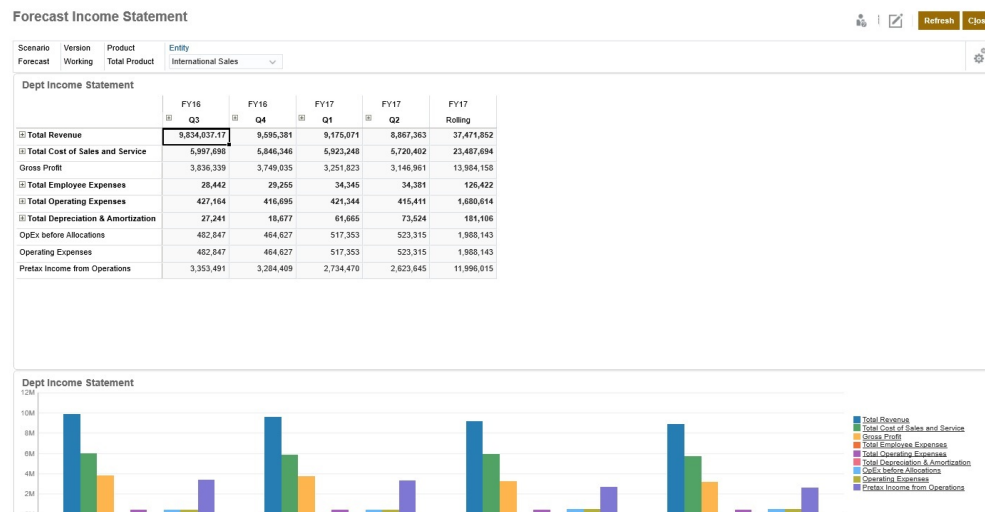
- [ダッシュボードのメリット](#)
- [ダッシュボードの作成および管理](#)
- [ダッシュボード・バージョンについて](#)
- [ダッシュボードの表示](#)
- [ダッシュボード 1.0 から 2.0 へのダッシュボードの変換](#)
ダッシュボード 1.0 のダッシュボードをダッシュボード 2.0 のダッシュボードに変換する方法を学習します。
- [ダッシュボード 1.0 の作成および管理](#)
- [1.0 ダッシュボード設計の概念](#)
- [ダッシュボード 1.0 のダッシュボードの作成](#)
- [マスター・フォームと詳細を含むダッシュボードの作成](#)
- [ダッシュボードのレイアウトについて - バージョン 1.0](#)
- [ゲージ・チャート・タイプについて](#)
- [タイル・チャート・タイプについて](#)
- [ダッシュボードの色のカスタマイズ](#)
- [1.0 ダッシュボードのグローバル POV とローカル POV について](#)
- [ダッシュボード POV と有効な交差](#)
- [ダッシュボード 2.0 の作成および管理](#)
- [ダッシュボード 2.0 のダッシュボード設計の概念](#)
- [オブジェクト・パレット](#)
- [ダッシュボード・ツールバー](#)
- [ダッシュボード・ワークスペース](#)
- [プロパティ・パネル](#)
- [ダッシュボード・コンポーネント](#)
- [ダッシュボード 2.0 に関する考慮事項](#)
- [ダッシュボード 2.0 のダッシュボードの作成](#)
- [ダッシュボード 2.0 を設計するときのメンバー・セレクタの操作](#)
ダッシュボード 2.0 のダッシュボードを設計するときには、新しいディメンション・メンバーの検索と選択をメンバー・セレクタを使用して簡単に行うことができます。
- [ダッシュボード 2.0 でのフォーム 2.0 のグリッドについて](#)
- [ジオマップ・チャート・タイプについて](#)

- ピラミッド・チャート・タイプについて
- ウォーターフォール・チャート・タイプについて
- ダッシュボードでの表の使用
- ダッシュボード 2.0 のゲージ・チャート・タイプについて
- ダッシュボード 2.0 のレーダー・チャート・タイプについて
- ダッシュボード 2.0 の組合せチャート・タイプについて
- ダッシュボード 2.0 のタイル・チャート・タイプについて
- ダッシュボード 2.0 でのグローバルおよびローカルの POV について
- クイック分析について

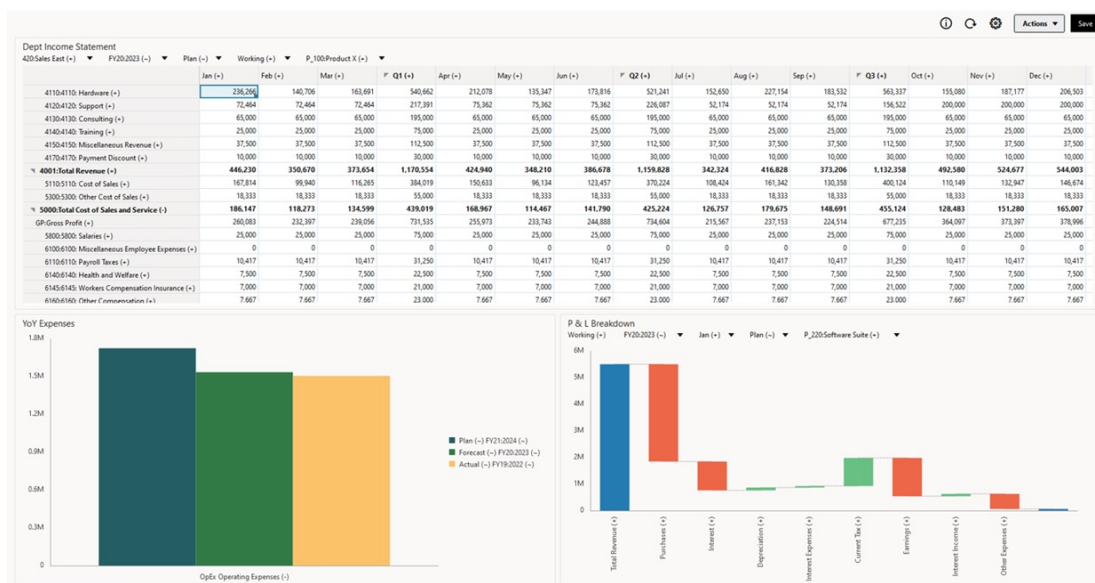
ダッシュボードのメリット

通常、ダッシュボードでは、ユーザーが計画および予測プロセスを開始するときに、サマリー・データを表示することで概要が提供されます。ダッシュボードの多様な機能により、ユーザーはチャート作成、評価、ハイライト、コメント作成および主要ビジネス・データの変更を行うことができます。ダッシュボード内にあるフォームでドライバを変更し、他のフォームやチャートでその影響を即座に確認できます。

ダッシュボード 1.0 のサンプル



ダッシュボード 2.0 のサンプル



ダッシュボードを作成するには、単に左側のライブラリ・パネルからダッシュボード・ワークスペースに様々なオブジェクトをドラッグ・アンド・ドロップします。

ダッシュボードでは、次のことができます。

- ユーザーがフォームでデータを変更すると動的に更新される複数のフォームと関連チャートを含めます。
- キューブから特定の値を表示するタイルを含めます。各タイルに値を提供するには、フォームまたはセル交差をデータ・ソースとして指定します。
- ダッシュボード・ユーザーに表示される内容を正確に確認できるように、デザイン環境とランタイム環境の使用を簡単に切り替えます。
- 面、棒、バブル、列、棒と折れ線の組合せ、ドーナツ、ファンネル、ゲージ、散布、レーダーなどの多様なチャート・タイプを使用して、データを対話形式で表します。
- ダッシュボードのレイアウトを制御します。
- フォームの設計に応じて、ユーザーが基礎となる詳細にドリルダウンし、作業するメンバーを選択できるようにします。
- グローバル **POV** バーとローカル **POV** にユーザー変数を含めます。
- 特定のチャートで、色や線幅をカスタマイズしたり、グリッド線の表示/非表示を切り替えます。
- 外部 **Web** ページを動的に表示するリンクを追加します。
- **注釈**と呼ばれるデータの説明をダッシュボードに含めます。
- フォームをマスターとしてタグ付けし、マスター・フォームのメンバーをフィルタ処理して、同じダッシュボード内に詳細フォームまたはチャートを表示します
- チャート内の凡例およびラベルの位置を変更します。
- **ダッシュボード 2.0** で:
 - 最大 **12** 個のコンポーネントをダッシュボード内に追加します
 - 最大 **10** 個のタイルをタイル・チャート・タイプに追加します

- チャートで階層ラベルを追加します
- 関連するチャート・タイプで対数目盛を使用します
- 関連するチャート・タイプでセカンダリ Y 軸を追加します
- 「スタイル」プロパティを使用して、「デフォルト」、「明るい」および「暗い」という背景色でダッシュボードをレンダリングします
- 書込み可能なグリッドがあるグリッド表示を使用します(フォーム 2.0 で使用されます)
- より大きな画面スペース、フォームを直接開いたり編集するオプション、データなしでダッシュボードを編集するオプション、POV の変更の自動適用、ディメンション名の非表示など、その他のユーザビリティの改善点を活用します
- ダッシュボードでの保存時のルールの向上: ロード/保存の前後の実行時プロンプトあり/なし
- ダッシュボード 1.0 から簡単に移行します

ノート:

ダッシュボード 1.0 のダッシュボードは、「**フォーム・バージョン**」設定が「**フォーム 2.0**」であっても、フォーム 1.0 でデプロイされます。

ユーザーがダッシュボード(ランタイムと呼ばれる)を使用する場合、表示されるチャートのタイプやダッシュボードのタイトルなど、コンポーネントの様々な側面を設定できます。各コンポーネントにツールバーを使用できます。ダッシュボード・ユーザーは、データの変更と保存、ルールの実行などを行うことができます。ただし、実行時にチャート・タイプのオプションに加えた変更は、次のセッションには保存されません。実行時に「**保存**」をクリックすると、データは保存されますが、ダッシュボード定義は保存されません。

サービス管理者は、ダッシュボードとダッシュボード・フォルダの作成、再設計、削除および権限の割当てを行うことができます。

ダッシュボードの作成および管理

次も参照:

- [ダッシュボード・バージョンについて](#)
- [ダッシュボードの表示](#)
- [ダッシュボード 1.0 から 2.0 へのダッシュボードの変換](#)
ダッシュボード 1.0 のダッシュボードをダッシュボード 2.0 のダッシュボードに変換する方法を学習します。

ダッシュボード・バージョンについて



ダッシュボードは、現在、2つのバージョンで使用可能です:

- **ダッシュボード 1.0:** Oracle Application Development Framework (Oracle ADF) テクノロジーが使用されています

- **ダッシュボード 2.0:** Oracle JavaScript Extension Toolkit (Oracle JET)テクノロジーが使用されています

現在、両方のダッシュボード・バージョンが同時に同じビジネス・プロセスに共存します。ダッシュボード 1.0 では Oracle ADF テクノロジーが使用されており、Oracle ADF ベースのダッシュボードの動作の変更はありません。引き続き、これらのダッシュボードを以前と同様にビジネス・プロセスで作成および更新できます。ダッシュボード 2.0 では既存のダッシュボード機能が使用されていますが、Oracle JET テクノロジーによってさらに向上しています。レンダリングがさらに速くなり、洗練され、使いやすく、柔軟性が向上し、よりよいビジュアルライゼーションが実現し、新たなデザインも追加されています。

「**ダッシュボード**」リスト・ページでダッシュボード・バージョンを区別しやすいように、それぞれのダッシュボードの前にアイコンが表示されるようになりました:

-  :ダッシュボード 1.0
-  :ダッシュボード 2.0

ダッシュボード 2.0 デザイナの機能

ダッシュボード 2.0 のデザイナーでは次のことがサポートされます:

- ダッシュボード 1.0 よりも多くのチャート・タイプ(たとえば、「ウォーターフォール」、「ピラミッド」、「ジオマップ」や、「レーダー」、「組合せ」および「ゲージ」のチャートのサブチャート・タイプはすべて、ダッシュボード 2.0 の機能です)
- ダッシュボード内に表を作成するとともに、データをインラインでビジュアルに表示する(スパーク・チャートと呼ばれます)
- クイック分析(これを使用すると、事前作成されたフォームがなくても、ダッシュボードにコンポーネントを追加できます)

「検索」バーにメンバー名を入力するか、「メンバー・セレクタ」を使用してアドホック問合せを作成した後、「プロパティ」パネルの「レイアウト」タブで問合せのレイアウトを制御します。

- 基になるフォームがフォーム 2.0 のフォームの場合にフォーム・グリッド内のデータを直接操作する
- 「URL」タイプのダッシュボード・コンポーネント
- 「注釈」タイプのダッシュボード・コンポーネント(テキスト・エディタ付き)
- カスタム・フォーマット済ダッシュボード・タイトル
- 「URL」、「注釈」、「グリッド」の各コンポーネント・タイプの背景色
- フォーム 2.0 をダッシュボード 2.0 の中でレンダリングするための「グリッド」チャート・タイプ・オプション
- グローバル・ルールを関連付けるためのプロパティ・パネル内の新しい「**関連付け**」タブ
- 「ゲージ」、「円」および「ドーナツ」チャート・タイプの複数のチャート
- ダッシュボード・コンポーネントの中からフォームを直接開いて編集するための新しいメニュー・オプション

- フォームおよびダッシュボードの「情報」アイコン。任意のフォームをダッシュボードにドロップしてその情報を表示できます。
- プロパティ・パネルのサイズを変更できる
- 各ダッシュボード・コンポーネントの背景色を設定できる
- コンポーネント・タイトルを削除して、空いたスペースをビジュアルライゼーションに使用することが可能
- ダッシュボード・コンポーネントの数の増加(最大 12)
- タイルの数の増加(最大 10)
- データなしで編集できる
- カスタマイズ後のセル・ビジュアルライゼーションの上限は任意の行 x 列の組合せで 10,000 セル、たとえば:
 - 100 行 x 100 列=10,000 セル
 - 1000 行 x 10 列=10,000 セル
 - 250 行 x 40 列= 10,000 セル
- ダッシュボードの「スタイル」を選択できる。オプションは「デフォルト」、「明るい」および「暗い」です。
- ダッシュボード・コンポーネントと POV バーの間の境界線の表示と非表示を切り替えるためのオプション
- 新しい Oracle JET メンバー・セレクタ
- 動的タブ内のサーフェス・デザイナー

ダッシュボード 2.0 に切り替える前の考慮事項を確認するには、[ダッシュボード 2.0 に関する考慮事項](#)を参照してください。

ダッシュボードの表示

ダッシュボード・ページを表示するには:

1. ホーム・ページで、「**ダッシュボード**」をクリックします。
2. ダッシュボードを開くには、ダッシュボードの名前をクリックします。

これにより、ダッシュボードがランタイム環境で開きます。

Note:

ダッシュボード 2.0 のダッシュボードを選択し、ダッシュボード 2.0 コンポーネントの初期化中にエラーが発生しましたというメッセージが表示された場合は、ダッシュボードにフォーム 2.0 のフォームが関連付けられています。ダッシュボードを表示する前に、フォーム 2.0 が有効になっていることを確認する必要があります。

フォーム 2.0 を有効にするには、「**アプリケーション**」、「**設定**」の順にクリックし、「**その他オプション**」で「**フォーム・バージョン**」を探し、「**フォーム 2.0**」を選択して、「**保存**」をクリックします。

ダッシュボード・ページの機能

ダッシュボード・ページでは:

- フォルダがサポートされています。**ダッシュボード・ページ**では、インフォレットやデータ入力フォームと同じフォルダ階層が使用され、すべてのアーティファクトとフォルダが「ライブラリ」と呼ばれるルート・フォルダの下にあります。「ライブラリ」フォルダを削除したり、名前変更することはできません。

Note:

管理者のみがファイル(たとえば、ダッシュボード、インフォレット、フォーム、レポートなど)を「ライブラリ」ルート・フォルダに追加できます。


- ダッシュボード・ページ**でダッシュボード・バージョンを区別しやすいように、それぞれのダッシュボードの前にアイコンが表示されるようになりました:

 : ダッシュボード 1.0

 : ダッシュボード 2.0

- フラット・ビューとツリー・ビューの間でダッシュボードの表示を切り替えることができます:




- ダッシュボード・ページ**をタイプに基づいてフィルタできます。  をクリックし、次のフィルタ・オプションから選択します:

- すべてのタイプ (デフォルト)
- ダッシュボード 1.0
- ダッシュボード 2.0

- 特定のダッシュボードを検索するには、



をクリックしてキーワードで検索するか、  をクリックして検索を特定のライブラリ・フォルダに絞り込みます。

ダッシュボード・ページの「アクション」列

ダッシュボード・ページの右側には、「アクション」列があります。ダッシュボードまたはフォルダの横にある **...** アイコンをクリックすると、次のアクションが表示されます:

- フォルダに対するアクション:

- **権限の割当:** フォルダに対するアクセス権限を割り当てます。フォルダ権限はそのフォルダ内のすべてのアイテムに適用され、リストに表示されていないアイテムにも適用されます。
- **ダッシュボードの作成:** ダッシュボード 1.0 のダッシュボードを作成します。
- **ダッシュボード 2.0 の作成:** ダッシュボード 2.0 のダッシュボードを作成します。
- **フォルダの作成:** 新しいフォルダを作成します。
- **削除:** フォルダを削除します。フォルダを削除するには、空である必要があります。
- **名前変更:** フォルダの名前を変更します。他のフォルダが含まれている場合、フォルダの名前を変更することはできません。
- **移動先:** フォルダをフォルダ階層内の別の場所に移動します。
- **すべてのダッシュボードを 2.0 に変換:** フォルダ階層内でダッシュボード 1.0 のダッシュボードを検出し、それらをダッシュボード 2.0 のダッシュボードに変換します。
- 個々のダッシュボードに対するアクション:
 - **編集:** 基礎となるフォームのデータを取得してダッシュボード・デザイナーでダッシュボードを開きます。ダッシュボードは動的タブで開きます。
 - **データなし編集**(「ダッシュボード 2.0」オプションのみ): ダッシュボード・コンポーネントおよびタイルの再配置のようなアクションをより簡単に実行できるように、基礎となるフォームのデータを取得せずにダッシュボード・デザイナーでダッシュボードを開きます。ダッシュボードは動的タブで開きます。
 - **名前変更:** ダッシュボードの名前を変更します。
 - **別名コピー:** 新しい名前を付けてダッシュボードをコピーします。ダッシュボードは、リスト内で元のダッシュボードの直下にコピーされます。
 - **削除:** ダッシュボードを削除します。
 - **移動先:** ダッシュボードを別のフォルダに移動します。
 - **権限の割当:** ダッシュボードに対するアクセス権限を割り当てます。
 - **ダッシュボード 2.0 に変換**(「ダッシュボード 1.0」オプションのみ): ダッシュボードをダッシュボード 2.0 のダッシュボードに変換します。
 - **URL のコピー:** ダッシュボードのダイレクト URL をコピーして共有できます。

ダッシュボード 1.0 から 2.0 へのダッシュボードの変換

ダッシュボード 1.0 のダッシュボードをダッシュボード 2.0 のダッシュボードに変換する方法を学習します。

アプリケーションで現在ダッシュボード 1.0 を使用している場合は、ダッシュボード 2.0 に変換できます。

ダッシュボードの変換は「**ダッシュボード**」リスト・ページで、個々のダッシュボード・レベルまたはフォルダ・レベルで行います。たとえば、アプリケーション内のすべてのダッシュボードを 1.0 から 2.0 に変換する場合は、最上位レベルの「ライブラリ」フォルダを選択してすべて変換できます。

 **Note:**

- ダッシュボード 2.0 への変換後に、ダッシュボードを再び変換してダッシュボード 1.0 に戻すことはできません。
- 変換プロセスによってダッシュボード名が変更されることはありません。ナビゲーション・フローは変換前と同様に動作します。
- ダッシュボード 2.0 への変換後は、固定 POV ではなく動的 POV が最初に表示されます。

ダッシュボード 1.0 からダッシュボード 2.0 に変換するには:

1. ホーム・ページで、「**ダッシュボード**」をクリックします。
2. 変換したいフォルダまたは個別のダッシュボード 1.0 ダッシュボードまでナビゲートしてから、次のオプションから選択します:
 - 個別のダッシュボードを変換するには、ダッシュボードの右にある...をクリックし、「**ダッシュボード 2.0 に変換**」を選択します。
 - 1つのフォルダ内のすべてのダッシュボードを変換するには、フォルダの右にある...をクリックし、「**すべてのダッシュボードを 2.0 に変換**」に変換します。

 **Note:**

- 非常に古いダッシュボードでは、ダッシュボード定義の中にコンポーネントの幅が含まれていることがありますが、これはサポートされなくなりました。これに該当する場合は、古いダッシュボードを 2.0 に変換した後、予期しないダッシュボードのレンダリングが発生することがあります。

この問題を解決するために、次の回避策のいずれかを行うことをお勧めします:

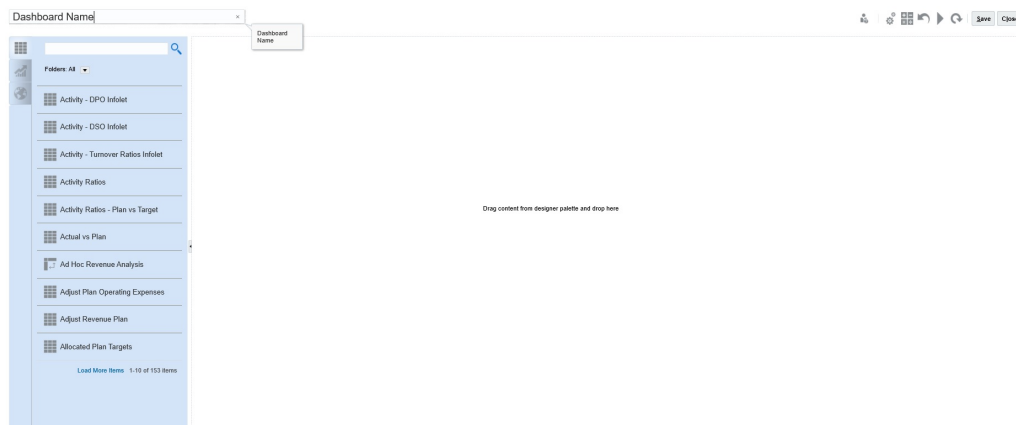
- 元のダッシュボードをダッシュボード(1.0)で開き、ダッシュボードを編集して保存します。ダッシュボードは自動的に、コンポーネントの幅の値が修正された状態で保存されるので、ダッシュボード 2.0 に変換できるようになります。
- 新しいダッシュボードをダッシュボード(1.0)で、同じフォームおよびチャート一式および同じ設定を指定して作成してから、そのダッシュボードをダッシュボード 2.0 に変換します。
- 新しいダッシュボードをダッシュボード 2.0 で、同じアーティファクトおよび設定を指定して作成します。
- マスター・フォームと詳細が含まれるダッシュボードが、23.11 更新よりも前にダッシュボード 2.0 に変換された場合は、グリッドのコンテキスト・メニューに「**コンテキストの適用**」メニュー・オプションが2つ表示される可能性があります。この問題は 23.11 で修正されました。

ダッシュボード 1.0 の作成および管理

- [1.0 ダッシュボード設計の概念](#)
- [ダッシュボード 1.0 のダッシュボードの作成](#)
- [マスター・フォームと詳細を含むダッシュボードの作成](#)
- [ダッシュボードのレイアウトについて - バージョン 1.0](#)
- [ゲージ・チャート・タイプについて](#)
- [タイル・チャート・タイプについて](#)
- [ダッシュボードの色のカスタマイズ](#)
- [1.0 ダッシュボードのグローバル POV とローカル POV について](#)
- [ダッシュボード POV と有効な交差](#)

1.0 ダッシュボード設計の概念

1.0 ダッシュボードを設計するには、次の情報が役立ちます。



- 左側には、デザイン・パレットがあります。パレットからキャンバスにオブジェクトをドラッグ・アンド・ドロップします。

ヒント:

オブジェクトを枠線までドラッグします。許可されたスペースにオブジェクトをドロップできるようになると、ドラッグ・アイコンがプラス記号に変わります。[ダッシュボードのレイアウトについて - バージョン 1.0](#) を参照してください。

- 右上には、ダッシュボード全体の設定があります。



- 「設定」


をクリックして、ダッシュボードの次の一般設定を指定します。

表 16-1 ダッシュボードの一般設定



オプション	説明
名前をタイトルとして使用	このオプションはデフォルトで選択されています。カスタム・フォーマットのタイトルをダッシュボードに指定するには、このオプションの選択を解除します。
枠線	新しいダッシュボードを作成する場合、デフォルトでは枠線は非表示です。新しく作成するダッシュボードで枠線を表示するには、「表示」を選択します。
レイアウト	「固定」(デフォルト)または「フレキシブル」を選択します。
POV バー	「表示」(デフォルト)または「非表示」を選択します。
グローバル POV バー	「有効化」(デフォルト)または「無効化」を選択します。

POVの詳細は、[1.0 ダッシュボードのグローバル POV とローカル POV について](#)を参照してください。

- ダッシュボード・オブジェクトにカーソルを置くと、そのオブジェクトのツールバーが右上隅に表示されます: 



ノート:


ダッシュボード(1.0)のホバー・アイコンでは、オブジェクトのタイプに応じて、「指示」(フォームに指示が構成されている場合のみ使用可能)、「アクション」、「保存」、「リフレッシュ」、「設定」および「最大化」などのオプションが提供されます。

- ダッシュボードの作成時に、「ランタイム」 をクリックすると、ダッシュボード・ユーザーに対するダッシュボードの外観と動作をすぐに確認できます。デザイナー・モードに戻ってダッシュボードの設計を続行するには、 をクリックします。
- デフォルトでは、欠落データまたは抑制データは、グラフでゼロとしてプロットされます。「欠落値をゼロとしてプロット」設定をクリアして、特定のチャート・タイプの欠落データまたは抑制データを無視し、ゼロとしてプロットされなくなるようにできます。
- ダッシュボードのリスト・ページでは、フォルダがサポートされます。フォルダによって、個別のダッシュボードに対する権限を割り当てるかわりに、フォルダ内のすべてのダッシュボードに対する権限を割り当てることができます。ダッシュボードのリスト・ページでは、インフォレットやデータ入力フォームと同じフォルダ階層を使用しており、すべてのアーティファクトおよびフォルダは、「ライブラリ」と呼ばれるルート・フォルダ内に存在します。

 ノート:

管理者のみがファイル(たとえば、ダッシュボード、インフォレット、フォーム、レポートなど)を「ライブラリ」ルート・フォルダに追加できます。


- ダッシュボードのリスト・ページでは、ダッシュボード表示のフラット・ビューと階層ビュー( )を切り替えることができます。

その後、「検索」  を使用してダッシュボードを検索できます。フラット・ビューには、検索条件と一致するダッシュボードのみが表示され、それらを含むフォルダは表示されません。ツリー(階層)ビューには、ダッシュボードとそれらが含まれるフォルダと一緒に表示されます。

別のキーワードで検索するには、「検索」ボックスの × をクリックして検索条件をクリアします。

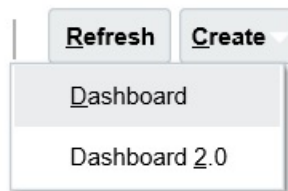
ダッシュボード 1.0 のダッシュボードの作成

選択するダッシュボード・バージョンを決定する際に役立つ情報を確認できます。[ダッシュボード・バージョンについて](#)を参照してください。

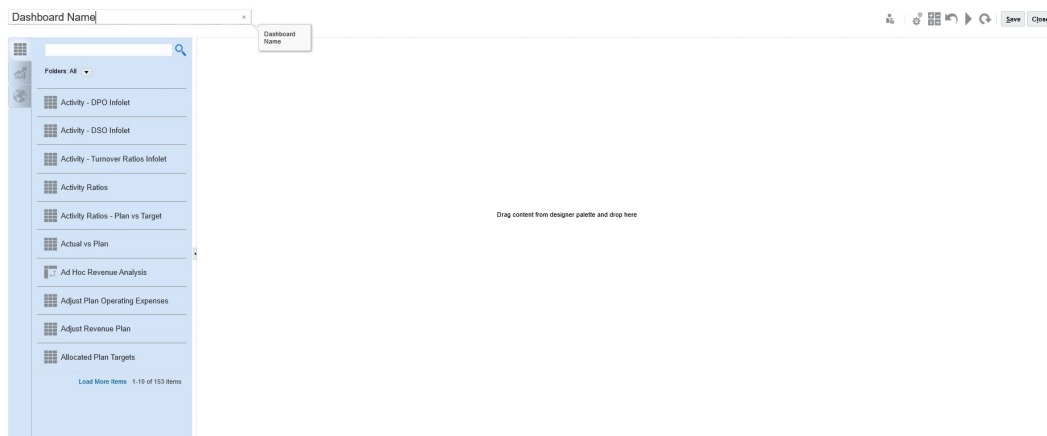
 ノート:

ダッシュボード 2.0 のダッシュボードを作成するには、[ダッシュボード 2.0 のダッシュボードの作成](#)を参照してください。

- ホーム・ページから、「**ダッシュボード**」をクリックし、「**作成**」をクリックします。



- 提供されるオプションから、「**ダッシュボード**」を選択します。



3. デフォルトのダッシュボード名をクリックし、入力ボックスに新しい名前を入力することにより、名前を入力します。

カスタム・フォーマットのタイトルをダッシュボードに指定するには、「**設定**」をクリックし、「**名前をタイトルとして使用**」の選択を解除し、タイトルを入力して、ダイアログ・ボックスのフォーマットを設定します。

4. 左側のデザイン・パレットから、オブジェクトをダッシュボード・キャンバスにドラッグ・アンド・ドロップします。

次のオブジェクトから選択します。

表 16-2 ダッシュボード・オブジェクト


オブジェクト	説明
フォーム	<p>フォーム・フォルダにナビゲートするか、名前で検索して、ダッシュボードに含めるフォームを選択します。フォームをダッシュボードに追加した後にそのフォームの指示を表示するには、フォームの上にカーソルを置き、「指示」</p> <p> をクリックします。</p> <p>フォームに設定されているアクセス権限がダッシュボードで保持されます。</p>

表 16-2 (続き) ダッシュボード・オブジェクト

オブジェクト	説明
チャート・タイプ	<p>ダッシュボードに含めるチャート・タイプを選択します。最初に追加した際、選択したチャートにはサンプル・データがあります。続いて、それをそのデータ・ソースとしてのフォームに関連付けます。チャートをフォームにリンクすると、ユーザーは、関連付けられたチャートに対するフォームでのデータ変更の影響をすぐに確認できます。</p> <p>デフォルトでは、欠落データまたは抑制データはゼロとしてプロットされます。選択したチャート・タイプ(面、バブル、組合せ、折れ線、レーダーおよび散布図)のチャートの設定で、欠落している値をゼロとしてプロット・オプションの選択を解除して、この設定を無効にできます。このオプションがクリアされると、欠落データまたは抑制データが無視されて、そのチャート・タイプでプロットされなくなります。</p> <p>「組合せ」チャート・タイプでは、行データが交互に垂直棒と折れ線でチャート内に表示されます。たとえば、フォームの行 1 のデータは棒として、行 2 のデータは折れ線として表示され、偶数と奇数の行のチャート・タイプが交互に入れ替わります。「組合せ」チャート・タイプで表示できるデータは 20 行までですが、特に 2 つのカテゴリのデータを比較する際に便利です。たとえば、ドイツとフランスの平均為替レートを複数年にわたって比較するため、フォームの行 1 にドイツのレートがあり、フランスのレートが行 2 にある場合などです。</p> <p>「ゲージ」チャート・タイプの詳細は、ゲージ・チャート・タイプについてを参照してください。</p> <p>パフォーマンス・タイルと呼ばれることもあるタイル・チャート・タイプを使用すると、キューブから特定の値を選択して表示できます。タイル・チャート・タイプについてを参照してください。</p>
注釈	<p>「外部アーティファクト」、「注釈」の順に選択します。データまたはチャートを説明するテキストを入力します。テキスト制限は、リッチ・テキスト用に追加されるフォーマット・タグを含めて、2000 文字であることに注意してください。</p>
URL	<p>動的な Web ページのサマリーです。「外部アーティファクト」、「URL」の順に選択します。https://セキュリティ・プロトコルで始まる外部サイトの URL のみを挿入します。内部または相対 URL や、google.com などの同意していないサード・パーティ・サイトの URL を使用しないでください。</p>

5. ダッシュボード設定とオブジェクトのホバー・ツールバーを使用してダッシュボードをカスタマイズし、「保存」をクリックします。

[ダッシュボードのレイアウトについて - バージョン 1.0](#) を参照してください。

「ダッシュボード」リスト・ページで「別名コピー」を使用すると、ダッシュボードを簡単に複製して変更できます。コピーするダッシュボードの横にある「アクション」アイコンを選択します。

マスター・フォームと詳細を含むダッシュボードの作成

1 つのマスター・フォームと複数の詳細(ターゲット)オブジェクト(フォームまたはチャート)を含むダッシュボードを設計できます。その場合、マスター・フォームのメンバーの選択によってターゲット・オブジェクトのメンバーが自動的にフィルタ処理され、ターゲット・オブジェクトには、マスター・フォームでハイライトされたメンバーに関連する詳細のみが表示されます。

マスター・フォームとターゲット・オブジェクトを含むダッシュボードを設計する際の考慮事項:

- マスター・フォームは常にフォームでなければなりません(チャートをマスター・フォームとしてタグ付けすることはできません)。
- ターゲット・オブジェクトはフォームでもチャートでもかまいません。
- マスター・フォームを含むダッシュボードは、常に複数のオブジェクトを含む必要があります。
- ダッシュボード上の1つのフォームだけをマスターとしてタグ付けできます。ダッシュボード上の別のフォームをマスターとしてタグ付けする場合は、まず既存のマスター・フォームのタグ付けを解除する必要があります。

マスター・フォームとターゲット・オブジェクトを含むダッシュボードを作成するには:

1. 少なくとも1つのフォームと1つまたは複数のターゲット・オブジェクトを含むダッシュボードを作成します。
[ダッシュボードの作成および管理](#)を参照してください。
2. 「アクション」をクリックしてから、「編集」を編集して、必ずダッシュボードをデザイナー・モードにします。
3. ダッシュボード上でマスターとして指定するフォームを選択し、フォームの「設定」アイコンをクリックしてから、「マスターとしてタグ付け」を選択します。

マスター・フォーム内のデータに関連するターゲット・フォームまたはチャートのデータをフィルタ処理するには、マスター・フォーム内の関連するデータを右クリックし、「コンテンツの適用」を選択します。

ダッシュボードのレイアウトについて - バージョン 1.0

バージョン 1.0 でのダッシュボードのレイアウトの設定について:

- 最初にドラッグしたオブジェクトがキャンバス全体を占有します。
- その後、既存のオブジェクトの上下左右にオブジェクトをドラッグします。
- ダッシュボード・キャンバスには、2種類のドロップ・ゾーンが用意されています。2つのオブジェクトを相互に並べて配置し、それぞれがスペースの半分を占有するものと、3つのオブジェクトを配置し、それぞれがスペースの3分の1を占有するものです。
- オブジェクトを左右および上下に並べて表示するようにダッシュボードを設計でき、それぞれを独自のサイズに調整することもできます。
- 「フレキシブル」レイアウトを使用しているオブジェクトのサイズを変更するには、オブジェクトの枠線をドラッグします。オブジェクトのハンドルをクリックして拡張し、ハンドルを再びクリックしてオブジェクトを元のサイズに戻すこともできます。
- 「固定」レイアウトを使用しているオブジェクトのサイズを変更するには、「設定」でその幅または高さの割合を設定します。
- フォームのレイアウトは非対称にすることができます。
- 実行時モードでは、ユーザーがフォームに対するアクセス権を持っていない場合やフォームが見つからない場合、隣接するオブジェクトがそのスペースを占有します。デザイナー・モードでは、空のオブジェクトがすべて表示され、デザイナーはそれらを削除するように選択できます。

ゲージ・チャート・タイプについて

ゲージ・チャート・タイプは、データ値が許容範囲内に収まっているかどうかを確認する場合に便利です。最大値および範囲の最大値を設定すると、ゲージに範囲が赤、黄色および緑で表示され、現在の値をすばやく評価できます。そのため、ゲージ・チャート・タイプを使用すると、重要なデータ・ポイントやメジャーにおける問題を簡単に特定できます。たとえば、しきい値が売上げ目標を示すように設定し、ゲージを使用して現在の売上げを表示できます。

フォームに複数の値がある場合、最大 36 個(フォームの最初の 6 行と最初の 6 列の値)まで、複数のゲージを表示できます。フォーム内の残りの値は無視されます。ゲージ・チャートに 1 つの値のみを表示する場合は、セル値が 1 つのみのフォームにそれに関連付けます。

ダイヤル・ゲージまたはステータス・メーター・ゲージを選択できます。ステータス・メーター・ゲージは、水平棒または垂直棒を使用して表示できます。

ダッシュボード・デザインは次の設定を行うことができます。

- **最大値:** ゲージの最高値。ダッシュボード・デザインが「**最大値**」をデフォルトとして設定した後、ユーザーが実行時にそれを一時的に変更できます。ダッシュボード・デザインが最大値を指定しなかった場合、アプリケーションでは、最大値がゲージの値より大きいものに自動的に設定されます。
- **しきい値:**
 - 「低しきい値」、「中しきい値」および「高しきい値」: メジャーが許容範囲内にあるかどうかを視覚的に示すために、これらのしきい値を使用して、指定した値に基づいてゲージを赤、黄色および緑で表示できます。
 - 低い値が適しているしきい値。
 - ゲージでしきい値にカーソルを置くと表示されるしきい値の適切なラベル。

Settings

[Close](#)

Charts	Data	Gauge			
Maximum Value	<input type="text" value="2500"/>				
Goal	<input checked="" type="radio"/> High values are desirable <input type="radio"/> Low values are desirable				
Low Threshold	<input type="color" value="#C00000"/>	Maximum Value	<input type="text" value="1000"/>	Label	<input type="text" value="Low"/>
Medium Threshold	<input type="color" value="#FFA500"/>	Maximum Value	<input type="text" value="1500"/>	Label	<input type="text" value="Medium"/>
High Threshold	<input type="color" value="#008000"/>	Maximum Value	<input type="text" value="1700"/>	Label	<input type="text" value="High"/>

When setting the Maximum Value for Low, Medium and High Thresholds for a gauge showing % values, use decimal values. For example, enter .25 for 25%. Also, for percentage gauges, always set the Maximum Value to 1.

たとえば、次のようなフォームのデータがあるとします。

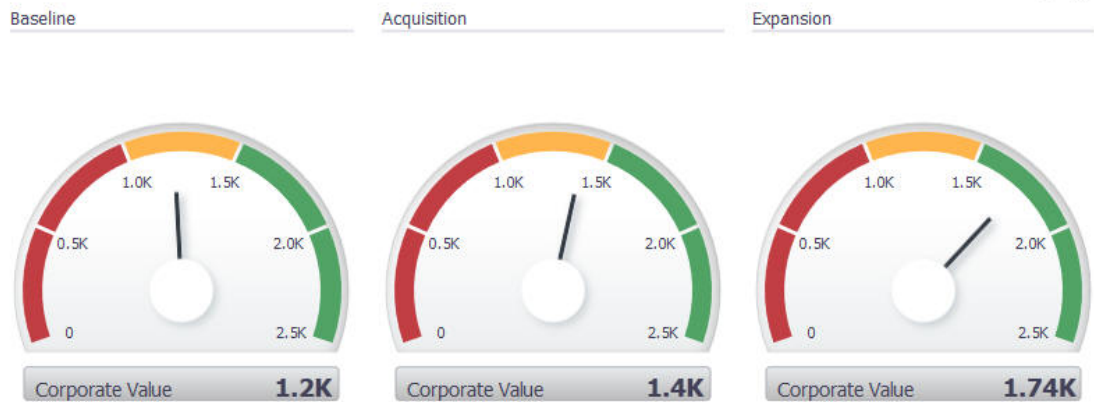
Shareholder Value



	Baseline	Acquisition	Expansion
Corporate Value	1,217.058941308	1,391.87	1,737.72

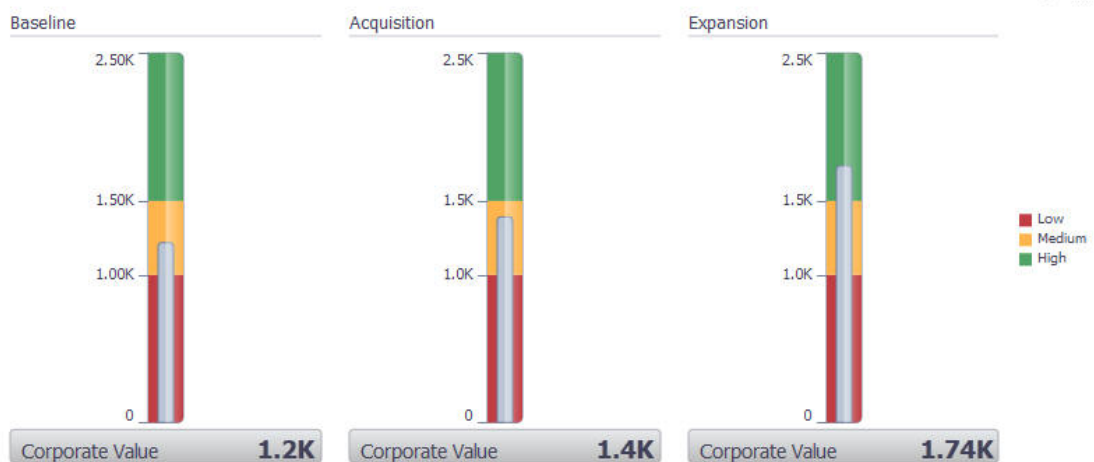
結果として生成されるダイヤル・ゲージは次のようになります。

Shareholder Value



結果として生成される垂直棒を使用したステータス・メーター・ゲージは次のようになります。

Shareholder Value



 **ノート:**

フォームのセルに値がない場合、そのセルについてはゲージが表示されません。また、少なくとも2つの連続するしきい値を指定する必要があります。アプリケーションでは、チャートを計算するために中間のしきい値が必要です。

タイル・チャート・タイプについて

タイルは、キューブから特定の値を選択して表示できるチャート・タイプです。フォームをデータ・ソースとして使用する以外に、タイルに値を提供するセル交差を直接入力することもできます。横方向に最大6つのタイルと、下方に4つの行をダッシュボードに含めて、それらにタイトルを指定できます。タイルをデータに関連付けるまで、サンプル・データが表示されます。

フォームをタイルのデータ・ソースとして使用する場合:

- 1つのオブジェクトにつき最大6つのタイルを含めることができます。
- 最初の列の値(6行目まで)が、タイルを作成するために使用されます。

 **ノート:**

場合によっては、フォーム内で、グリッドとして表示されたときに最初の列が縮小される(非表示になる)ことがあります。ただし、タイルがフォームからその値を取得する際には、縮小された列も考慮されます。

- タイルのタイトルは行のタイトルで、最初の列から、続いて行によってその値を取得します。
- タイルのタイトル、タイルの高さのパーセンテージ、凡例を設定でき、含めるフォームの軸を選択できます。たとえば、3つの行があるフォームを選択すると、タイルに3つの値が表示されます。

タイルのデータ・ソースとしてセル交差を使用する場合は、1つのオブジェクトにつきタイルを1つのみ含めることができます。

 **ヒント:**

タイル・チャート・タイプを選択するには、リストの下部にあるリンクをクリックして、チャート・タイプのリストを展開します。

タイル・チャート・タイプに設定できるオプションは、次のとおりです。値の表示は、タイルの水平方向で左、中央、右に設定することができます。

大きい数字のスケールリング

大きい数字で特に便利なのは、値の表示方法を指定できることです。たとえば、タイル値が 1,689,000 の場合に、スケールリング・オプションとして「**K**」を選択すると、タイルにはこの値が「1689K」と表示されます。スケールリングのオプションは次のとおりです。

- **なし**: スケールリングを適用しません。
- **自動**: 範囲に応じて値が表示されます。たとえば、1,500 は「1.5K」、1,689,000 は「1.69M」、42,314,531,211 は「42.31B」、1,234,567,891,234 は「1.23T」としてそれぞれ表示されます。
- **K**: 千単位で値が表示されます。たとえば、1689000 は「1689K」と表示されます。
- **M**: 百万単位で値が表示されます。たとえば、123,456,789 は「123M」と表示されます。
- **B**: 十億単位で値が表示されます。たとえば、12,345,678,912 は「12B」と表示されます。
- **T**: 兆単位で値が表示されます。たとえば、1,234,567,891,234,567 は「1,234T」と表示されます。

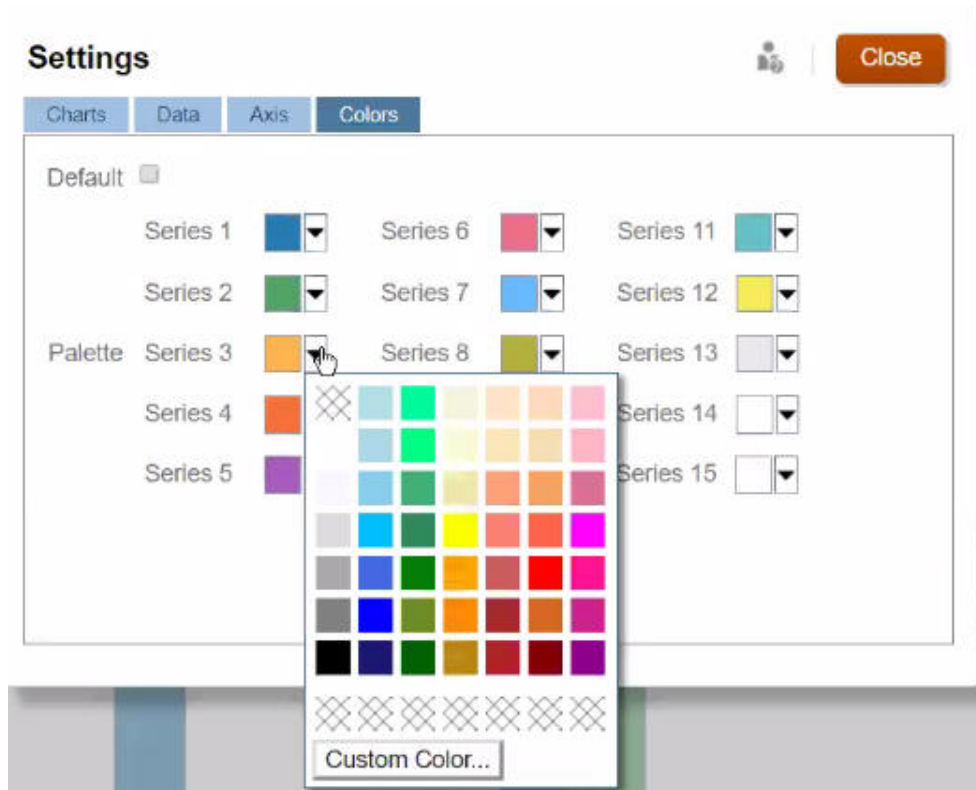
ダッシュボードの色のカスタマイズ

企業では、標準的な色のセットを使用して、チャート内の様々なタイプのデータを示している場合があります。たとえば、実績データは濃い青で、予算データは水色で示されます。ダッシュボードの色をカスタマイズする際は、フォームの行の順序で色を選択します。系列 1 はデータの最初の行を表し、以降はそれに続きます。フォームの各行に、チャート内のデータを表す色を割り当てることができます。

棒、折れ線、面、バブル、列、組合せ、ドーナツ、円、レーダー、散布の各グラフ・タイプでダッシュボードの色をカスタマイズできます。

1. ダッシュボードのデザイン・パレット上のチャートで、「設定」 をクリックします。

2. 「色」をクリックします。
3. 「デフォルト」チェック・ボックスをクリアして、変更する系列の下向き矢印▼をクリックします。
背景のチャートで、各系列が表すデータ・タイプを確認します。



4. 選択した系列に指定する色をクリックして、「閉じる」をクリックします。

 **ノート:**

最初に表示されているよりも多くの色の濃淡を選択するには、「**カスタム色**」をクリックします。

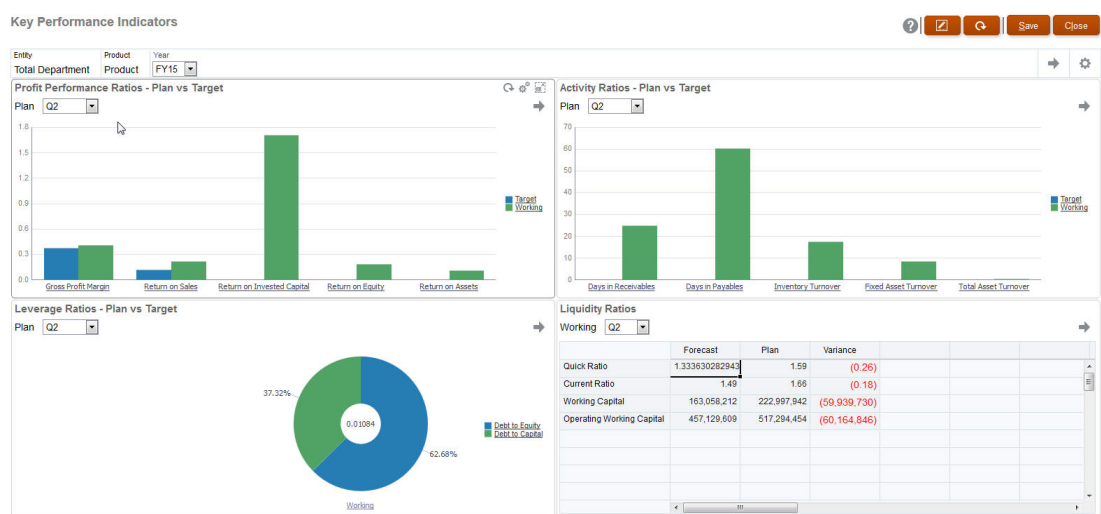
選択内容は、現在のチャートにのみ適用されます。ダッシュボードで他のチャートの色を変更する場合も、このステップに従います。

1.0 ダッシュボードのグローバル POV とローカル POV について

フォームのローカル POV には、フォーム設計者がそのフォームについて選択したディメンション・メンバーが反映されます。ダッシュボードではグローバル POV バーもサポートされており、各オブジェクトで繰り返されないように、共通するローカル POV はグローバル POV バーに組み込まれます。

ダッシュボード 1.0 の POV の例

次の 1.0 ダッシュボードには、グローバル POV バー(「エンティティ」、「製品」および「年」を示す)とローカル POV (Q2 を示す「プラン」ドロップダウン・リスト)が表示されています。



グローバル POV バーがある場合、グローバル POV バーでページを変更し、「実行」をクリックすると、フォームに基づいたすべてのオブジェクトについてページが変更されます。グローバル POV バーはダッシュボードの最上部に、すべてのオブジェクトより上に表示されるのに対して、ローカル POV バーはオブジェクト内に表示されます。ユーザー変数は、ダッシュボードのグローバル POV とローカル POV の両方でサポートされており、動的ユーザー変数を POV バーから直接変更できます。

ダッシュボードの「設定」で、POV を表示するか、非表示にするか、およびグローバル POV バーを有効にするか、無効にするかを設定できます。(「POV バー」について「非表示」を、「グローバル POV バー」について「有効化」を選択した場合、「非表示」オプションが「有効化」オプションより優先されます。)グローバル POV バーは、デフォルトで有効になっています。無効にすると、該当する場合、それぞれのローカル POV について POV 全体が表示されます。

グローバル POV バーについて:

- POV バーは、ローカル POV ディメンション、ページ・ディメンションおよびユーザー変数で構成されます。
- ダッシュボード上の各フォームのローカル POV およびページに応じて、グローバル POV バーが自動的に計算されます。
- それらは、そのダッシュボードでフォームを使用している他のオブジェクトに反映されます。つまり、それらは、ダッシュボード内のフォーム、フォームにリンクされたチャート、およびデータ・ソースとしてフォームを使用するタイルに適用されます。そのため、ダッシュボードにデータ・ソースとしてフォームが含まれていない場合は、ローカル POV バーもグローバル POV バーも使用できません。

次に、2つのフォームのローカル POV ディメンションに基づいて、グローバル POV バーがどのように計算されるかの例を示します。

グローバル POV バーが無効:

- フォーム A のローカル POV: 年、エンティティ、製品

- フォーム B のローカル POV: 年、エンティティ、プロジェクト

グローバル POV バーが有効:

- グローバル POV バー: 年、エンティティ
- フォーム A のローカル POV: 製品
- フォーム B のローカル POV: プロジェクト

すべてのディメンションおよびページの選択がダッシュボード上のすべてのフォームに共通しているとはかぎらないため、ダッシュボード・オブジェクトの POV 全体がローカル POV バーとグローバル POV バーの間で分割されることがあります。グローバル POV バーとローカル POV をあわせると、ダッシュボード上の各フォームの完全な交差情報が含まれます。

データ・ソースとしてフォームを使用するオブジェクトが、ダッシュボードで 1 つのみである場合、フォームの POV/ページ全体をグローバル POV バーに移動できます。

データ・ソースとしてフォームを使用するオブジェクトがダッシュボードに複数ある場合、どのディメンションがグローバル POV バーに移動し、どのディメンションがローカル POV にとどまるかは次のように決まります。

- ディメンションがすべてのフォームの POV またはページに含まれ、メンバーの選択がすべてのフォームで同じ場合、ディメンションはグローバル POV バーに移動します。
- ディメンションが 1 つのフォームの POV および別のフォームのページに含まれる場合、ディメンションはローカル POV バーにとどまります。
- ディメンションが POV に含まれる場合、そのディメンションについてすべてのフォームで同じメンバーが選択されている必要があります。
- ディメンションがページ・ディメンションである場合、選択されたページ・メンバーがすべてのフォームで同じであり、同じ順序で表示される必要があります。

1.0 ダッシュボードの POV は、無効なページ・メンバーを非表示にして有効交差を保持します。[ダッシュボードの POV および有効交差](#)を参照してください。

ダッシュボードの POV および有効交差

ダッシュボード内の POV では、無効なページ・メンバーを非表示にすることにより、有効な交差が適用されます。フォームと同様に、「ページ」ドロップダウン・リストでは、POV およびページ・ディメンションのすべての選択されたメンバーがフィルタ処理されます。ダッシュボードでは、グローバルおよびローカルの POV がサポートされるため、「ページ」ドロップダウン・リストのフィルタ処理のコンテキストはメンバーが配置されている POV によって異なります。「ページ」ドロップダウン・リストがグローバル POV にある場合、フィルタ処理コンテキストはグローバル POV ディメンションのみとなります。「ページ」ドロップダウン・リストがローカル POV にある場合、フィルタ処理コンテキストはすべてのグローバル・ディメンションおよびチャートのローカル POV のディメンションとなります。

1.0 [ダッシュボードのグローバル POV とローカル POV についても参照してください。](#)

ダッシュボード 2.0 の作成および管理

次も参照:

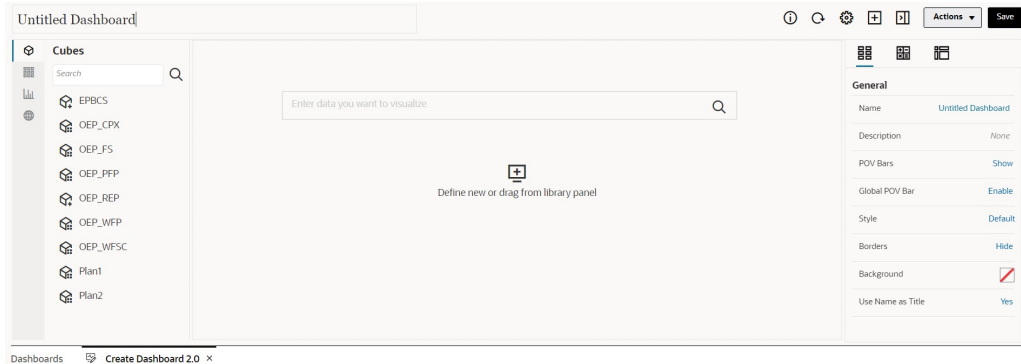
- [ダッシュボード 2.0 のダッシュボード設計の概念](#)
- [ダッシュボード 2.0 に関する考慮事項](#)
- [ダッシュボード 2.0 のダッシュボードの作成](#)
- [ダッシュボード 2.0 を設計するときのメンバー・セクタの操作](#)
ダッシュボード 2.0 のダッシュボードを設計するとき、新しいディメンション・メンバーの検索と選択をメンバー・セクタを使用して簡単に行うことができます。
- [ダッシュボード 2.0 でのフォーム 2.0 のグリッドについて](#)
- [ジオマップ・チャート・タイプについて](#)
- [ピラミッド・チャート・タイプについて](#)
- [ウォーターフォール・チャート・タイプについて](#)
- [ダッシュボードでの表の使用](#)
- [ダッシュボード 2.0 のゲージ・チャート・タイプについて](#)
- [ダッシュボード 2.0 のレーダー・チャート・タイプについて](#)
- [ダッシュボード 2.0 の組合せチャート・タイプについて](#)
- [ダッシュボード 2.0 のタイル・チャート・タイプについて](#)
- [ダッシュボード 2.0 でのグローバルおよびローカルの POV について](#)
- [クイック分析について](#)

ダッシュボード 2.0 のダッシュボード設計の概念

このトピックには、ダッシュボード 2.0 のダッシュボードを設計する際に役立つ情報が含まれています:

- [ダッシュボード 2.0 デザイナについて](#)
- [ダッシュボード 2.0 デザイナを開く](#)
- [チャートのデータ・ソース](#)
- [ダッシュボード 2.0 に関するその他の役立つ情報](#)
- [ビデオ](#)

ダッシュボード 2.0 デザイナについて



ダッシュボード・デザイナは、次のダッシュボード・コンポーネントで構成されています:

- オブジェクト・パレット
- ダッシュボード・ツールバー
- ダッシュボード・ワークスペース
- プロパティ・パネル
- ダッシュボード・コンポーネント

ダッシュボード 2.0 デザイナを開く

前述したように、**ダッシュボード**・ページのダッシュボード 2.0 のダッシュボードは次

のアイコンによって識別されます: 

ダッシュボード 2.0 デザイナを開くには:

1. ホーム・ページで「**ダッシュボード**」をクリックします。
2. 次のいずれかのオプションを選択してください:
 - ダッシュボードを作成するには、「**作成**」をクリックし、「**ダッシュボード 2.0**」を選択します。
 - ダッシュボードを編集するには、編集したいダッシュボード 2.0 ダッシュボードの右にある「**アクション**」列の中の**...**をクリックし、「**編集**」をクリックします。

ダッシュボード 2.0 のダッシュボードを編集している間にデータを操作する必要がない場合、たとえばダッシュボードのコンポーネントやタイルの配置を変更したい場合は、**...**をクリックし、「**データなし編集**」を選択します。
3. ダッシュボード 2.0 のダッシュボードがランタイム環境で開いている場合は、ランタイム環境からダッシュボード・デザイナ環境に切り替えることができます。


「**アクション**」をクリックし、「**編集**」または「**データなし編集**」を選択します。

チャートのデータ・ソース

ダッシュボード 2.0 では、アド・ホック・グリッド、フォームおよびキューブからデータを選択できます。データ・ソースはオブジェクト・パレットから選択します。


 ノート:

ダッシュボード 2.0 のダッシュボード 1 つに最大 12 個のコンポーネントを入れることができます。

- コンポーネントのデータ・ソース情報全体をプロパティ・パネルの「**チャート**」タブ  で見ることができ、その情報は「**ビジュアライゼーション**」の下に表示されます。
- クイック分析のデータ・ソースとしてキューブを使用する場合は、オブジェクト・パレットからダッシュボード・ワークスペースにキューブをドラッグ・アンド・ドロップしてから、「**検索**」ボックスをクリックして、メンバー名を入力するか、メンバー・セレクタを起動してメンバーを選択します。「**レイアウト**」タブがプロパティ・パネルに表示され、ここでディメンションをピボットすることや、どのディメンションを **POV**、行または列の軸に表示するかを選択できます。 [クイック分析について](#) を参照してください。

 ノート:

クイック分析を使用してチャートを作成できるのは、選択できる全ディメンションのうち 50 個のメンバーという上限があります。この制限とキューブ内のディメンション数をあわせて、クイック分析に基づいたチャートでサポートされるグリッドの最大サイズが決まります。

- ダッシュボード・コンポーネントのデータ・ソースがフォームまたはアド・ホック・グリッドのときは、フォーム定義を使用してデータがフェッチされます。
 - プロパティ・パネルでソース・フォームを変更できます。変更するには、プロパティ・パネルの  タブの「**フォーム**」プロパティをクリックします。
 - 1 つのチャートでビジュアル化できるフォーム・データの合計数は 10,000 セルです。デフォルトでは、これは 100 行と 100 列です。ただし、合計が 10,000 セル以下となるように行と列の数を任意の組合せに変更できます。たとえば、行の数を 5 に減らす場合は、列の数を 2,000 まで増やすことができます ($5 \times 2000 = 10,000$)。
 - フォームの精度が設定されている場合は、ダッシュボード 2.0 への変換後に表示される値はそのフォームの精度設定に基づいています。フォームの精度の値が設定されていない場合は、ダッシュボード 2.0 への変換後に表示される値が変化する可能性があります。

 ノート:

ダッシュボード・コンポーネントのデータ・ソースがフォームのときに、そのフォームの行の中に未構成の空白ヘッダー・セルまたは空の式行がある場合は、対応するチャートの凡例が表示されません。

- 「ドーナツ」、「円」および「ゲージ」のチャート・タイプの場合は、複数のチャートを 1 つのコンポーネントに追加できます。複数のチャートを追加するには、チャートの「**表示**」プロパティで「**単一**」または「**複数**」をクリックします。「**単一**」が選択されている場合は、チャートには基になるフォームのデータの最初の列のみが表示されます。「**複数**」

が選択されている場合は、基になるフォームのデータの列ごとに1つのチャートが表示されます。

ノート:

ダッシュボードに「ドーナツ」、「円」および「ゲージ」のチャート・タイプがあり、ダッシュボード 1.0 からダッシュボード 2.0 に変換された場合は、「表示」プロパティのデフォルトのオプションが「複数」となります。新規作成されるダッシュボード 2.0 のダッシュボードの場合は、「表示」のデフォルトのオプションは「単一」です。

ダッシュボード 2.0 に関するその他の役立つ情報

- ダッシュボードを作成するときに、「アクション」をクリックして**保存して実行**を選択すると、そのダッシュボードがダッシュボード・ユーザーにはどのように見えて動作するかをその場で見ることができます。デザイナー・モードに戻ってダッシュボードの設計を続行するには、「アクション」をクリックし、「**編集**」または「**データなし編集**」を選択します。
- デフォルトでは、欠落データまたは抑制データはゼロとしてプロットされます。選択したチャート・タイプ(面、バブル、組合せ、折れ線、レーダーおよび散布図)のチャートの設定で、「**プロットにゼロの値なし**」オプションを選択して、この設定を無効化できます。このオプションが無効化されているときは、欠落しているデータや抑制データは無視され、それらのチャート・タイプについてゼロとしてプロットされなくなります。
- ダッシュボード 2.0 の考慮事項を確認するには、[ダッシュボード 2.0 に関する考慮事項](#)を参照してください。

ビデオ

目的

複数のコンポーネントを持つダッシュボードをダッシュボード・デザイナーでダッシュボード 2.0 向けに作成する方法を学習します。

視聴するビデオ




[ダッシュボード 2.0 でのダッシュボードの作成](#)

オブジェクト・パレット






ダッシュボード・デザイナーの左側には、ダッシュボード・コンポーネントのコンテンツを選択するオブジェクト・パレットがあります。単にオブジェクト・パレットからワークスペースにオブジェクトをドラッグ・アンド・ドロップするか、「検索」ボックスを使用してコンテンツを検索します。

オブジェクト・パレットのサイズを変更できます。オブジェクト・パレットのサイズを変更するには、パレットの右側にカーソルを置いてドラッグします。パレットを非

表示にするには、パレットの上にカーソルを置き、ハンドル・アイコン  が表示されたら、それをクリックしてパレットを非表示にします。ハンドル・アイコンを再度クリックすると、パレットが再び開きます。

オブジェクト・パレット内のコンテンツは、次のカテゴリにグループ化されています:

Table 16-3 オブジェクト・パレットのコンテンツのカテゴリ

アイコン	説明
	<p>キューブ: フォームを事前作成せずに、ダッシュボードにキューブのコンポーネントを追加することにより、クイック分析を実行します。 クイック分析についてを参照してください。</p>
	<p>ライブラリ: フォーム・フォルダに移動するか、名前で検索することにより、ダッシュボードに含めるアド・ホック・フォームおよび標準フォームを選択します。</p> <ul style="list-style-type: none"> 「リスト」をクリックして、フォームを「リスト・ビュー」または「ツリー・ビュー」で表示します。  をクリックして、検索キーワードを入力します。 <p>フォームに設定されているアクセス権限がダッシュボードで保持されます。</p>
	<p>ビジュアライゼーション: ダッシュボードに含めるチャートを選択します。</p> <p>チャート内にデータを表示するには、キューブのコンポーネントを選択するか、チャートをそのデータ・ソースとなるフォームに関連付ける必要があります。チャートをフォームにリンクすると、ユーザーは、関連付けられたチャートに対するフォームでのデータ変更の影響をすぐに確認できます。</p>
	<p>その他:</p> <ul style="list-style-type: none"> 注釈: グラフまたはチャートの下、およびプロパティ・パネルの「チャート」タブの下部に、入力したコメントを追加します。「注釈」には、WYSIWYG テキスト・エディタが含まれています。 URL: グラフまたはチャートの下、およびプロパティ・パネルの「チャート」タブの下部に、入力した URL を追加します。「URL」には参照 URL リンクが含まれ、その URL は、サポートされている IFrame である必要があります。 <p><code>https://</code>セキュリティ・プロトコルで始まる外部サイトの URL のみを挿入します。内部または相対 URL や、<code>google.com</code> などの同意していないサード・パーティ・サイトの URL を使用しないでください。</p> <p>同じ Oracle Enterprise Performance Management Cloud インスタンスまたは別の EPM Cloud インスタンスのフォームやダッシュボードなど、他の EPM アーティファクトへのダイレクト URL をダッシュボードに埋め込まないでください。</p>






 **Note:**

ダッシュボードに追加した URL がランタイム環境で機能しない場合は、URL を右クリックし、新しいタブでリンクを開きます。

ダッシュボード・ツールバー

ダッシュボード・デザイナーの右上隅には、次のダッシュボード・タスクを実行できるダッシュボード・ツールバーがあります:

Table 16-4 ダッシュボード・ツールバー

アイコン	説明
	「情報」アイコンは、ダッシュボードが配置されているフォルダを表示します。
	「データのリフレッシュ」アイコンは、ダッシュボード全体に関連付けられているすべてのデータをリフレッシュします。
	<p>「POV 設定」アイコンは、次の POV アクションを実行します:</p> <ul style="list-style-type: none"> • POV: ディメンション・ラベルの非表示: ダッシュボードにグローバル POV バーが含まれている場合、選択すると、グローバル POV バーでディメンション名が非表示になります。もう一度このオプションの選択を解除すると、グローバル POV バーにディメンション名が表示されます。 • POV: 自動適用: ダッシュボードにグローバル POV またはローカル POV が含まれている場合、このアクションを有効にすると、変更が自動的に POV に適用されます。変更が自動的に適用されないようにするには、このオプションの選択を解除します。 • POV: すべてのページ選択のクリア:
	「追加」アイコンは、新しい空のダッシュボード・コンポーネントをデザイン・キャンバスに追加します(これは、ドラッグ・アンド・ドロップに代わる方法です)。
	「プロパティ」アイコンは、プロパティ・パネルの表示/非表示を切り替えます。
「アクション」メニュー	<p>「アクション」メニューを使用すると、次のアクションを実行できます:</p> <ul style="list-style-type: none"> • 最後に保存した内容に戻す: 最後にダッシュボードが保存されたとき以降に加えられた編集を破棄します • 保存して実行: 加えられた編集を保存し、ダッシュボードをランタイム環境で開きます
保存	「保存」をクリックすると、ダッシュボード定義が保存されます。





ダッシュボード・ワークスペース

オブジェクト・パレットとプロパティ・パネルの間にあるページ中央の大きな領域が、ダッシュボード・ワークスペースです。ドラッグ・アンド・ドロップに加えて、「検索」ボックスを使用して、それぞれのコンポーネントについて表示するデータを指定または検索できます(コンポーネントは、チャートや表などのダッシュボード・オブジェクトを追加できるダッシュボード・ワークスペース内の空のオブジェクトです)。最大 12 個のコンポーネントをダッシュボード・ワークスペースに追加できます。

フォーム・バージョンがフォーム 2.0 である場合、ワークスペースにドロップされたフォームは、最初は、編集可能なグリッドとしてレンダリングされます。ワークスペースにドロップされたアド・ホック・グリッドは、最初は、表としてレンダリングされます。

- 最初にドラッグ・アンド・ドロップしたオブジェクトがワークスペース全体を占有し、その後、オブジェクト・パレットから既存のコンポーネントの左、右、上または下に追加オブジェクトをドラッグします。
- コンポーネントをダッシュボードの別の部分に移動するには、コンポーネントをクリックし、ドラッグ・アイコンが表示されるまでコンポーネントの上端にカーソルを置きます。コンポーネントを別のコンポーネントの左、右、上または下にドラッグ

グ・アンド・ドロップすると、ダッシュボード上の他のコンポーネントが移動し、再配置されます。

- ワークスペース全体に広がるようにコンポーネントを最大化するには、 をクリックした後、「最大化」をクリックします。コンポーネントがワークスペース全体に広がり、ワークスペース上の他のコンポーネントは非表示になります。、「復元」の順にクリックすると、コンポーネントが元のサイズに戻り、ワークスペース内の他のコンポーネントが再び表示されます。
- ダッシュボード内のコンポーネントの高さと幅を変更するには、次のいずれかのアクションを実行します:
 - ダッシュボード・ワークスペース内でコンポーネントの枠線をドラッグします
 - ダッシュボード・コンポーネントを選択して、右側のプロパティ・パネルで  をクリックし、コンポーネントの高さと幅を表示して変更します。
- ダッシュボード・ワークスペースの全体的なサイズを最大化するために、ワークスペースの両側にあるオブジェクト・パレットとプロパティ・パネルをサイズ変更したり、非表示にすることができます。
- URL コンポーネントがあるダッシュボードについては、URL コンポーネントの本体をクリックしても、フォーカスは URL コンポーネントに切り替わりません。フォーカスを URL コンポーネントに切り替えるには、**[Alt]**を押しながら**[W]**を押すか、カーソルが移動アイコン  に変わるまで URL タイトル・バーにカーソルを置き、クリックしてフォーカスを変更します。

Note:

ランタイム環境では、ユーザーがフォームなどのオブジェクトに対するアクセス権を持っていない場合やフォームが見つからない場合、隣接するコンポーネントがそのスペースを占有します。デザイナー環境では、デザイナーが削除することを選択できるように、すべての空のコンポーネントが表示されます。

プロパティ・パネル

ダッシュボード・デザイナーの右側には、ダッシュボード全体の一般プロパティおよびコンポーネント固有のプロパティを設定できるプロパティ・パネルがあります。



プロパティ・パネルのサイズを変更できます。パネルのサイズを変更するには、パネルの左側にカーソルを置いてドラッグします。パネルを非表示にするには、ページの上にある  をクリックします。 を再度クリックすると、パネルが再び開きます。

Table 16-5 プロパティ・パネル



アイコン	説明
	<p>「一般」タブには、ダッシュボード全体に関する次のプロパティが含まれます:</p> <ul style="list-style-type: none">• 名前: ダッシュボード全体のタイトルを編集します。• 説明(オプション): ダッシュボードについて説明します。• POV バー: POV バーを表示または非表示にします。• グローバル POV バー: グローバル POV バーを有効または無効にします。• スタイル: ダッシュボードのカラー・スキームを選択します。オプションは「デフォルト」、「明るい」および「暗い」です。 <div data-bbox="760 695 886 737"><p> Note:</p></div> <p>「暗い」を選択した場合は、ダッシュボードのエラー・メッセージや凡例テキストが見つづらくなります。</p> <ul style="list-style-type: none">• 枠線: コンポーネントの枠線を表示または非表示にします。• 背景: 色のメニューから新しいダッシュボードの背景を選択します。 <div data-bbox="760 1031 886 1073"><p> Note:</p></div> <p>ダッシュボードにグリッドが含まれている場合、背景色のみが変わります。グリッドの色は同じままです。</p> <ul style="list-style-type: none">• 名前をタイトルとして使用: 「いいえ」を選択すると、ダッシュボードのタイトルをカスタマイズできます。フォント・ファミリー、フォント・サイズ、太字の設定、斜体の設定、下線の設定、フォントの色およびフォントの背景色を変更することにより、タイトルをさらにカスタマイズできます。 <p>POVの詳細は、ダッシュボード 2.0でのグローバルおよびローカルの POVについてを参照してください。</p>

Table 16-5 (Cont.) プロパティ・パネル

アイコン	説明
	「関連付け」タブには、ダッシュボードおよび基礎となるフォームのデータに関連付けられているルールがリストされます。

 **Note:**

グローバルな「保存」中に実行する必要があるルールに関連付けることができます。これらのルールは、いつでも関連付けや削除を行うことができます。

ルールを追加して編集できます:



- 関連付けられているルールがない場合、 をクリックしてルールのリストを表示し、そこから選択します。ダッシュボードのフォームにすでに関連付けられているルールが最初にリストされ、次のような名前が付いています:
ビジネス・ルール <name of form>
- ルールを追加したら、ルールを実行する時期(「ロード前」、「ロード後」、「保存前」、「保存後」、「フォームのメンバーを使用」、「プロンプトの非表示」)を指定する必要があります。
- 「アクション」で、ルールを削除したり、それらの実行順序を変更することができます: 「一番上へ移動」、「上へ移動」、「下へ移動」、「一番下へ移動」および「削除」。
- ルールに実行時プロンプトがある場合、ルールを実行すると、それらが表示されます。

Table 16-5 (Cont.) プロパティ・パネル

アイコン	説明
	<p>「チャート」タブには、チャート・タイトル、コンポーネントの高さ、幅、背景色など、ダッシュボードで選択したコンポーネントのプロパティが含まれます。チャート・タイプ、データ・ソース・タイプ、およびそれぞれのコンポーネントに使用される、基礎となるフォームを変更することもできます。コンポーネントごとに異なる背景色を使用すると、それぞれのダッシュボード・コンポーネントを一意に区別できます。チャート・タイトルを削除すると、スペースが解放されて、ローカル POV バーとチャート自体のスペースが調整されます。</p> <p>行と列については、チャート内にビジュアル化することを許可されているフォーム・データの総量は 10,000 セルです。デフォルトでは、これは 100 行と 100 列です。ただし、行と列の数を、乗算の合計が 10,000 セル以下になるような任意の組合せに変更できます。たとえば、行数を 5 に減らすと、列数を 2,000 に増やすことができます ($5 \times 2000=10,000$)。</p>



 **Note:**

10,000 セルのビジュアライゼーション制限は、グリッドには適用されません。

チャートに関連付けられているフォームが **10,000** セルのビジュアライゼーション制限を超えた場合、フォームに表示されるデータと、ダッシュボード・チャートにおけるデータのビジュアライゼーションの間に不一致が生じることがあります。また、チャートおよび凡例に対するドリルスルーなど、その他のランタイムの問題が発生することもあります。

「**注釈**」または「**URL**」情報タイプをこのコンポーネントに追加した場合、このタブの下部でそれらの情報タイプの内容を編集できます。

Table 16-5 (Cont.) プロパティ・パネル

アイコン	説明
 (このアイコンは、ダッシュボードで選択したコンポーネントに応じて変わります)	<p>このタブを使用すると、選択したチャートまたは表のビジュアライゼーションをカスタマイズできます。</p> <p>値のスケール方法、行区切りやグリッド線の表示または非表示、ヘッダーやデータについての異なるフォント・サイズおよび色の選択、垂直または水平の向きの設定、凡例の位置の定義、表へのスパーク・チャートの追加、セカンダリ Y 軸の追加など、選択したコンポーネントの表示プロパティを設定します。</p> <p>プロパティの詳細な説明は、チャート・タイプのトピックを参照してください。</p>
	<p>「レイアウト」タブには、クイック分析について選択したキューブの「POV」、「行」および「列」プロパティが含まれます。</p> <p>クイック分析についてを参照してください。</p>

Note:

ダッシュボード 2.0 のデータ・ビジュアライゼーションの場合、現在、カスタム色パレットで 15 色ではなく 12 色のみがサポートされています。以前の更新で 15 色を使用するダッシュボードを作成した場合、実行時には引き続き 15 色が表示されます。ただし、カスタム色を変更しようとする、ダッシュボード・デザイナーで選択および保存できる 12 色のみが表示されます。

ダッシュボード・コンポーネント

最大 12 個のコンポーネントをダッシュボード・ワークスペースに追加できます。

ワークスペースのコンポーネントにカーソルを置くと、そのコンポーネントのツールバーが右上隅に表示されます:



Table 16-6 ダッシュボード・コンポーネントのツールバー






アイコン	説明
	情報: フォーム名、フォームのフォルダ・パス、キューブなど、基礎となるフォームの詳細を表示します
	保存: 変更されたデータを保存し、コンポーネントに関連付けられたルールを実行します
	リフレッシュ: ダッシュボード・コンポーネントに関連付けられたデータをリフレッシュします

Table 16-6 (Cont.) ダッシュボード・コンポーネントのツールバー

アイコン	説明
 	<p>チャート・タイプ: コンポーネントに関連付けられたチャート・タイプを変更します</p> <p>「アクション」メニュー:</p> <ul style="list-style-type: none"> • 最大化: ダッシュボード・コンポーネントを拡大します。最大化した後、「復元」をクリックすると、ダッシュボード・コンポーネントは元のサイズに戻ります。 • フォームを開く: コンポーネントに関連付けられたランタイム・フォームを、現在のタブの横にある動的タブで開きます。 • フォームの編集: 適切な権限がある場合、コンポーネントに関連付けられたフォームをフォーム・エディタで開きます。フォーム・エディタは、現在のタブの横にある動的タブで開きます。 • 削除: フォームを削除します。

ダッシュボード 2.0 に関する考慮事項

ダッシュボード 2.0 を使用する際には、次の考慮事項に注意してください:

- 3D ビジュアライゼーションは、ダッシュボード 2.0 ではサポートされていません。このことは、次のダッシュボード 2.0 のチャート・タイプに影響します:
 - 面
 - 棒
 - バブル
 - 列
 - 組合せ
 - ドーナツ
 - ゲージ
 - グリッド
 - 折れ線
 - レーダー
 - 散布

Note:

ダッシュボード 1.0 では、該当する場合、チャートの 3D ビジュアライゼーションが引き続きサポートされています。

- 将来の更新で、ダッシュボード 2.0 でスマート・プッシュがサポートされる予定です。
- ファンネル・チャートは、営業プロセスのステージなど、プロセスのステージに関するデータを表示する場合に役立ちます。ファンネル・スライスの面積は、対応するステージの値に比例します。ダッシュボード 1.0 では、ダッシュボード 2.0 にお

けるファンネル・チャートのレンダリングとは大きく異なる方法でファンネル・チャートがレンダリングされます。ダッシュボード 1.0 では、ファンネル・チャートは複数の列をサポートし、フォームの最初の 2 つの行を使用して実績とターゲットが比較されます。チャートではその後、それぞれの列に対応するファンネルに 2 つの間の差異がプロットされます。ダッシュボード 2.0 では、ファンネル・チャートは最初の列のみをサポートし、行のそれぞれのセルに対応するファンネルの領域が色付けされ、その数値に比例してサイズ設定されます。

- 将来のダッシュボードの拡張はすべて、ダッシュボード 2.0 で行われる予定です。

フォーム・バージョンとダッシュボード 2.0

ランタイム・フォームも 2 つのバージョンで使用可能です：

- **フォーム 1.0:** Slick Grid と Oracle ADF Fuse のコンポーネントが使用されます
- **フォーム 2.0:** Slick Grid と Oracle JET のコンポーネントが使用されます

ダッシュボード 2.0 の特定の機能は、フォーム 2.0 でのみ機能します。たとえば、ダッシュボード 2.0 でフォーム・グリッド内のデータを直接操作できるのは、基礎となるフォームがフォーム 2.0 のフォームである場合のみです。「**フォーム・バージョン**」は、アプリケーション設定で更新できます。

ダッシュボード・バージョンとフォーム・バージョンの相互作用の方法におけるいくつかの違いを知っておく必要があります。

「**フォーム・バージョン**」アプリケーション設定が「**フォーム 1.0**」に設定されている場合：

- フォーム 1.0 を含むダッシュボード 1.0 を引き続き使用できます。
- フォーム 1.0 を含むダッシュボード 2.0 を使用することはできません。

フォーム 2.0 は、ダッシュボード 2.0 でのみサポートされています。すべての相互作用のためにダッシュボード 2.0 ではフォーム 2.0 を使用してください。

ダッシュボード 2.0 のダッシュボードを選択し、ダッシュボード 2.0 コンポーネントの初期化中にエラーが発生しましたというメッセージが表示された場合は、ダッシュボードにフォーム 2.0 のフォームが関連付けられており、ダッシュボードを表示する前に、フォーム 2.0 が有効になっていることを確認する必要があります。

- ダッシュボード 2.0 のアーティファクトが作成された場合、「**グリッド**」ビジュアライゼーション・オプションは使用できません。
- ダッシュボード 2.0 でフォームをグリッドとして使用するには、「**フォーム・バージョン**」アプリケーション設定を「**フォーム 2.0**」に更新します。
- 既存のダッシュボード 2.0 のダッシュボード(2023 年 11 月より前に作成されたダッシュボード 2.0 のダッシュボード)では引き続き、フォームが表およびチャートとして表示され、グリッドとしては表示されません。

「**フォーム・バージョン**」アプリケーション設定が「**フォーム 2.0**」に設定されている場合：

- フォーム 2.0 を含むダッシュボード 1.0 を引き続き使用できます。
- ダッシュボード 2.0 では、読取り、書込みおよび計算機能を備えたフォーム 2.0 を使用する「**グリッド**」ビジュアライゼーション・オプションが表示されます。
- ダッシュボード 1.0 内のフォーム 2.0 は、フォーム 1.0 として表示されます。

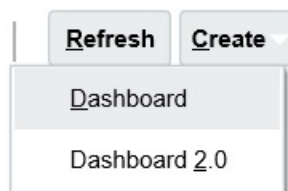
Note:

「フォーム・バージョン」アプリケーション設定が「フォーム 1.0」であるか、「フォーム 2.0」であるかにかかわらず、保存したフォーム定義をダッシュボード・チャートのデータ・ソースとして使用できます。

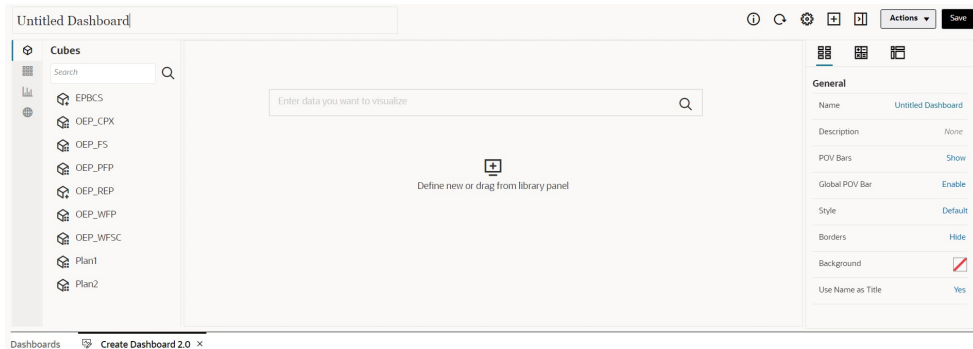
ダッシュボード 2.0 のダッシュボードの作成

ダッシュボード 2.0 のダッシュボードを作成するには:

1. ホーム・ページから、「**ダッシュボード**」をクリックし、「**作成**」をクリックします。



2. 提供されるオプションから、「**ダッシュボード 2.0**」を選択します。



3. デフォルトのダッシュボード名をクリックし、入力ボックスに新しい名前を入力することにより、ダッシュボードの名前を入力します。
4. 左側のオブジェクト・パレットからダッシュボード・ワークスペースにコンテンツをドラッグ・アンド・ドロップします。ダッシュボード設定およびプロパティを使用して、ダッシュボードをカスタマイズします。

ダッシュボード・デザイナの詳細は、[ダッシュボード 2.0 のダッシュボード設計の概念](#)を参照してください。

5. 「**保存**」をクリックします。

「**ダッシュボード**」リスト・ページで「**別名コピー**」を使用して、ダッシュボードを簡単に複製して変更を加えることができます。コピーするダッシュボードの横の「**アクション**」アイコン **...** を選択してください。

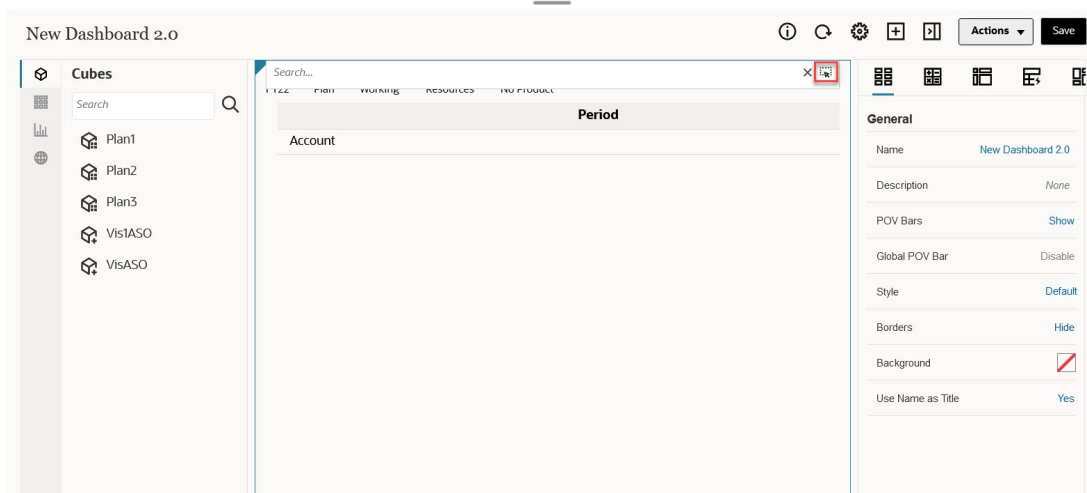
ダッシュボード 2.0 を設計するときのメンバー・セレクタの操作

ダッシュボード 2.0 のダッシュボードを設計するときには、新しいディメンション・メンバーの検索と選択をメンバー・セレクタを使用して簡単に行うことができます。

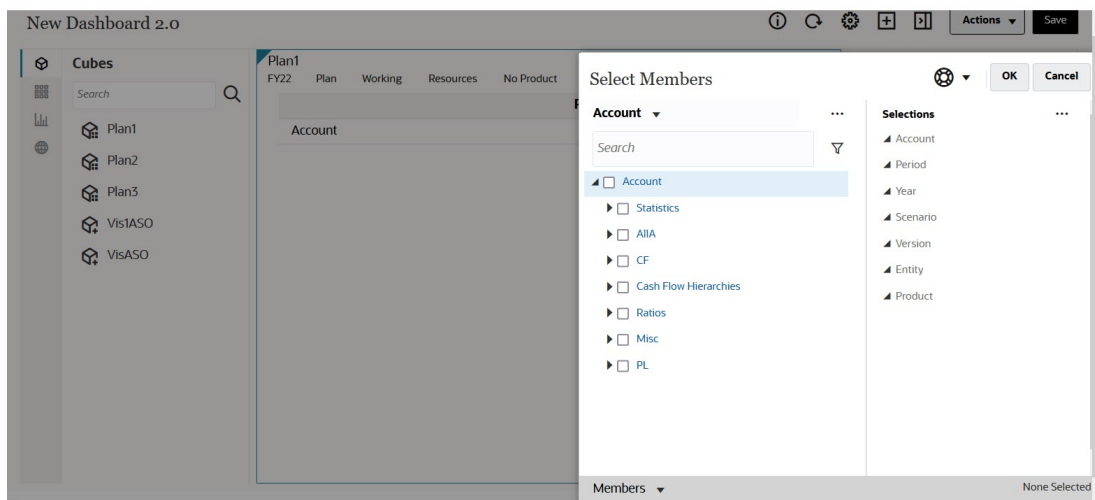
ダッシュボードでクイック分析を作成しているときに、キューブを追加した後、メンバー・セレクタを使用して、それぞれのディメンションのメンバーを選択できます。

クイック分析のメンバー・セレクタを開くには:

クイック検索バーのメンバー・セレクタ・アイコンをクリックします:



メンバー・セレクタを使用して、それぞれのディメンションのメンバーを選択します。

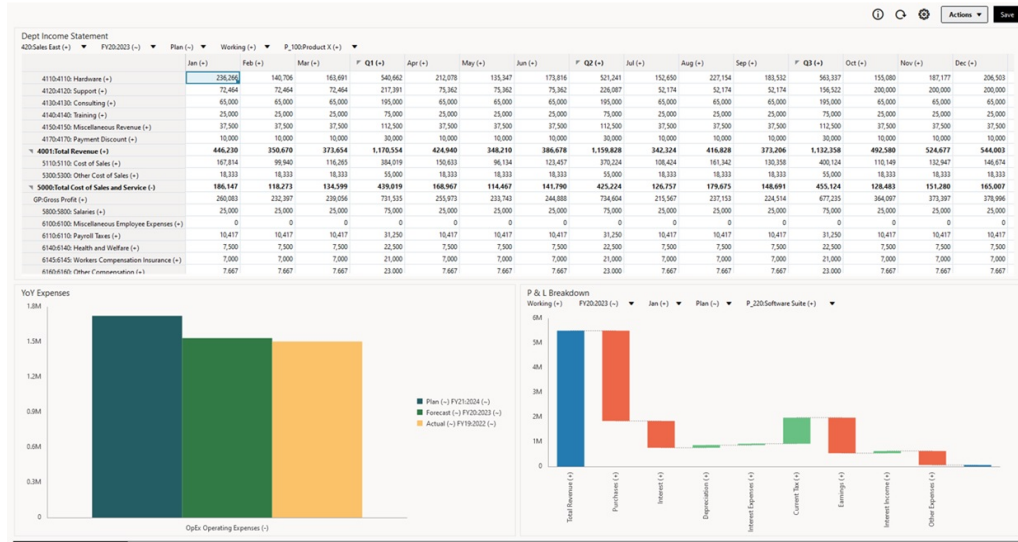


メンバー・セレクタの操作の詳細は、メンバー・セレクタの使用を参照してください。

ダッシュボード 2.0 でのフォーム 2.0 のグリッドについて

ダッシュボード 2.0 に新しく追加されたコンポーネントにはデフォルトでフォーム・グリッドが表示され、関連付けられているフォームがフォーム 2.0 のフォームである場合、グリッドは書込み可能です。基礎となるフォームがフォーム 2.0 のフォームである場合、ダッシュボードのグリッドを使用してフォーム内のデータを直接操作できます。グリッド・コンポーネントがあるダッシュボードでは、データの更新を書き戻したり、ルールを起動することができます。また、グリッド内で右クリックしてコンテキスト・メニューを表示し、グリッド分散、コメントや添付の追加といった追加のグリッド・アクションを実行することもできます。

1つのグリッドと複数のチャートがあるダッシュボードの例



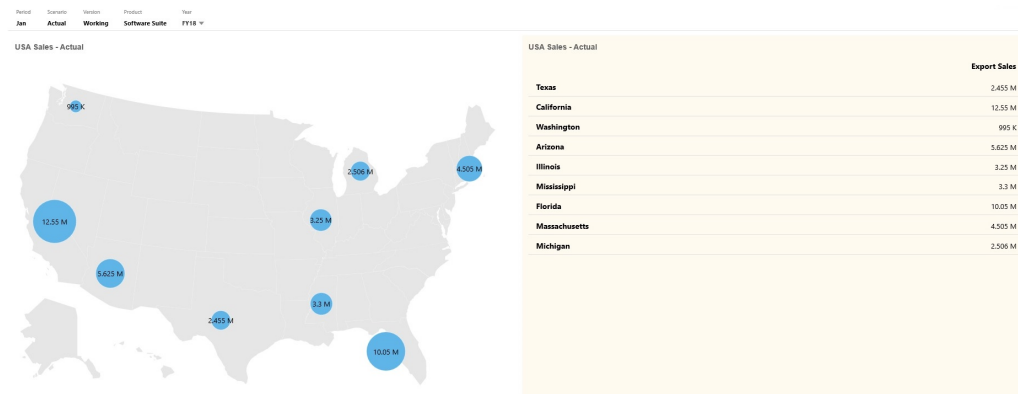
ジオマップ・チャート・タイプについて

ジオマップは、表示されているそれぞれの地理的地域に関するいくつかのメジャーを表示するオーバーレイおよびチャートを伴う地理マップです。ジオマップ内でバブルまたは色による強調表示にカーソルを置くと、データ・ラベルが表示されます。

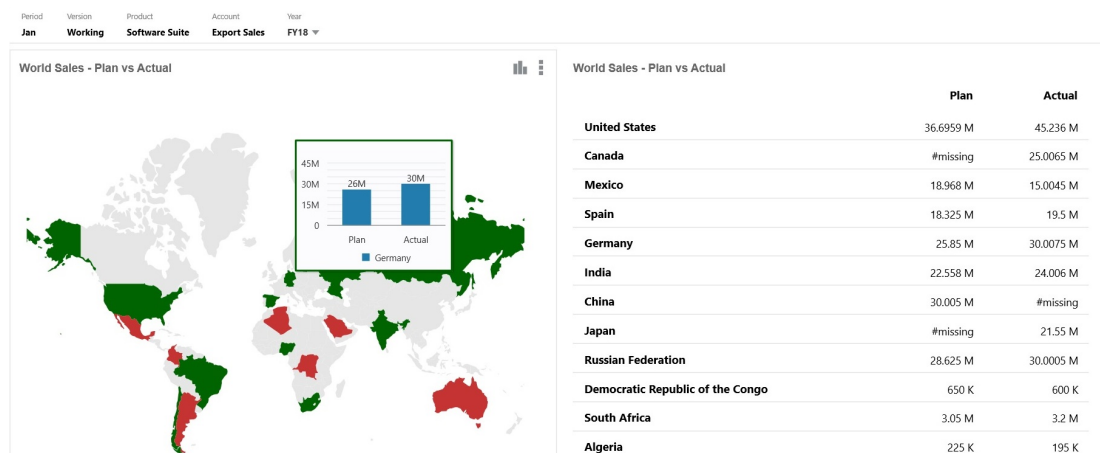
ノート:

基礎となるデータの値に基づいて差異「**目的の差異トレンド**」設定に応じて赤または緑を表示するために、色による強調表示のジオマップが設計されます。ジオマップ領域の1番目または2番目の列に欠落値がある場合、またはそれらの列の値が等しく、差異がない場合、領域が青で強調表示されます。強調表示された領域の上にカーソルを置くと、欠落値を除く行のすべての値の棒グラフが表示されます。

ジオマップの例 - データ・バブルを使用した米国の売上げ



ジオマップの例 - 色による強調表示を使用した世界の売上げ



ダッシュボード・デザイナーは、次に示すジオマップ・チャートのプロパティを設定できます:

表 16-7 ジオマップ・チャートのプロパティ

設定	説明
マップ・レイヤー	「世界」を選択するか、マップの範囲を「アジア」、「北アメリカ」、「アフリカ」などの大陸に絞り込みます。
タイプ	<p>「データ・バブル」ジオマップでは、サイズが異なるバブルとしてデータがマップ・レイヤー上に表示されます。「色による強調表示」ジオマップでは、2つのデータ値を比較して、増加している地理的地域は緑、減少している地理的地域は赤で表示されます。</p> <p>「データ・バブル」または「色による強調表示」を選択し、次の追加オプションを指定します:</p> <ul style="list-style-type: none"> 「データ・バブル」の場合は、「ラベル」(「表示」または「非表示」)、「ラベルの色」および「バブルの色」について目的の設定を選択します。 「色による強調表示」の場合は、「目的の差異トレンド」(「増加」または「減少」)を指定します。
地理名	<p>国、都道府県/州、市区町村など、ジオマップで使用される地理要素を含むメタデータ・ロード・ファイルが用意されています。CSV ファイルをクリックしてダウンロードし、これを新しいメンバーとして、または(手動で変更を加えて)アプリケーション内の既存のメンバーの別名としてディメンションにアップロードできます。</p> <p>ジオマップが機能するのは、フォームの地理名が、ダッシュボード 2.0 によってそのマップ・レイヤーに使用される地理名と完全に一致する場合のみです。したがって、たとえば、マップ・レイヤーでは「合衆国」が使用されているため、USA というエンティティ/地理ディメンションは、有効な名前として認識されません。</p>

ビデオ

目的

ジオマップ・チャートの地理メンバーをダウンロードし、それらをディメンションにインポートする方法を学習します。データ・バブルと色による強調表示の両方のジオマップ・チャートを設定する方法を学習します。

視聴するビデオ

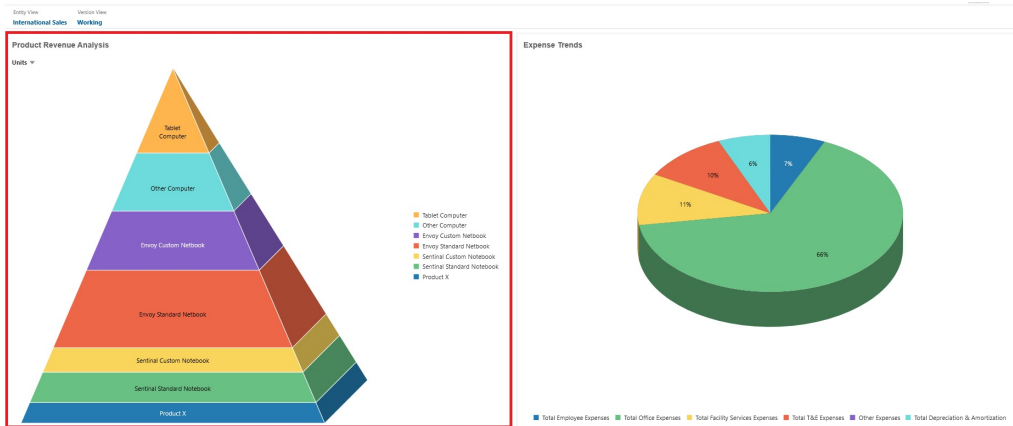


ダッシュボード 2.0 でのジオマップの作成

ピラミッド・チャート・タイプについて

ピラミッド・チャート・タイプでは、三角形の図表を使用して階層が視覚的に表されます。三角形はセクションに分割され、上から下に幅を変えて構造やプロセスが示されます。

3D ピラミッド・チャートの例



ダッシュボード・デザイナーは、次に示すピラミッド・チャートのプロパティを設定できます:

表 16-8 ピラミッド・チャートのプロパティ

設定

説明

凡例の位置

「左」、「右」、「上」、「下」または「なし」を選択します。

表 16-8 (続き) ピラミッド・チャートのプロパティ

設定	説明
値のスケール	<p>大きい数字で特に便利なのは、値の表示方法を指定できることです。たとえば、値が 1,689,000 の場合に、スケーリング・オプションとして「K - 千」を選択すると、チャートにはこの値が 1,689K と表示されます。</p> <p>スケーリングのオプションは次のとおりです。</p> <ul style="list-style-type: none"> なし: スケーリングを適用しません。 自動: 範囲に応じて値が表示されます。たとえば、1,500 は「1.5K」、1,689,000 は「1.69M」、42,314,531,211 は「42.31B」、1,234,567,891,234 は「1.23T」としてそれぞれ表示されます。 K - 千: 値が千単位で表示されます。たとえば、1,689,000 は「1689K」と表示されます。 M - 百万: 値が百万単位で表示されます。たとえば、123,456,789 は「123M」と表示されます。 B - 十億: 値が十億単位で表示されます。たとえば、12,345,678,912 は「12B」と表示されます。 T - 兆: 値が兆単位で表示されます。たとえば、1,234,567,891,234,567 は「1,234T」と表示されます。
3D グラフ	データを 3D グラフとしてビジュアル化するには、「はい」を選択します。
色	「デフォルト」を選択するか、ピラミッド・チャートのセクションをクリックし、そのセクションのカスタム色を選択します。

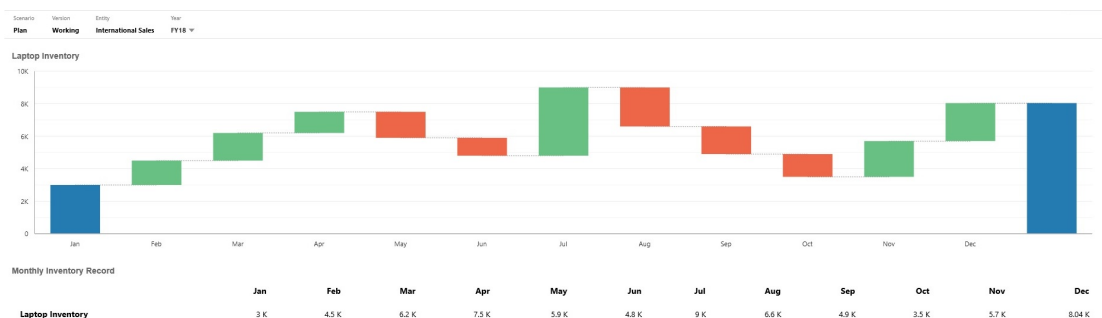
ウォーターフォール・チャート・タイプについて

ウォーターフォール・チャートには正および負の値の累計が表示され、初期値からその累計値に到達した経緯を示す場合に役立ちます。

ウォーターフォール・チャートは、初期値が一連の正または負の中間値によってどのような影響を受けたかを表すために使用されます。通常、初期値と最終値(端点)は列全体で表されるのに対して、中間値は、前の列の値に基づいて開始されるフローティング列として表示されます。列を色分けして、正の値と負の値を区別することもできます。

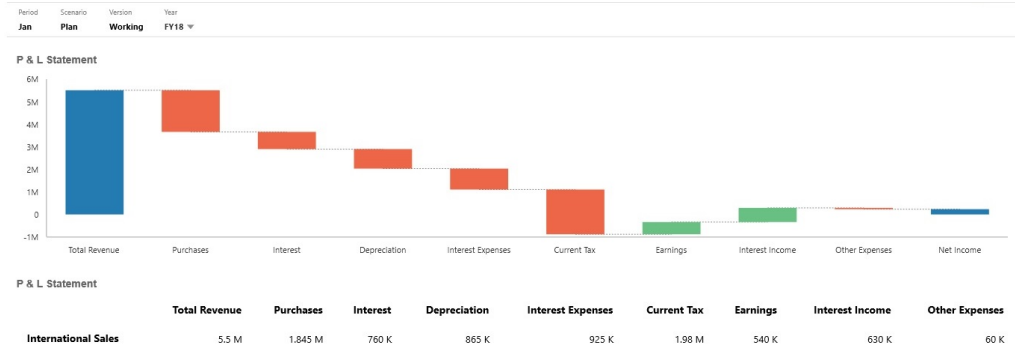
ウォーターフォール・チャートの例 - 在庫分析

次の例は、時間の経過に伴う 1 つの勘定科目の変化をビジュアル化したものです。



ウォーターフォール・チャートの例 - 損益計算書

次の例では、費用勘定科目が収益合計に対する負の変化として示され、利益勘定科目が最終的な純利益値に対する正の変化として示されています。



ダッシュボード・デザイナーは、次に示すウォーターフォール・チャートのプロパティを設定できます:


表 16-9 ウォーターフォール・チャートのプロパティ

設定	説明
値のスケール	<p>大きい数字で特に便利なのは、値の表示方法を指定できることです。たとえば、値が 1,689,000 の場合に、スケーリング・オプションとして「K - 千」を選択すると、チャートにはこの値が 1,689K と表示されます。</p> <p>スケーリングのオプションは次のとおりです。</p> <ul style="list-style-type: none"> なし: スケーリングを適用しません。 自動: 範囲に応じて値が表示されます。たとえば、1,500 は「1.5K」、1,689,000 は「1.69M」、42,314,531,211 は「42.31B」、1,234,567,891,234 は「1.23T」としてそれぞれ表示されます。 K - 千: 値が千単位で表示されます。たとえば、1,689,000 は「1689K」と表示されます。 M - 百万: 値が百万単位で表示されます。たとえば、123,456,789 は「123M」と表示されます。 B - 十億: 値が十億単位で表示されます。たとえば、12,345,678,912 は「12B」と表示されます。 T - 兆: 値が兆単位で表示されます。たとえば、1,234,567,891,234,567 は「1,234T」と表示されます。
グリッド線	「非表示」を選択するか、「表示」を選択してグリッドの x 軸線を表示します。
接続折れ線	「非表示」を選択するか、「表示」を選択して各列の末尾を次の列の先頭に接続する線を表示します。これは、チャート内のデータのフローをビジュアル化するのに役立ちます。

表 16-9 (続き) ウォーターフォール・チャートのプロパティ

設定	説明
プロット差分	<p>提供された値に基づいて、1つのバーと次のバーの間で共通の始点および終点を自動的に計算してプロットする場合は、「はい」を選択します。これは、残高タイプの勘定科目のトレンドを表示する場合に便利です。</p> <p>それ以外の場合は、「いいえ」を選択して増加および減少点を手動で設定します。</p> <p>「いいえ」を選択した場合、次の増加/減少オプションをバーごとに手動で設定できます:</p> <ul style="list-style-type: none"> 棒の方向: 棒を選択して、棒の方向を手動で増加/減少に設定します。 すべての棒: チャート内のすべての棒のリストを表示して、棒の方向を手動で増加/減少に設定します。 <p>それぞれのバーについて設定できる手動オプションは、「自動」、「リバース」および「合計」です。「自動」では、データ・ソースからの正/負の値が考慮され、それによってプロットされます。「リバース」では符号が変更され、「合計」では、対応するバーでチャートが再開されます。</p>
増加 減少 合計	それぞれのプロパティの色を選択します。
終了バー	チャート上で終了バーを「非表示」にするか、「表示」するかを選択します。上の例では、終了バーが表示されています。終了バーを表示する場合、ラベルを指定できます。
軸	「X軸」および「Y軸」の「カスタム範囲」を選択するか、「オフ」を選択します。

ビデオ

目的	視聴するビデオ
ウォーターフォール・チャートを作成して、1つの勘定科目の時間の経過に伴う変化を追跡し、複数の勘定科目がどのように連携して最終合計を生成するかを追跡する方法を学習します。	 ダッシュボード 2.0 でのウォーターフォール・チャートの作成

ダッシュボードでの表の使用

ダッシュボードの表では、フォームまたはグリッドからの複数の値を表示するデータのリスト・ビューが提供されます。列データをプロットする、スパーク・チャートと呼ばれる小さいチャートを表の各行に埋め込むことができます。また、表は検索可能です。複数通貨アプリケーションの表には通貨記号または通貨コードが表示されます。

プレーンな表が表示されているダッシュボードの例

Balance Sheet - Plan				
	Q1	Q2	Q3	Q4
Current Assets	535 M	557 M	588 M	625 M
Fixed Assets	54 M	50 M	45 M	41 M
Other Assets Total	223 M	223 M	223 M	223 M
Total Assets	812 M	830 M	857 M	890 M
Current Liabilities	335 M	336 M	337 M	345 M
Long Term Liabilities	44 K	44 K	44 K	44 K
Total Owners Equity	477 M	494 M	519 M	545 M
Total Liabilities and Owners Equity	812 M	830 M	857 M	890 M

Balance Sheet - Forecast				
	FY16 Q3	FY16 Q4	FY17 Q1	FY17 Q2
Current Assets	479.40 M	515.61 M	488.15 M	500.23 M
Fixed Assets	61.17 M	59.33 M	53.98 M	50.52 M
Other Assets Total	223.09 M	223.09 M	223.09 M	223.09 M
Total Assets	763.66 M	798.02 M	765.21 M	773.85 M
Current Liabilities	331.48 M	338.24 M	333.92 M	335.93 M
Long Term Liabilities	43.77 K	43.77 K	43.77 K	43.77 K
Total Owners Equity	432.07 M	459.66 M	431.25 M	437.87 M
Total Liabilities and Owners Equity	763.59 M	797.94 M	765.21 M	773.85 M

スパーク・チャートを含む表が表示されているダッシュボードの例

Balance Sheet - Plan				
	Q1	Q2	Q3	Q4
Current Assets	535 M	557 M	588 M	625 M
Fixed Assets	54 M	50 M	45 M	41 M
Other Assets Total	223 M	223 M	223 M	223 M
Total Assets	812 M	830 M	857 M	890 M
Current Liabilities	335 M	336 M	337 M	345 M
Long Term Liabilities	44 K	44 K	44 K	44 K
Total Owners Equity	477 M	494 M	519 M	545 M
Total Liabilities and Owners Equity	812 M	830 M	857 M	890 M

Balance Sheet - Forecast				
	FY16 Q3	FY16 Q4	FY17 Q1	FY17 Q2
Current Assets	479.40 M	515.61 M	488.15 M	500.23 M
Fixed Assets	61.17 M	59.33 M	53.98 M	50.52 M
Other Assets Total	223.09 M	223.09 M	223.09 M	223.09 M
Total Assets	763.66 M	798.02 M	765.21 M	773.85 M
Current Liabilities	331.48 M	338.24 M	333.92 M	335.93 M
Long Term Liabilities	43.77 K	43.77 K	43.77 K	43.77 K
Total Owners Equity	432.07 M	459.66 M	431.25 M	437.87 M
Total Liabilities and Owners Equity	763.59 M	797.94 M	765.21 M	773.85 M


	Year Total	Trend
Purchases	7,893,54 K	
Total Revenue	82,791,69 K	
Interest	35,350 K	
Depreciation	4,531,83 K	
Current Tax	3,344 K	
Earnings	35,350 K	
Interest Expenses	3,480 K	
Interest Income	3,164 K	
Other Expenses	430 K	
Gross Profit Margin	71.21%	

ダッシュボード・デザイナーは、次の表のプロパティを設定できます:

表 16-10 表のプロパティ

設定	説明
値のスケール	<p>大きい数字で特に便利なのは、値の表示方法を指定できることです。たとえば、値が 1,689,000 の場合に、スケーリング・オプションとして「K - 千」を選択すると、表にはこの値が 1,689K と表示されます。スケーリングのオプションは次のとおりです。</p> <ul style="list-style-type: none"> なし: スケーリングを適用しません。 自動: 範囲に応じて値が表示されます。たとえば、1,500 は「1.5K」、1,689,000 は「1.69M」、42,314,531,211 は「42.31B」、1,234,567,891,234 は「1.23T」としてそれぞれ表示されます。 K - 千: 値が千単位で表示されます。たとえば、1,689,000 は「1689K」と表示されます。 M - 百万: 値が百万単位で表示されます。たとえば、123,456,789 は「123M」と表示されます。 B - 十億: 値が十億単位で表示されます。たとえば、12,345,678,912 は「12B」と表示されます。 T - 兆: 値が兆単位で表示されます。たとえば、1,234,567,891,234,567 は「1,234T」と表示されます。
行区切り	「表示」または「非表示」を選択します。
フォント	ヘッダーおよびデータのサイズと色のオプションを指定します。
スパーク・チャート	<ul style="list-style-type: none"> チャート・タイプ: 「棒」、「折れ線」、「面」および面付き折れ線とともに関連するオプションを選択します。または、「なし」を選択することもできます。 ヘッダー: スパーク・チャート列の列ヘッダー 開始インデックス: データのチャート化を開始する列インデックス 最終インデックス: データのチャート化を終了する列インデックス

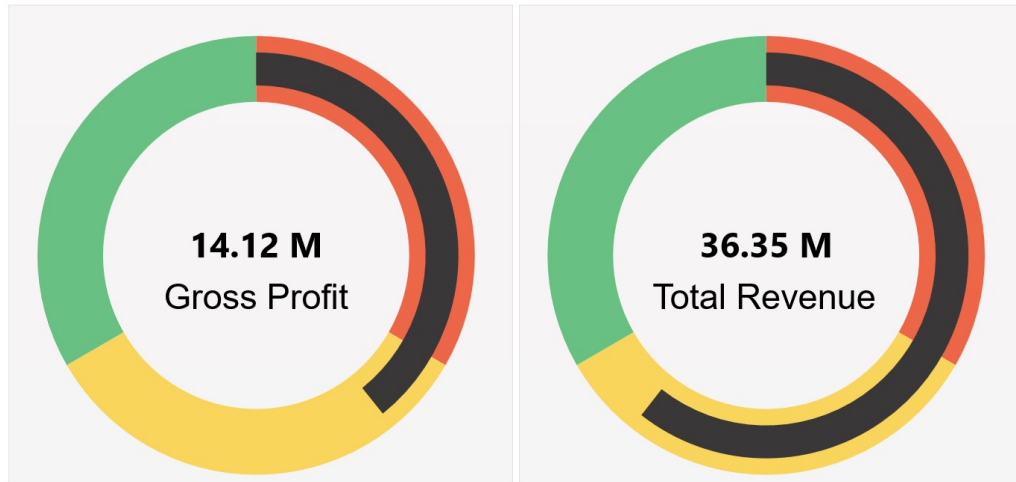
ビデオ

目的	視聴するビデオ
ダッシュボード・デザインでダッシュボード 2.0 向けに複数コンポーネントを含むダッシュボードを作成する方法を確認します。表が含まれるダッシュボード、スパーク・チャートが含まれる表およびタイル・チャートを作成します。	 表、スパーク・チャートおよびタイル・チャートのダッシュボード 2.0 での作成

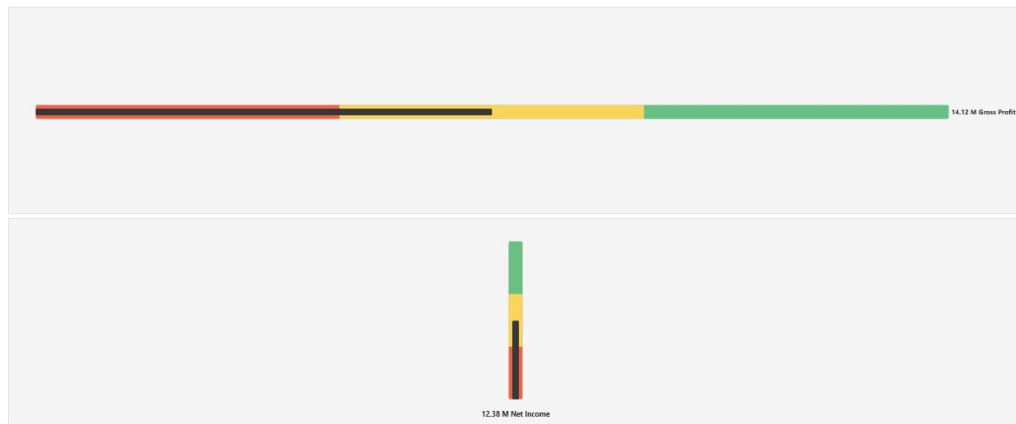
ダッシュボード 2.0 のゲージ・チャート・タイプについて

ゲージ・チャート・タイプでは、データ値が許容範囲内に収まっているかどうかかわかりません。最小値、最大値および範囲の最大値を設定すると、ゲージで赤、黄色および緑のトラフィック・ライトが使用され、現在の値をすばやく評価して、重要なデータ・ポイントやメジャーにおける問題を識別できます。ダッシュボード 2.0 のダッシュボードでは、円形、水平および垂直のゲージ・タイプを選択できます。

ダッシュボード 2.0 の例 - 円形ゲージ・タイプ

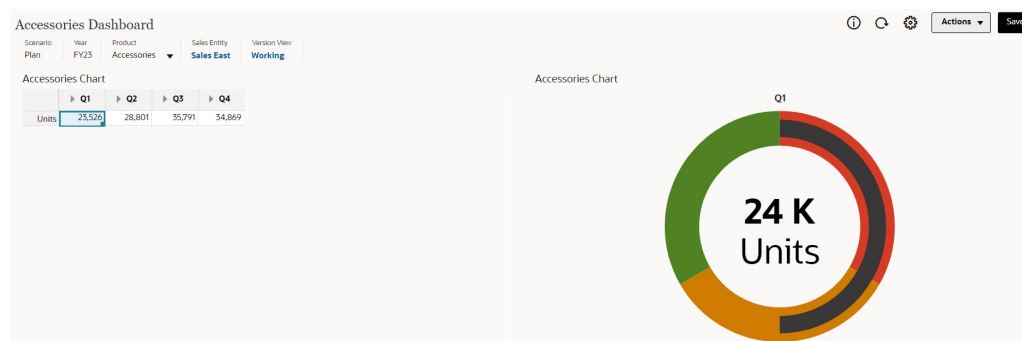


ダッシュボード 2.0 の例 - 水平ゲージ・タイプと垂直ゲージ・タイプ



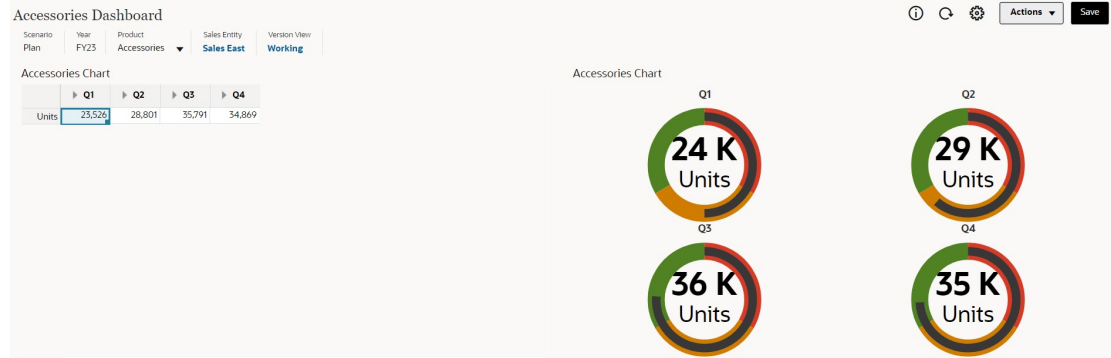
ダッシュボード 2.0 の例 - 単一ゲージ表示

「表示」で「単一」が選択されている場合は、ゲージ・チャートには基になるフォームのデータの最初の列のみが表示されます。



ダッシュボード 2.0 の例 - 複数ゲージ表示

「表示」で「複数」が選択されている場合は、基になるフォームのデータの列ごとに1つのゲージ・チャートが表示されます。



ダッシュボード・デザイナーは、次に示すゲージ・チャート・タイプのプロパティを設定できます:

表 16-11 ゲージ・チャート・タイプのプロパティ

設定	説明
スケール	<p>大きい数字で特に便利なのは、値の表示方法を指定できることです。たとえば、値が 1,689,000 の場合に、スケーリング・オプションとして「K - 千」を選択すると、チャートにはこの値が 1,689K と表示されます。</p> <p>スケーリングのオプションは次のとおりです。</p> <ul style="list-style-type: none"> なし: スケーリングを適用しません。 自動: 範囲に応じて値が表示されます。たとえば、1,500 は「1.5K」、1,689,000 は「1.69M」、42,314,531,211 は「42.31B」、1,234,567,891,234 は「1.23T」としてそれぞれ表示されます。 K - 千: 値が千単位で表示されます。たとえば、1,689,000 は「1689K」と表示されます。 M - 百万: 値が百万単位で表示されます。たとえば、123,456,789 は「123M」と表示されます。 B - 十億: 値が十億単位で表示されます。たとえば、12,345,678,912 は「12B」と表示されます。 T - 兆: 値が兆単位で表示されます。たとえば、1,234,567,891,234,567 は「1,234T」と表示されます。
表示	<p>「単一」または「複数」のゲージ・チャートを1つのコンポーネント内に表示できます。「単一」が選択されている場合は、ゲージ・チャートには基になるフォームのデータの最初の列のみが表示されます。「複数」が選択されている場合は、基になるフォームのデータの列ごとに1つのゲージ・チャートが表示されます。</p>
ゲージ・タイプ	<p>次のオプションから選択します。</p> <ul style="list-style-type: none"> 円形 水平 垂直

表 16-11 (続き) ゲージ・チャート・タイプのプロパティ

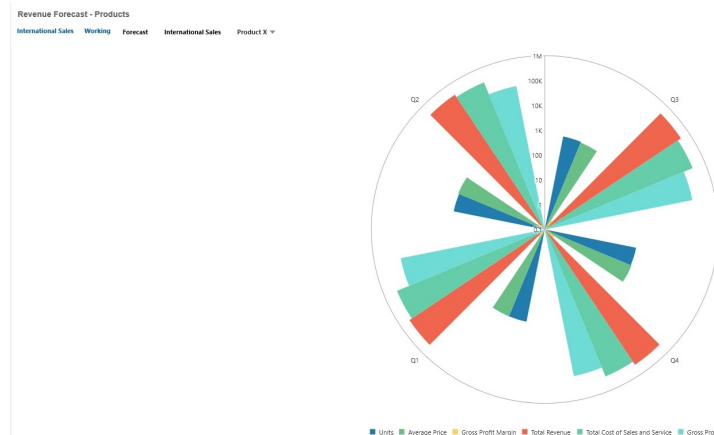
設定	説明
最小値	ゲージの最低値と最高値。ダッシュボード・デザイナーがこれらの値をデフォルトとして設定した後、ユーザーが実行時にそれらを一時的に変更できます。ダッシュボード・デザイナーがこれらの値を指定しなかった場合、アプリケーションによって、自動的に、最小値がゼロに設定され、最大値がゲージの値より大きいものに設定されます。
最大値	
希望の目標	「高」の値と「低」の値のどちらが望ましいかを指定します。
低しきい値	メジャーが許容範囲内にあるかどうかを視覚的に示すために、これらのしきい値を使用して、指定した値に基づいてゲージを赤、黄色および緑で表示できます。それぞれのしきい値について「ラベル」(テキスト)と「値」(数値)を指定します。
中しきい値	
高しきい値	

ダッシュボード 2.0 のレーダー・チャート・タイプについて

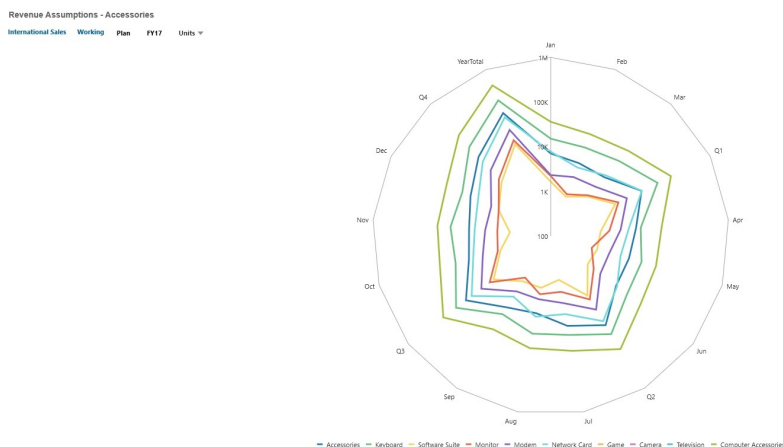
レーダー・チャートは、1 つ以上の系列の値を複数の定量的変数についてプロットするように設計された 2 次元チャート・タイプです。レーダー・チャートは、データの変数のうち、結果がそれ以外と比較して優れているものを確認する場合に最適です。したがって、主にパフォーマンス分析に使用されます。

ダッシュボード 2.0 では、棒、折れ線、面、散布およびバブルのレーダー・タイプを選択できます。

ダッシュボード 2.0 の例 - レーダー棒チャート・タイプ



ダッシュボード 2.0 の例 - レーダー折れ線チャート・タイプ



ダッシュボード・デザイナーは、次に示すレーダー・チャート・タイプのプロパティを設定できます:

表 16-12 レーダー・チャート・タイプのプロパティ

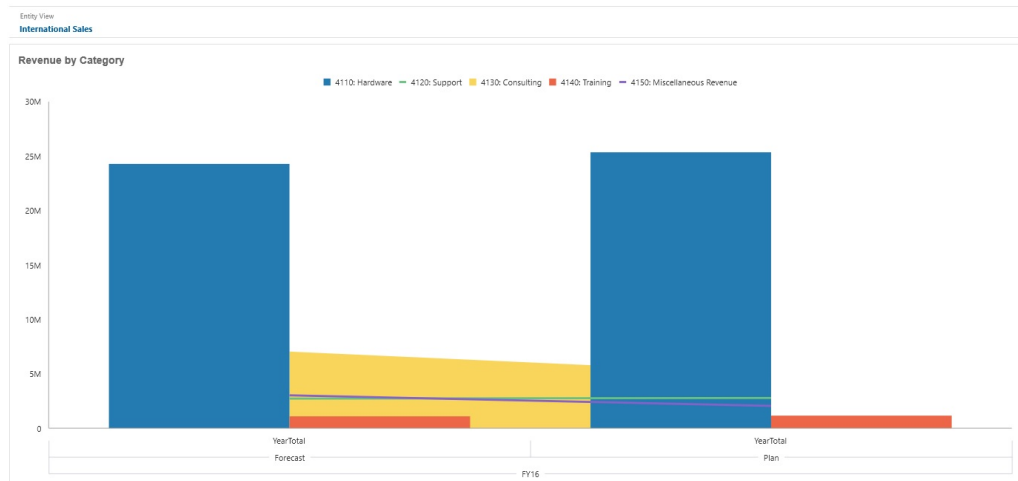
設定	説明
値のスケール	<p>大きい数字で特に便利なのは、値の表示方法を指定できることです。たとえば、値が 1,689,000 の場合に、スケーリング・オプションとして「K - 千」を選択すると、チャートにはこの値が 1,689K と表示されます。</p> <p>スケーリングのオプションは次のとおりです。</p> <ul style="list-style-type: none"> • なし: スケーリングを適用しません。 • 自動: 範囲に応じて値が表示されます。たとえば、1,500 は「1.5K」、1,689,000 は「1.69M」、42,314,531,211 は「42.31B」、1,234,567,891,234 は「1.23T」としてそれぞれ表示されます。 • K - 千: 値が千単位で表示されます。たとえば、1,689,000 は「1689K」と表示されます。 • M - 百万: 値が百万単位で表示されます。たとえば、123,456,789 は「123M」と表示されます。 • B - 十億: 値が十億単位で表示されます。たとえば、12,345,678,912 は「12B」と表示されます。 • T - 兆: 値が兆単位で表示されます。たとえば、1,234,567,891,234,567 は「1,234T」と表示されます。
タイプ	<p>次のオプションから選択します。</p> <ul style="list-style-type: none"> • 棒 • 折れ線 • 面 • 散布 • バブル
凡例の位置	「左」、「右」、「上」、「下」または「なし」を選択します。
グリッド線	「非表示」または「表示」を選択します。
対数目盛	<p>特に、値の範囲が広い(一般に、データの最大数が最小数の数百倍、あるいは数千倍の大きさになる)数値データを表示する場合は、対数目盛によって、これらの値がよりコンパクトで読みやすい形で表示されると便利です。レーダー・チャートで対数目盛を使用するかどうかを選択します。</p>
色	「デフォルト」を選択するか、チャート内のデータをクリックし、そのデータのカスタム色を選択します。

ダッシュボード 2.0 の組合せチャート・タイプについて

組合せチャートは、棒グラフ、折れ線グラフおよび面グラフの任意の組合せを 1 つのチャートにマージできるビジュアライゼーションです。

プライマリ Y 軸の反対側にセカンダリ Y 軸を追加することもできます。セカンダリ Y 軸を追加すると、他のメジャーでは適切にスケールされない 1 つのメジャーのスケールをチャートに表示できます。たとえば、パーセンテージ・メジャーと通貨メジャーを同じチャートに表示できます。

ダッシュボード 2.0 の例 - 面、棒および折れ線の組合せチャート



ダッシュボード・デザイナーは、次に示す組合せチャート・タイプのプロパティを設定できます:

表 16-13 組合せチャート・タイプのプロパティ

設定	説明
値のスケール	<p>大きい数字で特に便利なのは、値の表示方法を指定できることです。たとえば、値が 1,689,000 の場合に、スケーリング・オプションとして「K - 千」を選択すると、チャートにはこの値が 1,689K と表示されます。</p> <p>スケーリングのオプションは次のとおりです。</p> <ul style="list-style-type: none"> • なし: スケーリングを適用しません。 • 自動: 範囲に応じて値が表示されます。たとえば、1,500 は「1.5K」、1,689,000 は「1.69M」、42,314,531,211 は「42.31B」、1,234,567,891,234 は「1.23T」としてそれぞれ表示されます。 • K - 千: 値が千単位で表示されます。たとえば、1,689,000 は「1689K」と表示されます。 • M - 百万: 値が百万単位で表示されます。たとえば、123,456,789 は「123M」と表示されます。 • B - 十億: 値が十億単位で表示されます。たとえば、12,345,678,912 は「12B」と表示されます。 • T - 兆: 値が兆単位で表示されます。たとえば、1,234,567,891,234,567 は「1,234T」と表示されます。
線の太さ	<p>カウンタをクリックして線の幅を設定します。</p> <p>線のデフォルトの幅は 5 ピクセルです。1 から 12 ピクセルを選択できます。</p>
凡例の位置	「 左 」、「 右 」、「 上 」、「 下 」または「 なし 」を選択します。
ラベルの位置	<p>チャート上のデータ・ラベルの位置を設定します。</p> <p>「バーの端の外側」、「中央」、「バーの端の内側」または「なし」を選択します。</p>
グリッド線	「 非表示 」または「 表示 」を選択します。
対数目盛	<p>特に、値の範囲が広い(一般に、データの最大数が最小数の数百倍、あるいは数千倍の大きさになる)数値データを表示する場合は、対数目盛によって、これらの値がよりコンパクトで読みやすい形で表示されると便利です。組合せチャートで対数目盛を使用するかどうかを選択します。</p>
セカンダリ Y	<p>チャートを挟んでプライマリ Y 軸の反対側に表示されるセカンダリ Y 軸にプロットするデータを選択します。</p> <p>チャートのデータ値がデータ系列によって大きく異なる場合や、データのタイプ(通貨とパーセンテージなど)が混在する場合、1 つ以上のデータ系列をセカンダリ縦(Y)軸にプロットできます。</p> <p>セカンダリ Y 軸は折れ線チャート・タイプおよび棒チャート・タイプで使用できますが、より一般的には、組合せチャート・タイプで使用して、セカンダリ Y 軸にプロットされるデータ系列を区別しやすくします。たとえば、プライマリ Y 軸に棒を使用し、セカンダリ Y 軸に折れ線を使用します。</p>
系列	チャートの棒/折れ線/面の組合せを選択します。
色	「 デフォルト 」を選択するか、チャート内のデータをクリックし、そのデータのカスタム色を選択します。
軸	「 X 軸 」、「 Y 軸 」および「 セカンダリ Y 軸 」の「 カスタム範囲 」を選択するか、「 オフ 」を選択します。

ダッシュボード 2.0 のタイル・チャート・タイプについて

タイルは、キューブから特定の値を選択して表示できるチャート・タイプです。フォームをデータ・ソースとして使用する以外に、タイルに値を提供するセル交差を直接入力することもできます。デフォルトでは、1つのコンポーネント内に最初に6つのタイルが表示されますが、最大10個のタイルを1つのコンポーネント内に表示できます。タイルをデータに関連付けるまで、サンプル・データが表示されます。

フォームをタイルのデータ・ソースとして使用する場合:

- コンポーネント1つ当たりのタイルの最大数は10です(デフォルトでは6)。
- フォームの最初の列の値(10行目まで)が、タイルを作成するために使用されます。
- デフォルトでは、フォーム内の行タイトルがタイルのタイトルであり、その値は最初の列から、行の順に取得されます。
- タイルのコンポーネント・タイトル、タイルの高さのパーセンテージ、凡例ラベルを設定でき、フォームのどの軸を含めるかを選択できます。たとえば、3つの行があるフォームを選択すると、タイルに3つの値が表示されます。

Note:

場合によっては、フォーム内で、グリッドとして表示されたときに最初の列が縮小される(非表示になる)ことがあります。ただし、タイルがフォームからその値を取得する際には、縮小された列も考慮されます。フォーム定義を更新して、タイルに表示されるセルのみが含まれているフォームをデータ・ソースとして使用することをお勧めします。

タイルのデータ・ソースとしてセル交差を使用する場合は、1つのオブジェクトにつきタイルを1つのみ含めることができます。

次の表は、タイル・チャート・タイプに対して設定できるオプションのリストです。値の表示は、タイルの水平方向で左、中央、右に設定することができます。また、複数通貨アプリケーションのタイルでは通貨記号または通貨コードが表示されることに注意してください。

Table 16-14 タイル・チャート・タイプのプロパティ

設定	説明
値のスケール	<p>大きい数字で特に便利なのは、値の表示方法を指定できることです。たとえば、値が 1,689,000 の場合に、スケーリング・オプションとして「K - 千」を選択すると、チャートにはこの値が 1,689K と表示されません。</p> <p>スケーリングのオプション:</p> <ul style="list-style-type: none"> • なし: スケーリングを適用しません。 • 自動: 範囲に応じて値が表示されます。たとえば、1,500 は「1.5K」、1,689,000 は「1.69M」、42,314,531,211 は「42.31B」、1,234,567,891,234 は「1.23T」としてそれぞれ表示されます。 • K - 千: 値が千単位で表示されます。たとえば、1,689,000 は「1689K」と表示されます。 • M - 百万: 値が百万単位で表示されます。たとえば、123,456,789 は「123M」と表示されます。 • B - 十億: 値が十億単位で表示されます。たとえば、12,345,678,912 は「12B」と表示されます。 • T - 兆: 値が兆単位で表示されます。たとえば、1,234,567,891,234,567 は「1,234T」と表示されます。
テキストの配置	<p>テキスト配置のオプション:</p> <ul style="list-style-type: none"> • 左 • 中央 • 右
カウント	コンポーネント内に表示されるタイルの数(最大 10)
表示	<p>凡例の表示のオプション:</p> <ul style="list-style-type: none"> • 行と列のディメンション • 行のディメンション • 列のディメンション • なし
位置	<p>凡例の位置のオプション:</p> <ul style="list-style-type: none"> • 左 • 右 • 上 • 下
凡例のフォント・サイズ	凡例のフォント・サイズを増減します。
値のフォント・サイズ	値のフォント・サイズを増減します。

 **Note:**

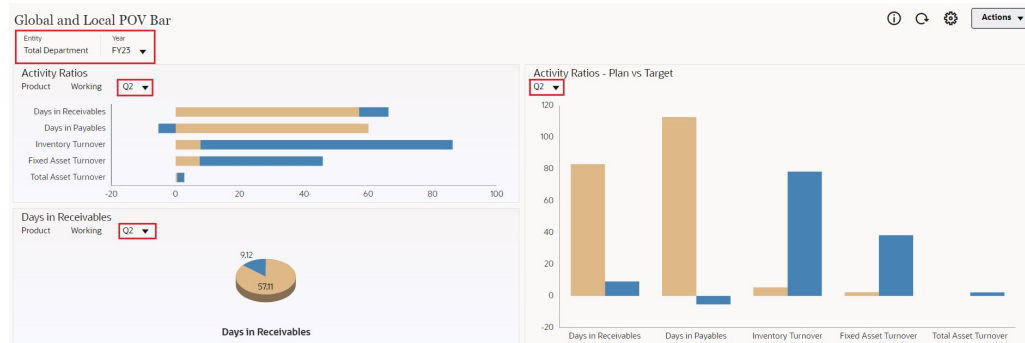
ダッシュボード 2.0 では、セル詳細はサポートされません。かわりに、セル詳細が進化したバージョンである、クイック分析をデータ・ソースとして使用することをお勧めします。ダッシュボードをダッシュボード 2.0 に変換するときに、このダッシュボード内のコンポーネントでセル詳細が使用されている場合は、セル詳細をデータ・ソースとして使用しているコンポーネントを削除し、クイック分析をデータ・ソースとして使用するように再作成してください。

ダッシュボード 2.0 でのグローバルおよびローカルの POV について


フォームのローカル POV には、フォーム設計者がそのフォームについて選択したディメンション・メンバーが反映されます。ダッシュボードではグローバル POV バーもサポートされており、ローカル POV のうち共通するものがグローバル POV バーにまとめられているため、これらが各コンポーネント内で繰り返されることはなくなります。

ダッシュボード 2.0 の POV の例

このダッシュボード 2.0 のダッシュボードには、グローバル POV バー(「エンティティ」および「年」が表示されています)といくつかのローカル POV (Q2 のドロップダウン・リスト)が表示されています:



グローバル POV バーがあり、そのグローバル POV バーでページを変更したときに **POV バー: 「自動適用」** が有効化されている場合は、ダッシュボード内のコンポーネントのうち、フォームに基づくものすべてについてページが変更されます。グローバル POV バーはダッシュボードの最上部に、すべてのコンポーネントより上に表示されるのに対して、ローカル POV バーはコンポーネント内に表示されます。ユーザー変数は、ダッシュボードのグローバル POV とローカル POV の両方でサポートされており、動的ユーザー変数を POV バーから直接変更できます。

ダッシュボード・ツールバーの  **「POV 設定」** メニュー(ランタイム・モードと編集モードの両方にあります)で、ディメンション・ラベルをグローバル POV で非表示にするかどうか(**POV バー: 「ディメンション・ラベルの非表示」**)および変更の自動適用を有効にするか無効にするか(**POV バー: 「自動適用」**)を設定できます。

グローバル POV バーについて:

- POV バーは、ローカル POV ディメンション、ページ・ディメンションおよびユーザー変数で構成されます。
- ダッシュボード上の各フォームのローカル POV およびページに応じて、グローバル POV バーが自動的に計算されます。
- グローバル POV には、そのダッシュボード内のフォームを使用するコンポーネントの内容が反映されます。つまり、それらは、ダッシュボード内のフォーム、フォームにリンクされたチャート、およびデータ・ソースとしてフォームを使用するスタイルに適用されます。そのため、ダッシュボードにデータ・ソースとしてフォーム

が含まれていない場合は、ローカル POV バーもグローバル POV バーも使用できません。次に、2つのフォームのローカル POV ディメンションに基づいて、グローバル POV バーがどのように計算されるかの例を示します。

グローバル POV バーが無効:

- フォーム A のローカル POV: 年、エンティティ、製品
- フォーム B のローカル POV: 年、エンティティ、プロジェクト

グローバル POV バーが有効:

- グローバル POV バー: 年、エンティティ
- フォーム A のローカル POV: 製品
- フォーム B のローカル POV: プロジェクト

すべてのディメンションおよびページの選択がダッシュボード上のすべてのフォームに共通しているとはかぎらないため、あるダッシュボード・コンポーネントの POV 全体がローカル POV とグローバル POV バーに分割されることもあります。グローバル POV バーとローカル POV をあわせると、ダッシュボード上の各フォームの完全な交差情報が含まれます。

ダッシュボード上のコンポーネントのうち、1つのみがフォームをデータ・ソースとして使用している場合は、そのフォームの POV/ページ全体がグローバル POV バーに移動されます。

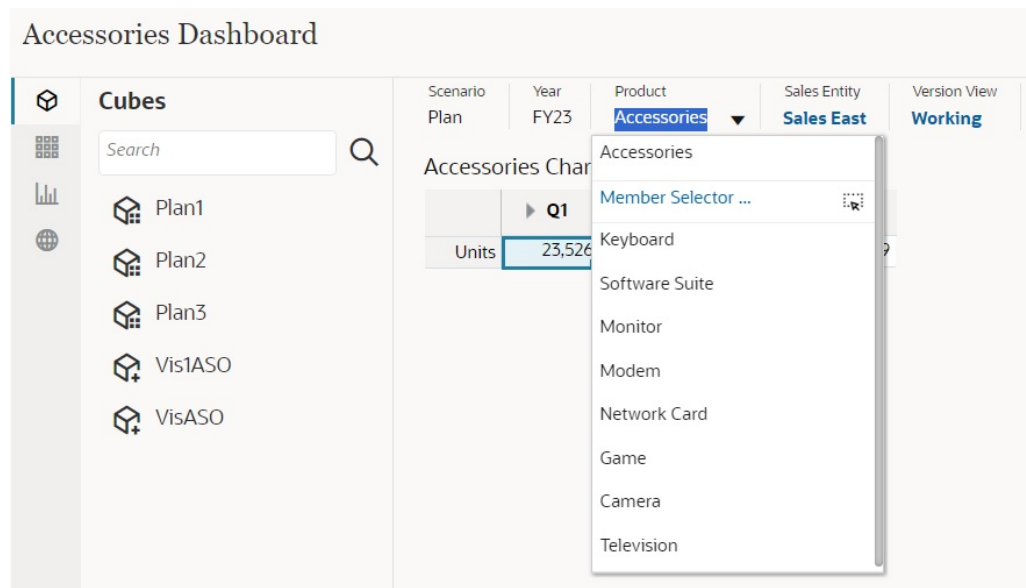
ダッシュボード上の複数のコンポーネントがフォームをデータ・ソースとして使用している場合に、どのディメンションがグローバル POV バーに移動し、どのディメンションがローカル POV にとどまるかは次のように決まります:

- ディメンションがすべてのフォームの POV またはページに含まれ、メンバーの選択がすべてのフォームで同じ場合、ディメンションはグローバル POV バーに移動します。
- ディメンションが1つのフォームの POV および別のフォームのページに含まれる場合、ディメンションはローカル POV バーにとどまります。
- ディメンションが POV に含まれる場合、そのディメンションについてすべてのフォームで同じメンバーが選択されている必要があります。
- ディメンションがページ・ディメンションである場合、選択されたページ・メンバーがすべてのフォームで同じであり、同じ順序で表示される必要があります。

ダッシュボード 2.0 のダッシュボードでの POV メンバーの検索

ダッシュボード 2.0 のダッシュボードで作業するときは、新しい POV メンバーを簡単に見つけることができます。検索するには、POV リンクの1つをクリックします。検索インタフェースに、最近使用されたメンバーのリストが表示され、ここから選択できます。

図 16-1 ダッシュボード 2.0 POV 最近使用されたメンバーのリスト




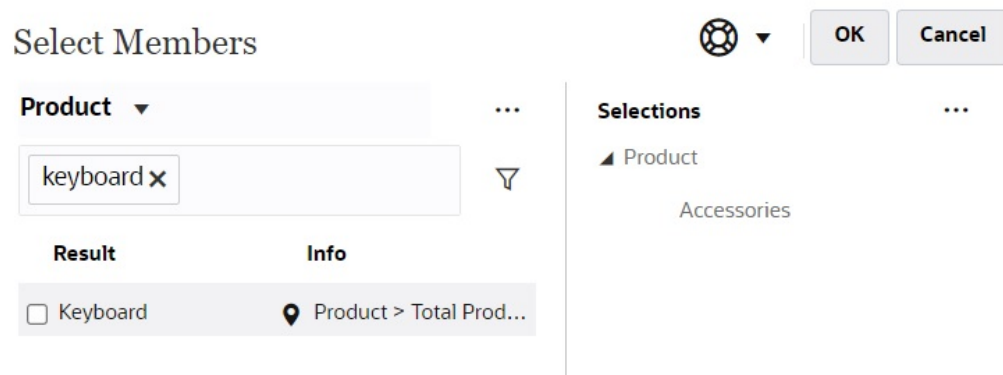
メンバー・セレクタを使用して検索することもできます。POV のリンクをクリックし、メンバー・セレクタ・アイコン  をクリックしてメンバー・セレクタを起動します。メンバー・セレクタ内のメンバーは階層として表示されますが、メンバー名を「検索」ボックスに入力することもできます。「検索」ボックスを使用してメンバーを見つけた場合は、結果が「検索」ボックスの下に表示されます。

図 16-2 ダッシュボード 2.0 メンバー・セレクタの検索結果




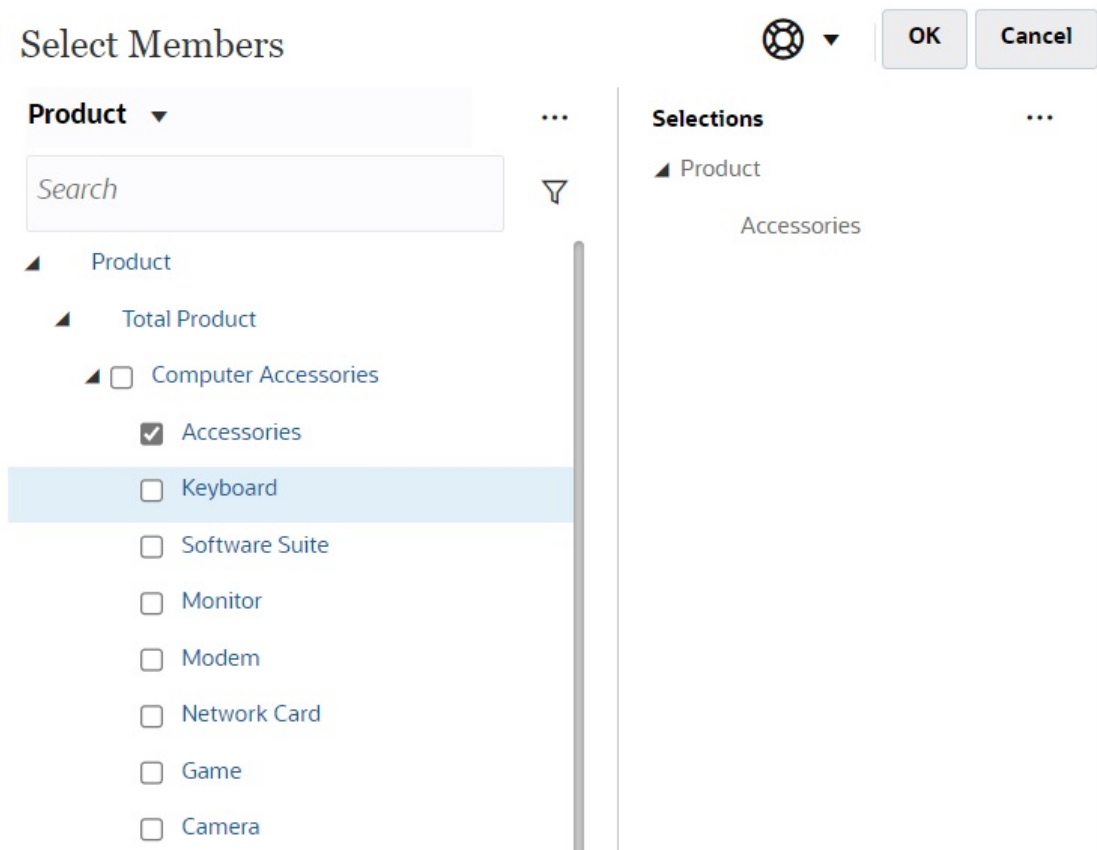
結果の「情報」列にカーソルを置き、 をクリックすることにより、メンバーが階層内のどこにあるかを確認できます。

図 16-3 ダッシュボード 2.0 メンバー・セレクト検索結果の階層表示




ダッシュボード 2.0 の POV バーの考慮事項

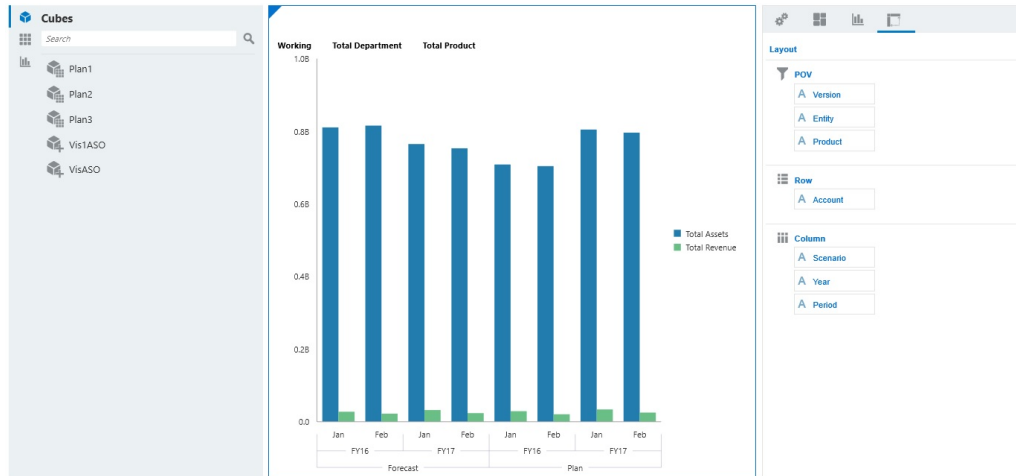
- POV バーのページのドロップダウン・リストで、ページのドロップダウンに表示するメンバーの数は、「ページ・オプション」の「ユーザー・プリファレンス」で制御できます。(ホーム・ページから「ツール」、「ユーザー・プリファレンス」、「表示」の順にクリックして「ページ・オプション」を表示します。)ページのドロップダウン内のアイテム数がこの制限を超えた場合、ユーザーはそれらを表示できません。これは、今後のリリースで、ダッシュボード 1.0 のように残りのメンバーを参照するためのメンバー・セレクトの機能を使用して修正される予定であることを注意してください。
- ダッシュボードに複数のフォームが含まれており、一部のフォームでは同じディメンションに対して異なるプロパティが設定されている場合、たとえば「バージョン」ディメンションが一部のフォームでは非表示で、同じダッシュボード上のその他のフォームでは表示されている場合は、グローバル POV に「バージョン」ディメンションのメンバーがまったく表示されないことがあります。すべてのディメンションのすべてのプロパティが、1 つのダッシュボードに含まれているすべてのフォームで同じであることを確認することをお勧めします。

クイック分析について

クイック分析を使用すると、事前作成されたフォームがなくても、ダッシュボードにコンポーネントを追加できます。「検索」バーにメンバー名を入力するか、「メンバー・セクタ」

を使用してアドホック問合せを作成した後、「プロパティ」パネルの「レイアウト」タブ  で問合せのレイアウトを制御します。

デザイン・モードでのダッシュボード 2.0 のクイック分析チャートの例




ダッシュボードでクイック分析を作成するには:

1. 問合せのキューブを選択します。次の 2 つのいずれかの方法で行うことができます:
 - ワークスペースの「検索」ボックスをクリックしてキューブのリストを表示し、キューブを選択します。
 - キューブをオブジェクト・パレットからダッシュボード・ワークスペースにドラッグ・アンド・ドロップします。

ノート:

どちらの方法でも、デフォルトの問合せから開始されます。最近使用したものの(MRU)に基づく、キューブ内の 1 つの交差です。デフォルトの問合せは、キューブで最近見ていたものによって異なります。

キューブ内の MRU 交差が無効の場合は、エラーが返されます。エラーが返された場合は、別のフォームを開いてページを有効な交差に変更すると、MRU が有効な交差で更新されます。


2. 問合せのメンバーを指定して、問合せを調整します:
 - 「検索」ボックスにメンバー名を入力して、キューブからのオートコンプリート・リストを表示します。
 - 「メンバー・セレクト」  を起動してメンバーを選択し、「OK」をクリックします。

 ノート:

クイック分析を実行するために検索ボックスを使用してメンバーを検索し、キューブ内のメンバーが 25,000 人よりも多い場合、検索ボックスでは、キューブのディメンション内の最初の 3000 人のメンバーのみが検索されます。キューブに含まれているメンバーが 25,000 人より少ない場合は、検索ボックスですべてのメンバーが検索されます。メンバーが 25,000 人より多いキューブを検索するには、メンバー・セレクタを起動してクイック分析の選択をします。

3. 問合せのチャート・タイプを選択します。

 をクリックして、チャート・タイプ(「棒」 など)を選択します。

4. 「プロパティ」パネルで、「レイアウト」タブ  をクリックします。
5. 「プロパティ」パネルの「レイアウト」タブのディメンションを「レイアウト」タブの他のセクションにドラッグ・アンド・ドロップして、ダッシュボード・コンポーネントの「POV」、「行」および「列」のレイアウトを変更します。

ビデオ

目的

フォームを事前作成せずに、ダッシュボードにクイック分析コンポーネントを追加する方法を学習します。ダッシュボード・デザイナーでアド・ホック問合せを作成する方法と、ディメンションのレイアウトを変更し、ビジュアライゼーションを適用して結果をフォーマットする方法を学習します。

視聴するビデオ



[ダッシュボード 2.0 でのクイック分析の作成](#)

ダッシュボードを使用したデータの操作

次も参照:

- [ダッシュボードの理解](#)
ダッシュボードでは、重要な情報の概要を参照するとともにデータを入力、変更および保存できます。
- [ダッシュボード・バージョンについて](#)
- [ダッシュボードの表示](#)
- [ダッシュボード 1.0 のダッシュボードの操作](#)
- [ダッシュボード 2.0 のダッシュボードの操作](#)
ランタイム環境でダッシュボード 2.0 のダッシュボードでの作業を行うことについての有益な情報です。
- [ダッシュボード 2.0 のグローバル・ツールバーの操作](#)
- [ダッシュボード 2.0 のコンポーネントの操作](#)

- [ダッシュボード 2.0 でのフォーム 2.0 のグリッドの操作](#)
ダッシュボード 2.0 では、基になるフォームがフォーム 2.0 のフォームの場合にフォーム・グリッド内のデータを直接操作できます。
- [チャートおよび凡例でのドリル・スルー](#)
- [ダッシュボード 2.0 での POV の操作](#)
- [ダッシュボード 2.0 でメンバー・セレクトアを開く](#)
ダッシュボード 2.0 でメンバーを選択するには、メンバー・セレクトアを使用します。
- [ナビゲーション・フローでのダッシュボード 2.0 のダッシュボードの操作](#)
- [ダッシュボード 2.0 のコンポーネントでのマスター・フォームおよび詳細の操作](#)
- [ダッシュボード 2.0 のダッシュボードでの有効な交差のサポート](#)
- [クイック分析について](#)

ダッシュボードの理解

ダッシュボードでは、重要な情報の概要を参照するとともにデータを入力、変更および保存できます。

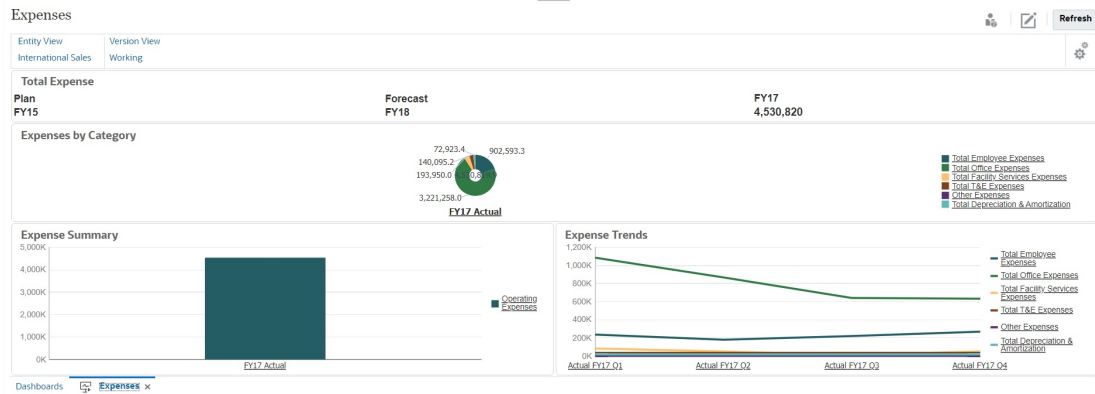
ダッシュボードでは、複数のフォームやチャート进行操作し、いずれかでデータを入力したり、データを変更して、その効果を他のフォーム、チャートおよびタイルで即座に確認できます。グリッドでドライバを変更すると、その影響が即座にチャートに示されます。

データを保存すると、ダッシュボード内のすべてのオブジェクトに保存されます。フォームの設計に応じて、より詳細な情報にドリルダウンすることもできます。たとえば、チャート・タイプを操作および変更するメンバーを選択できます。チャート要素にマウスを置くと、その要素がハイライトされ、データ・ラベルが表示されます。ダッシュボードを作成するのは管理者ですが、これらを使用する際には高い柔軟性がユーザーに提供されます。たとえば、多くのチャート・タイプで、データを表す色をカスタマイズできます。

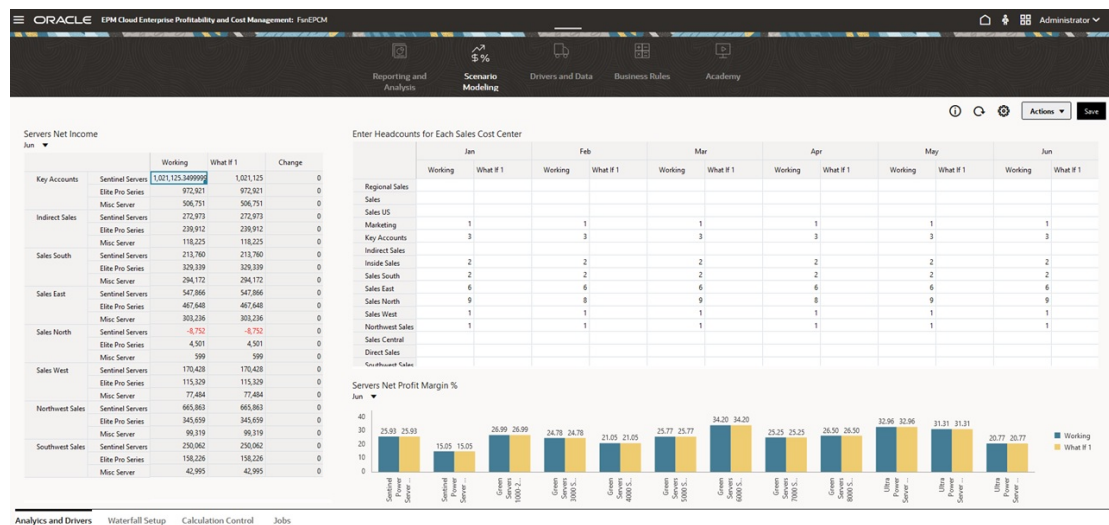
Note:

ダッシュボード・ページをデフォルトとしてマークできなくなりました。

ダッシュボード 1.0 の例





ダッシュボード 2.0 の例



ダッシュボード・バージョンについて

現在使用できるダッシュボードは、ダッシュボード 1.0 およびダッシュボード 2.0 の 2 つのバージョンがあります。「ダッシュボード」リスト・ページでダッシュボード・バージョンを区別しやすいように、それぞれのダッシュボードの前にアイコンが表示されるようになりました:

-  : ダッシュボード 1.0
-  : ダッシュボード 2.0

現在、両方のダッシュボード・バージョンが同時に同じビジネス・プロセスに共存します。表示するバージョンに応じて、ダッシュボードは多少異なって見え、ユーザー・インターフェースも少し異なります。

ダッシュボード 2.0 ランタイムの機能

ダッシュボード 2.0 ランタイムでは、次のことがサポートされます:

- ダッシュボード 1.0 よりも多くのチャート・タイプ(たとえば、「ウォーターフォール」、「ピラミッド」、「ジオマップ」や、「レーダー」、「組合せ」および「ゲージ」のチャートのサブチャート・タイプはすべて、ダッシュボード 2.0 の機能です)
- ダッシュボード内に表を作成するとともに、データをインラインでビジュアルに表示する(スパーク・チャートと呼ばれます)
- クイック分析(これを使用すると、事前作成されたフォームがなくても、ダッシュボードにコンポーネントを追加できます)

「検索」バーにメンバー名を入力するか、「メンバー・セレクト」を使用してアドホック問合せを作成した後、「プロパティ」パネルの「レイアウト」タブで問合せのレイアウトを制御します。
- 基になるフォームがフォーム 2.0 のフォームの場合にフォーム・グリッド内のデータを直接操作する
- フォーム 2.0 のフォーム・グリッドを操作する場合:
 - グローバル書戻しオプション: グローバルの「保存」と「保存時に実行」のルール
 - 個々のフォームの書戻しオプション: ローカルの「保存」と「保存時に実行」のルール
 - 表チャートの中で、親メンバーをハイライトしてリーフレベルのメンバーと区別する
- Oracle JET メンバー・セレクトを使用するように更新されたグローバルおよびローカルの POV バー
- チャートおよびグリッドでの最大化モードが更新され、現在は互いに一貫性がある状態
- マスター・フォームおよび詳細が向上し、どのグリッドからでもコンテキストを適用できる
- すべてのダッシュボードに対する柔軟なレイアウト
- グローバルおよびローカルの POV バーに対する有効な交差のサポート
- 「ダッシュボード」リスト・ページの外部のカスタム・メニューから「編集」および「データなし編集」を実行できる
- ランタイム・ダッシュボードおよびフォームの情報アイコン
- ランタイム・ダッシュボードの中からフォームを開いて編集する
- 1つのランタイム・ダッシュボード・コンポーネントの中で様々なチャート・タイプをビジュアル化できる
- 単一および複数の円グラフおよびドーナツ・グラフでのドリルスルー
- 合理化された「アクション」、「POV 設定」および「コンポーネント」のメニュー
- Oracle Smart View for Office に切り替えてすべてのデータ操作を実行可能、たとえば開く、編集、作成、リフレッシュ、データ送信、ページ/DUV 変更

- ダッシュボード 1.0 からダッシュボード 2.0 に変換するための変換ユーティリティ; バッチ変換(フォルダ・レベルで)および個々のダッシュボード変換の両方をサポート
- ダッシュボード 1.0 およびダッシュボード 2.0 のダッシュボードをリスト・ページ上でフィルタ処理できる
- ダッシュボードの編集を、ダッシュボードのリストおよびランタイムのページからだけでなく、ダッシュボードが埋め込まれているカスタム・ナビゲーション・メニューからも実行できる。

ダッシュボード 2.0 に関する考慮事項

- 3D ビジュアライゼーションは、ダッシュボード 2.0 ではサポートされていません。このことは、次のダッシュボード 2.0 のチャート・タイプに影響します:
 - 面
 - 棒
 - バブル
 - 列
 - 組合せ
 - ドーナツ
 - ゲージ
 - 折れ線
 - レーダー
 - 散布
- ダッシュボード 1.0 では引き続き、これらのチャート・タイプに対して 3D ビジュアライゼーションがサポートされます。
- 将来の更新で、ダッシュボード 2.0 でスマート・プッシュがサポートされる予定です。

ダッシュボードの表示

- [ダッシュボード・ページの表示](#)
- [ダッシュボード・ページの機能](#)
- [ダッシュボード・ページの「アクション」列](#)

ダッシュボード・ページの表示

ダッシュボード・ページを表示するには:

1. ホーム・ページで、「**ダッシュボード**」をクリックします。
2. ダッシュボードを開くには、ダッシュボードの名前をクリックします。

これにより、ダッシュボードがランタイム環境で開きます。

 **Note:**

ダッシュボード 2.0 のダッシュボードを選択し、ダッシュボード 2.0 コンポーネントの初期化中にエラーが発生しましたというメッセージが表示された場合は、ダッシュボードにフォーム 2.0 のフォームが関連付けられています。ダッシュボードを表示する前に、フォーム 2.0 が有効になっていることを確認する必要があります。

フォーム 2.0 を有効にするには、「アプリケーション」、「設定」の順にクリックし、「その他オプション」で「フォーム・バージョン」を探し、「フォーム 2.0」を選択して、「保存」をクリックします。

ダッシュボード・ページの機能

ダッシュボード・ページでは:

- フォルダがサポートされています。**ダッシュボード・ページ**では、インフォレットやデータ入力フォームと同じフォルダ階層が使用され、すべてのアーティファクトとフォルダが「ライブラリ」と呼ばれるルート・フォルダの下にあります。

 **Note:**

管理者のみがファイル(たとえば、ダッシュボード、インフォレット、フォーム、レポートなど)を「ライブラリ」ルート・フォルダに追加できます。

- フラット・ビューとツリー・ビューの間でダッシュボードの表示を切り替えることができます:




- ダッシュボードは、2つのバージョンで使用可能です。「**ダッシュボード**」リスト・ページでダッシュボード・バージョンを区別しやすいうように、それぞれのダッシュボードの前にアイコンが表示されるようになりました:



– :ダッシュボード(1.0)



– :ダッシュボード 2.0

- ダッシュボード・ページ**をタイプに基づいてフィルタできます。 をクリックし、次のフィルタ・オプションから選択します:

- **すべてのタイプ**(デフォルト)
- **ダッシュボード 1.0**
- **ダッシュボード 2.0**

- 特定のダッシュボードを検索するには、



をクリックしてキーワードで検索するか、をクリックして検索を特定のライブラリ・フォルダに絞り込みます。

ダッシュボード・ページの「アクション」列


ダッシュボード・ページの右側には、「アクション」列があります。ダッシュボードまたはフォルダの横にある **...** アイコンをクリックすると、次のアクションが表示されます:

- フォルダに対するアクション:
 - 権限の割当:** フォルダに対するアクセス権限を割り当てます。フォルダ権限はそのフォルダ内のすべてのアイテムに適用され、リストに表示されていないアイテムにも適用されます。
 - ダッシュボードの作成:** このフォルダ内にダッシュボード 1.0 のダッシュボードを作成します。
 - ダッシュボード 2.0 の作成:** このフォルダ内にダッシュボード 2.0 のダッシュボードを作成します。
 - フォルダの作成:** 新しいフォルダを作成します。
 - 削除:** フォルダを削除します。フォルダを削除するには、空である必要があります。
 - 名前変更:** フォルダの名前を変更します。他のフォルダが含まれている場合、フォルダの名前を変更することはできません。
 - 移動先:** フォルダをフォルダ階層内の別の場所に移動します。
 - すべてのダッシュボードを 2.0 に変換:** フォルダ階層内でダッシュボード 1.0 のダッシュボードを検出し、それらをダッシュボード 2.0 のダッシュボードに変換します。
- 個々のダッシュボードに対するアクション:
 - 編集:** 基礎となるフォームのデータを取得してダッシュボード・デザイナーでダッシュボードを開きます。ダッシュボードは動的タブで開きます。
 - データなし編集**(「ダッシュボード 2.0」オプションのみ): ダッシュボード・コンポーネントおよびタイルの再配置のようなアクションをより簡単に実行できるように、基礎となるフォームのデータを取得せずにダッシュボード・デザイナーでダッシュボードを開きます。ダッシュボードは動的タブで開きます。
 - 名前変更:** ダッシュボードの名前を変更します。
 - 別名コピー:** 新しい名前を付けてダッシュボードをコピーします。ダッシュボードは、リスト内で元のダッシュボードの直下にコピーされます。
 - 削除:** ダッシュボードを削除します。
 - 移動先:** ダッシュボードを別のフォルダに移動します。
 - 権限の割当:** ダッシュボードに対するアクセス権限を割り当てます。
 - ダッシュボード 2.0 に変換**(「ダッシュボード 1.0」オプションのみ): ダッシュボード 1.0 のダッシュボードをダッシュボード 2.0 のダッシュボードに変換します。
 - URL のコピー:** ダッシュボードのダイレクト URL をコピーして共有できます。

ダッシュボード 1.0 のダッシュボードの操作




前述したように、リスト・ページのダッシュボード 1.0 のダッシュボードは次のアイコンによって識別されます:



ダッシュボード上のオブジェクトにカーソルを移動すると、ホバー・ツールバー  が表示されます。

ダッシュボード 1.0 のホバー・アイコンでは、オブジェクトのタイプに応じて、「指示」、「アクション」、「保存」、「リフレッシュ」、「設定」、「最大化」などのオプションが提供されます。

ホバー・ツールバーからダッシュボード 1.0 のダッシュボード内のオブジェクトを操作するには:

- 「指示」
 をクリックして、フォームの指示を表示します(フォームに指示が構成されている場合のみ使用可能)。
- 「アクション」  をクリックして、「スプレッドシートのエクスポート」やサポート詳細などのフォーム・オプションにアクセスします。
- フォームに関連付けられたチャート・タイプやその高さのパーセンテージを変更するには、「設定」  をクリックします。

ダッシュボード内のチャートをカスタマイズします。各チャート・タイプには固有のオプションがあります。たとえば、棒グラフでは、次の項目を設定できます。

- 棒の幅の割合
- 表示されるチャートのタイプ(面グラフ、バブル・チャート、縦棒グラフ、ドーナツ・グラフ、ファネル・チャート、ゲージ・チャート、散布図、レーダー・チャートなど)
- 3D で表示するチャート
- 水平または垂直方向の配置
- 背景
- 凡例およびラベルの位置

また、1.0 ダッシュボードにゲージ・チャート・タイプが含まれている場合は、ダイヤルに表示される「最大値」を設定できます。

1.0 ダッシュボードの使用について理解しておく必要があるその他の点は次のとおりです。

- チャート・タイプ・オプションに対する変更は、次のセッション用に保存されません。「保存」をクリックすると、入力または変更したデータは保存されますが、ダッシュボード定義は保存されません。

- ダッシュボードで「ページ」ドロップダウンから新しい値を選択すると、POV バーに「実行」ボタン(右矢印)が表示されます。



「実行」ボタンをクリックすると、選択内容が表示されます。

- 基礎となるフォームの交差が書込み可能である場合にのみ、フォームのセルでデータの入力や変更を行うことができます。
- スマート・フォーム(フォーム設計オプション**自動保存**が有効になっている)でデータを入力し、セルからタブ移動すると、別のオブジェクトがリフレッシュされ、新たなデータが表示されます。
- デフォルトでは、欠落データまたは抑制データは、グラフでゼロとしてプロットされます。「**プロットにゼロの値なし**」設定をクリアして、特定のチャート・タイプの欠落データまたは抑制データを無視し、ゼロとしてプロットされなくなるようにできます。この設定が適用されるチャート・タイプは、「面」、「バブル」、「組合せ」、「折れ線」、「レーダー」および「散布」です。
- 「**フレキシブル**」レイアウトを使用するダッシュボードの場合、オブジェクトの枠線をドラッグしてサイズを変更できます。オブジェクトのハンドルをクリックして拡張し、ハンドルを再びクリックしてオブジェクトを元のサイズに戻すこともできます。

ダッシュボード 2.0 のダッシュボードの操作

ランタイム環境でダッシュボード 2.0 のダッシュボードでの作業を行うことについての有益な情報です。

前述したように、**ダッシュボード**・ページのダッシュボード 2.0 のダッシュボードは次のアイコンによって識別されます:



ダッシュボード・ページからダッシュボードを開くと、ダッシュボードがランタイム環境で開きます。

ビデオ

目的	視聴するビデオ
Cloud EPM のランタイム・ダッシュボード 2.0 の新機能について学習します。	 概要: Cloud EPM のダッシュボード 2.0 の新機能(2023 年 11 月)

関連リンク:

- [ダッシュボード 2.0 のグローバル・ツールバーの操作](#)
- [ダッシュボード 2.0 のコンポーネントの操作](#)
- [チャートおよび凡例でのドリル・スルー](#)
- [ダッシュボード 2.0 での POV の操作](#)
- [ダッシュボード 2.0 でメンバー・セレクタを開く](#)

- ナビゲーション・フローでのダッシュボード 2.0 のダッシュボードの操作
- ダッシュボード 2.0 のコンポーネントでのマスター・フォームおよび詳細の操作
- ダッシュボード 2.0 のダッシュボードでの有効な交差のサポート

ダッシュボード 2.0 のグローバル・ツールバーの操作

それぞれのダッシュボードの上部にあるアイコンとメニューを使用すると、ダッシュボード 2.0 のダッシュボード全体に対して次のアクションを実行できます:

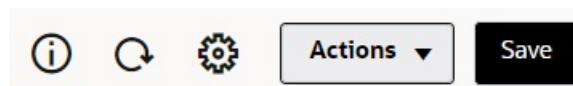


Table 16-15 ダッシュボード・ヘッダー・ツールバー




オブジェクト	説明
	<p>情報: ダッシュボードの名前、ライブラリ階層内のダッシュボードの場所へのパスおよび任意の説明を表示します。例:</p> <ul style="list-style-type: none"> • 名前: Operating Expenses - Actual vs Plan • パス: /ライブラリ • 説明(オプション): ダッシュボードの説明を入力します。
	<p>ダッシュボード全体のデータをリフレッシュします。</p>
	<p>次のメニュー・オプションがある「POV 設定」メニューを表示します:</p> <ul style="list-style-type: none"> • POV: ディメンション・ラベルの非表示: グローバル POV でディメンション・ラベルを非表示にします。 • POV: 自動適用: ダッシュボード全体に変更を自動的に適用する機能を有効または無効にします。グローバル POV バーでページを変更し、「POV: 自動適用」が有効になっている場合、フォームに基づいたダッシュボード内のすべてのコンポーネントについてページが変更されます。 • POV: すべてのページ選択のクリア
「アクション」メニュー	<p>次のダッシュボード・アクションを表示します(ダッシュボードを編集するには、適切な権限が必要です):</p> <ul style="list-style-type: none"> • 編集: 基礎となるフォームのデータを取得してダッシュボード・デザイナーでダッシュボードを開きます。ダッシュボードは、現在のタブの横にある動的タブで開きます。 • データなし編集: ダッシュボード・コンポーネントおよびタイトルの再配置やフォーム・プロパティの更新といったレイアウトの変更をより簡単に実行できるように、基礎となるフォームのデータを取得せずにダッシュボード・デザイナーでダッシュボードを開きます。ダッシュボードは、現在のタブの横にある動的タブで開きます。

Table 16-15 (Cont.) ダッシュボード・ヘッダー・ツールバー

オブジェクト	説明
保存	<p>「保存」をクリックすると、すべてのダッシュボード・グリッドの変更がライトバックされ、実行時プロンプトを含め、ダッシュボードに関連付けられているルールが実行されます。</p> <p>ノート:</p> <ul style="list-style-type: none"> グローバルな「保存」では、実行時プロンプトの有無にかかわらず複数のルールを添付できます。 実行時プロンプトは右側から"ドロワー"として開き、ユーザビリティが向上しています。 <p>「保存」をクリックすると、すべてのダッシュボード・コンポーネントについて入力または変更したデータが保存されますが、ダッシュボード定義に対する変更は保存されません。</p>

ダッシュボード 2.0 のコンポーネントの操作

ダッシュボードはコンポーネントで構成されます。それぞれのコンポーネントには、フォーム、キューブ、別のビジュアライゼーション(チャート、タイルなど)といったダッシュボード・オブジェクトが含まれます。

ダッシュボード・コンポーネントのツールバー

ダッシュボード上のコンポーネントにカーソルを置くと、コンポーネントのツールバー












     が表示されます。ホバー・ツールバーでは、そのコンポーネントに対してのみアクションを実行できます。

Table 16-16 ダッシュボード・コンポーネントのホバー・ツールバー

オブジェクト	説明
	情報: 基礎となるフォームの名前、フォームのパスおよびコンポーネントのキューブを表示します。
	保存: 変更されたデータを保存し、コンポーネントに関連付けられたルールを実行します。
	リフレッシュ: ダッシュボード・コンポーネントに関連付けられたデータをリフレッシュします。
	チャート・タイプ: コンポーネントのビジュアライゼーションを変更します。
	<p>コンポーネントに対して次の「アクション」を実行します:</p> <ul style="list-style-type: none"> 最大化: ダッシュボード・コンポーネントを拡大します。最大化した後、「復元」をクリックすると、ダッシュボード・コンポーネントは元のサイズに戻ります。 フォームを開く: コンポーネントに関連付けられたランタイム・フォームを、現在のタブの横にある動的タブで開きます。 フォームの編集: 適切な権限がある場合、コンポーネントに関連付けられたフォームをフォーム・エディタで開きます。フォーム・エディタは、現在のタブの横にある動的タブで開きます。

ランタイム環境でのコンポーネント・オブジェクトの操作

- ランタイム環境でダッシュボード・コンポーネントに加えた変更は、次のセッションのために保存されません。また、「表示/非表示」バーをクリックして、ページの上にあるアイコン・リボンを非表示にした場合も、変更は保存されません。ページがリフレッシュされて、加えたいずれの変更も保存されません。
- デフォルトでは、欠落データまたは抑制データは、グラフでゼロとしてプロットされます。「**プロットにゼロの値なし**」設定を「**いいえ**」に変更すると、特定のチャート・タイプの欠落データまたは抑制データを無視し、ゼロとしてプロットされなくなるようにできます。この設定が適用されるチャート・タイプは、「面」、「バブル」、「組合せ」、「折れ線」、「レーダー」および「散布」です。プロパティ・パネルで「**プロットにゼロの値なし**」設定をリセットするには、チャートのタイプ(「面」、「バブル」、「組合せ」、「折れ線」、「レーダー」または「散布」)のタブをクリックした後、「**はい**」をクリックして、設定を「**いいえ**」に切り替えます。
- コンポーネントにはデフォルトでフォーム・グリッドが表示され、関連付けられているフォームがフォーム 2.0 のフォームである場合、表示されるグリッドは書き込み可能です。グリッドをチャートに置き換えるには、グリッドにカーソルを置いて、コンポーネントの右上隅にホバー・アイコンを表示します。 をクリックすると、チャートのメニューが表示され、そこから選択できます。ランタイム・ダッシュボードを閉じると、ランタイム中に選択したチャートは保持されません。
- ダッシュボードに追加した URL がランタイム環境で機能しない場合は、URL を右クリックし、新しいブラウザ・タブでリンクを開きます。
- ダッシュボードでは、グリッド内で右クリックして、グリッドのコンテキスト・メニューを表示できます:
 - 「**編集**」オプション: 「**切り取り**」、「**コピー**」、「**貼付け**」、「**クリア**」
 - 「**調整**」オプション:
 - * **データの調整**: 選択したセルのデータを正または負の値、あるいはパーセンテージ値で増減します。
 - * **グリッド分散**: ターゲット・セルの既存の値に基づいて、複数のディメンションにわたって値を増減する量またはパーセンテージを指定します。「**比例**」、「**均等**」または「**入力**」の分散パターンを選択できます。「分散」を使用するには、管理者がフォーム・プロパティとして「**グリッド分散**」を有効にする必要があります。
 - 「**コメント**」: データについて説明したり、背景を提供して、外部ファイルを添付します。1つのセルまたは複数のディメンションをまたぐセルの範囲にコメントおよび添付を追加できます。
 - 「**変更履歴**」: セル・データに加えられた変更の履歴を表示します。
 - 「**セルのロック/ロック解除**」: 他の値を計算して入力している間、セルを一時的にロックします。ロックされたセルにはロック・アイコンが表示されます。セルのロックを解除するには、「**セルのロック/ロック解除**」を再度クリックします。
 - 「**セルで分析**」: アド・ホックを動的タブで開きます。
 - 「**コンテキストの適用**」: マスター・フォームのデータに関連するデータをターゲット・フォームまたはチャートでフィルタします。
- ライン・アイテムの詳細は、コンポーネントが最大化されている場合にのみサポートされます。コンポーネントを最大化するには、コンポーネントにカーソルを置き

て、コンポーネントの右上隅にホバー・アイコンを表示します。*** をクリックし、「**最大化**」を選択して、ダッシュボード・コンポーネントを拡大します。コンポーネントの操作が終わったら、「**復元**」をクリックして、ダッシュボード・コンポーネントを元のサイズに最小化します。

- タイル上で「**データのリフレッシュ**」をクリックするか、グローバルな「**データのリフレッシュ**」オプションをクリックすると、"点滅"の後にタイルのデータが表示されます。この"点滅"は、リフレッシュされたデータが移入されることを示します。
- 表を表示しているときには、リーフレベルのメンバーと区別するために親メンバーが強調表示されます。

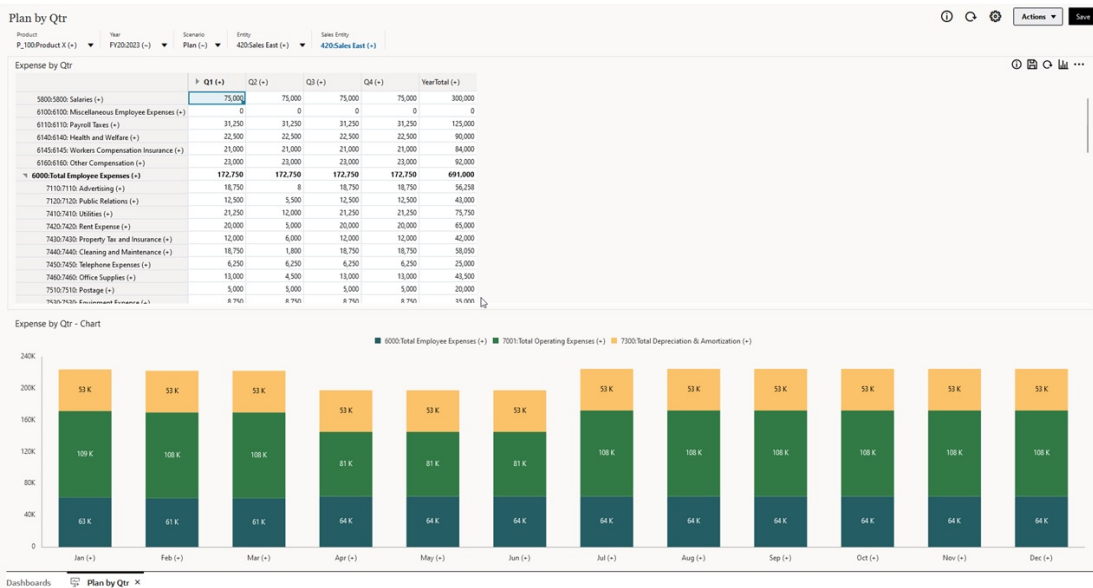
ダッシュボード 2.0 でのフォーム 2.0 のグリッドの操作

ダッシュボード 2.0 では、基になるフォームがフォーム 2.0 のフォームの場合にフォーム・グリッド内のデータを直接操作できます。

ダッシュボード 2.0 に新しく追加されたコンポーネントにはデフォルトでフォーム・グリッドが表示され、関連付けられているフォームがフォーム 2.0 のフォームである場合、グリッドは書込み可能です。


グリッドでセルの値を更新し、ルールを実行して変更を保存することで、ダッシュボードからのライトバックを容易に行うことができます。

グリッドがあるダッシュボード 2.0 のダッシュボードの例



ダッシュボード 2.0 のグリッドに対する更新の保存

ダッシュボード 2.0 内のグリッドを更新した後、グローバルな「**保存**」ボタンをクリックすると、すべてのダッシュボード・グリッドの変更がライトバックされ、実行時プロンプトを含め、ダッシュボードに関連付けられているルールが実行されます。

ダッシュボードの個々のグリッド・コンポーネント内で  をクリックすると、そのグリッドに関する変更がライトバックされ、個々のグリッドにのみ関連付けられているルールが実行されます。

ルール

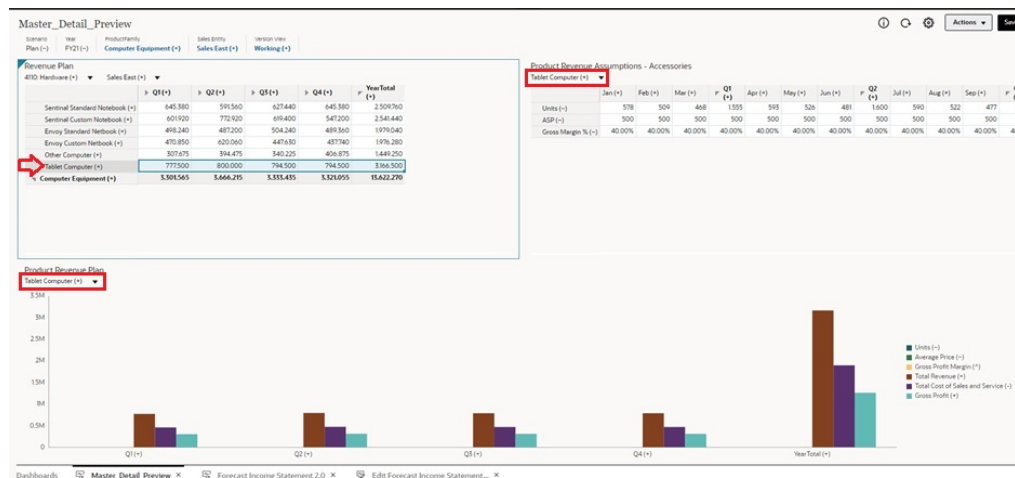
ダッシュボード・デザイナのプロパティ・パネルには、ルールをダッシュボードに関連付けるための「**関連付け**」タブが含まれています。

ダッシュボードまたはダッシュボード内のグリッド・コンポーネントを保存する場合、ダッシュボード・グリッドが保存される時に、実行時プロンプトを含め、グリッドに関連付けられているルールが起動します。実行時プロンプトは、右側から"ドロワー"として開きます。

マスター詳細ダッシュボード内のグリッド

ダッシュボード 2.0 では、マスター詳細があるダッシュボードを設計するときにグリッドをマスター・コンポーネントとして指定することがサポートされています。

グリッドのデータに関連するデータをターゲット・フォームまたはチャートでフィルタするには、マスター・グリッド内の関連するデータ行を右クリックし、「**コンテキストの適用**」を選択します。



ダッシュボード・グリッドのコンテキスト・メニュー

ダッシュボードでは、グリッド内で右クリックして、グリッドのコンテキスト・メニューを表示できます:

- 「**編集**」オプション: 「**切り取り**」、「**コピー**」、「**貼付け**」、「**クリア**」
- 「**調整**」オプション:
 - **データの調整**: 選択したセルのデータを正または負の値、あるいはパーセンテージ値で増減します。
 - **グリッド分散**: ターゲット・セルの既存の値に基づいて、複数のディメンションにわたって値を増減する量またはパーセンテージを指定します。「**比例**」、「**均等**」または「**入力**」の分散パターンを選択できます。「分散」を使用するには、管理者がフォーム・プロパティとして「**グリッド分散**」を有効にする必要があります。
- **コメント**: データについて説明したり、背景を提供して、外部ファイルを添付します。1つのセルまたは複数のディメンションをまたぐセルの範囲にコメントおよび添付を追加できます。
- **変更履歴**: セル・データに加えられた変更の履歴を表示します。

- **セルのロック/ロック解除:** 他の値を計算して入力している間、セルを一時的にロックします。ロックされたセルにはロック・アイコンが表示されます。セルのロックを解除するには、「セルのロック/ロック解除」を再度クリックします。
- **セルで分析:** アド・ホックを動的タブで開きます。
- **コンテキストの適用:** マスター・フォームのデータに関連するデータをターゲット・フォームまたはチャートでフィルタします。

ダッシュボード 2.0 でのグリッドの操作に関する考慮事項

- ダッシュボードにグリッドが含まれており、「**フォーム・バージョン**」アプリケーション設定が「**フォーム 1.0**」に設定されている場合、ダッシュボード 2.0 のダッシュボードは開きません。
- 「**フォーム・バージョン**」アプリケーション設定が「**フォーム 1.0**」に設定されており、ダッシュボード 2.0 のアーティファクトが作成された場合、「グリッド」ビジュアライゼーション・オプションは使用できません。

チャートおよび凡例でのドリル・スルー

親メンバーに対してドリルスルーを実行して、子メンバーの値を表示できます。

チャートおよびその凡例内でデータの詳細情報にドリルできます。円グラフなどのチャートでドリルスルーの詳細を表示するには、円の中の色をクリックします。ドリルスルーは、単一のドーナツ・チャートおよび円グラフがあるコンポーネントに加えて、複数のドーナツ・チャートおよび円グラフがあるコンポーネントにも機能します。

ドリルスルーは、チャートの凡例からも使用できます。凡例ラベルをクリックすると、その凡例アイテムのドリルスルーの詳細を表示するようにチャートが変わります。

Note:

凡例からの複数の円グラフおよびドーナツ・チャートでのドリルスルーはサポートされていません。

ドリルスルーの詳細を表示した後、元のチャートに戻るには、ウィンドウの右上隅に表示される親のリンクをクリックします。


Note:

表、タイルおよびゲージ・チャートでは、ドリルはサポートされていません。円グラフなどのチャート・タイプにドリルし、表、タイルまたはゲージ・チャートに切り替えた場合、元のチャートに戻るための親のリンクは表示されなくなります。このようになった場合は、円グラフに切り替えて戻ると、親のリンクが再び表示されます。

ダッシュボード 2.0 での POV の操作

POV 設定

ダッシュボード 2.0 のダッシュボードにグローバル POV またはローカル POV が含まれている場合、POV に対する変更は自動的に適用されます。変更が自動的に適用されないようにする場合は、ダッシュボードの「POV 設定」メニューで POV バーの自動

適用の選択を解除できます。 をクリックし、「POV : 自動適用」をクリックして選択を解除します。

POV メンバーの検索

ダッシュボード 2.0 のダッシュボードで作業しているときには、ダッシュボードのグローバル POV またはローカル POV で新しい POV メンバーをより簡単に検索できます。検索するには、POV のリンクをクリックし、別のメンバーの名前を入力すると、検索機能が自動的にそのメンバー名にフィルタされます。検索インターフェースには、最近使用されたメンバーのリストも表示され、そこから選択できます。

Note:

グローバルとローカルの POV バーでは、有効な交差がサポートされています。つまり、ダッシュボード 2.0 は、グローバルとローカルの POV バーから無効な交差を除外することにより、有効交差ルールに準拠します。

Figure 16-4 POV メンバーの検索インターフェース

Accessories Revenue Plan

Scenario: Plan | Year: FY23 | Sales Entity: Sales East | Version View: Working

Revenue Assumptions - Accessories

Units ▼

Units	Jan	Feb
Member Selector ...	8,589	6,162
ASP	10,634	7,155
Gross Margin %	762	959
<Clear Selection>	1,122	1,423
	4,204	2,858
	4,337	2,978
	8,315	6,200

► Q1

23,526


メンバー・セレクタを使用して検索することもできます。POV のリンクをクリックし、メンバー・セレクタ・アイコン  をクリックしてメンバー・セレクタを起動します。メンバー・セレクタ内のメンバーは階層として表示されますが、メンバー名を「検索」ボックスに入力することもできます。「検索」ボックスを使用してメンバーを見つけた場合は、結果が「検索」ボックスの下に表示されます。

Figure 16-5 「メンバーの選択」の検索

Select Members

Account ▼ ...

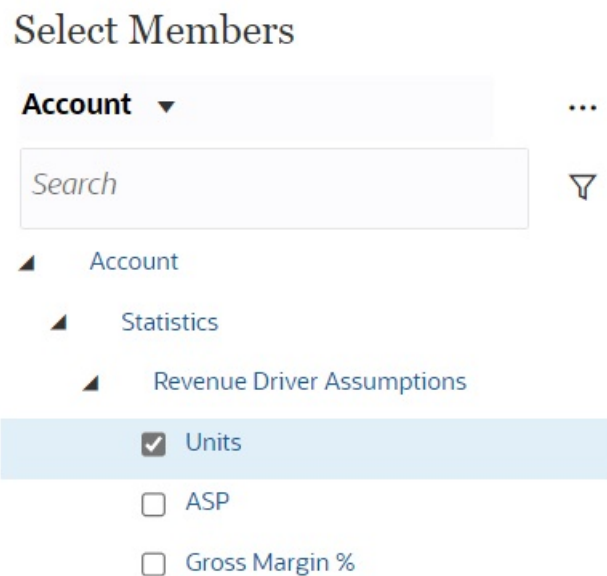
unit x

Result Info

Units Account > Statistics ...

結果の「情報」列にカーソルを置き、📍をクリックすることにより、メンバーが階層内のどこにあるかを確認できます。

Figure 16-6 「メンバーの選択」の階層内の検索結果

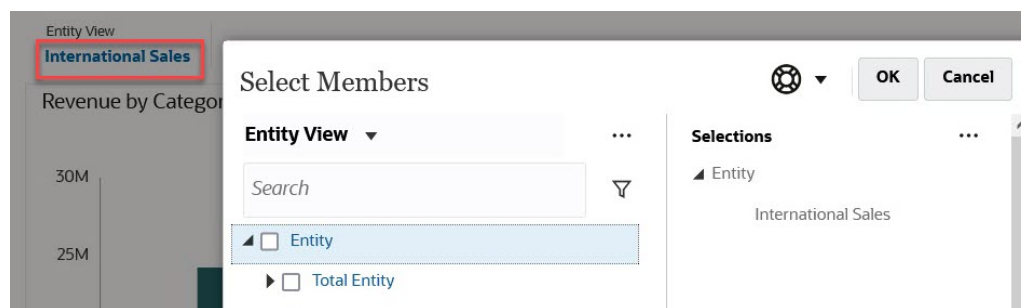


ダッシュボード 2.0 でメンバー・セレクタを開く

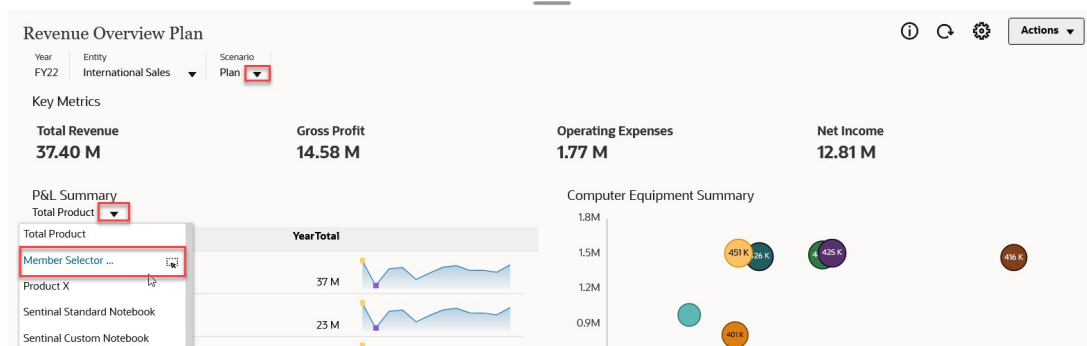
ダッシュボード 2.0 でメンバーを選択するには、メンバー・セレクタを使用します。

ダッシュボード 2.0 のダッシュボードからメンバー・セレクタを開くには:

グローバル POV バーでメンバーをクリックします:



グローバルまたはローカル POV で「ページ」ドロップダウン・リストをクリックし、「メンバー・セレクタ」を選択することもできます:



ビジネス・ルールの実行時プロンプトで、プロンプトがメンバーに関するものである場合、「**メンバー・セレクタ**」アイコンをクリックします：



メンバー・セレクタの使用の詳細は、[メンバー・セレクタの使用](#)を参照してください。

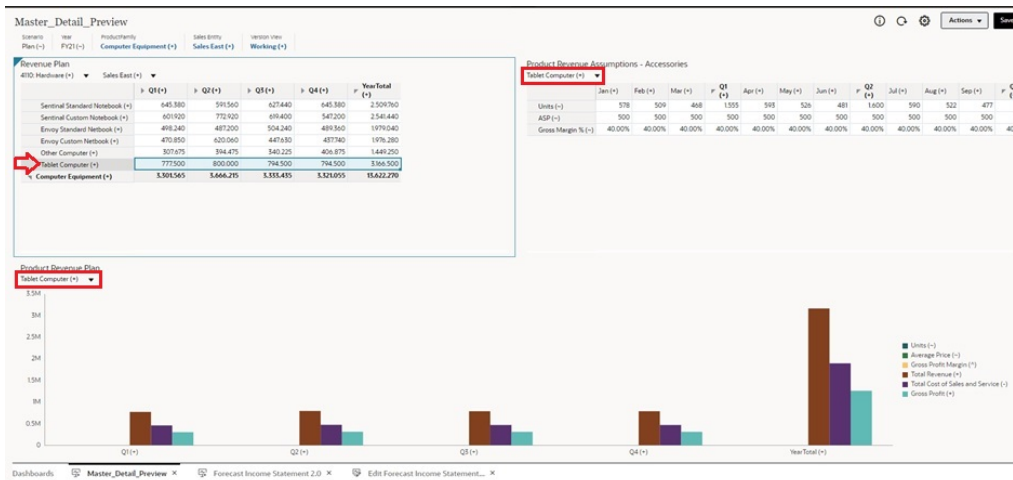
ナビゲーション・フローでのダッシュボード 2.0 のダッシュボードの操作

ダッシュボード 2.0 およびフォーム 2.0 がビジネス・プロセスで有効になっている場合、ナビゲーション・フローでは、ランタイム・ダッシュボード内からフォームを編集する機能や、データありまたはデータなしでのダッシュボードの編集など、ダッシュボード 2.0 およびフォーム 2.0 に含まれる機能がサポートされます。「**最大化**」や「**フォームを開く**」など、ダッシュボード 2.0 のコンポーネント・アクションもナビゲーション・フロー内で直接機能します。

ダッシュボード 2.0 のコンポーネントでのマスター・フォームおよび詳細の操作

管理者は、1つのマスター・フォームと複数の詳細またはターゲット・コンポーネント(フォームまたはチャート)があるダッシュボードを設計できます。このダッシュボード構成では、マスター・フォームのメンバーの選択によってターゲット・コンポーネントのメンバーが自動的にフィルタされ、ターゲット・コンポーネントには、マスター・フォームで強調表示されたメンバーに関連する詳細のみが表示されます。

マスター・フォームのデータに関連するデータをターゲット・フォームまたはチャートでフィルタするには、マスター・フォーム内の関連するデータ行を右クリックし、「**コンテキストの適用**」を選択します。




ダッシュボード 2.0 のダッシュボードでの有効な交差のサポート

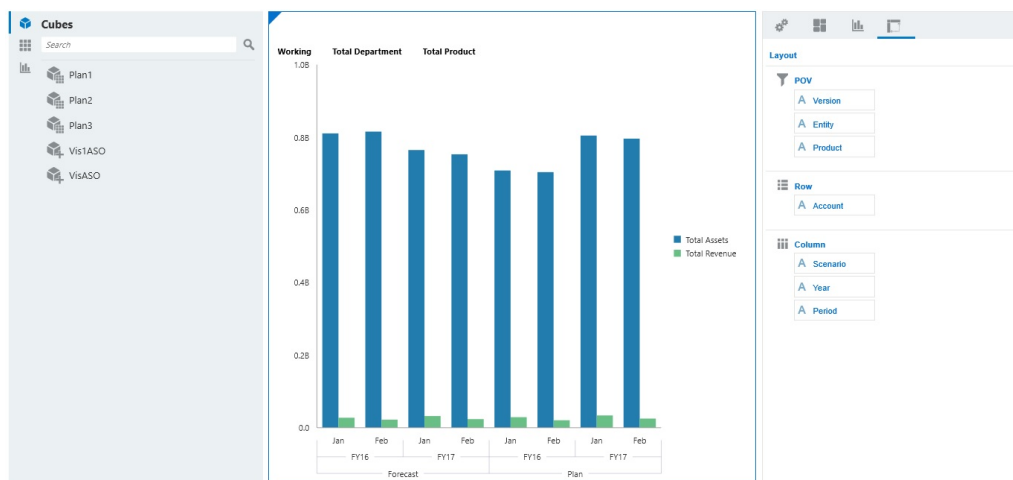
管理者は、フォームの特定のセル交差内でデータ入力を許可するルールを作成できます。このような交差は、有効な交差と呼ばれます。

ダッシュボード 2.0 は、ランタイム中にダッシュボードから無効な交差を除外することにより、有効交差ルールに準拠します。管理者がメンバーを除外するように定義している場合、ランタイム・ダッシュボードおよびメンバー・セレクトにそれらのメンバーは表示されません。

クイック分析について

クイック分析を使用すると、事前作成されたフォームがなくても、ダッシュボードにコンポーネントを追加できます。「検索」バーにメンバー名を入力するか、「メンバー・セレクト」を使用してアドホック問合せを作成した後、「プロパティ」パネルの「レイアウト」タブ  で問合せのレイアウトを制御します。

デザイン・モードでのダッシュボード 2.0 のクイック分析チャートの例




ダッシュボードでクイック分析を作成するには:

1. 問合せのキューブを選択します。次の 2 つのいずれかの方法で行うことができます:
 - ワークスペースの「検索」ボックスをクリックしてキューブのリストを表示し、キューブを選択します。
 - キューブをオブジェクト・パレットからダッシュボード・ワークスペースにドラッグ・アンド・ドロップします。

 **ノート:**

どちらの方法でも、デフォルトの問合せから開始されます。最近使用したもの (MRU) に基づく、キューブ内の 1 つの交差です。デフォルトの問合せは、キューブで最近見ていたものによって異なります。



キューブ内の MRU 交差が無効の場合は、エラーが返されます。エラーが返された場合は、別のフォームを開いてページを有効な交差に変更すると、MRU が有効な交差で更新されます。


2. 問合せのメンバーを指定して、問合せを調整します:
 - 「検索」ボックスにメンバー名を入力して、キューブからのオートコンプリート・リストを表示します。
 - 「メンバー・セレクタ」 を起動してメンバーを選択し、「OK」をクリックします。

 **ノート:**

クイック分析を実行するために検索ボックスを使用してメンバーを検索し、キューブ内のメンバーが 25,000 人よりも多い場合、検索ボックスでは、キューブのディメンション内の最初の 3000 人のメンバーのみが検索されます。キューブに含まれているメンバーが 25,000 人より少ない場合は、検索ボックスですべてのメンバーが検索されます。メンバーが 25,000 人より多いキューブを検索するには、メンバー・セレクタを起動してクイック分析の選択をします。

3. 問合せのチャート・タイプを選択します。

 をクリックして、チャート・タイプ(「棒」 など)を選択します。

4. 「プロパティ」パネルで、「レイアウト」タブ をクリックします。
5. 「プロパティ」パネルの「レイアウト」タブのディメンションを「レイアウト」タブの他のセクションにドラッグ・アンド・ドロップして、ダッシュボード・コンポーネントの「POV」、「行」および「列」のレイアウトを変更します。

ビデオ

目的

フォームを事前作成せずに、ダッシュボードにクイック分析コンポーネントを追加する方法を学習します。ダッシュボード・デザイナーでアド・ホック問合せを作成する方法と、ディメンションのレイアウトを変更し、ビジュアライゼーションを適用して結果をフォーマットする方法を学習します。

視聴するビデオ



[ダッシュボード 2.0 でのクイック分析の作成](#)

インフォレットでの主な情報の表示

Related Topics

- [インフォレットについて](#)
- [インフォレットの詳細分析](#)
- [インフォレットの内容の決定](#)
- [インフォレット・デザイナの使用](#)
- [インフォレットの作成](#)
- [インフォレットの操作](#)
- [インフォレットにアクセスするインタフェースのカスタマイズ](#)

インフォレットについて

インフォレットを使用すると、各種のソースから生成される概要レベルの必須情報を表示し、扱うことができるので、どこに注意を向けるべきかすぐに評価できます。サービス管理者は、インフォレットの作成、再設計、削除およびインフォレットへの権限の割当てを行います。

インフォレットとは何か

インフォレットとは、自己完結型で対話型のボックス・コンテナです。テキストとチャートを使用して情報を表示します。インフォレットは対話型で、概要レベルで集約された必須情報を段階的に表示するので、一目で参照しやすく、必要に応じて迅速に対処できます。インフォレットは、最大で3つのチャートまたは一連の値を表示できるように、切替えとサイズ変更が可能です。



インフォレットの詳細は、[インフォレットの詳細分析](#)を参照してください。

インフォレットの使用方法

インフォレットは、次の用途に使用できます。

- 必須の情報を使いやすい形で示す
- 最もクリティカルな質問に対する答えを示す
 - 何が新しく、何が変更されていますか？
 - 自分の作業をサポートする最も重要な情報は何かですか？
- ユーザーの作業を迅速に評価して優先順位を設けられるように、重要な情報をユーザーの役割ごとにグループ化する
- 必須の情報やアクションを段階的に表示する

インフォレットを切替えまたは展開することで、このような追加の詳細情報をさまざまなインフォレット・ビューで表示します。ただし、使用できるインフォレット・ビューは1つのみです。
- 必須の情報や概要情報を、視覚的にリッチな形で示す

レポート機能のように特に複雑な情報を扱うとき、または詳細なビジュアルを示すときには、インフォレットは使用しないでください。

[インフォレットの内容の決定](#)を参照してください。

インフォレット・ページとは何か

インフォレット・ページとは、1つ以上のインフォレットが表示されるページです。これにはコンテナがあり、インフォレットが占めるスペースを管理したり、ブラウザのサイズとインフォレットのサイズに合わせて再配置したりできます。作成した各インフォレットは、1つのインフォレット・ページに属します。ホーム・ページの「**インフォレット**」カードに、インフォレット・ページのリストが表示されます。



 **Note:**

この更新では、上の画像で示されている機能をすべて使用できるわけではありません。それらの機能には、今後の更新で対応する予定です。

[インフォレットの操作](#)を参照してください。

インフォレットの詳細分析

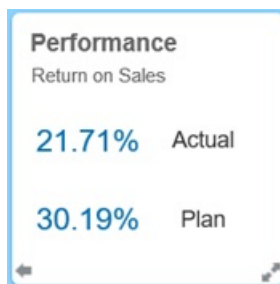
インフォレットのビュー

1つのインフォレットは、最大3つのビューをサポートしています。

1. 前面ビュー(必須)



2. 背面ビュー(オプション)



3. 展開ビュー(オプション)



前面ビューは必須です:

- 自分の作業に直接影響する概要レベルの情報を一目で見ることができます。たとえば、前面ビューには、ステータス、数、合計、最新の更新などを表示できます
- 一目でわかりやすくなっているため、詳細を調べたい重要な情報の識別に役立ちます
- 3x2を除いてすべてのインフォレット・サイズを使用できます(詳細は、後述のインフォレット・サイズの情報を参照)
- 展開ビューを、前面ビューまたは背面ビューで元のサイズに戻せます
- 「アクション」メニュー・アイコンはカーソルを置いたときだけ表示され、背面切替えアイコン(オプション)または展開アイコンが右下隅に表示されます

ノート:

ビューを1つだけ表示する場合は、前面ビューにする必要があります。

背面ビューはオプションです:

- 分析情報(グラフなど)を表示します
- スキャンしやすいため、前面ビューに表示された情報を調べたり、さらに知ることができます
- サイズは前面ビューと同じです
- 「アクション」メニュー・アイコンはカーソルを置いたときだけ表示され、前面切替えアイコンが左下隅に、展開アイコン(オプション)が右下隅に表示されます

展開ビューはオプションです:

- 前面ビューまたは背面ビューで示される1つのデータ・ポイントまたは個々のデータについて、さらに詳細を表示します。たとえば、展開ビューでは、1つのオブジ

エクトまたは最近の項目の一覧について、前面ビューや背面ビューに表示される内容よりも詳細な情報を表示できます

- アクションを実行して作業領域ページの注目すべき内容に移動してよいかどうか、十分な情報に基づいて判断できます
- 他のビューからの移行もスムーズです。他のインフォレットが新しい位置に移動されるので、スムーズでシームレスに展開できます。
- 前面ビューや背面ビューよりサイズを大きくする必要があります
- 「アクション」メニュー・アイコンはカーソルを置いたときだけ表示され、縮小アイコンが右下隅に表示されます

インフォレット・ビューでは、基礎となるフォームとディメンションに割り当てられているアクセス権を保持します。したがって、ユーザーごとにアクセス権が異なれば、同じインフォレットでも表示されるビューは異なることがあります。

インフォレットのサイズ

インフォレットのサイズは、次のように設定できます。

ノート:

1x1 は、1 列 1 行(170 ピクセル)のボックスを表します。

- 1x1
- 2x1
- 3x1
- 2x2
- 3x2 (展開ビューのみ)

前面ビューと背面ビューのサイズは、常に同じです。前面ビューのサイズを変更すると背面ビューのサイズも自動的にリセットされます。展開ビューのサイズは必ず前面/背面ビューより大きくする必要があるので、インフォレットの前面/背面ビューのサイズを大きくした場合、展開ビューは前面/背面ビューより大きいサイズに自動的にリセットされます。

ノート:

前面ビューと背面ビューには、3x2 のサイズは使用できません。このサイズは、展開ビューのみに適用可能です。

ビューのサイズ、タイトルおよびサブタイトルは、プロパティ・パネルで設計者が設定します。[インフォレット・デザイナーの使用](#)を参照してください。

インフォレット・ビュー間の移動

1 つのインフォレットは、次のいずれかのビューの組合せで作成できます。

1. 前面ビューのみ
2. 前面ビューと背面ビュー

- 3. 前面ビューと展開ビュー
- 4. 前面ビュー、背面ビュー、展開ビュー

ビュー間を切り替えるには、インフォレットの右下隅または左下隅にある切替えアイコン、展開アイコン、縮小アイコンを使用します。下隅にカーソルを置くと、切替え、展開、縮小のアイコンが表示されます。

インフォレットの内容の決定

インフォレットの内容を決めるときは、次の一般的なヒントを参照してください。

- 既存のダッシュボードと作業領域ページを確認します。
ダッシュボードと作業領域ページは、情報サマリーがまとめて表示されるので、出発点として最適です。
- 10/90/90 の原則を適用します。
重要性が高く利用しやすい、ユース・ケースの上位 10%からあがる FAQ に対処する情報を探します。このユース・ケースは、ビジネス・インテリジェンス、ソーシャル、トランザクション、外部など全社から集まります。
次に、この情報に絞って、ユーザーの 90%が、時間の 90%で得られるメリットが何かを検討します。既存のダッシュボードの内容、既存の作業領域ページ、または全般にこの 10/90/90 の原則を適用して、インフォレットに適した情報を選定します。
- 上位のユース・ケースを、よくあるビジネス上の質問の形で書きなおします。
これらのビジネス上の質問に答えるように、対応するインフォレットの内容を提示します。たとえば、対応の困難なオーダーの数をステータス別に一覧するなどです。
- 複数の情報ポイントではなく、1つのポイント、または密接に関連があり相互に依存する一連のポイントを探します。
インフォレットの内容を決定するプロセスは、ダッシュボードの内容を作成するプロセスに類似していますが、分析のレベルはもっと深くなります。3つ以下の情報階層ビューで表示するのに適しており、ビジネス上のクリティカルな質問の答えになる情報を、1つのデータ・ポイントまたはデータ・セットから探します。
- 最も重要な1つのポイントから始めます。
1つのインフォレットには、データの1つの側面つまり情報ポイントに関する集約情報が表示されます。ユーザーが知る必要のあるイベント、またはユーザーが対処する必要のあるタスクに関連する情報です。
ダッシュボードに、1つ以上のオブジェクトの複数の側面(数字の合計や通貨の合計)が含まれている場合は、最も重要な1つのポイントから始め、インフォレットの前面ビューに対する1つの概要(たとえば、合計としてスタイル付きの数値を使用するなど)を追加してきます。次に、必要に応じて背面ビューの内容を決めます。最後に、必要に応じて展開ビューの内容を決めます。
1つのインフォレットで、4つ以上のビューは追加できません。インフォレットに表示するデータ・ポイントが1つのみ、または密接に関連があり相互に依存するデータ・セットが1つのみの場合は、前面ビューのみ使用します。

関連リンク

[インフォレットのフォームの設計](#)

[インフォレットのチャートの設計](#)

インフォレットのフォームの設計

インフォレットでは、小さいデータ・セットのフォームのみを使用します。フォームに設定されているアクセス権限がインフォレットで保持されます。

インフォレットで個々に使用されるフォームを作成できます。

- フォルダで使用するフォームは、従来のデータ入力フォームよりセルが少なくなります。たとえば、インフォレットで使用するフォームのセルは **12** 以下です。
- インフォレットで使用するフォームは、行と列を **12** 以下にしてください。フォームの行と列が **12** を超えた場合、**12** 行および **12** 列までしか表示されません。
- 現在、インフォレットはページ・ディメンションまたは **POV** をサポートしていないため、インフォレットで使用するフォームにページ・ディメンションは使用しないでください。
- インフォレットで使用するフォームにグリッドが含まれ、メンバーを展開すると、インフォレットでは展開したメンバーも含めて、フォームのメンバーがすべて表示されます。

インフォレットのチャートの設計

静的な内容を表示するには、チャートのタイトルとサブタイトルを使用します。


インフォレットで使用できるチャートは **6** 種類あります：

- **棒**: 複数のデータ値のグラフィカルなサマリーを表し、比較に利用します。棒グラフは、垂直または水平に表示できます。棒グラフのインフォレットでは、棒の数を最大で **8** つまでに抑えることをお勧めします。
- **縦棒**: 異なるデータ・セット同士を積み重ねて表す棒グラフです。1 つの棒の最終的な高さは、データ・セットを合算した値を表します。
- **ドーナツ**: 円形グラフをセグメントに分割し、データ・セットどうしを比較します。中央の空白は、全データ・セットの合計を表します。ドーナツ・チャートのインフォレットでは、セグメントの数を最大で **6** つまでに抑えることをお勧めします。
- **折れ線**: 一定期間にわたるデータのトレンドをビジュアル化するときに使用します。
- **円**: スライスに分割された円形グラフで、データ・セットどうしを比較します。円グラフのインフォレットでは、スライスの数を最大で **6** つまでに抑えることをお勧めします。
- **タイル**: データ・セットから、表示する特定の値を選択できます。タイル・チャートのインフォレットでは、タイルの数を最大で **3** つまでに抑えることをお勧めします。

ノート:

タイル・チャートで使用できるサイズは **1x1** のみです。タイル・チャートを使用しているインフォレットは、チャート・タイプを変更しないかぎりサイズを変更できません。タイル・チャートを **1x1** より大きいインフォレットにドラッグ・アンド・ドロップすると、インフォレットのサイズかチャート・タイプか、どちらかを変更するよう指示されます。

インフォレット・デザイナの使用

サービス管理者は、インフォレット・デザイナを使用してインフォレットおよびインフォレット・ページを作成します。インフォレット・デザイナでは、ランタイム・ビューとデザイナ・ビューを簡単に切り替えることができます。インフォレット・デザイナにアクセスするには、ホーム・ページの「**インフォレット**」アイコンを起動して「**作成**」をクリックするか、リストのインフォレット・ページの横にある「アクション」アイコンをクリックして「**編集**」をクリックします。リストでインフォレット名をクリックすると、そのインフォレット・ページのランタイム・バージョンが開きます。ランタイム・ビューとデザイナ・ビューは、 をクリックして切り替えられます。

インフォレット・デザイナ



インフォレット・ツールバー

右上にインフォレット・ツールバーがあります。



: インフォレット・デザイナに新しいインフォレットを追加します



: プロパティ・パネルの表示/非表示を切り替えます

...: クリックして次のアクションを実行します。

- **リセット**: インフォレット・デザイナを、前回保存した状態に戻します
- **リフレッシュ**: Essbase からのデータをリフレッシュし、データベースからインフォレット定義を更新します

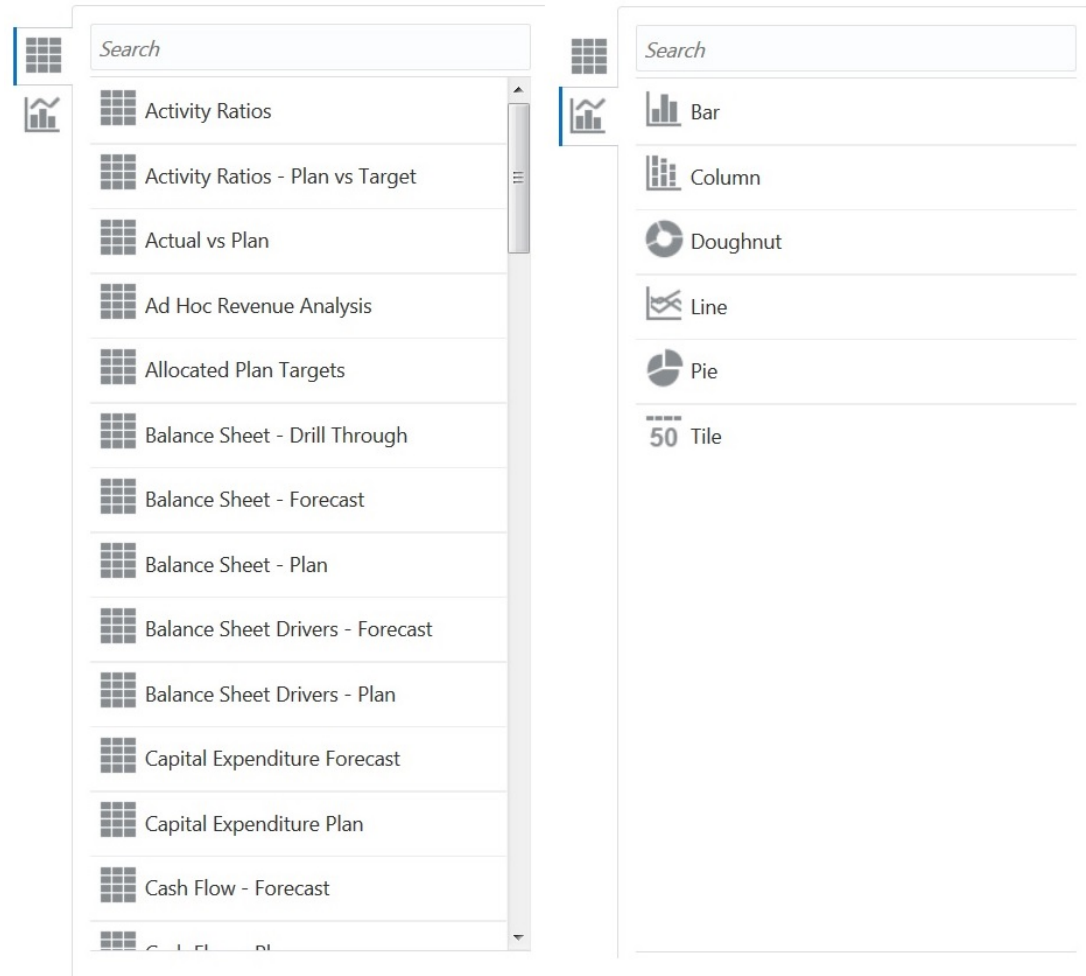
- **ランタイム:** インフォレット・デザイナの要素をすべて非表示にし、実行時にユーザーに見えるのと同じようにインフォレットを表示します



: ランタイム・モードから、インフォレット・デザイナを表示します

インフォレット・デザイナ・パレット

左側には、デザイナ・パレットがあります。デザイナ・パレットには、「フォーム」と「チャート・タイプ」の2つのタブがあります。デザイナ・パレットでオブジェクトをハイライトし、ドロップ・ゾーンまでドラッグ・アンド・ドロップします。



デザイナ・パレットのオブジェクト:

- **フォーム:** フォームをスクロールするか、名前で検索して、インフォレットに含めるフォームを選択します。フォームの詳細は、[インフォレットのフォームの設計](#)を参照してください。

ノート:

フォームに設定されているアクセス権限がインフォレットで保持されません。

- **チャート・タイプ:** インフォレットに含めるチャート・タイプを選択します。インフォレットのチャートには、データ・ソースとしてチャートとフォームを関連付けるまで、サンプルのデータが表示されています。チャートをフォームにリンクすると、ユーザーは、関連付けられたチャートに対するフォームでのデータ変更の影響を確認できます。チャートにフォームを関連付けるには、プロパティ・パネルでチャートをハイライトしてドロップ・ゾーンまでドラッグ・アンド・ドロップし、「**サンプル**」をクリックしてから「**フォーム**」をクリックしてデータ・ソースを選択します。チャートの詳細は、[インフォレットのチャートの設計](#)を参照してください。

インフォレット・メニュー

インフォレット・メニューには、インフォレットの削除およびクリア・アクションが含まれます。インフォレット・メニューを表示するには、インフォレットの右上隅にカーソルを置き、下矢印をクリックして、メニュー・オプションを表示します。

- **削除:** ページからインフォレットを削除します
- **クリア:** インフォレットの詳細をクリアします

プロパティ・パネル

インフォレット・デザイナの右側のプロパティ・パネルでは、次のインフォレット・プロパティを表示および操作できます。

ノート:

指定するヘッダーは、1つのインフォレットではすべてのビューで同じですが、各ビューに違うサブタイトルを指定することはできません。たとえば、1つのインフォレットの前面、背面、展開の各ビューに異なるサブタイトルを指定できますが、ヘッダーは同じにする必要があります。

- **ヘッダー**
- **サブタイトル**
- **サイズ:** インフォレットを選択したサイズで表示します
- **チャート・タイプ:** インフォレットのデータを選択したチャート・タイプで表示します
- **データ:** 関連付けられたデータ・ソースを表示します(「サンプル」または「フォーム」)
- **フォーム:** 選択されたインフォレット・フォームを表示します

削除やクリアなどのアクションは、インフォレット・メニューにあります。

デフォルトでは、インフォレットの前面ビューがプロパティ・パネルに表示されます。他のビューをドロップダウンから選択すると、それらが表示されます。インフォレッ

トを切り替えたり展開して背面ビューまたは展開ビューを表示する場合、それらのビューのプロパティは、プロパティ・パネルに表示されます。また、対応するチャート・タイプのプロパティも、プロパティ・パネルに表示されます。

インフォレットの作成

インフォレットを作成するには:

1. ホーム・ページで、「**インフォレット**」、「**作成**」の順にクリックします。
2. 「**無題インフォレット・ページ**」をクリックし、作成する新しいインフォレット・ページのタイトルを入力します。
3. 左側のデザイナ・パレットから、「**ライブラリ**」タブまたは「**ビジュアライゼーション**」タブを選択し、オブジェクトをハイライトして、インフォレットのドロップ・ゾーンまでドラッグ・アンド・ドロップします。

または、ページの上部にある



をクリックして、新しいインフォレットをワークスペースに追加することもできます。

4. 「**プロパティ**」パネルがまだ表示されていない場合は、ページの上部にある



をクリックして表示します。「**プロパティ**」パネルで行った選択を使用して、ハイライトされたインフォレットをカスタマイズします。

5. 「**保存**」をクリックします。

「インフォレット」リスト・ページで「**別名コピー**」アクションを使用すると、インフォレットを簡単に複製して変更できます。リスト・ページで、コピーするインフォレットの横にある「アクション」アイコンをクリックし、「**別名コピー**」をクリックします。

インフォレットの操作

インフォレット・ページを作成すると、「**インフォレット**」カードのインフォレット・リストに表示されます。

インフォレットのリスト・ページでは、フォルダがサポートされます。フォルダによって、個別のインフォレットに対する権限を割り当てるかわりに、フォルダ内のすべてのインフォレットに対する権限を割り当てることができます。インフォレットのリスト・ページでは、ダッシュボードやデータ入力フォームと同じフォルダ階層を使用しており、すべてのアーティファクトおよびフォルダは、「**Library**」と呼ばれるルート・フォルダ内に存在します。



ノート:


管理者のみがファイル(たとえば、ダッシュボード、インフォレット、フォーム、レポートなど)を「**ライブラリ**」ルート・フォルダに追加できます。

インフォレットを表示および操作するには:

1. ホーム・ページで、「**インフォレット**」をクリックします。

2. インフォレットを操作するには、次のアクションを実行します。

- インフォレットのリスト・ページでは、インフォレット表示のフラット・ビューと階層ビュー( )を切り替えることができます。

その後、「**検索**」  を使用してインフォレットを検索できます。フラット・ビューには、検索条件と一致するインフォレットのみが表示され、それらを含むフォルダは表示されません。ツリー(階層)ビューには、インフォレットとそれらが含まれるフォルダと一緒に表示されます。

別のキーワードで検索するには、「**検索**」ボックスの「**X**」をクリックして検索条件をクリアします。

- インフォレット・リストをリフレッシュするには、「**リフレッシュ**」をクリックします。
- インフォレットを作成するには、「**作成**」をクリックします。[インフォレットの作成](#)を参照してください。
- インフォレット・ページで次のアクションを実行するには、インフォレット・ページに隣にある「**アクション**」アイコンをクリックし、次のように選択します。

- **フォルダの作成:** リスト内にフォルダを作成します
- **編集:** インフォレット・デザイナでインフォレット・ページを開きます
- **名前変更:** インフォレット・ページの名前を変更します
- **別名コピー:** インフォレット・ページを複製します
- **削除:** リストからインフォレット・ページを削除します
- **移動先:** インフォレット・ページを別のフォルダに移動します
- 「**デフォルト**」または「**マーク解除**」: 「**デフォルト**」は、インフォレット・ページをデフォルトとしてマークし、ホーム・ページのグローバル・ヘッダーの下に表示される2つ目のインフォレット・ドットをクリックすることで、ホーム・ページから直接アクセスできるようにします。デフォルトとしてマークできるインフォレット・ページは1つのみで、リスト内のそのインフォレットの名前の前に(デフォルト)という接頭辞が表示されます。**マーク解除**は、インフォレット・ページからデフォルト指定を削除します。

ノート:

ダッシュボード・ページをデフォルトとしてマークできなくなりました。デフォルトとしてマークできるのは、インフォレット・ページのみです。

- **権限の割当て:** 個々のユーザーまたはグループに、インフォレット・ページおよびフォルダに対する「読取り」、「書込み」および「なし」アクセス権限を割り当てることができます

インフォレットにアクセスするインタフェースのカスタマイズ


ホーム・ページからインフォレット・ページへのリンクを追加できるように、ナビゲーション・フロー・デザイナを使用して、インタフェースをカスタマイズできます。インフォレット・ページにアクセスするインタフェースをカスタマイズすると、ホーム・ページでグローバル・ヘッダーの下にドットが表示され、ホーム・ページとインフォレット・ダッシュボード・ページとの間を容易にナビゲートできる矢印が表示されます。ホーム・ページに表示される各ドットが1つのインフォレット・ページを表しており、ドットにカーソルを置くと、インフォレット・ページの名前が表示されます。インフォレットのドットをクリックすると、それに関連付けられているインフォレット・ページが開きます。ホーム・ページに定義できるインフォレットのドットは、最大7つです。他の EPM Cloud 環境への接続をすでに作成している場合は、他の EPM Cloud 環境でもインフォレット・ページへのリンクを追加できます。

アクセス権のあるインフォレット・ページについてのみホーム・ページにドットが表示されます。表示されるインフォレット・ドットのタイプは、次のとおりです。

- **ホーム・ドット:** 常に最初に表示されるドットで、ホーム・ページにリンクしています。ホーム・ドットは1つだけです。ホーム・ページ以外を閲覧しているときは、ホーム・ドットをクリックするとホーム・ページに戻ります。
- **ユーザー・ドット:** エンド・ユーザーがデフォルトのインフォレット・ページとしてマークしたインフォレット・ページにリンクします。ユーザー・ドットは1つだけで、必ずユーザーのホーム・ページでホーム・ドットの後に表示されます。ユーザー・ドットは、ナビゲーション・フロー・デザイナでは追加できません。インフォレットをデフォルトとしてマークする方法の詳細は、[インフォレットの操作](#)を参照してください。
- **カスタマイズ可能ドット:** サービス管理者が作成したインフォレット・ページにリンクします。カスタマイズ可能ドットは、ナビゲーション・フローに統合でき、表示するかどうかと表示の順序はナビゲーション・フロー・デザイナで決定します。カスタマイズ可能ドットは最大7つまでで、常にホーム・ドットとユーザー・ドットの後に表示されます。

ナビゲーション・フロー・デザイナを使用して、ビジネス・インタフェースにインフォレット・ドットを追加するには:

1. ホーム・ページで、「**ツール**」、「**ナビゲーション・フロー**」の順に選択します。
2. アクティブでないナビゲーション・フローをリストから選択し、ナビゲーション・フロー・デザイナで「**インフォレット**」タブをクリックします。
3. **+** をクリックします。
4. 「**インフォレットの管理**」で、インフォレット・ドットに名前を付けて、表示/非表示を設定し、

 をクリックしてアーティファクト・ライブラリからインフォレットを選択します。

 **Note:**

他の EPM Cloud 環境への接続が作成してある場合は、その環境からインフォレットを選択することもできます。まず、「**自分の接続**」で環境を選択し、その環境のインフォレットに移動します。

5. 「**保存して閉じる**」をクリックします。

 **Note:**

インフォレットが、ナビゲーション・フローでタブまたはカードに関連付けられている場合もあります。タブやカードを追加または更新する際には、アーティファクト・ライブラリでインフォレットを選択します。

設計時のナビゲーション・フローに対する変更を確認するには、ナビゲーション・フローをアクティブにし、ホーム・ページからユーザー名(画面の右上隅)の隣の下向き矢印をクリックして、「**ナビゲーション・フローのリロード**」をクリックします。

ナビゲーション・フローの設計についてさらに学習するには、EPM Cloud 管理ガイドのカスタム・ナビゲーション・フローの設計を参照してください。

EPM Cloud 環境の接続についてさらに学習するには、EPM Cloud 管理ガイドの EPM Cloud の環境の接続を参照してください。

データ入力および分析のためのアド・ホックの使用

アド・ホック・グリッドを使用すると、重要なデータ・スライスにすばやくドリルできます。

アド・ホック・グリッドが焦点を絞るのにどのように役立つかを示す例:

- 実績が変動したために、作業する一連の製品のドライバを変更します。
- 地域の利益マージンを迅速に確認します。
- 他のユーザーが設定したアド・ホック・グリッドの勘定科目の設定を変更します。
- 差異数にドリルして差異の原因を理解します。
- 特定の配賦ルールまたはカスタム計算ルールでの作業をルール・デザイナーで行っているときに、そのルールのデータ要素を分析します
- ルール・バランシング・レポートでの特定のルールの結果を分析します
- ビジネス・プロセスで設定したアド・ホック・グリッドを Oracle Smart View for Office で使用します。さらに学習するには、*Oracle Smart View for Office ユーザーズ・ガイド*を参照してください。



ビデオ

目的	視聴するビデオ
<p>ライン・アイテムの詳細、コメント、添付の入力や、グリッド・メンバーのソートとフィルタ、グリッド・データの調整、ショートカット・キーの使用など、EPM グリッドの操作を実行する方法を学習します。EPM グリッド、つまりアド・ホック・グリッドを使用して、分析のために頻繁に使用する、フォーカスしたデータ・スライスをパーソナライズできます。</p>	 新しい EPM グリッドの操作の実行
<p>メンバーの選択、ディメンションの移動、グリッド・データおよび定義の保存など、アド・ホック操作を実行する方法を学習します。アド・ホック・グリッドを使用して、分析のために頻繁に使用する、フォーカスしたデータ・スライスをパーソナライズできます。</p>	 EPM Cloud プラットフォームでのアド・ホック・グリッドの設計
<p>フォーム、キューブおよびダッシュボードを使用してアド・ホック・グリッドを作成する方法を学習します。</p>	 EPM Cloud プラットフォームでのアド・ホック・グリッドの作成

アド・ホックの実行の開始

アド・ホック・グリッドでは、データを入力した後、様々な角度からデータをスライス・アンド・ダイスすることにより、多くの方法でデータを分析したり、変更できます。

Table 18-1 アド・ホック・グリッドで実行できるアクション

目的	さらに学習
アド・ホックを開始します	アド・ホック・グリッドの作成 を参照してください。
アド・ホックのグリッドを設計する	アド・ホック・グリッドの設計 を参照してください。
様々な角度からデータを見る(スライス・アンド・ダイス)	「 ピボット 」を使用して、ディメンションを POV、列または行に移動することにより、分析を調整します。 ディメンションのピボット を参照してください。
ショートカット・キーを使用して、すばやくアド・ホック・グリッド内を移動したり、データを入力する	アド・ホック・グリッドのキーボード・ショートカットとクイック・データ入力コマンド を参照してください。
データをさらにフォーカスします	<ul style="list-style-type: none"> 「選択項目の保持」および「選択項目の削除」を使用して、グリッドをカスタマイズします。 「ズーム・イン」を使用してディメンション内の次の詳細レベルを表示したり、サマリー・レベルまで「ズーム・アウト」します。
異なるデータを操作します	多機能な「 メンバー・セレクトタ 」を使用して、様々なメンバーを選択します。たとえば、属性、子、レベルまたは分岐に基づいてメンバーを選択できます。 アド・ホック・グリッドのメンバー・セレクトタを開く を参照してください。
基礎となるデータに関連付けられているソースの詳細を表示します	「データ統合」にドリルスルーします。 Oracle Enterprise Performance Management Cloud データ統合の管理のソースへのドリル・スルーの使用 を参照してください。
特定の金額ごとに値を変更します	「 調整 」を使用します。 値の調整 を参照してください。
データ値にロジックを構築します	ライン・アイテムの詳細 を使用します。 ライン・アイテムの詳細の使用について を参照してください。
データの背後にある仮定を説明します	外部ファイルにコメントまたは添付を追加します。 コメントおよび添付の追加 を参照してください。
アド・ホック・グリッドの表示および動作を管理します	 、  タブの順にクリックして、アド・ホック・グリッドの表示および動作を管理します。 アド・ホック・グリッドのプロパティの設定 を参照してください。
自由形式アド・ホックを実行します	メンバー名を空白のグリッドに入力し、値を取得します。 自由形式アド・ホックの使用 を参照してください。
アド・ホック・データ変更の実行後にビジネス・ルールを実行します	「 ルール 」をクリックしてビジネス・ルールを検索し、起動します。 アド・ホック・グリッドへのルールの適用 を参照してください。
Oracle Smart View for Office に切り替えます	「 アクション 」、 「Smart View で開く」 の順にクリックします。 Smart View for Office ユーザーズ・ガイド 23.100 の Web アプリケーションからフォームおよびアド・ホック・グリッドを開く方法 を参照してください。

アド・ホック・グリッドの作成

アド・ホック・グリッドを作成し、複数の方法でデータをスライス・アンド・ダイスできます。

 **ノート:**

アド・ホック・グリッドを作成するには、管理者から「アドホック - 作成」の役割を付与されている必要があります。この役割がない場合は、既存のアド・ホック・グリッドでのみ作業を行うことができます。

アド・ホック・グリッドは、スタンドアロン・フォームまたはダッシュボード内のフォームから作成できます。レッドウッド・エクスペリエンスが有効化されている場合、ダッシュボードまたはフォームから開いたアド・ホックは、動的タブで開きます。

新規のアド・ホック・グリッドを作成するには:

1. ホーム・ページで、「**データ**」をクリックします。
2. **データの入力**ページで、「**作成**」、「**アド・ホック・グリッド**」の順にクリックし、「**キューブの選択**」でグリッドのキューブを選択します。

デフォルトでは、勘定科目およびエンティティは行に配置され、年および期間は列に配置されます。その他のディメンションはグリッドの上の **POV (視点)** に配置されます。アド・ホック・グリッドで操作するメンバーを選択します。[アド・ホック・グリッドのメンバー・セレクタを開く](#)を参照してください。

 **ノート:**

キューブが集約ストレージで、年ディメンションがない場合、期間ディメンションのみが列に配置されます。

3. または、次のオプションを使用して、既存のフォームでアド・ホック分析を実行できます:
 - スタンドアロン・フォームからアド・ホック・グリッドを作成するには、フォームを開き、「**アクション**」、「**分析**」の順にクリックします。これで、アド・ホック機能を使用できるようになります。初期グリッドは、フォームのレイアウトに基づいて作成されます。
 - ダッシュボード 1.0 のダッシュボード内のフォームの場合は、ワークスペース全体に広がるようにダッシュボード・フォームを最大化し、「**アクション**」、「**分析**」の順にクリックします。または、レッドウッド・エクスペリエンスが有効化されている場合は、分析するセルを右クリックし、「**セルで分析**」を選択します。
 - ダッシュボード 2.0 のダッシュボード内のフォームの場合は、分析するセルを右クリックし、「**セルで分析**」を選択します。
4. **グリッド定義の保存**を選択して、アド・ホック・グリッドを保存します。[アド・ホック・データの送信とグリッド定義の保存](#)を参照してください。

これで、アド・ホック機能を使用して、データを絞り込んで分析できます。[アド・ホックの実行の開始](#)を参照してください。

 ヒント:

グリッドに関する概要レベルの情報を表示するには、「**プロパティ・パネル**」



をクリックします。「**一般**」タブで、メンバー名の表示方法を設定し、別名表を選択できます。[アド・ホック・グリッドのプロパティの設定](#)を参照してください。

アド・ホック・データの送信とグリッド定義の保存

アド・ホック・グリッドから変更されたデータを送信することにより、キューブ内のデータを更新できます。

 Note:

フォーマットは **Web** アド・ホックではサポートされておらず、**Oracle Smart View for Office** ネイティブ・モードから保存されたアド・ホック・グリッド内のフォーマットは、**Web** アド・ホックで開いた場合は保持されない場合があります。

データの送信のオプションは次のとおりです:

- **データのみを送信:** 明示的に変更した(ダーティにした)セルのデータが送信されますが、グリッド・デザインは送信されません。
- **リフレッシュせずにデータを送信:** 明示的に変更した(ダーティにした)データ・セルと変更していないデータ・セルをすべて送信します。すべてのデータ・セルがダーティとマークされて送信されます。送信操作が完了すると、グリッド全体がリフレッシュされます。
- **データ範囲の送信:** 選択したセルのセル・データのみを送信します。選択したセルの範囲外のグリッドにダーティ・セルがある場合、変更された値は送信されず、それらのセルは最後に保存された値に戻ります。

アド・ホック・グリッドを保存するには、**グリッド定義の保存**をクリックします。

変更の送信の必要のない計算の実行(オンザフライでの計算)

オンザフライの計算を使用すると、データの値を変更して計算後の変化を即座に知ることができ、更新後の値を送信する必要はありません。

フォーム 2.0 で作業するとき、またはアド・ホック分析中は、変更をデータベースに送信してリフレッシュする必要なく、オンザフライの計算を実行できます。この機能により、時間が節約されて、グリッドに対する複数の変更を一度に実行できます。

フォーム 2.0 の場合は、このオプションは管理者がこの機能をフォームに対して有効化している場合に使用できます。この機能が有効化されているときは、2.0 バージョンのフォームで、メンバー式が添付されたセルにカーソルを置くと、セルに関連付けられているメンバー式が表示され、オンザフライの計算を実行できます。

アド・ホック分析用に、管理者がこの機能を有効化している可能性があります。または、「ユーザー・プリファレンス」の「表示」タブの「アド・ホックのユーザー式の有効化」で「はい」を選択して、オンザフライでの計算の表示プリファレンスを設定できます。この設定が有効化されている場合、アド・ホック・グリッドで、メンバー式が添付されたセルにカーソルを置くと、セルに関連付けられているメンバー式が表示され、計算をオンザフライで実行できます。

計算をオンザフライで実行するには:

- 2.0 バージョンのフォームまたはアド・ホック・グリッドを開き、セルにカーソルを置いて、式が添付されたメンバーについて、メンバー式と集計演算子の両方を表示します。この例では、Jan の Sales の式を表示できます。

	Trips	Trips	Trips	Trips
	Jan	Feb	Mar	Q1
International Sales	20	20	20	60
Sales East	30	30	30	90
Sales NorthEast	25	25	25	75
Sales Mid-Atlantic	20	20	20	60
Sales SouthEast	15	15	15	45
Sales South	12	12	12	36
Sales Central	10	10	10	30
Sales West	12	12	12	36
Sales	144	144	144	432

Row Sales Column BaseData Trips Jan member(403):
 410 +420 +421 +422 +423 +430 +440 +450 +66
 grid math:
 = EssSum(essMissing(1/0) , B4, B5, B6, B7, B8, B9, B10, B11)

式が表示されるようにするには、フォームまたはアド・ホック・グリッドの中に入力可能なセル(レベル・ゼロ・メンバー)があることが必要です。

- 必要に応じて計算を実行し、セルからカーソルを移動します:

- 計算されたセルに影響を与える値を変更します。計算されたセルの値が更新されます。
- 計算値を変更します。そのフォームまたはアド・ホック・グリッド上のセルのうち、計算されたセルに寄与するものが更新されます。
式スプレッドを正しく機能させるには、計算値のすべてのソース・セルがフォームまたはアド・ホック・グリッドに表示されている必要があります。

色の変化は、セルの値が変更されたことを示します。データベースに変更を送信することなく、セルがすぐにリフレッシュされて、新しく計算された値が表示されます。

計算されたセルに影響を与える値を変更するこの例で、Jan の Sales West の値を変更します:

	Trips	Trips	Trips	Trips
	Jan	Feb	Mar	Q1
International Sales	20	20	20	60
Sales East	30	30	30	90
Sales NorthEast	25	25	25	75
Sales Mid-Atlantic	20	20	20	60
Sales SouthEast	15	15	15	45
Sales South	12	12	12	36
Sales Central	10	10	10	30
Sales West	15	12	12	36
Sales	144	144	144	432

[Tab]を押すと、オンザフライでの計算により、**Jan** の **Sales**、**Sales West** の **Q1** および **Sales** の **Q1** の更新値が計算されます。新しく計算された値の色の变化に注目してください。

	Trips	Trips	Trips	Trips
	Jan	Feb	Mar	Q1
International Sales	20	20	20	60
Sales East	30	30	30	90
Sales NorthEast	25	25	25	75
Sales Mid-Atlantic	20	20	20	60
Sales SouthEast	15	15	15	45
Sales South	12	12	12	36
Sales Central	10	10	10	30
Sales West	15	12	12	39
Sales	147	144	144	435

計算値を変更するこの例で、**Feb** の **Sales** の計算値を変更します:

	Trips	Trips	Trips	Trips
	Jan	Feb	Mar	Q1
International Sales	20	20	20	60
Sales East	30	30	30	90
Sales NorthEast	25	25	25	75
Sales Mid-Atlantic	20	20	20	60
Sales SouthEast	15	15	15	45
Sales South	12	12	12	36
Sales Central	10	10	10	30
Sales West	12	12	12	36
Sales	144	288	144	432

[Tab]を押すと、計算されたセルに影響を与える値が更新されます。新しく計算された値の色の变化に注目してください。

	Trips	Trips	Trips	Trips
	Jan	Feb	Mar	Q1
International Sales	20	40	20	80
Sales East	30	60	30	120
Sales NorthEast	25	50	25	100
Sales Mid-Atlantic	20	40	20	80
Sales SouthEast	15	30	15	60
Sales South	12	24	12	48
Sales Central	10	20	10	40
Sales West	12	24	12	48
Sales	144	288	144	576

- すべての変更が完了し、計算に満足している場合は、変更された値をサーバーに送信することも、送信せずに変更を破棄することもできます。

オンザフライの計算は **Oracle Smart View for Office** で 2.0 バージョンのフォームまたはアド・ホック・グリッドで実行することもできます。**Oracle Smart View for Office** の操作の変更の送信の必要のない計算の実行を参照してください。


サポートされる式関数および演算子を確認してください。Oracle Smart View for Office の操作のオンザフライ計算でサポートされる関数と演算子を参照してください。

式関数の一部はオンザフライでの計算をサポートしていません。Oracle Smart View for Office の操作のオンザフライでの計算でサポートされていない関数および式を参照してください。

オンザフライの計算を実行するときの追加の考慮事項は、Oracle Smart View for Office の操作のガイドラインおよび考慮事項を参照してください。

チュートリアル

チュートリアルには、トピックの学習に役立つ一連のビデオやドキュメントを使用した手順が用意されています。

目的	方法の学習
このチュートリアルでは、メンバー式を使用したアド・ホック分析中にオンザフライで計算を実行する方法を学習します。オンザフライの計算の作業は、Web でも Smart View でも行うことができます。	 Cloud EPM でのオンザフライでの計算の実行


アド・ホック・グリッドへのアクセス

アド・ホック・グリッドを開いて、フォーム内のデータの表示および分析をパーソナライズします。

スタンドアロン・フォームまたはダッシュボード内のフォームからアド・ホックにアクセスできます。レッドウッド・エクスペリエンスが有効化されている場合、ダッシュボードまたはフォームから開いたアド・ホックは、動的タブで開きます。

保存したアド・ホック・グリッドにアクセスするには:

1. ホーム・ページで、「データ」をクリックします。

「データの入力」リスト・ページのアド・ホック・グリッドには、「アド・ホック・グリッド」アイコン  が表示されます。

2. アド・ホック・グリッドの名前をクリックします。

スタンドアロン・フォームでアド・ホックを実行するには、フォームを開き、「アクション」をクリックし、「分析」をクリックします。

ダッシュボード内のフォームでアド・ホックを実行するには:

- ダッシュボード 1.0 のダッシュボード内のフォームの場合は、ワークスペース全体に広がるようにダッシュボード・フォームを最大化し、「アクション」、「分析」の順にクリックするか、レッドウッド・エクスペリエンスが有効化されている場合は、分析するセルを右クリックし、「セルで分析」を選択してアド・ホックを動的タブで開きます。
- ダッシュボード 2.0 のダッシュボード内のフォームの場合は、分析するセルを右クリックし、「セルで分析」を選択してアド・ホックを動的タブで開きます。

アド・ホック・グリッドの設計

アド・ホック・グリッドをカスタマイズして、関連するデータにすばやくアクセスできるようにします。

簡単に使用できる機能により、選択したデータ・スライスを設計して見直すことができます。

表 18-2 次の機能を使用したアド・ホック・グリッドのカスタマイズ

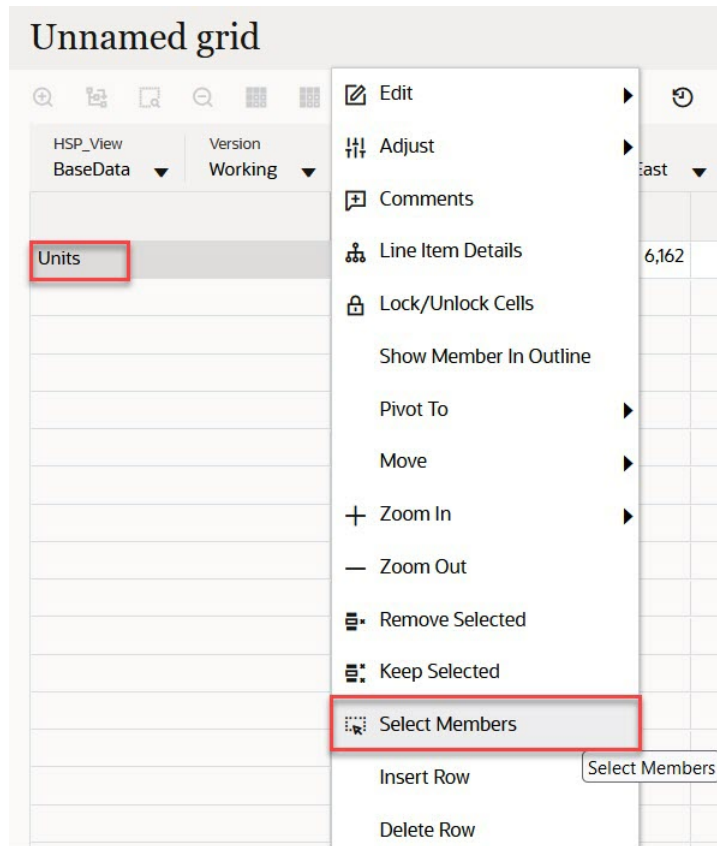
目的	参照先トピック
操作するデータの見直し	アド・ホック・グリッドのメンバー・セレクタを開く
ある軸から別の軸へのディメンションの移動	ディメンションのピボット
メンバー階層レベルのインデント方法などのオプションを設定する	アド・ホック・グリッドのプロパティの設定
セル・データを計算するロジックの定義	ライン・アイテムの詳細の使用について

アド・ホック・グリッドのメンバー・セレクタを開く

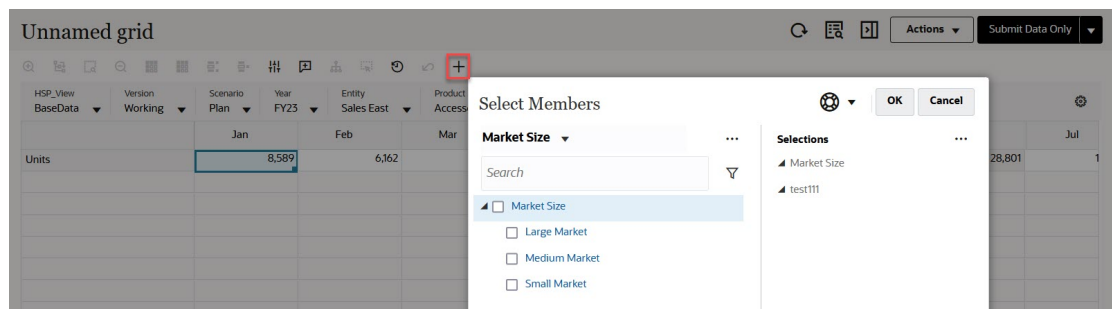
データを分析するときに、対象データの操作が必要になる場合があります。POV、行および列のメンバーを選択すると、分析するデータを迅速に設定したり、変更できます。アド・ホック・グリッド内のメンバーを選択するには、メンバー・セレクタを使用します。


メンバー・セレクタを使用すると、アド・ホック・グリッドの定義でユーザー変数、代替変数および属性を設定できます。アド・ホック・グリッドからメンバー・セレクタを開くには:

メンバーを右クリックし、「**メンバーの選択**」を選択します。



属性が使用可能な場合は、ツールバーの「属性の挿入」アイコンをクリックします。



 (「POV 設定」) をクリックし、「メンバー・セレクタ」を選択することもできます。

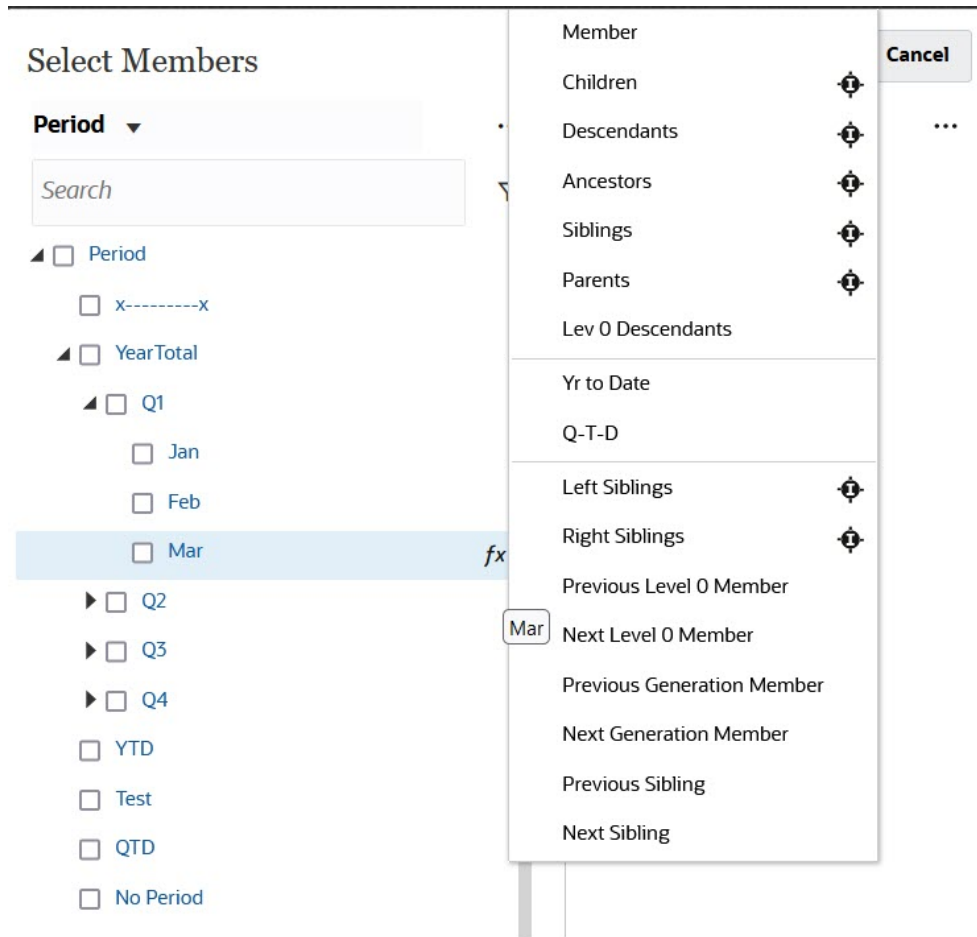
メンバー・セレクタの使用の詳細は、[メンバー・セレクタの使用](#)を参照してください。

期間累計メンバーの選択

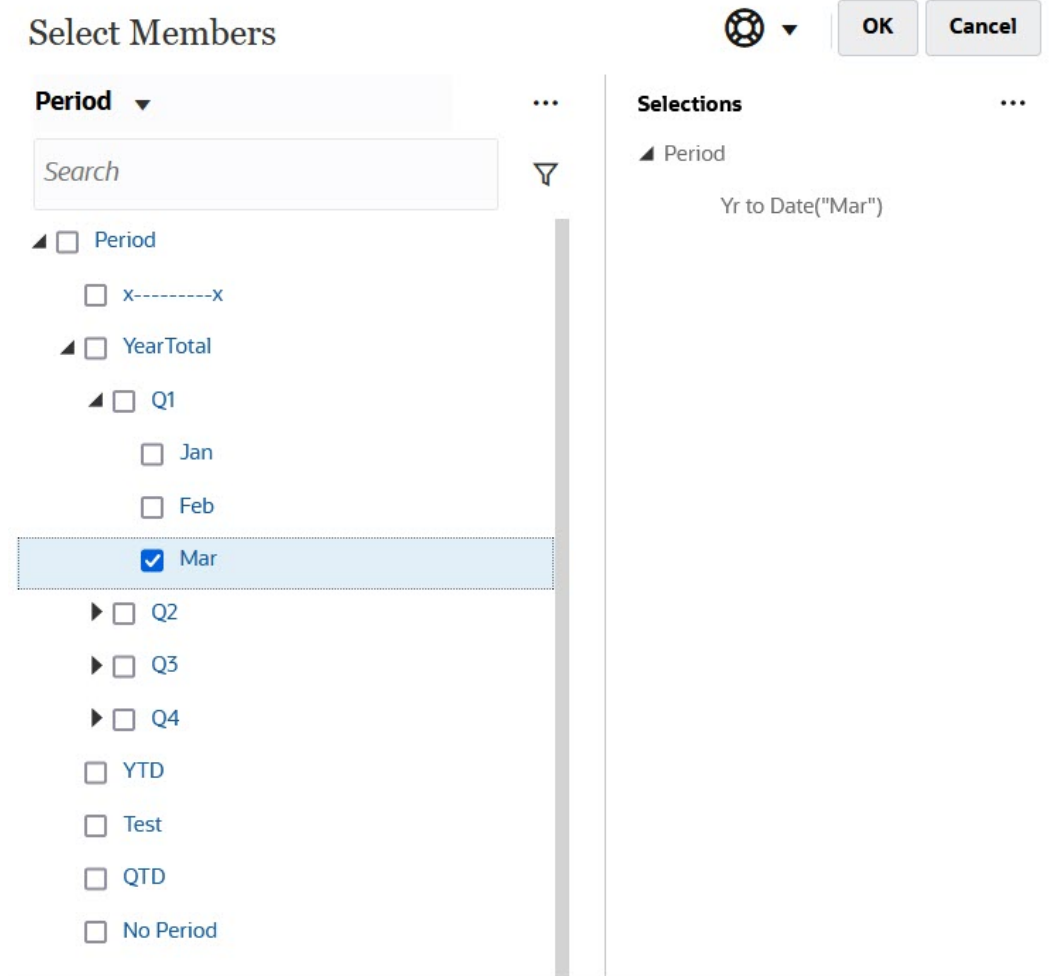
管理者が期間ディメンションについて動的時系列メンバーを設定していれば、期間累計データを表示するメンバーを選択できます。たとえば、年次累計費用のデータを表示するには、1月から8月までのデータを含む動的時系列メンバーを選択できます。

動的時系列メンバーを選択するには:

1. アド・ホック・グリッドの「期間」ディメンションを右クリックし、「メンバー・セレクタ」を選択します。
2. メンバーの横の fx をクリックして、使用可能な時系列メンバーを表示します。たとえば Q-T-D です。



3. リストから時系列メンバーを選択します。この例では、「3月」が選択されているため、「年次累計」を選択すると「年次累計("3月")」が「選択」ペインに追加されます。

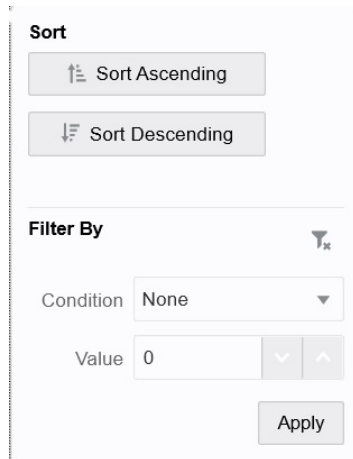


4. 「OK」をクリックします。

メンバー・セレクタの詳細は、[メンバー・セレクタの使用](#)を参照してください。

列メンバーのフィルタ

強力なフィルタ・オプションにより、アド・ホック・グリッドでの列メンバーの表示を制御できます。列名にマウス・カーソルを合せ、列名の右側にあるファンネルをクリックし、アクションを選択します。



The image shows a user interface for sorting and filtering data. Under the heading "Sort", there are two buttons: "Sort Ascending" (with an upward arrow icon) and "Sort Descending" (with a downward arrow icon). Below this is a "Filter By" section with a funnel icon. It contains a "Condition" dropdown menu currently set to "None", a "Value" input field containing the number "0", and an "Apply" button.

「ソート」オプションを使用すると、昇順または降順でソートして、メンバー階層を無視できます。「フィルタ条件」オプションを使用すると、「条件」（「次より大きい」や「次より小さい」など）または「値」でフィルタ処理できます。ソートおよびフィルタ・オプションを削除するには、



をクリックします。

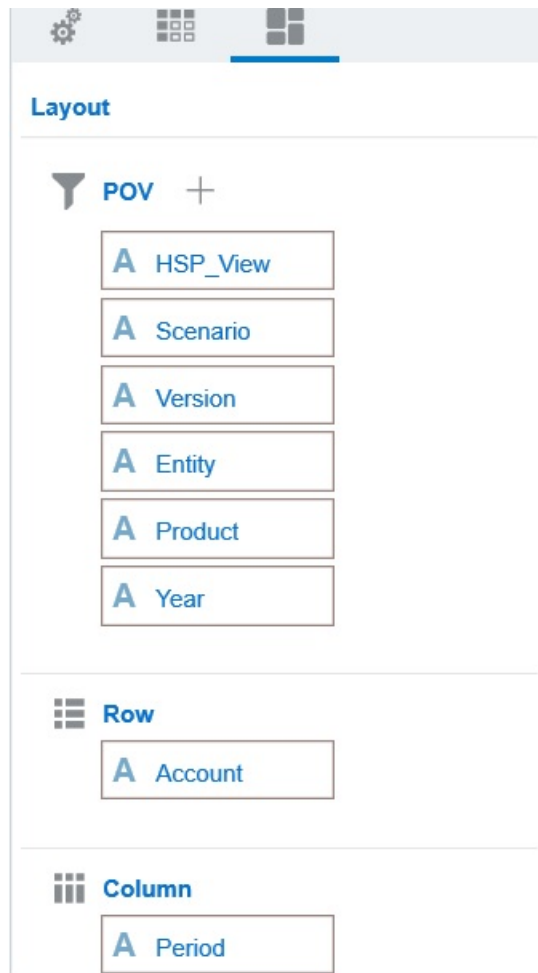
ディメンションのピボット

ディメンションをピボットすると、グリッドのデータの方向が変わるため、別の角度からデータを表示したり、情報をスライス・アンド・ダイスできます。

1つの軸から別の軸へディメンションをドラッグして、ディメンションをピボットします。

たとえば、次のようなことができます。

- 行から列へ、または列から行へディメンションをドラッグします。
- POVと行または列の間でディメンションをドラッグします。
- 同じ軸上でメンバーをドラッグして、並べ替えます。
- 「プロパティ・パネル」の「レイアウト」タブとの間でディメンションをドラッグします：



行軸と列軸に 1 つのディメンションが存在する必要があります。行または列の最後に残ったディメンションはピボットできません。

共有メンバーについて

共有メンバーは、ストレージ・スペースを別の同名メンバーとの間で共有し、キューブに複数回現れるメンバーが重複して計算されることを防ぎます。共有メンバーは、エンティティ、勘定科目、ユーザー定義のカスタム・ディメンションに使用できます。

メンバーを共有すると、アプリケーション内でロールアップ構造の入れ替えが行えます。管理者が共有メンバーを作成する前に基本メンバーが存在している必要があります。管理者は、基本メンバーに複数の共有メンバーを作成できます。上から下への表示位置では、基本メンバーはその共有メンバーより先に表示されている必要があります。

アド・ホック・グリッドの共有メンバーにドリルできますが、管理者が最初に、「アド・ホックでの共有メンバーに対するドリルダウンを許可」と呼ばれるシステム設定を有効にする必要があります。

共有メンバーは基本メンバーと同様に、Oracle Smart View for Office のメンバー選択のディメンション階層に表示されます。

共有メンバーへのズーム・イン

アド・ホック・グリッド内の共有メンバーがサポートされ、メンバーが基本メンバーであるか共有メンバーであるかが認識されます。管理者がアプリケーション設定「アド・ホックでの共有メンバーに対するドリルダウンを許可」を有効にした場合、共有メンバーへのズーム・インがサポートされます。この場合、共有メンバーのズーム・インは、それに対応する基本メンバーのズーム・インと実質的に同じになります。一度に 1 つのレベルずつ共有メンバーにズーム・インできます。

管理者がアプリケーション設定「ベースのすべてのレベルにドリル」を有効にした場合、ズーム・イン・オプションの「すべてのレベル」および「最下位レベル」を使用して、基本階層内の共有メンバーのみでなくすべてのレベルまたは最下位レベルのみにズーム・インできます。

共有メンバー・ズーム・インの例

この例では、「アド・ホックでの共有メンバーに対するドリルダウンを許可」が「はい」に設定され、「ベースのすべてのレベルにドリル」が有効になっている場合に表示される結果について説明します。

図 1 に、エンティティ・ディメンションの下の 3 つの階層を示します。entity_10 階層では、すべてのメンバーが entity_10 の子孫です。entity_12 階層では、すべてのメンバーが entity_12 の子孫です。entity_14 階層には、entity_14 の子孫のメンバーと、共有メンバー entity_10 および entity_12 もあります。共有メンバーはその子孫も含みます。

Figure 18-1 階層を表示するエンティティ・ディメンション

Name
Entity
entity_10
entity_10.1
entity_10.2
entity_10.3
entity_10.4
entity_12
entity_12.1
entity_12.1.1
entity_12.1.2
entity_12.1.3
entity_12.2
entity_12.3
entity_14
entity_14.1
entity_14.1.1
entity_14.1.2
entity_10(Shared)
entity_12(Shared)

図 2 に、entity_14 へのズーム・インの差異を示します:

- すべてのレベルへのズーム・イン・コマンドを使用
- 最下位レベルへのズーム・イン・コマンドを使用

どちらの場合も、Oracle Smart View for Office の「メンバー・オプション」の「祖先の位置」は、「最上位」に設定されています。

Figure 18-2 「祖先の位置」が「最上位」の entity_14 へのズーム・インの結果

Zoom In “entity_14” to All Levels

```
entity_14
  entity_14.1
    entity_14.1.1
    entity_14.1.2
  entity_10 (shared member)
  entity_10.1
  entity_10.2
  entity_10.3
  entity_10.4
  entity_12 (shared member)
  entity_12.1
    entity_12.1.1
    entity_12.1.2
    entity_12.1.3
  entity_12.2
  entity_12.3
```

Zoom In “entity_14” to Bottom Levels

```
entity_14
  entity_14.1.1
  entity_14.1.2
  entity_10 (shared member)
  entity_10.1
  entity_10.2
  entity_10.3
  entity_10.4
  entity_12 (shared member)
  entity_12.1.1
  entity_12.1.2
  entity_12.1.3
  entity_12.2
  entity_12.3
```

Note:

ネイティブ・モード・アプリケーションでは、「アド・ホックでの共有メンバーに対するドリルダウンを許可」が「はい」に設定され、「ベースのすべてのレベルにドリル」が無効な場合は、すべてのレベルへのズーム・インの例に示された結果を得ることができます。ただし、各階層の最下位レベルに達するまで、一度に1つのレベルずつ共有メンバーにズーム・インする必要があります。共有メンバーの最下位レベルに直接ズーム・インすることはできません。

アド・ホック・グリッドのプロパティの設定

「プロパティ・パネル」を使用してプリファレンスを設定することにより、アド・ホック・グリッドの表示と動作を制御できます。

全般アド・ホック・プロパティの設定

一般的なアド・ホック・プロパティを設定するには:

1. アド・ホック・グリッドで、「プロパティ・パネル」アイコン



をクリックし、「全般」をクリックします。

2. 「グリッド」で、次のオプションを設定します:

- 名前
- 説明
- キューブ
- **メンバー・ラベルの表示**では、次のオプションから選択します:
 - 個別のメンバー名のみ
 - メンバー名または別名
- 別名表

アド・ホック・ユーザー・オプションの設定

アド・ホック・ユーザー・オプションを設定するには:

1. アド・ホック・グリッドで、「プロパティ・パネル」アイコン



をクリックし、「アド・ホック・オプション」をクリックします。

2. 「グリッド」で、メンバーの表示方法を設定します:

- **含めるメンバー:**
 - **選択を含める:** 選択したメンバーと操作の結果として取得されたメンバーの両方を表示するには、「はい」を選択します。たとえば、選択したメンバー Qtr1 にズーム・インすると、Qtr1 (1 月、2 月および 3 月)のデータが表示されます。
 - **選択されたグループ内:** 選択したメンバー・グループのみを対象としてズームなどの操作を実行し、選択しなかったセルはそのままにするには、「はい」を選択します。この設定が有意義なのは、グリッドの下位の行として、またはグリッド全体にわたる列として 2 つ以上のディメンションがある場合です。このオプションは、「ズーム」、「選択項目のみ保持」および「選択項目のみ削除」に適用されます。
- **ズーム・イン:** ズーム・インするレベルを選択します。
 - **次のレベル:** 選択したメンバーの子のデータを取得します。
 - **すべてのレベル:** 選択したメンバーのすべての子孫のデータを取得します。
 - **最下位レベル:** ディメンションの最下位レベルのメンバーのデータを取得します。
- **祖先の位置:** 階層での祖先の表示方法を設定します。
 - **最上位:** メンバー階層を最上位レベルから最下位レベルに向かって表示します。
 - **最下位:** メンバー階層を最下位レベルから最上位レベルに向かって表示します。
- **インデント:** メンバー階層レベルのインデント方法を設定します。
 - **なし:** メンバーをインデントしません。
 - **サブアイテム:** 子孫をインデントします。祖先は列で左揃えになります。

- **合計:** 祖先をインデントします。子孫は列で左揃えになります。
 - **データをリフレッシュせずにナビゲート:** 「いいえ」を選択すると、ピボットやズームなどでグリッドをナビゲートする際のパフォーマンスが向上します。データを更新する場合、単に「リフレッシュ」をクリックします。(このオプションで「はい」を選択した場合、アド・ホックで作業する際にデータがリフレッシュされます。)
3. データの表示を簡潔にするには、「抑制」でオプションを選択して、グリッドの要素を抑制します。たとえば、ゼロ値を含む行または列を非表示にできます。
- **ゼロ値:**
 - **なし:** ゼロのみを含む行と列を表示する場合に選択します。
 - **行:** ゼロのみを含む行を非表示にする場合に選択します。
 - **列:** ゼロのみを含む列を非表示にする場合に選択します。
 - **行と列:** ゼロのみを含む行と列を非表示にする場合に選択します。
 - **繰返しのメンバー:** グリッドの方向に関係なく、繰返しのメンバー名を含む行を非表示にするには、「はい」を選択します。
 - **欠落データ:** ゼロを含むか、データが欠落している行または列を非表示にする場合に選択します。
 - **なし:** ゼロの行と列、またはデータのない行と列を表示します。
 - **行:** ゼロの行またはデータのない行を非表示にします。
 - **列:** ゼロの列またはデータのない列を非表示にします。
 - **行と列:** ゼロの行と列、またはデータのない行と列を非表示にします。
 - **行で欠落しているブロック:** データが欠落している行のセル・ブロックを非表示にするには、「はい」を選択します。
 - **アクセス権なし:** 自分にアクセス権がない行または列を非表示にする場合に選択します:
 - **なし:** 自分にアクセス権がない行と列を表示します。
 - **行:** 自分にアクセス権がない行を非表示にします。
 - **列:** 自分にアクセス権がない列を非表示にします。
 - **行と列:** 自分にアクセス権がない行と列を非表示にします。

 **ノート:**

アド・ホック・グリッドを開こうとしたときに、有効なデータ行が存在しないためアド・ホック・グリッドを開けませんというエラーが表示された場合は、「抑制」のオプションをクリアしてください。

4. **精度値**で、「通貨」の値、「通貨以外」の値および「パーセンテージ」値について、セルに表示される小数部の最小桁数と最大桁数を設定します。たとえば、セルの値が 100 で、「最小」精度"2"を選択した場合、値は"100.00"と表示されます。たとえば、「最大」精度"3"を選択し、セルの値が 100.12345 の場合、値は"100.123"と表示されます。「通貨」メンバーの精度設定を適用するには、**通貨メンバーの精度の使用**を選択します。
5. 「置換」で、データが欠落しているセル、自分にアクセス権がないセルまたは無効なデータを含むセルに表示するラベルを設定します。

- **データなし:** 「#Missing」または「#NoData」という値を含むセルに表示するテキストを入力します。
- **アクセス権なし:** 自分にアクセス権がないセルに表示するテキストを入力します。
- **ゼロを送信:** 「データなし」または「アクセス権なし」置換オプションでテキストとして「#NumericZero」を指定したときに、ゼロをアプリケーションに送信する場合は、「はい」を選択します。

6. 「リフレッシュ」をクリックします。

レイアウト・オプションの設定

「レイアウト」タブを使用して、アド・ホック・グリッド内で使用されている属性を削除できます。これは、グリッドから属性を削除できる唯一の場所です。

アド・ホック・グリッドのレイアウト・オプションを設定するには:

1. アド・ホック・グリッドで、「プロパティ・パネル」アイコン



をクリックし、「レイアウト」をクリックします。

2. [ディメンションのピボット](#)を参照してください。

アド・ホック・グリッドのキーボード・ショートカットとクイック・データ入力コマンド

キーボード・ショートカット

次のショートカット・キーを使用してアド・ホック・グリッドを迅速に移動できます:

キーまたはキーの組合せ	結果
タブ	その行の次のセルに移動します。フォーカスが行の最後のセルにある場合、[Tab]で次の行の最初のセルに移動します。
[Shift]+[Tab]	その行の前のセルに移動します。フォーカスが行の最初のセルにある場合、[Shift]+[Tab]で前の行の最後のセルに移動します。
[↑]、[↓]	同じ列内の前または次の行に上下に移動します。
[→]、[←]	その行の次のセルまたは前のセルに移動します。
[Ctrl]+[Home]	グリッドの最初のセルに移動します。
[Shift]+[End]	グリッドの最初の行の最後のセルに移動します。
[Ctrl]+[End]	グリッドの最後のセルに移動します。
[Ctrl]+[→]	現在の行の最後のセルに移動します。
[Ctrl]+[←]	現在の行の最初のセルに移動します。
[Shift]+[Space]	行を選択します。
[Ctrl]+[Space]	列を選択します。
[Ctrl]+[↑]	列の最も上の行に移動します。
[Ctrl]+[↓]	列の最も下の行に移動します。
[Ctrl]+[Shift]+[↑]	現在のセルから列の最も上の行まで、列のセルを選択します。
[Ctrl]+[Shift]+[↓]	現在のセルから列の最も下の行まで、列のセルを選択します。

キーまたはキーの組合せ	結果
[Shift]+[←]	行の最初に到達するまで、[←]を押すたびに、行の現在のセルの左側にあるセルを選択します。
[Shift]+[→]	行の最後に到達するまで、[→]を押すたびに、行の現在のセルの右側にあるセルを選択します。
[Shift]+[↑]	列の最も上に到達するまで、[↑]を押すたびに、列の現在のセルの上にあるセルを選択します。
[Shift]+[↓]	列の最も下に到達するまで、[↓]を押すたびに、列の現在のセルの下にあるセルを選択します。
[Shift]+クリック	[Shift]キーを押しながらマウスを使用してグリッド内の様々な列または行からセルを選択することで、複数のセルを選択します。

データを迅速に入力するためのコマンド


これらのショートカットを使用して、アド・ホック・グリッドにデータをすばやく入力できます。キーまたは記号を入力し、[Enter]または[Tab]を押します。

キーまたは記号	結果	例
K	千単位で値を入力します。	5,000 の場合、5K と入力します。
M	百万単位で値を入力します。	5,000,000 の場合、5M と入力します。
Add または +	セルの値に数値を加算します。	セルの値が 100 の場合、100 の後に Add10 と入力すると、110 になります。
/	セルの値を数値で除算します。	セルの値が 100 の場合、100 の後に /2 と入力すると、50 になります。
Sub または ~	セルの値から数値を減算します。	セルの値が 100 の場合、100 の後に Sub10 と入力すると、90 になります。
Percent または per	入力したパーセンテージをセルの値に掛けます。	セルの値が 100 の場合、100 の後に per10 と入力すると、現在のセルの値の 10%、つまり 10 になります。
Increase または inc	入力したパーセンテージ分セルの値が増加します。	セルの値が 200 の場合、200 の後に inc10 と入力すると、セルの値が 200 の 10% (20) 増加され、220 になります。
Decrease または dec	入力したパーセンテージ分セルの値が減少します。	セルの値が 200 の場合、200 の後に dec10 と入力すると、セルの値が 200 の 10% (20) 減少され、180 になります。
Power または pow	セルの値を指数として追加された値に変更します。	セルの値が 100 の場合、100 の後に pow2 と入力すると、セルの値に指数 2 が掛けられ、10,000 になります。
gr	パーセンテージ分セルを増加させます。	セルの値が 200 の場合、200 の後に gr50 と入力すると、セルの値が 100 増加され、300 になります。

アド・ホック・グリッドへのルールの適用

新規または変更されたデータを送信した後、データを計算するビジネス・ルールを実行できます。

ルールを適用するには:

1. アド・ホック・グリッドを開きます。
2. 「ルール」  をクリックします。
3. 実行時プロンプトが表示された場合、必要な情報を入力または選択して「起動」をクリックします。
ルールが正常に実行されると、メッセージが表示され、データが更新されます。



コメントおよび添付の追加

データを説明したり背景を提供するために、コメントおよび添付をセルに追加できます。

有効な添付ファイルのタイプ:

- 使用できる画像タイプ: .jpg、.gif、.png、.7z
- 使用できる画像以外のファイル・タイプ: .csv、.xls、.xlsx、.txt、.zip、.jlf、.doc、.docx、.ppt、.pptx、.rtf、.pdf、.gdoc、.gsheet、.gslides、.msg

コメントまたは添付を追加するには:

1. セルをクリックし、
 を選択します。
2. コメントを入力します。ファイルを添付するには、
 をクリックしてファイルを参照します。
3. 「転記」をクリックします。
セルの右上の青色の三角形は、コメントまたは添付があることを示します。コメントを読んだり、添付ファイルを表示するには、ステップ 1 を実行します。

ノート:

フォーム 2.0 では、式セルへのコメントまたは添付の追加はサポートされていません。

値の調整

アド・ホック・グリッドのセル値を迅速に調整できます。

セルの値を調整するには:

1. セルをクリックします。

2. 「調整」



をクリックします。

3. 「調整」に、正、負またはパーセンテージの値を入力し、「OK」をクリックします。







ライン・アイテムの詳細の使用について

セル値の計算方法にロジックを組み込むには、ライン・アイテムの詳細と呼ばれるアプリケーションの組み込み計算機能を使用できます。

ノート:

ライン・アイテムの詳細はサポート詳細を置き換えるものであり、これらは機能的に同一です。詳細はセル・レベルで追加することも、同じ行内の複数のセルに追加することもできます。

ライン・アイテムの詳細を使用すると、セルの値を作成し、値の背後にある仮定を保存できます。たとえば、ボールペン、万年筆、マーカーなどのペンのライン・アイテムの詳細を追加します。これで、ペン・メンバーでは、すべてのペン・タイプの合計を表示できます。または、独自のロジックを使用して、次期四半期の出張費用の計画を立てると想定します。この例では、出張旅費の計画にライン・アイテムの詳細を使用する方法を示しています。詳細はグリッドの下に表示されます:

	Jan
acc2	2850
▼ Air Fare 	2,400.00
Customer Visits 	2.00
Average Rate 	1,200.00
▼ Hotel 	450.00
Number of Nights 	3.00
Rate per Night 	150.00

ライン・アイテムの詳細を作成するには、行ヘッダーをクリックし、



をクリックします。ライン・アイテムの詳細グリッドの上部中央にある下矢印をクリックして縮小します。

ライン・アイテムの詳細について:

- データの計算方法を定義するテキスト、数値および演算子を含めることができます。
- セルの上にカーソルを置くと、ライン・アイテムの詳細があるかどうかを確認できます。
- ライン・アイテムの詳細では、アド・ホック・グリッドへのメンバーの追加やその組織の変更は行われません。

- ライン・アイテムの詳細を作成するセルへの書込み権限が必要です。
- ライン・アイテムの詳細を保護するために、ライン・アイテムの詳細を含むセルの集約値は読取り専用です。
- ライン・アイテムの詳細は、基本期間(レベル 0 メンバー)にのみ追加できます。四半期などのサマリー期間には、ライン・アイテムの詳細を追加できません。
- 設定済の数値および精度フォーマットは、「**ライン・アイテムの詳細**」ウィンドウには反映されません。
- 演算子のシーケンスは、複雑な計算で複数の演算子进行处理するのに使用されるものと同じ論理に従います。[ライン・アイテムの詳細の順序](#)を参照してください。

ライン・アイテムの詳細の追加

ライン・アイテムの詳細を使用して、詳細アイテムがセルの値に集約される方法を設定します。

ライン・アイテムの詳細の概要は、[ライン・アイテムの詳細の使用について](#)を参照してください。

ライン・アイテムの詳細を操作するには:

1. 行ヘッダーをクリックしてから、



をクリックします。

2. アド・ホック・グリッドの下に新しいグリッドが表示されます。このグリッドに、必要な構造を反映する行を追加します。


たとえば、




をクリックしてから、「**子の追加**」をクリックして、選択した行の直下に行を追加します。[ライン・アイテムの詳細の構造の操作](#)を参照してください。


3. テキスト・ボックスに、最大 1,500 文字の説明を入力できます。
4. 各行でデフォルトのプラス記号をクリックしてから、演算子を選択して行間の算術的關係を設定します。次の演算子から選択します:

 Approx

 Add

 Subtract

 Multiply

 Divide

5. ライン・アイテムの詳細の構造を作成したら、設定または計算するデータを入力します。

フォームで設定したものと同一スケールを使用して、数字を入力します。データをコピーしてライン・アイテムの詳細に貼り付けることができます。

6. 「**適用**」をクリックします。

値は動的に計算され、データを保存する前に集約されます。

詳細は、[ライン・アイテムの詳細の構造の操作](#)を参照してください。

ライン・アイテムの詳細の構造の操作

ライン・アイテムの詳細の要素を操作する方法を学習します。

ライン・アイテムの詳細の構造を作成または変更するには:

1. ライン・アイテムの詳細を追加する行を選択し、









をクリックします。

2. **+**

をクリックし、「子の追加」をクリックします。「無題」をクリックし、名前を指定します。

3. 必要な構造を反映する行を追加します。たとえば、「兄弟の追加」または「複製」をクリックします。「ライン・アイテムの詳細」グリッドの前にあるツールバーから次のオプションを使用します:

表 18-3 ライン・アイテムの詳細のオプション

オプション	結果
	ライン・アイテムの詳細グリッドをリフレッシュします。保存していないデータを破棄するには、「はい」をクリックします。それ以外の場合は、「いいえ」をクリックします。
+	選択されたセルの 1 レベル下に子または兄弟を追加します。子は無制限に追加できますが、パフォーマンスに与える影響を考慮してください。
	選択した行を 1 つ上のレベルに移動します。
	選択した行を 1 つ下のレベルに移動します。
	選択された行をその兄弟の先祖より前に移動します。
	選択された行をその兄弟の子孫より後に移動します。
	次の削除アクションを選択できます: <ul style="list-style-type: none"> • 「行の削除」は、選択した行を削除します。 • すべての行の削除は、すべての行を削除します。

4. 「適用」をクリックします。

ライン・アイテムの詳細の順序

ライン・アイテムの詳細の順序は、保存される結果の値に影響します。

計算の順序を理解するとライン・アイテムの詳細を正しく入力できます。ライン・アイテムの詳細は+ (加算)、- (減算)、* (乗算)および/ (除算)の計算順序で使用します。簡単な単位 x レートの例でライン・アイテムの詳細を正しく入力する方法を実演します。

ライン・アイテムの詳細の間違った入力およびライン・アイテムの詳細の間違った入力を参照してください。

ライン・アイテムの詳細の間違った入力

この例は、間違ったデータを生成するライン・アイテムの詳細の行の順序を示しています。

次の表で、レートは単項演算子+に設定されています。したがって、計算の順序はまずレートを加算してから単位を掛けます。その結果、2月と3月では間違ったデータになります。

	Jan	Feb	Mar
Rate +	250	250	250
Unit *	10		
Total:	2500	250	250

ライン・アイテムの詳細の正しい入力

この例は、正しい値を生成するライン・アイテムの詳細の順序を示しています。

次の表で、計算の順序は単位にレートを掛けます。その結果、正しい値になります。

ライン・アイテムの詳細を追加するときは、行の順序を検証して、正しい値が計算され保存されたことを確認します。

	Jan	Feb	Mar
Unit+	10		
Rate *	250	250	250
Total:	2500		

ライン・アイテムの詳細のセルが空白の場合の合計

ライン・アイテムの詳細のセルが空白である場合、そのセルは、値を集約する際に(空白セルがゼロを意味すると仮定するのではなく)無視されます。

たとえば、講師を雇用するための1日当たりのレート(\$250)と講師の雇用を計画している1か月当たりの日数(1月に4回、2月はなし)を乗算するために、次のようなライン・アイテムの詳細を定義とします。2月には講師を雇用するつもりがないにもかかわらず、2月の講師合計は250になります。

	Jan	Feb
Instructor	1000	250
Rate +	250	250
Days	4	

空白のセルと積算を含む集約で値を正しく算出するには、レートのセルを空白にするかまたは日数セルにゼロを入力する必要があります。これでレート(250)と 0 (ゼロ)が乗算され、2 月の結果はゼロになります。

	Jan	Feb
Instructor	1000	0
Rate +	250	250
Days	4	0

アド・ホック・グリッドの印刷

印刷が必要な場合は、ブラウザの印刷機能または Oracle Smart View for Office の Excel 印刷機能を使用してアド・ホック・グリッドを印刷できます。

Smart View でアド・ホック・フォームの作業を行うには、フォームを開いて「アクション」をクリックし、「Smart View で開く」を選択します。

Smart View for Office ユーザーズ・ガイド 23.100 の Web アプリケーションからフォームおよびアド・ホック・グリッドを開く方法を参照してください。

フリーフォーム・アド・ホックの使用

データベースのディメンションおよびメンバーを把握している場合は、アド・ホック・グリッドのセルにディメンションおよびメンバーの名前を直接入力することで、自由形式アド・ホックを使用できます。

自由形式グリッドでは、POV、メンバー選択およびその他のアド・ホック操作も使用できます。

自由形式アド・ホックのガイドライン

フリーフォーム・アド・ホックで作業するときには、次のガイドラインを考慮してください。

- グリッドには、少なくとも 1 つの行ディメンションおよび 1 つの列ディメンションが必要です。
- それぞれの行ディメンションには、1 つのディメンションのみのメンバーを含めることができます。それぞれの列ディメンションには、1 つのディメンションのみのメンバーを含めることができます。

- 1つのディメンションのメンバーは、次の領域のうちの 1 つにのみ入力できます:
 - 同じ行内
 - 同じ列内
- 単語の間にスペースがあるメンバー名には先頭に一重引用符を付けてください。
- 現在の別名表の別名はフリーフォーム・グリッドで許可されますが、他の別名表の別名はコメントとして扱われます。

19

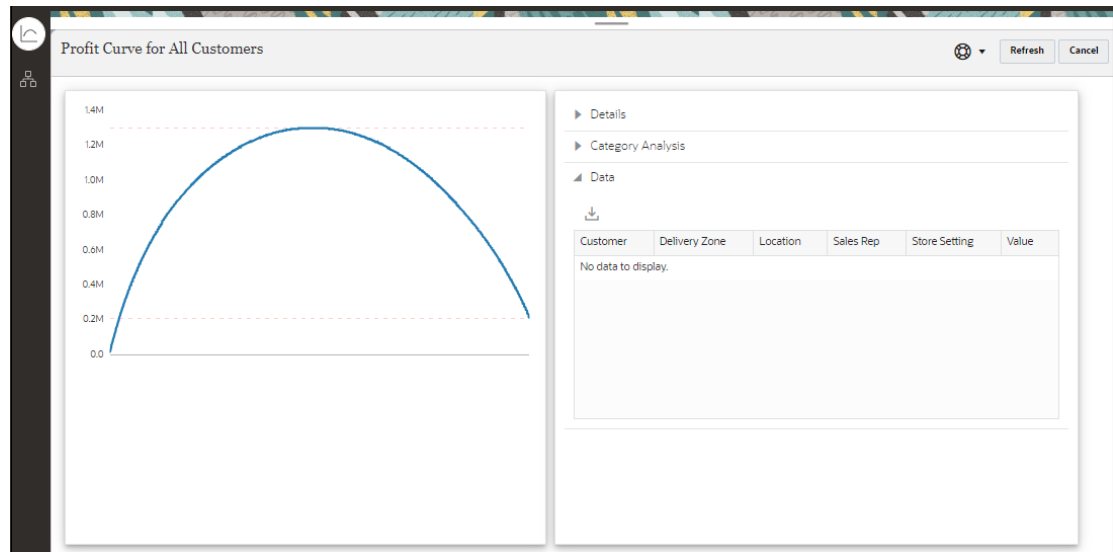
利益曲線の操作

Related Topics

- [利益曲線について](#)
- [利益曲線のデータ・フォームの設計](#)
- [利益曲線の作成](#)
- [利益曲線の管理](#)
- [利益曲線の生成](#)

利益曲線について

利益曲線はデータのグラフィカル表現であり、全体的な収益性に寄与するか、全体的な収益性を損ねる母集団ディメンション(顧客や製品など)の範囲を示します。



利益曲線は、利益性の分析に使用されます。これらにより、大量のデータの簡易化されたビジュアライゼーションが可能です。利益曲線の一部を選択し、選択した属性のカテゴリ分析を実行できます。また、そのカテゴリ分析に関するデータのスニペットをダウンロードすることもできます。詳細は、[利益曲線の生成](#)を参照してください。

たとえば、母集団ディメンション(顧客や製品など)は、利益曲線の x 軸に沿って利益率の降順で表示されます。

顧客の場合、最も利益率の高い顧客が一番左にあり、最も利益率の低い顧客が一番右にあります。y 軸には、純利益など、勘定科目ディメンションの累積値が表示されます。最も利益率の高い顧客の利益が最初に y 軸にプロットされます。2 番目の y 軸のプロットは、最初の顧客の利益に 2 番目の顧客の利益を加えたものになる、というように続きます。

曲線の最初の部分が最も急傾斜で、最も大きい利益の増加を示します。より利益率の低い曲線が追加されるにつれ、曲線は平らになります。最も利益率の低い顧客の利益率がマイナスになると、曲線は下向きになります。

 **Note:**

Enterprise Profitability and Cost Management の他の分析機能の場合のように、実質的にすべてのユーザーが利益曲線を生成および表示できますが、これらを定義できるのは、管理者および十分なセキュリティ・プロビジョニングを持つ他のユーザーのみです。

利益曲線のデータ・フォームの設計

利益曲線のデータ・フォームを設計するときには、母集団(例: 顧客)のディメンション・メンバーとメトリック(例: 純利益)が必要です。これにより、対応する値がプロットされた利益曲線が生成されます。

データ・フォームの視点ディメンション(期間、年、シナリオおよびバージョン)は変更できます。必要に応じて、製品グループや他のセグメンテーションに絞り込み、複数の利益曲線(例: 地域別のバイクおよびアクセサリの利益曲線)を生成します。そのようなセグメンテーションに基づいて複数のタイプの利益曲線を作成できます。

 **Note:**

データ・フォームの作成の詳細は、[フォームの作成](#)を参照してください。

たとえば、次のデータ・フォームでは、母集団が行のディメンションで、純利益が列のディメンションです。

Period	Years	Scenario	Version	Entity	PCM_Balance	PCM_Rule	Activity	Driver	Product
Jan	FY21	Actual	Working	Entity	Net Balance	PCM_Rule	Activity	Driver	Product
					Net Income				
					504.67				
					-1,589.71				
					-1,554.96				
					917.36				
					-888.14				
					-2,484.52				
					-1,458.62				
					324.74				
					-124.26				
					1,122.53				
					-705.92				

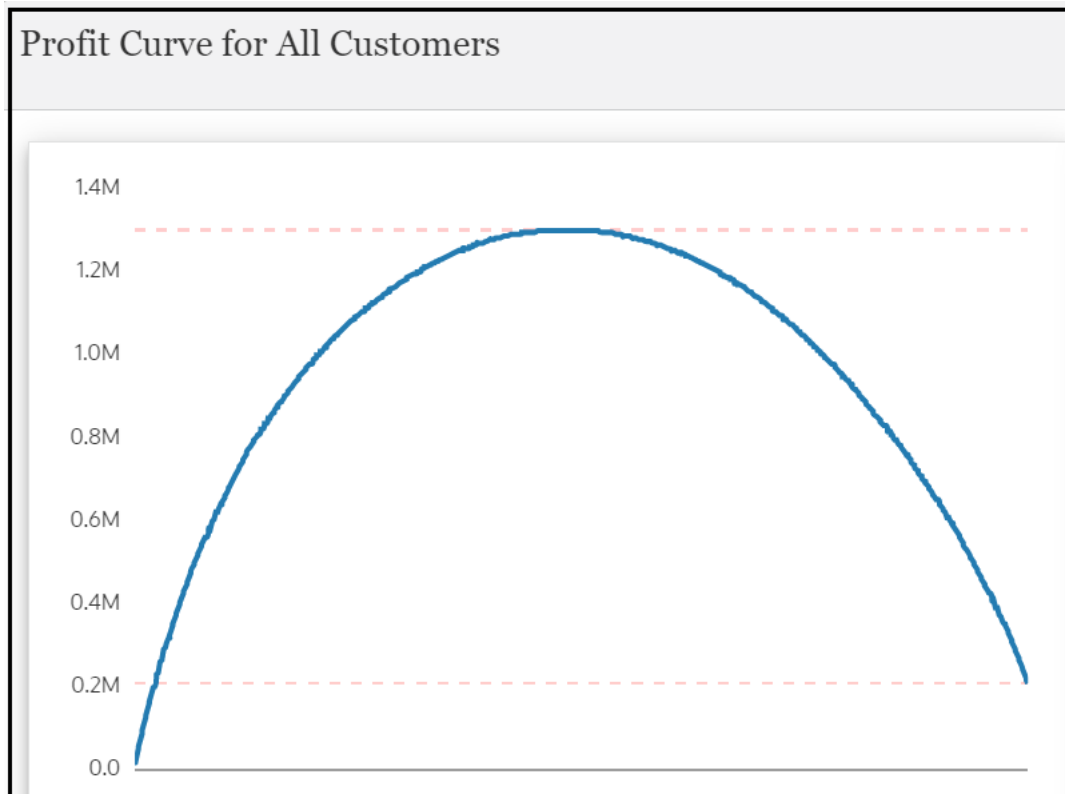
この例では、利益曲線ではデータが純利益の値でソートされ、最も大きい数値が最初の行に配置されます(利益曲線の一番左の部分にプロットされます)。このデータ・フォ

ームでは計算列が生成され、純利益の値が累積されます。この累積値が、利益曲線にプロットされる値です。

純利益列をソートして最も大きい値を最初に配置した場合、最初の累積値は1行目の純利益の値と同じです。累積値列の2行目は、純利益値列の1行目と2行目の合計です。3行目は最初の3行の合計純利益となり、その後同様に続きます。

純利益の値が正であるかぎり、累積値は増加します。大きい順にソートした場合、純利益の値は途中から負になります。そのため、累積値は減少し始め、曲線は下降し始めます。

次の利益曲線は、上のデータ・フォームから生成されたものです：



上の利益曲線は、「メジャー・ディメンション」として「勘定科目」を選択し、「メジャー・メンバー」として「純利益」を選択し、「行のディメンション」として「顧客」を選択して作成されたものです。

Edit Profit Curve

* Name: Profit Curve for All Customers

Description: [Empty]

Enabled:

* Cube: PCM_CLC

Data Form: Profit Curve - All Customers

* Measure Dimension: Account

* Measure Member: Net Income

* Row Dimension: Customer

Display Options

X Axis Label: [Empty]

Y Axis Label: [Empty]

 **Tip:**

ベスト・プラクティスとして、データ・フォームをできるかぎりシンプルに設計することをお勧めします。

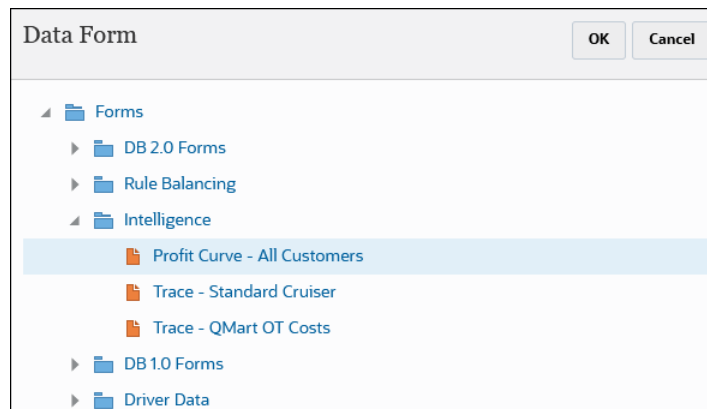
利益曲線の作成

利益曲線を作成するには:

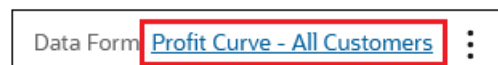
1. ホーム・ページで、「**インテリジェンス**」を選択します。
2. **利益曲線** ページで、「**作成**」 (+) をクリックします。
3. 「**利益曲線の作成**」ダイアログ・ボックスで、次の情報を入力します:
 - **名前:** 利益曲線の名前。
 - **説明(オプション):** 利益曲線を説明するノート。
 - **使用可能:** 選択した場合、利益曲線を生成できます。
 - **キューブ:** データおよびメタデータを保管します。**PCM_CLC** 計算キューブまたは **PCM_REP** レポート・キューブを選択します。利益曲線は、選択したキューブからデータを取得します。キューブの詳細は、[キューブの管理](#)を参照してください。
 - **データ・フォーム:** 利益曲線を生成するために使用するデータ・フォーム。
データ・フォームを選択するには:
 - 「**データ・フォームの選択**」リンクをクリックします。



- 「データ・フォーム」ダイアログ・ボックスで、目的のフォームに移動し、フォームを選択して、「OK」をクリックします。



選択したフォームが表示されます。



データ・フォームを選択したら、フォームの横にある⋮をクリックして、フォームを分析または編集できます。

- **メジャー・ディメンション**: データ・フォームのディメンション。利益曲線は、選択したこのディメンションから値を取得します。
- **メジャー・メンバー**: 利益曲線が値を取得するデータ・フォームのメンバー。
- **行のディメンション**: 利益曲線が値を取得するデータ・フォームの行のディメンション。
- **X軸ラベル(オプション)**: 横軸の名前(例: 顧客、製品など)。
- **Y軸ラベル(オプション)**: 縦軸の名前(例: 利益、収益など)。





4. 「保存して閉じる」をクリックします。

利益曲線の管理

利益曲線 ページで、利益曲線を編集、削除およびコピーできます。このページに表示される利益曲線をリフレッシュすることもできます。

利益曲線を管理するには:

1. ホーム・ページで、「**インテリジェンス**」を選択します。
デフォルトでは、**利益曲線** ページが表示されます。
2. **オプション**: 利益曲線を検索またはソートするには、次のアクションを実行します:
 - 「**検索**」フィールドにテキストを入力し、**[Enter]**を押すか、「**検索**」(🔍)をクリックします。
 - ドロップダウンをクリックして次のいずれかを選択し、利益曲線をソートします:

- 名前
 - キューブ
 - 作成者
 - 作成日
 - 変更者
 - 変更日
- 利益曲線を昇順でソートするには、**昇順ソート**(▲)をクリックします。
 - 利益曲線を降順でソートするには、**降順ソート**(▼)をクリックします。
3. 次のステップを実行します:
- 利益曲線を編集するには、目的の利益曲線を選択して  をクリックします。
 - 利益曲線を削除するには、目的の利益曲線を選択して  をクリックします。
 - 利益曲線をコピーするには、目的の利益曲線を選択して  をクリックします。
 - 利益曲線リストをリフレッシュするには、 をクリックします。

利益曲線の生成

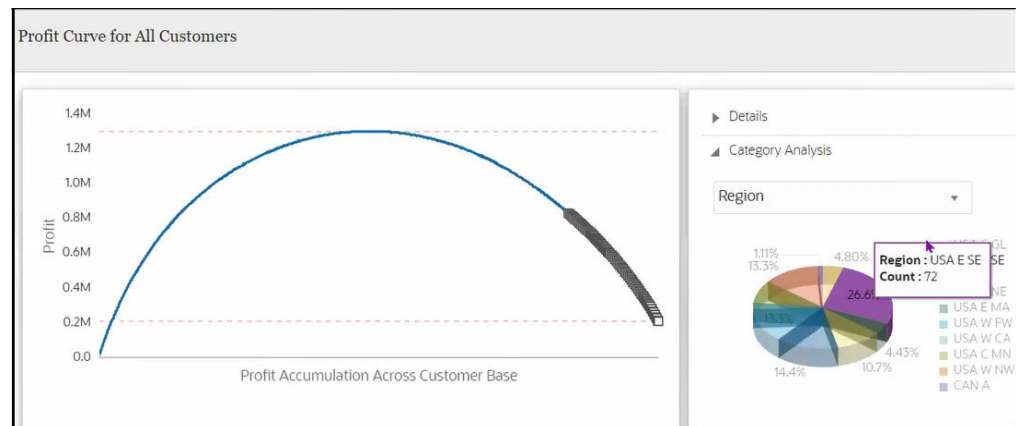
利益曲線を生成するには:

1. ホーム・ページで、「**インテリジェンス**」を選択します。
2. **利益曲線**ページで、生成する利益曲線の名前をクリックします。

利益曲線が生成され、ページの左側のパネルに表示されます。最新のデータを表示するには、「**リフレッシュ**」をクリックします。ページの右側のパネルで、展開ノードをクリックして次の情報を表示できます:

- **詳細:** 利益曲線に関連付けられている値の分布を表示します。
- **カテゴリ分析:** 行のディメンションに属性がある場合、曲線の一部を選択し(マウス・カーソルをドラッグする)、選択した属性カテゴリについてメンバー・コントリビューションの対応する内訳を分析できます。

たとえば、下の図では、曲線の一番右の部分(最も低収益の顧客)が選択され、選択された属性カテゴリは「**Region**」です。カテゴリ分析チャートは、最も低収益の顧客の 26.6%が USA E SE 地域に所在していることを示しています。



- **データ:** 選択した属性カテゴリに関するデータ配賦のスニペットを表示します。「**ダウンロード**」(↓)をクリックして、データをダウンロードすることもできます

配賦のトレース

Related Topics

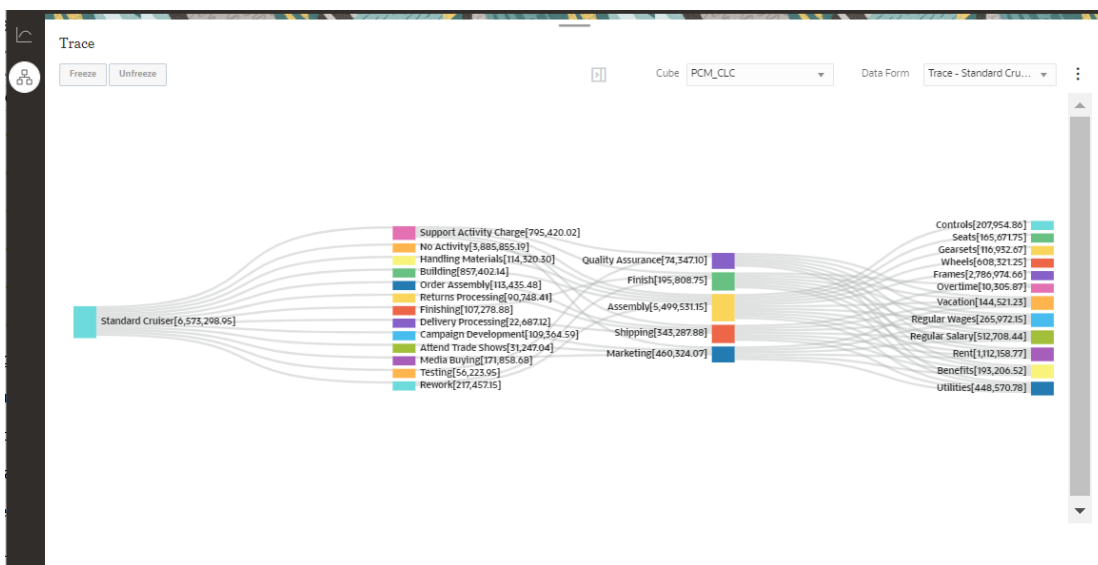
- [トレースについて](#)
- [トレースのデータ・フォームの設計](#)
- [配賦トレース結果の表示](#)

トレースについて

トレースは、データ・フォームの図示です。これにより、次のことが可能です:

- サンキー・ダイアグラムを使用したフォームのデータの関係のビジュアライゼーション。
- モデルを流れる配賦額のトレース。たとえば、金銭が費やされる場所、どのように費やすか、および本番に含まれる各セグメントでの消費量などです。
- 費用が費やされた場所、部署、機能、およびそれらの機能を消費したユーティリティについての、費用の再調整。
- 利益に対する費用のフローの評価および検証。

次のダイアグラムは、Enterprise Profitability and Cost Management に付属の BKsML50 サンプル・アプリケーションからの例を示しています。(サンプル・アプリケーションの作成を参照してください。)図の右端のノードは、会社が料金を支払う内容を示しています。これらのもの(シート、ギアセット、ホイールなど)に対するコストは、これらのものを購入する部署(組立て、出荷、マーケティングなど)を介して、バイク製品に関連付けられます。部署は、実行する一部の機能(マテリアル・ハンドリング、構築、テスト、修正など)でこれらのものを使用します。このダイアグラムは、コストが製品とどのように連携しているかを示しています。



トレースのデータ・フォームの設計

トレース・データ・フォームには、サンキー・ダイアグラムを使用してトレースするディメンションの値が含まれます。トレース・データ・フォームでは、行の最初のディメンションはトレース・ダイアグラムの始点であり、後続のディメンションは追加のディメンションであり、これらを介して金額をトレースできます。ここでは、一番右のディメンションから一番左のディメンションへと金額が流れます。

Period	Years	Scenario	Version	PCM_Rule	Customer	Driver	
Jan	FY21	Actual	Working	PCM_Rule	No Customer	Driver	

						Allocation In
Standard Cruiser		Support Activity Charge	Assembly	Regular Salary		197,748.69
Standard Cruiser		Support Activity Charge	Assembly	Regular Wages		50,641.97
Standard Cruiser		Support Activity Charge	Assembly	Vacation		48,148.09
Standard Cruiser		Support Activity Charge	Assembly	Benefits		61,630.8
Standard Cruiser		Support Activity Charge	Assembly	Rent		80,026.22
Standard Cruiser		Support Activity Charge	Assembly	Utilities		32,277.26
Standard Cruiser		Support Activity Charge	Finish	Regular Salary		20,767.01
Standard Cruiser		Support Activity Charge	Finish	Regular Wages		4,210.32
Standard Cruiser		Support Activity Charge	Finish	Vacation		7,488.82
Standard Cruiser		Support Activity Charge	Finish	Benefits		6,197.38

「配賦(入)」(最後のセルの列ディメンション)は、金額の移動を追跡する場所です。金額は、一番右のディメンションから一番左のディメンションへと流れます。視点ディメンションで選択を行うことによって、トレースするデータを絞り込むことができます(たとえば、上の図では、「顧客」視点ディメンションについて顧客なしが選択されています)。これにより、顧客にプッシュ・アウトされる前の金額の流れを追跡できます。

次のデータ・フォーム・デザイナーでは、PCM_Allocation In がデフォルトのメンバーです。PCM_Allocation In は、配賦ルールによって転記された金額を追跡する PCM_Balance ディメンションのメンバーです。「配賦(入)」は、内向きの金額の流れです。ここでは、PCM_Allocation In メンバーを追跡し、追跡するディメンションの範囲を決定できます。トレース・データ・フォームでは、それらのディメンションは行に表示されます。

この例では、最初の行ディメンションについては、特定の製品 **B1001 (Standard Cruiser)** が選択されています。これがトレース・ダイアグラムの始点となります。ベスト・プラクティスとして、生成されるトレース・ダイアグラムが巨大で複雑にならないように、最初の行ディメンションについては特定の値を選択してください。

製品に対して実行される機能(アクティビティ・ディメンション)については、**ILvl0Descendants (Activity)** が選択されています。それらの機能を実行するエンティティ・ディメンションの部署またはコスト・センターについては、**ILvl0Descendants (Entity)** が選択されています。トレースされる実際の資金については、**ILvl0Descendants (NetIncome)** が選択されています。

ベスト・プラクティスとして、ダイアグラム内のポイント(ノード)の数を制限するようにデータ・フォームを設計できます。これにより、簡略化されたトレース・ダイアグラムを生成できます。そのためには、狭い範囲のディメンションを選択します。たとえば、すべてのアクティビティ(データ・フォームの 2 番目の列に表示される行ディメンション)のレベル 0 子孫を選択するか、限られたメンバーを持つディメンションを選択するか、または表示されるレベル 0 の行の数を制限できるディメンションを選択します。これにより、データ・フォームの結果を調整でき、より現実的なビジュアライゼーションが可能になります。メンバーの選択の詳細は、[メンバー・セレクトタの使用](#)を参照してください。


次のダイアグラムは、上で設計したデータ・フォームから生成されたものです:



この例では、データ・フォームの B1001 が Standard Cruiser 製品であり、それがダイアグラムの始点として表示されています。ダイアグラムの各ノードに関する値は、設計したデータ・フォームの値に基づいています。データ・フォームの一番右のディメンション(実績金額)は金額の流れが始まった場所であり、一番左のディメンション(製品 Standard Cruiser)は金額が終了した場所です。

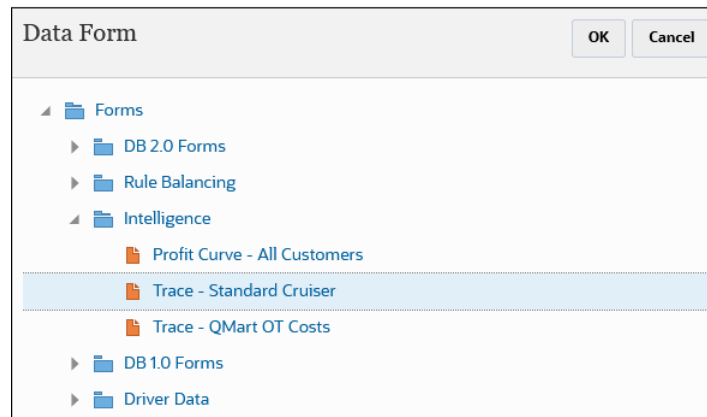
配賦トレース結果の表示

配賦トレース結果を表示するには:

1. ホーム・ページで、「インテリジェンス」を選択します。
2. 左側のナビゲーション・バーで、「トレース」() を選択します。
3. トレース・ページで、ドロップダウンをクリックし、「キューブ」を選択します。
4. トレース結果の生成に使用されるデータ・フォームを選択します。
 - 「データ・フォームの選択」リンクをクリックします。



- 「データ・フォーム」ダイアログ・ボックスで、目的のフォームに移動し、フォームを選択して、「OK」をクリックします。



選択したフォームが**トレース**・ページに表示されます。



5. データを表示する視点を選択します。これを行うには、「年」、「期間」、「シナリオ」および「バージョン」ディメンションのメンバーを選択します。(視点の理解を参照してください。)

The screenshot shows the 'Trace' configuration panel. It has a table-like structure with columns for 'Years', 'Period', 'Scenario', 'Version', and 'Status'. The values are 'FY21', 'Jan', 'Actual', 'Working', and 'Draft' respectively. Below the table are buttons for 'Refresh', 'Freeze', and 'Unfreeze'. A red box highlights the 'Years', 'Period', 'Scenario', and 'Version' dropdown menus.

計算コントロール・ページですすでに定義されている視点を選択する必要があります。まだ定義されていない視点を選択すると、「リフレッシュ」をクリックしたときに「有効な視点を選択します。」というエラー・メッセージが表示されます。(視点の作成を参照してください。)

選択した視点により、データ・フォーム定義で選択したフィールドが上書きされることに注意してください。(トレースのデータ・フォームの設計を参照してください。)

6. 「リフレッシュ」をクリックしてトレース結果を表示します。
7. オプション: ダイアグラムをさらに活用するには、アクションを実行します:
 - a. ノードを切り離して、その配賦フローを表示するには、目的のノードをクリックし、

Freeze

 をクリックします。
 - b. すべてのノードを復元するには、

Unfreeze

 をクリックします。
 - c. データ・フォームを分析または編集するには、 をクリックしてオプションを選択します:
 - **データ・フォームの分析:** トレース・ダイアグラムを生成したデータ・フォームを表示します。
 - **データ・フォームの編集:** データ・フォームを編集できます。

 **Note:**

データ・フォームの詳細は、[フォームの作成](#)を参照してください。

選択すると、選択したそれぞれのアクションに対して、ページの左下隅にタブが表示されます。

- **データ・フォームの分析**ページまたは**データ・フォームの編集**ページから**トレース・ダイアグラム**・ページに戻るには、「**トレース**」タブをクリックします。**トレース**・ページで、「**データ・フォーム**」を選択します。

Smart View を使用したアプリケーション・メタデータのインポートおよび編集

Related Topics

- [Smart View を使用したアプリケーション・メタデータの操作について](#)
- [Smart View グリッドを使用したアプリケーション・メタデータのインポートおよび編集](#)
- [Smart View でのディメンションのインポート](#)
- [Smart View でのメンバーの編集](#)
- [Smart View でのアプリケーション・メンバーの追加](#)
- [Smart View でのメンバーの移動](#)
- [属性ディメンションの操作](#)
- [Smart View での共有メンバーの指定](#)
- [データベースのリフレッシュ](#)
- [プランニング管理拡張機能と Office のオートコレクト](#)

Smart View を使用したアプリケーション・メタデータの操作について

適用対象: Enterprise Profitability and Cost Management、Financial Consolidation and Close、フリーフォーム、Planning、Planning モジュール、Tax Reporting

サービス管理者は、プランニング管理拡張機能と Oracle Smart View for Office を使用してディメンションおよびメンバーのメタデータをすばやくインポートおよび編集できます。

ノート:

この付録で説明するすべての手順は、Smart View アプリケーション内で、プランニング管理拡張機能を使用して実行します。

- Smart View の Windows クライアントベースのバージョンを使用するには、拡張機能をインストールする手順について *Oracle Enterprise Performance Management Cloud 管理者スタート・ガイド*を参照してください。
- Oracle Smart View for Office (Mac and Browser)の Mac ベースまたはブラウザベースのバージョンを使用するには、拡張機能をデプロイする手順について *Oracle Smart View for Office (Mac and Browser)のデプロイと管理*を参照してください。

Smart View グリッドを使用したアプリケーション・メタデータのインポートおよび編集

Smart View グリッドを使用すると、迅速にディメンションのメンバーを追加、編集および移動できます。

- [Smart View グリッドについて](#)
- [Smart View グリッドおよびリボンの表示](#)
- [Smart View グリッドの使用のガイドライン](#)
- [デフォルトのメタデータ・ディメンション・メンバー・プロパティ](#)

Smart View グリッドについて

Oracle Smart View for Office および Oracle Smart View for Office (Mac and Browser) では、グリッドは 2 つのディメンションで構成されます:

- 1 つの軸の Oracle Enterprise Performance Management Cloud ディメンション (Planning、Financial Consolidation and Close、Tax Reporting)
- もう一方の軸にメタデータ・ディメンション

メタデータ・ディメンションは、メタデータ・メンバーのフラット・リストを表します。各ディメンションについて、メタデータ・メンバーの事前定義済セットがデフォルトで提示されます。各メタデータ・メンバーは、グリッドにインポートされたディメンションに対して有効な特定のメンバー・プロパティに対応します。メタデータのグリッド・データ・セルには、数値ではなく特定のプロパティ値が保持されます。デフォルトでグリッドにないメタデータ・ディメンション・メンバー・プロパティを追加するには、Smart View の「メンバー選択」ダイアログを使用します。

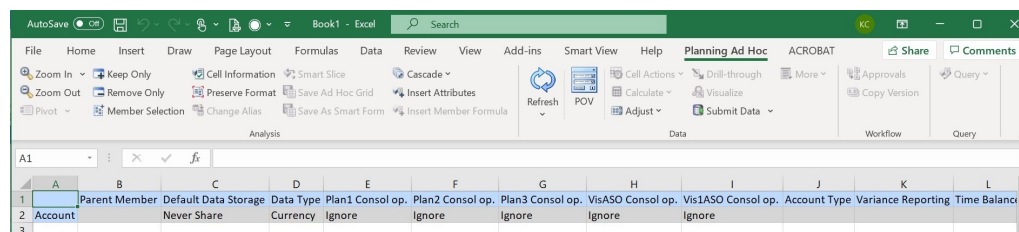
Smart View グリッドおよびリボンの表示

Smart View グリッドに、メンバー名を行、メンバー・プロパティを列としてディメンションが表示されます。編集用にディメンションを初めてインポートする場合、メンバー・プロパティの事前定義済セットがグリッドにデフォルトで表示されます。

Smart View のディメンション・グリッド

図 1 では、Oracle Smart View for Office の Vision Account ディメンションのデフォルト・メンバー・プロパティの例を示しています。

図 21-1 Planning アド・ホックのリボンが表示された Smart View for Office グリッドにインポートしたディメンション



	A	B	C	D	E	F	G	H	I	J	K	L
1		Parent Member	Default Data Storage	Data Type	Plan1 Consol op.	Plan2 Consol op.	Plan3 Consol op.	VisASO Consol op.	Vis1ASO Consol op.	Account Type	Variance Reporting	Time Balance
2	Account	Never Share	Currency	Ignore	Ignore	Ignore	Ignore	Ignore				
3												

図 1 では **Planning** アド・ホックのリボンが表示されていることに注意してください。接続しているデータ・ソースに応じて、そのデータ・ソースのプロバイダのアド・ホック・リボンが表示されます。たとえば、**Enterprise Profitability and Cost Management** のデータ・ソースに接続している場合、**EPCM** アド・ホック・リボンが表示されます。

表示されるアド・ホック・リボンは、従来の **Smart View** アド・ホック・グリッドに表示されるプロバイダのアド・ホック・リボンと同じですが、有効なオプションが少なくなっています。

属性ディメンションを含むすべてのディメンションにおいて、プロバイダのアド・ホック・リボンの有効なオプションは次のとおりです。

- ズーム・イン
- ズーム・アウト
- 選択項目のみ保持
- 選択項目のみ削除
- メンバー選択
- リフレッシュ
- データの送信

次のオプションが有効になっているように見えますが、メタデータ・グリッドに対しては有効ではありません: フォーマットの保存、カスケード、属性の挿入、POV、調整。

リボンからアクセスするか、グリッドでプロパティを右クリックして「**Smart View**」、「**メンバー選択**」の順に選択することでアクセスする「**メンバー選択**」ダイアログ・ボックスを使用して、メタデータ・ディメンション・メンバーを追加できます。

Smart View の「**メンバー選択**」ダイアログ・ボックスの使用の詳細は、*Oracle Smart View for Office の操作 22.100* のメンバー・セレクトタからのメンバーの選択を参照してください。

Smart View (Mac and Browser)のディメンション・グリッド

図 2 では、Chrome ブラウザで実行されている Oracle Smart View for Office (Mac and Browser)の Vision Account ディメンションのデフォルト・メンバー・プロパティの例を示しています。

図 21-2 Smart View のリボンが表示された Smart View (Mac and Browser)グリッドにインポートしたディメンション

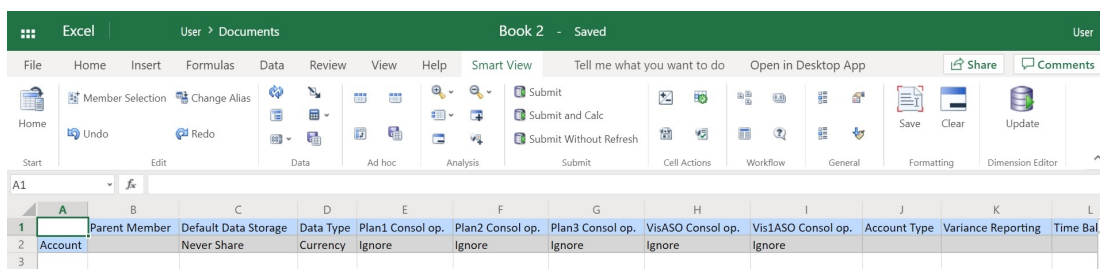


図 2 では Smart View のリボンが表示されていることに注意してください。これは、Oracle Smart View for Office (Mac and Browser)デプロイメントのデフォルトのリボン名です。リボンには異なる名前を指定できます。グリッドにディメンションをインポートすると、すべて

のリボンのオプションが有効になっているように見えますが、ディメンション・グリッドに適用できるのは一部のみです。

属性ディメンションを含むすべてのディメンションにおいて、リボンの有効なオプションは次のとおりです。

- ズーム・イン
- ズーム・アウト
- 選択項目のみ保持
- 選択項目のみ削除
- メンバー選択
- リフレッシュ
- 更新

リボンからアクセスできる「**メンバー選択**」ダイアログ・ボックスを使用して、メタデータ・ディメンション・メンバー・プロパティを追加できます。

Oracle Smart View for Office (Mac and Browser)での「**メンバー選択**」ダイアログ・ボックスを使用したグリッドへのメタデータ・メンバー・プロパティの追加の詳細は、*Oracle Smart View for Office (Mac and Browser)の使用のメンバー・セレクト*からのメンバーの選択を参照してください。

Smart View グリッドの使用のガイドライン

Smart View グリッドを使用してディメンション・メタデータを編集するときは、次のガイドラインを参考にしてください:

- プランニング管理拡張機能を使用して、ディメンション・メンバーを追加したり、ディメンションとメンバーのプロパティを編集および更新します。
- プランニング管理拡張機能は、次の処理には使用できません:
 - ディメンション(つまり、ディメンション・ルート・メンバー)またはメンバーの削除。
 - ディメンションまたはメンバーの名前の編集。
- データ・セルの値は、テキスト、数値または列挙です。
- 「親メンバー」を使用して、親/子の関係を指定または変更します。
- グリッドにおけるメンバーの位置は、アウトラインにおける兄弟の実際の位置を表しているとはかぎりません。
- 各メタデータ・グリッドを、対応するディメンションにリンクする必要があります。
- 各ディメンションの列は、ディメンション・エディタで使用できるメンバー・プロパティのうち、対応するセットに基づいています。

ディメンションを初めてインポートする場合、メタデータ・ディメンション・メンバー・プロパティの事前定義済セットが表示されます。これらのメンバー・プロパティのリストは、[デフォルトのメタデータ・ディメンション・メンバー・プロパティ](#)を参照してください。

- メタデータ・グリッドを開くと、異なるディメンションに再リンクできません。

- 対応する有効なメタデータ・メンバーのセットは、各ディメンションに固有です。
- ディメンション・メンバーは、対応するディメンションにのみ有効です。
- 「期間」ディメンションでは、「データ・ストレージ」が編集可能な唯一のプロパティです。
- 次の機能は、ディメンション・メタデータを使用する **Smart View** グリッドでは使用できません:
 - ピボット
 - POV にピボット
 - セル・テキスト
 - セル・ノート
 - サポート詳細

デフォルトのメタデータ・ディメンション・メンバー・プロパティ

プランニング管理拡張機能にディメンションを初めてインポートする場合、ディメンション・メタデータ・メンバー・プロパティの事前定義済セットがデフォルトで表示されます。「メンバー選択」ダイアログ・ボックスを使用して、他のメタデータ・メンバー・プロパティをグリッドに追加します。

次のセクションには、**Planning** ディメンションのデフォルトのメンバー・プロパティがリストされます。

Oracle Smart View for Office の「メンバー選択」ダイアログ・ボックスを使用したグリッドへの他のメンバー・プロパティの追加の詳細は、**Oracle Smart View for Office ユーザーズ・ガイド**のメンバー・セレクトタからのメンバーの選択に関する項を参照してください。

勘定科目ディメンション

- 親メンバー
- デフォルトのデータ・ストレージ
- データ型
- すべてのキューブの集計演算子
- 勘定科目タイプ
- 差異レポート
- タイム・バランス
- デフォルト別名表
- デフォルト式

エンティティ・ディメンション

- 親メンバー
- デフォルトのデータ・ストレージ
- データ型

- すべてのキューブの集計演算子
- 基本通貨
- デフォルト別名表

カスタム・ディメンション

- 親メンバー
- デフォルトのデータ・ストレージ
- データ型
- すべてのキューブの集計演算子
- デフォルト別名表

シナリオ・ディメンション

- 親メンバー
- デフォルトのデータ・ストレージ
- データ型
- すべてのキューブの集計演算子
- 開始年度
- 終了年度
- 開始期間
- 終了期間
- デフォルト別名表
- デフォルト式

バージョン・ディメンション

- 親メンバー
- デフォルトのデータ・ストレージ
- データ型
- すべてのキューブの集計演算子
- タイプ
- デフォルト別名表
- デフォルト式

期間および年ディメンション

- 現在のまままたは親メンバーに制限
- デフォルトのデータ・ストレージ - 「期間」ディメンションでは、「データ・ストレージ」が編集可能な唯一のプロパティであることに注意してください
- データ型
- デフォルト別名表

通貨ディメンション

- 親メンバー
- デフォルトのデータ・ストレージ
- データ型
- 記号
- 事前定義の記号
- スケール
- 精度
- トライアングレーション通貨
- レポート通貨
- 3桁ごとの区切り文字
- 小数点
- 負数の符号
- 負数の色
- デフォルト別名表
- デフォルト式

HSP_View ディメンション(サンドボックス・ディメンション)

- 親メンバー
- デフォルトのデータ・ストレージ
- データ型
- すべてのキューブの集計演算子
- デフォルト別名表

Smart View のディメンションのインポート

Smart View グリッドにディメンションをインポートすることは、ディメンションとそのメンバー、およびそれらの各プロパティを編集の準備としてグリッドに配置することを意味しています。

ディメンションを Oracle Smart View for Office または Oracle Smart View for Office (Mac and Browser)にインポートすると、ディメンションのメンバーを簡単に追加、編集および移動できます。

ノート:

Smart View でディメンションをインポートするにはサービス管理者権限が必要です。

参照:

- [Smart View for Office でのディメンションのインポート](#)
- [Smart View \(Mac and Browser\)でのディメンションのインポート](#)

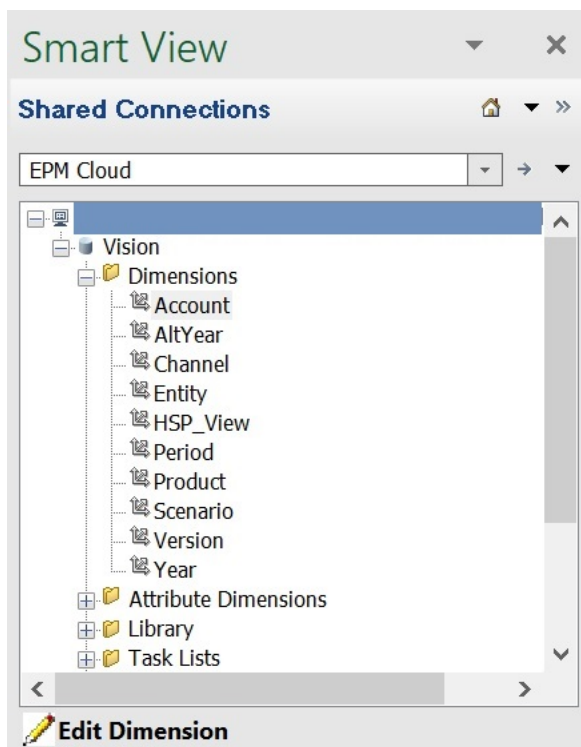
Smart View for Office でのディメンションのインポート

ノート:

Oracle Smart View for Office でディメンションをインポートするにはサービス管理者権限が必要です。

Smart View グリッドにディメンションをインポートするには:

1. Smart View のリボンで、「パネル」をクリックします。
2. 「Smart View」パネルで、「共有接続」または「プライベート接続」をクリックし、ログイン・ウィンドウでユーザー名およびパスワードを入力します。
プライベート接続を選択する場合は、接続のドロップダウン・リストからプライベート接続を選択し、ログイン資格証明を指定します。
3. 「Smart View」パネルのドロップダウン・リストから、ビジネス・プロセス（「Planning」など）または「EPM Cloud」を選択します。
4. 「Smart View」パネルのツリーで「ディメンション」フォルダを展開し、フォルダ内のアプリケーション・ディメンションを表示します。
属性ディメンションが定義されている場合は、「属性ディメンション」フォルダに表示されます。
期間ディメンションが定義されている場合は、「ディメンション」フォルダに表示されます。「期間」ディメンションでは、「データ・ストレージ」が編集可能な唯一のプロパティであることに注意してください。
次の例では、「ディメンション」フォルダが展開されており、10 個のディメンションが含まれています。



5. ディメンション名を右クリックして「**ディメンションの編集**」を選択します。
 または、ディメンションを選択してから、アクション・パネルで「**ディメンションの編集**」を選択します。
 Account ディメンションの最初のグリッドの図は、[Smart View のディメンション・グリッド](#)を参照してください。

Smart View (Mac and Browser)でのディメンションのインポート

Oracle Smart View for Office (Mac and Browser)でのディメンションの操作を開始する前に、環境に Smart View をサイドロードまたはデプロイする必要があります。手順は、*Oracle Smart View for Office (Mac and Browser)のデプロイと管理*に記載されています:

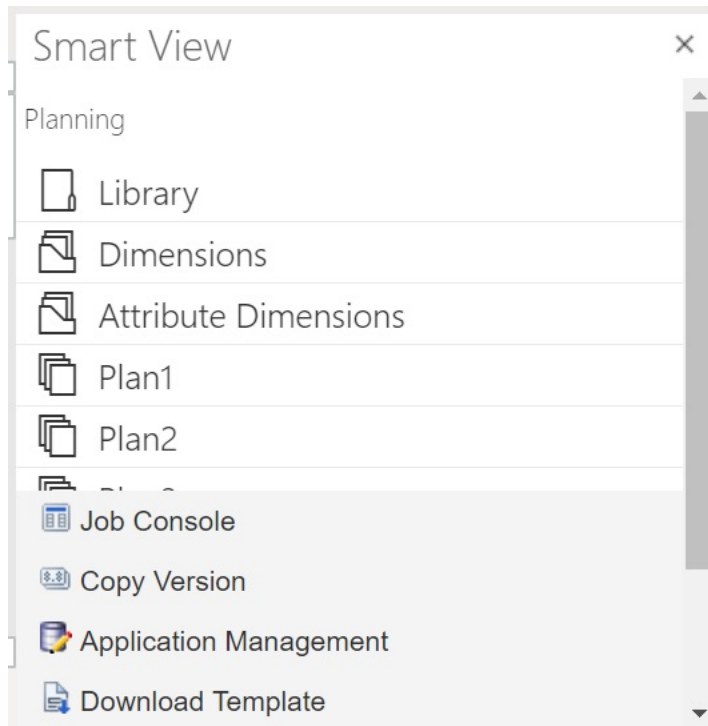
- サイドロードとログイン
- Office 365 ユーザーに対するマニフェスト・ファイルのデプロイ

Oracle Smart View for Office (Mac and Browser)グリッドにディメンションをインポートするには:

1. Smart View のリボンで、「**ホーム**」をクリックします。

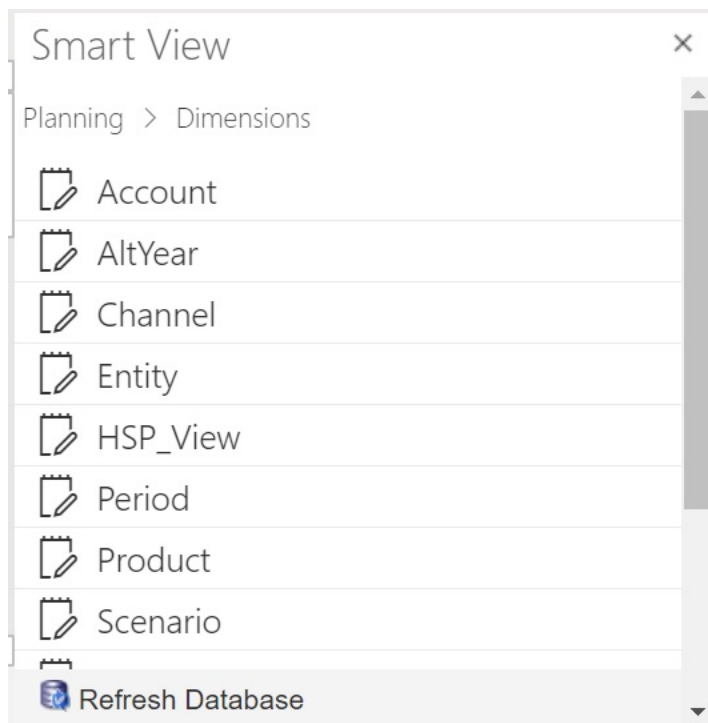
「**ホーム**」パネルで、ディメンションが「**ディメンション**」フォルダに表示されます。属性ディメンションが定義されている場合は、「**属性ディメンション**」フォルダに表示されます。

期間ディメンションが定義されている場合は、「**ディメンション**」フォルダに表示されます。「**期間**」ディメンションでは、「**データ・ストレージ**」が編集可能な唯一のプロパティであることに注意してください。



2. 「Smart View ホーム」パネルで、「ディメンション」フォルダをクリックして展開し、フォルダ内のアプリケーション・ディメンションを表示します。

次の例では、「ディメンション」フォルダが展開され、Vision アプリケーションの 10 個のディメンションのうち、8 個が表示されています。



3. ディメンション名をクリックして、グリッドにディメンションをインポートします。
Account ディメンションの最初のグリッドの図は、[Smart View \(Mac and Browser\)のディメンション・グリッド](#)を参照してください。
4. **オプション:** パネル上部にあるパスでプロバイダのリンクをクリックして、「ホーム」パネルのメイン・ページに戻ります
たとえば、[ステップ 2](#)の図では、「**Planning**」をクリックすると、「ホーム」パネルのメイン・ページに戻ります。

Smart View でのメンバーの編集

Smart View グリッドを使用すると、ディメンションのメンバーのプロパティを迅速に編集できます。

Smart View でメンバーのプロパティを編集するには:

1. Oracle Smart View for Office 内または Oracle Smart View for Office (Mac and Browser)内で、Smart View グリッドにディメンションをインポートします([Smart View でのディメンションのインポート](#)を参照)。
2. グリッドでメンバーのプロパティをハイライトします。
「期間」ディメンションでは、「データ・ストレージ」が編集可能な唯一のプロパティであることに注意してください。
3. ドロップダウン・メニューで、値を選択します。

ノート:

変更されたセルは異なる色で表示されます。

4. グリッドを保存するには、次のタスクを実行します:
 - Oracle Smart View for Office: Planning アド・ホックのリボンで、「**データの送信**」をクリックします。
 - Oracle Smart View for Office (Mac and Browser)の場合、Smart View のリボンで、「**更新**」をクリックします。

ノート:

複数のメンバーとプロパティに対する変更を、同じ「**データの送信**」操作または「**更新**」操作で保存できます。操作が1つのメンバーについて失敗すると、アプリケーション・サーバーは操作を停止し、変更は保存されません。

Smart View でのアプリケーション・メンバーの追加

Smart View グリッドを使用すると、ディメンションに簡単にメンバーを追加できます。

- [Smart View でのメンバーの追加](#)

- [Smart View でのメンバーの追加のガイドライン](#)

ビデオ

目的	視聴するビデオ
Oracle Smart View for Office におけるエンティティ・ディメンション・メンバーの追加について学習します。	 Oracle® Smart View for Office でのエンティティ・ディメンション・メンバーの管理
Smart View における勘定科目ディメンション・メンバーの追加について学習します。	 Oracle® Smart View for Office での勘定科目ディメンション・メンバーの管理
Smart View におけるシナリオ・ディメンション・メンバーの追加について学習します。	 Oracle® Smart View for Office でのシナリオ・ディメンション・メンバーの管理

Smart View でのメンバーの追加

Smart View グリッドを使用すると、ディメンションに簡単にメンバーを追加できます。

Smart View でメンバーを追加するには:

1. Oracle Smart View for Office 内または Oracle Smart View for Office (Mac and Browser)内で、Smart View グリッドにディメンションをインポートします([Smart View でのディメンションのインポート](#)を参照)。

Oracle Smart View for Office では、「期間」ディメンションへのメンバーの追加はサポートされないことに注意してください。

2. 新しいメンバーの名前を名前の列に入力します。

ノート:

数値の名前を持つメンバーを追加するには、その数値がデータでなくメンバー名であることをシステムに通知するために、数値メンバー名の前に単一引用符(')を配置します。たとえば、123 という名前のメンバーを追加する場合、'123 と入力します。

3. リボンで、「リフレッシュ」をクリックします。

「リフレッシュ」を実行すると、新規メンバーにはグリッドでアスタリスク(*)のマークが付けられます。デフォルトのプロパティ・セットが、新しいメンバーに自動的に適用されます。デフォルトの「親メンバー」はディメンションのルート・メンバーです。

4. **オプション:** 任意のプロパティをデフォルト値(ルート・メンバー)から変更するには、グリッドで適切なセルをハイライトし、ドロップダウン・メニューから別の値を選択します。([Smart View でのメンバーの編集](#)を参照してください。)

 ノート:

「リフレッシュ」は、新しいメンバーでプロパティを変更する前に実行してください。「リフレッシュ」操作を行うと、変更した値があってもサーバーからのデフォルト値に置き換えられます。

5. グリッドを保存するには、次のタスクを実行します:

- Oracle Smart View for Office: Planning アド・ホックのリボンで、「データの送信」をクリックします。
- Oracle Smart View for Office (Mac and Browser)の場合、Smart View のリボンで、「更新」をクリックします。

 ノート:

- 新しいメンバーのプロパティを変更するには、[Smart View でのメンバーの編集](#)を参照してください。
- Oracle Smart View for Office では、メンバー名などのメンバー・プロパティは、Smart View アドインで設定され特定のロケールに基づいてローカライズできます。
- 複数のメンバーとプロパティに対する変更を、同じ「データの送信」操作または「更新」操作で保存できます。操作が1つのメンバーについて失敗すると、アプリケーション・サーバーは操作を停止し、変更は保存されません。

Smart View でのメンバーの追加のガイドライン

- 新しいメンバーは、指定した親の下に最後の兄弟として追加されます。
- 親子の関係は、「親の名前」列のプロパティによって決まります。
- グリッドにおける新規メンバーの相対位置には影響されません。
- グリッドでの新しいメンバーの相対位置を、「データの送信」操作または「更新」操作の実行後に変更することはできません。アド・ホック・グリッドに反映されたアウトラインで、新しいメンバーの実際の位置を確認するには、「ズーム・アウト」と「ズーム・イン」を続けて実行します。
- 無効な文字のチェックや重複する名前の確認など、新しいメンバー名の完全な有効性チェックは、「データの送信」操作中または「更新」操作中に実行されます。
- デフォルトのプロパティがアプリケーションによって自動的に新しいメンバーに適用されます。特定のデフォルト・プロパティは、ディメンションのプロパティに基づいています。
- 簡易アプリケーションの通貨ディメンションに新しい通貨メンバーを追加する場合、新しい通貨の親メンバーはデフォルトで「通貨」ディメンション・メンバーになります。しかし、デフォルトで入力通貨メンバーになるようにする必要があります。これを修正するには、次のようにします。
 1. 新規に追加した各通貨メンバーの「親メンバー」列で、「通貨」を入力通貨に置き換えます。

2. 「データの送信」または「更新」を実行します。
3. 「リフレッシュ」をクリックします。
4. 新規に追加した各通貨について、「親メンバー」列のエントリが入力通貨になっていることを確認します。

Smart View でのメンバーの移動

Smart View グリッドを使用すると、ディメンション内の親から別の親にメンバーを迅速に移動できます。

Oracle Smart View for Office でメンバーを移動するには:

1. Smart View 内または Oracle Smart View for Office (Mac and Browser)内で、Smart View グリッドにディメンションをインポートします([Smart View for Office でのディメンションのインポート](#)を参照。)
2. グリッドの「親メンバー」列でメンバーをハイライトします。

ノート:

「親メンバー」プロパティを空にすると、「親メンバー」の値はデフォルトでルート・メンバーになります。

3. **メンバー名**と「親」列の交差に親の名前を入力します。
4. 「データの送信」をクリックして、データを保存します。

ノート:

同じ「データの送信」操作で、複数のメンバーまたはサブツリーの移動を保存できます。「データの送信」操作が1つのメンバーに対して失敗した場合、アプリケーション・サーバーで操作が停止し、変更は保存されません。

Smart View でのメンバーの移動のガイドライン

- グリッドで空の親メンバーは、ディメンションのルート・メンバーを表します。
- 「親メンバー」の値は、Smart View で使用されるメタデータ・ロード・ファイルの対応する値に該当するルールに従います。

属性ディメンションの操作

次も参照:

- [Smart View での属性ディメンション・メンバーの追加](#)

Smart View での属性ディメンション・メンバーの追加

Web インタフェースで、属性ディメンションを作成します。次に、Oracle Smart View for Office または Oracle Smart View for Office (Mac and Browser) で管理拡張機能を使用して、属性ディメンションにメンバーを追加します。

- [Smart View for Office での属性ディメンション・メンバーの追加](#)
- [Smart View \(Mac and Browser\)での属性ディメンション・メンバーの追加](#)

Smart View for Office での属性ディメンション・メンバーの追加

Web インタフェースで、属性ディメンションを作成します。次に、Oracle Smart View for Office で管理拡張機能を使用して、属性ディメンションにメンバーを追加します。

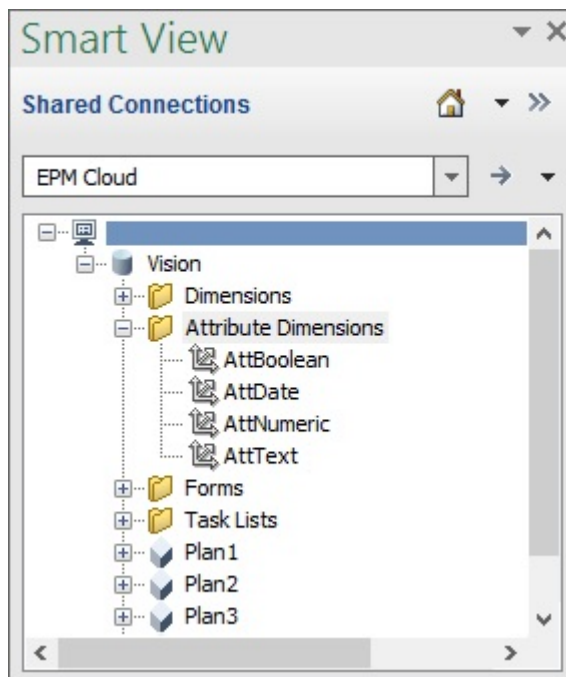
属性ディメンションのメンバーにメンバーを追加するには:

1. Smart View のリボンで、「パネル」をクリックします。
2. 「Smart View」パネルで、「共有接続」または「プライベート接続」をクリックし、ログイン・ウィンドウでユーザー名およびパスワードを入力します。

プライベート接続を選択する場合は、接続のドロップダウン・リストからプライベート接続を選択し、ログイン資格証明を指定します。

3. 「Smart View」パネルで、「EPM Cloud」を選択します。
4. 「Smart View」パネルのツリーで、「属性ディメンション」ノードを展開します。

次の例では、「属性ディメンション」ノードに 4 つの属性ディメンションがあり、それぞれの属性タイプがテキスト、日付、ブール、数値です。



5. 属性ディメンションを 1 つ選択して、「ディメンションの編集」を選択します。

ここで、説明のために **AttText** 属性ディメンションを選択して編集します。属性ディメンションの最初のグリッドの例が表示されています。このディメンションにはまだメンバーがなく、親メンバーとデフォルト別名表の 2 つのプロパティしかありません。

	A	B	C
1		Parent Member	Default Alias Table
2	AttText		

6. 追加する属性メンバー名を、たとえば次のように入力します。

	A	B	C
1		Parent Member	Default Alias Table
2	AttText		
3	Gold		
4	Silver		
5	Platinum		

7. Smart View のリボンで、「送信」をクリックします。
属性メンバーがアプリケーションに送信されます。

	A	B	C
1		Parent Member	Default Alias Table
2	AttText		
3	Gold	AttText	
4	Silver	AttText	
5	Platinum	AttText	

8. **オプション:** 属性メンバーの編集を続行し、グリッドに直接入力して他のプロパティのデータを入力してから、変更を送信します。

Smart View (Mac and Browser)での属性ディメンション・メンバーの追加

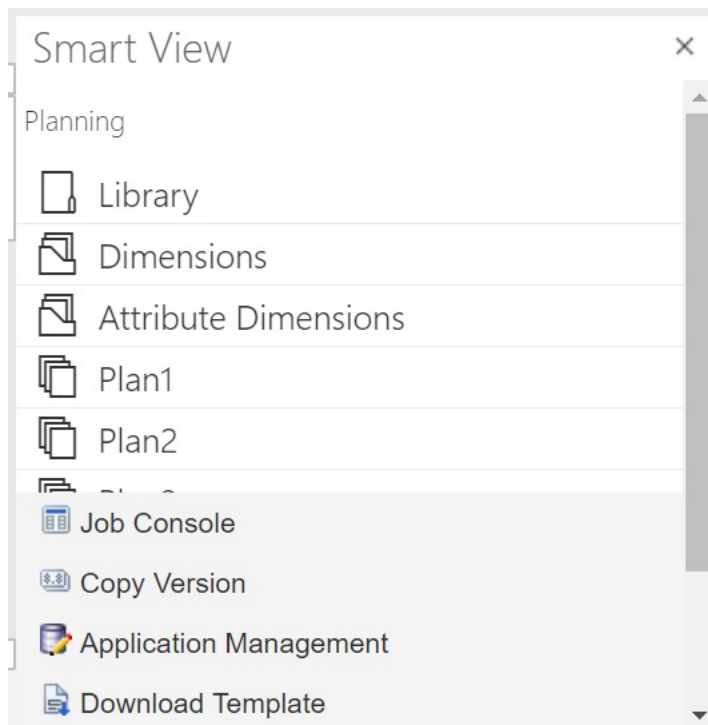
Oracle Smart View for Office (Mac and Browser)での属性ディメンション・メンバーの追加を開始する前に、環境に Smart View をサイドロードまたはデプロイする必要があります。手順は、*Oracle Smart View for Office (Mac and Browser)のデプロイと管理*に記載されています:

- サイドロードとログイン
- Office 365 ユーザーに対するマニフェスト・ファイルのデプロイ

Oracle Smart View for Office (Mac and Browser)グリッドの属性ディメンションにメンバーを追加するには:

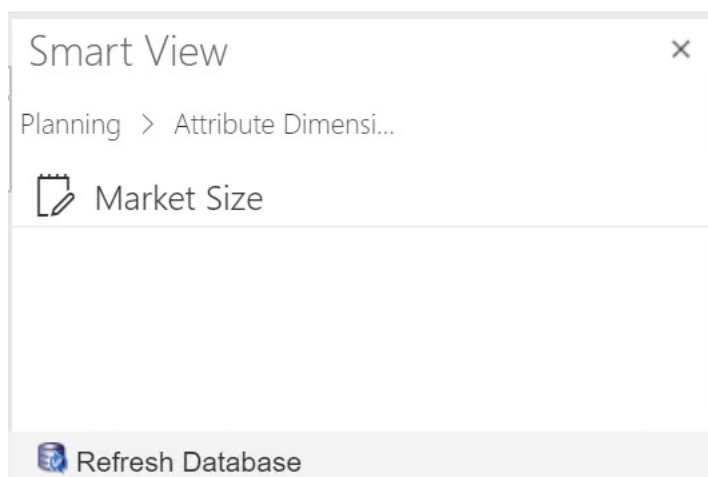
1. Smart View のリボンで、「ホーム」をクリックします。

「ホーム」パネルで、ディメンションが「ディメンション」フォルダに表示されます。属性ディメンションが定義されている場合は、「属性ディメンション」フォルダに表示されます。



2. 「Smart View ホーム」パネルで、「属性ディメンション」フォルダをクリックして展開し、フォルダ内の属性ディメンションを表示します。

次の例では、「属性ディメンション」フォルダが展開され、Vision アプリケーションの 1 つの属性ディメンションである Market Size が表示されています。



3. 属性ディメンションを選択して、グリッドにインポートします。

ここで、説明のために **Market Size** 属性ディメンションを選択して編集します。属性ディメンションの最初のグリッドの例が表示されています。このディメンションにはまだメンバーがなく、親メンバーとデフォルト別名表の2つのプロパティしかありません。

	A	B	C
1		Parent Member	Default Alias Table
2	Market Size		

4. 属性名の列で、属性名の下に、追加する属性メンバー名を入力します。

	A	B	C
1		Parent Member	Default Alias Table
2	Market Size		
3	Large		
4	Medium		
5	Small		

5. Smart View のリボンで、「送信」をクリックします。
属性メンバーがアプリケーションに送信されます。

	A	B	C
1		Parent Member	Default Alias Table
2	Market Size		
3	Large	Market Size	
4	Medium	Market Size	
5	Small	Market Size	

6. **オプション:** 属性メンバーの編集を続行し、グリッドに直接入力して他のプロパティのデータを入力してから、変更を送信します。

Smart View での共有メンバーの指定

Smart View グリッドを使用すると、ディメンション内で共有するメンバーを簡単に指定できます。

ノート:

Smart View では、通貨ディメンションまたは属性ディメンションのメンバーには「共有」データ・ストレージ・オプションを使用できません。

Oracle Smart View for Office で共有メンバーを指定するには:

1. 基本メンバーが存在していることを確認します。
2. グリッドの「親メンバー」列で基本メンバーをハイライトします。
3. 基本メンバーの親の名前の値を変更します。
4. 「データ・ストレージ」列で基本メンバーをハイライトします。
5. ドロップダウン・メニューで、「共有」を選択します。
6. 「データの送信」(Windows)または「送信」(Mac and Browser)をクリックして、グリッドを保存します。

送信操作によって、元の親メンバーおよびデータ・ストレージのプロパティで基本メンバーがリフレッシュされます。共有メンバーは、サーバー上で指定した親の下に追加されます。新規に追加した共有メンバーを表示するには、親でズームインする必要があります。

 ノート:

新しい共有メンバーは、Smart View グリッドに自動的に追加されません。グリッドに表示されるメンバーのリストは変更されません。

データベースのリフレッシュ

次も参照:

- [Smart View for Office でのデータベースのリフレッシュ](#)
- [Smart View \(Mac and Browser\)でのデータベースのリフレッシュ](#)

Smart View for Office でのデータベースのリフレッシュ

Oracle Smart View for Office グリッドを使用すると、データベースのリフレッシュが簡単です。

Smart View でデータベースをリフレッシュするには:

1. Smart View のリボンで、「パネル」をクリックします。
2. Smart View パネルから、「Planning」を選択します。
3. 「ディメンション」フォルダを展開してフォルダのアプリケーション・ディメンションを表示します。

属性ディメンションが定義されている場合は、「属性」フォルダに表示されます。

4. ルート・フォルダである「ディメンション」フォルダまたは「属性」フォルダを右クリックし、「データベースのリフレッシュ」を選択します。

Smart View で、「データベースのリフレッシュ」ダイアログ・ボックスが表示されます。

 **ヒント:**

ルール・タイプ・ジョブの実行中または進行中は、データベース・リフレッシュを完了できません。Web または Oracle Smart View for Office (Mac and Browser)のいずれかのジョブ・コンソールで、データベースに対して実行中のジョブがないか確認します。すべてのジョブが完了したら、データベース・リフレッシュを実行します。

5. 「リフレッシュ」をクリックします。

進行状況バーが表示され、リフレッシュや作成で完了したステップの割合が示されます。


Smart View (Mac and Browser)でのデータベースのリフレッシュ

Smart View グリッドを使用すると、データベースのリフレッシュも新しいデータベースの作成も簡単です。

Oracle Smart View for Office (Mac and Browser)でデータベースをリフレッシュするには:

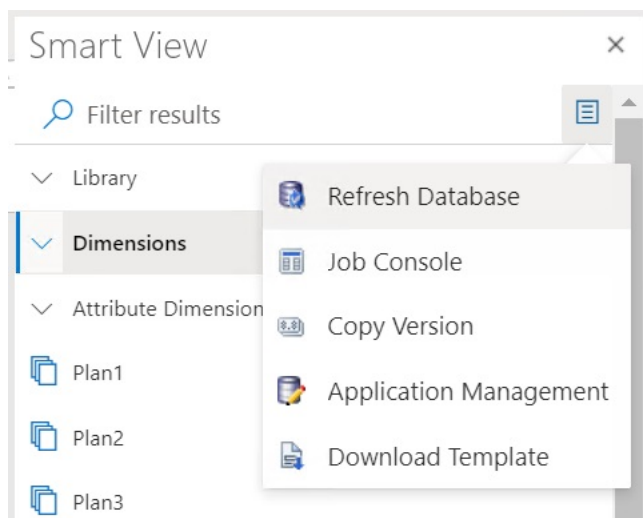
1. Smart View のリボンで、「ホーム」をクリックします。
2. 「Smart View ホーム」パネルから、アプリケーションのルート「ディメンション」フォルダに移動します。

アプリケーションで属性が定義されている場合、属性ディメンションをリフレッシュするには、「属性ディメンション」フォルダに移動します。

3. ルート「ディメンション」または「属性ディメンション」フォルダを選択し、「アクション」ボタンをクリックして、ドロップダウン・メニューから「データベースのリフレッシュ」を選択します。

「データベースのリフレッシュ」ダイアログ・ボックスが表示されます。

次の例では、「ディメンション」フォルダが選択され、「アクション」ドロップダウン・メニューで「データベースのリフレッシュ」が選択されています。



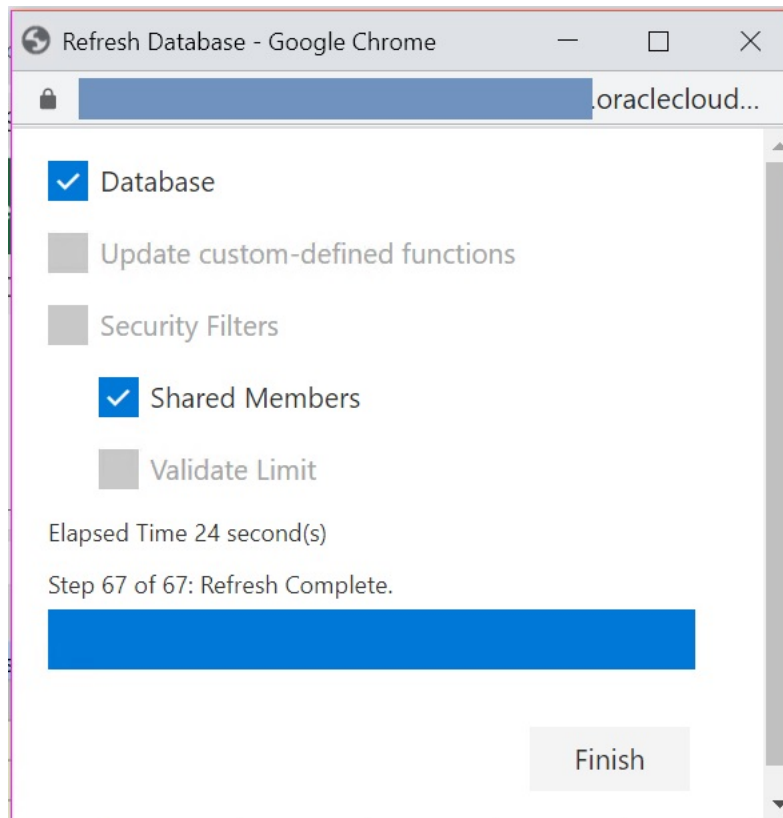
💡 ヒント:

ルール・タイプ・ジョブの実行中または進行中は、データベース・リフレッシュを完了できません。Web または Oracle Smart View for Office (Mac and Browser)のいずれかのジョブ・コンソールで、データベースに対して実行中のジョブがないか確認します。すべてのジョブが完了したら、データベース・リフレッシュを実行します。

4. 「データベース」チェック・ボックスを選択して、「リフレッシュ」をクリックします。

次の図では、「データベース」と「共有メンバー」チェック・ボックスが選択されています。リフレッシュで選択できるその他のオプションは、次のとおりです:

- カスタム定義関数の更新
- セキュリティ・フィルタ
- 制限の検証



進行状況バーが表示され、リフレッシュや作成で完了したステップの割合が示されます。

5. 「終了」をクリックしてダイアログを閉じます。

プランニング管理拡張機能と Office のオートコレクト

ノート:

このトピックの情報は、Windows ベースのバージョンの Oracle Smart View for Office のプランニング管理拡張機能に適用されます。Oracle Smart View for Office (Mac and Browser)のプランニング管理拡張機能には適用されません。

Windows ベースのバージョンの Excel のプランニング管理拡張機能では、Office のオートコレクトが Smart View でのメンバーの編集に影響する場合があります。

メンバー・プロパティ (Text データ型のメンバー名、メンバーの説明、別名、メンバー式など)を編集するとき、次の例のように最初の 2 文字が大文字の名前が生成されることがあります。

DGreen

Excel では、次の例のように名前の最初の 1 文字が大文字になるようにオートコレクトされます。

Dgreen

Excel では、「オートコレクト」オプションを設定すると、名前の最初の 2 文字を大文字にしておくことができます。

名前の最初の 2 文字を大文字にしておくには:

1. Excel で、「**Excel のオプション**」ダイアログにアクセスします。
2. 「**文章校正**」を選択して、「**オートコレクトのオプション**」ボタンをクリックします。
3. 「**オートコレクト**」ダイアログで、「**2 文字目を小文字にする**」チェックボックスをクリアします。
4. 「**OK**」をクリックして「**オートコレクト**」ダイアログを閉じ、「**OK**」をクリックして「**Excel のオプション**」ダイアログを閉じます。

変更はすぐに有効になります。Excel を再起動する必要はありません。

Part V

ツールの使用

Related Topics

- [表示のカスタマイズ](#)
- [変数の操作](#)
- [将来のイベントのお知らせ](#)
- [アクセス制御の管理](#)
- [日次メンテナンス・プロセス時間の設定](#)
- [移行の使用](#)
- [環境のクローニング](#)
- [タスクおよびデータの監査](#)
- [ユーザー・プリファレンスの設定](#)

表示のカスタマイズ

Enterprise Profitability and Cost Management の表示をカスタマイズするには:

1. ホーム・ページで、「ツール」、「外観」の順に選択します。
2. 次のカスタマイズ・オプションから選択します:
 - **ロゴ・イメージ:** デフォルトの Oracle ロゴを独自のイメージに置き換えることができます。「ファイル」を選択してローカルに保存されているカスタム・イメージ・ファイルを選択するか、「URL」を選択してカスタム・イメージの URL を選択します。保護された URL のみがサポートされています。URL は、http ではなく https で始まる必要があります。サポートされているグラフィック形式は .jpg、.png または .gif であり、ファイル・アップロードは 5MB に制限されています。歪みを避けるため、ロゴ・イメージは 113px x 32px または同等の比率にする必要があります。「事前定義」を選択すると、デフォルトの Oracle ロゴが使用されます。
 - **背景イメージ:** 背景に表示されるデフォルトのウォーターマークを独自のイメージに置き換えることができます。「ファイル」を選択して、ローカルに保管されているカスタム・イメージ・ファイルを選択するか、「URL」を選択してカスタム・イメージ URL を選択します。保護された URL のみがサポートされています。URL は、http ではなく https で始まる必要があります。サポートされているグラフィック形式は .jpg、.png または .gif であり、ファイル・アップロードは 5MB に制限されています。「事前定義」を選択すると、デフォルトの背景イメージが使用されます。

背景イメージのデフォルト・サイズは 1024x768 です。これより大きな背景イメージを使用できますが、画面の解像度設定に適合するようにイメージがスケーリングされ、イメージが水平方向に中央揃えされます。背景イメージをブラウザとモバイル・デバイスの両方に適合させるには、最大画面(または解像度が最高のデバイス)に収まるようにイメージをサイズ設定することをお勧めします。

- **ビジネス・プロセス名の表示:** デフォルトでは、ホーム・ページおよびブラウザのタブ(タブが開いているとき)のロゴの横に **Enterprise Profitability and Cost Management** が表示されます。「いいえ」を選択した場合、ビジネス・プロセス名はホーム・ページで非表示になり、Oracle Applications がブラウザ・タブに表示されます。

3. 「保存」をクリックして選択内容を保存します。

変数の操作

Related Topics

- [代替変数の操作](#)
- [ユーザー変数の操作](#)

代替変数の操作

Related Topics

- [代替変数について](#)
- [代替変数の作成および値の割当て](#)
- [代替変数の削除](#)

代替変数について

代替変数は定期的に変化する情報のグローバルなプレースホルダとして機能します。たとえば、フォームやレポート・スクリプトで月の値を毎月更新しなくてもよいように、現在の月メンバーを代替変数 CurMnth に設定できます。アプリケーション内で代替変数を作成し、値を割り当てます。これらの代替変数は、フォームのメンバーを選択するときにアプリケーションで使用できます。

Note:

グローバル変数を使用するアプリケーションを移行した場合、アプリケーションでそれらを表示できますが、編集することはできません。

代替変数の作成および値の割当て

代替変数を作成して値を割り当てるには:

1. ホーム・ページで「ツール」を選択し、「変数」を選択します。
2. 「代替変数」タブを選択します。
3. **+** をクリックします。

新しい変数がリストの一番下に追加されます。

4. リストの一番下までスクロールし、新しく追加された変数の「**キューブ**」名の横の下向き矢印をクリックして、キューブを作成します。
5. 「**名前**」に、代替変数名(最大 80 文字)を入力します。
6. 「**値**」に、代替変数の値(最大 255 文字)を入力します。


Note:

- 代替変数を定義する際に、FY16:FY18 のように値の範囲を指定できます。
基本メンバーと親メンバーの代替変数範囲を定義できます。基本メンバーの場合は、単一のコロンの(:)または二重コロンの(::)を区切り文字として使用できます(例: SunEnT 110::111)。一方、親メンバーの場合は、単一のコロンの(:)のみ使用できます。
- 代替変数がブロック・ストレージ・キューブのデータ・エクスポート・ジョブ定義で使用され、メンバー名が数字のみの場合、「**値**」フィールドでは、そのメンバー名を二重引用符で囲む必要があります(例: "1100"または"000")。英数字のメンバー名に対する二重引用符は不要です(例: a1110)。ただし、この変数が集約ストレージ・キューブのデータ・エクスポート・ジョブ定義で選択された場合、「**値**」フィールドのメンバー名を二重引用符で囲むことはできません。したがって、両方のタイプのキューブに対して定義されたデータ・エクスポート・ジョブ代替変数で同じメンバー名を使用する必要がある場合は、2つの代替変数(引用符がある/ない)を定義する必要があります

7. 「**保存**」をクリックします。

代替変数の削除

代替変数を削除するには:

1. ホーム・ページで、「**ツール**」を選択し、「**変数**」をクリックします。
2. 「**代替変数**」タブを選択します。
3. 削除する代替変数の横にある  をクリックします。
4. 削除を確認するには、「**はい**」をクリックします。

ユーザー変数の操作

Related Topics

- [ユーザー変数について](#)
- [ユーザー変数の作成](#)
- [ユーザー変数の管理](#)
- [フォーム上のユーザー変数に対する制限の設定](#)
- [ユーザー変数の削除](#)

ユーザー変数について

ユーザー変数はフォームでフィルタとして機能し、ユーザーは部署などの特定のメンバーのみに集中できます。ユーザー変数をフォームに関連付けるには、ユーザー変数を作成する必要があります。ユーザー変数でフォームを作成するとき、ユーザーはフォームを開く前に変数の値をプリファレンスで先に選択する必要があります。その後、ユーザーは、変数が動的ユーザー変数の場合のみ、フォームで変数を変更できます。それ以外の場合は、プリファレンスで変数の設定を続行する必要があります。たとえば、**Division** という名のユーザー変数を作成する場合、ユーザーはフォームに作業する前に除算を選択する必要があります。


Tip:

属性も、フォームをフィルタする方法です。ただし、属性(「赤」など)で明示的にフィルタするかわりに、属性ディメンションのユーザー変数を作成し、ユーザー変数をフィルタとして使用できます。次に、ユーザー変数を動的ユーザー変数として有効化し、実行時にユーザーがフィルタの値を変更できるようにすることができます。これは、動的フィルタ処理を可能にする有用な手法です。


フォーム用に変数を初回に選択するとき、ユーザーはプリファレンスでこれを実行する必要があります。そのあとはプリファレンスまたはフォームで変数を更新できます。

ユーザー変数の作成

ユーザー変数を作成するには:

1. ホーム・ページで「ツール」を選択し、「変数」を選択します。
2. 「ユーザー変数」タブを選択します。
3.  をクリックします。

新しい変数がリストの一番下に追加されます。

4. リストの一番下までスクロールし、新しく追加された変数の「ディメンション」名の横の下向き矢印をクリックします。「ディメンションの選択」で、ユーザー変数を作成する対象のディメンションを選択します(属性ディメンションを含む)。
5. 「ユーザー変数名」列にユーザー変数の名前を入力します。
6.  をクリックしてディメンション・メンバーを選択します。

 **Note:**

「**コンテキストの使用**」の設定は、ユーザーがユーザー・プリファレンスから値を選択できないことを意味します。かわりに、値が別のフォームからその視点コンテキストに基づいて渡され、フォームのコンテキストに基づいて値が動的に変更されます。ただし、行や列など、他の場所でユーザー変数が使用されている場合は、動的に設定されないため、ユーザーが独自の値を設定できるように別のユーザー変数を作成する必要があります。

7. 「OK」をクリックします。

これで、ユーザー変数をフォームに関連付けることができ、また、フォームのユーザー変数に制限を設定することもできます。[フォーム上のユーザー変数に対する制限の設定](#)を参照してください。その後、ユーザーはユーザー変数のメンバーを選択できます。

ユーザー変数の管理

ユーザー変数を設定し、フォームで表示されるメンバー数を制限することで、ユーザーが一定のメンバーに注目できるようになります。たとえば、エンティティ・ディメンションで **Division** という名前のユーザー変数を作成すると、ユーザーは自分の区分のメンバーを選択できます。各ディメンション(属性ディメンションを含む)についてユーザー変数の数を作成し、フォームのすべての軸でユーザー変数を選択できます。

一般的なステップ:

1. 必要に応じて、ディメンション・アウトラインに適切な親レベルのメンバーを作成します。
2. ユーザーがフィルタ処理できるディメンション(属性ディメンションを含む)について、それぞれユーザー変数を定義します。
3. フォームをデザインするときに、ユーザー変数をフォームに関連付けします。
4. フォームに関連付けられたユーザー変数についてメンバーを選択するよう、ユーザーに指示します。

ユーザー変数を持つフォームをユーザーが開く前に、プリファレンスで「ユーザー変数オプション」のメンバーを選択する必要があります。初期値を選択したあとで、フォームまたはプリファレンスでそれを変更できます。


フォーム上のユーザー変数に対する制限の設定


ユーザー変数のメンバー選択を制限することで、個々のフォームを表示または選択できるメンバー・ユーザーを制限できます。ユーザー変数の制限は、アクセス権限に関係なく、フォーム・レベルですべてのユーザーに制限を適用します。メンバー別の制限の設定に加えて、サービス管理者は機能別の制限(たとえば、「**IChildren(Existing Employees)**」など)も選択できます。

ユーザー変数の制限を設定するには:

1. フォーム設計時に、「**動的ユーザー変数の使用可能**」を選択して、フォームの動的ユーザー変数を許可します。
2. ユーザー変数を作成します。

[ユーザー変数の作成](#)を参照してください。

3. 「変数」ページの「ユーザー変数」タブにある「ユーザー変数定義」フィールドで、 をクリックし、メンバーを追加または削除して制限を設定します。


機能別にメンバーを選択するには、 をクリックし、使用可能なオプションから選択します。

4. フォーム・デザイナーで、ユーザー変数をページ軸に割り当てます。

ユーザー変数の削除

ユーザー変数がフォームに関連付けられていない場合、それらを削除できます。フォームで使用されているユーザー変数を削除しようとする、削除できないというエラー・メッセージが表示されます。このメッセージには、ユーザー変数が使用されているフォームの名前も示されます。



フォームに関連付けられていないユーザー変数を削除するには:

1. ホーム・ページで「ツール」を選択し、「変数」を選択します。
2. 「ユーザー変数」タブを選択します。
3. 削除するユーザー変数の横にある  をクリックします。
4. 削除を確認するには、「はい」をクリックします。

将来のイベントのお知らせ

システム・メンテナンスやジョブの実行など、将来のイベントをユーザーに通知するには、お知らせを作成して送信します。お知らせは、Enterprise Profitability and Cost Management のホーム・ページの「お知らせ」領域に表示されます。

お知らせを作成するには:

1. ホーム・ページで、「ツール」、「お知らせ」の順に選択します。
2. 「作成」をクリックし、次の情報を入力します:
 - お知らせの目的を要約した件名
 - 開始日(お知らせを送信する時期)。終了日はオプションです。
 - 内容。最初に編集モード( リッチ・テキストまたは  ソース・コード)を選択する必要がある場合があります。
3. 「保存して閉じる」をクリックします。

アクセス制御の管理

アプリケーション固有の役割をグループおよびユーザーに割り当てます。

アクセス制御を開くには:

1. ホーム・ページで「ツール」、「アクセス制御」の順に選択します

2. 「**グループの管理**」で「**作成**」をクリックします。
3. 「**グループの作成**」で、次のステップを実行します。
 - a. 「**名前**」に、役割の名前を入力します(最大 256 文字)。

グループ名では大文字と小文字は区別されません。Oracle Enterprise Performance Management Cloud では、事前定義済役割名(サービス管理者、パワー・ユーザー、ユーザーまたはプランナ、参照者)と同一の名前を持つグループは作成できません。
 - b. **オプション**: グループの説明を入力します。
4. **オプション**: グループを追加して、ネストされたグループを作成します。
 - a. 「**使用可能なグループ**」で、グループを検索します。

検索条件に一致するグループが、「**使用可能なグループ**」に表示されます。
 - b. 「**使用可能なグループ**」から、新しいグループのメンバー・グループを選択します。
 - c. 「**移動**」をクリックします。

選択したグループは、「**割り当てられたグループ**」の下に表示されます。「**割り当てられたグループ**」から、割り当てられたグループを削除するには、削除するグループを選択して、「**削除**」をクリックします。
5. **オプション**: EPM Cloud ユーザーをグループのメンバーとして追加します。グループ・メンバーとして追加できるのは、事前定義済役割に割り当てられているユーザーのみです。
 - a. 「**ユーザー**」をクリックします。
 - b. 「**使用可能なユーザー**」で、ユーザーを検索します
 - c. 「**使用可能なユーザー**」から、グループに追加するユーザーを選択します。
 - d. 「**移動**」をクリックします。
6. 「**保存**」をクリックし、「**OK**」をクリックします。



Note:

Oracle Enterprise Performance Management Cloud [アクセス制御の管理のアクセス制御の概要](#)を参照してください。

カスタム・ナビゲーション・フローの設計

ナビゲーション・フローを使用してビジネス・プロセス・インタフェースをカスタマイズします。ナビゲーション・フローによって、設計者は、役割またはグループがビジネス・プロセスと対話する方法を制御できます。

次も参照:

- [ナビゲーション・フローの理解](#)
- [ナビゲーション・フローの表示と操作](#)

ナビゲーション・フローの理解

ビジネス・プロセス設計者は、ナビゲーション・フローによって、各種の役割またはグループがビジネス・プロセスと対話する方法を制御できます。ナビゲーション・フロー・デザイナーを使用すると、ビジネス・プロセス・インタフェースをカスタマイズできます。たとえば、ホーム・ページに表示されるカードとクラスタの名前および表示順序を変更できます。カードを非表示にし、新しいカードを作成し、カードをクラスタにグループ化できます。カードに表示される垂直タブと水平タブをカスタマイズすることもできます。

ビデオ

目的

接続された環境向けのワークフローのカスタマイズのハイライトをご覧ください。

視聴するビデオ



概要: [EPM Cloud](#) ビジネス・プロセスを統合するためのナビゲーション・フローの構成

関連トピック

- [ビジネス・プロセス・インタフェースでカスタマイズできる内容](#)
- [ナビゲーション・フローのカスタマイズ・カテゴリ](#)
- [ナビゲーション・フローの権限](#)
- [事前定義済みのナビゲーション・フロー](#)
- [ナビゲーション・フローの表示と操作](#)

ビジネス・プロセス・インタフェースでカスタマイズできる内容

ナビゲーション・フローはカードで構成されます。それぞれのカードにはコンテンツが含まれ、情報が1つ以上のタブ付きのページとして表示されます。カードに含まれるコンテンツは、URLである場合もあれば、フォーム、ダッシュボード、レポートなどのアーティファクトである場合もあります。カードをクラスタにグループ化できます。

ノート:

ダッシュボード 2.0 およびフォーム 2.0 がビジネス・プロセスで有効になっている場合:

- ナビゲーション・フローでは、ランタイム・ダッシュボード内からフォームを編集する機能や、データありまたはデータなしでのダッシュボードの編集など、ダッシュボード 2.0 およびフォーム 2.0 に含まれる機能がサポートされます。**「フォームを開く」**や**「フォームの編集」**など、ダッシュボード 2.0 のコンポーネント・アクションもナビゲーション・フロー内で直接機能します。
- ダッシュボードに複数のコンポーネントが含まれている場合、ナビゲーション・フロー内からダッシュボードを編集するときには、ダッシュボード内の最後のコンポーネントにフォーカスが設定されます。

ナビゲーション・フローは、次の方法でカスタマイズできます:

- カードまたはタブのラベル
- カードまたはタブに使用されるアイコン
- カードおよびタブの表示と非表示の切替え
- カードおよびタブの表示順序
- 新しいカードの追加
- 既存のカードの追加
- 新しい水平タブまたは垂直タブの追加
- ナビゲーション・フロー、カードおよびタブの削除
- クラスタへのカードのグループ化
- 既存のクラスタの追加

[ナビゲーション・フローの表示と操作](#)を参照してください。

ナビゲーション・フローのカスタマイズ・カテゴリ

ナビゲーション・フローは、カスタマイズにおいて次のようにカテゴリ化されます。

1. **グローバル:** ナビゲーション・フローはすべてのユーザーに表示されます
2. **役割:** ナビゲーション・フローは、サービス管理者やパワー・ユーザーなど、特定の役割のユーザーのみに表示されます
3. **グループ:** ナビゲーション・フローは特定のグループ(営業など)に属するユーザーのみに表示されます。

ナビゲーション・フローはこれらのいずれかのレベルで定義できます。ナビゲーション・フローが複数のレベルに存在する場合、更新は最も高いレベル(グローバル)から最も低いレベル(グループ)の順に適用されます。

たとえば、ホーム・ページで"マイ・タスク"という名前のアイコンを表示するナビゲーション・フローを作成し、別のサービス管理者がこのナビゲーション・フローを複製し、カードに対して次の変更を加え、ナビゲーション・フローをグループに関連付けるとします。

- グローバル・レベルで、"マイ・タスク"を"会社のタスク"という名前に変更します
- グループ・レベルで、販売という名前のグループに対して、"マイ・タスク"を"販売のタスク"という名前に変更します

販売と呼ばれるグループに属するユーザーには、ナビゲーション・フローで"マイ・タスク"ではなくラベル"販売のタスク"が表示され、他のすべてのユーザーにはラベル"会社のタスク"が表示されます。

ナビゲーション・フローの権限

ビジネス・プロセスでは、ナビゲーション・フローについて次の 3 レベルの権限があります。

- 役割ベース: 権限は、特定の役割に割り当てられたユーザーまたはグループに付与されます。たとえば、ユーザーのホーム・ページには、サービス管理者とは異なるカードが表示されます
- アーティファクトベース: 権限は、特定のアーティファクトを表示できるユーザーまたはグループに付与されます。たとえば、ユーザーには、権限が割り当てられているフォームのみが表示されます
- グローバル: 権限はすべてのユーザーに付与されます

事前定義済のナビゲーション・フロー

ビジネス・プロセスには、デフォルトと呼ばれる 1 つの事前定義済ナビゲーション・フローがあります。デフォルト・ナビゲーション・フローは読取り専用であり、変更できません。

デフォルト・ナビゲーション・フローに対して実行できる操作と実行できない操作は次のとおりです。

- 名前: 名前は変更できません。
- 削除: ナビゲーション・フローは削除できません。
- 編集: ナビゲーション・フローの詳細を表示できますが、変更はできません。
- アクティブ化または非アクティブ化: ナビゲーション・フローをアクティブ化または非アクティブ化できます。
- 複製: ナビゲーション・フローのコピーを作成できます。

インポート後のナビゲーション・フロー・ステータスの理解

アクティブ・ナビゲーション・フローを含むスナップショットを、それと同じカテゴリ(ロール、グループまたはグローバル)のアクティブのナビゲーション・フローを含む環境にインポートしたとき、インポートされた新しいナビゲーション・フローは非アクティブになります。

たとえば、現在システム上で次のナビゲーション・フローがアクティブになっているとします:

- NF Sales Q2 (営業グループ)

- NF Administrator (サービス管理者役割)
- NF Custom Default (グローバル)

NF Sales Q3 という名前のナビゲーション・フローをインポートするとします。これは NF Sales Q2 と同じ営業グループを使用しています。NF Sales Q3 ナビゲーション・フローは非アクティブとしてインポートされ、これまで通り既存の NF Sales Q2 が営業グループに対してアクティブになります。新しい NF Sales Q3 をアクティブにするには、手動でアクティブ化する必要があります(これにより古い NF Sales Q2 が非アクティブになります)。インポートした Q3 ナビゲーション・フローが非アクティブになるのは、Q3 開始日より前にインポートが実施されることを考慮してのことで、Q3 開始日前に Q3 ナビゲーション・フローがアクティブになるのを回避しています。

アクティブのカスタム・グローバル・ナビゲーション・フロー(NF Custom など)が含まれている移行スナップショットから新しいアプリケーションが作成された場合、その NF Custom グローバル・ナビゲーション・フローは移行のインポート後に非アクティブになります。この動作はアプリケーションのクローニング時と同様です。Default グローバル・ナビゲーション・フローがアクティブのグローバル・ナビゲーション・フローになるため、新しいアプリケーションが作成された後に、グローバル NF Custom ナビゲーション・フローをアクティブ化する必要があります。すべてのユーザーが NF Custom グローバル・ナビゲーション・フローを使用している場合は、NF Custom ナビゲーション・フローがアクティブになるまでの間サービスが中断する可能性があります。

ナビゲーション・フローを設計するときに:

- 特定のグループまたはユーザー・クラス用のナビゲーション・フローを作成します。次に、ナビゲーション・フローを対応するユーザー・グループに関連付けます。
- すべてのユーザーに対して 1 つのグローバル・ナビゲーション・フローを作成しないようにします。

ナビゲーション・フローの表示と操作

サービス管理者役割が割り当てられているユーザーは、ナビゲーション・フロー・ページで、事前定義済ナビゲーション・フローを含む、すべてのナビゲーション・フローを表示できます。その他の役割およびグループを割り当てられているユーザーは、自身にアクセス権があるナビゲーション・フローのみを表示できます。

「ナビゲーション・フロー」ページには、各ナビゲーション・フローが名前別に一覧表示され、ナビゲーション・フローにアクセスできる役割またはグループ(割り当てられている場合)、およびナビゲーション・フローの説明(提供されている場合)が示されます。リストには、ナビゲーション・フローがアクティブであるかどうかも示されます。

ナビゲーション・フローの表示


「ナビゲーション・フロー」ページを表示するには:

1. ホーム・ページで、「ツール」をクリックします。
2. 「ナビゲーション・フロー」をクリックします。

ナビゲーション・フローの操作

ナビゲーション・フローを操作するには、次のアクションを実行します。

- 設計のベスト・プラクティスおよび考慮事項は、[ナビゲーション・フロー設計のベスト・プラクティスおよび命名の考慮事項](#)を参照してください。

- ナビゲーション・フローを作成および複製するには、[ナビゲーション・フローの作成と複製](#)を参照してください。
- ナビゲーション・フローを編集するには、[ナビゲーション・フローの編集](#)を参照してください。
- ナビゲーション・フローをアクティブ化または非アクティブ化するには、[ナビゲーション・フローのアクティブ化と非アクティブ化](#)を参照してください。
- ナビゲーション・フローを検証し、アーティファクトが欠落しているナビゲーション・フロー要素を見つけて解決する方法の詳細は、[ナビゲーション・フローにおける「検証」を使用した欠落アーティファクトの検索](#)を参照してください。
- 警告アイコン  が表示されている、リスト内のナビゲーション・フローを解決するには、「[警告](#)」アイコンが表示されるナビゲーション・フローの解決を参照してください。
- カードおよびタブの名前を変更するには、[カード、タブおよびクラスタのラベルのカスタマイズ](#)を参照してください。
- カードおよびタブに使用されるグラフィックをカスタマイズするには、[カードおよび垂直タブのアイコンのカスタマイズ](#)を参照してください。
- カードおよびタブの表示と非表示を切り替えるには、[クラスタ、カードおよびタブの非表示および再表示](#)を参照してください。
- ホーム・ページでカードの表示順を変更するには、[ホーム・ページ上のカードの表示順序の変更](#)を参照してください。
- カードを追加するには、[カードの追加](#)を参照してください。
- タブを追加するには、[表形式ページへのタブの追加](#)を参照してください。
- ナビゲーション・フロー、カードおよびタブを削除するには、[ナビゲーション・フロー、カードおよびタブの削除](#)を参照してください。
- カードをクラスタにグループ化するには、[クラスタへのカードのグループ化](#)を参照してください。

トラブルシューティング

ナビゲーション・フローの問題を解決する方法については、*Oracle Enterprise Performance Management Cloud オペレーション・ガイド*のナビゲーション・フローに関する問題の処理を参照してください。

ナビゲーション・フロー設計のベスト・プラクティスおよび命名の考慮事項

設計のベスト・プラクティス

最適なユーザー操作を提供し、ホーム・ページおよびカードやタブでの過度のスクロールを避けるには、ナビゲーション・フローの設計時に次のガイドラインに従う必要があります:

- 最上位レベルのアイテム(カードおよびクラスタ)では、表示可能アイテムは 16 個以下に抑えます。
- 16 個以下の表示可能カードをクラスに追加します。
- 10 個以下の表示可能な垂直タブをカード内に追加します。

- 20 個以下の表示可能サブ・タブ(水平タブ)を垂直タブ内に追加します。
- 実行時にサブ・タブ(水平タブ)のラベル名は、最初の 30 文字のみが表示されます。タブにカーソルを置くと、ラベル全体が表示されます。

 **Note:**

表示可能な制限を超えようとする、制限を超えたことを通知する警告メッセージが表示されます。

命名の考慮事項


ナビゲーション・フローおよびナビゲーション・フロー内のカード、クラスタ、タブ、インフォレット(ビジネス・プロセスでインフォレットを使用する場合)には命名規約があります。次の特殊文字は使用できません。

- アンパサンド(&)
- 小なり記号(<)
- 大なり記号(>)
- 引用符(")
- 円記号(バックスラッシュ)(\)
- プラス記号(+)

ナビゲーション・フローの作成と複製

ナビゲーション・フローを作成するには、最初に既存のナビゲーション・フローを選択し、そのコピーを作成する必要があります。その後、複製したナビゲーション・フローの詳細を編集して保存します。

ナビゲーション・フローを作成および複製するには:

1. 「**ナビゲーション・フロー**」 ページを開きます。[ナビゲーション・フローの表示と操作](#)を参照してください。
2. ページの右上隅で  をクリックし、「**コピーの作成**」を選択します。
3. ナビゲーション・フローの名前を入力し、「**OK**」をクリックします。

 **ノート:**

必ず、[ナビゲーション・フロー設計のベスト・プラクティス](#)および[命名の考慮事項](#)に記載されているナビゲーション・フローの命名規則に従ってください。

4. ナビゲーション・フローの詳細を編集します。[ナビゲーション・フローの編集](#)を参照してください。

ノート:

新しいフローは、サービス管理者がアクティブにするまで「**非アクティブ**」に設定されます。ナビゲーション・フローをアクティブにするには、[ナビゲーション・フローのアクティブ化と非アクティブ化](#)を参照してください。

ナビゲーション・フローをリロードして設計時の変更を表示するには、[ナビゲーション・フローのリロード](#)を参照してください。

ナビゲーション・フローの編集


ナビゲーション・フローを編集するには:

1. 「**ナビゲーション・フロー**」 ページを開きます。[ナビゲーション・フローの表示と操作](#)を参照してください。
2. 編集するナビゲーション・フローの名前をクリックします。

ノート:

事前定義済のナビゲーション・フローは編集できません。ただし、事前定義済のナビゲーション・フローのコピーを作成し、そのコピーを編集することは可能です。[事前定義済のナビゲーション・フロー](#)を参照してください。

ナビゲーション・フロー内のカードおよびクラスタがリストされたページが表示されます。このページで、役割またはグループの割当ての編集、ホーム・ページに表示可能なクラスタおよびカードの指定、ナビゲーション・フローのクラスタおよびカードが表示される順序の変更、クラスタへのカードの追加またはそれらの削除、ナビゲーション・フローからのクラスタおよびカードの削除を行うことができます。

- **割当て先:**  をクリックして、ユーザーのグループまたは役割にナビゲーション・フローを割り当てます。
- **表示可能:** 「**表示可能**」列でナビゲーション・フローのクラスタおよびカードを選択するか、選択を解除して、ホーム・ページにおけるそれらの表示の可否を編集します。

ノート:

必ず、[ナビゲーション・フロー設計のベスト・プラクティスおよび命名の考慮事項](#)に記載されているナビゲーション・フローの表示のガイドラインに従ってください。

- **順序:** クラスタおよびカードが、ホーム・ページ上に表示される順序でリストされます(表示可能な場合)。上矢印または下矢印オプションを選択すると、リ

スト内でクラスタおよびカードの位置が変わり、ホーム・ページ上のクラスタおよびカードの表示順序が変更されます。右矢印を選択すると、カードがクラスタに移動します。

- **削除:** ナビゲーション・フローからクラスタまたはカードを削除します。
3. クラスタまたはカードをクリックして詳細を編集します。カードの詳細の説明は、次のトピックを参照してください:
 - [カードの追加](#)
 - [表形式ページへのタブの追加](#)

ナビゲーション・フローをリロードして設計時の変更を表示するには、[ナビゲーション・フローのリロード](#)を参照してください。

ナビゲーション・フローのアクティブ化と非アクティブ化

各カテゴリ(グローバル、役割またはグループ)について複数のナビゲーション・フローを作成できますが、各カテゴリでアクティブにできるナビゲーション・フローは1つのみです。ナビゲーション・フローをアクティブにすると必ず、同じカテゴリ内の他のナビゲーション・フローは非アクティブになります。

ノート:

各ビジネス・プロセスには、アクティブなグローバル・ナビゲーション・フローが1つ必要です。異なるグローバル・ナビゲーション・フローをアクティブにするには、別のグローバル・ナビゲーション・フローを選択し、それをアクティブ化してください。

カテゴリの詳細は、[ナビゲーション・フローのカスタマイズ・カテゴリ](#)を参照してください。

アクティブなナビゲーション・フローに対してユーザーが実行できる操作と実行できない操作は次のとおりです。


- **名前:** ユーザーは名前を変更できません。
- **削除:** ユーザーはナビゲーション・フローを削除できません。
- **編集:**
 - ユーザーはナビゲーション・フローの定義を表示できますが、何も変更できません。
 - ビジネス・プロセスが管理モードになっている場合、ユーザーは変更を保存できません。
- **アクティブ化または非アクティブ化:** ユーザーはナビゲーション・フローをアクティブ化または非アクティブ化できます。
- **複製:** ユーザーはナビゲーション・フローのコピーを作成できます。

ナビゲーション・フローをアクティブまたは非アクティブにするには:


1. 「**ナビゲーション・フロー**」ページを開きます。[ナビゲーション・フローの表示と操作](#)を参照してください。

2. 「アクティブ」列で、「アクティブ」または「非アクティブ」をクリックします。アクティブなフローは非アクティブに設定されます。逆に、非アクティブなフローはアクティブに設定されます。


ナビゲーション・フローにおける「検証」を使用した欠落アーティファクトの検索



ナビゲーション・フローのリストを参照しているときに、ナビゲーション・フローのノードまたはアーティファクトにエラー・アイコン  が表示される場合があります。このエラーは、ナビゲーション・フローに関連付けられていたアーティファクトが名前変更または削除され、欠落しているとみなされるようになったために発生します。ナビゲーション・フローをアクティブにする前に、ナビゲーション・フローを編集して、名前が変更されたアーティファクトまたは別のアーティファクトに関連付ける必要があります。アーティファクトが欠落しているとみなされていることにユーザーが気付かない可能性があるため、ナビゲーション・フローを「アクティブ」ステータスに設定する前に検証することをお勧めします。

Note:

警告アイコン  が表示されているナビゲーション・フローを解決するには、「警告」アイコンが表示されるナビゲーション・フローの解決を参照してください。

ナビゲーション・フローを検証して、欠落しているアーティファクトを見つけて再度関連付けるには:


1. 「ナビゲーション・フロー」ページを開きます。ナビゲーション・フローの表示と操作を参照してください。
2. まだ非アクティブ化されていない場合は、検証するナビゲーション・フローを「非アクティブ」ステータスに設定します。ナビゲーション・フローのアクティブ化と非アクティブ化を参照してください。
3. 検証するナビゲーション・フローの行を強調表示します。
4.  をクリックし、「検証」を選択します。

アーティファクトが欠落している場合は、検出できないアーティファクトを参照しているナビゲーション・フローを示すエラー・メッセージが表示されます。
5. エラーのある各ナビゲーション・フローの名前をクリックし、欠落しているアーティファクトが表示される管理ページに到達するまで、エラー・アイコン  が表示されたノードを展開します。
6. アーティファクトの場合、 をクリックして、アーティファクト・ライブラリで名前が変更されたアーティファクトまたは別のアーティファクトを選択します。
7. 「保存して閉じる」をクリックします。


8. ナビゲーション・フローが有効であることを示すメッセージが表示されるまで、ナビゲーション・フローで検証を繰り返し、必要に応じてドリルダウンして修正します。
9. ナビゲーション・フローをアクティブにします。 [ナビゲーション・フローのアクティブ化と非アクティブ化](#)を参照してください。

ナビゲーション・フローをリロードして設計時の変更を表示するには、 [ナビゲーション・フローのリロード](#)を参照してください。



「警告」アイコンが表示されるナビゲーション・フローの解決

ナビゲーション・フローのリストを表示しているときに、ナビゲーション・フローに警告アイコン  が表示される場合があります。これは、ナビゲーション・フローに関連付けられていたグループが削除されているために発生します。ナビゲーション・フローを編集してグループまたは役割に関連付けてから、ナビゲーション・フローをアクティブにする必要があります。

Note:

エラー・アイコン  が表示されているナビゲーション・フローを解決するには、 [ナビゲーション・フローにおける「検証」を使用した欠落アーティファクトの検索](#)を参照してください。

ナビゲーション・フローを解決するには:

1. 「[ナビゲーション・フロー](#)」 ページを開きます。 [ナビゲーション・フローの表示と操作](#)を参照してください。
2. 警告アイコン  が表示されているナビゲーション・フローの名前をクリックします。
3. 「[割当先](#)」の  をクリックして、ユーザーのグループまたは役割にナビゲーション・フローを割り当て、「[保存して閉じる](#)」をクリックします。
4. ナビゲーション・フローをアクティブにします。 [ナビゲーション・フローのアクティブ化と非アクティブ化](#)を参照してください。

ナビゲーション・フローをリロードして設計時の変更を表示するには、 [ナビゲーション・フローのリロード](#)を参照してください。

カード、タブおよびクラスタのラベルのカスタマイズ

カード(ホーム・ページに表示されるアイコン)、タブおよびクラスタのラベルをカスタマイズできます。ラベルは、25文字以下に制限されています。垂直タブの場合、垂直タブのラベルはホバー・テキストとして表示されるため、文字数の制限はありません。

ノート:

カード、タブまたはクラスタのラベルの更新をデフォルトのナビゲーション・フローに対して実行しないでください。ラベルのカスタマイズはカスタムのナビゲーション・フローに対して実行するようにしてください。

カード、タブおよびクラスタのラベルをカスタマイズするには:

1. 「ナビゲーション・フロー」ページを開き、編集するナビゲーション・フローの名前をクリックします。[ナビゲーション・フローの表示と操作](#)を参照してください。
2. カードまたはクラスタのラベルをカスタマイズする場合:
 - a. 編集するカードまたはクラスタの名前をクリックします。
 - b. 新しい名前を入力し、それを保存します。

ノート:

- ラベルはここで編集できます。ただし、ラベルが「ツール」クラスタの「アーティファクト・ラベル」ページで定義されている場合は、その定義が優先され、実行時に表示されます。ラベルを完全に変更するには、「アーティファクト・ラベル」ページで再定義してください。

アーティファクト・ラベルの指定を参照してください。

- 必ず、[ナビゲーション・フロー設計のベスト・プラクティスおよび命名の考慮事項](#)に記載されている命名規則に従ってください。

3. タブのラベルをカスタマイズする場合:
 - a. 編集するカードの名前をクリックします。
 - b. 「タブの管理」ページのタブ・リストで、編集するタブの名前をクリックします。
 - c. タブの新しい名前を入力し、それを保存します。

ナビゲーション・フローをリロードして設計時の変更を表示するには、[ナビゲーション・フローのリロード](#)を参照してください。

カードおよび垂直タブのアイコンのカスタマイズ

カードおよび垂直タブで使用されているアイコンを変更できます。アイコン・ライブラリで提供されている使用可能なアイコンから選択する必要があります。

カードおよび垂直タブのアイコンをカスタマイズするには:

1. 「ナビゲーション・フロー」ページを開き、編集するナビゲーション・フローの名前をクリックします。[ナビゲーション・フローの表示と操作](#)を参照してください。
2. カードのアイコンをカスタマイズする場合:
 - a. 編集するカードの名前をクリックします。

- b. カードのアイコンをクリックし、ライブラリから新しいアイコンを選択して、それを保存します。
3. タブのアイコンをカスタマイズする場合:
 - a. 編集するアイコンの名前をクリックします。
 - b. 「**タブの管理**」 ページのタブ・リストで、編集するタブの名前をクリックします。
 - c. タブのアイコンをクリックし、ライブラリから新しいアイコンを選択して、それを保存します。

ナビゲーション・フローをリロードして設計時の変更を表示するには、[ナビゲーション・フローのリロード](#)を参照してください。

クラスタ、カードおよびタブの非表示および再表示

次のナビゲーション要素は非表示にできません。

- 「**アプリケーション**」 クラスタと、「**アプリケーション**」 クラスタの「**設定**」 アイコン。
- 「**ツール**」 クラスタと、「**ツール**」 クラスタの次のアイコン:
 - **アクセス制御**
 - **ナビゲーション・フロー**
 - **日次メンテナンス**
 - **移行**

必ず、[ナビゲーション・フロー設計のベスト・プラクティスおよび命名の考慮事項](#)に記載されているナビゲーション・フローの表示のガイドラインに従ってください。

クラスタ、カードおよびタブを非表示および再表示するには:

1. 「**ナビゲーション・フロー**」 アイコンをクリックし、編集するナビゲーション・フローの名前をクリックします。[ナビゲーション・フローの表示と操作](#)を参照してください。
2. 「**表示可能**」 列でクラスタおよびカードを選択または選択解除して、ホーム・ページのナビゲーション・フローの表示を編集します。
3. タブを表示または非表示にする場合:
 - a. 編集するカードの名前をクリックします。
 - b. **タブの管理** ページのタブ・リストで、「**表示可能**」 列のチェック・ボックスを選択または選択解除します。

ナビゲーション・フローをリロードして設計時の変更を表示するには、[ナビゲーション・フローのリロード](#)を参照してください。

ホーム・ページ上のカードの表示順序の変更

ナビゲーション・フロー・デザイナーでカードの表示順序を変更できます。カードは、リスト内に表示される順序でホーム・ページ上に表示されます。

ホーム・ページ上のカードの表示順序を変更するには:

1. 「**ナビゲーション・フロー**」 ページを開きます。[ナビゲーション・フローの表示と操作](#)を参照してください。

2. リスト内で、「**順序**」列の上矢印および下矢印を使用して、ナビゲーション・フローの順序内でカードを上下に移動します。

ナビゲーション・フローをリロードして設計時の変更を表示するには、[ナビゲーション・フローのリロード](#)を参照してください。

カードの追加

ホーム・ページに表示されるアイコンはカードを表します。カードは、ビジネス・プロセスの各機能領域に固有です。各カードをクリックすると、ユーザーは対応する領域に移動し、他の情報が1つ以上のタブ付きのページとして表示されます。単一ページまたは複数ページ(タブ形式)のカードを作成できます。

最適なユーザー・エクスペリエンスを確実にするために、ナビゲーション・フロー設計のベスト・プラクティスを確認します。[ナビゲーション・フロー設計のベスト・プラクティスおよび命名の考慮事項](#)を参照してください。

カードをクラスタにグループ化することもできます。[クラスタへのカードのグループ化](#)を参照してください。

カードをナビゲーション・フローに追加するには:

1. 「**ナビゲーション・フロー**」ページを開き、編集するナビゲーション・フローの名前をクリックします。[ナビゲーション・フローの表示と操作](#)を参照してください。
2. 既存のカードをナビゲーション・フローに追加するには、リストでカードまたはクラスタを右クリックし(あるいは $+$ をクリックし)、「**既存のカード/クラスタの追加**」をクリックして、カードを選択します。別の環境から既存のカードを追加する場合は、リストでカードまたはクラスタを右クリックし(あるいは $+$ をクリックし)、「**既存のカード/クラスタの追加**」をクリックして、「**自分の接続**」でターゲット環境を選択した後、ナビゲーション・フローに追加するカードを選択します。

次の点に注意してください。

- Narrative Reporting および Profitability and Cost Management からは、「**既存のカード/クラスタの追加**」オプションを使用してカードを直接選択することはできません。
- 別のナビゲーション・フローまたは別の環境から追加されるカードには、ソース・ナビゲーション・フローで定義されたローカライズされたラベルが表示されます。ナビゲーション・フローでカード・ラベルを更新するには、ホーム・ページで「**ツール**」、「**アーティファクト・ラベル**」の順にクリックします。
アーティファクト・ラベルの指定を参照してください。
- 参照カードは、別のナビゲーション・フローからすでに参照されているカードです。すでに参照されているカードへの参照は、ナビゲーション・フローではサポートされず、既存のカードを追加する際にオブジェクト・ライブラリで選択できません。次に例を挙げます:
 - リモート・アーティファクトまたはリモート・タブを参照するカードは、既存のカードを追加するときにオブジェクト・ライブラリから使用できません。
 - 別のナビゲーション・フローのタブを参照するカードは、既存のカードを追加するときにオブジェクト・ライブラリから使用できません。

カードは、リスト内で現在選択されているカードまたはクラスタの下に兄弟として追加されます。カードをクラスタに追加するには、[クラスタへのカードのグループ化](#)を参照してください。

ノート:

最初にカードまたはクラスタを選択せずに追加されたカードは、リストの最後に追加されます。



3. 新しいカードをナビゲーション・フローに追加するには、リストでノードを右クリックし (または  をクリックし)、「**カードの追加**」をクリックして、新しいカードの詳細を選択します。

表 1 新しいカードの詳細

ラベル	説明
名前	カードのラベルを入力します。 必ず、 ナビゲーション・フロー設計のベスト・プラクティスおよび命名の考慮事項 に記載されている命名規則に従ってください。
表示可能	ホーム・ページ上でカードをユーザーに表示するかどうかを選択します。
クラスタ	クラスタが存在する場合、カードのクラスタを選択するか、「なし」を選択します。
アイコン	作成するカードについて表示するグラフィックを選択します。グラフィック・ライブラリで提供されている、使用可能なグラフィックから選択してください。
ページ・タイプ	「 単一ページ 」フォーマットまたは「 表形式ページ 」フォーマットを選択します。
コンテンツ・ソース	「 単一ページ 」フォーマットを選択した場合、「 アーティファクト 」または「 URL 」を選択します: <ul style="list-style-type: none">• アーティファクト については、 をクリックして、アーティファクト・ライブラリでアーティファクトを選択します。たとえば、アーティファクトがフォームである場合、アーティファクトのリストから特定のフォームを選択します。使用可能なアーティファクトには、フォーム、ダッシュボード、レポートがあります。別の環境からアーティファクトを選択するには、「自分の接続」でターゲット環境を選択し、追加するアーティファクトを選択します。• 「URL」については、完全な URL を入力します。たとえば、Oracle Analytics Cloud ダッシュボードをカードに埋め込むための URL を入力し、「プレビュー」をクリックしてポップアップ・ウィンドウで URL を検証します。 <code>https://セキュリティ・プロトコルで始まる外部サイトの URL のみを挿入します。内部または相対 URL や、同意していないサードパーティ・サイトの URL は使用しないでください。</code> EPM Cloud アプリケーションにサードパーティ・ページを埋め込むための URL の使用についてを参照してください。
向き	「 表形式ページ 」フォーマットを選択した場合、「 垂直 」または「 水平 」を選択し、新規または既存のタブおよびサブ・タブを追加します。 表形式ページへのタブの追加 を参照してください。

カードは、リスト内で現在選択されているカードまたはクラスタの下に兄弟として追加されます。カードをクラスタに追加するには、[クラスタへのカードのグループ化](#)を参照してください。

ノート:

最初にカードまたはクラスタを選択せずに追加されたカードは、リストの最後に追加されます。

4. 「保存して閉じる」をクリックします。

ナビゲーション・フローをリロードして設計時の変更を表示するには、[ナビゲーション・フローのリロード](#)を参照してください。

表形式ページへのタブの追加

タブは水平または垂直方向にすることができます。たとえば、「有効な交差」カード(「アプリケーション」クラスタの下)は、2つの水平タブ(「セットアップ」および「レポート」)がある表形式ページです。


ノート:

レッドウッド・エクスペリエンスが有効化されている場合、「設定」タブと「レポート」タブはページの下部にあります。

垂直タブのある表形式ページも作成できます。垂直タブにはグラフィックが表示され、カーソルをタブに置くと、テキストが表示されます。水平タブには、テキストのみまたはテキストとアイコンを含むラベルが表示されます。

最適なユーザー・エクスペリエンスを確実にするために、ナビゲーション・フロー設計のベスト・プラクティスを確認します。[ナビゲーション・フロー設計のベスト・プラクティスおよび命名の考慮事項](#)を参照してください。

表形式ページにタブを追加するには:

1. 「ナビゲーション・フロー」ページを開き、編集するナビゲーション・フローの名前をクリックします。[ナビゲーション・フローの表示と操作](#)を参照してください。
2. 編集するカードの名前をクリックして既存のカードを編集するか、カードを右クリック(または  をクリックし)、「カードの追加」をクリックして新しいカードを追加します。
3. 「カードの管理」ページで、次のオプションを選択します:
 - 「ページ・タイプ」で、「表形式ページ」を選択します。
 - 「向き」で、「垂直」または「水平」を選択します。「カードの管理」ページの下部にタブ・リストが表示されます。
4. 既存のタブを編集するには、タブのリストからタブ名をクリックし、タブの詳細を編集します。

5. 新規または既存のタブを追加するには:

- a. 既存のタブを追加するには、「**カードの管理**」ページの下部にあるリストでタブを右クリックし、「**既存タブの追加**」をクリックして(または「**既存タブの追加**」ボタンをクリックして)、オブジェクト・ライブラリからタブを選択した後、「**OK**」をクリックします。


 **ノート:**

参照タブは、別のナビゲーション・フローからすでに参照されているタブです。すでに参照されているタブへの参照は、ナビゲーション・フローではサポートされず、既存のタブを追加する際にオブジェクト・ライブラリで選択できません。次に例を示します:

- リモート・アーティファクトまたはリモート・サブ・タブを参照するタブは、既存のタブを追加する際にオブジェクト・ライブラリから使用できません。
- 別のナビゲーション・フローのサブ・タブを参照するタブは、既存のタブを追加する際にオブジェクト・ライブラリから使用できません。

- b. 新しいタブを追加するには、タブを右クリックし、「**新規タブの追加**」をクリック(または「**新規タブの追加**」ボタンをクリック)して、タブの詳細を編集します。

- c. 新しいタブのコンテンツを選択します:

- **アーティファクト**については、 をクリックして、アーティファクト・ライブラリでアーティファクトを選択します。たとえば、アーティファクトがフォームである場合、アーティファクトのリストから特定のフォームを選択します。使用可能なアーティファクトには、フォーム、ダッシュボード、レポートがあります。別の環境からアーティファクトを選択するには、「**自分の接続**」でターゲット環境を選択し、追加するアーティファクトを選択します。
- 「**URL**」については、完全な URL を入力します。たとえば、Oracle Analytics Cloud ダッシュボードをタブに埋め込むための URL を入力し、「**プレビュー**」をクリックしてポップアップ・ウィンドウで URL を検証します。

https://セキュリティ・プロトコルで始まる外部サイトの URL のみを挿入します。内部または相対 URL や、同意していないサードパーティ・サイトの URL は使用しないでください。[EPM Cloud アプリケーションにサードパーティ・ページを埋め込むための URL の使用について](#)を参照してください。

タブは、リスト内で現在選択されているタブの下に兄弟として追加されます。


 **ノート:**

最初にタブを選択せずに追加されたタブは、リストの最後に追加されます。

6. 新規または既存のサブ・タブをタブに追加するには:

- a. タブ・リストでタブの名前をクリックします。
- b. 「**ページ・タイプ**」で、「**表形式ページ**」を選択します。

- c. タブを右クリックし、「**新規サブ・タブの追加**」または「**既存サブ・タブの追加**」をクリックして(あるいは「**新規サブ・タブの追加**」または「**既存サブ・タブの追加**」ボタンをクリックして)、サブ・タブの詳細を編集します。
- d. 新しいサブ・タブのコンテンツを選択します:

- **アーティファクト**については、 をクリックして、アーティファクト・ライブラリでアーティファクトを選択します。たとえば、アーティファクトがフォームである場合、アーティファクトのリストから特定のフォームを選択します。使用可能なアーティファクトには、フォーム、ダッシュボード、レポートがあります。別の環境からアーティファクトを選択するには、「**自分の接続**」でターゲット環境を選択し、追加するアーティファクトを選択します。
- 「**URL**」については、完全な URL を入力します。たとえば、Oracle Analytics Cloud ダッシュボードをサブ・タブに埋め込むための URL を入力します。「**プレビュー**」をクリックしてポップアップ・ウィンドウで URL を検証します。

https://セキュリティ・プロトコルで始まる外部サイトの URL のみを挿入します。内部または相対 URL や、同意していないサードパーティ・サイトの URL は使用しないでください。[EPM Cloud アプリケーションにサードパーティ・ページを埋め込むための URL の使用について](#)を参照してください。

サブ・タブは、リスト内で現在選択されているタブの下に兄弟として追加されます。

ノート:

最初にタブを選択せずに追加されたサブ・タブは、リストの最後に追加されます。

7. 「保存して閉じる」をクリックします。

ナビゲーション・フローをリロードして設計時の変更を表示するには、[ナビゲーション・フローのリロード](#)を参照してください。

ノート:

- カードに複数のタブまたはサブ・タブがある場合、同じセッションで次にそのカードにアクセスすると、ユーザーが前回アクセスしたタブが開きます。ユーザーがログアウトして再度ログインした場合には、デフォルトのタブが表示されます。
- 別のナビゲーション・フローまたは別の環境から追加されるタブまたはサブ・タブには、ソース・ナビゲーション・フローで定義されたローカライズされたラベルが表示されます。ナビゲーション・フローでタブ・ラベルを更新するには、ホーム・ページで「**ツール**」、「**アーティファクト・ラベル**」の順にクリックします。

アーティファクト・ラベルの指定を参照してください。

URL を使用した EPM Cloud アプリケーションへのサード・パーティ・ページの埋込みについて

Oracle Enterprise Performance Management Cloud では、IFrame を使用して、サード・パーティの URL を埋め込みます。IFrame では、埋込み先のページは、埋込み元のページに承認を付与する必要があります。たとえば、sharepoint.com から EPM Cloud アプリケーションにページを埋め込む場合、sharepoint.com は、sharepoint.com からページを埋め込むことを oraclecloud.com に許可する必要があります。

これを実行するには、ページを埋め込む必要がある Web アプリケーションの [コンテンツ・セキュリティ・ポリシー](#) に oraclecloud.com を追加します。

また、サード・パーティ・ページを埋め込むときは、ページがパブリックに使用可能か、またはログインが必要かを検討する必要があります。たとえば、wikipedia.org からのページは認証が必要ありません。

認証が必要なページを埋め込む場合は、ページに対して SSO を埋め込むことができるかどうかを確認する必要があります。不可の場合、ページは IFrame 内にロードできない場合があります。回避策として、別のブラウザ・タブで対象の Web アプリケーションにログインし、EPM Cloud アプリケーションから同じページにアクセスするとページが開きます。

この URL サポート機能により、次のタイプのページを埋め込むことができます:

- 他の Oracle 製品(SSO の有効化が必要)
- 顧客が所有する Web アプリケーション(コンテンツ・セキュリティ・ポリシーの更新、SSO の有効化などにより、EPM Cloud アプリケーションの許可が必要)
- パブリック・ドメインからのページ(wikipedia.org など)

Note:

Oracle ではサポートされていませんが、次のリソースへのリンクもナビゲーション・フロー・カード、タブおよびサブ・タブ内に埋め込みます。

- Google Sheets
- Google Drive に保存されているファイル(PDF や Excel など)
- Microsoft Office 365 に保存されているファイル

サード・パーティ・サイトの指示に従って URL を生成し、EPM Cloud アプリケーション内で使用できます。


ナビゲーション・フロー、カードおよびタブの削除

次のナビゲーション要素は削除できません。

- 「アプリケーション」クラスタと、「アプリケーション」クラスタの「設定」アイコン。
- 「ツール」クラスタと、「ツール」クラスタの次のアイコン:
 - アクセス制御



- ナビゲーション・フロー
- 日次メンテナンス
- 移行

ナビゲーション・フロー、カードおよびタブを削除するには:

1. 「ナビゲーション・フロー」ページを開きます。ナビゲーション・フローの表示と操作を参照してください。
2. ナビゲーション・フローを削除する場合:
 - a. 削除するナビゲーション・フローを選択します。
 - b. ページの右上隅で  をクリックし、「削除」をクリックします。

ノート:

デフォルトと呼ばれる事前定義済ナビゲーション・フローは削除できません。

3. カードを削除する場合:
 - a. 編集するナビゲーション・フローの名前をクリックします。
 - b. 削除するカードの「削除」列で  をクリックします。
4. タブを削除する場合:
 - a. 編集するナビゲーション・フローの名前をクリックします。
 - b. 編集するカードの名前をクリックします。
 - c. 「タブの管理」ページの下部にあるタブ・リストで、削除するタブの「削除」列の  をクリックします。

ナビゲーション・フローをリロードして設計時の変更を表示するには、ナビゲーション・フローのリロードを参照してください。

クラスタへのカードのグループ化


クラスタは、カードのグループです。最初にクラスタを作成する必要があり、その後でカードを割り当てることができます。既存のクラスタをナビゲーション・フローに追加することもできます。

最適なユーザー・エクスペリエンスを確実にするために、ナビゲーション・フロー設計のベスト・プラクティスを確認します。ナビゲーション・フロー設計のベスト・プラクティスおよび命名の考慮事項を参照してください。

カードをクラスタに割り当てるには:

1. 新しいクラスタを作成するか、既存のクラスタを追加します。
 - a. 「ナビゲーション・フロー」ページを開き、クラスタを追加するナビゲーション・フローの名前をクリックします。ナビゲーション・フローの表示と操作を参照してください。

- b. 新しいクラスタを作成するには、リスト内のカードまたはクラスタを右クリック(または **+** をクリック)し、「**クラスタの追加**」をクリックし、クラスタの詳細を入力または選択して、クラスタのグラフィックを選択します。

 **ノート:**

必ず、[ナビゲーション・フロー設計のベスト・プラクティス](#)および[命名の考慮事項](#)に記載されている表示規則および命名規則に従ってください。

クラスタは、現在選択されているクラスタの下の兄弟としてリストに追加されます。

 **ノート:**

カードまたはクラスタを最初に選択せずに追加されたクラスタは、リストの最後に追加されます。

- c. 既存のクラスタを追加するには、リスト内のカードまたはクラスタを右クリック(または **+** をクリック)し、「**既存のカード/クラスタの追加**」をクリックします。別の環境の既存のクラスタを追加する場合は、リスト内のカードまたはクラスタを右クリック(または **+** をクリック)し、「**既存のカード/クラスタの追加**」をクリックし、「**自分の接続**」でターゲット環境を選択して、ナビゲーション・フローに追加するクラスタを選択します。



 **ノート:**

- Narrative Reporting および Profitability and Cost Management から「**既存のカード/クラスタの追加**」オプションを使用してクラスタを直接選択することはできません。
- 別のナビゲーション・フローまたは別の環境から追加されるクラスタには、ソース・ナビゲーション・フローで定義されたローカライズされたラベルが表示されます。ナビゲーション・フローでクラスタ・ラベルを更新するには、ホーム・ページで「**ツール**」、「**アーティファクト・ラベル**」の順にクリックします。
アーティファクト・ラベルの指定を参照してください。
- 参照クラスタは、別のナビゲーション・フローからすでに参照されているクラスタです。すでに参照されているクラスタへの参照は、ナビゲーション・フローではサポートされず、既存のクラスタを追加する際にオブジェクト・ライブラリで選択できません。

クラスタは、現在選択されているカードまたはクラスタの下の兄弟としてリストに追加されます。

ノート:

カードまたはクラスタを最初に選択せずに追加されたクラスタは、リストの最後に追加されます。

- d. 「保存して閉じる」をクリックします。
2. 次のいずれかのオプションを使用して、クラスタに含めるカードを選択します:
 - a. 追加するカードに移動します。カードが別の環境に含まれている場合は、最初に「**自分の接続**」で環境を選択してから、その環境内のカードにナビゲートします。次のいずれかのオプションを使用して、カードをクラスタに割り当てます:
 - 「**順序**」列のカードの右側にある  をクリックし、クラスタを選択して、「**OK**」をクリックします。
 - カードの名前をクリックしてカードの詳細を表示し、「**クラスタ**」でカードのクラスタを選択して「**OK**」をクリックします。
 - b. カードを追加するクラスタに移動し、クラスタを右クリック(または  をクリック)し、「**クラスタにカードを追加**」をクリックして、次のいずれかのオプションを選択します:
 - **既存のカードの追加**を選択して、既存のカードを選択するか、選択したクラスタに別のクラスタから既存のカードを追加します。
 - 「**カードの追加**」を選択し、カードの詳細を入力して、選択したクラスタに新しいカードを追加します。

ノート:

カードまたはクラスタが別のナビゲーション・フローからすでに参照されている場合、カードをクラスタに追加できません。

- c. 「保存して閉じる」をクリックします。

カードがクラスタの子としてリストに表示されます。必要に応じて、カードの横にある上矢印と下矢印を使用して、クラスタ内でカードの順序を変更します。

ナビゲーション・フローをリロードして設計時の変更を表示するには、[ナビゲーション・フローのリロード](#)を参照してください。

ナビゲーション・フローのリロード

ナビゲーション・フローの操作時に設計変更を表示するには、ナビゲーション・フローをリロードします。

設計変更を行った後にナビゲーション・フローをリロードするには:

1. ホーム・ページから、ユーザー名の横の下向き矢印をクリックします(画面の右上隅)。
2. 「**設定およびアクション**」メニューで、「**ナビゲーション・フローのリロード**」をクリックします。

実行時のナビゲーション・フローの切替え

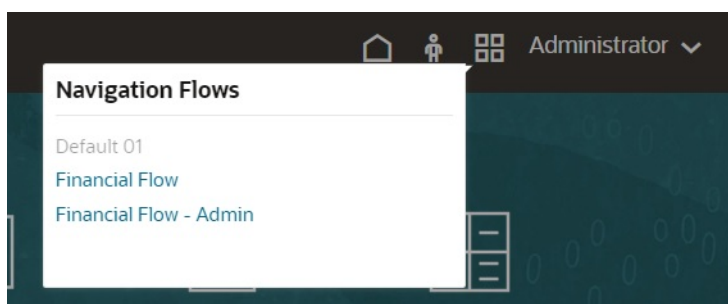
複数のグループに属している場合、またはナビゲーション・フローが役割に割り当てられている場合、複数のナビゲーション・フローにアクセスできます。

ノート:

サービス管理者役割を割り当てられたユーザーはすべてのナビゲーション・フローにアクセスできます。

実行時にナビゲーション・フローを切り替えるには:

1. ホーム・ページで  をクリックします。
2. 表示するナビゲーション・フローを選択します。



日次メンテナンス・プロセス時間の設定

Enterprise Profitability and Cost Management では、定期的なメンテナンスを実行するために毎日 1 時間が必要です。サービス管理者は都合のよい時間を選択(および変更)して 1 時間のメンテナンス・プロセスを開始できます。定期的なメンテナンスに加えて、必要なパッチがこのメンテナンス・プロセス中に Enterprise Profitability and Cost Management インスタンスに適用されます。

Enterprise Profitability and Cost Management インスタンスはメンテナンス・プロセス中には使用できないため、サービス管理者は誰もビジネス・プロセスを使用しない 1 時間を特定する必要があります。接続ユーザーはすべてログオフされ、保存されていないデータは失われます。

デフォルトのメンテナンス開始時刻は、太平洋標準時刻(PST)の午前 0 時です。インスタンスのデフォルトの開始時刻をリセットしない場合、ビジネス・プロセス・メンテナンス時間を削減するために、開始時刻を 10:00 p.m. から 2:00 a.m. PST までのランダムな時刻にリセットされます。

メンテナンス開始時刻を午前 0 時(PST)にする場合は、次の手順を使用して選択する必要があります。その場合、ユーザーの選択内容は変更されません。

自動化されたメンテナンス・ウィンドウを管理するには:

1. ホーム・ページで、「ツール」、「日次メンテナンス」の順に選択します。
2. 「日次メンテナンス」タブの「開始時間」フィールドで、日次メンテナンス・プロセスを開始する時間を選択し、ドロップダウン・リストからタイム・ゾーンを選択します。
3. 「コンテンツ更新の設定」タブで、スケジュールされたメンテナンスのどれくらい後にコンテンツを更新するかを指定します。コンテンツを自動的に更新するには、「**今後はアプリケーション・コンテンツを自動的に更新する**」の横にあるチェック・ボックスを選択します。
4. 「保存」をクリックします。

日次メンテナンスのスケジュール

環境の日次メンテナンス操作とメンテナンス開始時間のスケジュールについては、*Oracle Enterprise Performance Management Cloud 管理者スタート・ガイド*の日次メンテナンスの管理を参照してください。

Note:

「日次メンテナンス時に増分データ・インポートのために EPM Cloud スマート・リストのテキスト・データをエクスポート」というシステム設定があり、この設定が有効になっているかどうかによって、エクスポートの時間に影響を与える可能性があります。この設定の使用に関する詳細および推奨事項については、*Oracle Enterprise Performance Management Cloud オペレーション・ガイド*の日次メンテナンス時に増分データ・インポートのためにスマート・リストのテキスト・データをエクスポートを参照してください。

スケジュール済のジョブが原因で自動バックアップが失敗するのを防ぐために、Oracle Enterprise Performance Management Cloud では、日次メンテナンス・プロセスの実行中は特定のスケジュール済ジョブの開始が許可されません。

次のジョブは、日次メンテナンス中は開始できません:

- データのインポート
- メタデータのインポート
- データのエクスポート
- メタデータのエクスポート
- データベースのリフレッシュ
- キューブのクリア
- キューブの再構築
- アウトラインの圧縮
- データ・スライスのマージ
- 集約の最適化

システムによってジョブの開始が防止された場合は、その理由がジョブの詳細に表示されます。ジョブ・コンソールの電子メール通知を有効にしている場合は、ジョブが

開始されないときに電子メール通知を受け取ります。日次メンテナンス・プロセス中に開始するようにスケジュールされているジョブがある場合は、日次メンテナンス・ウィンドウ外で開始するようにジョブを再スケジュールすることをお勧めします。[ジョブのスケジュール](#)を参照してください。

EPM Cloud での環境の接続

次も参照:

- [EPM Cloud 環境の接続について](#)
- [EPM Cloud 接続を移行する際の考慮事項](#)
- [他の EPM Cloud 環境への接続の作成、編集および削除](#)
- [外部 Web サービスへの接続](#)
- [外部接続の詳細設定オプションの指定](#)
- [EPM Cloud 環境間の移動](#)
- [他の EPM Cloud 環境にアクセスするためのナビゲーション・フローのカスタマイズ](#)
- [接続された環境を統合するためのダイレクト URL の使用](#)

EPM Cloud 環境の接続について

概要

サービス管理者は、次のタイプの複数の EPM Cloud 環境を接続できます。

- Account Reconciliation
- Enterprise Profitability and Cost Management
- Financial Consolidation and Close
- フリーフォーム
- Narrative Reporting
- Planning
- Planning モジュール
- Profitability and Cost Management
- Sales Planning
- Strategic Workforce Planning
- Tax Reporting

サービス管理者が接続を設定すると、EPM Cloud 環境全体に対するアクセス権を持つユーザーは、1 回のログインで単一のアクセス・ポイントから複数の環境間をナビゲートできるようになります。フォームやダッシュボードなど、複数の環境からのアーティファクトについても、ナビゲーション・フローのクラスタ内またはカード上のタブ内で混合できます。ターゲット環境に含まれるアーティファクトへのアクセス権はユーザーの役割によって決まります。

ノート:

Oracle Analytics Cloud Enterprise Edition または Professional Edition 5.6 から EPM Cloud プラットフォームに直接接続することもできます(両方のサービスを使用している場合)。接続を構成した場合は、Oracle Analytics Cloud の EPM Cloud ビジネス・プロセスからデータをビジュアル化できます。Oracle Analytics Cloud でビジュアライゼーションおよびダッシュボードを作成するために、メタデータ・リポジトリ(RPD)ファイルで EPM データをモデル化する必要はありません。詳細は、Oracle Analytics Cloud ドキュメントを参照してください。

また、Oracle NetSuite Account Reconciliation および Oracle NetSuite Planning and Budgeting にも接続できます。

どちらの環境に接続できるか。

ソース環境とは、接続の作成元となる環境です。ターゲット環境とは、ソース環境から接続する環境です。


次のソース環境を接続できます(これらの環境はターゲット環境にすることもできます):

- Enterprise Profitability and Cost Management
- フリーフォーム
- Financial Consolidation and Close
- Oracle NetSuite Planning and Budgeting
- Planning
- Planning モジュール
- Sales Planning
- Strategic Workforce Planning
- Tax Reporting

また、ソース環境は次のターゲット環境に接続できます(これらの環境はソース環境にすることはできません)。

- Account Reconciliation
- Narrative Reporting
- Oracle NetSuite Account Reconciliation
- Profitability and Cost Management

他の EPM Cloud 環境に接続する方法

- 「ナビゲータ」メニューでソース環境とターゲット環境間を切り替えます。[EPM Cloud 環境間のナビゲート](#)を参照してください。
- ソース環境のナビゲーション・フローをカスタマイズして、ホーム・ページから他のターゲット環境のクラスタ、カードおよびアーティファクトにアクセスできるよ

うにします。他の [EPM Cloud 環境にアクセスするためのナビゲーション・フローのカスタマイズ](#) を参照してください。

- [ダイレクト URL を使用して、接続された環境をシームレスに統合します。接続された環境を統合するためのダイレクト URL の使用](#) を参照してください。

考慮事項

- サービス管理者のみが環境間接続を作成します。
ユーザーがナビゲーション・リンクをクリックすると、リンク先の環境が開きます。リンク先の環境内でのアクセスは、ユーザーに割り当てられた事前定義済の役割とアクセス権限(存在する場合)によって決まります。
- 環境間をシームレスにナビゲートするためには、環境間のナビゲーション・フローが設定されているすべての環境インスタンスが同じアイデンティティ・ドメインに属している必要があります。

ノート:

ターゲットとソースの環境インスタンスが同じアイデンティティ・ドメインに属していない場合は、それらのインスタンス間の接続を確立できません。

- サービス管理者が、企業の **SSO (アイデンティティ・プロバイダ)** 資格証明を使用して環境間接続を構成することはできません。
環境が **SSO** 用に構成されている場合は、環境間接続を構成するサービス管理者に、アイデンティティ・ドメイン資格証明が保持されている必要があります。アイデンティティ・ドメイン資格証明によるサインインの有効化を参照してください。
- 特定のコース・ケース・シナリオでは、テスト環境と本番環境の間で環境間接続を移行すると、問題が発生することがあります。詳細は、[EPM Cloud 接続を移行する際の考慮事項](#) を参照してください。
- 環境間接続でバニティ URL はサポートされていません。

トラブルシューティング

環境を接続する際の一般的なエラーを修正する方法については、*Oracle Enterprise Performance Management Cloud オペレーション・ガイド* のナビゲーション・フローに関する問題の処理を参照してください。

ビデオ

目的

EPM Cloud ワークフローをカスタマイズする方法を学習するには、このビデオをご覧ください。

次のビデオを視聴



概要: [EPM Cloud ビジネス・プロセスを統合するためのナビゲーション・フローの構成](#)

EPM Cloud 接続を移行する際の考慮事項

オラクル社では、サービス管理者が環境の接続などの新機能をテスト環境で試してから本番環境に移行することが一般的であると認識しています。ただし、そうすると、移行後に問題

が発生する可能性があります。ここでは、知っておく必要があるユース・ケース・シナリオをいくつか説明します。

次のシナリオでは、Financial Consolidation and Close および Planning の環境があることが前提となります。

ユースケース・シナリオ 1: テストから本番へ

テスト環境の接続を本番環境に移行する場合、テスト環境で定義された接続が対応する本番環境を指すように変更されていることを確認してください。

たとえば、サービス管理者が Planning と Financial Consolidation and Close のテスト環境間の接続を定義したとします。その後、サービス管理者はこの接続を使用して、Financial Consolidation and Close のカードを参照するナビゲーション・フローを Planning 内に構築します。サービス管理者が Planning テスト環境の移行のために作成するスナップショットには、Financial Consolidation and Close テスト環境への接続を含む、接続およびナビゲーション・フローが含まれます。

このスナップショットを Planning 本番環境に移行すると、Planning には Financial Consolidation and Close テスト環境への不要な接続が含まれることとなります。環境の移行前または移行後に、不要な接続を、対応する本番環境を指すように手動で変更する必要があります。

ユースケース・シナリオ 2: 本番から本番へまたはテストからテストへ

このシナリオでは、警告する点はありません。

ユースケース・シナリオ 3: 本番からテストへ

このシナリオでは、サービス管理者が問題を解決するためにスナップショットを本番環境からテスト環境に移行しようとしている可能性があります。テスト環境で作成された接続はまだ本番環境を指しているため、サービス管理者がテスト環境を指すように接続を変更することが重要です。テスト環境に本番インスタンスを指す接続があると、本番環境が誤って改ざんされる可能性があります。

他の EPM Cloud 環境への接続の作成、編集および削除

他の EPM Cloud 環境への接続を作成する前に、接続するソースとターゲットの環境に対するアクセス権があることを確認してください。また、接続する他の環境の URL および各環境のログイン詳細(サービス管理者としてのユーザー ID とパスワードなど)も必要です。

接続を作成、編集、複製および削除するには:

1. ソース環境にログインします。
2. ホーム・ページから、「ツール」、「接続」の順にクリックします。
3. 次のいずれかの操作を選択します。
 - 接続を追加するには:
 - a. 「接続の管理」ページで、「作成」をクリックします。
 - b. 接続を作成するためのプロバイダの選択ページで、追加するターゲット環境を選択します。

- c. ターゲット環境の接続詳細を入力します。
 - 「**プロバイダの変更**」をクリックして、別のターゲット環境を選択します。
 - 「**接続名**」に、このナビゲーション・リンクの名前を入力します。例:
Consolidation Application。
 - オプションで、リンクの説明を入力します。
 - 「**URL**」に、ターゲット環境インスタンスの **URL** (`http(s)://your-target-host-url.com` など)を入力します。ターゲット環境インスタンスにサインインするには、通常、この **URL** を使用することになります。
 - 「**サービス管理者**」および「**パスワード**」を使用して、サービス管理者の資格証明を指定します。

 **ノート:**

- * この資格証明は、ナビゲーション・リンクの定義と検証にのみ使用されます。ユーザーがログインしてターゲット環境にアクセスするには、それぞれ独自の役割およびアクセス権が適用されます。
- * 他の **EPM Cloud** 環境への接続については、ユーザー名の前にドメイン名を付けないでください。ただし、他の外部 **Web** サービスへの接続には、やはりドメイン名が必要です。[外部 Web サービスへの接続](#)を参照してください。



- 「**ドメイン**」フィールドに、ユーザーが入力した **URL** に基づいて値が自動的に入力されます。**URL** にドメインがない場合、「**ドメイン**」フィールドは空白のままになります。
- d. 「**検証**」をクリックします。
- e. 検証が成功したら、「**保存して閉じる**」をクリックします。
- 接続を編集するには:
 - a. 「**接続の管理**」ページで、接続の名前をクリックします。
 - b. 接続の詳細を編集します。

 **ノート:**

新規サービス・タイプに接続するように **URL** を編集すると、ナビゲーション・フローが破損する可能性があります。異なるサービスに接続する必要がある場合は、かわりに新しい接続を作成することをお勧めします。

- c. 「**検証**」をクリックします。
- d. 検証が成功したら、「**保存して閉じる**」をクリックします。
- 接続を複製するには:

- a. 「**接続の管理**」ページの、複製する接続の横にある「**アクション**」列で、**...**をクリックします。
 - b. 「**複製**」をクリックします。
 - c. 複製した接続の名前を入力して、「**OK**」をクリックします。
- 接続を削除するには:
 - a. 「**接続の管理**」ページの、削除する接続の横にある「**アクション**」列で、**...**をクリックします。
 - b. 「**削除**」をクリックします。

EPM Cloud ソース環境に接続されたターゲット環境は、ソース環境の「**ナビゲータ**」メニューの「**自分の接続**」ペインにリストされます。「**ナビゲータ**」メニューの「**自分の接続**」ペインでは、環境間をナビゲートできます。[EPM Cloud 環境間のナビゲート](#)を参照してください。

トラブルシューティング

トラブルシューティングのサポートは、*Oracle Enterprise Performance Management Cloud オペレーション・ガイド*の[ナビゲーション・フローに関する問題の処理](#)を参照してください。

外部 Web サービスへの接続

サービス管理者はまた、外部 Web サービスからのデータの読み取りや外部 Web サービスへの書き込みのために外部 Web サービスに接続できます。

この接続を Groovy スクリプトで参照または使用して、Groovy スクリプトと外部 HTTP/HTTPS リソース間に通信リンクを作成できます。この接続を Groovy スクリプトで使用方法の詳細および例は、EPM Groovy オブジェクト・モデルの [Connection](#) および [HttpRequest](#) オブジェクトについて、[Java API ドキュメント](#)を参照してください。

ノート:

「**その他の Web サービス・プロバイダ**」接続タイプは、Groovy ルールを作成可能なビジネス・プロセスでのみ使用できます。[Oracle Enterprise Performance Management Cloud](#)、[Groovy ルール Java API リファレンス](#)を参照してください。

外部 Web サービスへの接続を作成する前に、接続する Web サービスへのアクセス権があることを確認する必要があります。場合によっては Web サービスの URL およびログイン詳細も必要です。

外部 Web サービスへの接続を作成するには:

1. ソース環境にログインします。
2. ホーム・ページから「**ツール**」をクリックして、次に「**接続**」をクリックします。
3. 「**接続の管理**」ページで、「**作成**」をクリックします。

4. 「**その他の Web サービス・プロバイダ**」をクリックします。
5. **接続名**および**接続の説明**を入力します。
6. ターゲット接続の **URL** を入力します。
7. URL の詳細設定オプションを必要に応じて入力します。

 **ノート:**

オプションの詳細設定オプションでは、外部接続を定義するときに問合せまたはヘッダー・パラメータを指定できます。[外部接続の詳細設定オプションの指定](#)を参照してください。

8. 必要に応じて、接続の**ユーザー**および**パスワード**・ログイン資格証明を入力します。Oracle Fusion Cloud EPM サービスへの接続など、場合によってはユーザー名の前にドメイン名を付ける必要があります(例: <アイデンティティ・ドメイン>.<ユーザー名>)。

EPM Cloud REST API の基本認証と、アイデンティティ・ドメインを確認する手順を理解するには、*Enterprise Performance Management Cloud* の REST API の基本認証 - クラシックおよび OCI を参照してください。
9. 「**保存して閉じる**」をクリックします。

外部接続の詳細設定オプションの指定

オプションの詳細設定オプションでは、外部接続を定義するときに問合せまたはヘッダー・パラメータを指定できます。

 **ノート:**

外部接続の問合せパラメータを定義する機能は、Groovy ルールを作成可能なビジネス・プロセスでのみ使用できます。[Oracle Enterprise Performance Management Cloud、Groovy ルール Java API リファレンス](#)を参照してください。

外部接続の詳細設定オプションを指定するには:

1. 外部接続を作成するか、既存の外部接続をオープンします。
[外部 Web サービスへの接続](#)を参照してください。
2. 接続の詳細を入力し、「**詳細設定オプションを表示**」をクリックします。
3. 次のように問合せ詳細を指定します。
 - **+**: 問合せの追加
 - **X**: 問合せの削除
 - **タイプ**: 「**ヘッダー**」または「**パラメータ**」を選択します。

ヘッダーでは、この接続に対して行われるすべての要求で送信されるデフォルト・ヘッダーを設定します。**パラメータ**では、この接続に対して行われるすべての要求で送信されるデフォルトの問合せパラメータを設定します。

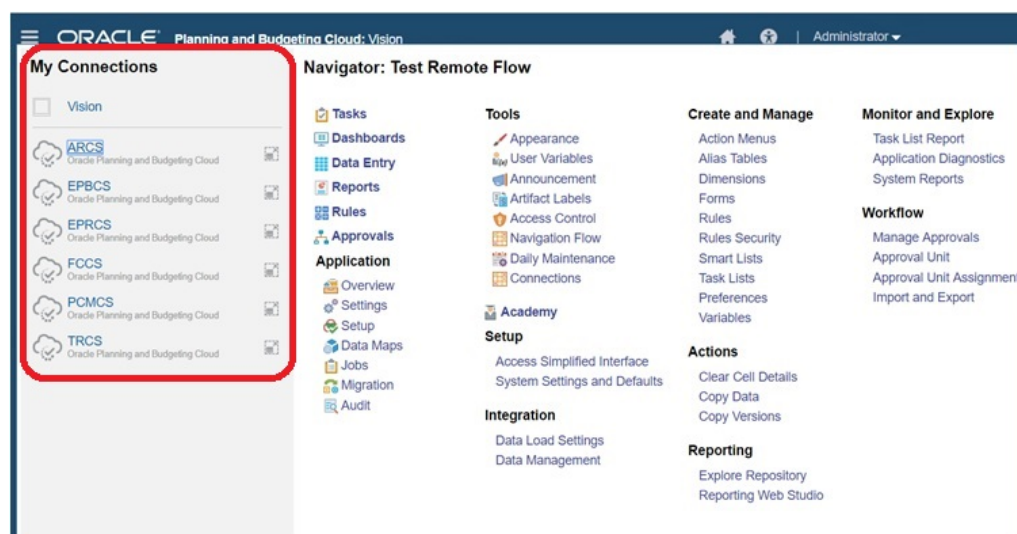
- **保護**: 選択すると、「値」フィールドに入力された値が暗号化されます。行の「保護」チェック・ボックスをクリアすると、値が削除されます。

保護するヘッダーの例としては、ベアラー認証をサポートする外部 Web サービスのベアラー・トークン、認証に API キーをサポートする外部 Web サービスの API キー問合せパラメータがあります。

- **名前**: ヘッダーまたは問合せパラメータの名前を入力します。
- **値**: ヘッダーまたは問合せパラメータの値を入力します。


EPM Cloud 環境間のナビゲート

サービス管理者が他の EPM Cloud 環境への接続を作成したら、接続が「ナビゲータ」メニューの「自分の接続」ペインにリストされます。



ここで環境間を切り替えることができます。他の環境を開くためには、それらの環境へのアクセス権が必要です。アーティファクトは、ユーザーの役割に基づいてアクセスできます。

別の Oracle Enterprise Performance Management Cloud 環境を開くには:

1. ホーム・ページで、「ナビゲータ」をクリックします。
2. 環境が接続され、自分にそれらの環境へのアクセス権がある場合は、接続された環境のリストが「自分の接続」ペインに表示されます。環境をクリックして開きます。

ノート:

環境名の右側にあるアイコンをクリックすると、その環境が新しいウィンドウで開きます。

他の EPM Cloud 環境にアクセスするためのナビゲーション・フローのカスタマイズ

ビジネス・プロセス・インタフェースをカスタマイズして、ソース環境のホーム・ページから他の EPM Cloud 環境にアクセスできます。たとえば、他の EPM Cloud 環境からのアーティファクト(フォームやレポートなど)をホーム・ページに追加できます。ナビゲーション・フローをカスタマイズして、これらのアーティファクト(カードと呼ぶ)をクラスタにグループ化できます。ターゲット EPM Cloud 環境のクラスタおよびカードを、ソース EPM Cloud 環境のナビゲーション・フローに直接追加できます。ナビゲーション・フロー・デザイナーを使用してカードをカスタマイズし、それぞれ異なる環境からのアーティファクトを示すタブ形式のページで構成することもできます。

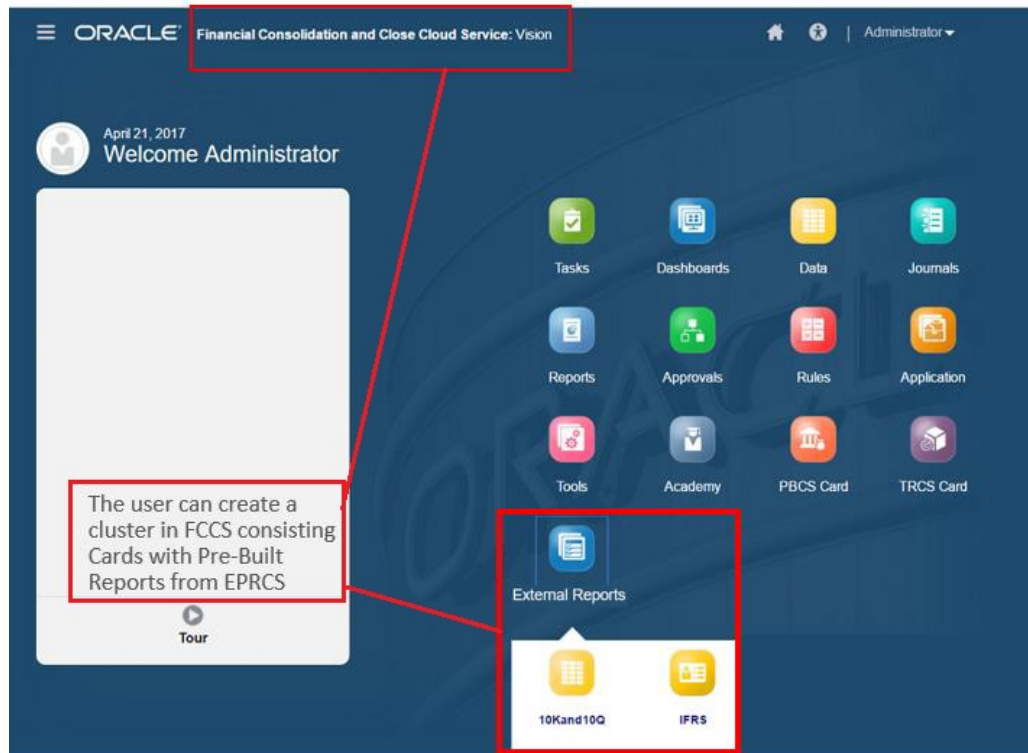
次の 2 つのユース・ケースでは、他の EPM Cloud 環境にアクセスできるようにナビゲーション・フローをカスタマイズする方法を詳しく説明しています:

- [他の EPM Cloud 環境からクラスタへのカードのグループ化](#)
- [複数 EPM Cloud 環境からのタブのあるカードの構成](#)

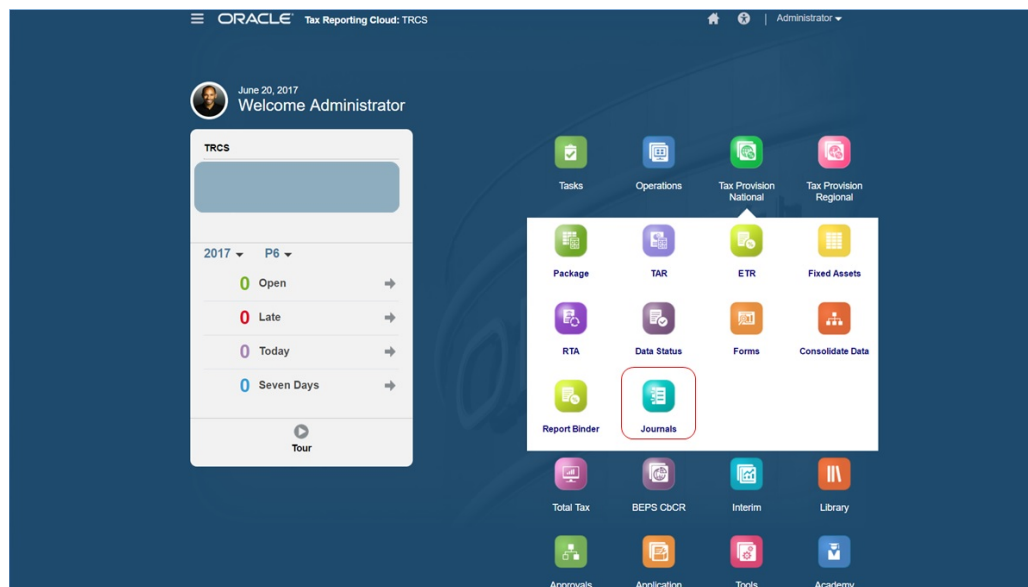
ナビゲーション・フローの設計についてさらに学習するには、カスタム・ナビゲーション・フローの設計を参照してください。

他の EPM Cloud 環境からクラスタへのカードのグループ化

様々な EPM Cloud 環境のカードをクラスタにグループ化して、ソース環境のホーム・ページからアクセスできるようにすることができます。たとえば、Narrative Reporting からの事前作成済の外部レポートのカードで構成されるクラスタを、Financial Consolidation and Close 内に作成できます。



複数の環境のカードをソース環境の同一クラスタ内にも含めることもできます。たとえば、Tax Reporting ユーザーは、Tax Reporting から移動せずに Financial Consolidation and Close から「仕訳」アイコンを起動できます。



ナビゲーション・フローをカスタマイズして、クラスタを作成し、クラスタにカードを追加します。


ナビゲーション・フローの全般情報は、カスタム・ナビゲーション・フローの設計を参照してください。

他の EPM Cloud 環境のカードからなるクラスタを作成するには:

1. 「ナビゲーション・フロー」ページを開き、ナビゲーション・フローを作成するか、既存のナビゲーション・フローを編集します。

 **ノート:**

ナビゲーション・フローを作成するには、最初に既存のナビゲーション・フローを選択し、そのコピーを作成する必要があります。その後、複製したナビゲーション・フローの詳細を編集して保存します。

- a. 「ツール」、「ナビゲーション・フロー」の順にクリックします。
- b. ナビゲーション・フローを作成するには、コピーするナビゲーション・フローを選択し、ページの右上隅にある  をクリックして、「コピーの作成」を選択します。ナビゲーション・フローの名前を入力し、「OK」をクリックします。


 **ノート:**

新しいフローは、サービス管理者がアクティブにするまで「非アクティブ」に設定されます。ナビゲーション・フローをアクティブ化または非アクティブ化するには、「アクティブ」列で「アクティブ」または「非アクティブ」をクリックします。一度にアクティブにできるナビゲーション・フローは1つのみです。

- c. 既存のナビゲーション・フローを編集するには、編集するナビゲーション・フローの名前をクリックします。

 **ノート:**



編集できるのは、ナビゲーション・フローがアクティブでない場合のみです。編集しようとするナビゲーション・フローがアクティブな場合は、「非アクティブ」とマークしてから編集します。

2. クラスタを作成する、または既存のクラスタを追加するには:
 - a. まだ開いていない場合は、「ナビゲーション・フロー」ページから、クラスタを追加するナビゲーション・フローの名前をクリックします。
 - b. 新しいクラスを作成するには、カードまたはクラスタを右クリック(または  をクリック)して「クラスタの追加」をクリックし、クラスタの詳細を入力または選択してから、クラスタのアイコンを選択します。
 - c. 別の環境の既存のクラスタを追加するには、カードまたはクラスタを右クリック(または「既存のカード/クラスタの追加」をクリック)し、「自分の接続」でターゲット環境を選択して、ナビゲーション・フローに追加するクラスタを選択します。
次の点に注意してください。

- Narrative Reporting および Profitability and Cost Management から **「既存のカード/クラスタの追加」** オプションを使用してクラスタを直接選択することはできません。
- 別のナビゲーション・フローまたは別の環境から追加されるクラスタには、ソース・ナビゲーション・フローで定義されたローカライズされたラベルが表示されます。ナビゲーション・フローでクラスタ・ラベルを更新するには、ホーム・ページで **「ツール」**、**「アーティファクト・ラベル」** の順にクリックします。

アーティファクト・ラベルの指定を参照してください。

3. 次のいずれかのオプションを使用して、クラスタに含めるカードを選択します:

- クラスタに追加するカードに移動します。カードが別の環境に含まれている場合は、最初に **「自分の接続」** で環境を選択してから、その環境内のカードにナビゲートします。次のいずれかのオプションを使用して、カードをクラスタに割り当てます:
 - **「順序」** 列で、移動するカードの右側にある  をクリックします。クラスタを選択し、**「OK」** をクリックします。
 - カードの名前をクリックしてカードの詳細を表示し、**「クラスタ」** でカードのクラスタを選択して **「OK」** をクリックします。
- 新しいカードを追加するクラスタに移動します。クラスタが別の環境に含まれている場合は、最初に **「自分の接続」** で環境を選択してから、その環境内のクラスタに移動します。クラスタを右クリック(または  をクリック)して **カードをクラスタに追加** をクリックし、オプションを選択します:
 - 既存のカードを選択、または別のクラスタから選択したクラスタに既存のカードを追加するには、**既存のカードの追加** を選択します。
 - 新しいカードを選択したクラスタに追加するには、**「カードの追加」** を選択し、カードの詳細を入力します。

ノート:

カードまたはクラスタが別のナビゲーション・フローからすでに参照されている場合、カードをクラスタに追加できません。

カードがクラスタの子としてリストに表示されます。必要に応じて、カードの横にある上矢印と下矢印を使用して、クラスタ内でカードの順序を変更します。

4. **「保存して閉じる」** をクリックします。

設計時の変更を表示するには、ナビゲーション・フローをアクティブにしてリロードする必要があります。ナビゲーション・フローをリロードするには、下矢印をクリックします。次に、**「設定およびアクション」** メニューで **「ナビゲーション・フローのリロード」** をクリックします。

Settings and Actions

[Reload Navigation Flow](#)

[Downloads...](#)

[Help...](#)

[Cloud Customer Connect](#)

[Provide Feedback...](#)

[Oracle Support...](#)

[About...](#)

[Sign Out](#)

トラブルシューティング

ナビゲーション・フローのアクティブ化およびリロード後に、参照されるアーティファクトが表示されない場合は、*Oracle Enterprise Performance Management Cloud* オペレーション・ガイドのナビゲーション・フローに関する問題の処理を参照してください。

複数 EPM Cloud 環境からのタブのあるカードの構成

ナビゲーション・フローのカードをカスタマイズし、それぞれ異なる環境からのアーティファクトを示すタブ形式のページで構成することもできます。たとえば、**Planning** ユーザーは、「収益」アイコンをクリックして、**Narrative Reporting** からのレポートを表示する水平タブを含むカードを起動できます。

The screenshot shows the Oracle Planning and Budgeting Cloud interface. At the top, there are navigation icons for Revenue, Expense, Balance Sheet, Cash Flow, and Analysis. Below these, a horizontal tab bar is visible with the following tabs: Revenue | Income Statement | Rolling Forecast | Income Statement Rolling Forecast | **Income Statement Trend** | Sales Summary. The 'Income Statement Trend' tab is active and displays a table titled 'Vision Operations Income Statement Trend'. The table shows financial data for various categories over a 12-month period from January to December, along with a YTD (Year-to-Date) column. The data is presented in a grid format with columns for 'Actual' and 'Plan' for each month, and a 'YTD' column at the end.

	Actual		Plan										YTD
	Jan	Feb	Mar	Apr	May	Jun	Jul	Aug	Sep	Oct	Nov	Dec	
Net Revenue	125,017	111,561	140,997	141,936	142,904	157,731	148,385	110,093	182,352	142,464	142,627	139,291	1,685,358
Cost of Sales	81,013	71,651	89,685	92,372	87,488	106,662	99,741	70,066	117,467	92,232	91,144	89,085	1,088,607
Gross Profit	44,003	39,910	51,312	49,564	55,416	51,069	48,644	40,027	64,885	50,232	51,483	50,206	596,751
Total Compensation	8,431	7,465	8,992	9,828	8,537	11,356	10,479	7,326	12,595	9,989	9,611	9,419	114,029
Travel	625	535	838	606	924	642	709	567	814	596	702	678	8,235
General Supplies	475	406	626	465	686	496	539	425	615	452	527	509	6,222
Telecommunications	826	715	1,008	866	1,056	957	970	735	1,139	865	931	905	10,973
Equipment Maintenance	1,945	1,693	2,305	2,094	2,368	2,344	2,318	1,732	2,757	2,117	2,215	2,157	26,047
Fees Outside Services	12,979	12,012	15,154	15,167	14,328	16,895	16,082	11,618	19,287	15,084	15,065	14,704	178,376
Employee HP	858	741	1,090	866	1,191	942	988	768	1,151	860	963	933	11,350

ナビゲーション・フローをカスタマイズして、表形式のカードを作成できます。


ナビゲーション・フローの全般情報は、カスタム・ナビゲーション・フローの設計を参照してください。


他の EPM Cloud 環境のタブおよびサブ・タブからなるカードを構成するには:

1. 「ナビゲーション・フロー」ページを開き、ナビゲーション・フローを作成するか、既存のナビゲーション・フローを編集します。


 **ノート:**

ナビゲーション・フローを作成するには、最初に既存のナビゲーション・フローを選択し、そのコピーを作成する必要があります。その後、複製したナビゲーション・フローの詳細を編集して保存します。

- a. 「ツール」、「ナビゲーション・フロー」の順にクリックします。
- b. ナビゲーション・フローを作成するには、コピーするナビゲーション・フローを選択し、ページの右上隅にある  をクリックして、「コピーの作成」を選択します。ナビゲーション・フローの名前を入力し、「OK」をクリックします。

 **ノート:**


新しいフローは、サービス管理者がアクティブにするまで「**非アクティブ**」に設定されます。ナビゲーション・フローをアクティブ化または非アクティブ化するには、「**アクティブ**」列で「**アクティブ**」または「**非アクティブ**」をクリックします。一度にアクティブにできるナビゲーション・フローは1つのみです。


- c. 既存のナビゲーション・フローを編集するには、編集するナビゲーション・フローの名前をクリックします。
2. 様々なターゲット環境からのアーティファクトからなるタブ形式のカードを追加します。
 - a. 別の環境から既存のカードを追加する場合は、**ナビゲーション・フロー** ページで、カードまたはクラスタを右クリック(または  をクリック)して「**既存のカード/クラスタの追加**」をクリックし、「**自分の接続**」でターゲット環境を選択し、ナビゲーション・フローに追加するカードを選択します。

次の点に注意してください。

- Narrative Reporting および Profitability and Cost Management で、「**既存のカード/クラスタの追加**」オプションを使用して直接カードを選択することはできません。
- 別のナビゲーション・フローまたは別の環境から追加されるカードには、ソース・ナビゲーション・フローで定義されたローカライズされたラベルが表示されます。ナビゲーション・フローでカード・ラベルを更新するには、ホーム・ページで「**ツール**」、「**アーティファクト・ラベル**」の順にクリックします。

アーティファクト・ラベルの指定を参照してください。

- b. 表形式のカードをナビゲーション・フローに追加するには、「**ナビゲーション・フロー**」ページで、カードまたはクラスタを右クリック(または  をクリック)して「**カードの追加**」をクリックし、カードの詳細を選択します:

- **名前:** カードのラベルを入力します。
 - **表示可能:** ホーム・ページ上でカードをユーザーに表示するかどうかを選択します。
 - **クラスタ:** クラスタが存在する場合、カードのクラスタを選択するか、「なし」を選択します。
 - **アイコン:** 作成するカードについて表示するアイコンを選択します。アイコン・ライブラリで提供されている、使用可能なアイコンから選択してください。
 - **内容:** 次のオプションから選択します。
 - **ページ・タイプ:** 複数ページ(表形式)のフォーマットを選択します。
 - **向き:** 「垂直」または「水平」を選択します。
3. タブとサブ・タブを表形式のカードに追加します。
- a. 既存のタブを追加するには、タブを右クリックして「**既存タブの追加**」をクリック(または「**既存タブの追加**」ボタンをクリック)し、オブジェクト・ライブラリからタブを選択します。
 - b. 新しいタブを追加するには、タブを右クリックし、「**新規タブの追加**」をクリック(または「**新規タブの追加**」ボタンをクリック)して、タブの詳細を編集します。
 - c. タブを右クリックして「**新規サブ・タブの追加**」または「**既存サブ・タブの追加**」をクリック(または「**新規サブ・タブの追加**」または「**既存サブ・タブの追加**」ボタンをクリック)し、オブジェクト・ライブラリからサブ・タブを選択するか、サブ・タブの詳細を編集します。
 - d. 「**アーティファクト**」で、 をクリックして、アーティファクト・ライブラリでアーティファクトを選択します。たとえば、アーティファクトがフォームである場合、アーティファクトのリストから特定のフォームを選択します。使用可能なアーティファクトには、フォーム、ダッシュボード、レポートがあります。別の環境からアーティファクトを選択するには、「**自分の接続**」でターゲット環境を選択し、サブ・タブに追加するアーティファクトを選択します。
 - e. カードが完成するまで、タブとサブ・タブの追加を繰り返します。
4. 「**保存して閉じる**」をクリックします。

ノート:

- カードに複数のタブまたはサブ・タブがある場合、同じセッションで次にそのカードにアクセスすると、ユーザーが前回アクセスしたタブが開きます。ユーザーがログアウトして再度ログインした場合には、デフォルトのタブが表示されます。
- 別のナビゲーション・フローまたは別の環境から追加されるタブまたはサブ・タブには、ソース・ナビゲーション・フローで定義されたローカライズされたラベルが表示されます。ナビゲーション・フローでタブ・ラベルを更新するには、ホーム・ページで「**ツール**」、「**アーティファクト・ラベル**」の順にクリックします。

アーティファクト・ラベルの指定を参照してください。

設計時の変更を表示するには、ナビゲーション・フローをリロードする必要があります。ナビゲーション・フローをリロードするには、下矢印をクリックします。次に、「設定およびアクション」メニューで「ナビゲーション・フローのリロード」をクリックします。

Settings and Actions

[Reload Navigation Flow](#)

[Downloads...](#)

[Help...](#)

[Cloud Customer Connect](#)

[Provide Feedback...](#)

[Oracle Support...](#)

[About...](#)

[Sign Out](#)

ナビゲーション・フローのリロード後に参照されるアーティファクトが表示されない場合は、*Oracle Enterprise Performance Management Cloud* オペレーション・ガイドのナビゲーション・フローに関する問題の処理を参照してください。

接続された環境を統合するための直接 URL の使用

Oracle ERP Cloud などの他のソース・システムでは、URL を埋め込んで、接続された Oracle Enterprise Performance Management Cloud 環境内のカード、タブおよびサブタブに含まれるアーティファクトに直接リンクできます。

Oracle ERP Cloud などの他のクラウド環境では、直接 URL リンクを使用して、フォーム、ダッシュボード、インフォレット、レポートなどの接続された EPM Cloud コンテンツを開きます。EPM Cloud と他のシステムとの統合をシームレスにするために、接続された EPM Cloud ビジネス・プロセス内のアーティファクトの一意の URL をコピーできます。次の 2 つの方法のいずれかで一意の URL をコピーできます：

- ビジネス・プロセス内のアーティファクトの個々の URL をコピーします。[個々の URL のコピー](#)を参照してください。
- ビジネス・プロセス内のすべての URL を CSV ファイルにエクスポートした後、一意の URL を探してコピーします。[CSV ファイルへのすべての URL のエクスポート](#)を参照してください。

ビデオ

目的

直接リンクを使用して、ERP Cloud や NetSuite などの他のシステムに EPM Cloud のコンテンツを埋め込む方法を学習します。

参照するビデオ



[概要: 直接リンクを使用したコンテンツの埋込み](#)

個々の URL のコピー

アーティファクトのリスト・ページにある「URL のコピー」オプションを使用して、Oracle Enterprise Performance Management Cloud ビジネス・プロセス内のアーティファクト (ダッシュボード、フォーム、インフォレットまたはレポート) の一意の URL をコピーします。

Note:

「URL のコピー」はすべてのユーザーが使用できるため、アーティファクトのダイレクト URL を共有できます。ただし、ターゲット・アーティファクトに対するアクセス権があるユーザーのみが、それに対してアクションを実行できます。

アーティファクトの一意の URL をコピーするには:

1. ホーム・ページから、アーティファクトのリスト・ページを開きます。
たとえば、「ダッシュボード」、「データ」、「インフォレット」または「レポート」をクリックします。
2. リスト・ページで、アーティファクトの横にある・・・をクリックし、「URL のコピー」を選択します。
3. 「URL のコピー」ダイアログにアーティファクトの一意の URL が表示されます。URL をコピーします。

コピーした URL が無効になることがあります。URL が無効になった場合の考えられる理由:

- アーティファクトが削除されました。
- ユーザーのアーティファクトへのアクセス権が無効になりました。
- アーティファクトの名前が変更されたため、URL が無効になりました。
- アーティファクトが別のフォルダに移動して新しい URL になったため、元の URL が無効になりました。

CSV ファイルへのすべての URL のエクスポート

「URL のエクスポート」オプションを使用して、接続された Oracle Enterprise Performance Management Cloud ビジネス・プロセス内の各カード、タブまたはサブタブの一意の URL を提供する CSV ファイルを作成します。URL はナビゲーション・フロー別およびクラスター別にグループ化されるため、CSV ファイルで URL を簡単に見つけることができます。CSV ファイルをテキスト・エディタまたは Microsoft Excel で開き、関連する URL をソース・システム・ページに埋め込んで、EPM Cloud への起動ポイントとして使用できます。

EPM Cloud の URL を CSV ファイルにエクスポートするには:

1. EPM Cloud 環境にログインします。
2. ホーム・ページで、ユーザー名の横にある下矢印(画面の右上隅)をクリックします。
3. 「設定およびアクション」メニューで、「URL のエクスポート」、「保存」の順にクリックします。

ローカル・マシンのデフォルトのダウンロード・フォルダに CSV ファイルが保存されます。ファイル名は、たとえば、19_Feb_2021_13_15_38 Navigation Flow URLs.csv など、サーバーの現在の日時を使用して自動的に生成されます。ダウンロード・フォルダでファイルを見つけて、テキスト・エディタまたは Microsoft Excel で開きます。

エクスポートされた URL ファイルの表示

CSV ファイルには、ビジネス・プロセスのすべての URL がリストされます。各カード、タブ(垂直タブ)およびサブタブ(水平タブ)には一意の URL があります。メモ帳などのテキスト・エディタや Microsoft Excel に表示すると、カード、タブおよびサブタブごとに一意の URL が識別されるため、各アーティファクトの URL を簡単に見つけることができます。URL は、ナビゲーション・フロー別およびクラスタ別にグループ化されます。

Note:

カード、タブおよびサブタブにのみ URL があります。ナビゲーション・フローとクラスタには URL はありません。

Table 2 直接 URL エクスポート・ファイルのヘッダー


ヘッダー	説明
ナビゲーション・フロー名	たとえば、デフォルト、財務フローなど、ナビゲーション・フローの名前。
ステータス	たとえば、アクティブ、非アクティブなど、ナビゲーション・フローのステータス。
タイプ	たとえば、クラスタ、カード、タブ、サブタブなど、エントリのタイプ
名前	アーティファクトが含まれているクラスタ、カード、タブまたはサブタブの名前。アーティファクトを直接含まないクラスタまたはカードの場合、このエントリは空になります。
アーティファクト・タイプ	アーティファクトのタイプ。たとえば、フォーム、ダッシュボード、財務レポートおよび URL タイプのアーティファクト。
アーティファクト名	アーティファクトの名前、または URL タイプのアーティファクトの場合はターゲット・ページの直接 URL。
URL 表示可能	<div data-bbox="906 1516 1083 1554" data-label="Section-Header"> <h4> Caution:</h4> </div> <div data-bbox="951 1575 1351 1690" data-label="Text"> <p>直接 URL が表示される場合は、この URL を接続環境の統合に使用する一意の URL と混同しないでください。</p> </div> <p>これは、接続された環境の統合に使用する一意の URL です。 ホーム・ページでナビゲーション・フローのアーティファクトが、ユーザーまたはグループに表示されるかどうかを示します(たとえば、Y または N)。</p>

Table 2 (Cont.) 直接 URL エクスポート・ファイルのヘッダー

ヘッダー	説明
役割/グループ	ナビゲーション・フローを表示できる役割またはグループ。ナビゲーション・フローがグローバルの場合は、すべてのユーザーが表示できます。
説明	ナビゲーション・フローの説明(提供されている場合)。

URL エクスポート・ファイルは、垂直棒またはパイプ(|)区切り文字で区切られた情報を提供します。メモ帳に表示された、次の直接 URL エクスポート・ファイルの例を参照してください:

```

Navigation Flow Name[Status]Type[Name]Artifact Type[Artifact Name][URL]Visible[Role/Group]Description
1 Dashboard 2.0 Test Inactive cluster Strategic Modeling |||Y|Global|Default Navigation Flow
2 Dashboard 2.0 Test Inactive card Model View |||https://glca261.usd11.oraclecloud.com/10151/HyperionPlanning?C_M=VAC_MF=Dashboard2.0Test&C_PAGE_ID=EM_C_30-EM_C_151|Global|Default Navigation Flow
3 Dashboard 2.0 Test Inactive card Consolidation View |||https://glca261.usd11.oraclecloud.com/10151/HyperionPlanning?C_M=VAC_MF=Dashboard2.0Test&C_PAGE_ID=EM_C_30-EM_C_151|Global|Default Navigation Flow
4 Dashboard 2.0 Test Inactive card Templates |||https://glca261.usd11.oraclecloud.com/10151/HyperionPlanning?C_M=VAC_MF=Dashboard2.0Test&C_PAGE_ID=EM_C_30-EM_C_151|Global|Default Navigation Flow
5 Dashboard 2.0 Test Inactive card Dashboards |||https://glca261.usd11.oraclecloud.com/10151/HyperionPlanning?C_M=VAC_MF=Dashboard2.0Test&C_PAGE_ID=EM_C_30-EM_C_151|Global|Default Navigation Flow
6 Dashboard 2.0 Test Inactive card Infolets |||https://glca261.usd11.oraclecloud.com/10151/HyperionPlanning?C_M=VAC_MF=Dashboard2.0Test&C_PAGE_ID=EM_C_30-EM_C_151|Global|Default Navigation Flow
7 Dashboard 2.0 Test Inactive card Data |||https://glca261.usd11.oraclecloud.com/10151/HyperionPlanning?C_M=VAC_MF=Dashboard2.0Test&C_PAGE_ID=EM_C_30-EM_C_151|Global|Default Navigation Flow
8 Dashboard 2.0 Test Inactive card Reports |||https://glca261.usd11.oraclecloud.com/10151/HyperionPlanning?C_M=VAC_MF=Dashboard2.0Test&C_PAGE_ID=EM_C_30-EM_C_151|Global|Default Navigation Flow
9 Dashboard 2.0 Test Inactive tab Reports |||https://glca261.usd11.oraclecloud.com/10151/HyperionPlanning?C_M=VAC_MF=Dashboard2.0Test&C_PAGE_ID=EM_C_30-EM_C_151|Global|Default Navigation Flow
10 Dashboard 2.0 Test Inactive card Financial Reports |||https://glca261.usd11.oraclecloud.com/10151/HyperionPlanning?C_M=VAC_MF=Dashboard2.0Test&C_PAGE_ID=EM_C_30-EM_C_151|Global|Default Navigation Flow
11 Dashboard 2.0 Test Inactive tab Documents |||https://glca261.usd11.oraclecloud.com/10151/HyperionPlanning?C_M=VAC_MF=Dashboard2.0Test&C_PAGE_ID=EM_C_30-EM_C_151|Global|Default Navigation Flow
12 Dashboard 2.0 Test Inactive card Rules |||https://glca261.usd11.oraclecloud.com/10151/HyperionPlanning?C_M=VAC_MF=Dashboard2.0Test&C_PAGE_ID=EM_C_30-EM_C_151|Global|Default Navigation Flow
13 Dashboard 2.0 Test Inactive card Approvals |||https://glca261.usd11.oraclecloud.com/10151/HyperionPlanning?C_M=VAC_MF=Dashboard2.0Test&C_PAGE_ID=EM_C_30-EM_C_151|Global|Default Navigation Flow
14 Dashboard 2.0 Test Inactive cluster Application |||Y|Global|Default Navigation Flow
15 Dashboard 2.0 Test Inactive card Overview |||https://glca261.usd11.oraclecloud.com/10151/HyperionPlanning?C_M=VAC_MF=Dashboard2.0Test&C_PAGE_ID=EM_C_30-EM_C_151|Global|Default Navigation Flow
16 Dashboard 2.0 Test Inactive card Settings |||https://glca261.usd11.oraclecloud.com/10151/HyperionPlanning?C_M=VAC_MF=Dashboard2.0Test&C_PAGE_ID=EM_C_30-EM_C_151|Global|Default Navigation Flow
17 Dashboard 2.0 Test Inactive card Valid Intersections |||https://glca261.usd11.oraclecloud.com/10151/HyperionPlanning?C_M=VAC_MF=Dashboard2.0Test&C_PAGE_ID=EM_C_30-EM_C_151|Global|Default Navigation Flow
18 Dashboard 2.0 Test Inactive sub tab Setup |||https://glca261.usd11.oraclecloud.com/10151/HyperionPlanning?C_M=VAC_MF=Dashboard2.0Test&C_PAGE_ID=EM_C_30-EM_C_151|Global|Default Navigation Flow
19 Dashboard 2.0 Test Inactive sub tab Reports |||https://glca261.usd11.oraclecloud.com/10151/HyperionPlanning?C_M=VAC_MF=Dashboard2.0Test&C_PAGE_ID=EM_C_30-EM_C_151|Global|Default Navigation Flow
20 Dashboard 2.0 Test Inactive card Data Exchange |||https://glca261.usd11.oraclecloud.com/10151/HyperionPlanning?C_M=VAC_MF=Dashboard2.0Test&C_PAGE_ID=EM_C_30-EM_C_151|Global|Default Navigation Flow
21 Dashboard 2.0 Test Inactive sub tab Data Maps |||https://glca261.usd11.oraclecloud.com/10151/HyperionPlanning?C_M=VAC_MF=Dashboard2.0Test&C_PAGE_ID=EM_C_30-EM_C_151|Global|Default Navigation Flow
22 Dashboard 2.0 Test Inactive sub tab Data Integration |||https://glca261.usd11.oraclecloud.com/10151/HyperionPlanning?C_M=VAC_MF=Dashboard2.0Test&C_PAGE_ID=EM_C_30-EM_C_151|Global|Default Navigation Flow
23 Dashboard 2.0 Test Inactive sub tab Data Maps |||https://glca261.usd11.oraclecloud.com/10151/HyperionPlanning?C_M=VAC_MF=Dashboard2.0Test&C_PAGE_ID=EM_C_30-EM_C_151|Global|Default Navigation Flow
24 Dashboard 2.0 Test Inactive card Jobs |||https://glca261.usd11.oraclecloud.com/10151/HyperionPlanning?C_M=VAC_MF=Dashboard2.0Test&C_PAGE_ID=EM_C_30-EM_C_151|Global|Default Navigation Flow
25 Dashboard 2.0 Test Inactive card Cell Level Security |||https://glca261.usd11.oraclecloud.com/10151/HyperionPlanning?C_M=VAC_MF=Dashboard2.0Test&C_PAGE_ID=EM_C_30-EM_C_151|Global|Default Navigation Flow

```

URL エクスポート・ファイルを Microsoft Excel で表示するには:

- Excel を開き、「データ」メニューをクリックします。
- 「新しいクエリ」、「ファイルから」、「CSV から」の順にクリックします。
- エクスポートした CSV ファイルを見つけて選択し、「インポート」をクリックします。新しいウィンドウに CSV ファイルのデータが表示されます。
- CSV ファイルの最初の行をヘッダー行にするには、「編集」、「Use First Row as Headers」、「Close and Load」の順にクリックします。

結果の Excel ファイルは次の例のようになります:

	A	B	C	D	E	F	G	H	I	J
	Navigation Flow Name	Status	Type	Name	Artifact Type	Artifact Name	URL	Visible	Role/Group	Description
1	Dashboard 2.0 Test	Inactive	cluster	Strategic Modeling				Y	Global	Default Navigation Flow
2	Dashboard 2.0 Test	Inactive	card	Model View			http://glca261.usd11.oraclecloud.com/10151/HyperionPlanning?C_M=VAC_MF=Dashboard2.0Test&C_PAGE_ID=EM_C_30-EM_C_151 Global Default Navigation Flow		Global	Default Navigation Flow
3	Dashboard 2.0 Test	Inactive	card	Consolidation View			http://glca261.usd11.oraclecloud.com/10151/HyperionPlanning?C_M=VAC_MF=Dashboard2.0Test&C_PAGE_ID=EM_C_30-EM_C_151 Global Default Navigation Flow		Global	Default Navigation Flow
4	Dashboard 2.0 Test	Inactive	card	Templates			http://glca261.usd11.oraclecloud.com/10151/HyperionPlanning?C_M=VAC_MF=Dashboard2.0Test&C_PAGE_ID=EM_C_30-EM_C_151 Global Default Navigation Flow		Global	Default Navigation Flow
5	Dashboard 2.0 Test	Inactive	card	Tasks			http://glca261.usd11.oraclecloud.com/10151/HyperionPlanning?C_M=VAC_MF=Dashboard2.0Test&C_PAGE_ID=EM_C_30-EM_C_151 Global Default Navigation Flow		Global	Default Navigation Flow
6	Dashboard 2.0 Test	Inactive	card	Dashboards			http://glca261.usd11.oraclecloud.com/10151/HyperionPlanning?C_M=VAC_MF=Dashboard2.0Test&C_PAGE_ID=EM_C_30-EM_C_151 Global Default Navigation Flow		Global	Default Navigation Flow
7	Dashboard 2.0 Test	Inactive	card	Infolets			http://glca261.usd11.oraclecloud.com/10151/HyperionPlanning?C_M=VAC_MF=Dashboard2.0Test&C_PAGE_ID=EM_C_30-EM_C_151 Global Default Navigation Flow		Global	Default Navigation Flow
8	Dashboard 2.0 Test	Inactive	card	Data			http://glca261.usd11.oraclecloud.com/10151/HyperionPlanning?C_M=VAC_MF=Dashboard2.0Test&C_PAGE_ID=EM_C_30-EM_C_151 Global Default Navigation Flow		Global	Default Navigation Flow
9	Dashboard 2.0 Test	Inactive	card	Reports			http://glca261.usd11.oraclecloud.com/10151/HyperionPlanning?C_M=VAC_MF=Dashboard2.0Test&C_PAGE_ID=EM_C_30-EM_C_151 Global Default Navigation Flow		Global	Default Navigation Flow
10	Dashboard 2.0 Test	Inactive	card	Reports			http://glca261.usd11.oraclecloud.com/10151/HyperionPlanning?C_M=VAC_MF=Dashboard2.0Test&C_PAGE_ID=EM_C_30-EM_C_151 Global Default Navigation Flow		Global	Default Navigation Flow
11	Dashboard 2.0 Test	Inactive	tab	Financial Reports			http://glca261.usd11.oraclecloud.com/10151/HyperionPlanning?C_M=VAC_MF=Dashboard2.0Test&C_PAGE_ID=EM_C_30-EM_C_151 Global Default Navigation Flow		Global	Default Navigation Flow
12	Dashboard 2.0 Test	Inactive	tab	Documents			http://glca261.usd11.oraclecloud.com/10151/HyperionPlanning?C_M=VAC_MF=Dashboard2.0Test&C_PAGE_ID=EM_C_30-EM_C_151 Global Default Navigation Flow		Global	Default Navigation Flow
13	Dashboard 2.0 Test	Inactive	card	Rules			http://glca261.usd11.oraclecloud.com/10151/HyperionPlanning?C_M=VAC_MF=Dashboard2.0Test&C_PAGE_ID=EM_C_30-EM_C_151 Global Default Navigation Flow		Global	Default Navigation Flow
14	Dashboard 2.0 Test	Inactive	card	Approvals			http://glca261.usd11.oraclecloud.com/10151/HyperionPlanning?C_M=VAC_MF=Dashboard2.0Test&C_PAGE_ID=EM_C_30-EM_C_151 Global Default Navigation Flow		Global	Default Navigation Flow
15	Dashboard 2.0 Test	Inactive	cluster	Application				Y	Global	Default Navigation Flow
16	Dashboard 2.0 Test	Inactive	card	Overview			http://glca261.usd11.oraclecloud.com/10151/HyperionPlanning?C_M=VAC_MF=Dashboard2.0Test&C_PAGE_ID=EM_C_30-EM_C_151 Global Default Navigation Flow		Global	Default Navigation Flow
17	Dashboard 2.0 Test	Inactive	card	Settings			http://glca261.usd11.oraclecloud.com/10151/HyperionPlanning?C_M=VAC_MF=Dashboard2.0Test&C_PAGE_ID=EM_C_30-EM_C_151 Global Default Navigation Flow		Global	Default Navigation Flow
18	Dashboard 2.0 Test	Inactive	card	Valid Intersections			http://glca261.usd11.oraclecloud.com/10151/HyperionPlanning?C_M=VAC_MF=Dashboard2.0Test&C_PAGE_ID=EM_C_30-EM_C_151 Global Default Navigation Flow		Global	Default Navigation Flow
19	Dashboard 2.0 Test	Inactive	sub tab	Setup			http://glca261.usd11.oraclecloud.com/10151/HyperionPlanning?C_M=VAC_MF=Dashboard2.0Test&C_PAGE_ID=EM_C_30-EM_C_151 Global Default Navigation Flow		Global	Default Navigation Flow
20	Dashboard 2.0 Test	Inactive	sub tab	Reports			http://glca261.usd11.oraclecloud.com/10151/HyperionPlanning?C_M=VAC_MF=Dashboard2.0Test&C_PAGE_ID=EM_C_30-EM_C_151 Global Default Navigation Flow		Global	Default Navigation Flow
21	Dashboard 2.0 Test	Inactive	card	Data Exchange			http://glca261.usd11.oraclecloud.com/10151/HyperionPlanning?C_M=VAC_MF=Dashboard2.0Test&C_PAGE_ID=EM_C_30-EM_C_151 Global Default Navigation Flow		Global	Default Navigation Flow
22	Dashboard 2.0 Test	Inactive	sub tab	Data Integration			http://glca261.usd11.oraclecloud.com/10151/HyperionPlanning?C_M=VAC_MF=Dashboard2.0Test&C_PAGE_ID=EM_C_30-EM_C_151 Global Default Navigation Flow		Global	Default Navigation Flow
23	Dashboard 2.0 Test	Inactive	sub tab	Data Maps			http://glca261.usd11.oraclecloud.com/10151/HyperionPlanning?C_M=VAC_MF=Dashboard2.0Test&C_PAGE_ID=EM_C_30-EM_C_151 Global Default Navigation Flow		Global	Default Navigation Flow
24	Dashboard 2.0 Test	Inactive	card	Jobs			http://glca261.usd11.oraclecloud.com/10151/HyperionPlanning?C_M=VAC_MF=Dashboard2.0Test&C_PAGE_ID=EM_C_30-EM_C_151 Global Default Navigation Flow		Global	Default Navigation Flow
25	Dashboard 2.0 Test	Inactive	card	Cell Level Security			http://glca261.usd11.oraclecloud.com/10151/HyperionPlanning?C_M=VAC_MF=Dashboard2.0Test&C_PAGE_ID=EM_C_30-EM_C_151 Global Default Navigation Flow		Global	Default Navigation Flow

他の接続された環境に統合するカード、タブまたはサブタブの一意的 URL (URL 列にあります)を見つけてコピーします。URL ターゲットのみが開き、ターゲット・アーティファクトにアクセスできるユーザーは、ターゲット・ビジネス・プロセス内で作業している場合と同じアクションを実行できます。

移行の使用

アーティファクトをエクスポートして、環境間でのサービスの復元またはアプリケーションの移行(テスト環境から本番環境など)、または新しいサービス・インスタンスの設定の支援に使用できるバックアップを作成します。サービス内のすべてのアーティファクトまたはアーティファクトの組合せをエクスポートまたはインポートできます。

ビデオ

目的	視聴するビデオ
移行について学習します。	 アーティファクトの移行

詳細は、[Oracle Enterprise Performance Management Cloud 移行の管理](#)で [EPM Cloud Services](#) での移行の使用を参照してください。

環境のクローニング

環境のクローニング機能は、環境と、オプションでアイデンティティ・ドメイン・アーティファクト(ユーザーおよび事前定義済役割の割当て)、受信ボックスと送信ボックスのコンテンツおよび保存されたスナップショットをクローニングする画面ベースの方法です。

この機能は、[環境のクローニング](#) EPM 自動化コマンドを使用する方法にかわるものです。

Enterprise Profitability and Cost Management 環境をクローニングするには:

1. サービス管理者として、またはアイデンティティ・ドメイン管理者の事前定義済役割も持つサービス管理者として Enterprise Profitability and Cost Management にサインインします。
2. ホーム・ページで、「ツール」、「環境のクローニング」の順に選択します。
3. 「ターゲット URL」で、クローニング先の環境となる環境の URL を入力します(例: <https://testExample-idDomain.pbc.us1.oraclecloud.com>)。
4. 「ユーザー名」に、アイデンティティ・ドメイン管理者の事前定義済役割も持っているサービス管理者のユーザー名を入力します。Oracle Cloud Classic から OCI へのクローニングの場合は、ターゲット環境のサービス管理者とアイデンティティ・ドメイン管理者の事前定義済役割を持つユーザーのユーザー名を入力する必要があります。このユーザーは、アイデンティティ・ドメイン資格証明を使用してターゲット環境にログインする必要があります。
5. 「パスワード」で、「ユーザー名」に指定したユーザーのアイデンティティ・ドメイン・パスワードを入力します。
6. オプション: データ管理レコードをクローニングしない場合は、「データ管理」チェック・ボックスの選択を解除します。ステージング表に非常に多数のレコードが含まれている場合は、データ管理レコードのクローニングに長時間かかることがあります。

- 7. オプション:** 受信ボックスと送信ボックスのコンテンツおよび保存されたスナップショットをクローニングする場合は、「**保管されたスナップショットとファイル**」チェック・ボックスを選択します。このプロセスは、保存されたスナップショットの数とサイズ、および受信ボックスと送信ボックス内のファイルの数とサイズによっては長時間かかる場合があります。
- 8. 「クローン」** をクリックすると、プロセスが開始されます。

詳細は、*Oracle Enterprise Performance Management Cloud 移行の管理*の [EPM Cloud 環境のクローニング](#)を参照してください。

タスクおよびデータの監査

Related Topics

- [監査の概要](#)
- [監査トラッキングの有効化](#)
- [監査詳細の表示](#)

監査の概要

監査機能を使用して、ユーザーが実行したタスクを表示します。監査タイプ(データまたはセル詳細のクリアなど)、日付範囲(昨日または過去 60 日間など)およびユーザー名で、監査タスクをフィルタできます。

監査トラッキングを有効化し、監査情報を表示およびエクスポートするには、サービス管理者である必要があります。

次のタイプのユーザー・アクティビティを、タスク監査でログに保存できます。

表 3 監査可能なタスク

監査タイプ	追跡される変更
ディメンション管理	<ul style="list-style-type: none">ディメンション階層: メンバーまたはディメンションの追加。プロパティの移動、削除および変更。メンバーおよびディメンションの名前変更パフォーマンス設定: ディメンションの密または疎の再設定、ディメンションの順序の変更
別名表の管理	別名表への変更: 登録、コピー、名前変更、削除およびクリア

表 3 (続き) 監査可能なタスク


監査タイプ	追跡される変更
データ	<ul style="list-style-type: none"> セル値 サポート詳細 勘定科目注釈 セル・レベル・ドキュメント
	<div style="border: 1px solid #0070C0; padding: 10px; background-color: #E6F2FF;"> <p> ノート:</p> <p>監査ログに変更が取得されるのは、データ・フォーム内でデータ変更が発生した場合のみです。ビジネス・ルール計算、データ・マップ、Oracle Essbase への直接のデータ・ロードなどの操作の一環で発生した変更は、監査ログに取得されません。</p> </div>
ビジネス・ルールの起動	計算スクリプトおよびビジネス・ルールによる更新(実行時プロンプトを含む)
フォームの定義	フォーム: フォームの作成、移動、削除(監査レコードには、設計の変更方法は記録されません。)
フォーム・フォルダの管理	フォルダ: 作成済、移動済および削除済
セキュリティ	ディメンションのメンバー、フォーム、フォーム・フォルダ、ビジネス・ルールおよびタスク・リストに対するアクセス権限
ユーザーの管理	追加、変更および削除済のユーザー
グループの管理	追加、変更および削除済のグループ、追加および除去済のユーザー
データのコピー	サポート詳細、セル・テキスト、セルの添付、詳細のないデータなどを含む静的ディメンション、ソース・ディメンション、宛先ディメンションにおけるユーザーの選択
セル詳細のクリア	サポート詳細、コメント、および添付のクリアにおけるユーザーの選択
変数	変数(代替変数およびユーザー変数): 追加、変更および削除済
EPCM モデル	モデルに対する次の変更: <ul style="list-style-type: none"> 追加、削除およびコピーのアクション: 「名前」および「説明」のフィールドのみが監査の対象です。 変更アクション: 対応するページ内のすべてのフィールドが監査対象です。
EPCM ルール・セット	ルール・セットに対する次の変更: <ul style="list-style-type: none"> 追加、削除およびコピーのアクション: 「名前」および「説明」のフィールドのみが監査の対象です。 変更アクション: 対応するページ内のすべてのフィールドが監査対象です。
EPCM ルール	ルールに対する次の変更: <ul style="list-style-type: none"> 追加、削除およびコピーのアクション: 「名前」および「説明」のフィールドのみが監査の対象です。 変更アクション: 対応するページ内のすべてのフィールドが監査対象です。

表 3 (続き) 監査可能なタスク

監査タイプ	追跡される変更
EPCM 視点	視点に対する次の変更: <ul style="list-style-type: none">• 追加、削除およびコピーのアクション: 「名前」および「説明」のフィールドのみが監査の対象です。• 変更アクション: 対応するページ内のすべてのフィールドが監査対象です。
EPCM 利益曲線	利益曲線に対する次の変更: <ul style="list-style-type: none">• 追加、削除およびコピーのアクション: 「名前」および「説明」のフィールドのみが監査の対象です。• 変更アクション: 対応するページ内のすべてのフィールドが監査対象です。

「監査」ページには、次の情報が表示されます。

- 監査(タスク)
- ソース
- アクション
- ユーザー
- 名前
- 日付
- 詳細
- プロパティ
- 古い値
- 新規の値

列はすべて、昇順または降順でソートできます。

監査トラッキングの有効化

監査トラッキングは、デフォルトでは有効化されていません。サービス管理者は監査を有効にして、データの変更を追跡できるようにする必要があります。


監査機能を有効化するには:

1. ホーム・ページで、「ツール」、「監査」の順にクリックします。
2. 「監査」ページで「監査の使用可能」をクリックします。
3. 「監査の使用可能」ページで監査タスクを選択して、「保存して閉じる」をクリックします。

監査詳細の表示


ビジネス・プロセス・インタフェースでは、最大 180 日間の監査詳細を表示およびエクスポートできます。

監査の詳細を表示するには:

1. ホーム・ページで、「ツール」、「監査」の順にクリックします。
監査が有効になっている場合、デフォルトで「監査」ページに**過去 7 日間のデータ**・タスクの監査レコードが表示されます。監査を有効にするには、[監査トラッキングの有効化](#)を参照してください。
2. フィルタするには、 をクリックしてフィルタ条件を選択します。
 - **監査タイプ:** 1 つ以上または「すべて」を選択します。監査タイプのリストおよび説明については、[監査の概要](#)を参照してください。
 - **日付範囲:** 「今日」、「昨日」、「過去 7 日間」、「過去 30 日間」、「過去 60 日間」または「過去 180 日間」を選択します。

ノート:

- 今日から 180 日より前の日付範囲は選択できません。今日と今日から 180 日前までの間(今日を含む)で、日付範囲を選択する必要があります。
- ビジネス・プロセスでは、現在のシステム日付から最大 365 日間の監査詳細が保持されます。180 日間を超える監査詳細をエクスポートするには、EPM 自動化の `exportAppAudit` コマンドまたは REST API の「監査のエクスポート」ジョブを使用します。*Oracle Enterprise Performance Management Cloud EPM 自動化の操作*または *Oracle Enterprise Performance Management Cloud の REST API* を参照してください。

- **ユーザー名:** ユーザー名を入力するか、 をクリックしてユーザーを検索します。
3. フィルタ条件の選択が完了したら、「適用」をクリックします。
グリッドに、フィルタ条件に一致する監査表から上位 200 レコードが表示されます。フィルタ条件に 200 を超えるレコードがある場合、表の下に汎用が表示されます。
 4. Microsoft Excel スプレッドシートに監査情報をエクスポートするには、「エクスポート」をクリックしてダウンロードの指示に従います。
「エクスポート」オプションを選択すると、フィルタ条件に一致するすべてのレコードが xlsx ファイル(Microsoft Excel バージョン 2007 以降の形式)にエクスポートされます。

ノート:

データ監査が有効な場合、「アクション」、「変更履歴」の順に選択して、どのデータが変更されたかを確認できます。

ユーザー・プリファレンスの設定

Related Topics

- [ユーザー・プリファレンスの設定について](#)
- [一般プリファレンス](#)
- [表示プリファレンス](#)
- [通知](#)
- [アド・ホック・オプション](#)
- [ユーザー変数](#)
- [レポート・プリファレンス](#)
- [フォームの印刷プリファレンス](#)

ユーザー・プリファレンスの設定について

プリファレンスを設定して、レポートやフォームの印刷方法を含めて、機能と表示の様々な側面を制御できます。

ユーザー・プリファレンスを設定するには:

1. ホーム・ページで、「ツール」、「ユーザー・プリファレンス」の順に選択します。
2. プリファレンスを設定するには、左側のタブをクリックします。

Note:

ユーザー・プリファレンスは、管理者が設定したプリファレンスより優先されず ([アプリケーションおよびシステムの設定の管理について](#)を参照)。管理者設定を復元するには、**プリファレンス**・ページのいずれかのタブで「**管理者の設定を使用**」を選択します。

一般プリファレンス

Table 4 一般プリファレンス

プリファレンス	説明
プロファイル	
タイム・ゾーン	タイム・ゾーン。 ノート: 新規ユーザーのデフォルトのタイム・ゾーンは、(UTC)レイキャビク - グリニッジ標準時です。

Table 4 (Cont.) 一般プリファレンス

プリファレンス	説明
言語	ラベルとボタンを表示するために使用される言語。言語を選択しなかった場合は、ブラウザのロケールが使用されます。
プロフィール・イメージ	<p>ホーム・ページの「お知らせ」パネルに表示するプロフィールを設定できます。</p> <p>「プロフィール・イメージ」をクリックし、イメージ・ファイルを選択して開きます。イメージのタイプは、.png、.jpg、.jpegまたは.gifです。</p> <p>アップロードしたピクチャが100 x 100ピクセルを超える場合は、自動的にサイズ変更されます。</p> <p>ノート: 自動サイズ変更は、ユーザー・プリファレンスでアップロードした新しいプロフィール・イメージにのみ影響します。既存のプロフィール・ピクチャはサイズ変更されません。</p> <p>サインアウトしてから再度サインインすると、プロフィール・ピクチャが表示されます。</p>
別名設定	
別名表	<p>Enterprise Profitability and Cost Managementアプリケーションで使用する別名表。</p> <p>別名は、多くの場合、より説明的なもう1つのメンバー名です。別名のセットは別名表に格納されます。たとえば、英語のメンバー名の別名表を持ち、それとは別にドイツ語のメンバー名の別名表を持つことができます。</p>
メンバーのラベルの表示形式	<p>メンバー名または別名をどのように表示するか。</p> <p>「デフォルト」を選択すると、フォーム、グリッドまたはディメンションの設定によって、メンバー名の表示方法が決定されます。</p>

表示プリファレンス

Table 5 表示プリファレンス

プリファレンス	説明
数値のフォーマット	<p>数値のフォーマット方法を設定します。選択した結果は、アクセス権のあるすべてのフォームのすべての通貨に適用されます。</p> <p>「桁ごとの区切り文字」と「小数点」で同じオプションは選択できません。</p>
ページ・オプション	
メンバーのインデント	<p>ページでのメンバーのインデント方法。</p> <p>「インデントしない」を選択すると、メンバーはフラットな順次リストに表示されます。</p>

Table 5 (Cont.) 表示プリファレンス

プリファレンス	説明
「ページ」ドロップダウンの項目数	「ページ」ドロップダウンにリストされる項目数。 「ページ」ドロップダウンに表示される項目数が多く、リストのスクロール作業が伴う場合は、必要に応じて表示する項目数を減らすことができます。
その他オプション	
集計演算子を表示	集計演算子を表示するかどうか。
日付フォーマット	Enterprise Profitability and Cost Management アプリケーション全体で使用する日付フォーマット。 「自動検出」では、ブラウザ・ロケールに基づいて日付フォーマットが設定されます。 選択したフォーマットは、レポートを含め、ユーザー・インタフェース全体で使用されます。
アド・ホックのユーザー式の有効化	アド・ホックのユーザー式を有効にするかどうか。 「はい」を選択すると、データベースに変更を送信しなくても、オンザフライで計算を実行できます。 データ入力および分析のためのアド・ホックの使用 を参照してください。
通貨コード	複数通貨アプリケーションを使用している場合は、通貨コードを選択します。 選択した通貨により、Enterprise Profitability and Cost Management アプリケーション全体で使用される精度、スケールおよび通貨記号の設定が決まります。 通貨の設定 を参照してください。

通知

Table 6 通知

プリファレンス	説明
電子メール・アドレス	通知が送信される電子メール・アドレス。
通知	変更があったときに電子メールで通知を受け取るアクティビティを選択します。 ノート: 承認は Enterprise Profitability and Cost Management では適用できません。

アド・ホック・オプション

プリファレンスを設定して、アド・ホック・グリッドの表示と動作を制御できます。アド・ホック・グリッドの詳細は、[データ入力および分析のためのアド・ホックの使用](#)を参照してください。

Table 7 アド・ホック・オプション

プリファレンス	説明
アド・ホック・オプション	
含めるメンバー	<p>メンバーの表示方法。</p> <ul style="list-style-type: none"> • 選択を含める: 選択したメンバーと操作の結果として取得されたメンバーの両方を表示します。たとえば、選択したメンバー Qtr1 にズーム・インすると、Qtr1 (1月、2月、3月)のデータが表示されます。 • 選択されたグループ内: 選択したメンバー・グループのみを対象としてズームなどの操作を実行し、選択しなかったセルはそのままにします。この設定が有意義なのは、グリッドの下位の行として、またはグリッド全体にわたる列として 2 つ以上のディメンションがある場合です。このオプションは、「ズーム」、「選択項目のみ保持」および「選択項目のみ削除」に適用されます。
ズーム・イン	<p>ズーム・インするレベル:</p> <ul style="list-style-type: none"> • 次のレベル: 選択したメンバーの子のデータを取得します。 • すべてのレベル: 選択したメンバーのすべての子孫のデータを取得します。 • 最下位レベル: ディメンションの最下位レベルのメンバーのデータを取得します。
祖先の位置	<p>階層の祖先を表示する方法:</p> <ul style="list-style-type: none"> • 最上位: メンバー階層を最上位レベルから最下位レベルに向かって表示します。 • 最下位: メンバー階層を最下位レベルから最上位レベルに向かって表示します。
メンバーのラベルの表示形式	<p>メンバー名を表示するか、別名を表示するか、その両方を表示するか。</p>
別名表	<p>使用する別名表。</p> <p><i>別名</i>は、多くの場合、より説明的なもう 1 つのメンバー名です。別名のセットは別名表に格納されます。たとえば、英語のメンバー名の別名表を持ち、それとは別にドイツ語のメンバー名の別名表を持つことができます。</p>
インデント	<p>メンバー階層レベルのインデント方法:</p> <ul style="list-style-type: none"> • なし: インデントなし。 • サブアイテム: 子孫をインデントします。祖先は列で左揃えになります。 • 合計: 祖先をインデントします。子孫は列で左揃えになります。


Table 7 (Cont.) アド・ホック・オプション

プリファレンス	説明
データをリフレッシュせずにナビゲート	このオプションを選択すると、ピボットやズームなどでグリッドをナビゲートする際のパフォーマンスが向上します。「リフレッシュ」をクリックしてデータを更新します。このオプションを選択しない場合、アド・ホックで作業する際にデータがリフレッシュされます。
抑制	
ゼロ	<ul style="list-style-type: none"> 行: ゼロのみを含む行を非表示にする場合に選択します。 列: ゼロのみを含む列を非表示にする場合に選択します。
抑制	<ul style="list-style-type: none"> 繰返しのメンバー: グリッドの方向に関係なく、繰返しのメンバー名を含む行を非表示にする場合に選択します。 行で欠落しているブロック: データが欠落している行のセル・ブロックを非表示にする場合に選択します。
欠落データ	ゼロの行または列、あるいはデータのない行または列を非表示にする場合に選択します。
アクセス権なし	<p>自分にアクセス権がない行または列を非表示にする場合に選択します。</p> <p>ノート: アド・ホック・グリッドを開こうとしたときに、有効なデータ行が存在しないためアド・ホック・グリッドを開けませんというエラーが表示された場合は、前述の「抑制」のオプションをクリアしてください。</p>
精度	
通貨メンバーの設定の使用	<p>通貨メンバーの精度設定を適用する場合に選択します。</p> <p>通貨の値、通貨以外の値およびパーセンテージ値について、セルに表示される小数部の最小桁数と最大桁数を設定します。</p> <p>たとえば、セルの値が 100 で、最小精度を 2 に設定した場合、値は 100.00 と表示されます</p>
置換	
データなし	値として #Missing または #NoData を持つセルに表示するテキスト。
アクセス権なし	自分に表示アクセス権限がないセルに表示するテキスト。
ゼロを送信	「#NumericZero」をテキストとして「データなし」または「アクセス権なし」置換オプションに指定し、ゼロを送信する場合に選択します。

ユーザー変数

ユーザー変数によって、自分の部署の費用などの必要なメンバーのみに集中できるようになります。たとえば、エンティティの行、および部署というユーザー変数を含むフォームを作



成できます。たとえば営業など、部署ユーザー変数のメンバーを選択することによってフォームで表示される行数を制限して、後で、マーケティングなどの部署の別のメンバーを選択できます。フォームを開くには、ユーザー変数のプリファレンスを設定する必要があります。

ユーザー変数ページには、ディメンションごとに設定されたユーザー変数と、各変数の現在選択されているメンバーがリストされます。変数のメンバーを選択するには、をクリックします。

ユーザー変数の詳細は、[ユーザー変数の操作およびメンバーとしてのユーザー変数の選択](#)を参照してください。

レポート・プリファレンス

Table 8 レポート・プリファレンス

プリファレンス	説明
POV のプレビュー	有効な場合、レポートを開くまたはプレビュー  するためには  をクリックしてデータをリフレッシュします。
単位	レポートで使用する単位として「 インチ 」または「 センチメートル 」を選択します。

フォームの印刷プリファレンス

フォームとそのデータを PDF ファイルとして印刷する方法に関するプリファレンスを設定します。

 **Note:**

PDF ファイルに出力するには、Adobe Acrobat Reader がインストールされている必要があります。

Table 9 フォームの印刷プリファレンス

プリファレンス	説明
ページ設定	用紙サイズ、レイアウト、サイズ調整およびフローに関するプリファレンスを設定します。白黒で印刷するかどうかも選択できます。
オプション	フォームおよびデータに適用するオプションを選択します。

Part VI

ビジネス・ルールの作成および管理

Related Topics

- [ビジネス・ルールについて](#)
- [ビジネス・ルールの使用](#)
- [Groovy ビジネス・ルール作成のためのリソース](#)

ビジネス・ルールについて

Enterprise Profitability and Cost Management では、Calculation Manager でのビジネス・ルールの作成がサポートされています。

Calculation Manager では、Groovy スクリプト言語を使用してビジネス・ルールを作成できます。Groovy スクリプトを利用すると、通常のビジネス・ルールでは解決できないユース・ケースを解決する、高度なルールを設計できます。作成するルールでは、たとえば、ユーザーがフォーム内のデータを保存するときにデータ値が事前定義済のしきい値を超えている場合は保存を禁止することや、計算スクリプトを返してグローバル・ドライバを更新する、メンバーの移動と名前の変更を行う、メタデータおよびデータを検証付きで作成するといったことができます。[Groovy ビジネス・ルール作成のためのリソース](#)を参照してください。

Calculation Manager 内で作成されたビジネス・ルールを Enterprise Profitability and Cost Management の中で起動することは、計算スクリプトを実行できる場所ならどこからでも行うことができます。たとえば、ビジネス・ルール・ページ、特定のフォームのコンテキスト内、ジョブ・スケジューラ内およびダッシュボード内です。ビジネス・ルールを起動するには、最初にそのルールを Calculation Manager 内でデプロイする必要があります。[ビジネス・ルールの起動](#)を参照してください。

ビジネス・ルールに関するパフォーマンス問題を診断し、アクティビティ・レポートを使用して任意の問題を特定し、対処できます。アクティビティ・レポートによって、実行に最も時間がかかっているビジネス・ルールを特定します。その後、Calculation Manager でルールを開き、ログを確認して、ルール内のステップを最適化することでパフォーマンスを向上できます。[ルールの使用状況の表示](#)を参照してください。

 **Note:**

- **PCM_CLC** および **PCM_REP** のキューブ内のビジネス・ルールは、スクリプト・モードで Groovy スクリプト言語を使用して作成されます。(Calculation Manager でのグラフィカル・ビューは、**PCM_CLC** および **PCM_REP** のキューブ内に作成されたビジネス・ルールに対しては使用できません。)その他のキューブでは、グラフィカルとスクリプトの両方のモードを使用してビジネス・ルールを作成できます。
- ASO カスタム計算および ASO 配賦の関数である `executeASOcustomcalculation` および `executeASOallocation` は、**PCM_CLC** および **PCM_REP** のキューブに対してはサポートされません。

 **Tip:**

一般的な実行エラーを回避するためのビジネス・ルールの設計および時間がかかるルールの最適化の詳細は、[Oracle Enterprise Performance Management Cloud オペレーション・ガイドのビジネス・ルールのエラーおよびパフォーマンスのトラブルシューティング](#)を参照してください。


ビジネス・ルールの使用

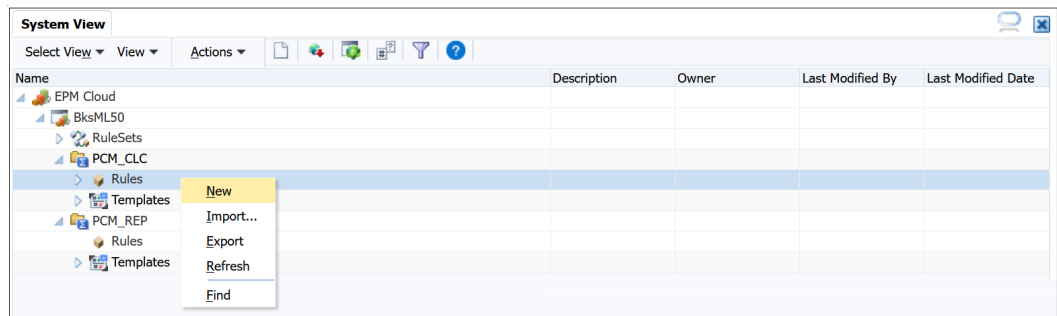
Related Topics

- [ビジネス・ルールの作成、検証およびデプロイ](#)
- [ビジネス・ルール・セキュリティの管理](#)
- [ビジネス・ルール通知の有効化](#)
- [ビジネス・ルールの起動](#)
- [ルールの使用状況の表示](#)

ビジネス・ルールの作成、検証およびデプロイ

ビジネス・ルールを作成、検証およびデプロイするには:

1. Enterprise Profitability and Cost Management ホーム・ページの「ナビゲータ」をクリックします。
2. 「作成と管理」の下の「ビジネス・ルール」をクリックします。
これによって Calculation Manager が開きます。
3. Calculation Manager の中で、目的のキューブに移動してから「ルール」を右クリックし、「新規」を選択します



4. 「新規ルール」ダイアログ・ボックスで、ルールについての情報を入力してから「OK」をクリックします。

次の文字はルール名で使用できないことに注意してください: '\r', '\n', '\t', '\f', '\b', '<', '>', '(', ')', '"', '\\', '{', '}', '[', ']', '*', '?'

5. ルールの設計を開始します。
 - **PCM_CLC** および **PCM_REP** キューブ内のルールを作成する場合は、ルール編集ページがスクリプト・モードで開きます。デザイナー(グラフィカル)モードは使用できず、デザイナーとスクリプト・モードとを切り替えるためのドロップダウン・メニュー・オプションは無効化されます。「スクリプト」タブを選択し、スクリプトの入力を開始します。

スクリプト・モードで編集する場合は次のキーワードを使用しないでください。


```

- /*STARTCOMPONENT*/
- /*STARTCOMPONENT:SCRIPT*/
- /*STARTCOMPONENT:FORMULA*/
- /*ENDCOMPONENT*/
- /*STARTRULE*/
- /*ENDRULE*/
- /*STARTTEMPLATE*/
- /*ENDTEMPLATE*/

```

入力したスクリプトは自動的に Groovy で保存されます。

ビジネス・ルールのスクリプトを作成するときを使用できるオプションの情報は、*Oracle Enterprise Performance Management Cloud Calculation Manager* での設計のスクリプト・モードでの編集時に使用可能なオプションを参照してください。

- **PCM_CLC** および **PCM_REP** 以外のキューブ内のルールを作成する場合は、ルール・エディタがグラフィカル・モードで開き、ドロップダウン・メニューを使用してグラフィカル・モードとスクリプト・モードを切り替えることができます。グラフィカル・モードでのビジネス・ルールの作成についての情報は、*Oracle Enterprise Performance Management Cloud Calculation Manager* での設計のビジネス・ルールの作成を参照してください。
6.  をクリックするか、「アクション」ドロップダウンをクリックして「保存」を選択します。
 7. ルールを右クリックし、「検証」を選択します。
 8. ルールを右クリックし、「デプロイ」を選択します。

ビジネス・ルール・セキュリティの管理


Related Topics

- [個々のビジネス・ルールへのアクセス権の割当て](#)
- [複数のビジネス・ルールが格納されているフォルダへのアクセス権の割当て](#)

個々のビジネス・ルールへのアクセス権の割当て

サービス管理者はビジネス・ルールに対するアクセス権を割り当てることができます。

個々のビジネス・ルールへのアクセス権を割り当てるには:

1. ホーム・ページで、「**ビジネス・ルール**」を選択します。
2. ビジネス・ルールの 1 つを選択し、 をクリックし、「**権限の割当**」を選択します。

 **Note:**

一度に 1 つのビジネス・ルールのみに対する権限を割り当てることができます。

3. 「**権限の割当**」ダイアログ・ボックスで、「**権限**」タブをクリックします。
それまでに選択されたユーザーおよびグループが表示されます(ある場合)。ユーザーまたはグループを追加するには、「**ユーザー/グループの追加**」をクリックし、ユーザーまたはグループの 1 つを選択し、「**OK**」、「**閉じる**」の順にクリックします。
4. 表示されているユーザーまたはグループのそれぞれについて、次のいずれかのオプションを選択します:
 - 「**起動**」を選択すると、そのユーザーまたはグループが、選択されているビジネス・ルールを起動できるようになります。
 - 「**起動しない**」を選択すると、そのユーザーまたはグループは、選択されているビジネス・ルールを起動できなくなります。

 **Note:**

「起動」/「起動しない」設定の追加情報は[アクセス権限タイプ](#)を参照してください。

5. 「**保存**」をクリックします。



 **Note:**


ビジネス・ルール・ページに表示されるルールは、Calculation Manager で作成されたビジネス・ルールです。Enterprise Profitability and Cost Management で作成された配賦およびカスタム計算のルールは、このページには表示されません。

複数のビジネス・ルールが格納されているフォルダへのアクセス権の割当て

ルールをフォルダに入れて整理してから、フォルダ・レベルでアクセス権を割り当てることができます。フォルダへのアクセス権を割り当てると、割り当てられたアクセス権がそのフォルダ内のすべてのルールに継承されます。

複数のビジネス・ルールが格納されているフォルダへのアクセス権を割り当てるには:

1. ホーム・ページで「**ナビゲータ**」 をクリックし、「**作成と管理**」の下の「**ビジネス・ルール・セキュリティ**」をクリックします。
2. 「**ビジネス・ルール・フォルダ**」の下で、ビジネス・ルールが格納されているフォルダを選択してから をクリックします。
3. 「**アクセス権の割当**」ダイアログ・ボックスに、これまでに選択されたユーザーおよびグループ(ある場合)が表示されます。次のいずれかを行います:

- 追加のユーザーまたはグループのためにビジネス・ルールへのアクセス権を割り当てるには、「ユーザー」または「グループ」フォルダをクリックし、 をクリックしてから、選択可能なユーザーおよびグループのリストから選択します。



「アクセス権タイプ」で、次のように選択します。

- 「起動」を選択すると、そのユーザーまたはグループが、選択されているフォルダ内のビジネス・ルールを起動できるようになります。
- 「起動しない」を選択すると、そのユーザーまたはグループが、選択されているフォルダ内のビジネス・ルールを起動することはできなくなります。

「追加」をクリックし、「閉じる」をクリックします。アクセス権を割り当てたユーザーまたはグループが「ユーザー」または「グループ」フォルダに表示されます。

 **Note:**


「起動」/「起動しない」設定の追加情報は[アクセス権限タイプ](#)を参照してください。

- アクセス権を編集するには、編集するユーザーまたはグループを選択してから、 をクリックします。
 - アクセス権を削除するには、アクセス権を削除するユーザーまたはグループを選択し、 をクリックします。
4. 「閉じる」をクリックします。

ビジネス・ルール通知の有効化

Calculation Manager で作成され、通知が有効になっているビジネス・ルールが完了するか、エラーが発生したときにユーザーまたはグループに電子メール通知を送信するかどうかを指定できます。

ビジネス・ルール通知を有効にするには:

- ホーム・ページで、「アプリケーション」、「設定」の順に選択します。
- 「システム設定」で、「ビジネス・ルール通知」について「はい」を選択します。
- 「ユーザーに通知」で、 をクリックし、通知するユーザーまたはグループを選択します。

 **Note:**

通知するユーザーまたはグループを 1 つのみ選択できます。

- 「保存」をクリックします。

 **Note:**

Calculation Manager でビジネス・ルールを作成するときにルールのプロパティの「**通知の有効化**」オプションを使用して、ルールで通知を有効にするかどうかを指定します。Oracle Enterprise Performance Management Cloud Calculation Manager での設計のビジネス・ルールの作成を参照してください。


ビジネス・ルールの起動

Related Topics

- [ビジネス・ルール・ページからのビジネス・ルールの起動](#)
- [フォームからのビジネス・ルールの起動](#)
- [ジョブ・スケジューラからのビジネス・ルールの起動](#)
- [ダッシュボード 1.0 からのビジネス・ルールの起動](#)

ビジネス・ルール・ページからのビジネス・ルールの起動

ビジネス・ルール・ページからビジネス・ルールを起動するには:

1. ホーム・ページで、「**ビジネス・ルール**」を選択します。
2. **ビジネス・ルール**・ページで、目的のビジネス・ルールを選択し、「**起動**」 をクリックします。

 **Note:**

ビジネス・ルールを起動する前に、Calculation Manager でデプロイされている必要があります。ビジネス・ルールがデプロイされていない場合は、**ビジネス・ルール**・ページに表示されません。ビジネス・ルールをデプロイするには、Calculation Manager でルールを右クリックし、「**デプロイ**」を選択します。正常にデプロイメントされると、「デプロイメントに成功しました」というメッセージが表示されます。

 **Note:**

Enterprise Profitability and Cost Management で作成された配賦ルールとカスタム計算ルールは、**ビジネス・ルール**・ページに表示されません。このページでは、Calculation Manager で作成およびデプロイされたビジネス・ルールのみを起動できます。

フォームからのビジネス・ルールの起動



フォームでのルールの追加および削除

キューブによって、1つ以上のルールをフォームに関連付けることができます。ユーザーはフォームから関連付けられたルールを起動し、値を計算して割り当てることができます。フォームを開くまたは保存するときに、フォームに関連付けられた各ルールが自動的に起動するかどうかを設定できます。ルールの起動順序を変更したり、フォームからルールを削除することもできます。

次の点に注意してください。

- ルールをビジネス・プロセス・フォームに追加する前に、**Calculation Manager** からビジネス・プロセスにルールをデプロイする必要があります。
- 同様に、**Calculation Manager** でルールが削除された場合は、そのルールがビジネス・プロセスで今後使用されないように、ルールをビジネス・プロセスに再デプロイする必要があります。オプションで、このトピックの手順を使用して、フォームからルールを手動で削除できます。
- フォームがロードまたは保存されたときに自動的に実行されるよう設定されたルールはバックグラウンドで実行されません。

フォームでビジネス・ルールを追加、更新または削除するには:

1. 次のいずれかの操作を実行します。
 - 現在のフォームを更新するには、「**アクション**」、「**ビジネス・ルール**」の順にクリックします。
 - ルールに関連付けられるように編集用にフォームを開くには、ホーム・ページに移動して、「**ナビゲータ**」アイコン  をクリックし、「**作成および管理**」で「**フォーム**」をクリックします。フォームを選択し、、「**ビジネス・ルール**」の順にクリックします。
2. 「**キューブ**」ドロップダウン・メニューからキューブを選択します。
3. 「**ビジネス・ルール**」リストから、フォームに関連付けるルールを選択し、「**選択したビジネス・ルール**」に追加します。関連付けられたルールを削除するには、「**選択したビジネス・ルール**」でルールを選択して削除します。

デフォルトでは、「**フォームの計算**」ルールが選択されます。「**フォームの計算**」はフォームが小計を計算するために自動的に作成されます。「**フォームの計算**」を削除することで、ユーザーがフォーム上でデータを計算するのを防げます。
4. 選択したビジネス・ルールの順序(ルールが表示および起動される順序)を変更するには、「**選択したビジネス・ルール**」でビジネス・ルールを選択し、上矢印または下矢印をクリックしてリスト内で上下に移動します。リストの先頭にあるルールが最初に表示および起動されます。リストの末尾にあるルールは最後に表示および起動されます。

▲ 注意:



ビジネス・ルールを起動する順序は重要であり、データに影響する場合があります。

5. ビジネス・ルールのプロパティを設定するには、「**プロパティ**」をクリックします。
[ビジネス・ルールのプロパティの設定](#)を参照してください。
6. 「**保存**」をクリックして処理を保存し、フォームの作成または編集を続行します。または、「**終了**」をクリックして処理を保存し、フォームを閉じます。

ビジネス・ルールのプロパティの設定

ユーザーがフォームをロード(開く)または保存するときに、フォームに関連付けられたビジネス・ルールが自動的に起動されるようにするかどうかを指定できます。ビジネス・ルールに実行時プロンプトがある場合、実行時プロンプトのデフォルト・メンバーを、ページ軸と視点軸で選択されたメンバーに一致させるかどうかを設定できます。

ビジネス・ルールのプロパティを設定するには:

1. 次のいずれかを行います:
 - 現在のフォームを更新するには、「**アクション**」、「**ビジネス・ルール**」の順にクリックします。
 - 編集のためにフォームを開くには、ホーム・ページで「**ナビゲータ**」をクリックし、「**作成および管理**」で「**フォーム**」をクリックします。フォームを選択し、、「**ビジネス・ルール**」の順にクリックします。
2. フォームにはルールの割当てが可能な4つのフェーズがあり、各ルールではそれぞれ該当するフェーズに関連する情報を扱います。「**ビジネス・ルール・プロパティ**」セクションで、次の中から選択します:
 - **ロード前に実行**
 - **ロード後に実行**
 - **保存前に実行**
 - **保存後に実行**

 **Note:**

- 「ロード後に実行」および「保存前に実行」は、Groovy ルールに対してのみ有効です。計算スクリプトやグラフィック・ルールに対してこれらのオプションを選択することはできません。
- また、グリッドの保存、ページの変更、アクション・メニュー項目の起動などの一部のアクションでは、操作の完了後にページがリロードされます。これにより、グリッドのデータが最新に保たれます。この際には、ロードの前後に、通常のページ・ロードの場合と同様のアクションが実行されます。
- 非表示の実行時プロンプトはロード前およびロード後のオプションの計算スクリプト・ルールではサポートされていませんが、Groovy ルールではサポートされています。

3. **オプション:** ビジネス・ルールに実行時プロンプトがある場合、実行時プロンプト・ウィンドウのデフォルトのメンバー選択を、開いているフォームのページ軸と視点軸の現在のメンバーに一致させるには、「**フォームのメンバーを使用**」を選択します。

実行時プロンプトの値を非表示にするには、「**プロンプトの非表示**」を選択します。次の場合に実行時プロンプトを非表示にできます:

- すべての実行時プロンプト・メンバーの値が入力されている場合(該当するディメンション・メンバーがフォームの「ページ/視点」から読み取られます)
- 実行時プロンプトではディメンションは繰り返されません

4. 「OK」をクリックします。

ジョブ・スケジューラからのビジネス・ルールの起動

ジョブを実行するようにスケジュールすると、ビジネス・ルールが起動されます。

ビジネス・ルールをスケジュールして起動するには:

1. ホーム・ページで、「**アプリケーション**」または「**モデリング**」、「**ジョブ**」の順に選択します。
2. **ジョブ**・ページで、「**アクション**」ドロップダウンをクリックし、「**スケジュール**」を選択します。
3. 「**一般**」タブの「**このジョブのタイプ**」で、「**ルール**」を選択します。

Schedule Job

Jobs are actions that you can start now

What type of job is this? ^

Clear Cube

Rules

Export Valid Intersections

Integration Pipeline

Export Diagnostics

Execute Bursting Definition

4. 「**ジョブの詳細**」タブに、作成されているビジネス・ルールがすべてリストされます。目的のビジネス・ルールを選択します。

Schedule Job

Jobs are actions that you can start now or schedule to run at intervals. Follow the steps below to set up this new job.

General Job Details Review

Business Rules Refresh

All Cubes All Rule Types


Type	Name	Description	Select
	Export LO Data		<input checked="" type="checkbox"/>
	Push Data to PCM_REP		<input type="checkbox"/>

5. 情報を確認し、「**終了**」をクリックします。

ダッシュボード 1.0 からのビジネス・ルールの起動

ダッシュボード 1.0 では、フォームに添付されているビジネス・ルールを選択できます。

ダッシュボード 1.0 からビジネス・ルールを起動するには:

1. ホーム・ページで、「**ダッシュボード**」を選択します。
2. **ダッシュボード**・ページで、「**ダッシュボード 1.0**」を展開し、ダッシュボードを選択します。
3. データ・グリッド・コンポーネントにカーソルを置き、 (**アクション**) アイコンをクリックして、「**ビジネス・ルール**」を選択します。



4. 「ビジネス・ルール」ダイアログ・ボックスで、目的のビジネス・ルールを選択します。

ルールの使用状況の表示

サービス管理者は、ルールがどこで使用されているかを詳しく説明する、ルールの使用状況レポートというレポートを作成できます。フィルタを使用して、ルール名、ルール・タイプおよびキューブで詳細を絞り込みます。

ノート:

ルールの使用状況レポートには、ビジネス・プロセスにデプロイされているルールのみが表示されます。

ルールの使用状況を表示するには:

1. 「ナビゲータ」アイコン をクリックし、「モニターおよび検索」で「システム・レポート」をクリックします。
2. 「ルール詳細」タブをクリックします。
3. フィルタする場合は、フィルタ条件を選択して「フィルタの適用」をクリックします。
 - **ルール・タイプ:** 「すべて」、「ルール」 および 「ルールセット」 から、1つ以上のオプションを選択します
 - **キューブ:** 使用可能なキューブのリストから選択します。
 - **名前フィルタ:** ルール名またはルールセット名を入力します。オプションで、ワイルドカード文字を使用できます。

「ルール」 リストに、ビジネス・プロセスにデプロイされていて、フィルタ条件に一致するルールが表示されます。
4. 「ファイル・フォーマット」 に、次のいずれかのフォーマットを選択します。
 - XLSX (デフォルト)
 - PDF
 - HTML
 - XML

 ノート:

XML フォーマットを選択した場合、Oracle BI Publisher Add-in for MS Office を使用してルールの使用状況レポートを構成できます。レポートに表示する列、列を表示する順序、ソートを適用するかどうかなどを細かく制御できます。

5. 「レポート作成」をクリックします。

ルールの使用状況レポートには、次の情報が表示されます。

- ルール名
- ルール・タイプ
- キューブ
- プライマリ関連付け(タイプと名前)
- セカンダリ関連付け(タイプと名前)

プライマリ関連付けでは、フォームまたはタスクにリンクされているルールなど、アーティファクトに直接関連付けられているルールを参照します。セカンダリ関連付けでは、メニュー項目にリンクされていて、そのメニュー項目がフォームにリンクされているルール、または特定のタスク・リストのタスクにリンクされているルールなど、アーティファクトと間接的に関連付けられているルールを参照します。

作成されたレポートでは、ルールは次のようにアルファベット順に表示されます。

- ルール名
- プライマリ関連付けタイプ
- プライマリ関連付け名

例 22-1 プライマリ関連付けを示す、ルールの使用状況レポートのサンプル(PDF フォーマット)



Rules Usage Report

Rule Name	Rule Type	Cube	Primary Association		Secondary Association	
			Type	Name	Type	Name
Act_Agg_Ek	Rules	PSPPlan1				
Adhoc - Clear 5+7	Rules	PSPPlan1				
Agg	Rules	PSPPlan1	Form	_XX_Agg		
Agg - Roll up E and O from drop down, Customer in row, all others at none	Rules	PSPPlan1	Form	1 - Corp Prof Fees		

Page 1 of 82

1/10/2018 18:00 PM

例 22-2 プライマリおよびセカンダリ関連付けを示す、ルールの使用状況レポートのサンプル(PDF フォーマット)



Rule Name	Rule Type	Cube	Primary Association		Secondary Association	
			Type	Name	Type	Name
psp_Agg_budget	Rules	PSPPlan1				
psp_Agg_Fcs t_All Dims	Rules	PSPPlan1	Task	Aggregation	Task List	Execute Royalty Calc
psp_Agg_FC @AER_All Dims	Rules	PSPPlan1				
psp_Agg_budget_All Dims	Rules	PSPPlan1				
psp_Rowfocused_Agg	Rules	PSPPlan1	Form	1.0 psp_Agg		
psp_Agg_Actuals_All Dims	Rules	PSPPlan1				

Page 81 of 82

1/10/2018 18:00 PM

Groovy ビジネス・ルール作成のためのリソース

Related Topics

- [Groovy ビジネス・ルールについて](#)
Groovy ビジネス・ルールを使用すると、通常のビジネス・ルールでは解決できないユース・ケースを解決する高度なルールを設計できます。たとえば、フォーム上のデータ値が事前定義済のしきい値を超える場合に、そのデータの保存を禁止するルールを設計できます。
- [Groovy ルールの Java API リファレンス](#)
Enterprise アプリケーションの場合、Groovy ルールを作成する際に Java API リファレンスを利用できます。
- [Groovy ビジネス・ルールの例](#)
- [Groovy ビジネス・ルール・チュートリアル・ビデオ](#)
Groovy ビジネス・ルールを実装および使用する際の詳細およびベスト・プラクティスは、これらのチュートリアル・ビデオをご覧ください。
- [Groovy ビジネス・ルール・チュートリアル](#)
Groovy ビジネス・ルールの実装についての実践的な例については、これらのチュートリアルを実行してください。
- [Groovy ルールのビジネス・シナリオ](#)
この項では、Groovy ビジネス・ルールを使用できるビジネス・シナリオの例について説明します。

Groovy ビジネス・ルールについて

Groovy ビジネス・ルールを使用すると、通常のビジネス・ルールでは解決できないユース・ケースを解決する高度なルールを設計できます。たとえば、フォーム上のデータ値が事前定義済のしきい値を超える場合に、そのデータの保存を禁止するルールを設計できます。

 ノート:

Groovy は、EPM Cloud Platform に付属している高度なカスタマイズ可能ルール・フレームワークであり、EPM Enterprise Cloud で Enterprise PBCS および PBCS Plus One とともに使用できます。Groovy ルールの作成と編集は次の場所で行うことができます:

- Planning (次のアプリケーション・タイプが含まれます: 「カスタム」、モジュール、「フリーフォーム」、「Sales Planning」および「Strategic Workforce Planning」)
- Enterprise Profitability and Cost Management
- Financial Consolidation and Close
- フリーフォーム
- Tax Reporting

Groovy ルールは Calculation Manager で作成し、その実行はアプリケーション内の計算スクリプト・ルールを実行できる場所ならどこでも行うことができます。たとえば、ルール・ページ、フォームのコンテキスト内、ジョブ・スケジューラ内、ダッシュボード内、タスク・リスト内などで実行できます。

Groovy ルールはルールセットでもサポートされています。ルールセット内では計算スクリプト・ルールと Groovy ルールを併用できます。

Groovy ルールは複合フォームではサポートされません。

Groovy ルールから、タイプがルール、ルールセットおよびテンプレートのジョブを同期的に実行できます。

クライアント・マシンに EPM 自動化クライアントをインストールせずに、Groovy スクリプトを記述して、Oracle Enterprise Performance Management Cloud で直接 EPM 自動化選択コマンドを実行できます。Groovy を介して実行できる EPM 自動化コマンドおよびスクリプト例は、[Oracle Enterprise Performance Management Cloud EPM 自動化の操作の EPM 自動化をインストールせずにコマンドを実行およびサポートされているコマンド](#)を参照してください。

Oracle では、次の 2 つのタイプの Groovy ルールをサポートしています。

- 実行時プロンプト以外のコンテキストに基づいて実行時に計算スクリプトを動的に生成し、Oracle Essbase に対して実行される計算スクリプトを返すルール。

たとえば、プロジェクトの期間(開始日から終了日まで)のみを対象としたプロジェクト費用を計算するルールを作成できます。

また、フォーム上にある勘定科目のみを対象としたトレンドベースの計算も同様の例の 1 つです。収益、費用、貸借対照表およびキャッシュ・フローの各種フォームで同じ計算を使用できます。これにより、最適化と再利用が可能になります。

- データ検証を実行し、入力されたデータが会社のポリシーに違反する場合に操作を取り消すような純粋な Groovy ルール。

ビデオ

目的

Oracle Enterprise Performance Management Cloud で Groovy ルールを作成するためのトレーニング・オプションについて学習します。

次のビデオの視聴



[Oracle EPM Cloud での Groovy を学ぶ](#)

Groovy ルールの Java API リファレンス

Enterprise アプリケーションの場合、Groovy ルールを作成する際に Java API リファレンスを利用できます。

Java API リファレンスには、EPM Groovy オブジェクト・モデルの構文と動作を示す例も記載されています。

Java API リファレンスを確認するには、[クラウド・ヘルプ・センター](#)の [Oracle Enterprise Performance Management Cloud の Groovy ルールの Java API リファレンス](#)を参照してください。このリファレンスは、[Oracle Enterprise Planning and Budgeting Cloud Academy](#) から参照できます。Academy にアクセスするには、サインインしてから「**アカデミ**」をクリックします。

Groovy ビジネス・ルールの例

Groovy スクリプトの例を表示するには:

1. [Oracle Enterprise Performance Management Cloud Groovy ルール Java API リファレンス](#)を参照してください。
2. 次のいずれかを行います:
 - メイン・ページの「**Example Groovy Scripts**」で、「[ここ](#)」という語をクリックしてサンプル・スクリプトを表示します。

Example Groovy Scripts

The example Groovy scripts provided here demonstrate the syntax and power of the EPM Groovy object model.

Overview Package Class Tree Index Help

- 左ペインの「**すべてのクラス**」でクラスをクリックすると、そのクラスの例が表示されます。

たとえば、戦略モデリングの例を表示するには、左のペインで「StrategicModel」クラスをクリックします。

Groovy ビジネス・ルール・チュートリアル・ビデオ


Groovy ビジネス・ルールを実装および使用する際の詳細およびベスト・プラクティスは、これらのチュートリアル・ビデオをご覧ください。

目的	次のビデオの視聴
Oracle Enterprise Performance Management Cloud で Groovy ルールを作成するためのトレーニング・オプションを確認します:	 Oracle EPM Cloud での Groovy を学ぶ
Groovy ルールおよびスマート・プッシュを使用して、ソース・ロケーションからターゲット・ロケーションにデータをプッシュします。	 Groovy ルールとスマート・プッシュを使用した変更済データの移動
ビジネス・プロセスにフォーカス済計算スクリプトを生成し、データ・エントリ・フォーム全体ではなく、編集されたデータのみを計算します。	 Groovy ルールを使用した変更済データの計算
データ管理で、Groovy ルールを使用して増分ロードされたデータを計算します。	 データ管理での Groovy ルールを使用した増分ロードされたデータの計算
Groovy テンプレートを使用して、ユーザー・アクションのユーザビリティおよび計算パフォーマンスを改善します。	 Groovy テンプレートを使用したパフォーマンスを改善するためのアクションのカスタマイズ

Groovy ビジネス・ルール・チュートリアル

Groovy ビジネス・ルールの実装についての実践的な例については、これらのチュートリアルを実行してください。

Groovy の実装: 基本タスク

目的	方法の学習
Groovy スクリプト言語、および Oracle Enterprise Performance Management Cloud のビジネス・プロセスの Groovy スクリプトの作成方法について学習します。	 Groovy ビジネス・ルールの概要

目的**方法の学習**

データ・グリッドおよびデータ・グリッド・イテレータを操作するために Groovy スクリプトを実装します。



[Groovy でのデータ・グリッドおよびイテレータの操作](#)

- 条件付きロジックを使用したデータ・グリッドの背景色の設定
- パフォーマンス・ベンチマークの実装
- グリッドでのデフォルト・データ値の設定

Groovy スクリプトを作成して、ビジネス・プロセス・メタデータを操作します。ここでは、ある親から別の親にメンバーを移動します。スクリプトには、ユーザーにを入力を求める RTP が含まれます。



[Groovy でのディメンション・メンバーの移動](#)

スクリプトを呼び出すメニュー・アイテムのある右クリック・アクション・メニューを作成する方法、およびアクション・メニューをデータ・フォームに関連付ける方法も学習します。

Groovy ルールおよびスマート・プッシュを使用して、ソース・ロケーションからターゲット・ロケーションにデータをプッシュします。



[Groovy とスマート・プッシュを使用した変更済データの移動](#)

Groovy の実装: 拡張タスク**目的****方法の学習**

ドライバ・キューブに格納されている許容範囲に対してデータ・エントリを検証する



[Groovy でのデータ・エントリ・ルールの検証](#)

Groovy スクリプトを実装します。

目的

方法の学習

Groovy スクリプトを作成して、ビジネス・プロセス・メタデータを操作します。ここでは、ディメンションにメンバーを追加します。スクリプトには、ユーザーに入力を求める RTP が含まれます。



Groovy でのディメンション・メンバーの追加

スクリプトを呼び出すメニュー・アイテムのある右クリック・アクション・メニューを作成する方法、およびアクション・メニューをデータ・フォームに関連付ける方法も学習します。

ビジネス・プロセスにフォーカス済計算スクリプトを生成し、データ・エントリ・フォーム全体ではなく、編集されたデータのみを計算します。



Groovy を使用した変更済データの計算

戦略モデリングの概念を理解し、Groovy スクリプトを使用して戦略モデリングとビジネス・プロセス・アプリケーションの間でデータを統合する方法を学習します。



Groovy を使用した Planning と戦略モデルの間のデータの統合

対話型の設計時プロンプト (DTP) を使用して Groovy テンプレートを作成します。



Groovy テンプレートの作成

ビジネス・プロセスで Groovy ビジネス・ルールを使用して、EPM Cloud からディメンション・メタデータをエクスポートし、そのメタデータをビジネス・プロセスにインポートする方法を学習します。



Groovy ルールを使用した Enterprise Data Management Cloud のディメンション・メタデータの Planning との統合

Groovy の実装: REST API

目的

方法の学習

データ管理 REST API を呼び出して、ユーザーのエンティティの最新製品ボリュームをビジネス・プロセスにロードするデータ・ロード・ルールを実行します。



Groovy を使用した内部 REST API の呼出し

目的

ビジネス・プロセスで Groovy スクリプトから外部 REST API を呼び出します。

スクリプトを呼び出すメニュー・アイテムのある右クリック・アクション・メニューを作成する方法、およびアクション・メニューをデータ・フォームに関連付ける方法も学習します。

方法の学習

Groovy を使用した外部 REST API の呼出し

Groovy ルールのビジネス・シナリオ

この項では、Groovy ビジネス・ルールを使用できるビジネス・シナリオの例について説明します。

次のトピックには、集中的なデータ移動およびビジネス・プロセス・データに対するスマート計算を実行するための Groovy ルールの使用方法を示すシナリオが含まれます。

- Groovy ルールとスマート・プッシュを使用した変更済データの移動
- Groovy ルールを使用した変更済データの計算

Groovy ルールとスマート・プッシュを使用した変更済データの移動

このトピックでは、レポート・キューブに変更済データを移動するために Groovy ルールとスマート・プッシュを使用する方法のベスト・プラクティスについて説明します。

データ・フォームで、ユーザーは従業員の給与を変更し、レポート・マネージャを割り当てることができます。フォーム・データが保存されると、スマート・プッシュが実行されて、データが分析のためにレポート・キューブにプッシュされます。また、必要な場合には、データがコピーされているときにディメンションが連結されます。

フォームに数百行のデータが含まれていても、すべてのデータが構成済のデータ・マップに対して確認され、ディメンション連結(設定されている場合)の処理が行われてから、レポート・キューブにプッシュされます。フォームのデータ量によっては、このプロセスが完了するまでにしばらく時間がかかります。

入力とレポート・キューブの間でのデータ同期のパフォーマンスを向上させるには、変更したデータを識別して分離し、分離したデータのみをレポート・キューブにプッシュするように Groovy ルールを設計します。

たとえば、ディメンション・メンバーを入力キューブからレポート・キューブにマッピングする単純なデータ・マップをスマート・プッシュのために構成したとします。

PushCompensationToRepCube

Tap description to edit

Options
Save and Close
Cancel

Source
HP1

Plan2

Target
HP1

HP1_ASO

Account ILV0Descendants(Account)	Account	✕
Currency ILV0Descendants(Currency)	Currency	✕
Employee ILV0Descendants(Employee)	Employee	✕
Entity ILV0Descendants(Entity)	Entity	✕
ReportingManager	Manager	✕

Unmapped Dimensions

次に、入力のデータとレポート・キューブを表示するフォームを用意しました。

ORACLE Planning and Budgeting Cloud: HP1 | Diana Prince

Manage Employees | Data Exchange

Input Cube | Reporting Cube

Manage Employee Salary and Reporting Manager

Actions Save Refresh

Currency	Scenario	Years	Period	Version	Entity										
USD	Current	FY16	Jan	BU Version_1	No Entity										
						Grade	Salary	Bonus	Employee Phone	Employee Email	Reporting Manager				
No Employee						Grade 1	500	1000	555-1234	no emp@oracle.c	Jerry R				
Employee 1						Grade 3	7000	650	555-4321	emp1@oracle.co	Jerry R				
Employee 2						Grade 3	6900	620	555-2345	emp2@oracle.co	Elizabeth K				
Employee 3						Grade 1	4200	1000	555-5432	emp3@oracle.co	John S				
Employee 4						Grade 2	5000	500	555-8765	emp4@oracle.co	Elizabeth K				
Employee 5						Grade 3	6000	600	555-9876	emp5@oracle.co	Jerry R				
Employee 6						Grade 1	4000	400	555-1234	emp6@oracle.co	Jerry R				
Employee 7						Grade 2	5200	500	555-1235	emp7@oracle.co	Elizabeth K				
Employee 8						Grade 3	6000	600	555-1236	emp8@oracle.co	John S				
Employee 9						Grade 1	7000	700	555-1237	emp9@oracle.co	Jerry R				
Employee 10						Grade 2	8600	800	555-1238	emp10@oracle.c	Elizabeth K				
Employee 11						Grade 3	9000	900	555-1239	emp11@oracle.c	John S				
Employee 12						Grade 1	10000	1000	555-1240	emp12@oracle.c	Jerry R				
Employee 13						Grade 2	4250	425	555-1241	emp13@oracle.c	Elizabeth K				
Employee 14						Grade 3	5250	525	555-1242	emp14@oracle.c	John S				
Employee 15						Grade 1	6250	625	555-1243	emp15@oracle.c	Jerry R				

Period	Years	Scenario	Version	Currency	Entity	Salary	Bonus
Jan	FY16	Current	BU Version_1	USD	No Entity		
No Employee	Jerry R					500	1000
Employee 1	Jerry R					7000	650
Employee 2	Elizabeth K					6900	620
Employee 3	John S					4200	1000
Employee 4	Elizabeth K					5000	500
Employee 5	Jerry R					6000	600
Employee 6	Jerry R					4000	400
Employee 7	Elizabeth K					5200	500
Employee 8	John S					6000	600
Employee 9	Jerry R					7000	700
Employee 10	Elizabeth K					8500	800
Employee 11	John S					9000	900
Employee 12	Jerry R					10000	1000
Employee 13	Elizabeth K					4250	425
Employee 14	John S					5250	525
Employee 15	Jerry R					6250	625
Employee 16	Elizabeth K					7250	725

データ入力に使用されるフォームは、スマート・プッシュに対応しており、フォームのコンテキストを使用して、フォームで定義されたディメンションについて選択されているすべてのメンバーのデータをプッシュします。

Map Reporting Application	Dimension	Use Form Context	Overwrite Selection	Run After Save	Delete
PushCompensationToRepCube	Currency	<input checked="" type="checkbox"/>			
	Scenario	<input checked="" type="checkbox"/>			
	Years	<input checked="" type="checkbox"/>			
	Period	<input checked="" type="checkbox"/>			
	Version	<input checked="" type="checkbox"/>			
	Entity	<input checked="" type="checkbox"/>			
	Employee	<input checked="" type="checkbox"/>			
	Account	<input checked="" type="checkbox"/>			

Groovy ルールのスクリプト全体を次に示します。


```

1 if(!operation.grid.hasSmartPush("PushCompensationToRepCube"))
2     return
3
4 // Isolate edited employees
5 Set<String> employees = []
6 operation.grid.dataCellIterator('Salary', 'Reporting Manager').each { DataCell cell ->
7     if(cell.edited) {
8         employees << cell.getMemberName("Employee")
9     }
10 }
11
12 if(employees) {
13     // Push data to the reporting cube for edited employees only
14     String employeesStr = "" + employees.join(", ") + ""
15     operation.grid.getSmartPush("PushCompensationToRepCube").execute( [ "Employee" : employeesStr ] )
16     println("The following employee compensation details were moved to reporting cube: \n " + employeesStr)
17 }
18 else{
19     println("There were no modifications. No data was moved to the reporting cube.")
20 }

```

スクリプトでは、スマート・プッシュのために関連付けられたデータ・マップが最初に指定されます。

```

1 if(!operation.grid.hasSmartPush("PushCompensationToRepCube"))
2     return
3
4 // Isolate edited employees
5 Set<String> employees = []
6 operation.grid.dataCellIterator('Salary', 'Reporting Manager').each { DataCell cell ->
7     if(cell.edited) {
8         employees << cell.getMemberName("Employee")
9     }
10 }
11
12 if(employees) {
13     // Push data to the reporting cube for edited employees only
14     String employeesStr = "" + employees.join(", ") + ""
15     operation.grid.getSmartPush("PushCompensationToRepCube").execute( [ "Employee" : employeesStr ] )
16     println("The following employee compensation details were moved to reporting cube: \n " + employeesStr)
17 }
18 else{
19     println("There were no modifications. No data was moved to the reporting cube.")
20 }

```

スクリプトのこのセクションでは、dataCellIterator メソッドを使用し、編集済のセルを識別して分離します。

```

1 if(!operation.grid.hasSmartPush("PushCompensationToRepCube"))
2     return
3
4 // Isolate edited employees
5 Set<String> employees = []
6 operation.grid.dataCellIterator('Salary', 'Reporting Manager').each { DataCell cell ->
7     if(cell.edited) {
8         employees << cell.getMemberName("Employee")
9     }
10 }
11
12 if(employees) {
13     // Push data to the reporting cube for edited employees only
14     String employeesStr = "" + employees.join(", ") + ""
15     operation.grid.getSmartPush("PushCompensationToRepCube").execute( [ "Employee" : employeesStr ] )
16     println("The following employee compensation details were moved to reporting cube: \n " + employeesStr)
17 }
18 else{
19     println("There were no modifications. No data was moved to the reporting cube.")
20 }

```

次のセクションでは、分離されたデータを受け取り、スマート・プッシュと、構成されてこのフォームに関連付けられているデータ・マップを使用して、集中的なデータ移動を実行します。変更済データがレポート・キューブに移動されるとメッセージが表示されます。

```

1 if(!operation.grid.hasSmartPush("PushCompensationToRepCube"))
2     return
3
4 // Isolate edited employees
5 Set<String> employees = []
6 operation.grid.dataCellIterator('Salary', 'Reporting Manager').each { DataCell cell ->
7     if(cell.edited) {
8         employees << cell.getMemberName("Employee")
9     }
10 }
11
12 if(employees) {
13     // Push data to the reporting cube for edited employees only
14     String employeesStr = """"\${employees.join(", ")}\""""
15     operation.grid.getSmartPush("PushCompensationToRepCube").execute( [ "Employee" : employeesStr ] )
16     println("The following employee compensation details were moved to reporting cube: \n \${employees.join(', ')}")
17 }
18 else{
19     println("There were no modifications. No data was moved to the reporting cube.")
20 }

```

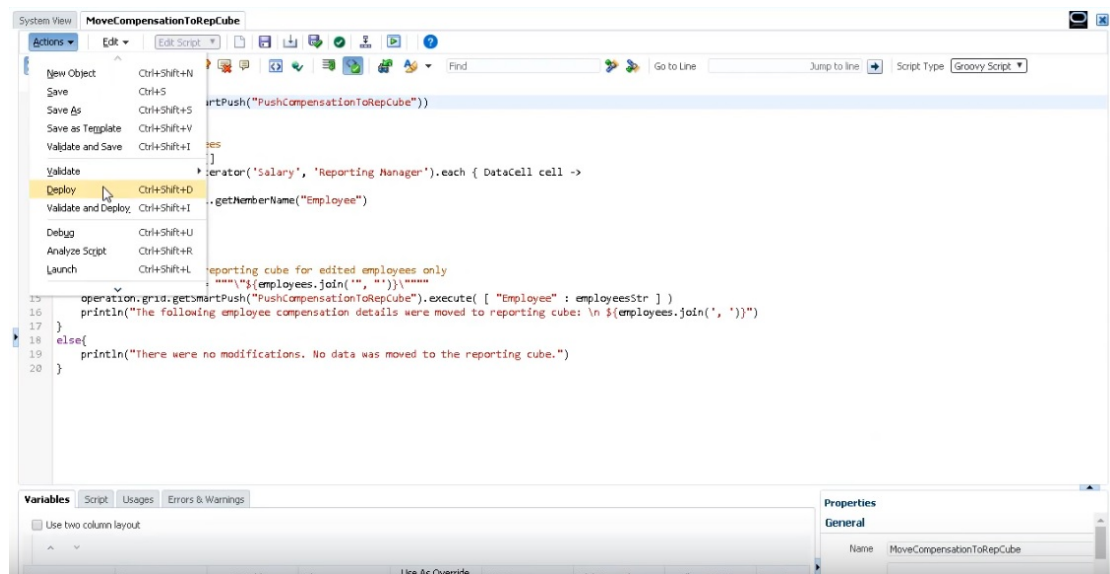
変更がないときは、変更箇所がなく、データがレポート・キューブに移動されなかったというメッセージが表示されます。

```

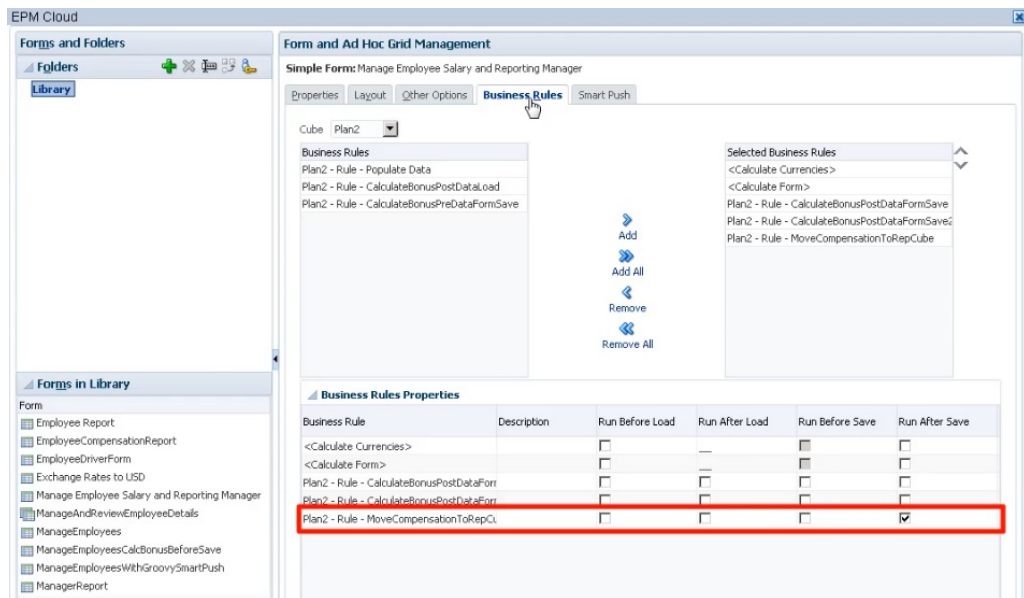
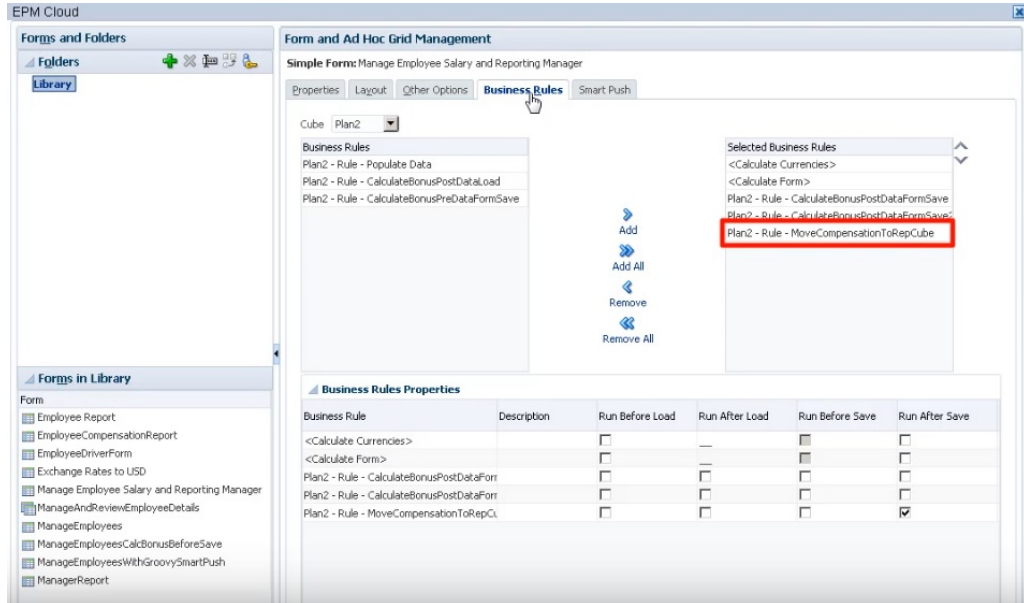
1 if(!operation.grid.hasSmartPush("PushCompensationToRepCube"))
2     return
3
4 // Isolate edited employees
5 Set<String> employees = []
6 operation.grid.dataCellIterator('Salary', 'Reporting Manager').each { DataCell cell ->
7     if(cell.edited) {
8         employees << cell.getMemberName("Employee")
9     }
10 }
11
12 if(employees) {
13     // Push data to the reporting cube for edited employees only
14     String employeesStr = """"\${employees.join(", ")}\""""
15     operation.grid.getSmartPush("PushCompensationToRepCube").execute( [ "Employee" : employeesStr ] )
16     println("The following employee compensation details were moved to reporting cube: \n \${employees.join(', ')}")
17 }
18 else{
19     println("There were no modifications. No data was moved to the reporting cube.")
20 }

```

この Groovy ルールを作成した後、ビジネス・ルールをデプロイするのと同じ方法でデプロイしました。



次に、フォームの管理でルールをフォームに関連付けます。この Groovy ルールは、フォーム・データが保存された後で実行します。



Groovy ルールを実行するには、**入力キューブ**でフォームを開き、変更を加えてから「保存」をクリックします。

The screenshot shows the Oracle Planning and Budgeting Cloud interface. A table titled "Manage Employee Salary and Reporting Man" is displayed. The table has columns for Employee, Grade, Salary, Bonus, Employee Phone, Employee Email, and Reporting Manager. An information popup is visible, stating "Messages for this page are listed below." and "The data has been saved." and "Rule was run successfully". A red box highlights a portion of the table, indicating that the data in this area has been updated.

	Grade	Salary	Bonus	Employee Phone	Employee Email	Reporting Manager
No Employee	Grade 1	500	1000	555-1234	no.emp@oracle.co	Jerry R
Employee 1	Grade 3	7200	650	555-4321	emp1@oracle.co	Jerry R
Employee 2	Grade 3	6900	620	555-2345	emp2@oracle.co	Elizabeth K
Employee 3	Grade 1	4500	1000	555-5432	emp3@oracle.co	Jerry R
Employee 4	Grade 2	5500	500	555-8765	emp4@oracle.co	Elizabeth K
Employee 5	Grade 3	6000	600	555-9876	emp5@oracle.co	Jerry R
Employee 6	Grade 1	4500	400	555-1234	emp6@oracle.co	Jerry R
Employee 7	Grade 2	5200	500	555-1235	emp7@oracle.co	Elizabeth K
Employee 8	Grade 3	6000	600	555-1236	emp8@oracle.co	Elizabeth K
Employee 9	Grade 1	7000	700	555-1237	emp9@oracle.co	Jerry R
Employee 10	Grade 2	8500	800	555-1238	emp10@oracle.co	Jerry R
Employee 11	Grade 3	9000	900	555-1239	emp11@oracle.co	Jerry R
Employee 12	Grade 1	10000	1000	555-1240	emp12@oracle.co	Jerry R
Employee 13	Grade 2	4250	425	555-1241	emp13@oracle.co	Jerry R
Employee 14	Grade 3	5250	525	555-1242	emp14@oracle.co	Jerry R
Employee 15	Grade 1	6250	625	555-1243	emp15@oracle.co	Jerry R

保存されると、更新されたデータがレポート・キューブに表示されます。

Groovy ルールを使用した変更済データの計算

このトピックでは、Groovy ルールを使用して変更済データのみを計算することで、ビジネス・プロセス計算パフォーマンスを改善する方法を説明します。

フォーム内のデータを更新したら、データを計算する必要があります。標準計算スクリプトを計算するビジネス・ルールを使用すると、フォームのすべてのデータが計算されます。データベースの大きな領域に影響する大規模なフォームまたは計算では、計算のパフォーマンスが低下する場合があります。

行を右クリックすると、一度に 1 つの行を手動で計算できます。こうすると計算のパフォーマンスが速くなりますが、データの複数行に変更を加えるために適した方法ではありません。

Groovy ルールは、更新するセルに動的に集中することができます。

フォームに対して Groovy ルールを使用するには次の 2 つの方法があります。

- 保存時にデータを計算するとき、Groovy ルールによって、更新したセルに基づいた FIX 文を含む計算スクリプトが生成されます。次に、フォーム上のすべてのレコードではなく変更済データに対して、サーバー上で計算が実行されます。多数のデータを更新する大規模なフォームでは、このオプションをベスト・プラクティスとして使用します。
- データを保存する前に計算する場合は、Groovy ルールによって、メモリー内の変更済データが計算され、フォーム上に結果が表示された後で、データベースに保存されます。実行する計算の数が少ない場合、またはアウトラインに構築するのが難しい複雑な手続き型計算を実行しようとする場合には、このオプションをベスト・プラクティスとして使用します。

この例では、給与の割合としてボーナスが計算されます。

ManageEmployees ⓘ						
Currency	Scenario	Years	Period	Version	Entity	
USD	Current	FY16	Jan	BU Version_1	No Entity	
	Grade	Salary	Bonus	Employee Phone	Employee Email	Reporting Manager
No Employee	Grade 1	500	50	555-1234	no.emp@oracle.co	Jerry R
Employee 1	Grade 3	6500	650	555-4321	emp1@oracle.co	John S
Employee 2	Grade 3	6200	620	555-2345	emp2@oracle.co	Elizabeth K
Employee 3	Grade 1	4500	450	555-5432	emp3@oracle.co	John S
Employee 4	Grade 2	5000	500	555-8765	emp4@oracle.co	Elizabeth K
Employee 5	Grade 3	6000	600	555-9876	emp5@oracle.co	Jerry R
Employee 6	Grade 1	4000	400	555-1234	emp6@oracle.co	Jerry R
Employee 7	Grade 2	5000	500	555-1235	emp7@oracle.co	Elizabeth K

$$\text{Bonus} = \text{Salary} * 0.1$$

保存時の計算について説明します。このフォームは、保存時に計算する Groovy ルールを含むように定義されていることに注意してください。

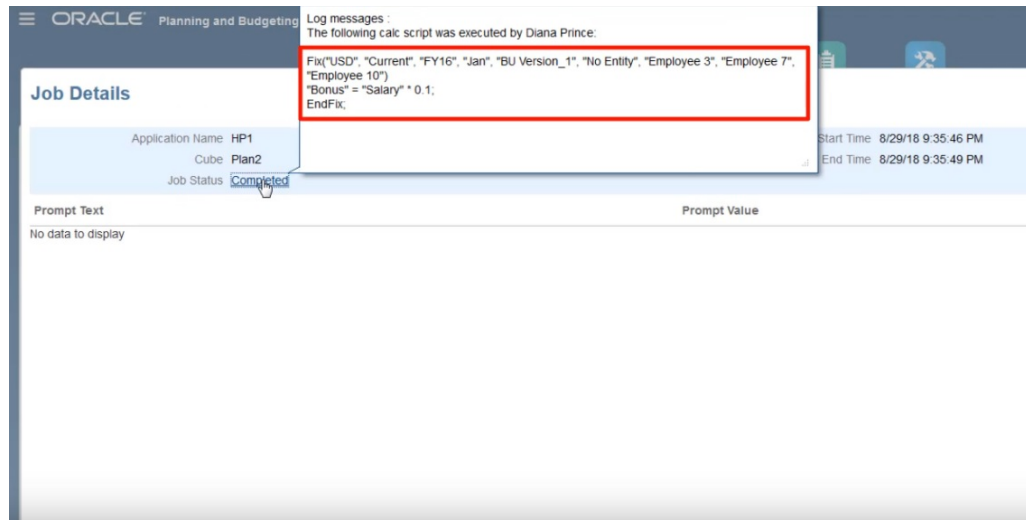
フォーム上で一部の給与データと一部の電話番号を更新した後、電話番号は保存されますが、計算には影響しません。

	Grade	Salary	Bonus	Employee Phone	Employee Email	Reporting Manager
No Employee	Grade 1	5000	500	555-1234	no.emp@oracle.c	Jerry R
Employee 1	Grade 3	6500	650	555-4321	emp1@oracle.co	John S
Employee 2	Grade 3	6200	620	555-2345	emp2@oracle.co	Elizabeth K
Employee 3	Grade 1	4000	300	555-5431	emp3@oracle.co	John S
Employee 4	Grade 2	5000	500	555-8765	emp4@oracle.co	Elizabeth K
Employee 5	Grade 3	6000	600	555-9876	emp5@oracle.co	Jerry R
Employee 6	Grade 1	4000	400	555-1235	emp6@oracle.co	Jerry R
Employee 7	Grade 2	9000	500	555-1235	emp7@oracle.co	Elizabeth K
Employee 8	Grade 3	6000	600	555-1236	emp8@oracle.co	John S
Employee 9	Grade 1	7000	700	555-1237	emp9@oracle.co	Jerry R
Employee 10	Grade 2	4000	800	555-1238	emp10@oracle.c	Elizabeth K
Employee 11	Grade 3	9000	900	555-1239	emp11@oracle.c	John S
Employee 12	Grade 1	10000	1000	555-1240	emp12@oracle.c	Jerry R
Employee 13	Grade 2	4250	425	555-1241	emp13@oracle.c	Elizabeth K
Employee 14	Grade 3	5250	525	555-1242	emp14@oracle.c	John S
Employee 15	Grade 1	6250	625	555-1243	emp15@oracle.c	Jerry R
Employee 16	Grade 2	7250	725	555-1244	emp16@oracle.c	Elizabeth K
Employee 17	Grade 3	8250	825	555-1245	emp17@oracle.c	John S
Employee 18	Grade 1	9250	925	555-1246	emp18@oracle.c	Jerry R
Employee 19	Grade 2	10250	1025	555-1247	emp19@oracle.c	Elizabeth K
Employee 20	Grade 3	4500	450	555-1248	emp20@oracle.c	John S
Employee 21						

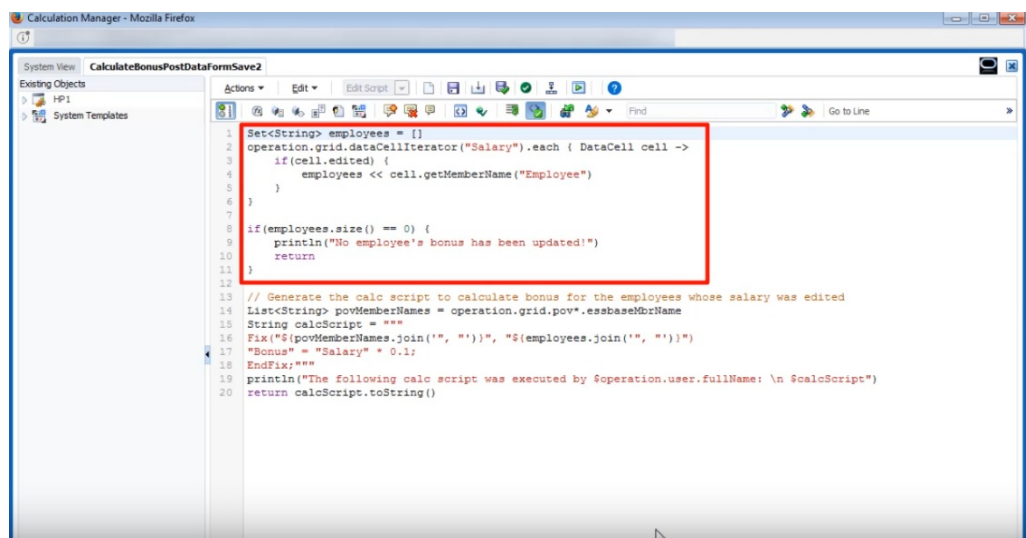
関連する Groovy ルールを実行するフォームを保存するとき、計算されたボーナス・データがフォームに表示されます。

	Grade	Salary	Bonus	Employee Phone	Employee Email	Reporting Manager
No Employee	Grade 1	5000	500	555-1234	no.emp@oracle.c	Jerry R
Employee 1	Grade 3	6500	650	555-4321	emp1@oracle.co	John S
Employee 2	Grade 3	6200	620	555-2345	emp2@oracle.co	Elizabeth K
Employee 3	Grade 1	4000	400	555-5431	emp3@oracle.co	John S
Employee 4	Grade 2	5000	500	555-8765	emp4@oracle.co	Elizabeth K
Employee 5	Grade 3	6000	600	555-9876	emp5@oracle.co	Jerry R
Employee 6	Grade 1	4000	400	555-1235	emp6@oracle.co	Jerry R
Employee 7	Grade 2	9000	900	555-1235	emp7@oracle.co	Elizabeth K
Employee 8	Grade 3	6000	600	555-1236	emp8@oracle.co	John S
Employee 9	Grade 1	7000	700	555-1237	emp9@oracle.co	Jerry R
Employee 10	Grade 2	4000	400	555-1238	emp10@oracle.c	Elizabeth K
Employee 11	Grade 3	9000	900	555-1239	emp11@oracle.c	John S

「ジョブの詳細」を表示すると、Groovy ルールによって作成された計算スクリプトがあります。FIX 文には変更済の従業員のみが含まれることに注意してください。



Calculation Manager を開いて、Groovy ルールを表示します。この最初のセクションは、フォームのグリッドに対して反復処理を行い、編集された給与のセルを見つけて、関連する従業員名を収集します。



このセクションでは計算スクリプトが生成されます。フォームの POV メンバーを見つけて、POV メンバーと編集された従業員に対する FIX 文を作成します。

```

1 Set<String> employees = []
2 operation.grid.dataCellIterator("Salary").each { DataCell cell ->
3     if (cell.edited) {
4         employees << cell.getMemberName("Employee")
5     }
6 }
7
8 if(employees.size() == 0) {
9     println("No employee's bonus has been updated!")
10    return
11 }
12
13 // Generate the calc script to calculate bonus for the employees whose salary was edited
14 List<String> povMemberNames = operation.grid.pov*.essbaseMbrName
15 String calcScript = ""
16 Fix("${povMemberNames.join(", ")}", "${employees.join(", ")}")
17 "Bonus" = "Salary" * 0.1;
18 EndFix;""
19 println("The following calc script was executed by $operation.user.fullName: \n $calcScript")
20 return calcScript.toString()

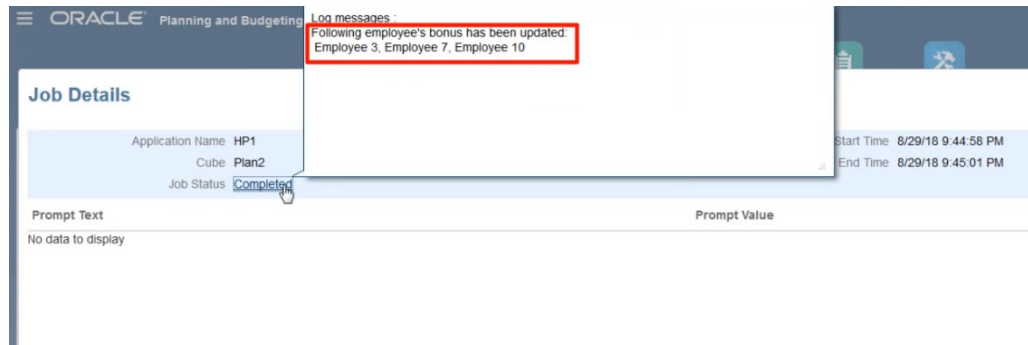
```

ここからは、保存前の計算について説明します。

これは同じフォームですが、保存前に計算を行う別の Groovy ルールが定義されています。

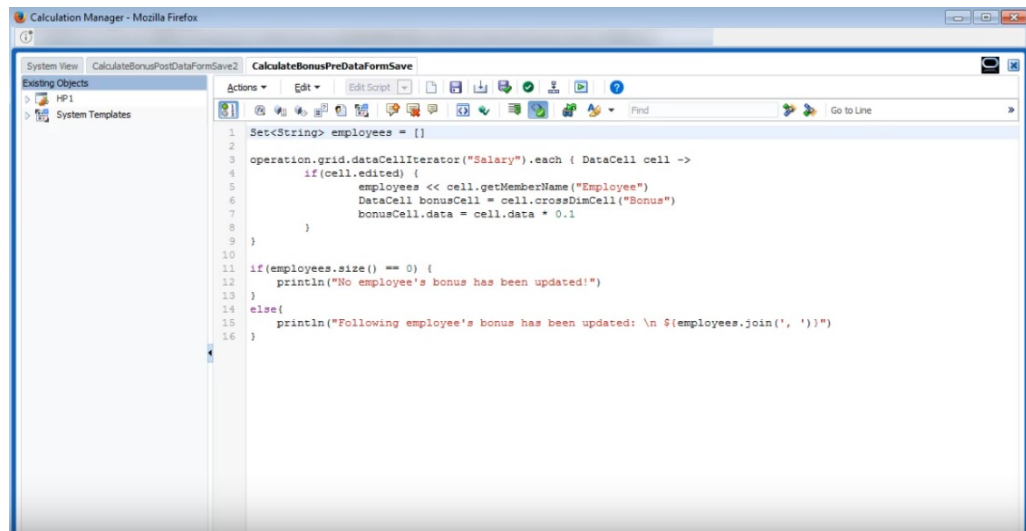
Business Rule	Description	Run Before Load	Run After Load	Run Before Save	Run After Save	Use Members on Form	Hide Prompt
<Calculate Currencies>		<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
<Calculate Form>		<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
Plan2 - Rule - Calculate Bonus Pre Data Form		<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>

ここでも、給与データと一部の電話番号を更新した後で、フォームを保存して、関連付けられた Groovy ルールを実行します。計算されたボーナス・データがフォームに表示されますが、「ジョブの詳細」を見ると、一部のボーナス・データが更新されたことがわかりますが、今回は計算スクリプトは生成されていません。



Calculation Manager で Groovy ルールを開きます。

最初のルールと同様に、このスクリプトはフォームのグリッドに対して反復処理を行い、編集された給与のセルを見つけて、関連する従業員名を収集します。次に、編集された従業員のみに対してボーナス・データを計算します。Oracle Essbase 計算スクリプトは生成されないことに注意してください。




また、Groovy ルールは、Oracle Smart View for Office のフォームでも使用できます。Smart View では、データの一括修正を行うために Microsoft Excel のすべての機能を利用できます。保存の前または後で実行するように設定されたフォームの Groovy ルールはすべて、データを送信するときに実行されます。

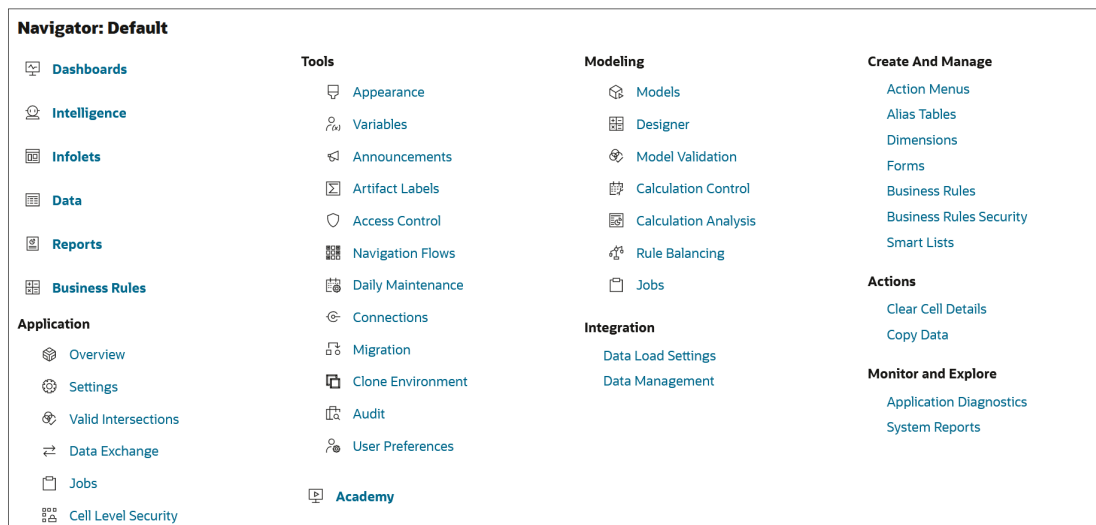
#	A	B	C	D	E	F	G	H	I	J	K	L	M	N	O	P	Q	R	S	T	U	V
1		Grade	Salary	Bonus	Employee Phone	Employee Email	Reporting Manager															
2	No Employee	Grade 1	5000	500	555-1234	no_emp@oracle.com	Jerry R															
3	Employee 1	Grade 3	7150	715	555-4321	emp1@oracle.com	John S															
4	Employee 2	Grade 3	6820	682	555-2345	emp2@oracle.com	Elizabeth K															
5	Employee 3	Grade 1	7500	750	555-5432	emp3@oracle.com	John S															
6	Employee 4	Grade 2	5500	550	555-8765	emp4@oracle.com	Elizabeth K															
7	Employee 5	Grade 3	6000	600	555-9876	emp5@oracle.com	Jerry R															
8	Employee 6	Grade 1	4400	440	555-1234	emp6@oracle.com	Jerry R															
9	Employee 7	Grade 2	8500	850	555-1235	emp7@oracle.com	Elizabeth K															
10	Employee 8	Grade 3	6000	600	555-1236	emp8@oracle.com	John S															
11	Employee 9	Grade 1	7000	700	555-1237	emp9@oracle.com	Jerry R															
12	Employee 10	Grade 2	4500	450	555-1238	emp10@oracle.com	Elizabeth K															
13	Employee 11	Grade 3	9000	900	555-1239	emp11@oracle.com	John S															
14	Employee 12	Grade 1	11000	1100	555-1240	emp12@oracle.com	Jerry R															
15	Employee 13	Grade 2	4250	425	555-1241	emp13@oracle.com	Elizabeth K															
16	Employee 14	Grade 3	5775	578	555-1242	emp14@oracle.com	John S															
17	Employee 15	Grade 1	6250	625	555-1243	emp15@oracle.com	Jerry R															
18	Employee 16	Grade 2	7975	798	555-1244	emp16@oracle.com	Elizabeth K															
19	Employee 17	Grade 3	9075	908	555-1245	emp17@oracle.com	John S															
20	Employee 18	Grade 1	10175	1018	555-1246	emp18@oracle.com	Jerry R															
21	Employee 19	Grade 2	10250	1025	555-1247	emp19@oracle.com	Elizabeth K															
22	Employee 20	Grade 3	4850	485	555-1248	emp20@oracle.com	John S															
23	Employee 21	Grade 1	5500	550	555-1249	emp21@oracle.com	Jerry R															
24	Employee 22	Grade 2	7150	715	555-1250	emp22@oracle.com	Elizabeth K															
25	Employee 23	Grade 3	8250	825	555-1251	emp23@oracle.com	John S															
26	Employee 24	Grade 1	8500	850	555-1252	emp24@oracle.com	Jerry R															
27	Employee 25	Grade 2	9500	950	555-1253	emp25@oracle.com	Elizabeth K															
28	Employee 26	Grade 3	11550	1155	555-1254	emp26@oracle.com	John S															
29	Employee 27	Grade 1	4750	475	867-5309	emp27@oracle.com	Jerry R															
30	Employee 28	Grade 2	6375	638	868-5366	emp28@oracle.com	Elizabeth K															

Part VII

「ナビゲータ」からアクセスする管理タスク

ホーム・ページで「ナビゲータ」をクリックすると、より多くの Enterprise Profitability and Cost Management 機能にアクセスできるリンクのリストが表示されます。

Enterprise Profitability and Cost Management のホーム・ページから完了することもできるタスクは、タスク別のアイコン付きで示されます。たとえば、ダッシュボード・ページにアクセスするには、「ナビゲータ」から「ダッシュボード」リンクをクリックするか、Enterprise Profitability and Cost Management のホーム・ページの「ダッシュボード」カードをクリックします。



Navigator: Default

- Dashboards**
- Intelligence**
- Infolets**
- Data**
- Reports**
- Business Rules**
- Application**
 - Overview
 - Settings
 - Valid Intersections
 - Data Exchange
 - Jobs
 - Cell Level Security
- Tools**
 - Appearance
 - Variables
 - Announcements
 - Artifact Labels
 - Access Control
 - Navigation Flows
 - Daily Maintenance
 - Connections
 - Migration
 - Clone Environment
 - Audit
 - User Preferences
- Modeling**
 - Models
 - Designer
 - Model Validation
 - Calculation Control
 - Calculation Analysis
 - Rule Balancing
 - Jobs
- Integration**
 - Data Load Settings
 - Data Management
- Create And Manage**
 - Action Menus
 - Alias Tables
 - Dimensions
 - Forms
 - Business Rules
 - Business Rules Security
 - Smart Lists
- Actions**
 - Clear Cell Details
 - Copy Data
- Monitor and Explore**
 - Application Diagnostics
 - System Reports
- Academy**

「ナビゲータ」からのみ利用可能で、Enterprise Profitability and Cost Management のホーム・ページからは完了できないタスクは、アイコンなしで表示されます。

Note:

「ナビゲータ」からのみ利用可能なタスクは、*Enterprise Profitability and Cost Management* の管理および操作ガイドおよび *Planning* の管理ガイドの両方に記載されています。下記のリンクをクリックすると、これらのガイドの該当する項に移動します。

統合

[データ・ロード設定の管理](#)

[データ管理を使用したインポート](#)

作成および管理

アクション・メニューの管理

別名表の管理

ディメンションの管理

フォームの管理

ビジネス・ルールの作成および管理

ビジネス・ルール・セキュリティの管理

スマート・リストの管理

アクション

セル詳細のクリア

データのコピー

モニターおよび検索

アプリケーション診断の管理

Part VIII

アクセス権限およびデータ・セキュリティの設定

Related Topics

- [アクセス権とデータ・セキュリティの管理について](#)
- [アクセス権限の操作](#)

アクセス権とデータ・セキュリティの管理について

Enterprise Profitability and Cost Management によって、ユーザーが機能およびデータに対する適切なアクセス権を確実に持つようにするための様々なセキュリティ・レイヤーが実装されます。Oracle によって実装および管理されるインフラストラクチャ・セキュリティ・コンポーネントは、サービスに対する安全性の高い環境を作成します。

権限があるユーザーのみにアプリケーションへのアクセスを許可する次のメカニズムを使用することにより、ビジネス・プロセス・レベルのセキュリティが保証されます。

- シングル・サインオン(SSO)
- データおよびアーティファクトに対する役割ベースのアクセス

Enterprise Profitability and Cost Management のユーザー・アクセスおよびデータ・セキュリティは、次のプロセスを使用して割り当てられます:

1. **ユーザーの作成:** アイデンティティ・ドメイン管理者が、個人用サービスを使用してユーザーを作成またはインポートします。Oracle Enterprise Performance Management Cloud 管理者のためのスタート・ガイドの Oracle Cloud Identity Console を使用したユーザーの作成を参照してください
2. **事前定義済役割の割当て:** アイデンティティ・ドメイン管理者が個人用サービスで 4 つの事前定義済役割のいずれかにユーザーを割り当て、サービス環境に対するアクセス権を提供します。Oracle Enterprise Performance Management Cloud 管理者のためのスタート・ガイドの Identity Cloud Service を使用した役割の割当てを参照してください
それぞれの事前定義済役割によって、ビジネス機能および関連するデータに対する異なるレベルのアクセス権が提供されます。事前定義済役割についてを参照してください。
3. **グループの作成:** 個人用サービスで事前定義済役割が割り当てられた後、アクセス制御でサービス管理者がグループを作成できます。役割をグループに割り当てることで、サービス管理者は多数のユーザーに一度に役割を付与でき、それによって管理オーバーヘッドを削減できます。Oracle Enterprise Performance Management Cloud のアクセス制御の管理のグループの管理を参照してください。
4. **アプリケーション役割の割当て:** サービス管理者は、アプリケーション役割をユーザーおよびグループに割り当てることによって、それらの機能を拡張できます。Oracle Enterprise Performance Management Cloud のアクセス制御の管理のグループまたはユーザーへの役割の割当てを参照してください。
アプリケーション役割をユーザーに割り当てると、そのユーザーは事前定義済役割によって付与されるアクセス権を超える機能を実行できます。アプリケーション役割についてを参照してください。
5. **アクセス権限の割当て:** アクセス権限によって、事前定義済役割およびアプリケーション役割の割当てによってアクセス可能になったアーティファクトの内容をどのように操作できるかが決まります。サービス管理者は、アクセス権限を使用して、ディメンション・メンバー、レポート、フォームなどの特定のアプリケーション・アーティファクトに対する「読取り」、「書込み」または「なし」権限をユーザーまたはグループに割り当てます。サービス管理者は、セル・レベル・セキュリティを実装することによって、特定のセル交

差に対するアクセスを制限することもできます。[アクセス権限の操作](#)を参照してください。

権限およびデータ・アクセスの評価方法

権限およびデータ・アクセスは、次の順序で評価されます:

1. 事前定義済役割。サービス管理者の役割を持つユーザーには、すべてのアプリケーション・アーティファクトに対する権限があります。
2. アプリケーション役割。
3. ユーザーまたはユーザーが属するグループに特別に割り当てられたアクセス権限。

Note:

1つのメンバーが、グループ・メンバーに対して異なる権限を割り当てている2つのグループに属する場合、最も制限の小さい権限が優先されます。たとえば、あるグループがメンバーに「読取り」権限を割り当て、別のグループが同じメンバーに「書込み」権限を割り当てている場合は、「書込み」権限が優先されます。ただし、グループの1つが権限なし(なし)をメンバーに割り当てている場合は、「なし」が「読取り」と「書込み」に優先されます。

4. 親レベルの割当て(たとえば、親メンバーまたはフォルダへのアクセス)。

事前定義済役割について

事前定義済役割は、個人用サービスでアイデンティティ・ドメイン管理者によって割り当てられ、それらによって、サービス環境に対するアクセス権がユーザーに提供されます。[Oracle Enterprise Performance Management Cloud 管理者のためのスタート・ガイド](#)のユーザーと役割の管理を参照してください

Enterprise Profitability and Cost Management には、次の4つの事前定義済役割があります:

- **サービス管理者:** 環境のすべての機能アクティビティを実行します。この役割は、Enterprise Profitability and Cost Management のアプリケーションおよびサービス・コンポーネントを作成および管理する必要がある機能エキスパートに付与する必要があります。
- **パワー・ユーザー:** モデルの開発および実行プロセスを推進します。この役割は、環境内の複数の機能領域に対する上位レベルのアクセス権を付与します。モデルを操作するリード・モデラーや統合者、および計算プロセスを制御する必要がある地域担当のビジネス・ユーザーに付与する必要があります。パワー・ユーザーは、ユーザーが実行できるすべてのアクティビティを実行できます。さらに、パワー・ユーザーは次のタスクを実行できます:
 - アド・ホック・グリッドを作成したり、アド・ホック・グリッドに書き戻したり、データ統合を使用してデータをロードします
 - POV データを作成、クリアおよびコピーします
 - 統合を作成および実行します
 - モデルを作成します

- 利益曲線を作成および編集します
- **ユーザー:** ユーザー入力求められる場所でデータを入力したり、分析ツールおよびレポートを実行したり、ルールおよび計算を設計します。ユーザーは、参照者が実行できるすべてのタスクを実行できます。ユーザーは次の追加操作を実行できます:
 - アド・ホック機能を実行しますが、アド・ホック・グリッドに書き戻したり、データ統合を使用してデータをロードすることはできません
 - ドリルスルーを実行します
 - ルールを作成、変更および削除します
 - ルールの一括編集を実行します
 - ルール・バランシングを実行します
 - 検証を実行します
 - 計算を実行したり、計算履歴を表示および削除します
- **参照者:** データを表示および分析しますが、書込みアクセス権はありません。具体的には、参照者は次の操作を実行します:
 - 利益曲線を実行します
 - 配賦のトレースを実行します
 - モデルを表示します

それぞれの事前定義済役割によって付与されるアクセス権の詳細は、*Oracle Enterprise Performance Management Cloud 管理者のためのスタート・ガイド*の *Enterprise Profitability and Cost Management* を参照してください。

事前定義済役割は階層形式です。下位レベルの役割を介して付与されたアクセス権は、上位レベルの役割によって継承されます。たとえば、サービス管理者は、そのユーザーのみが保有するアクセス権に加えて、パワー・ユーザー、ユーザーおよび参照者の役割を介して付与されるアクセス権も継承します。

次の表に、それぞれの事前定義済役割でアクセスできるサービスの機能領域を示します。サービス管理者は、サービスのすべての機能領域にアクセスできます。

Table 24-1 事前定義済役割別の機能領域

機能領域	パワー・ユーザー	ユーザー	参照者
ダッシュボード	はい	はい	はい
インテリジェンス	はい	はい	はい
インフォレット	はい	はい	はい
データ	はい	はい	はい
レポート	はい	はい	はい
「アプリケーション」クラスタ	いいえ	いいえ	いいえ
「ツール」クラスタ	「ユーザー・プリファレンス」のみ	「ユーザー・プリファレンス」のみ	「ユーザー・プリファレンス」のみ
アカデミ	はい	はい	はい
「モデリング」クラスタ	はい	はい	いいえ

アプリケーション役割について

アプリケーション役割を使用すると、サービス管理者は、事前定義済役割によってユーザーに付与される機能を超えてそのユーザーのアクセス権をカスタマイズできます。サービス管理者またはパワー・ユーザーの役割を持つユーザーが **Enterprise Profitability and Cost Management** のほとんどの機能領域にアクセスできる一方で、ユーザーまたは参照者の事前定義済役割を持つユーザーは、その事前定義済役割によって提供される一連のアクセス権限が大幅に制限されています。アプリケーション役割により、これらのユーザーは、事前定義済役割によってデフォルトでは付与されない機能にアクセスできるようになります。

たとえば、ルール・バランシング・レポートを実行できる必要があるものの、ルールを編集する機能は必要としないユーザーがいるとします。そのユーザーに対してパワー・ユーザーの役割(ルール・バランシングに対するアクセス権を付与するのみでなく、ルールを編集することも可能にする)を付与するかわりに、参照者の役割(ルールを編集するためのアクセス権を含まない)を付与した後、「**ルール・バランシングの実行**」アプリケーション役割を付与できます。

Note:

アプリケーション役割では、ユーザーのアクセス権を拡張することのみが可能です。アプリケーション役割を割り当てることで、事前定義済役割によって付与されるいずれかの権限を制限することはできません。

Enterprise Profitability and Cost Management の使用可能なアプリケーション役割のリストは、*Oracle Enterprise Performance Management Cloud* **アクセス制御の管理**のアプリケーション役割を参照してください。

Note:

一部のアプリケーション役割は、すでに1つ以上の事前定義済役割に含まれています。詳細は、*Oracle Enterprise Performance Management Cloud* **アクセス制御の管理**の事前定義済役割マッピングを参照してください。追加のアプリケーション役割を事前定義済役割に割り当てることはできません。

アプリケーション所有権の管理

アプリケーションを作成したサービス管理者には、アプリケーション所有者機能が自動的に割り当てられます。アプリケーション所有者機能を持つサービス管理者が削除された場合や、ユーザーの事前定義済役割の割当てがダウングレードされた場合(例: サービス管理者からパワー・ユーザーへ)、アプリケーション所有者機能は、アプリケーションにおいて(アルファベット順で)次に使用可能なサービス管理者ユーザーに再割り当てされ、その後、現在のアプリケーション所有者ユーザーの役割が削除または変更されて、アクセス制御と同期されます。

使用可能なサービス管理者がない場合、サービス管理者ユーザーの削除や役割の変更は行われません。問題を解決するための以降の手順について **Oracle** からご連絡します。

任意のサービス管理者が、「**システム設定**」を使用して、アプリケーション所有者の役割を任意の使用可能なサービス管理者に引き継いだり再割当てできます。

[アプリケーションおよびシステム設定の管理](#)を参照してください。

アクセス権限の操作

アクセス権限を使用すると、サービス管理者は、特定のアプリケーション・アーティファクトに対する権限をユーザーおよびグループに割り当てることができます。

サービス管理者は、次のアプリケーション・アーティファクトに対して「読取り」、「書込み」または「なし」のアクセス権限を構成できます：

- ユーザー定義のディメンションを含む、ディメンション。[ディメンションのセキュリティの有効化または無効化](#)を参照してください
- フォーム
- ダッシュボード
- インフォレット
- レポート、ブックおよびバースティング定義
- フォーム・フォルダ
- ダッシュボード・フォルダ
- インフォレット・フォルダ
- レポートおよびドキュメント・フォルダ

個別ユーザーおよび各グループにアクセス権限を指定できます。ユーザーをグループに割り当てる場合、ユーザーはグループへのアクセス権限が必要になります。個人のアクセス権限とユーザーが属するグループのアクセス権限に矛盾がある場合は、ユーザーに割り当てられたアクセス権限が優先します。

アクセス権限タイプ


アクセス権限には、読取り、書込みおよびなしがあります。どのユーザーがどのルールを起動できるかを設定することもできます。

- **起動:** 起動の権限を許可します

ノート:

表示ユーザー・タイプには、ディメンション・メンバーへの書込み権限がないため、メンバー、ディメンション、メンバー範囲またはディメンション間実行時プロンプト・タイプを含む実行時プロンプトのあるルールを起動できません。その他の実行時プロンプト(たとえば日付タイプ)のあるルールを起動することは可能です。

- **起動しない:** 起動を許可しない権限

 ノート:

ユーザーがあるグループに属する理由からルール起動権限を継承しているが、他のグループに属する理由から起動を許可しない権限も割り当てられている場合は、より制限的である「起動を許可しない」権限が優先します。

個別ユーザーおよび各グループにアクセス権限を指定できます。ユーザーをグループに割り当てる場合、ユーザーはグループへのアクセス権限が必要になります。個人のアクセス権限とユーザーが属するグループのアクセス権限に矛盾がある場合は、ユーザーに割り当てられたアクセス権限が優先します。

権限の継承

ユーザーまたはグループのアクセス権限は継承によって決定されます。メンバーの子または子孫がその権限を継承する原因となる属性を指定できます。割り当てられた権限は、継承された権限に優先します。権限設定で、メンバーを含めるかまたは除外できます。

表 25-1 アクセス権限の継承オプション

継承オプション	権限の割当て
メンバー	現在選択されているメンバーのみ
子	現在選択されているメンバーのレベル以下にあるすべての子メンバー
子(含む)	現在選択されているメンバーおよびそのメンバーのレベル以下にあるすべての子メンバー
子孫	現在選択されているメンバーの下にあるすべての子孫メンバー
子孫(含む)	現在選択されているメンバーおよびそのメンバーの下にあるすべての子孫メンバー

権限の評価法

権限を評価する場合、アプリケーションは次の順序で優先権を与えます。

1. 役割レベルのセキュリティ。サービス管理者の役割を持つユーザーには、すべてのアプリケーション要素への権限があります。
2. 具体的にユーザーに割り当てられた権限である、パワー・ユーザー、ユーザーおよび参照者のユーザー・タイプ。
3. グループに属することで割り当てられた権限。

 ノート:

1つのメンバーが、グループ・メンバーに対して異なる権限を割り当てている2つのグループに属する場合、最も制限の小さい権限が優先されます。たとえば、あるグループがメンバーに「読取り」権限を割り当て、別のグループが同じメンバーに「書込み」権限を割り当てている場合は、「書込み」権限が優先されます。ただし、グループの1つが権限なし(なし)をメンバーに割り当てている場合は、「なし」が「読取り」と「書込み」に優先されます。

4. 親レベルの割当て(たとえば、親メンバーまたはフォルダへのアクセス)。

アクセス権限の割当てについて

サービス管理者は、アーティファクト(フォーム、ダッシュボード、インフォレット、レポート、ブックおよびバースティング定義)とフォルダに対する権限を割り当てることができます。

原則:

- **アーティファクト(フォーム、ダッシュボード、インフォレット、レポート、ブックおよびバースティング定義):**
 - ユーザーおよびパワー・ユーザーは、権限を持つフォームのみ表示またはデータ入力することが可能です(また、権限を持つメンバーに対してのみ作業を行うことが可能です)。
 - サービス管理者およびパワー・ユーザーはアーティファクトを設計できます。
 - パワー・ユーザーは、自分が作成した、またはサービス管理者によって権限を割り当てられたアーティファクトにアクセスできます。
 - サービス管理者は、すべてのディメンション・メンバーおよびすべてのアーティファクトに対する「書込み」権限を持ちます。
- **フォルダ:**
 - フォルダに対する権限を割り当てられているユーザーは、より詳細な権限を割り当てられていないかぎり、そのフォルダ内のアイテムにアクセスできます。
 - フォルダに対する権限を割り当てると、その下にあるすべてのフォルダにその権限が継承されます。
 - フォルダに対する特定の権限(「なし」や「書込み」など)を割り当てた場合、その権限はその親フォルダの権限より優先されます。たとえば、ユーザーが「なし」権限を持っている Folder2 を含む Folder1 に対する「書込み」権限を持っている場合、そのユーザーは Folder1 を開くことはできますが、Folder2 を表示することはできません。
 - ユーザーが「書込み」権限を持っている Form1 というフォームを含む Folder1 というフォルダに対する「なし」権限を持っている場合、そのユーザーは Folder1 と Form1 を表示できます。


アーティファクトおよびフォルダに対する権限の追加、変更および削除

アーティファクト(フォーム、ダッシュボード、インフォレットと、レポート、ブックおよびバースティング定義)およびフォルダに割り当てられる権限とは、基礎となるデータではなく、アーティファクトとフォルダの定義を変更する能力のことです。

1. アーティファクト(「データ」、「ダッシュボード」、「インフォレット」、「レポート」または「ドキュメント」)リスト・ページにナビゲートします。
2. アーティファクトまたはフォルダの横にある「アクション」アイコンをクリックし、「権限の割当て」をクリックします。

Note:

同時に1つのアーティファクトまたはフォルダに対する権限を割り当てることができます。

3. 「権限」をクリックします。
4. 次のタスクを実行します:
 - 権限を追加するには、「ユーザー/グループの追加」をクリックし、使用可能なユーザーおよびグループのリストから選択します。
 - 権限のタイプを編集するには、次のオプションを選択します。
 - 「読取り」をクリックすると、選択したユーザーおよびグループは、リスト内のアーティファクトまたはフォルダを表示できますが、アーティファクトまたはフォルダの情報を作成、編集または削除することはできません。
 - 「書込み」をクリックすると、選択したユーザーおよびグループは、リスト内のアーティファクトまたはフォルダを表示でき、さらにアーティファクトまたはフォルダの情報を作成、編集または削除できます。
 - 選択したユーザーまたはグループにリスト内のアーティファクトまたはフォルダの表示を許可しない場合は、「なし」をクリックします。
 - 権限を削除するには、ユーザーまたはグループの横にある「アクセス権の削除」をクリックします。



ディメンションのセキュリティの有効化または無効化

ユーザー定義のカスタム・ディメンションを含め、ディメンションのセキュリティを有効化できます。セキュリティを適用すると、事前定義済役割によって付与されるアクセス権をディメンションに適用できます。ディメンションのセキュリティを設定しない場合、すべてのユーザーがディメンション・メンバーにアクセスできます。

デフォルトでは、シナリオおよびバージョン・ディメンションのアクセス権限が使用可能です。オプションで、勘定科目、エンティティ、PCM_Balance、PCM_Rule、期間および年にアクセス権を割り当てることができます。

ユーザーおよびグループのディメンション・メンバーにセキュリティを割り当てることができます。セキュリティは、メンバー・レベルまたは親レベルで割り当てることが可能です。[ディメンション・メンバーへのセキュリティの割当て](#)を参照してください。

ディメンションのセキュリティを有効化または無効化するには:

1. 「ナビゲータ」  アイコンをクリックします。
2. 「作成および管理」で「ディメンション」をクリックします。
3. 「ディメンション」ドロップダウン・メニューから、ディメンションを選択し、「編集」  をクリックします。
4. 「ディメンション・プロパティの編集」ページで、オプションを選択します。
 - セキュリティを有効化するには、「セキュリティの適用」を選択します。

Note:

このオプションを選択しないと、ディメンションにはセキュリティが設定されず、ユーザーはそのメンバーに制限なしにアクセスできます。



- セキュリティを無効化するには、「セキュリティの適用」の選択を解除します。
5. 「保存」をクリックします。

ディメンション・メンバーへのセキュリティの割当て

ディメンション・メンバーに対するアクセス権を割り当てる前に、ディメンションのディメンション・プロパティの編集ページで「セキュリティの適用」チェック・ボックスを選択する必要があります。[ディメンションのセキュリティの有効化または無効化](#)を参照してください。


メンバー・レベルまたは親レベルでディメンション・メンバーにセキュリティを割り当てることができます。**メンバー・レベル**を使用して、メンバーの子または子孫がその権限を継承するかどうかを指定します。割り当てられた権限は、継承された権限に優先します。

メンバーに対するアクセス権限の割当て、編集および削除を行うには:


1. 「ナビゲータ」  アイコンをクリックします。
2. 「作成および管理」で「ディメンション」をクリックします。
3. 「ディメンション」ドロップダウン・メニューから、セキュリティを割り当てるメンバーを含むディメンションを選択します。
4. メンバーを選択し、「アクセス権の割当て」  をクリックします。
5. 「ユーザーまたはグループ」タブを選択して、個々のユーザーまたはグループにアクセス権を割り当てます。
6. アクセス権を追加するには:

- a. 「アクション」、「アクセス権の追加」の順にクリックします。
- b. アクセス権を追加するユーザーまたはグループを選択します。
- c. 「アクセス権タイプ」からオプションを選択します。
 - 読取り
 - 書込み
 - なし
- d. オプション: メンバー・レベルを選択します。
 - メンバー
 - 子
 - 子(含む)
 - 子孫
 - 子孫(含む)
- e. 「追加」をクリックします。

アクセス権を変更するには:

1. 「ディメンション」画面で、アクセス権を編集するメンバーについて、「**アクセス権の割当**」をクリックします。
2. 編集するユーザーまたはグループ・アクセス権を選択し、「**アクション**」、「**アクセス権の編集**」の順にクリックします。
3. 「**アクセス権タイプ**」からオプションを選択します。
 - 読取り
 - 書込み
 - なし
4. オプション: メンバー・レベルを選択します。
 - メンバー
 - 子
 - 子(含む)
 - 子孫
 - 子孫(含む)
5. 「**設定**」をクリックします。

アクセス権を削除するには:

1. 「ディメンション」画面で、アクセス権を削除するメンバーについて、「**アクセス権の割当**」をクリックします。
2. 編集するユーザーまたはグループ・アクセス権を選択し、「**アクション**」、「**アクセス権の削除**」の順にクリックします。
3. 確認ダイアログ・ボックスで「**OK**」をクリックします。

共有メンバーへの有効なアクセス権限について

共有メンバーに対して直接アクセス権を割り当てることはできません。共有メンバーは、その基本メンバー、親または祖先からアクセス権限を継承します。

アプリケーションでは、メンバーのアクセス権限継承関係に基づき、最初にユーザー、次にグループという順でアクセス権限が各レベルで確認されます。複数のアクセス権限が存在する場合、最も制限の少ないアクセス権限が適用されます(たとえば、書込みアクセスは読取りアクセスより優先されます)。

サンプルの親および子エンティティ・メンバー

- ⊕ **United States**
 - ⊖ CA (base)
 - ⊖ NY
- ⊕ **West**
 - ⊖ CA (shared)
 - ⊖ NV
- ⊕ **Sales Region 1**
 - ⊖ CA (shared)

Table 25-2 共有メンバーへの継承されたアクセス権の例

ケース	アクセス権限	基本および共有メンバー CA への有効なアクセス権	説明
ケース 1	CA (ベース) = なし iDescendants (西部) = 読取り	読取り	「読取り」は「なし」よりも制限が少ないため、CA は West の親から「読取り」アクセス権を継承します。
ケース 2	iDescendants (米国) = なし iDescendants (西部) = 読取り iDescendants (営業地域 1) = 書込み	書込み	「書込み」は「読取り」および「なし」よりも制限が少ないため、CA は営業地域 1 の親から「書込み」アクセス権を継承します。
ケース 3	iDescendants (米国) = 書込み iDescendants (西部) = なし iDescendants (営業地域 1) = 読取り	書込み	「書込み」は「読取り」および「なし」よりも制限が少ないため、CA は米国の親から「書込み」アクセス権を継承します。

セル・レベル・セキュリティの定義

Related Topics

- [セル・レベル・セキュリティの理解](#)

- セル・レベル・セキュリティ定義の作成
- セル・レベル・セキュリティ定義の表示
- セル・レベル・セキュリティ定義のフィルタ
- セル・レベル・セキュリティ定義のインポートとエクスポート
- セル・レベル・セキュリティのテスト
- セル・レベル・セキュリティ定義リストの並替え

セル・レベル・セキュリティの理解

セル・レベル・セキュリティについて

セル・レベル・セキュリティを適用するサービス管理者は、標準のセキュリティによってユーザーが通常アクセスできるセルへのアクセスを拒否できます。したがって、セル・レベル・セキュリティは、既存のメンバー・セキュリティの例外として定義されます。たとえば、部門マネージャは、自分の部門についてはすべての勘定科目にアクセスする必要がありますが、他のすべての部門については特定の勘定科目のみにアクセスする必要があります。通常メタデータ・セキュリティでは、マネージャはすべての部門のすべての勘定科目にアクセスできますが、セル・レベル・セキュリティを使用すると、サービス管理者はすべての勘定科目とマネージャの部門との交差、および他のすべての部門の特定の勘定科目のみを管理できます。



セル・レベル・セキュリティでは、有効な交差ルールと同様のルールを使用して、セルが表示されている場所(フォーム、実行時プロンプト、**Smart View**、レポート、ダッシュボード、インフォレットなど)で、特定のセル交差を表示しているユーザーの読取りまたは書き込みアクセスを拒否します。セル・レベル・セキュリティ・ルールが適用されると、読取りアクセス権を持つユーザーは、セルのデータ値を参照できますが、セルは編集できません。ユーザーがセルへの読取りアクセスを拒否されている場合、セルに表示される値は#noaccess です。

サービス管理者は、セル・レベル・セキュリティ・ルールを定義して、任意のユーザーまたはグループに割り当てることができます。セル・レベル・セキュリティはサービス管理者には影響しません。

アンカーおよび非アンカー・ディメンション




セル・レベル・セキュリティ定義では、アンカー・ディメンションと非アンカー・ディメンションを使用します:


- セル・レベル・セキュリティ定義で使用されるキューブでは、アンカー・ディメンションは常に必須ディメンションです。
- 非アンカー・ディメンションが必須である場合、または必須でない場合:
 - 非アンカー・ディメンションが必須である場合、そのディメンションを使用しないキューブでは、そのディメンションが必須としてタグ付けされているセル・レベル・セキュリティ定義は無視されます。
 - 非アンカー・ディメンションが必須でない場合、そのディメンションを使用しないキューブでは、そのディメンションが必須でないとして含まれているセル・レベル・セキュリティ定義も評価され、キューブで使用されている定義内の他のディメンションの定義が評価されます。


- デフォルトでは、非アンカー・ディメンションは必須ではありません。非アンカー・ディメンションを必須にするには、非アンカー・ディメンションの横の  をクリックし、「必須」をクリックします。
- デフォルトでは、ルールで指定されていないアンカー・ディメンション・メンバーがセキュリティ定義に含まれていますが、アンカー・ディメンションの横にある  をクリックし、次に「選択したメンバーにのみ適用」をクリックすることで、このオプションをクリアできます。

セル・レベル・セキュリティ定義の作成

セル・レベル・セキュリティ定義を作成するには:

1. 「アプリケーション」、「セル・レベル・セキュリティ」の順にクリックします。
2. 定義を作成します:
 - a. 「作成」をクリックします。
 - b. 定義の名前と説明を入力します。
 - c. 「有効」チェック・ボックスは、デフォルトで選択されています。定義を無効にするには、「有効」チェック・ボックスの選択を解除します。セル・レベル・セキュリティ定義ページで定義を直接有効または無効にすることもできます。
 - d. キューブ固有のセキュリティを定義するには、「キューブ」をクリックし、キューブのリストから選択するか、「すべて」を選択します。
 - e. アンカー・ディメンションは必須です。アンカー・ディメンションを選択するには、「アンカー・ディメンションの選択」をクリックします。アンカー・ディメンションおよび非アンカー・ディメンションの詳細は、セル・レベル・セキュリティの理解を参照してください。
 - f. オプション: デフォルトでは、ルールで指定されていないアンカー・ディメンション・メンバーがセキュリティ定義に含まれています。このオプションをクリアするには、アンカー・ディメンションの横の  をクリックし、「選択したメンバーにのみ適用」をクリックします。
 - g. 追加のディメンション(非アンカー・ディメンションと呼ばれます)を選択するには、「ディメンションの追加」をクリックします。
 - h. オプション: デフォルトでは、非アンカー・ディメンションは必須ではありません。非アンカー・ディメンションを必須にするには、非アンカー・ディメンションの横の  をクリックし、「必須」をクリックします。
3. セル・レベル・セキュリティ・ルールを定義します:
 - a. 「ルールの追加」をクリックします。
 - b. 「ユーザー、グループ」列で、 をクリックして、セル・レベル・セキュリティ・ルールに含めるユーザーとグループを見つけます。
 - c. 「制限」に、「読取り不可」(デフォルト)または「書込み不可」を選択します。「読取り不可」は最も厳しい制限であるため、デフォルトのオプションです。ユーザーがセルへの読取りアクセスを拒否されている場合、セルに表示される値は#noaccessです。「書込み不可」アクセス権を持つユーザーは、セルのデータ値を参照できますが、セルは編集できません。

- d. 新しいルールディメンションの横にある  をクリックします:
- 「編集」をクリックして **メンバーの選択** ページを開き、セル・レベル・セキュリティ・ルールに含めるメンバー、代替変数および属性を選択します。
 - 「除外」または「すべて除外」をクリックして、ルールから除外するディメンション・メンバーを定義します:
 - **除外:** このオプションを選択した場合、メンバーは ID を基準にして除外されます。指定したメンバー(基本または共有)のみが除外されます。
 - **すべて除外:** このオプションを選択した場合、メンバーは名前を基準にして除外されます。基本メンバーが指定されている場合は、基本とそのすべての共有メンバーが除外されます。共有メンバーが指定されている場合は、このメンバー、その基本メンバー、およびこのメンバーの他のすべての共有メンバーが除外されます。
 - 「クリア」をクリックして、選択をクリアします。

ルールを削除するには、 をクリックします。




4. 「保存」をクリックします。

新しいセル・レベル・セキュリティ定義がリストの最後に追加されます。定義は、リストに表示されている順に評価されます。定義リストを並べ替える手順は、[セル・レベル・セキュリティ定義リストの並替え](#)を参照してください。

定義を作成した後、フォームで定義をテストして、ユーザーのパーспекティブからフォームがどのように表示されるのかを確認できます。[セル・レベル・セキュリティのテスト](#)を参照してください。

セル・レベル・セキュリティ定義の表示

セル・レベル・セキュリティ定義を表示するには:



1. 「アプリケーション」、「セル・レベル・セキュリティ」の順にクリックします。
2. リスト全体で特定の定義を検索するには、「検索」ボックスに検索条件を入力し、 をクリックして、検索条件を満たす定義のみを表示します。
3. フィルタ条件を満たす定義のみが表示されるようにリストをフィルタするには、次のフィルタ・オプションを指定します:
 -  : クリックすると、「フィルタ」ページが表示され、フィルタ・オプションの堅牢なリストから選択できます。フィルタ・オプションとその説明の完全なリストは、[セル・レベル・セキュリティ定義のフィルタ](#)を参照してください。
 -  : クリックすると、「有効な割当」、「有効」および「制限」のすべてのフィルタがクリアされます。
 - **有効な割当:** 特定のユーザーまたはグループに影響する定義のみを表示するようにリストをフィルタします。
 - **有効:** 有効になっている(はい)または有効になっていない(いいえ)定義のみを表示するようにリストをフィルタするか、「すべて」を選択します。
 - **制限:** 「読取り不可」または「書込み不可」制限が割り当てられている定義のみを表示するようにリストをフィルタするか、「すべて」を選択します。

4. **セル・レベル・セキュリティ定義** ページで、次のタスクを実行することもできます:
 - 「**アクション**」メニュー: 定義のインポートおよびエクスポートについては、[セル・レベル・セキュリティ定義のインポートとエクスポート](#)を参照してください。
 - **テスト**: [セル・レベル・セキュリティのテスト](#)を参照してください。
 - **作成**: [セル・レベル・セキュリティ定義の作成](#)を参照してください。
 - **リフレッシュ**: クリックして定義リストをリフレッシュします。
5. 定義ページの各リストに対して、次のタスクを実行できます:
 - **使用可能列**: 定義が使用可能かどうかを示します。定義の横にあるチェック・マークをクリックして、定義を無効または有効にします。緑色のチェック・マークは、定義が有効になっていることを示します。
 - 「**アクション**」列: **...**をクリックし、定義を編集、複製または削除したり、定義をリストの順序で上または下に移動します。

セル・レベル・セキュリティ定義のフィルタ

セル・レベル・セキュリティ定義のリストは、キューブ、制限、日付など、特定の条件でフィルタできます。フィルタすると、フィルタ条件を満たす定義のみが**セル・レベル・セキュリティ定義**ページに表示されます。

セル・レベル・セキュリティ定義をフィルタするには:

1. 「**アプリケーション**」、「**セル・レベル・セキュリティ**」の順にクリックします。
2.  をクリックして、フィルタ条件を指定します:
 - **キューブ**: 選択した1つ以上のキューブの定義のみを表示するか、「**すべて**」を選択します。
 - **有効**: 有効になっている(**はい**)または有効になっていない(**いいえ**)定義のみを表示するか、「**すべて**」を選択します。
 - **制限**: 「**読取り不可**」または「**書込み不可**」制限が割り当てられている定義のみを表示するか、「**すべて**」を選択します。
 - **変更**: 特定の日時より前または後に変更された定義、または日時範囲内に変更された定義のみを表示します。「**後**」、「**前**」または「**次の値の間**」を選択し、 をクリックして日時の条件を指定します。
 - **変更者**: 選択したユーザーによって変更された定義のみを表示します。
 - **有効な割当**: 選択したユーザーまたはグループに影響する定義のみを表示します。
3. 「**その他**」をクリックして、フィルタ条件をさらに絞り込みます:
 - **ディメンション**
 - **アンカー・ディメンション**
 - **アンカー・ディメンション: 選択したメンバーにのみ適用**: 「**はい**」、「**いいえ**」または「**すべて**」を選択します。
 - **その他のディメンションが必要**: 「**はい**」、「**いいえ**」または「**すべて**」を選択します。
4. 「**適用**」をクリックします。

セル・レベル・セキュリティ定義のインポートとエクスポート

セル・レベル・セキュリティ定義のインポートとエクスポートについて

セル・レベル・セキュリティ定義のフィルタされたリストをリスト・ページからローカル・コンピュータの場所にエクスポートするか、サーバーにエクスポートできます。リスト・ページでフィルタが定義されていない場合は、すべてのセル・レベル・セキュリティ定義がエクスポートされます。

インポート・アクションを使用して、セル・レベル・セキュリティ定義をローカル・コンピュータ上の場所からアプリケーションにインポートするか、サーバーからインポートします。インポートを実行すると、定義に違反する内容がないかについてインポート・ファイルがテストされます。たとえば、キューブが欠落している場合、アンカー・ディメンションがない場合、またはサブルールが見つからない場合は、エラー・ファイルにエラーが記録されます。インポート・ジョブは、インポート・ファイルにエラーがない場合にのみ正常に完了します。

Note:

サブルールでは、ルール(サブルール)の各メンバーのユーザー割当て、アンカーおよび非アンカー・ディメンションのメンバー選択または除外、各サブルールに適用される制限タイプなど、ルールに関する情報が提供されます。

選択したエクスポートまたはインポートの場所に依じて、アプリケーション定義は Excel ファイル形式(XLSX)または zip ファイル形式のいずれかでエクスポートまたはインポートされます。

セル・レベル・セキュリティのインポート・ファイル

Excel インポート・ファイルには、1 番目と 2 番目のシートに次の名前の 2 つのシートが必要です:

1. Rules
2. Sub Rules

Rules シートには次の列見出しがあります:

- **名前**
- **位置**
- **説明**
- **有効**
- **有効なキューブ** - この列には、All またはカンマ区切りのキューブ名のリスト (Plan1, Plan2 など)のいずれかが含まれます
- **アンカー・ディメンション名**
- **選択されていないメンバーへのアンカー・ディメンションの適用**
- **Dim1**
- **Dim1 必須**

- Dim2
- Dim2 必須
- DimX
- DimX 必須

Sub Rules シートには次の列見出しが必要です:

- **名前** - この列には、1 番目のシートのルールの名前が含まれている必要があります
- **ユーザー**
- **ユーザー・グループ**
- **制限** - この列には「読取り不可」または「書込み不可」が含まれます
- **アンカー・メンバー**
- **アンカーの除外**
- **アンカーをすべて除外**
- **Dim1 メンバー**
- **Dim1 の除外**
- **Dim1 をすべて除外**
- **Dim2 メンバー**
- **Dim2 の除外**
- **DimX メンバー**
- **DimX の除外**
- **DimX をすべて除外**


セル・レベル・セキュリティ定義のエクスポートおよびインポート

セル・レベル・セキュリティ定義をエクスポートおよびインポートするには:

1. 「アプリケーション」、「セル・レベル・セキュリティ」の順にクリックします。
2. 必要に応じて、リストにフィルタを適用します。セル・レベル・セキュリティ定義のフィルタを参照してください。
3. エクスポートするには、「アクション」、「エクスポート」の順にクリックし、エクスポート・ファイルのターゲットの場所を選択します:
 - **ローカル**: エクスポート・ファイルをローカル・コンピュータ上の場所に保存します。このオプションを選択した場合は、「エクスポート」をクリックし、XLSX エクスポート・ファイルを保存する場所を指定します。
 - **送信ボックス**: エクスポート・ファイルを zip フォーマットでサーバーに保存するジョブを実行します。これを今すぐダウンロードすることも、後でエクスポート・ジョブをスケジュールするために使用することもできます。このオプションを選択した場合は、「保存してジョブを実行」をクリックします。

送信ボックスからエクスポート・ファイルをダウンロードするには:


- a. 「アプリケーション」をクリックし、「ジョブ」をクリックします。
- b. 「最近のアクティビティ」で、CLS のエクスポート・ジョブをクリックします。

- c. **ジョブの詳細**ページで、 をクリックしてセル・レベル・セキュリティのエクスポート・ファイルのダウンロード場所を選択します。ビジネス・プロセスの「受信ボックス/送信ボックス・エクスプローラ」からエクスポート・ファイルをダウンロードすることもできます。
4. エクスポート・ファイルを Excel で編集する場合、Excel ファイルには Rules と Sub Rules の 2 つのシートがあることに注意してください。
5. インポートするには、「**アクション**」、「**インポート**」の順にクリックし、インポート・ソース・ファイルの場所を選択します:
 - **ローカル**: 自分のコンピュータの場所からインポート・ファイルをロードします。「**ソース・ファイル**」の「**参照**」をクリックしてコンピュータ上のインポート・ファイルを選択し、「**インポート**」をクリックします。
 - **受信ボックス**: サーバーからインポート・ファイルをロードするジョブを実行します。インポート・ファイルは zip ファイル形式である必要があります。「**ソース・ファイル**」にファイル名を入力して「**保存してジョブを実行**」をクリックし、「**ジョブとして保存**」ダイアログで「**名前**」および「**エラー・ファイル**」を指定します。エラー・ファイルにより、インポートされなかった定義に関する情報が提供されます。ビジネス・プロセスの「受信ボックス/送信ボックス・エクスプローラ」からエラー・ファイルをダウンロードできます。

セル・レベル・セキュリティのテスト

セル・レベル・セキュリティを定義して有効にした後は、影響を受けるユーザーがフォームを表示したときに表示される内容を確認するためにテストできます。テストにより、許可されているセルの値のみがユーザーに表示され、それより多くのセル値が表示されないことが確認されます。定義をテストするには、定義を有効にする必要があります。

セル・レベル・セキュリティをテストするには:

1. 「**アプリケーション**」、「**セル・レベル・セキュリティ**」の順にクリックします。
2. テストする定義を有効にします。
3. 「**テスト**」をクリックし、テストするフォームを選択します。
4. 「**ユーザー名の選択または入力**」テキスト・ボックスで、ユーザー名を指定するか、 をクリックしてユーザーを選択し、「**OK**」をクリックします。

Note:

一度にテストできるユーザーは 1 人のみです。

フォームには、各セルへのユーザー・アクセスが「読取り」、「書込み」または「なし」と表示されます。

セル・レベル・セキュリティ定義リストの並替え

セル・レベル・セキュリティ定義は、たとえば、リストの最初のセル・レベル・セキュリティ定義が評価され、次に 2 番目の定義が評価されるなど、定義リストに表示されている順序で評価されます。

リストのセル・レベル・セキュリティ定義の位置を変更するには:

1. 「アプリケーション」、「セル・レベル・セキュリティ」の順にクリックします。
2. セル・レベル・セキュリティ定義の右側で、**...**をクリックします。
3. 「上へ移動」または「下へ移動」を選択します。

 **Tip:**

セル・レベル・セキュリティ定義をドラッグして、リスト内で上または下に移動することもできます。

アクセス権限のレポート

現在のアクセス権限を表示し、レポートを印刷できます。

アプリケーションにおけるユーザーおよびグループの現在のアクセス権限をレポートするには:


1. ホーム・ページで「ナビゲータ」をクリックしてから、「モニターおよび検索」で、「システム・レポート」をクリックします。
2. 「アクセス制御」をクリックします。
3. 「ユーザーまたはグループの選択」で、使用可能なオプションから選択します。
4. 左側の「使用可能」パネルから、レポートするユーザーまたはグループを選択して「選択済」パネルに移動します。
5. 左側の「使用可能なオブジェクト」パネルから、レポートするオブジェクトを選択して「選択したオブジェクト」パネルに移動します。
6. レポート・オプションを選択します。
 - 「タイプが一致するアクセスの表示」で、ビューへのアクセス「読取り」、「書込み」または「なし」を選択します。
 - 「結果のグループ分け単位」で、どのようにレポートを表示するかを「ユーザー」または「オブジェクト」から選択します。
 - 「レポート・タイプ」セクションで、「割り当てられたアクセス」または「有効なアクセス」を選択します。

Table 25-3 アクセス・レポート・タイプ

レポート・タイプ	説明	オプション
割り当てられたアクセス	サービス管理者により割り当てられるアクセス権限の要約	<p>アクセス権がメンバー選択リレーションまたはグループ・メンバーシップのどちらにより割り当てられるかを指定します。</p> <ul style="list-style-type: none"> 「関係が一致するアクセスの表示」: 「メンバー」、「子」、「子(含む)」、「子孫」、または「子孫(含む)」。 グループからの継承を表示: グループのユーザーから継承済のアクセス権限を表示します。
有効なアクセス	<p>アプリケーションの評価に伴いアクセス権の割当てを要約します(たとえば、子またはグループ・メンバーシップなどのメンバー選択関係)。アクセス権限に不一致が見られる場合に有効です。</p>	<p>「有効なアクセス元の表示」を選択することにより、有効なアクセス権元を説明します。たとえば、Entity1 の書込みアクセス権を割り当てられているユーザー名 JSomebody が、Entity1 の読取りアクセス権を割り当てられている Sales グループに属しているとします。個人に割り当てられたアクセス権は、グループ・メンバーシップにより継承されるアクセス権に優先するため、この設定では JSomebody が Entity1 の書込みアクセス権を割り当てられていると表示されます。</p>

 **Note:**

有効なアクセス権レポートはグループに対しては生成できません。

7. 「レポート作成」をクリックします。

Part IX

付録

Related Topics

- [ベスト・プラクティス](#)
- [EPM Cloud に関するよくある質問\(FAQ\)](#)
この FAQ では、Oracle Enterprise Performance Management Cloud の管理タスクに関するよくある質問のリソースへのリンクが用意されています。
- [メンバー・セレクタの使用](#)
- [メンバーの選択について](#)
- [ディメンションの選択](#)
- [メンバー表示オプションの定義](#)
- [メンバーの検索](#)
- [表示されるメンバーのフィルタ](#)
- [属性によるフィルタ](#)
- [レベルによるフィルタ](#)
- [世代によるフィルタ](#)
- [メンバー関係によるフィルタ](#)
- [メンバーの関係](#)
- [メンバーの選択](#)
- [フォーム 1.0 およびダッシュボード 1.0 のメンバーの選択](#)
- [フォーム 1.0 およびダッシュボード 1.0 のメンバーの選択について](#)
- [メンバーの関係](#)
- [メンバーの選択](#)
- [メンバーを選択する際の考慮事項](#)
- [メンバーとしての属性値の選択](#)
- [メンバーとしての代替変数の選択](#)
- [メンバーとしてのユーザー変数の選択](#)
- [命名規則](#)
- [Profitability and Cost Management から Enterprise Profitability and Cost Management への移行](#)

26

ベスト・プラクティス

ベスト・プラクティスでは、機能を効果的に使用方法について説明します。次の表には、このガイドで説明したベスト・プラクティスへのリンクが用意されています。

カテゴリ	ベスト・プラクティスの対象	この項を参照
アプリケーションの作成および管理	アプリケーションの設計	アプリケーション設計のベスト・プラクティス
ディメンションの管理	ディメンションの設計	ディメンションの設計時のベスト・プラクティス
ルールの作成および管理	ルール・セットの作成	ルール・セット設計のベスト・プラクティス
配賦ルールの作成	配賦ルールのソースおよび宛先の定義	配賦ルールのソースおよび宛先のベスト・プラクティス
	配賦ルールのドライバの定義	配賦ルール・ドライバのベスト・プラクティス
	配賦ルールのオフセットの定義	配賦ルール・オフセットのベスト・プラクティス
カスタム計算ルールの作成	カスタム計算ルールの作成	カスタム計算ルールの作成について
ルール・バランシング・レポートの表示	ルール・バランシングのデータ・フォームの設計	ルール・バランシング・データ・フォームの設計に関するベスト・プラクティス
データベース更新の問題のトラブルシューティング	ASO キューブの最適化	集約ストレージ・オプション・キューブの最適化
	キューブのパフォーマンスの向上	キューブのパフォーマンスの向上

EPM Cloud に関するよくある質問(FAQ)

この FAQ では、Oracle Enterprise Performance Management Cloud の管理タスクに関するよくある質問のリソースへのリンクが用意されています。

よくある質問

- EPM Cloud サービスのトラブルシューティング時に、テクニカル・サポートを支援するための「フィードバックの提供」機能をどのように使用しますか。
- EPM Cloud ビジネス・プロセスに関する一般的なトラブルシューティングのヒントはどこで確認できますか。
- EPM Cloud サービスの SOC1 および SOC2 レポートをどのようにして取得できますか。
- EPM Cloud サービスはどのように再起動しますか。
- ユーザーのパスワードをどのようにリセットしますか。
- EPM Cloud で本番からテストへのデータ移行をどのように実行しますか。
- 自分の環境の自動月次更新をどのように延期しますか。
- OAuth 2 for OCI (Gen 2)環境での認証をどのように設定しますか。
- REST API または EPM 自動化を使用した、グループの作成または除去方法、およびそれらに対するユーザーの追加または除去方法
- オラクル社によって本番およびテストのバックアップが保持される期間、および自分の環境へのバックアップ・スナップショットのコピー方法

EPM Cloud サービスのトラブルシューティング時に、テクニカル・サポートを支援するための「フィードバックの提供」機能をどのように使用しますか。

画面の右上に表示されるユーザー名をクリックして「フィードバックの提供」を選択します。

Tip:

サービス管理者の場合、メンテナンス・スナップショットを含めて、テクニカル・サポートがサービスをトラブルシューティングすることを支援できます。「フィードバックの提供」ユーティリティで、「**アプリケーション・スナップショットの送信の確認**」を展開し、「**アプリケーション・スナップショットの送信**」オプションを有効化します。

Oracle Enterprise Performance Management Cloud 管理者のためのスタート・ガイドのフィードバックの提供ユーティリティを使用したフィードバックの送信を参照してください

EPM Cloud ビジネス・プロセスに関する一般的なトラブルシューティングのヒントはどこで確認できますか。

[Oracle Enterprise Performance Management Cloud オペレーション・ガイド](#)で、お客様から報告があった一般的な問題に関するトラブルシューティングのヒントや情報と、それらを修正するための手順を確認してください。

EPM Cloud サービスの SOC1 および SOC2 レポートをどのようにして取得できますか。

アプリケーションの「**アクション**」メニューをクリックし、「ドキュメント」タブを選択することで、「個人用サービス」でこれらのレポートにアクセスできます。[Oracle Enterprise Performance Management Cloud 管理者のためのスタート・ガイドのコンプライアンス・レポートへのアクセス](#)を参照してください

EPM Cloud サービスはどのように再起動しますか。

- EPM 自動化で **resetService** コマンドを使用して、EPM Cloud サービスを再起動します。[Oracle Enterprise Performance Management Cloud EPM 自動化の操作で resetService](#) を参照してください。
- **サービス・インスタンスの再起動** REST API を使用して、EPM Cloud サービスを再起動します。[Enterprise Performance Management Cloud の REST API のサービス・インスタンスの再起動\(v2\)](#)を参照してください。

ユーザーのパスワードをどのようにリセットしますか。

OCI (Gen 2)環境の場合、Oracle Identity Cloud Service を使用してユーザー・アカウントのパスワードをリセットします。[Oracle Cloud の管理とモニタリングのパスワードのリセット](#)に関する項を参照してください。

クラシック環境の場合、「個人用サービス」を使用してユーザー・アカウントのパスワードをリセットします。[Oracle Cloud の管理とモニタリングのユーザーのパスワードのリセット](#)に関する項を参照してください。

EPM Cloud で本番からテストへのデータ移行をどのように実行しますか。

「**クローン**」機能を使用して、本番からテストにデータを移行します。[Oracle Enterprise Performance Management Cloud 移行の管理の EPM Cloud 環境のクローニング](#)を参照してください

または、EPM 自動化の cloneEnvironment コマンドを使用できます。環境のクローニング REST API を使用することもできます。

自分の環境の自動月次更新をどのように延期しますか。

更新のスキップの設定は、**skipUpdate** EPM 自動化コマンドを使用して実行するセルフサービス操作です。[Oracle Enterprise Performance Management Cloud オペレーション・ガイドの環境の自動更新のスキップのリクエスト](#)を参照してください

skipUpdate REST API を使用して、月次更新を延期することもできます。[Enterprise Performance Management Cloud の REST API の更新のスキップ\(v2\)](#)を参照してください。

OAuth 2 for OCI (Gen 2)環境での認証をどのように設定しますか。

EPM 自動化の場合、OAuth 2.0 承認プロトコルを使用して、コマンドを実行するため、特にコマンドの実行を自動化するために OCI (GEN 2) Oracle Enterprise Performance Management Cloud 環境にアクセスできます。Oracle Enterprise Performance Management Cloud EPM 自動化の操作で OCI での OAuth 2.0 承認プロトコルの使用を参照してください。

REST API の場合、Oracle Cloud Infrastructure (OCI) Gen 2 アーキテクチャ上の EPM Cloud 環境では、環境でのパスワードの使用を回避するという要件を満たすために、EPM Cloud で OAuth 2 アクセス・トークンを使用して REST API を発行できます。Enterprise Performance Management Cloud の REST API の OAuth 2 での認証 - OCI のみを参照してください。

REST API または EPM 自動化を使用した、グループの作成または除去方法、およびそれらに対するユーザーの追加または除去方法

- グループを追加するには、Oracle Enterprise Performance Management Cloud EPM 自動化の操作の createGroups または Enterprise Performance Management Cloud の REST API のグループの追加を参照してください。
- グループを削除するには、Oracle Enterprise Performance Management Cloud EPM 自動化の操作の deleteGroups または Enterprise Performance Management Cloud の REST API のグループの削除を参照してください。
- ユーザーをグループに追加するには、Oracle Enterprise Performance Management Cloud EPM 自動化の操作の addUsersToGroup または Enterprise Performance Management Cloud の REST API のグループへのユーザーの追加を参照してください。
- ユーザーをグループから削除するには、Oracle Enterprise Performance Management Cloud EPM 自動化の操作の removeUsersFromGroup または Enterprise Performance Management Cloud の REST API のグループからのユーザーの削除を参照してください。

オラクル社によって本番およびテストのバックアップが保持される期間、および自分の環境へのバックアップ・スナップショットのコピー方法

OCI (Gen 2)環境の場合、オラクル社によって本番環境のスナップショットが 60 日間保持され、テスト環境のスナップショットは 30 日間保持されます。listBackups および restoreBackup EPM 自動化コマンドを使用して、使用可能なバックアップ・スナップショットをチェックし、自分の環境にコピーします。バックアップのリストおよびバックアップの復元 REST API を使用することもできます。

クラシック環境の場合、(本番およびテスト環境の)過去 3 日間の日次スナップショットと、(本番環境のみの)過去 60 日間の週次バックアップ・スナップショットがオラクル社によってアーカイブされます。オラクル社に、過去 3 日間のテスト・バックアップおよび過去 60 日間の本番バックアップをコピーするようリクエストできます。

Oracle Enterprise Performance Management Cloud 管理者のためのスタート・ガイドの日次スナップショットのアーカイブ、保持および取得を参照してください

EPM Cloud 環境をどのようにバックアップおよび復元しますか。

メンテナンス・スナップショット(Artifact Snapshot)を使用して、前日からのアーティファクトおよびデータを回復できます。また、必要に応じて、Artifact Snapshot を使用して、環境を最後の運用メンテナンス中の状態に復元することもできます。参照:

- *Oracle Enterprise Performance Management Cloud 管理者スタート・ガイド*のメンテナンステナンス・スナップショットを使用した環境のバックアップと復元
- *Oracle Enterprise Performance Management Cloud EPM 自動化の操作*の `restoreBackup` および `importSnapshot` コマンド。

EPM Cloud ではどのような障害回復オプションを使用できますか。

EPM Cloud には、環境を稼働状態に復元するセルフサービス・オプションが用意されており、それによってほぼ即時の回復時間目標を達成します。参照:

- *Oracle Enterprise Performance Management Cloud 管理者スタート・ガイド*の障害回復サポート
- *Oracle Enterprise Performance Management Cloud EPM 自動化の操作*の EPM Cloud 環境のレプリケート

自動リグレッション・テストをどのようにリクエストしますか。

オラクルでは、自動リグレッション・テスト・プロセスを円滑に行うことができるよう、EPM 自動化ベースのスクリプトの作成をお手伝いします。*Oracle Enterprise Performance Management Cloud オペレーション・ガイド*の自動リグレッション・テストのリクエストを参照してください

メンバー・セレクタの使用

Related Topics

- [メンバーの選択について](#)
- [ディメンションの選択](#)
- [メンバー表示オプションの定義](#)
- [メンバーの検索](#)
- [表示されるメンバーのフィルタ](#)
- [メンバーの選択](#)
- [フォーム 1.0 およびダッシュボード 1.0 のメンバーの選択](#)

メンバーの選択について

メンバーの選択は「**メンバーの選択**」ダイアログ・ボックスで行います。ダイアログ・ボックスのオプションは、メンバーを選択する機能に応じて若干異なる場合があります。

次の機能とともに使用するメンバーを選択できます:

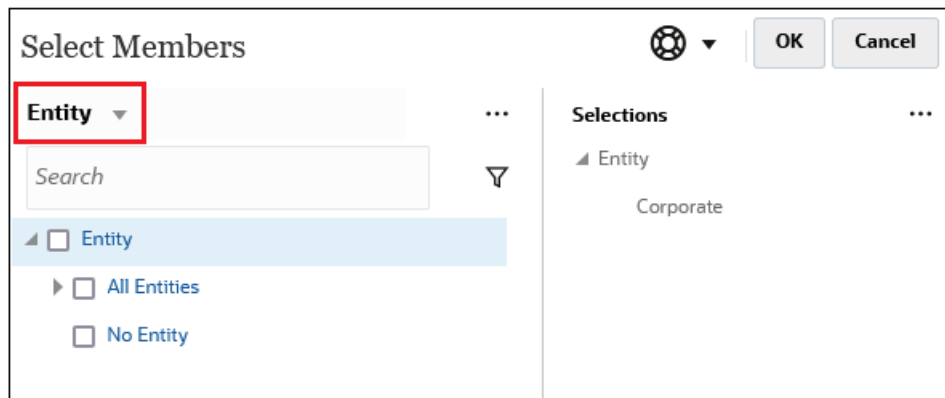
- **モデル:** メンバー選択を使用して、モデル・コンテキストのデフォルト・メンバーを指定します。
- **ルール・セット:** メンバー選択を使用して、ルール・セット・コンテキストのデフォルト・メンバーを指定します。
- **配賦ルール:** メンバー選択を使用して、配賦のソースと宛先の交差、ドライバおよび配賦オフセットを定義します。
- **カスタム計算ルール:** メンバー選択は、どのターゲット・メンバーに対してカスタム・ルールで計算を実行するかを定義するために使用します。
- **フォーム 2.0:** メンバー選択は、フォーム内で使用する行、列および視点を定義するために、およびビジネス・ルール実行プロンプトの対象のメンバーを選択するために使用します。
- **ダッシュボード 2.0:** メンバー選択は、グローバルまたはローカルの **POV** を定義するために、およびビジネス・ルール実行時プロンプトの対象のメンバーを選択するために使用します。
- **アド・ホック・グリッド:** メンバー選択は、**POV**、行および列を定義するために、およびアド・ホック・グリッド内のユーザー変数、代替変数および属性を設定するために使用します。

Note:

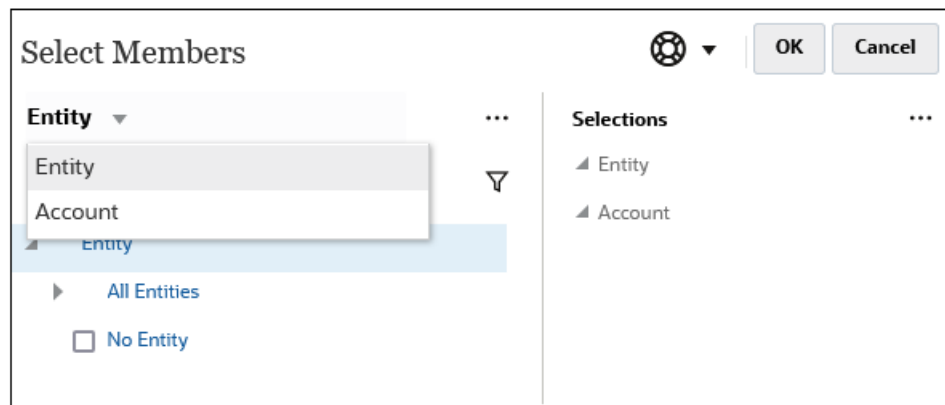
フォーム 1.0 およびダッシュボード 1.0 では、別のメンバー・セレクトタが使用されます。フォーム 1.0 およびダッシュボード 1.0 のメンバーの選択を参照してください。

ディメンションの選択


メンバーを選択するディメンションは、「メンバーの選択」ダイアログ・ボックスの上部に表示されます。

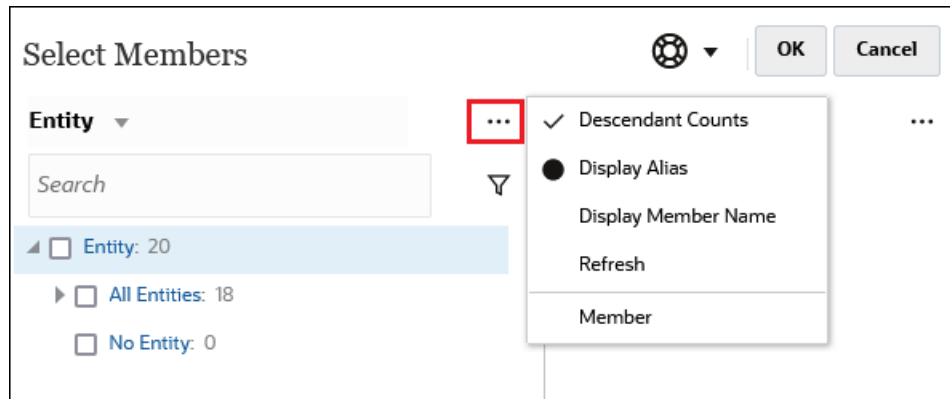


状況によっては、複数のディメンションのメンバーを選択できます。これを行うには、ドロップダウンをクリックして目的のディメンションを選択します。たとえば、エンティティ・ディメンションと勘定科目ディメンションの両方のメンバーを選択する場合、「エンティティ」と「勘定科目」の両方がドロップダウンに表示されます。

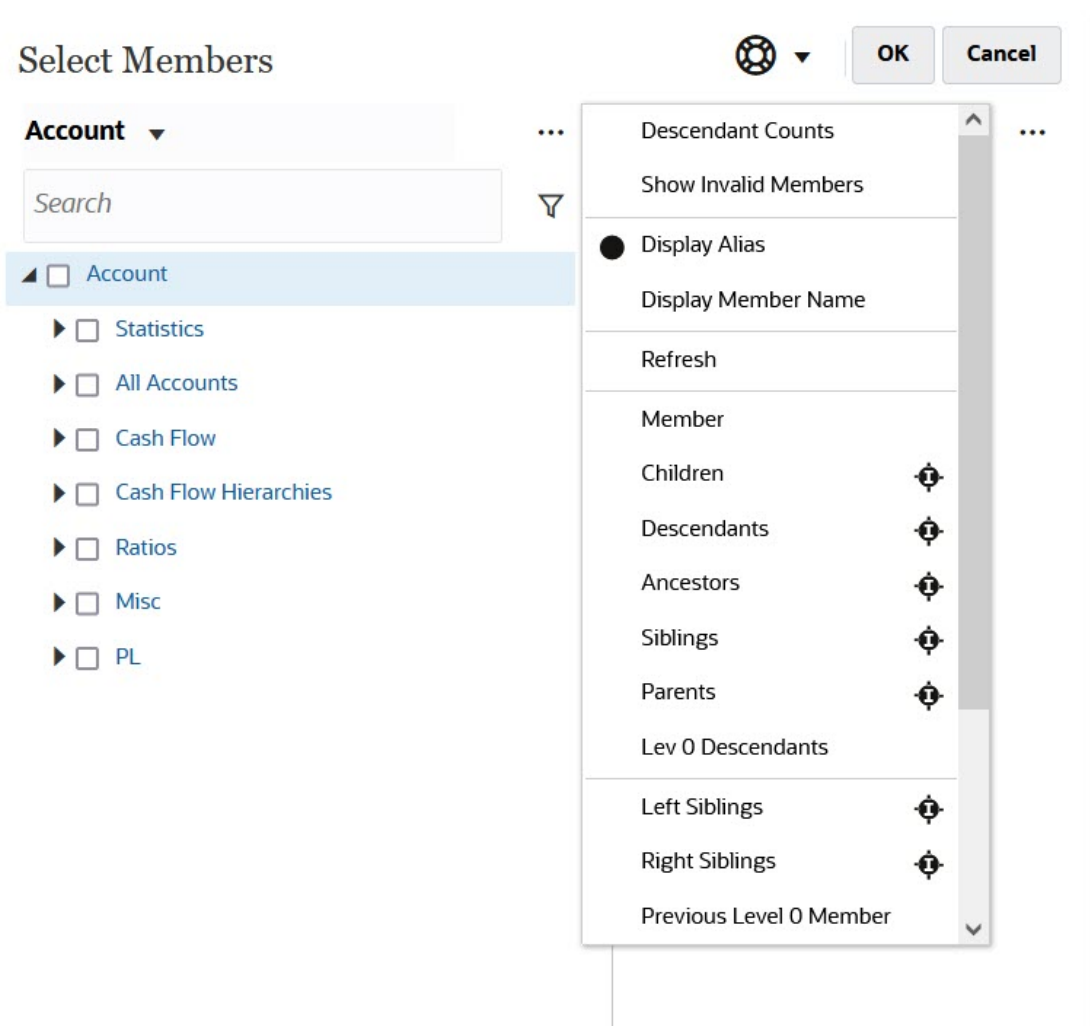


メンバー表示オプションの定義

 「使用可能なアイテム」アイコンをクリックして、メンバーを別名で表示するかメンバー名で表示するか、および各メンバーの子孫の数を表示するかどうかを選択します。



一部の場所では、追加のオプションを使用できます:

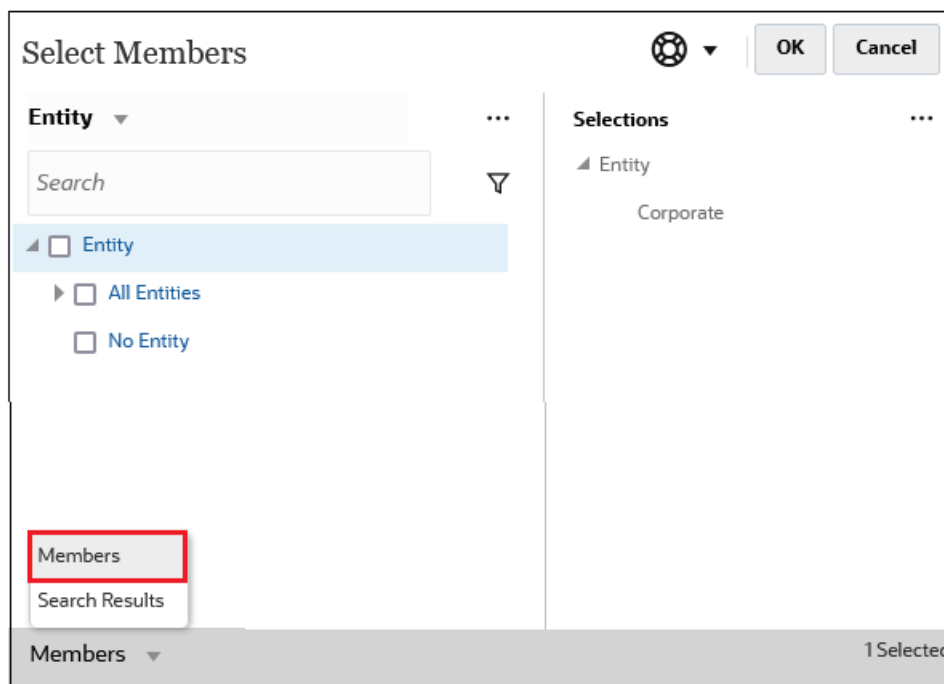


「無効なメンバーの表示」オプションがあります。

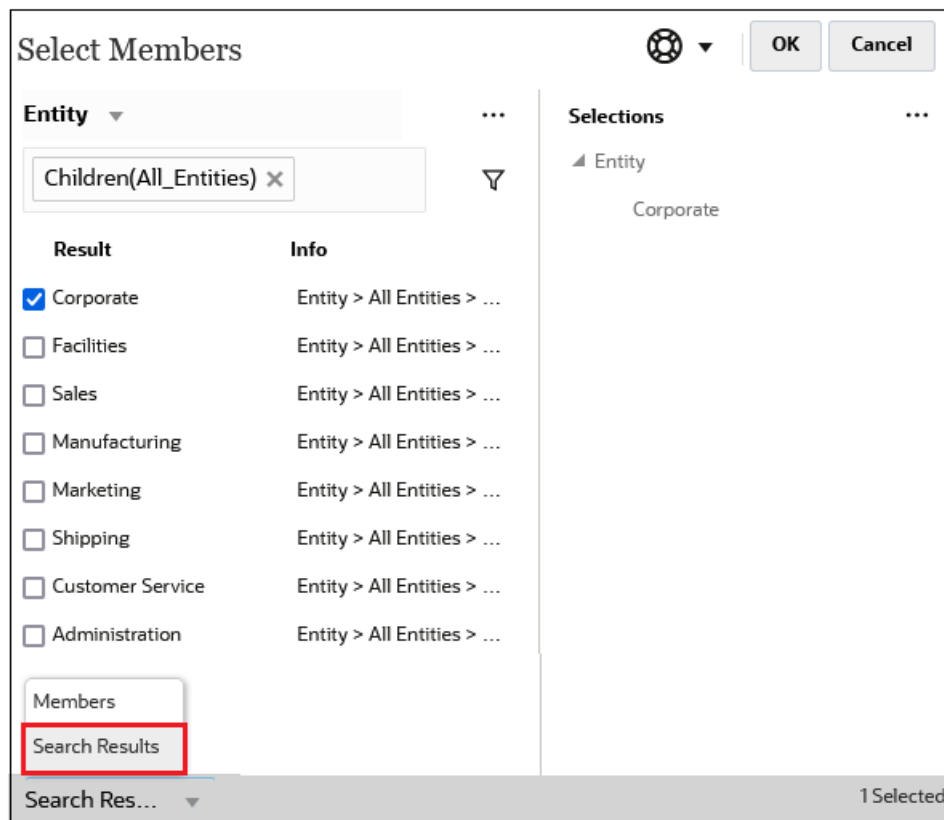
メンバーの関係を使用して、メンバーを表示および選択することもできます。「**使用可能なアイテム**」メニューでメンバーの関係オプションをクリックすると、そのメンバーが「**選択**」ペインに移動します。メンバーの詳細は、[メンバーの関係](#)を参照してください。

階層ビューと検索またはフィルタの結果の間で表示を切り替えるには、画面の左下にある「メンバー」または「検索結果」を選択します。

階層ビューが表示された「メンバーの選択」ダイアログ・ボックス



検索結果が表示された「メンバーの選択」ダイアログ・ボックス



一部の場所には、表示する内容を切り替えるオプションもあります：

- ユーザー変数
- 代替変数
- 属性

 **Tip:**

「メンバーの選択」ペインと「選択」ペイン間のスプリッター・バーをドラッグして、ダイアログ・ボックスの表示を調整できます。

メンバーの検索

「検索」フィールドでメンバーを検索できます。メンバーを検索するには、1つの単語、複数の単語またはワイルドカード文字を検索できます。

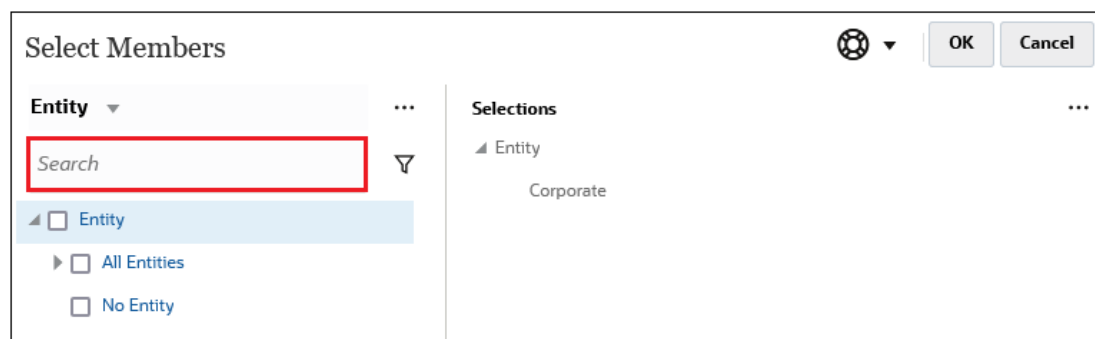




Table 28-1 有効なワイルドカード文字

ワイルドカード	説明
?	任意の1文字を表します
*	ゼロ文字以上の文字を表します。たとえば、「sale*」と入力すると、「Sales」と「Sale」が一致します。これは*を使用することで、「sale」という語の後にゼロ文字以上の文字を含む語と一致するためです。 デフォルトの検索には、*ワイルドカードが使用されます。デフォルトの検索には、*ワイルドカードが使用されます。たとえば、検索条件として「cash」と入力すると、「*cash*」が検索され、「Restricted Cash」、「Cash Equivalents」、「Cash」、「Noncash Expenses」などが戻されます。これは、一致した各アイテム内に「cash」が含まれるためです。
#	任意の1つの数字(0-9)を表します
[list]	指定した文字リスト内の任意の単一文字を検索します。ワイルドカードとして使用する特定の文字をリストできます。たとえば、[plan]と入力すると、カッコ内のすべての文字を1つのワイルドカード文字として使用します。「-」文字を使用すると、[A-Z]や[!0-9]などの範囲を指定できます。「-」文字をリストの一部として使用するには、この文字をリストの先頭に入力します。たとえば、[-@&]の場合、カッコ内の文字をワイルドカード文字として使用します。
[!list]	指定した文字リスト内にはないすべての単一文字を検索します。また、[!A-Z]や[!0-9]のように、「-」で範囲を示すこともできます。


検索条件を削除するには、検索フィルタの横にある「X」をクリックします。


Result	Info
<input type="checkbox"/> Sales	Entity > All Entities > Sales
<input type="checkbox"/> Outside Sales	Entity > All Entities > Sales > O...
<input type="checkbox"/> Inside Sales	Entity > All Entities > Sales > In...

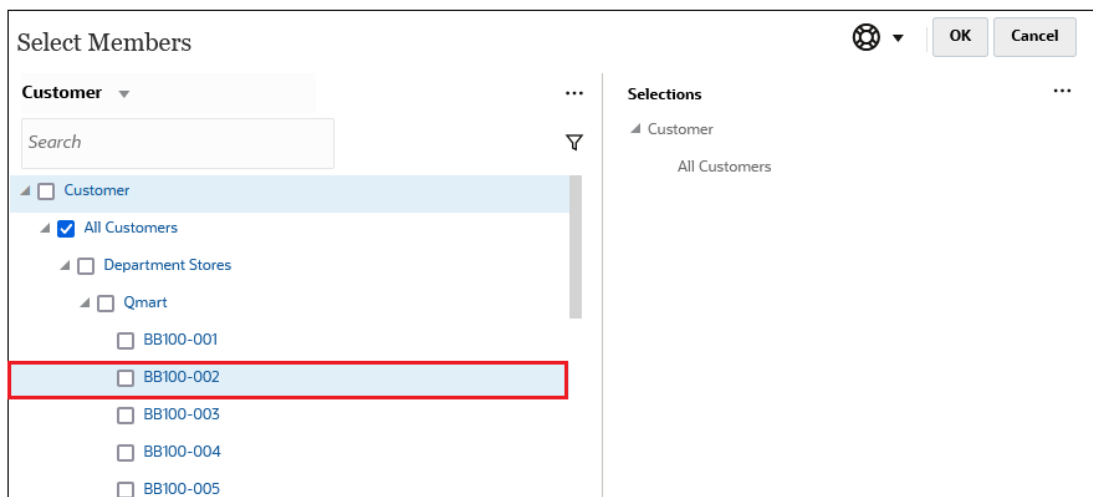
検索を実行した後、「メンバーの特定」アイコン  を使用して、階層内の特定のメンバーを見つけることができます。これは、多数のメンバーがあり、その階層位置にある特定のメンバーを操作する必要がある場合に非常に便利です。

「メンバーの特定」アイコンを表示するには、検索結果でメンバーをハイライトします。階層内でそのメンバーを特定するには、「情報」列で、ハイライトしたメンバーの左側にある  (「メンバーの特定」アイコン)をクリックします。


たとえば、「顧客」ディメンションで **bb100** を検索し、**BB100-02** の行で  をクリックするとします。

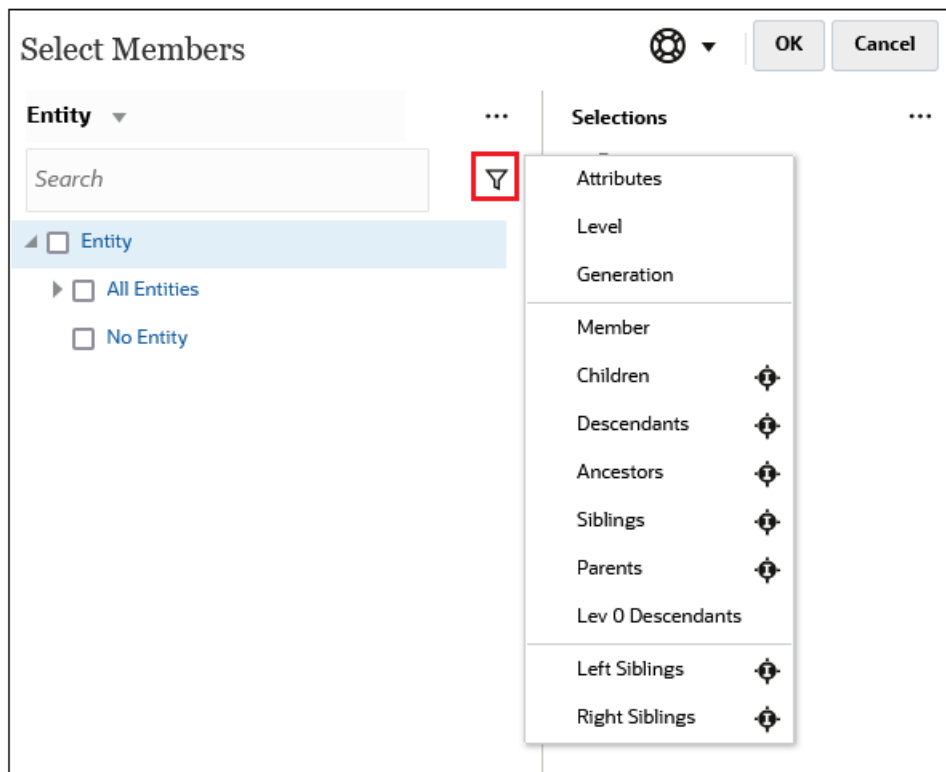
Result	Info
<input type="checkbox"/> BB100-001	Customer > All Customers > Department Stores > Qmart > BB100-001
<input type="checkbox"/> BB100-002	 Customer > All Customers > Department Stores > Qmart > BB100-002
<input type="checkbox"/> BB100-003	Customer > All Customers > Department Stores > Qmart > BB100-003
<input type="checkbox"/> BB100-004	Customer > All Customers > Department Stores > Qmart > BB100-004
<input type="checkbox"/> BB100-005	Customer > All Customers > Department Stores > Qmart > BB100-005

 をクリックすると、**BB100-02** がハイライトされた状態の階層ビューに戻ります。この時点で、必要に応じて、**BB100-02** の横にあるチェック・ボックスを選択して「選択」ペインに移動できます。



表示されるメンバーのフィルタ

表示されるメンバーをさらにフィルタするには、「フィルタ」アイコン  をクリックし、オプションを選択します。




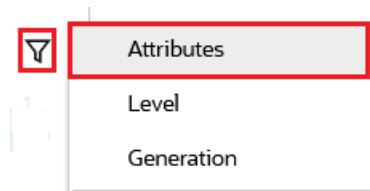
特定の属性、レベル、世代、またはメンバーの関係でフィルタできます。

- 属性によるフィルタ
- レベルによるフィルタ
- 世代によるフィルタ

- メンバー関係によるフィルタ

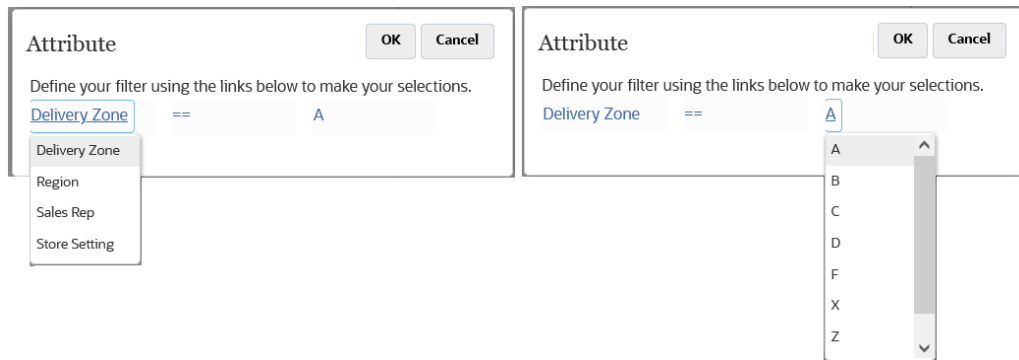
属性によるフィルタ

属性が定義されている場合、表示されるメンバーを特定の属性値でフィルタするには、 をクリックし、「属性」を選択します。

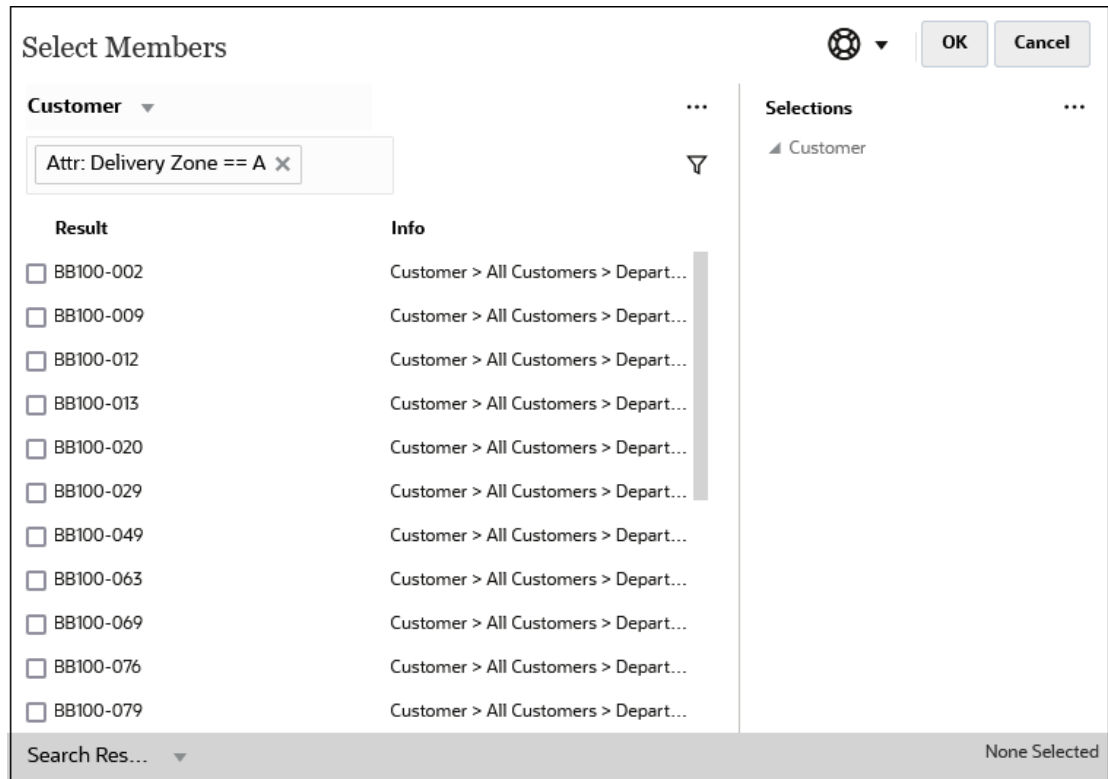


複数の属性が定義されている場合は、「属性」ダイアログ・ボックスでリンクをクリックして使用可能な属性を表示し、フィルタを選択します。たとえば、「顧客」ディメンションについて表示される結果を **Delivery Zone A** でフィルタできます。


「Delivery Zone」および「A」が選択されている「属性」ダイアログ・ボックス

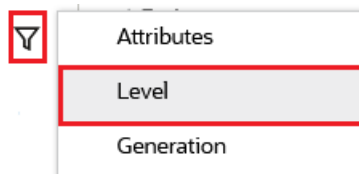


Delivery Zone A でフィルタされた「顧客」ディメンションのメンバー



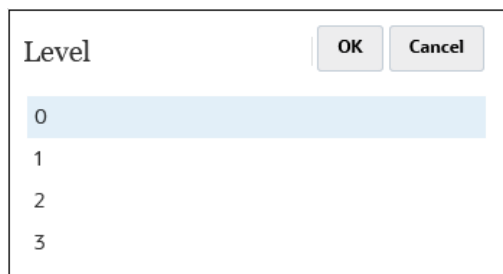
レベルによるフィルタ

表示されるメンバーを特定のレベルでフィルタするには、 をクリックし、「レベル」を選択します。

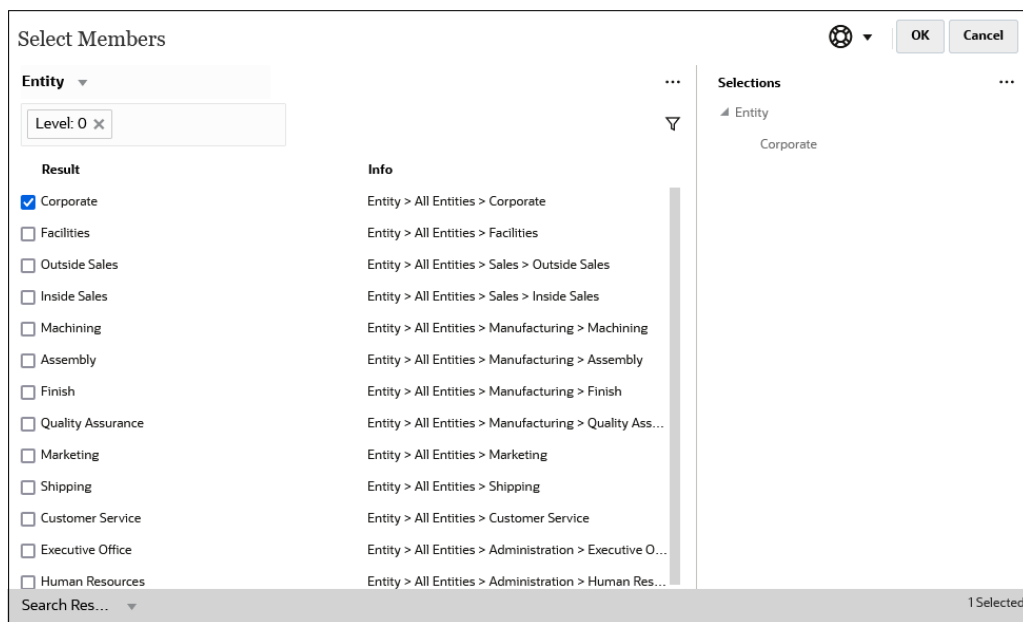


たとえば、「エンティティ」ディメンションのレベル0のメンバーでフィルタできます。


レベル0が選択されている「レベル」ダイアログ・ボックス

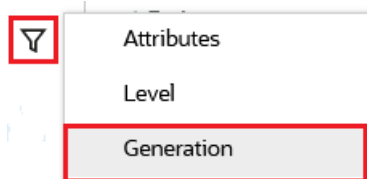


レベル0でフィルタされた「エンティティ」ディメンションのメンバー



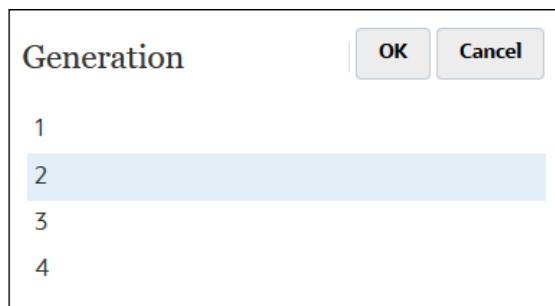
世代によるフィルタ

表示されるメンバーを特定の世代のものでフィルタするには、 をクリックし、「**世代**」を選択します。

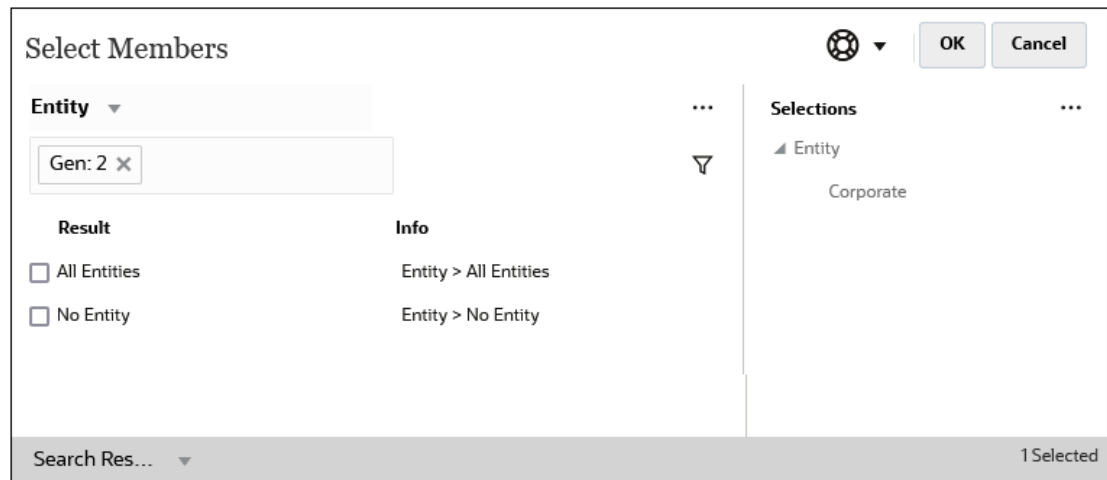


たとえば、「エンティティ」ディメンションの**世代 2**のメンバーでフィルタできます。

世代 2 が選択されている「世代」ダイアログ・ボックス




世代 2 でフィルタされた「エンティティ」ディメンションのメンバー

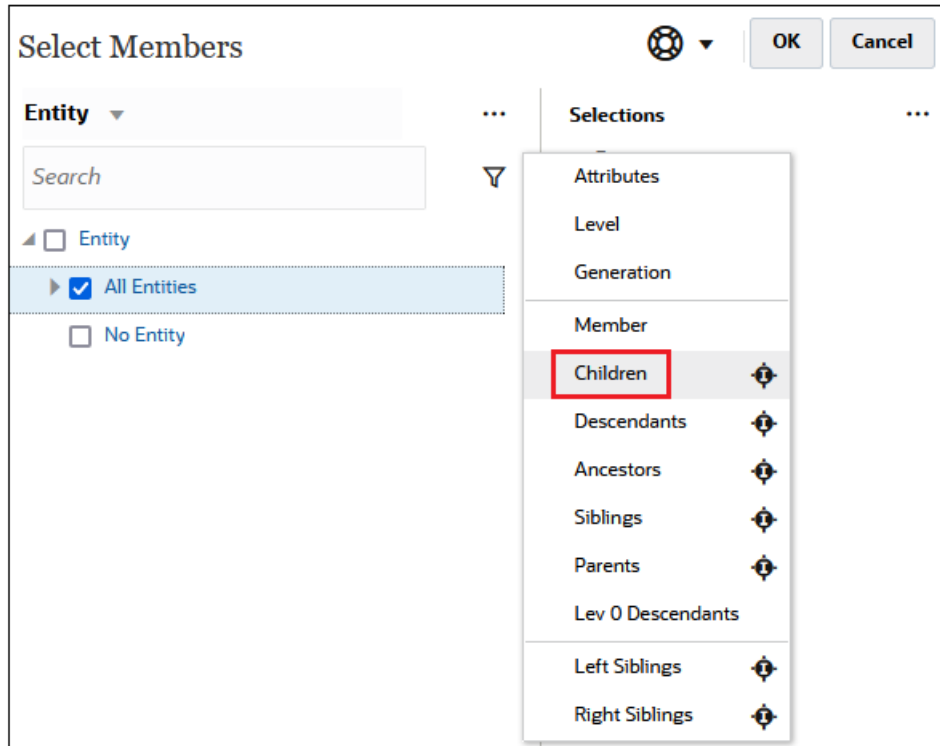


メンバー関係によるフィルタ

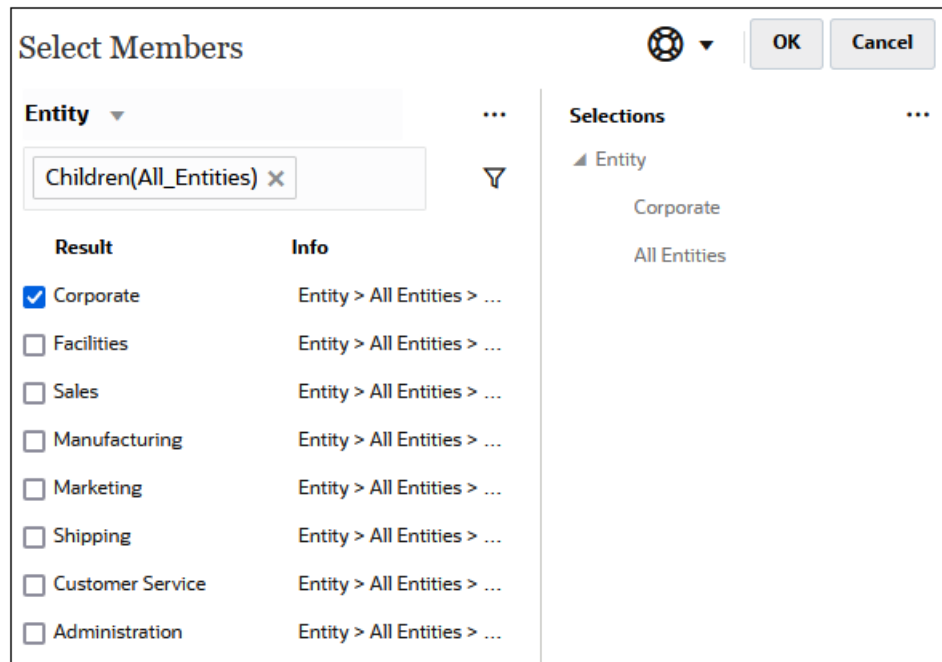
メンバーの関係でフィルタする場合、現在ハイライトされているメンバーを検索結果に含めるかどうかを定義できます。


- 現在ハイライトされているメンバーを除いて関連メンバーを選択するには、関係名をクリックします。



たとえば、「すべてのエンティティ」を選択し、 をクリックして、「子」を選択するとします。

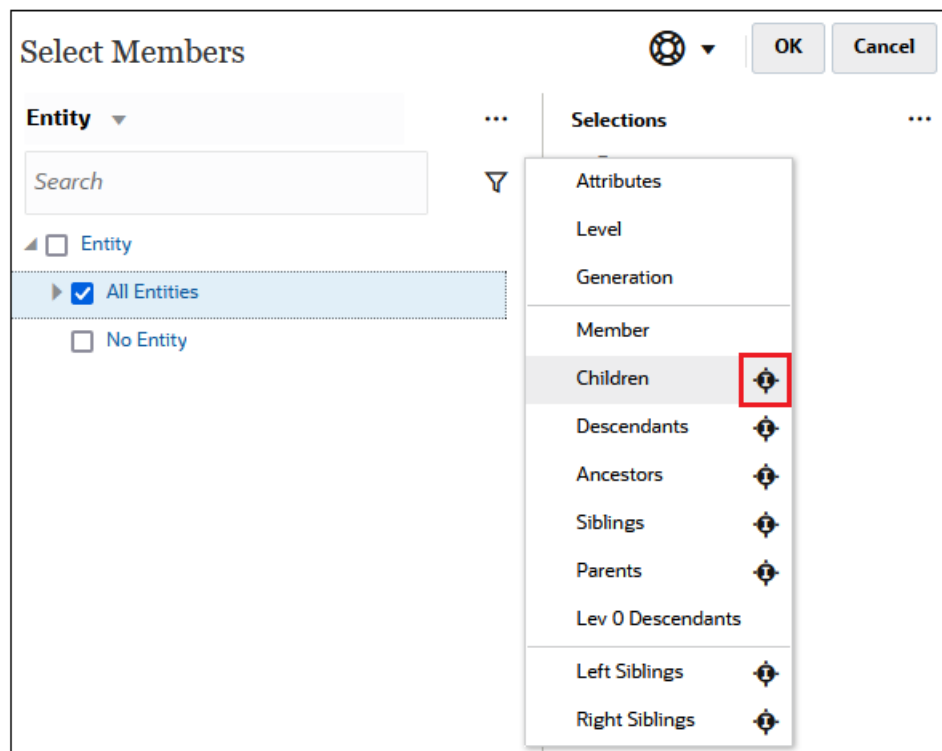


この場合、「すべてのエンティティ」の子はフィルタ結果に含まれますが、「すべてのエンティティ」メンバーは含まれません。



- 現在ハイライトされているメンバーを含めて関連メンバーを選択するには、関係名の右側にある「含む」アイコン  をクリックします。

たとえば、「すべてのエンティティ」を選択し、 をクリックして、「子」の横にある  をクリックするとします。



この場合、「すべてのエンティティ」の子と「すべてのエンティティ」メンバーの両方がフィルタ結果に含まれます。

Select Members

Entity ▼

IChildren(All_Entities) ×

Result	Info
<input checked="" type="checkbox"/> Corporate	Entity > All Entities > Corp...
<input type="checkbox"/> Facilities	Entity > All Entities > Facil...
<input type="checkbox"/> Sales	Entity > All Entities > Sales
<input type="checkbox"/> Manufacturing	Entity > All Entities > Man...
<input type="checkbox"/> Marketing	Entity > All Entities > Mar...
<input type="checkbox"/> Shipping	Entity > All Entities > Ship...
<input type="checkbox"/> Customer Service	Entity > All Entities > Cust...
<input type="checkbox"/> Administration	Entity > All Entities > Adm...
<input checked="" type="checkbox"/> All Entities	Entity > All Entities

Selections

- Entity
 - Corporate
 - All Entities

Note:

詳細は、次を参照してください [メンバーの関係](#)

メンバーの関係

この表は、フィルタおよびメンバー選択時に含まれるメンバーと関連メンバーを示しています。

現在ハイライトされているメンバーを含めて関連メンバーを選択するには、関係名の右側にある「含む」アイコン をクリックします。

Table 28-2 メンバーの関係

メンバー	含まれる関連メンバー
メンバー	選択したメンバー
子	選択したメンバーの真下にあるレベルのすべてのメンバー
子孫	選択したメンバーのすべての子孫(選択したメンバーは除く)
祖先	選択したメンバーの上方にあるすべてのメンバー(選択したメンバーは除く)
兄弟	選択したメンバーと同じ階層レベルからのすべてのメンバー(選択したメンバーは除く)
親	選択したメンバーの上方にあるレベルのメンバー
レベル 0 子孫	子を持たない選択したメンバーのすべての子孫
左兄弟	同じ親を持つ選択したメンバーの前に出現するメンバー

Table 28-2 (Cont.) メンバーの関係

メンバー	含まれる関連メンバー
右兄弟	同じ親を持つ選択したメンバーの後に出現するメンバー
前のレベル 0 のメンバー	選択したメンバーの前に出現する前のレベル 0 のメンバー 例: PrevLvl0Mbr(Jan)は BegBalance を、PrevLvl0Mbr(Jul)は Jun を、PrevLvl0Mbr(BegBalance)は空の結果を返します
次のレベル 0 のメンバー	選択したメンバーの後に出現する次のレベル 0 のメンバー 例: NextLvl0Mbr(Mar)は Apr を、NextLvl0Mbr(Dec)は空の結果を返します
前の世代のメンバー	同じ世代内の選択したメンバーの直前に出現するメンバー
次の世代のメンバー	同じ世代内の選択したメンバーの直後に出現するメンバー
前の兄弟	同じ親を持つ選択したメンバーの直前に出現するメンバー
次の兄弟	同じ親を持つ選択したメンバーの直後に出現するメンバー


メンバーの選択



メンバーを選択するには、「メンバーの選択」ダイアログ・ボックスでメンバーの横にあるチェック・ボックスを選択します。選択したメンバーにはチェック・マークが表示され、「選択」ペインに移動されます。

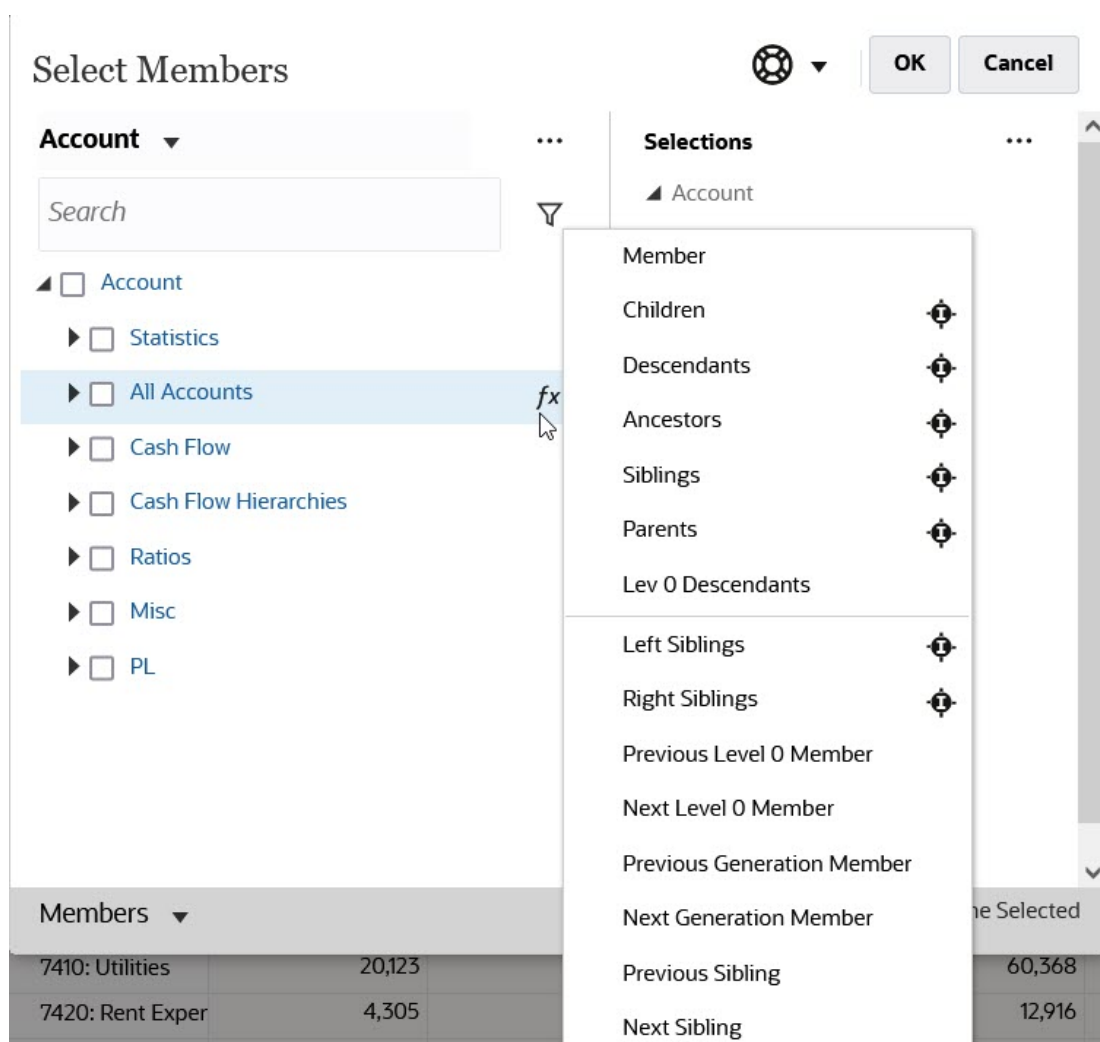
The screenshot shows the 'Select Members' dialog box. On the left, under 'Entity', there is a search field and a list of entities. 'Corporate' is selected with a checkmark. On the right, under 'Selections', 'Corporate' is also selected with a checkmark. The 'OK' and 'Cancel' buttons are at the top right.

 **Note:**

状況によっては、選択できるメンバーが制限されます。たとえば、モデル・コンテキストのデフォルト・メンバーを指定する場合、レベル0のメンバーのみを選択できます。


親メンバーを展開してその子メンバーを表示するには、親メンバー名の左側にある拡張アイコン  をクリックします。拡張アイコンをクリックしても、親メンバーは選択されません。

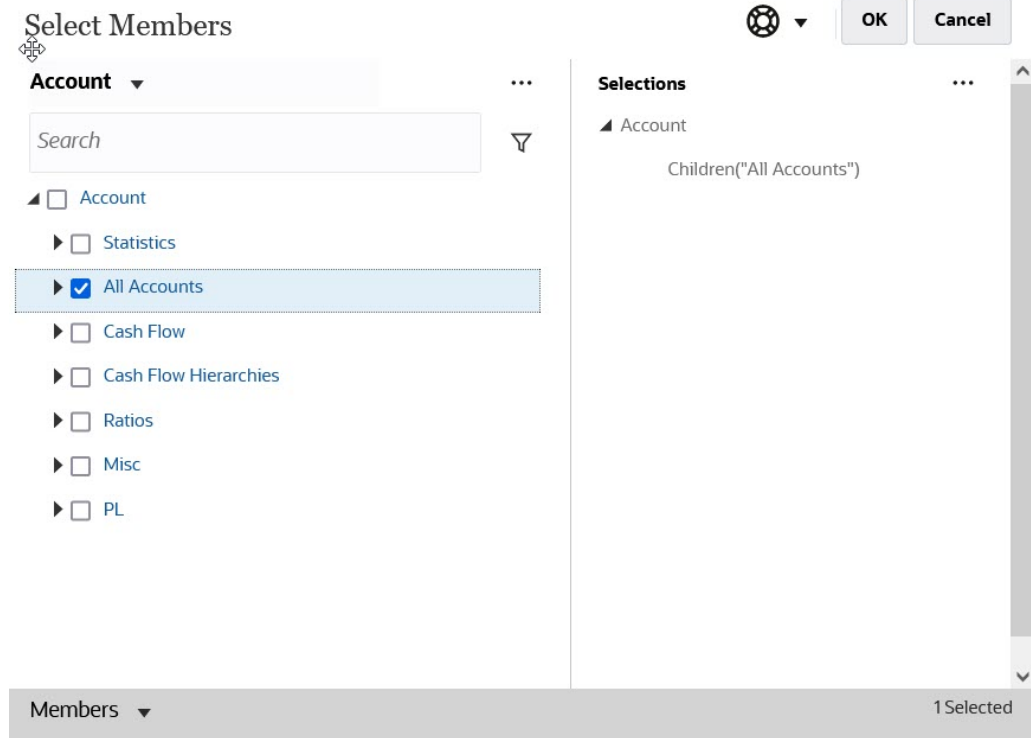
一部の場所では、「メンバーの選択」ペインの「関数セクタ」 を使用してメンバーを選択できます。メンバーの横にある「関数セクタ」 をクリックして「関数セクタ」メニューを表示し、メンバーの関係オプションを選択します。




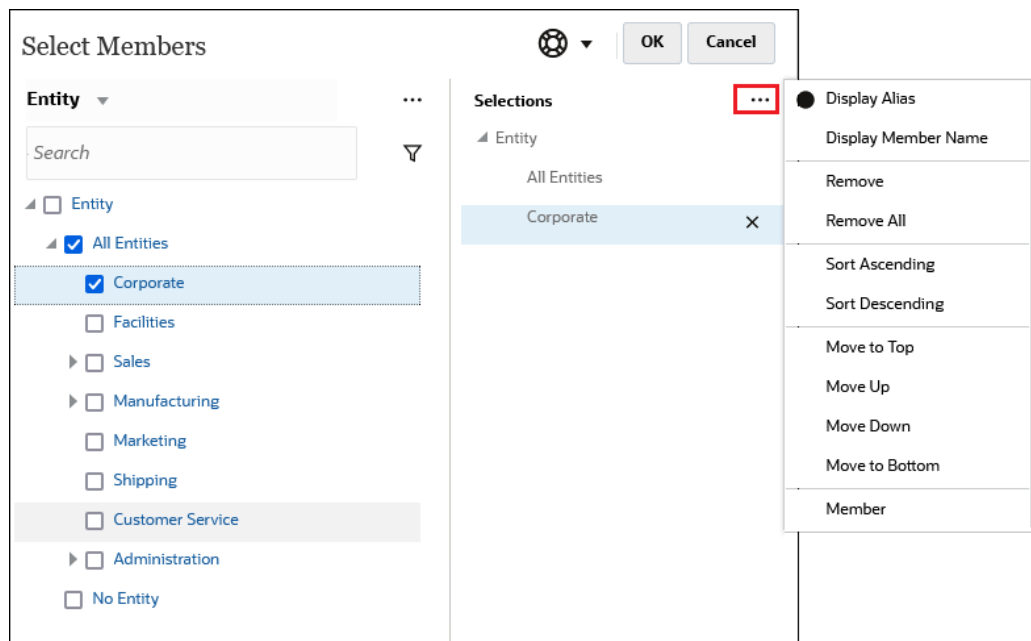
Members	
7410: Utilities	20,123
7420: Rent Exper	4,305

Members	
Next Sibling	12,916

たとえば、「すべての勘定科目」の横にある「関数セクタ」 をクリックし、「子」をクリックすると、「子("すべての勘定科目")」が「選択」ペインに追加されます。

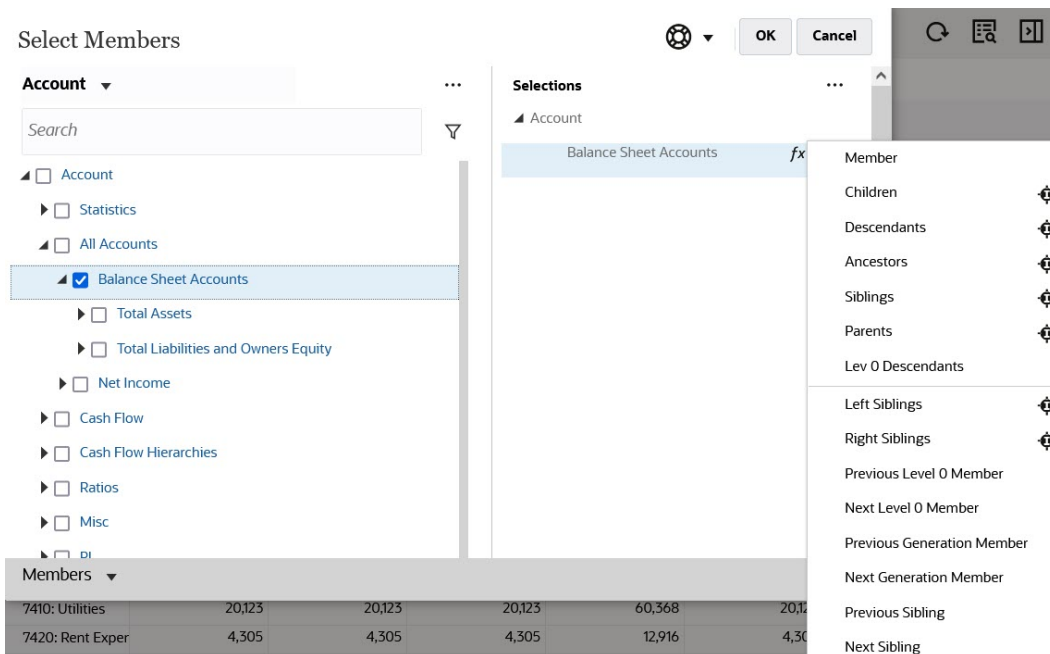



選択済のメンバーを削除、ソートまたは移動するには、「選択」ペインで  (「選択アイテム」アイコン) をクリックし、オプションを選択します。別名を表示するか、メンバー名を表示するかを選択することもできます。

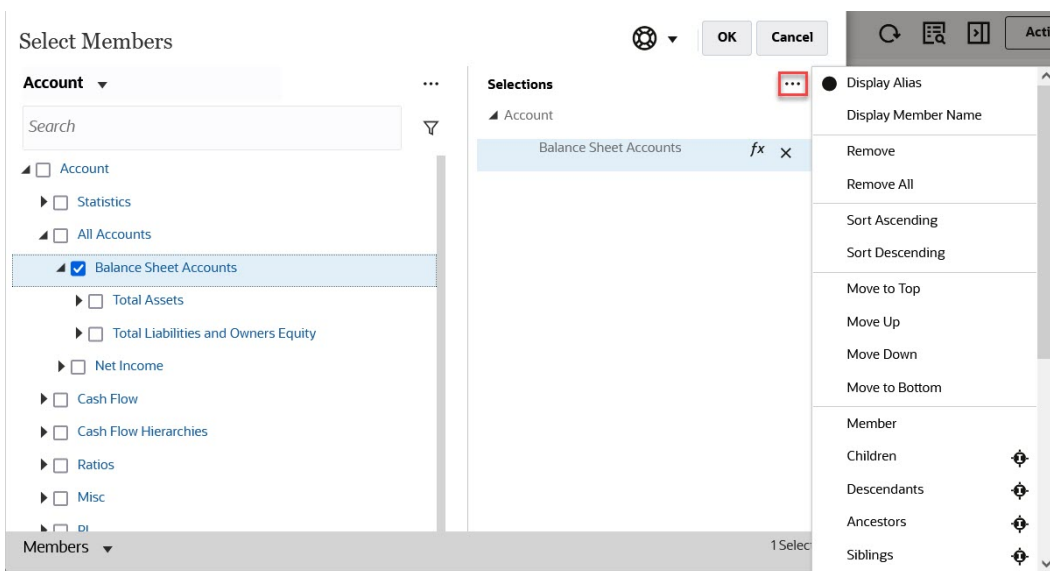


選択済のメンバーについて、いくつかの方法で「選択」ペインにさらにメンバーを追加できます:

- 選択済のメンバーの横にある「関数セクタ」*fx* をクリックして「関数セクタ」メニューを表示し、メンバーの関係オプションを選択します。



- 「選択」ペインでメンバーを選択し、「選択アイテム」アイコン  をクリックして、メンバーの関係オプションをクリックします。



メンバーの関係の詳細は、[メンバーの関係](#)を参照してください。

フォーム 1.0 およびダッシュボード 1.0 のメンバーの選択

Related Topics

- [フォーム 1.0 およびダッシュボード 1.0 のメンバーの選択について](#)
- [メンバーの関係](#)
- [メンバーの選択](#)
- [メンバーを選択する際の考慮事項](#)
- [メンバーとしての属性値の選択](#)
- [メンバーとしての代替変数の選択](#)
- [メンバーとしてのユーザー変数の選択](#)

フォーム 1.0 およびダッシュボード 1.0 のメンバーの選択について

フォーム 1.0 およびダッシュボード 1.0 で使用するメンバーを選択するには、「メンバー選択」ダイアログ・ボックスを使用します。変数と属性が定義されている場合は、変数と属性も選択できます。メンバー名、別名または両方でメンバーを表示および選択します。「メンバー選択」ダイアログ・ボックスに定義する表示オプションは、管理者によってアプリケーション・デフォルトとして定義されたオプションより、またアプリケーション・プリファレンスで指定されたオプションよりも優先されます。

Note:

モデル、ルール・セット、配賦ルール、カスタム・ルール、フォーム 2.0、ダッシュボード 2.0 およびアド・ホック・グリッドでは、別のメンバー・セレクタが使用されます。詳細は、[メンバー・セレクタの使用](#)を参照してください。

メンバーの関係

フォームを作成する場合、メンバー選択ではメンバーの関係を指定する必要があります。この表は、メンバー選択時に含まれるメンバーおよび関連メンバーを示しています。

表 28-3 メンバーの関係

関係	含まれるメンバー
メンバー	選択したメンバー
祖先	選択したメンバーの上方にあるすべてのメンバー(選択したメンバーは除く)

表 28-3 (続き) メンバーの関係

関係	含まれるメンバー
祖先(含む)	選択したメンバーとその祖先
子	選択したメンバーの真下にあるレベルのすべてのメンバー
子(含む)	選択したメンバーとその子
子孫	選択したメンバーのすべての子孫(選択したメンバーは除く)
子孫(含む)	選択したメンバーとその子孫
兄弟	選択したメンバーと同じ階層レベルからのすべてのメンバー(選択したメンバーは除く)
兄弟(含む)	選択したメンバーとその兄弟
親	選択したメンバーの上方にあるレベルのメンバー
親(含む)	選択したメンバーとその親
レベル 0 子孫	子を持たない選択したメンバーのすべての子孫
左兄弟	同じ親を持つ選択したメンバーの前に出現するメンバー
左兄弟(含む)	選択したメンバーとその左兄弟
右兄弟	同じ親を持つ選択したメンバーの後に出現するメンバー
右兄弟(含む)	選択したメンバーとその右兄弟
前の兄弟	同じ親を持つ選択したメンバーの直前に出現するメンバー
次の兄弟	同じ親を持つ選択したメンバーの直後に出現するメンバー
前のレベル 0 のメンバー	<p>選択したメンバーの前に出現する前のレベル 0 のメンバー</p> <p>例: <code>PrevLvl0Mbr(Jan)</code>は <code>BegBalance</code> を、<code>PrevLvl0Mbr(Jul)</code>は <code>Jun</code> を、<code>PrevLvl0Mbr(BegBalance)</code>は空の結果を返します</p>
次のレベル 0 のメンバー	<p>選択したメンバーの後に出現する次のレベル 0 のメンバー</p> <p>例: <code>NextLvl0Mbr(Mar)</code>は <code>Apr</code> を、<code>NextLvl0Mbr(Dec)</code>は空の結果を返します</p>
前の世代のメンバー	同じ世代内の選択したメンバーの直前に出現するメンバー
次の世代のメンバー	同じ世代内の選択したメンバーの直後に出現するメンバー






表 28-3 (続き) メンバーの関係

関係	含まれるメンバー
相対	<p>同じ世代の指定したオフセットの、指定したメンバーに相対的なメンバーを戻します。</p> <p>例: <code>Relative("Jan", 4)</code>は、標準月次期間ディメンションで 1 月に 4 か月を足した 5 月を戻し、<code>Relative("Jan", -2)</code>は、標準月次期間ディメンションで 1 月から 2 か月を引いた 11 月を戻します。</p>
相対範囲	<p>進む場合は開始メンバーからオフセット・メンバーへのすべてのメンバーを戻し、戻る場合はオフセット・メンバーから開始メンバーへのすべてのメンバーを戻します。</p> <p>例: <code>RelativeRange("Jan", 4)</code>は 1 月、2 月、3 月、4 月、5 月を戻し、<code>RelativeRange("Jan", -2)</code>は 11 月、12 月、1 月を戻します。</p>

メンバーの選択

フォームで使用するメンバーを選択するには:

1. メンバー・リストからメンバーを選択します。
2. **オプション:** 検索条件を選択または入力します。
 - a. 「検索」ボックスで、「**メンバー名**」、「**メンバーの別名**」、「**説明**」または「**UDA**」の中からオプションを選択します。

また、メンバー名、別名、説明、UDA のすべてまたは一部を入力することもできます。検索の対象には共有メンバーも含まれます。完全一致を検索するには、「**完全一致**」を選択し、検索文字列を入力します。検索では大文字/小文字は区別されません。検索できるのは、1 つの単語、複数の単語またはワイルドカード文字です。
 - b.  をクリックします。
3. **オプション:** 現在のセッションの「メンバー選択」ダイアログ・ボックスの左ペインで情報を表示する方法およびメンバーをフィルタする方法を設定するには、メンバー・リストの上にある次のアイコンの 1 つをクリックします。関数や世代などの複数のフィルタを選択できます。
 -  「上方向に検索」
 -  「下方向に検索」
 -  「表示プロパティ」。「**メンバー名**」、「**別名**」、「**メンバー名:別名**」または「**別名:メンバー名**」を選択します。または、「**追加表示プロパティ**」を選択し、「**説明**」または「**カウント**」を選択します。選択したオプションは、左ペインまたは右ペインの列に表示されます。列を削除するには、選択をクリアします。
 -  「関数別に選択項目のみ保持」。ドロップダウン・リストからオプションを選択します。






-  「属性別に選択項目のみ保持」。属性が定義されている場合、「属性」、「演算子」および「値」のオプションを選択し、「OK」をクリックします。複数の属性を選択できます。
 -  「レベル別または世代別に選択項目のみ保持」。「レベル」または「世代」を選択して、表示するレベルまたは世代を選択し、「OK」をクリックします。
 -  : 表示をリフレッシュしてフィルタを解除します。
4.  (「追加」)または  (「削除」)をクリックして、メンバーを選択または削除します。
アクセス権があるメンバーのみが表示されます。
- 実行時プロンプトの場合のみ:** 表示される階層は、ビジネス・ルールの起動対象となるアプリケーションおよびプラン・タイプに対するものです。実行時プロンプトの場合、実行時プロンプトの制限を満たすメンバーが表示されます。
 - ディメンション間またはメンバー範囲実行時プロンプトを持つビジネス・ルールまたは検証ルールの場合のみ:** 「ディメンションの選択」リストから、この実行時プロンプトについてビジネス・ルール・デザイナーが設定するディメンションを選択します。
 - 共有メンバーの場合のみ:** 共有メンバーは *shared_member.parent_member* (shared) のフォーマットで表示されます。共有メンバーをダイアログ・ボックスの右側で選択したときには、共有メンバー名のみが表示されます。
5. 変数または属性が定義されている場合、「変数」タブをクリックし、ユーザー変数、代替変数および属性のメンバーを選択します。各カテゴリのメンバーは子として表示されます。フォームに表示されるのは、ユーザーが読取りアクセス権を持つメンバーのみです。
- ユーザー変数:** [メンバーとしてのユーザー変数の選択](#)の説明に従って、メンバーを選択します。
 - 代替変数:** [メンバーとしての代替変数の選択](#)の説明に従って、メンバーを選択します。
 - 属性:** 次の表で説明されている値に基づいて属性を選択します。非レベル 0 属性を選択すると、すべてのレベル 0 子孫が選択され、各子孫に演算子が適用されます([メンバーとしての属性値の選択](#)を参照)。

Table 28-4 属性値の選択

演算子	含まれる属性値
等しい	選択された属性に等しい
等しくない	選択された属性に等しくない
より大きい	選択された属性よりも大きい
以上	選択された属性に等しいか大きい
より小さい	選択された属性より小さい
以下	選択された属性に等しいかより小さい

6. 「OK」をクリックして選択内容を保存します。

メンバーを選択する際の考慮事項

フォームのメンバーを選択するとき:

- 特定のユーザーからメンバーをフィルタ処理して、そのアクセス権をメンバーに制限してから、キューブをリフレッシュできます。
- 「**選択したメンバー**」リストでのメンバーの順序によりフォームの順序が決まります。順序を変更するには、メンバーを選択し、選択したメンバー・リストの上にある上矢印または下矢印を選択します。

メンバーを個別に選択し、その親を最初に選択する場合、親はフォームのメンバー階層の一番上に表示されます。(階層レベルの数に応じて、個別に選択されたメンバーの親についての合計の計算では複数のパスがとられ、計算が遅くなる可能性があります)。「子孫(含む)」などの関係によって選択されたメンバーの親は、階層の一番下に表示されます。

- 「**フォームの管理**」ダイアログ・ボックスの「**レイアウト**」タブで、メンバー選択アイコンをクリックするか、行または列を右クリックして「**メンバー選択**」を選択することにより、「**メンバー選択**」ダイアログ・ボックスを開くことができます。
- 同じディメンションで異なるメンバー・セットを選択できます。
- 1つの行または列内に複数のディメンションがあるフォームの場合、ディメンションに対してメンバー選択オプションを設定できます。それには、「メンバー選択」ダイアログ・ボックスに表示される「**ディメンション**」ドロップダウン・リストから、そのディメンションを選択します。
- メンバー選択アイコンをクリックすると、「**選択内容を別々の行に配置**」または「**選択内容を別々の列に配置**」のオプションが表示されます。これを使用すると、選択内容がフォーム上の既存の最後の行または列の後の行または列に追加されます。たとえば、列 A に Acct1、Acct2 および Acct3 のメンバーが含まれるフォームの場合、「**選択内容を別々の列に配置**」を選択した状態でこれらのメンバーを選択すると、列 A、B、C としてそれぞれ Acct1、Acct2 および Acct3 が選択されます。このオプションを使用せずにメンバーを選択すると、列 A としてすべてのメンバーが選択されます。

この機能は、単一のメンバーに対してのみ使用でき、「子(含む)」などの関数を使用して選択されたメンバーには使用できません。たとえば、列 A に対して「Q」/「子(含む)」を選択している場合に、「**選択内容を別々の列に配置**」を選択しても、フォームのレイアウトは変更されません。

- 「メンバー選択」ダイアログ・ボックスを閉じた後は、「カウント」を除くすべての設定が保持され、「メンバー選択」ダイアログ・ボックスのメンバーはユーザー定義設定に基づいて表示されます。「レイアウト」タブに表示されるメンバーは、「メンバー選択」ダイアログ・ボックスに定義されている表示設定を継承しません。かわりに、メンバー名を使用して表示されます。

メンバーとしての属性値の選択

属性メンバーが定義されている場合、「**メンバーの選択**」ダイアログ・ボックスで属性値を選択できます。属性メンバーについては、すべての非レベル 0 属性を選択すると、すべてのレベル 0 子孫が選択され、演算子が相互に適用されます。数値、日付、ブール(false = 0 で true = 1)などのタイプの属性については、評価は最小値と最大値に基づいています。テキスト属性については、評価は階層の上部から下部への位置に基づいています。最上部の位置は最小値となり、最下部の位置は最大値となります。

例: 数値属性

この例では、数値に基づいて、選択された演算子は各レベル 0 子孫に適用されます。たとえば、「メンバーの選択」ダイアログ・ボックスで「等しくない」と「小」を選択すると、1 に等しくなく、2 に等しくないすべての値が含まれるため、選択には 3、4、

5 および 6 が入ります。「より大きい」と「小」を選択すると、1 より大きいまたは 2 よりも大きなすべての値が含まれます。このため選択には 2、3、4、5 および 6 が入ります。

Size

Small

1

2

Medium

3

4

Large

5

6

表 28-5 例: 数値属性評価

選択された演算子	選択された属性値	結果	説明
等しい	Large	5, 6	「等しい」演算子は、5 と 6 を含む Large のすべてのレベル 0 子孫に適用されません。
より小さい	Medium	1, 2, 3	「より小さい」演算子は Medium のすべてのレベル 0 子孫に適用されます。これには 3 より小さい、または 4 より小さい値が含まれ、結果として 1、2 および 3 になります。
より大きい	Medium	4, 5, 6	「より大きい」演算子は Medium のすべてのレベル 0 子孫に適用されます。これには 3 より大きい、または 4 より大きい値が含まれ、結果として 4、5 および 6 になります。
以上	Medium	3, 4, 5, 6	「以上」演算子は Medium のすべてのレベル 0 子孫に適用されます。これには 3 以上、または 4 以上の値が含まれ、結果として 3、4、5 および 6 になります。
以下	Medium	1, 2, 3, 4	「以下」演算子は Medium のすべてのレベル 0 子孫に適用されます。これには 3 以下、または 4 以下の値が含まれ、結果として 1、2、3 および 4 になります。

表 28-5 (続き) 例: 数値属性評価

選択された演算子	選択された属性値	結果	説明
等しくない	Medium	1, 2, 5, 6	「等しくない」演算子は Medium のすべてのレベル 0 子孫に適用されます。これには 3 に等しくなく、かつ 4 に等しくない値が含まれます。結果として 1、2、5 および 6 になります。

例: テキスト属性

テキスト属性の場合、選択された演算子は階層の位置、上部(最小値)から下部(最大値)までに基づいて、各レベル 0 子孫に適用されます。

この例では、**Envelope** は最上部にあり、最小値となります。**Packet** は次に高い値になります。これに **Box**、**Carton**、**Barrel**、**Crate** が続きます。**Crate** は最下部にあり、最大値となります。

このテキスト属性の場合には、「より小さい」と **Small** を選択すると、**Envelope** よりも小さい値または **Packet** よりも小さい値が含まれます。**Envelope** は **Packet** よりも小さいため、結果として **Envelope** のみを含む選択となります。同じように、「より大きい」と **Large** を選択すると、**Barrel** より大きい値または **Crate** よりも大きい値が含まれ、結果として **Crate** のみを含む選択となります。

Containers

Small

Envelope

Packet

Medium

Box

Carton

Large

Barrel

Crate

表 28-6 例: テキスト属性評価

選択された演算子	選択された属性値	結果	説明
等しい	Medium	Box、Carton	「等しい」演算子は Medium のすべてのレベル 0 子孫に適用されます。これには Box および Carton が含まれます。

表 28-6 (続き) 例: テキスト属性評価

選択された演算子	選択された属性値	結果	説明
等しくない	Medium	Envelope、Packet、Barrel、Crate	「等しくない」演算子は Medium のすべてのレベル 0 子孫に適用されます。これには、 Box に等しくなく、かつ Carton に等しくない値が含まれます。この結果として Envelope 、 Packet 、 Barrel 、 Crate となります。
より小さい	Medium	Box、Packet、Envelope	「より小さい」演算子は Medium のすべてのレベル 0 子孫に適用されます。これには、 Carton よりも下位または Box より下位のすべてが含まれます。この結果として Box 、 Packet 、 Envelope となります。
以下	Medium	Envelope、Packet、Box、Carton	「以下」演算子は Medium のすべてのレベル 0 子孫に適用されます。これには、 Carton と同じ位置またはカートンより下位のすべてが含まれます。この結果として Envelope 、 Packet 、 Box 、 Carton となります。

メンバーとしての代替変数の選択

代替変数は定期的に変化する情報のグローバルなプレースホルダとして機能します。代替変数はローリング予測で展開、レポートする場合に特に役立ちます。代替変数をフォームのメンバーとして選択すると、その値は動的に生成される情報に基づきます。たとえば、月が変わったときに、フォームで月の値を手動で更新しなくてもよいように、現在の月メンバーを代替変数 `CurMnth` に設定できます。

 ノート:

- フォームで値をオープンまたは計算する際に、アプリケーションでは、割り当てられた値で代替変数を置き換えます。
- アプリケーション内で代替変数を作成し、値を割り当てます。これらの代替変数は、フォームのメンバーを選択するときにアプリケーションで使用できます。
- 代替変数はフォームのコンテキストに適合する必要があります。「期間」ディメンションのメンバーとしての **Qtr2** の値により、CurrQtr という名前の代替変数を選択できます。CurrYr という名前の代替変数を「年」ディメンションで選択しても、その値が **Feb** であれば有効になりません。アプリケーションまたはキューブ・レベルで代替変数を設定できます。
同じ代替変数が複数のレベルで存在します。アプリケーションは、次の順序で検索するときに検出される最初の代替変数を使用します。
 1. キューブ
 2. アプリケーション
- 代替変数がビジネス・ルールの実行時プロンプト用に使用可能であり、その値がビジネス・ルールの実行時プロンプトでメンバー・セットに一致する場合、それらの代替変数のいずれかをメンバーとして選択できます。
- アプリケーションは代替変数を使用するときに(たとえば、フォームを開く場合)、その代替変数の有効性を確認します。フォームを設計するときには確認しないため、フォームを保存して開くことで、代替変数をテストする必要があります。

代替変数をフォームで指定するには:

1. フォームを作成します。
2. 「**メンバー選択**」で、「**変数**」タブをクリックし、「**代替変数**」を展開して、メンバーを選択するのと同じ方法で代替変数を選択して「**選択したメンバー**」で代替変数を移動します。

選択すると、代替変数にはアンパサンド(&)が先頭に付きます。例:

```
&CurrentScenario
```

3. 「**OK**」をクリックします。

メンバーとしてのユーザー変数の選択

ユーザー変数はフォームでフィルタとして機能し、ユーザーは部署などの特定のメンバーのみに集中できます。ユーザー変数をフォームに関連付けるには、ユーザー変数を作成する必要があります。

ユーザー変数でフォームを作成するとき、ユーザーはフォームを開く前に変数の値を選択する必要があります。たとえば、**Division** という名のユーザー変数を作成する場合、ユーザーはフォームに作業する前に除算を選択する必要があります。フォーム用に変数を初回に選択するときに、プリファレンスでこれを実行します。その後はプリファレンスまたはフォームで変数を更新できます。

フォームのユーザー変数を選択するには:

1. フォームを作成します。
2. 「メンバー選択」で、「変数」タブをクリックし、「ユーザー変数」を展開して、矢印を使用して「選択したメンバー」でユーザー変数を移動して、メンバーを選択するのと同じ方法でユーザー変数を選択します。

ユーザー変数が現在のディメンションに対して表示されます。たとえば、エンティティ・ディメンションのユーザー変数は次のように表示される可能性があります。

Division = [User Variable]

選択すると、ユーザー変数には先頭にアンパサンドが付きます。例:

Idescendants(&Division)

3. 「OK」をクリックします。

29

命名規則

Related Topics

- [アプリケーションとデータベースの命名規則](#)
- [ディメンション、メンバーおよび別名の名前付けの制限](#)
- [計算スクリプト、レポート・スクリプト、式、フィルタおよび代替変数値でのディメンションとメンバー名](#)
- [ユーザー名およびグループ名の命名規則](#)

アプリケーションとデータベースの命名規則

アプリケーションを命名する場合は、次のルールに従います:

- アプリケーションの名前には、8文字まで使用できます。
- スペースとタブは使用できません。
- アンダースコア(_)は最初または最後の文字に使用できません。
- 次の特殊文字は使用できません。

表 29-1 アプリケーション名で制限されている文字

文字	意味
*	アスタリスク
\	円記号(バックスラッシュ)
[]	大カッコ
:	コロロン
,	カンマ
"	二重引用符
=	等号
>	大なり記号
<	小なり記号
.	ピリオド
+	プラス記号
?	疑問符
;	セミコロロン
'	一重引用符
/	スラッシュ
	縦棒

- リレーショナル・データベース環境のアプリケーション名には、拡張文字は使用できません(アンダースコアを除く)。
- 集約ストレージ・データベースでは、アプリケーション名に DEFAULT、LOG、METADATA または TEMP を使用できません。

名前には大文字小文字のどちらでも使用できます。アプリケーション名は、入力した通りに作成されます。

ディメンション、メンバーおよび別名の名前付けの制限

ディメンション、メンバーおよび別名を命名する場合は、次のルールに従います。

- ディメンション名、メンバー名または別名に使用する文字数は 80 文字までとします。
- ディメンション、非共有メンバーおよび別名の名前は、大文字/小文字が区別されません。大文字/小文字のみが異なる一致した名前は使用しないでください。たとえば、2 人のメンバーに "zzz" と "ZZZ" という名前を付けたり、基本メンバーに "zzz"、共有メンバーに "ZZZ" という名前を付けしないでください。

つまり、共有メンバー名には基本メンバーと同じ名前と大文字/小文字を使用する必要があります。基本メンバーの名前を変更した場合(大文字/小文字のみを変更した場合でも)、基本メンバー名と一致するように共有メンバー名が更新されます。

- メタデータ・ロード・ファイル内のメンバー・プロパティまたは列ヘッダーと同じ名前のディメンション名(「データ型」など)は使用しないでください。
- メンバー名、ディメンション名、別名および説明で HTML タグを使用することはできません。
- ディメンション名、メンバー名および別名では [Tab] キーが制限されており、使用できません。
- ディメンション名、メンバー名および別名で制限されていて使用できない文字のリストを次に示します:

表 29-2 ディメンション名、メンバー名および別名で制限されている文字

文字	意味
"	引用符
[]	大カッコ
\	円記号(バックスラッシュ)
/	スラッシュ

 ノート:

- 大カッコ[]は認められていますが、ブロック・ストレージ・アウトラインでは推奨されていません。これは、集約ストレージ・アウトラインに変換する場合にエラーの原因となることがあるためです。
- ASCII 代替文字(ゼロ幅スペース文字) 0x1A をメンバー名および別名では使用しないでください。

- ディメンション名、メンバー名および別名の先頭で使用できない文字のリストを次に示します:

表 29-3 ディメンション名、メンバー名および別名の先頭で制限されている文字

文字	意味
@	アット・マーク
&	アンパサンド
\	円記号(バックスラッシュ)
[]	大カッコ
,	カンマ
-	ダッシュ、ハイフンまたはマイナス記号
=	等号
<	小なり記号
()	丸カッコ
.	ピリオド
+	プラス記号
"	引用符
/	スラッシュ
_	アンダースコア
	縦棒

 ノート:

前述の文字を含むメンバー名は、ビジネス・プロセスのデータ・エクスポート・ジョブでは許可されていません。

- 名前の先頭または末尾にスペースを挿入することはできません。
- カスタム・カレンダーの期間で、接頭辞にスペースは使用できません。
- ディメンション名、メンバー名または別名として次のものを使用することはできません:
 - 計算スクリプト・コマンド、演算子およびキーワード
 - 関数名と関数引数
 - 他のディメンションおよびメンバーの名前(メンバーが共有されている場合を除く)

- 動的時系列を使用可能にしている場合は、履歴、年、季、期間、四半期、月、週、および日は使用しないでください。
- 属性ディメンションを含む一意のメンバー・アウトラインでは、**Sum**、**Count**、**Min**、**Max** および **Avg** をメンバー名またはディメンション名として使用することはできません。これらの名前を使用すると、重複する名前が競合する原因となります。

ノート:

属性計算ディメンションに作成されたメンバー(**Sum**、**Count**、**Min**、**Max** および **Avg**)は、予約語とみなされません。これは、これらの名前を属性計算ディメンションで変更してから、属性ディメンションまたは標準ディメンションで標準名を使用できるためです。

アウトラインに重複メンバー・アウトラインのタグが付けられており、**Sum**、**Count**、**Min**、**Max** および **Avg** を基本メンバーとして使用する前に属性ディメンション(したがって属性計算ディメンション)が存在している場合は、重複名が許可されます。ただし、属性ディメンションを作成する前に **Sum**、**Count**、**Min**、**Max** および **Avg** を基本メンバーとして使用する場合、重複名は許可されません。

- ディメンション名、メンバー名および別名で制限されていて使用できない語のリストを次に示します:

表 29-4 ディメンション名、メンバー名および別名で制限されている語

制限されている語	制限されている語	制限されている語
ALL	AND	ASSIGN
AVERAGE	CALC	CALCMBR
COPYFORWARD	CROSSDIM	CURMBRNAME
DIM	DIMNAME	DIV
DYNAMIC	EMPTYPARM	EQ
EQOP	EXCEPT	EXP
EXPEROR	FLOAT	FUNCTION
GE	GEN	GENRANGE
GROUP	GT	ID
IDERROR	INTEGER	LE
LEVELRANGE	LOCAL	LOOPBLOCK
LOPPARMS	LT	MBR
MBRNAME	MBRONLY	MINUS
MISSING	MUL	MULOP
NE	NON	NONINPUT
NOT	OR	PAREN
PARENPARM	PERCENT	PLUS
RELOP	REQUEST	SET

表 29-4 (続き) ディメンション名、メンバー名および別名で制限されている語

制限されている語	制限されている語	制限されている語
SKIPBOTH	SKIPMISSING	SKIPNONE
SKIPZERO	STATUS	TO
TOLOCALRATE	TRAILMISSING	TRAILSUM
TYPE	UMINUS	UPPER
VARORXMBR	XMBRONLY	\$\$UNIVERSE\$\$
#MISSING	#MI	

計算スクリプト、レポート・スクリプト、式、フィルタおよび代替変数値でのディメンションとメンバー名

メンバー名を代替変数の値、計算スクリプト、レポート・スクリプト、フィルタ定義、パーティション定義または式で使用する場合は、MDX 文では大カッコ(())で囲む必要があります。また次の状況ではブロック・ストレージ・データベースで使用するために、二重引用符("")で囲む必要があります。

- 名前が 1 つまたは複数の数字で始まる場合(たとえば、100)
- 名前にはスペースまたは次の文字が含まれます。
 - アンパサンド(&)
 - アスタリスク(*)
 - アット・マーク(@)
 - 円記号(バックスラッシュ)(\)
 - 中カッコ({})
 - コロン(:)
 - カンマ(,)
 - ダッシュ、ハイフンまたはマイナス符号(-)
 - 感嘆符(!)
 - 等号(=)
 - 大なり記号(>)
 - 小なり記号(<)
 - 丸カッコ()
 - パーセント記号(%)
 - ピリオド(.)
 - プラス記号(+)
 - セミコロン(;))

- スラッシュ(/)
- チルダ(~)

計算スクリプトと式では、**Essbase** キーワードでもあるメンバー名を含む場合、ブロック・ストレージ・データベースでは引用符(" ")、集約ストレージ・データベースでは大カッコ(())でメンバー名を囲む必要があります。

```
BEGIN DOUBLE ELSE END FUNCTION GLOBAL IF MACRO MEMBER RANGE RETURN STRING THEN
```

計算スクリプト、レポート・スクリプトまたは式で、スペースまたは次の文字を含む名前、またはスペースまたは次の文字で始まる名前を引用符で囲みます: +、-、*、/、()、コロン、カンマ、@、セミコロン、{}、[]、<

数字で始まる名前も引用符で囲みます。例:

```
@SUM(ac1, "12345");
```

ユーザー名およびグループ名の命名規則

ユーザー名およびグループ名には最大 80 文字まで使用できます。

Profitability and Cost Management から Enterprise Profitability and Cost Management への移行

Enterprise Profitability and Cost Management には、Profitability and Cost Management で使用可能な優れたモデリング機能および配賦機能すべての改善されたバージョンが含まれており、Oracle EPM Cloud Platform の機能(データ・フォーム、ダッシュボード、レポート、データ交換、Oracle Smart View for Office ディメンション管理など)と統合されています。

既存の Profitability and Cost Management アプリケーションがある場合は、これを Enterprise Profitability and Cost Management に移行できます。ただし、これら 2 つの基本的な要件は異なるため、インプレース移行はできません。既存のアプリケーション用にカスタマイズする移行テンプレートをダウンロードできます。これを使用して、Enterprise Profitability and Cost Management と互換性のあるアプリケーション・スナップショットおよびデータ抽出を生成します。スナップショットおよびデータを Enterprise Profitability and Cost Management のインスタンスに手動でアップロードすることも、システムによって移行を自動的に完了することもできます。

既存の Profitability and Cost Management アプリケーションを Enterprise Profitability and Cost Management の個別のインスタンスに移行する方法の詳細は、次のチュートリアルを参照してください。

チュートリアル

目的	方法の学習
<p>既存の Profitability and Cost Management アプリケーションを Enterprise Profitability and Cost Management の個別のインスタンスに移行する方法を学習します。</p>	 <p>Profitability and Cost Management から Enterprise Profitability and Cost Management への移行</p>